

愛知県埋蔵文化財センター調査報告書 第189集

いわくらじんじゃいせき
石座神社遺跡

(第1分冊 本文編)

2015

公益財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団
愛知県埋蔵文化財センター

序

天正3年（1575）、戦国時代の流れを大きく変える戦いが行われました。世に名高い「長篠・設楽原の戦い」です。柵をはさんで織田軍の鉄砲隊と武田軍の騎馬隊の戦いが行われた設楽原、その設楽原をのぞむ丘陵上に営まれた遺跡が石座神社遺跡です。

式内社である丘陵の麓の石座神社の歴史もさることながら、このたびの石座神社遺跡の発掘調査では、弥生時代後期から古墳時代前期にかけてのおびただしい数の建物跡が見つかりました。中には大型の建物、特殊な構造の建物もみられ、集落を営んだ人びとの中には、やがて古墳に葬られるような集団のリーダーが生まれつつあったことも想像されます。当時、貴重だった中国鏡を割った破鏡や鉄製品の出土も集落がいかに栄えたかを物語っています。

本書はこの成果をまとめたもので、今後、本書の成果が学術的に活用され、ひいては埋蔵文化財の保護につながることを願ってやみません。

最後になりましたが、発掘調査にあたり、地元住民の皆様をはじめ、関係者及び関係諸機関のご理解とご協力をいただきましたことに対して、厚く御礼を申し上げます。

平成 27 年 3 月
公益財団法人 愛知県教育・スポーツ振興財団
理事長 伊藤克博

例 言

1. 本書は、愛知県新城市大宮宇狐塚に所在する石座神社遺跡（県登録番号76045：愛知県教育委員会1996『愛知県遺跡地図（Ⅲ）東三河地区』）の発掘調査報告である。
2. 石座神社遺跡の発掘調査は、第二東海自動車道横浜名古屋線（新東名高速道路）建設工事にかかる事前調査として、中日本高速道路株式会社豊川工事事務所より愛知県教育委員会を通じて委託を受けた財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団愛知県埋蔵文化財センター（平成22年3月以前）、公益財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団愛知県埋蔵文化財センター（平成22年4月以降）が実施した。
3. 調査期間は平成19年5月から6月（範囲確認調査）、平成20年6月から平成21年3月、平成21年8月から平成22年3月、平成22年4月から平成23年3月である。
4. 調査面積は平成19年度（範囲確認調査）が400㎡、平成20年度が5,200㎡、平成21年度が4,720㎡、平成22年度が10,330㎡で、計20,250㎡（範囲確認調査を除く）である。
5. 調査担当者は、宮腰健司（主査・調査研究専門員）、松田 訓（調査研究専門員）、岡久雅浩（主任）、早野浩二（調査研究主任）、白井克尚（調査研究主事）、日吉康浩（調査研究主事）である。
6. 発掘調査にあたっては、次の各関係機関のご指導とご協力を得た。
愛知県教育委員会生涯学習課文化財保護室・愛知県埋蔵文化財調査センター
中日本高速道路株式会社豊川工事事務所 新城市教育委員会・豊川市教育委員会
7. 発掘調査において、平成20年度は安西工業株式会社、平成21年度は大成エンジニアリング株式会社、平成22年度は株式会社島田組より調査業務全般の支援を受けた。支援体制は以下の通りである。
平成20年度 水野結貴（現場代理人） 久高正登（調査補助員） 田村和久（測量技師）
平成21年度 浅見克己（現場代理人） 蒲 明男（調査補助員） 太田幸信（測量技師）
平成22年度 中川健二（現場代理人） 西村匡広 有馬啓介（調査補助員） 田村和久（測量技師）
8. 報告書作成にかかる整理作業において、出土遺物の実測・トレースを株式会社イビソク、ナカシャクリエイテブ株式会社、テイケイトレード株式会社、株式会社アルカ、株式会社ラング、遺構図の編集作業をナカシャクリエイテブ株式会社、試料の放射性炭素年代測定、樹種同定、炭素・窒素安定同位体比分析、動物遺体の同定を株式会社パレオ・ラボ、青銅製品の鉛同位体比分析を別府大学文化財研究所、黒曜石原産地の蛍光X線分析を株式会社第四紀地質研究所、金属製品の保存処理を株式会社東都文化財保存研究所、馬歯の保存処理・復元品製作を株式会社スタジオ三十三、出土遺物の写真撮影を金子和久氏（有限会社写真工房・遊）、空中写真合成を株式会社アコード、鳥瞰図作成・映像編集をナカシャクリエイテブ株式会社にそれぞれ委託した。
9. 発掘調査、報告書作成の過程で、次の各氏、各機関からご指導、ご協力を得た。
浅岡 優 浅田博造 石川明弘 伊藤秋男 伊東文弘 岩野見司 岩原 剛 岩山敬司 岡村秀典
岡安雅彦 長田友也 加納俊介 神谷真佐子 北村和宏 小林克也 小林芳春 柴垣勇夫 鈴木一有
鈴木敏則 鈴木とよ江 高橋照彦 寺澤 薫 中久保辰夫 中村賢太郎 費 元洋 西川修一
西松賢一郎 坂野俊哉 平尾良光 福永伸哉 古屋紀之 三原翔吾 村上 昇 村本 誠 森 泰通
森 勇一 森下章司 安中哲徳 山内淳司 山川史子 余合昭彦 横谷朋子 渡辺 誠
新城市教育委員会 豊川市教育委員会 豊橋市美術館・豊橋市文化財センター

10. 本編の執筆は第3章第2節(4)・同第3節(16)を川添和暁(調査研究主任)、第4章(1)をパレオ・ラボAMS年代測定グループ、同(2)を中村賢太郎(株式会社パレオ・ラボ)、同(3)を山形秀樹・小林克也(株式会社パレオ・ラボ)、同(4)を西田京平・平尾良光(別府大学文化財研究所)、同(5)を堀本真美子(調査研究専門員)、同(6)を株式会社第四紀地質研究所、それ以外を早野浩二が担当した。
11. 遺構番号は原則として発掘調査時に用いたものを踏襲した。なお、使用する遺構記号は以下のとおりであるが、厳密な統一性はない。
SK:土坑 SD:溝 SI:堅穴建物 SB:掘立柱建物 SA:柵 SL:竪 SY:窟体
SX:その他不明遺構
12. 発掘調査および本書で使用した座標は、国土座標第Ⅶ系に準拠した。ただし、表記は新測地系(世界測地系)による。
13. 本編で使用する土層の色調については、『新版標準土色帳』を参考に記述した。
14. 発掘調査の記録(実測図、写真等)は、公益財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団愛知県埋蔵文化財センターで保管している。なお、遺跡の略記号は「3SIJ」である。
15. 出土遺物は、愛知県埋蔵文化財調査センターで保管している。
〒498-0017 愛知県弥富市前ヶ須町野方 802-24
16. 本書の編集は早野浩二が担当した。

目次

第1章 調査の概要.....	1
(1) 調査の経緯.....	1
(2) 調査の経過.....	2
第2章 周辺の環境.....	8
(1) 地理的環境.....	8
(2) 歴史的遺跡.....	9
第3章 遺構と遺物.....	16
第1節 微地形と層序.....	16
第2節 弥生時代中期以前の遺構と遺物.....	18
(1) 後期旧石器時代・縄文時代の遺構.....	18
(2) 縄文時代・弥生時代前期・中期の土器.....	22
(3) 後期旧石器時代・縄文時代の石器・石製品.....	24
第3節 弥生時代後期から古墳時代前期の遺構と遺物.....	30
(1) 概要.....	30
(2) 竪穴建物の調査の方法.....	32
(3) 竪穴建物の諸属性・時期区分.....	34
(4) 竪穴建物A群.....	42
(5) 竪穴建物B群.....	48
(6) 竪穴建物C群.....	50
(7) 竪穴建物D群.....	54
(8) 竪穴建物E群.....	61
(9) 竪穴建物F群.....	64
(10) 竪穴建物G群.....	69
(11) 竪穴建物H群.....	72
(12) 竪穴建物I群.....	75
(13) 竪穴建物J群.....	76
(14) 竪穴建物K群.....	77
(15) 掘立柱建物・柱穴(列).....	78
(16) 弥生時代後期から古墳時代前期の石器・石製品.....	82
(17) 弥生時代後期から古墳時代前期の金属製品.....	84
第4節 古代の遺構と遺物.....	86
第5節 中世以降の遺構と遺物.....	88

第4章 分析・考察.....	92
(1) 放射性炭素年代測定	92
(2) 石座神社遺跡出土のウマ.....	119
(3) 炭素・窒素安定同位体比分析	122
(4) 金属製品の産地推定	126
(5) 土器に付着した赤色顔料の蛍光 X 線分析.....	134
(6) 黒曜石原産地の蛍光 X 線分析.....	136
(7) 弥生時代後期から古墳時代前期の土器編年	141
(8) 弥生時代後期から古墳時代前期における竪穴建物の諸属性	170
(9) 弥生時代後期から古墳時代前期における集落の変遷.....	180
(10) 弥生時代後期から古墳時代前期の特徴的な遺構と遺物.....	187
(11) 古代・中近世の遺構と遺物.....	194
第5章 総括	197
遺物一覧表 (土器).....	201
遺物一覧表 (石器・金属器)	221
報告書抄録	
第2分冊 遺構図版・遺物図版編	
第3分冊 写真図版編	
付属 CD-ROM	

〈挿図目次〉

第 1 図	遺跡の位置	1
第 2 図	調査区配置図	6
第 3 図	周辺地籍図	6
第 4 図	断上山の遺跡と古墳	7
第 5 図	遺跡周辺鳥瞰図(北方向から)	8
第 6 図	周辺遺跡分布図	9
第 7 図	断上山 10 号墳	12
第 8 図	遺跡層序断面	17
第 9 図	後期旧石器時代の旧石器の分布(08区)	18
第 10 図	縄文時代遺構配置	19
第 11 図	出土土器重量分布(弥生時代中期以前)	23
第 12 図	石鎌と縄文時代の土坑(箱穴)の分布	25
第 13 図	縄文時代草創期の石器・石敷の分布	28
第 14 図	石材重量分布(熔結凝灰岩・チャート・黒曜石)	29
第 15 図	竪穴建物の分布と群別	31
第 16 図	出土土器重量分布(弥生時代後期から古墳時代前期)	31
第 17 図	竪穴建物の部分呼称	34
第 18 図	竪穴建物A群の配置	42
第 19 図	竪穴建物B群の配置	48
第 20 図	竪穴建物C群の配置	50
第 21 図	竪穴建物D群の配置	54
第 22 図	竪穴建物E群の配置	61
第 23 図	竪穴建物F群の配置	64
第 24 図	竪穴建物G群の配置	69
第 25 図	竪穴建物H群の配置	72
第 26 図	竪穴建物I群の配置	75
第 27 図	竪穴建物J群の配置	76
第 28 図	竪穴建物K群の配置	77
第 29 図	柱穴列(掘立柱櫓)	81
第 30 図	図像の復原	84
第 31 図	奈良時代の遺構配置	86
第 32 図	区画溝 010SD 土層断面	86
第 33 図	出土土器重量分布(古代)	87
第 34 図	中世以降の遺構配置	88
第 35 図	出土土器重量分布(中世以降)	88
第 36 図	縄文時代(早期前半)のマルチプロット図	102
第 37 図	縄文時代(早期後半から晩期)のマルチプロット図	102
第 38 図	弥生・古墳時代のマルチプロット図 1	104
第 39 図	弥生・古墳時代のマルチプロット図 2	105
第 40 図	古代・中世のマルチプロット図	106
第 41 図	近世以降のマルチプロット図	106
第 42 図	暦年校正結果 1	107
第 43 図	暦年校正結果 2	108
第 44 図	暦年校正結果 3	109
第 45 図	暦年校正結果 4	110

第 46 図	暦年校正結果 5	111
第 47 図	暦年校正結果 6	112
第 48 図	暦年校正結果 7	113
第 49 図	暦年校正結果 8	114
第 50 図	暦年校正結果 9	115
第 51 図	暦年校正結果 10	116
第 52 図	暦年校正結果 11	117
第 53 図	暦年校正結果 12	118
第 54 図	石座神社遺跡 5631SK 出土のウマ	121
第 55 図	土器付着物の安定同位体比と炭素窒素比測定を行なった試料	123
第 56 図	炭素・窒素安定同位体比	125
第 57 図	炭素安定同位体比と C/N 比の関係	125
第 58 図	石座神社遺跡出土青銅器の鉛同位体比 (A 式図)	133
第 59 図	石座神社遺跡出土青銅器の鉛同位体比 (B 式図)	133
第 60 図	石座神社遺跡出土鉛玉の鉛同位体比 (A 式図)	133
第 61 図	石座神社遺跡出土鉛玉の鉛同位体比 (B 式図)	133
第 62 図	設楽原他との鉄砲玉の鉛同位体比の比較 (A 式図)	133
第 63 図	設楽原他との鉄砲玉の鉛同位体比の比較 (B 式図)	133
第 64 図	赤色顔料のスペクトル図 1	134
第 65 図	赤色顔料のスペクトル図 2	135
第 66 図	石座神社遺跡 R b-S r 図	138
第 67 図	器種 (形式) 分類	142
第 68 図	甕の型式変化と属性の相関	144
第 69 図	大容量の甕 (8 期前後)	145
第 70 図	鉢状の甕 (6 期以降)	145
第 71 図	有段口縁甕 A の加飾	146
第 72 図	広口甕 A a	147
第 73 図	加飾広口甕 (6 期)	147
第 74 図	パレス系甕と関連資料	148
第 75 図	有段口縁甕 (広口甕 F) の諸例	149
第 76 図	内凹口縁甕の諸例	151
第 77 図	手埴形土器	153
第 78 図	石座神社遺跡出土土器の編年 (く字甕・平底甕)	156
第 79 図	石座神社遺跡出土土器の編年 (有段口縁甕・S 字甕等)	157
第 80 図	石座神社遺跡出土土器の編年 (広口甕)	158
第 81 図	石座神社遺跡出土土器の編年 (加飾広口甕)	159
第 82 図	石座神社遺跡出土土器の編年 (加飾広口甕・パレス系甕・袋状口縁甕・有段口縁甕等)	160
第 83 図	石座神社遺跡出土土器の編年 (内凹口縁甕・中型甕・小型甕等)	161
第 84 図	石座神社遺跡出土土器の編年 (鉢)	162
第 85 図	石座神社遺跡出土土器の編年 (高杯)	163
第 86 図	遠江系土器	164
第 87 図	南関東系土器	165
第 88 図	宮沢遺跡における土器群の推移	167
第 89 図	規模 (長軸) の度数分布	170
第 90 図	竪穴建物の規模による構成と時期の相関	170

第 91 図	小型竪穴建物集成	172
第 92 図	中型竪穴建物集成 1	173
第 93 図	中型竪穴建物集成 2	174
第 94 図	大型竪穴建物集成	175
第 95 図	拡張・建て替え各類型模式図	176
第 96 図	掘方各類型模式図	176
第 97 図	竪穴建物の掘方の諸例	177
第 98 図	地床板の検出状況	178
第 99 図	橋良遺跡 SB11 (中期後葉)	178
第 100 図	地床板に伴う礫の石材の比率	178
第 101 図	竪穴建物 A 群における礫を伴う地床板の動態	179
第 102 図	竪穴建物棟数の推移	180
第 103 図	集落の変遷 (弥生時代後期)	181
第 104 図	集落の変遷 (弥生時代終末期)	182
第 105 図	集落の変遷 (古墳時代前期初頭)	184
第 106 図	集落の変遷 (古墳時代前期前半)	185
第 107 図	東日本における集落出土の破鏡 (中国鏡)	187
第 108 図	石座神社遺跡・周辺遺跡出土鉄製品	188
第 109 図	三河地域の大型竪穴建物と壁立ち式竪穴建物	189
第 110 図	石堂野遺跡と石座神社遺跡の大型建物	190
第 111 図	「方形区画」に伴う大型建物	191
第 112 図	奈良時代建物の平面形の比較	194
第 113 図	馬埋葬土坑 5631SK と落川遺跡 K—11—5 号土坑	194
第 114 図	土坑墓 5631SK と杉山遺跡 SK3012・SK3020	195
第 115 図	火葬施設 0023SL と品野西遺跡 SZC24	195
第 116 図	石座神社遺跡と諏訪遺跡 (環濠集落) の比較	197
第 117 図	「雁峰山麓の遺跡群」と断上山 10 号墳の位置関係	198
第 118 図	豊川流域における弥生時代後期から古墳時代前期の集落と前期古墳の分布	198

〈挿表目次〉

第 1 表	縄文時代が穴一覧	21
第 2 表	縄文時代土坑 (簡穴) 一覧	21
第 3 表	検出竪穴建物棟数一覧	30
第 4 表	竪穴建物一覧 (弥生時代後期から古墳時代前期) 1	37
第 5 表	竪穴建物一覧 (弥生時代後期から古墳時代前期) 2	38
第 6 表	竪穴建物一覧 (弥生時代後期から古墳時代前期) 3	39
第 7 表	竪穴建物一覧 (弥生時代後期から古墳時代前期) 4	40
第 8 表	竪穴建物一覧 (弥生時代後期から古墳時代前期) 5	41
第 9 表	掘立柱建物一覧 (弥生時代後期から古墳時代前期)	78
第 10 表	柱穴列 (掘立柱欄) 一覧	80
第 11 表	竪穴建物床面直上出土の石器と伴出状況	82
第 12 表	竪穴建物一覧 (奈良時代)	86
第 13 表	掘立柱建物一覧 (奈良時代)	87
第 14 表	炭焼窯一覧	91
第 15 表	測定資料と処理 1	94
第 16 表	測定資料と処理 2	95
第 17 表	測定資料と処理 3	96
第 18 表	測定資料と処理 4	97
第 19 表	放射性炭素年代測定と暦年較正の結果 1	98
第 20 表	放射性炭素年代測定と暦年較正の結果 2	99
第 21 表	放射性炭素年代測定と暦年較正の結果 3	100
第 22 表	放射性炭素年代測定と暦年較正の結果 4	101
第 23 表	同定された部位と歯冠計測値	119
第 24 表	分析結果一覧	122
第 25 表	鉄砲玉と青銅製品	130
第 26 表	蛍光 X 線法による資料の化学組成 (質量%)	130
第 27 表	資料の鉛同位体比	130
第 28 表	西側遺跡・瓜郷遺跡出土銅彈片の鉛同位体比	132
第 29 表	各試料に認められた元素	134
第 30 表	分析結果一覧	139
第 31 表	原産地対比表	140
第 32 表	器種 (形式)・型式分類一覧	143
第 33 表	編年対比表	168
第 34 表	主柱穴配置と規模 (長軸) の相関	171
第 35 表	主柱穴配置と分布域の相関 (中型竪穴建物)	171
第 36 表	礎を伴う地床が 1 一覧	178
第 37 表	礎を伴う地床が 2 分布域の相関	178
第 38 表	竪穴建物棟数の集計結果	180
第 39 表	東日本における集落出土の破鏡 (船載鏡) 一覧	187
第 40 表	石座神社遺跡出土・設楽原集の鉛製鉄砲玉一覧	196

第1章 調査の概要

(1) 調査の経緯

石座神社遺跡（県登録番号 76045：愛知県教育委員会 1996『愛知県遺跡地図（Ⅲ）東三河地区』）は新城市街地の北東約4 km、新城市大宮字孤塚（北緯 34 度 55 分 38 秒・東経 137 度 31 分 10 秒）に所在する。現況は石座神社境内地、山林である。

発掘調査は第二東海自動車道横浜名古屋線（新東名高速道路）建設に伴う事前調査で、中日本高速道路株式会社豊川工事事務所より愛知県教育委員会を通じて委託を受けた財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団愛知県埋蔵文化財センター（2010年4月に公益財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団愛知県埋蔵文化財センターに改称）が平成19年度、平成20年度、平成21年度、平成22年度に実施した。

調査期間と調査面積は、石座神社遺跡を含む範囲確認調査（「柿下遺跡始め6遺跡（地区）—柿下遺跡・石座神社遺跡裏山地区・長篠戦役設楽原決戦場跡儀徳地区・須長10号墳・篠原遺跡・中山砦」の確認調査）が平成19年5月14日から平成19年6月13日で計400㎡（調査担当：宮腰健司・岡久雅浩）、平成20年度の発掘調査が平成20年9月9日から平成21年3月24日で5,200㎡（調査担当：宮腰健司・早野浩二）、平成21年度の発掘調査が平成21年8月6日から平成22年3月31日で4,720㎡（調査担当：松田調・早野浩二・白井克尚）、平成22年度の発掘調査が平成22年5月21日から平成23年3月14日で10,330㎡（調査担当：松田調・早野浩二・日吉康浩）である。（範囲確認調査を除く）調査総面積は20,250㎡である。発掘調査報告書作成にかかわる整理作業は平成24年度と平成25年度に実施し、平成26年度、平成27年3月に本書を刊行した。

遺跡の位置と現況

調査の経緯

調査期間・面積



第1図 遺跡の位置

（2）調査の経過

範囲確認調査

石座神社真山地区 石座神社遺跡を含む範囲確認調査は、「柿下遺跡始め6遺跡（地区）—柿下遺跡・石座神社遺跡真山地区・長篠戦役設楽原決戦場跡儀徳地区・須長10号墳・篠原遺跡・中山砦」の確認調査として、平成19年5月14日から平成19年6月13日に実施した。調査は石座神社遺跡境内の裏山、東西約350m、南北約100mの範囲を対象として設定した88地点（T.T.01～T.T.88）の試掘坑を人力によって掘削し、遺構・遺物の有無を確認する方法によって実施した。その結果、丘陵頂部の平坦面を中心とする広範囲に古墳時代初期の集落の展開が予測された。また、東向き斜面には須恵器の出土も確認された。

広範囲の集落展開

発掘調査

範囲確認調査の結果を受けて、平成20年度から平成22年度にかけて発掘調査を実施した。発掘調査は事業者による伐採後、重機によって表土を除去し、人力によって順次、包含層掘削、遺構検出・遺構掘削等の作業を進捗させた。遺構・遺物の精査と併行して遺構平面図、土層断面、遺物出土状況図等の作成、遺構検出状況・遺物出土状況等の写真撮影による記録作業を実施した。遺構掘削完了後は、ラジコンヘリコプターによる空中写真撮影を実施し、各調査区の調査を完了した。

伐採・表土掘削

発掘作業

記録作業

平成20年度（08区）の調査

調査区設定 平成20年度は7・8月の伐採後、丘陵の東向き斜面から北向き斜面に東半の08A区、西半と08B区を設定し、9月1日に発掘調査に着手した。丘陵頂部付近には上位段丘を構成する花こう閃緑岩の礫層が広範囲に露出し、概して遺構・遺物は希薄であったが、弥生時代後期から古墳時代前期の竪穴建物2棟を確認した。東向き斜面においては奈良時代の竪穴建物、掘立柱建物から構成される集落を検出した。その他、丘陵を横断する溝状の落ち込み、縄文時代の円筒状の土坑（陥穴）、中近世の土坑・溝等を検出し、後期旧石器時代のナイフ形石器、有溝砥石（矢柄研磨器）、鉛製鉄砲玉等も出土した。

上位段丘礫層

奈良時代の集落

出土遺物

範囲確認調査

また、調査区東端まで古代の集落が検出されたことを受けて、遺跡の範囲外とした東向き斜面について、改めて範囲確認調査を実施した。その結果、周囲に点在する平坦面は遺跡の範囲内であることを確認し、次年度に発掘調査を実施することとした。



調査前の状況



08区の調査（礫層上面の精査）

ラジコンヘリコプターによる空中写真撮影は08 A区を12月12日と24日に、08 B区を2月26日と3月16日に実施し、3月23日に現地での調査を完了した。発掘調査中の11月15日は加原遺跡の現地説明会に併せて発掘調査を公開し、2月28日には現地説明会を実施した。現地説明会には地元の方々を中心に約70名が参加した。

平成21年度（09区）の調査

平成21年度は6・7月の伐採後、丘陵の西向き斜面から北向き斜面に南半の09 A区と北半の09 B区、08 A区北東の小規模な平坦面に09 C区を設定し、7月22日に発掘調査に着手した。丘陵の西向き斜面は弥生時代後期から古墳時代前期の竪穴建物が等高線に沿って稠密に分布し、斜面には遺物包含層も厚く堆積していた。また、埋積谷に堆積した黒色土上面における遺構検出は困難を極め、調査には当初の予想より多大な時間と労力を要した。結果、弥生時代後期から古墳時代前期の竪穴建物約100棟を検出し、その他、縄文時代の円筒状の土坑（陥穴）、丘陵斜面を縦断する中世の大溝等を検出した。竪穴建物からは土器群や炭化材が良好に検出されることも多く、鉄剣等の鉄製品も出土した。

ラジコンヘリコプターによる空中写真撮影は09 A区と09 C区を12月25日に、09 B区を3月24日に実施し、3月31日に現地での調査を完了した。発掘調査中の10月17日にはモリ下遺跡の現地説明会に併せて発掘調査中の遺跡を公開する予定であったが、降雨により遺跡の公開は中止し、屋内での遺物展示と調査概要の説明を行った。屋内での説明会には約20名が参加した。3月27日には現地説明会を実施し、地元の方々を中心に約100名が参加した。

平成22年度（10区）の調査

平成22年度は4月から5月の伐採後、08区と09区に挟まれた丘陵頂部の平坦面に10 A区、平坦面から北東斜面に10 B区を設定し、5月18日に調査に着手した。丘陵頂部には09区と同様、弥生時代後期から古墳時代前期の大型竪穴建物を含む多数の竪穴建物が重複して分布し、大型の掘立柱建物等も検出された。夏の記録的な猛暑もあって、発掘調査は困難なものとなったが、調査の結果、弥生時代後期から古墳時代前期の200棟以上の竪穴建物、掘立柱建物を検出し、その他、縄文時代早期の赤穴、縄文時代中期後半の竪穴建物1棟、縄文時代の円筒状の土坑（陥穴）、中世前後の丘陵を横断する大溝、中世の馬埋葬土坑等を検出した。09区と同様に竪穴建物からは良好な状態で土器群が出土

空中写真撮影
現地説明会

調査区の設定

竪穴建物の検出

縄文時代・中世
出土遺物

空中写真撮影
現地説明会

調査区の設定

竪穴建物の検出

縄文時代・中世

出土遺物



09区の調査（竪穴建物の掘り下げ）



09区の調査（土器群の精査）



10区の調査（表土掘削）



10区の調査（大型竪穴建物の精査）



10区の調査（遺構写真撮影）



現地説明会（2010年11月23日）

し、特に集落遺跡から出土した中国鏡としては県内で3例目となる方格規矩四神鏡の破鏡の出土が注目された。

空中写真撮影
記者発表
現地説明会

ラジコンヘリコプターによる空中写真撮影は10A区を11月19日、10A・10B区を2月24日に実施し、3月14日に現地での調査を完了した。発掘調査中の11月17日には遺跡が大型建物を擁する中核的な集落であること、出土した破鏡の重要性を鑑みた記者発表を行い、11月23日に現地説明会を実施した。現地説明会には愛知県内外の160名の方々が参加した。

普及啓発、その他

通信の供覧
公民館まつり
取材・見学等

発掘調査の期間中には、発掘調査の成果を周知する通信を近隣地区に随時供覧し、大宮公民館まつりの開催時（平成22年1月17日、平成23年1月16日）には、出土遺物の展示、写真の掲示等で参加した。また、平成21年度と平成22年度には地元のケーブルテレビを通じて発掘調査担当者が遺跡の紹介を行った。その他、新城市立黄柳野小学校生徒、同東郷東小学校教員、大阪大学考古学研究室等の団体による見学も随時受け入れた。

新出土品展

発掘調査後にも近隣地区の公民館まつりへの参加を継続した（平成23年12月4日に牛倉公民館、平成24年1月8日に須長公民館）。また、平成24年1月28日から3月4日にかけて豊田市郷土資料館で開催された「埋蔵文化財新出土品展」において、一般県民を対象とした調査成果の速報展示を行った。



公民館まつりでの展示（2010年1月7日）



整理作業（土器の接合）

整理作業・報告書作成

出土遺物の洗浄は各年度の発掘調査期間中に現地で行われ、洗浄した遺物は愛知県埋蔵文化財調査センターにおいて仮収納した。遺物の分類・接合・実測・復元・図版作成・写真撮影・収納等の整理作業、報告書の執筆・編集は平成24年4月から平成26年3月までの2年間の期間内に実施し、平成27年3月に本書を刊行した。

整理作業

報告書作成

新城市教育委員会による発掘調査

愛知県埋蔵文化財センターによる調査後の平成23年度、遺跡は市道八東穂積社線改良工事（市道の拡幅）に伴い新城市教育委員会によって1,600㎡の発掘調査が実施され、すでに発掘調査報告書も刊行されている。発掘調査が実施された地点は儀徳地区に含まれる石座神社境内南西側の丘陵斜面で、弥生時代中期中葉、瓜瓠式の甕棺墓1基、弥生時代後期の竪穴建物2棟、平安時代の竪穴建物3棟が検出されている。また、特徴的な遺物として、弥生時代後期から古墳時代前期と推定される緑色凝灰岩製管玉が出土している。

市道拡幅

儀徳地区

弥生時代中期

平安時代

出土遺物

参考文献

- 愛知県教育委員会1996『愛知県遺跡地図（III）東三河地区』
 宮腰健司2008『榑下遺跡・石座神社裏山地区・長篠戦役設楽原決戦場跡儀徳地区・須長10号墳・篠原遺跡・中山磐』財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団愛知県埋蔵文化財センター
 財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団愛知県埋蔵文化財センター2009『石座神社遺跡現地説明会資料』
 早野浩二2009『石座神社遺跡』『年報 平成20年度』財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団愛知県埋蔵文化財センター
 財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団愛知県埋蔵文化財センター2010『石座神社遺跡現地説明会資料』
 早野浩二・白井克尚2010『石座神社遺跡』『年報 平成21年度』財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団愛知県埋蔵文化財センター
 公益財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団愛知県埋蔵文化財センター2010『石座神社遺跡現地説明会資料』
 早野浩二・日吉康浩2011『石座神社遺跡』『年報 平成22年度』公益財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団愛知県埋蔵文化財センター
 早野浩二・日吉康浩2011『石座神社遺跡の遺構と遺物』『研究紀要』第12号 公益財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団愛知県埋蔵文化財センター
 早野浩二2011『石座神社遺跡の発掘調査』『新城文化』No.15 新城市文化協会
 公益財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団愛知県埋蔵文化財センター2012『埋蔵文化財新出土品展』新城市建設部・新城市教育委員会2011『石座神社遺跡発掘調査報告書』



第2図 調査区配置図



第3図 周辺地籍図



第4図 断上山の遺跡と古墳

第2章 周辺の環境

（1）地理的環境

地形と地質

静岡県と接する愛知県東部の県境付近には、赤石山脈から続く八名・弓張山地がある。八名・弓張山地の西北には標高300mから1,500mの北東が高く南西が低い三河高原が広がる。三河高原は茶白山（標高1,415m）、鳳来寺山（695m）、本宮山（789m）等が連なり、本宮山を最高所とする中央構造線の断層線谷右岸（陸側の内帯）の丘陵は、本宮山南側が領家変成岩類、その北東側が約8,500万年前に形成された新期領家花崗岩類（新城石英閃緑岩、花崗閃緑岩類）より構成されている。なお、遺跡の北西方向に本宮山から派生して連なる山地は「雁峰山」と呼称されている。

河岸段丘

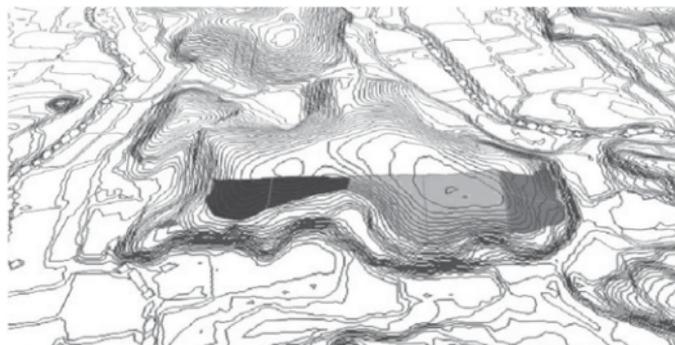
三河高原から三河湾に注ぐ豊川沿岸には東三河平野（豊橋平野）が発達する。東三河平野（豊橋平野）には、豊川が運搬した土砂の堆積した平坦な地形面が隆起して、最高位、高位、中位、低位の4段の段丘面が形成されている。

上位段丘

石座神社遺跡は豊川右岸、西側の大宮川と東側の連吉川に挟まれた南北に細長い高位段丘上の北端付近に立地する。なお、遺跡が立地する南北に細長い高位段丘は「断上山」、大宮川対岸の上位段丘は「茶白山」と呼称されている。遺跡周辺の標高は丘陵頂部の平坦面が117mで、下位の段丘面との比高は約20mである。高位段丘を構成する堆積層は淘汰の悪い中礫から大礫から構成される厚さ3mから4mの砂礫層で、豊川上流域に分布する岩石の礫を含む。これらの堆積物は著しく風化して赤褐色を呈し、くさり礫も含む。遺跡の基盤層となるのも、この高位段丘上に特徴的な礫を多く含む赤褐色土壌である。

参考文献

- 新城市1963『新城市誌』
日本の地質『中部地方II』編集委員会1988『日本の地質5 中部地方II』共立出版
愛知県2010『愛知県史 別編 自然』



第5図 遺跡周辺鳥瞰図（北方向から）

(2) 歴史的遺跡

旧石器・縄文時代の遺跡

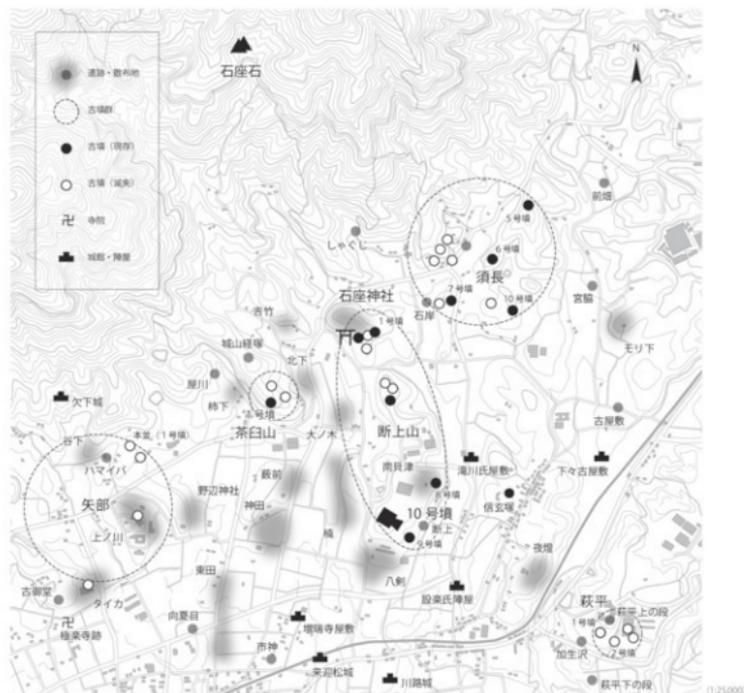
旧石器時代の遺跡は川路地区、豊川右岸の河岸段丘上に分布する。加生沢遺跡は高位段丘から中位段丘の斜面にかけて立地する遺跡で、前期旧石器時代に帰属する可能性がある石器群が採集、発掘されている。加生沢遺跡からやや低位の中位段丘上には萩平遺跡が立地する。萩平（下の段）遺跡は豊川用水事業等に伴い、1962年と1966年にA地点、1964年にC地点、1965年にD地点の発掘調査が実施され、ナイフ形石器、尖頭器、石鏃等の石器と押型文土器等の後期旧石器時代から縄文時代早期を主体とする遺物群が出土した。D地点においては、縄文時代早期のか穴も検出されている。萩平上の段遺跡は萩平（下の段）遺跡より上位の段丘上に立地する遺跡で、大学用地造成事業に伴う新城市教育委員会による1996年の試掘調査、1997年の2,500㎡の発掘調査において、ナイフ形石器、細石器核等の石器集中部分、礫群、配石が検出された。なお、後述の南貝津遺跡においては、ナイフ形石器が出土している。

加生沢遺跡

萩平遺跡

萩平上の段遺跡

南貝津遺跡



第6図 周辺遺跡分布図

大ノ木遺跡

大宮川右岸の低位段丘上に立地する大ノ木遺跡は1948年に久永春男氏らによる発掘調査が行われた結果、後期後葉の凹線土器、晩期の櫛描土器、突帯土器がまとめて出土し、氏は櫛描土器を晩期前葉の「大宮式」として型式設定した。遺跡はその後、県営ほ場整備事業に伴う新城市教育委員会による1990年の試掘調査、1992年の440㎡の発掘調査が実施され、後期前葉から晩期初頭を主体とする土器、石器が出土した。



大ノ木遺跡の現況

石岸遺跡

モリ下遺跡

須長10号墳

第二東海自動車道建設に伴い、愛知県埋蔵文化財センターが発掘調査を実施した石岸遺跡は後期中葉、モリ下遺跡は早期前半と後期初頭を主体とする土器、石器が出土している。その他、須長10号墳においては、早期前半と推測される集石土坑が検出され、夜燈遺跡においては早期末葉、極楽寺跡においては晩期後半の土器が出土している。

弥生時代前期・中期の遺跡

弥生時代中期以前の遺跡として、1969年から1970年に新城市教育委員会によって家畜市場建設に伴う発掘調査が実施された平井地区のタイカ遺跡、1964年に第一期豊川用水事業に伴う発掘調査が実施された竹広地区の八剣遺跡がある。タイカ遺跡では水沖平式の土器棺墓（含口の甕棺墓）、瓜罎式と長床式の竪穴建物、八剣遺跡では瓜罎式の竪穴建物が発出されている。

タイカ遺跡

八剣遺跡

南貝津遺跡

他に弥生時代中期以前の明確な集落は確認されないが、南貝津遺跡においては、土器棺墓、瓜罎式等の弥生土器、結晶片岩・緑色片岩製打製石包丁等の石器が発出されている。

弥生時代後期から古墳時代前期の遺跡

弥生時代後期から古墳時代前期に形成される遺跡は多く、遺物の出土も広範に認められるようになる。石座神社遺跡も1951年（昭和26）、地元の夏目邦次郎氏が遺跡が断上山の開墾中に土器を発見したことによって、その存在が知られていた。同時代の遺跡としては、平井地区のタイカ遺跡、矢部地区の上ノ川遺跡、茶臼山、断上山付近の北下遺跡、吉竹遺跡、南貝津遺跡、八剣遺跡、神田遺跡、八東穂地区のモリ下遺跡等がある。タイカ遺跡、八剣遺跡では前述の発掘調査において、タイカ遺跡は竪穴建物と方形周溝墓、八剣遺跡は竪穴建物が発出されている。上ノ川遺跡は福祉拠点施設・公民館・市道建設に伴い、新城市教育委員会によって1997年に試掘調査、1998年に300㎡の発掘調査が実施され、9棟の竪穴建物が発出された。出土遺物には定角式鉄鎌等の鉄製品も含まれる。

タイカ遺跡

八剣遺跡

上ノ川遺跡

南貝津遺跡

南貝津遺跡は1952年に久永春男氏らによる発掘調査が実施された。それに続いて大宮・竹広工場用地造成事業に伴い、1985年に確認調査、1986年に2,000㎡の発掘調査が新城市教育委員会によって実施された。発掘調査においては、竪穴建物22棟、方形周溝墓3基、溝1条等の遺構が発出され、各遺構からは良好な土器群が出土している。他に、結晶片岩製磨製石鎌、硬玉製勾玉の出土が特筆される。

吉竹遺跡は2008年・2009年に愛知県埋蔵文化財センターによって第二東海自動車道建設に伴う600㎡の発掘調査、神田遺跡は新城市教育委員会によって第二期豊川用水事業に伴い、2004年に試掘調査、2007年に744㎡の発掘調査が実施され、吉竹遺跡においては弥生時代後期の竪穴建物4棟、神田遺跡においては古墳時代初頭の竪穴建物3棟等の遺構が検出されている。2008年・2009年に愛知県埋蔵文化財センターによる第二東海自動車道建設に伴う6,600㎡の発掘調査が実施されたモリ下遺跡においても、古墳時代前期の竪穴建物が発出されている。その他、楠遺跡では菊川式の高杯が出土し、大ノ木遺跡付近の牛倉宮川においても遠江系の広口壺が採集されている。

古墳時代前期後半以降、古墳時代中期から後期を通じては、吉竹遺跡やモリ下遺跡において若干の遺構と遺物が確認されているものの、概して集落の形成は低調である。

古墳

古墳は断上山、茶臼山、矢部地区、須長地区、川路地区の各段丘上に数基単位で分布する。前方後方墳の断上山10号墳、方墳の9号墳は前期古墳の可能性が指摘されているが、他の古墳はいずれも後期古墳と思われる。

石座神社の境内には断上山1号墳から4号墳の4基の古墳が分布するとされるが、現状で確認されるのは1号墳と3号墳の2基である。1号墳は径約14m、高さ2.0～2.5mの円墳で、墳丘中央が窪む。過去に石座神社の「井戸石」を発掘したという伝聞があるこ

吉竹遺跡

神田遺跡

モリ下遺跡

楠遺跡

断上山古墳群



断上山1号墳



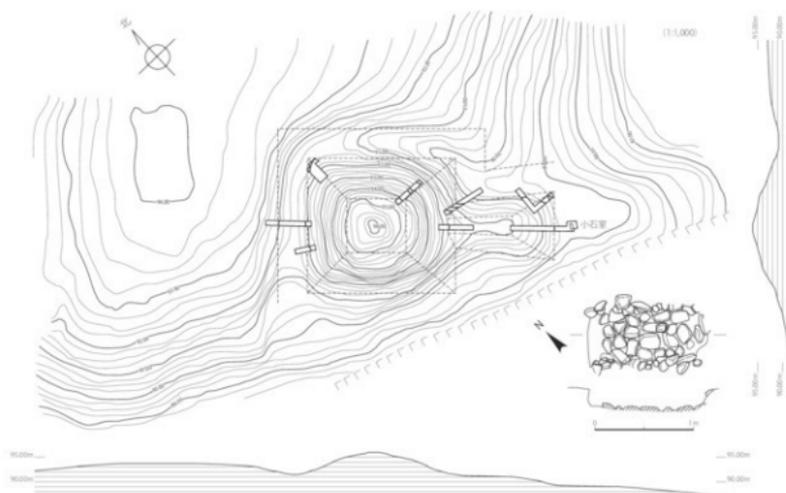
断上山3号墳



断上山6号墳



断上山10号墳



第7図 断上山10号墳

とから、横穴式石室を埋葬施設とする後期古墳であった可能性が高い。3号墳は径約18m、高さ約2mの円墳である。なお、調査区（08区）に接して、径約7m、高さ約1mの円墳状の高まりが認められるが、調査においても周溝の痕跡等が認められなかったことから、古墳ではなく後世の盛土と思われる。

断上山6号墳は約21m、高さ約2.5mで、「方墳」の可能性もある。南貝津遺跡に隣接する8号墳は径約16.5m、高さ約1.2mの円墳で、大宮・竹広工場用地造成事業の設計計画の変更により現状保存された。5号墳と7号墳は現状での確認は困難である。

断上山9号墳

断上山9・10号墳（船塚・物見塚）は県指定史跡（1978年指定）で、1972年に名古屋大学による墳丘測量調査、1973年に愛知県教育委員会による確認調査が実施されている。9号墳は約17m、高さ約3mの方（円）墳で、斜面に葺石が認められ、二段築成の可能性も指摘されている。

断上山10号墳

断上山10号墳は残存状況が良好な全長約50m、後方部長約30m・幅約27.5m・高さ4.5～5.0m、前方部長約20m・幅約14m・高さ約1.5mの前方後方墳である。後方部平坦面は長約12m・幅約11mと比較的狭い。なお、埋葬施設は確認されていない。後方部斜面の調査の状況から、三段築成の可能性も指摘されるが、表面観察からその状況を窺うことは難しい。葺石と埴輪も伴わない。墳丘の北側（丘陵側）には幅約6mの周溝が認められる。

小石室

断上山10号墳の前方部先端付近には「炉址」とされる長約1.2m、幅約0.5m石室状の施設が確認されている。出土遺物はなく、遺構の時期や性格を判断するのは難しいが、埴石裾に沿うことから周辺埋葬施設としての（堅穴系の）小石室、あるいは開口部が南方を志向することから、小型の横穴式石室の可能性もある。

茶臼山には3基の古墳が分布するとされるが、現状で確認されるのは1号墳（茶臼山古墳）のみである。1号墳は径約12m、高さ約2.4mの円墳で、横穴式石室が露出する。石室は崩壊が進むが、側壁と奥壁に三段以上の石材が積まれていることが観察される。なお、新城市教育委員会には「茶臼山古墳」出土とされる6世紀後半から7世紀前半の須恵器蓋杯・提瓶・フラスコ形長頸瓶が保管されている。矢部地区には須恵器横瓶が出土した本並古墳（1号墳）を含む4基の古墳が散漫に分布するが、いずれも滅失している。

茶臼山古墳群

須長地区には10基の古墳が登録されているが、現状で確認できるのは5号墳、6号墳、8号墳のみで、10号墳は第二東海自動車道建設に伴い、愛知県埋蔵文化財センターが発掘調査を実施した。すでに滅失した須長2号墳と4号墳は、滅失前に横穴式石室が露出していたとの伝聞があること、須長3号墳において大刀、須恵器蓋杯・短頸壺等が出土していることから、いずれも横穴式石室を埋葬施設とする後期古墳であった可能性が高い。

須長古墳群

古墳周辺を含めた1,200㎡の発掘調査が実施された須長10号墳は径12m、高さ2.6mの円墳で、横穴式石室を埋葬施設とする。横穴式石室は全長7.0m、幅1.5mの玄門立柱石を側壁に組み込んだ無袖式、奥窄まり形の石室である。石室内には7世紀後半の須恵器長頸瓶が副葬され、石室の開口部付近には須恵器蓋杯・高杯がままとまって遺棄されていた。また、古墳周囲には同時期の堅穴建物も分布し、古墳との関連も注目される。

須長10号墳

川路地区の萩平には4基の古墳が分布するとされるが3基は開鑿によって滅失し、1号墳は1949年に開鑿に伴い、久永春男氏によって発掘調査が実施された。古墳は径9～11m、高さ1.3mの円墳で、奥窄まり形の横穴式石室を埋葬施設とする。石室内からは須恵器蓋杯・高杯・壺、刀子、鉄鍬等が出土している。

萩平古墳群

前述の萩平上の段遺跡（東区）の発掘調査においては、墳丘がすでに削割され、周溝と横穴式石室の基底部付近のみが残存する2基の古墳が検出された。古墳1は径9.0mの円墳で、全長4.7m、幅1.0～1.1mを計測する無袖式の横穴式石室を埋葬施設とする。古墳からは7世紀後半の須恵器蓋杯・高杯・長頸瓶に加えて、大刀、鉸具が出土している。古墳2は全長2.0m、幅0.5～0.65mを計測するやや小型の横穴式石室の基底部のみが残存する。遺物は出土していない。

古代の遺跡

神田遺跡においては奈良時代とみられる布目瓦が出土し、大ノ木遺跡付近、大宮塚田のほ場整備の際には複弁蓮華文軒丸瓦が採集されていることから、付近には寺院等を構成する瓦葺き建物の存在も想定される。2008年に第二東海自動車道建設に伴い愛知県埋蔵文化財センターによる800㎡の発掘調査が実施された石岸遺跡では、奈良時代の大型掘立柱建物が見出されている。富永松尾神社前（神田遺跡）に残る長地型地割の条里制遺構も含めて考えると、遺跡付近は延喜3年（901）に宝飯郡から分置される設楽郡の中心的地域であったことが理解される。

神田遺跡

複弁蓮華文軒丸瓦

石岸遺跡

条里制遺構

その他、1965年に豊川用水事業に伴う発掘調査が実施された竹広馬場遺跡（八剣遺跡）、第二東海自動車道建設に伴い愛知県埋蔵文化財センターによる2,000㎡の発掘調査が実施された加原遺跡、ほ場整備事業に伴い新城市教育委員会によって1993年に試掘調査、1995年に1800㎡の発掘調査が実施された北下遺跡等においても、古代の遺構・遺物が検出されている。

竹広馬場遺跡

加原遺跡

北下遺跡

中世以降の遺跡

- 設楽庄 中世に遺跡周辺は松尾神社（山城国葛野郡松尾村）に属する設楽庄の庄域に含まれていたと考えられ、断上山南方の富永地区には領主であった設楽氏の陣屋跡や居館と推定される増端寺屋敷跡が存在する。茶臼山山頂の城山経塚は幕末、安政年間に経塚が掘り出され、出土した陶製経筒外容器は新城市教育委員会に保管されている。
- 城山経塚
- 橋遺跡 橋整備事業に伴い新城市教育委員会によって1990年に試掘調査、1993年に2456㎡の発掘調査が実施された橋遺跡においては、竪穴状遺構5基等の遺構が検出され、山茶碗、土師器皿等の中世の遺物が大量に出土した。第二期豊川用水事業に伴い新城市教育委員会によって、2004年に試掘調査、2007年に146㎡の発掘調査が実施された極楽寺跡
- 極楽寺跡
- 八剣遺跡 八剣遺跡においては、遺構は検出されなかったが、瓦を含む中世の遺物が出土した。同じく720㎡の発掘調査が実施された前述の八剣遺跡においては、中世の遺構・遺物が確認された。
- 欠下城跡 2010・2011年に第二東海自動車道建設に伴い愛知県埋蔵文化財センターと愛知県埋蔵文化財調査センターによる4060㎡の発掘調査が実施された欠下城跡においては、城館の存在は確定されなかったものの、中世の遺構・遺物が検出されている。その他、前述の北下遺跡、加原遺跡、モリ下遺跡等においても、中世の遺構・遺物が確認されている。

長篠・設楽原の戦い

- 断上山、茶臼山の周辺一帯は、1575年（天正3）に武田軍と織田・徳川連合軍が戦った「長篠・設楽原の戦い」の設楽原決戦場の主戦場で、周辺には合戦に関係する砦や陣地なども多く残されている。石座神社遺跡が立地する丘陵頂部の平坦面を囲うようにして存在する「堀状遺構」、堀状部分に点在する「土橋状の高まり」等についても、現地表面の観察や縄張り調査から陣城群の遺構と推定されることもある。その一方で、織豊系城郭の典型的な陣城形態と異なること、地籍図上の石座神社境内地の境界との位置関係の一致から、「堀状遺構」は石座神社の結界として掘削された可能性も指摘されている。

石座神社

- 式内社 石座神社は設楽郡唯一の式内社で、「延喜式」神名帳に宝飯郡六座（当時、宝飯郡設楽郷）中の「磐倉（石座）神社」とある。それ以前の「文徳実録」仁寿元年条（851）にも「石鞍神（石座神社）従五位下」、「三代実録」元慶元年条（883）にも「石鞍神従五位上」と記されている。神社の起源は雁峯山中腹の巨岩、「石座石（額岩）」で、社もこの山頂に
- 石座石（額岩）



雁峯山中腹の石座石



石座神社

鎮座していたとされるが、野火によりしばしば焼失したため、山麓に遷座したという。1575年(天正3)の設楽原決戦には織田・徳川連合軍が戦勝祈願したともされている。なお、境内においては中世の瓦や陶器が採集されている。

参考文献

- 新城市1963『新城市誌』
- 澄田正一・安達厚三・近藤正市・中島義二・夏目邦次郎1965「萩平(C)遺跡」『豊川用水路関係遺跡調査報告』愛知県教育委員会
- 岩野見司・井上健・山本一三・織田勇司1965「八剣遺跡」『豊川用水路関係遺跡調査報告』愛知県教育委員会
- 澄田正一・大参義一・安達厚三1967「萩平遺跡D地点」『豊川用水路関係埋蔵文化財調査報告』愛知県教育委員会
- 紅村弘・芳賀陽・壇子康直・井関弘太郎1968「愛知県加生沢旧石器時代遺跡」言文社
- 愛知県教育委員会1971「川路萩平(C地点)遺跡」
- 名古屋大学考古学研究室1974「断上9、10号墳」『重要遺跡指定促進調査報告一地形測量調査の概要一』愛知県教育委員会
- 柴垣秀夫1977「新城市断上9、10号墳発掘調査報告」『重要遺跡指定促進調査報告II』愛知県教育委員会
- 新城市教育委員会1979「上平井タイカ・豊栄直向遺跡」新城市誌資料13
- 賛元洋1988「愛知県三河地方の前方後方墳」『古代』第86号早稲田大学考古学会
- 新城市教育委員会1989「南貝津遺跡」
- 池田誠1992「綱張り研究の視点による長篠合戦の再検討」『中世城郭研究』第6号 中世城郭研究会
- 愛知県教育委員会1995「大ノ木遺跡発掘調査報告書」新城市埋蔵文化財調査報告書IX
- 新城市教育委員会1996「桶遺跡発掘調査報告書」新城市埋蔵文化財調査報告書X
- 高田誠1996「三河長篠及び長篠合戦陣所に関する検討」『中世城郭研究』第10号 中世城郭研究会
- 愛知県教育委員会1997「愛知県中世城郭調査報告III(東三河地区)」
- 赤塚次郎1997「愛知県内前方後円(方)墳等の測量調査概要報告1」『愛知県史研究』創刊号 愛知県新城市教育委員会1999「上ノ川遺跡発掘調査報告書」新城市埋蔵文化財調査報告書第17集
- 森田勝三2001「新城市大宮・塚田遺跡出土の古瓦」『伊勢考古』15 知多古文化研究会
- 豊橋市教育委員会2002「日南坂1号墳・神ヶ谷遺跡」豊橋市埋蔵文化財調査報告書第70集
- 愛知県2002「愛知県史 資料編1 考古1 旧石器・縄文」
- 須川勝以2005「断上山古墳群」『愛知県史 資料編3 考古3 古墳』愛知県新城市教育委員会2007「萩平上の段遺跡発掘調査報告書」
- 新城市教育委員会2008「極楽寺跡発掘調査報告書」
- 新城市教育委員会2009「愛知県新城市八剣遺跡・新田遺跡発掘調査報告書」
- 新城市教育委員会2010「市内遺跡発掘調査報告書III」
- 新城市建设部・新城市教育委員会2011「石座神社遺跡発掘調査報告書」
- 早野浩二・日吉康浩2011「石座神社遺跡の遺構と遺物」『研究紀要』第12号 公益財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団愛知県埋蔵文化財センター
- 公益財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団愛知県埋蔵文化財センター2012「柿下遺跡」愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第176集
- 公益財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団愛知県埋蔵文化財センター2014「須長10号墳」愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第184集
- 公益財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団愛知県埋蔵文化財センター2015「吉竹遺跡」愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第191集
- 公益財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団愛知県埋蔵文化財センター2015「欠下城跡」愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第192集
- 公益財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団愛知県埋蔵文化財センター2015「加原遺跡」愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第194集
- 公益財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団愛知県埋蔵文化財センター2015「石岸遺跡」愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第195集
- 公益財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団愛知県埋蔵文化財センター2015「モリ下遺跡」愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第196集

第3章 遺構と遺物

第1節 微地形と層序

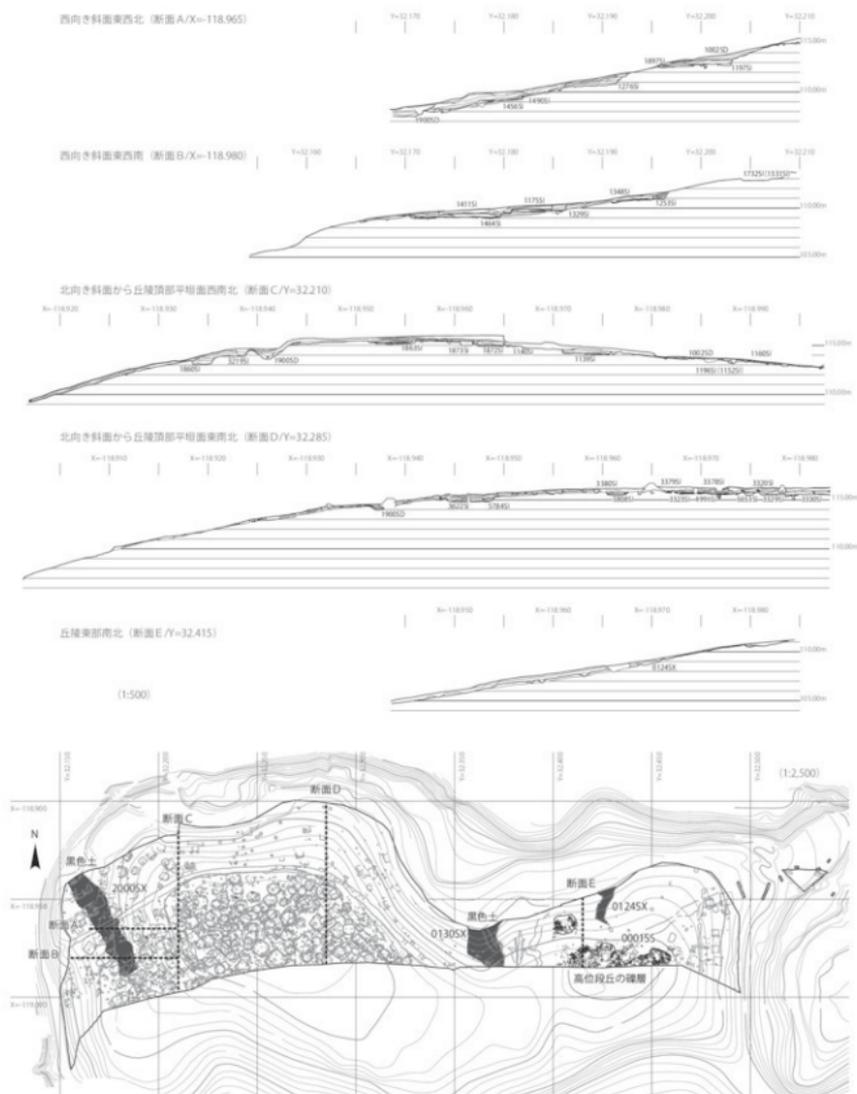
微地形

- 丘陵頂部の平坦面** 石座神社遺跡は丘陵頂部から西向き、南向き斜面を中心に形成される丘陵上の遺跡で、弥生時代後期から古墳時代前期の竪穴建物が稠密に分布する丘陵頂部の平坦面（現地表115mの等高線がほぼ対応）は北西—南東方向で約140m、北東—南西方向で約60mの広さである。周囲の斜面の傾斜は15°前後で、丘陵縁辺から切り通し状の崖付近まで約50m続く西向き斜面（現地表110mの等高線がほぼ対応）にも同時期の竪穴建物が多く構築されている。丘陵の北西方向は緩傾斜面（現地表107mの等高線がほぼ対応する）が張り出し、緩傾斜面にも竪穴建物が多く分布するが、北向き斜面、北東方向の斜面は丘陵縁辺から約20mまでの範囲（現地表110mの等高線がほぼ対応）に散漫に分布する。なお、竪穴建物は傾斜約13°までの斜面を選んで構築されているようである。丘陵東部（長頭貝津地区）も北東方向の斜面と同様の様相を示す（第8図）。

- 遺跡の範囲** 上記の微地形と遺構の分布様態から、（弥生時代後期から古墳時代前期の集落としての）遺跡の範囲は東西約300m、南北約100mと推定される。新城市教育委員会が調査した地点（儀徳地区）は地形が連続しないことから、同一遺跡の異なる地点として、または同時期の別個の遺跡として把握するのが適当であろう。

層序

- 基盤層** 石座神社遺跡が立地する高位段丘面の基盤層は砂礫層が著しく風化した赤褐色土壌で、丘陵頂部の平坦面（10区）は褐色を基調とする表土を除去すると基盤層に達する。なお、丘陵東部（08区）においては、頂部付近に高位段丘を構成する花こう閃緑岩の礫層が広く露出する（0001SS）。
- 斜面の堆積相** 丘陵斜面、特に西向き斜面（09区）は、竪穴建物構築時における斜面の切り土と盛り土、竪穴建物廃絶後の竪穴建物内への土砂の流入、さらに斜面の流出が繰り返された結果、複雑な堆積相を示す。西向き斜面の竪穴建物は、斜面側が流出し、丘陵側の掘り込みが著しく深く検出されることが多く、竪穴建物の覆土には斜面からの流出土が連続して堆積する。斜面の流出土は暗褐色を基調とする比較的均質な堆積で、斜面の傾斜が緩慢となる斜面のやや下方は層厚が50cm前後にも達する。堆積層中には遺物を多く包含するが、包含される遺物は破片が多く、二次的な移動を被っていることを示唆する。さらに、竪穴建物の一定の埋没後に生じた窪みには均質な黒色土が堆積する。
- 小支谷の黒色土** 丘陵西向き斜面の中間から下位の緩傾斜面付近、丘陵尾根間の鞍部には小支谷が形成され（第8図）、小支谷内には均質な黒色土が20cmから50cm程度の層厚で堆積する（2000SX・0130SX）。黒色土は遺物を包含しないが、0130SXの黒色土上面においてはナイフ形石器、縦長剥片、石核を含む後期旧石器時代の石器群が検出されている。丘陵西向き斜面は斜面の複雑な堆積と竪穴建物の著しい重複に加えて、遺構検出面が2000SXの黒色土上面に重なる部分も多く、遺構の検出、精査は極めて困難であった。



[遺跡層序断面位置]

第8図 遺跡層序断面

第2節 弥生時代中期以前の遺構と遺物

（1）後期旧石器時代・縄文時代の遺構

概要

縄文時代の遺構

弥生時代中期以前の遺構として、縄文時代早期の炉穴（煙道付炉穴）6基、中期後半の竪穴建物1棟、後期前葉を中心とする陥穴と推定される土坑50基、晩期後半と推定される溝状の落ち込みを検出した（第10図）。

旧石器

土器・石器

出土土器量・分布

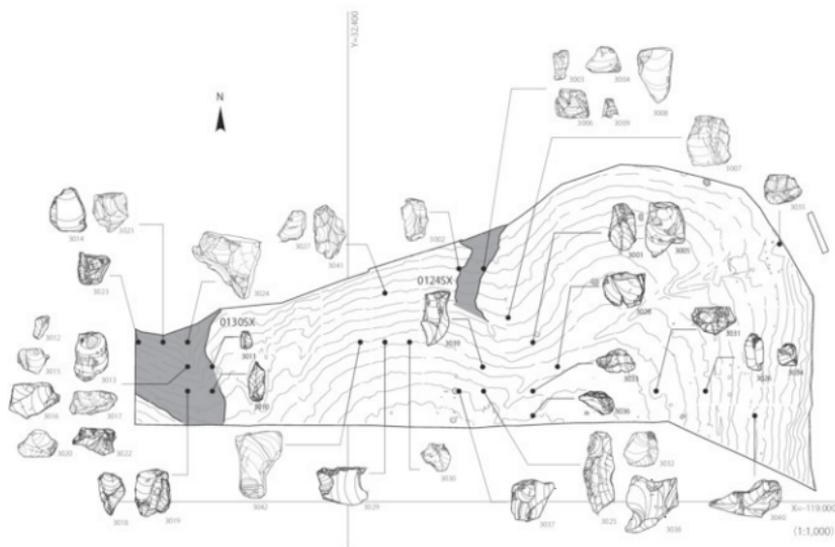
また、丘陵北東斜面（08区）の小支谷周辺を中心に後期旧石器時代の旧石器、丘陵頂部の平坦面と西向き斜面の小支谷を中心に縄文時代各時期と弥生時代前期・中期の土器6.4465kg（全出土土器の0.32%）、各種の石器・石製品が出土している。出土土器は丘陵頂部の平坦面と西向き斜面の黒色土周辺に多く分布する傾向がある（第11図）。なお、弥生時代前期・中期の遺構は検出されていない。

小支谷0130SX・0124SX（遺構図版25）

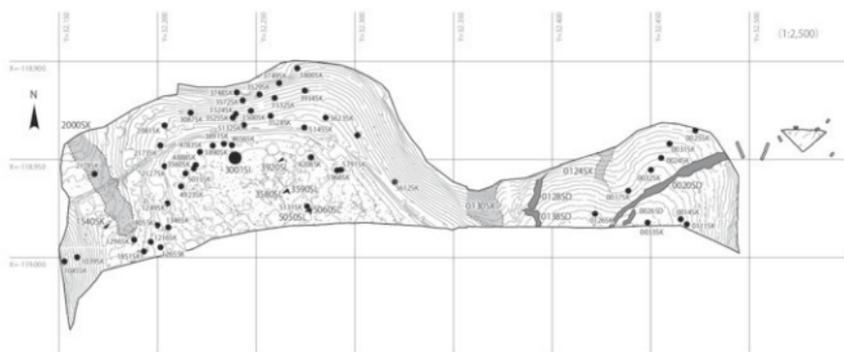
堆積状況

丘陵北東斜面（08区）において検出した。0130SXの下層と0124SXは基盤層に近似的くすんだ黄褐色シルトが堆積し、0130SXの上層は均質な黒色シルトによって埋積する。層中に遺物は包含されないが、上層の黒色シルト層上面において、ナイフ形石器、縦長削片等の削片、石核から構成される後期旧石器時代の石器群(3001～3024)を検出した。また、丘陵北東斜面（08区）には同時期の石器（3025～3043）が散在する（第9図）。

遺物出土状況



第9図 後期旧石器時代の旧石器の分布（08区）



第10図 縄文時代遺構配置

炉穴3580SL・3590SL・5050SL・5060SL・3920SL・1540SK（遺構図版26）

縄文時代早期の炉穴（煙道付炉穴、以下、炉穴とする）は4基（3580SL・3590SL・5050SL・5060SL）、その可能性がある遺構2基（3920SL・1540SK）を含めて6基を検出した（第1表）。1540SKは丘陵西斜面下段に分布するが、他の5基は丘陵平坦面中央に分布する。

3580SL・3590SLは弥生時代後期の竪穴建物3147SI床面下位で検出されていることからしても、炉穴はかなり削剥されていると思われる。いずれも天井部分は遺存せず、開口部と煙道部分（の底面）のみを検出した。また、3920SLは竪穴建物3651SIの壁面が著しく被熱赤変した部分を炉穴の残存部分とした。同様に、遺構の全形は不明ながら、壁面の一部が被熱赤変した1540SKも炉穴の可能性を想定した。

全形がほぼ判明する4基の炉穴は3580SLと3590SL、5050SLと5060SLの2基を一単位として構築され、いずれも開口部側を向き合わせてほぼ直角に配される。3580SL・3590SLの平面形はいわゆる「東海型炉穴」に特有の長二等辺三角形形状を呈する（小瀨2003・筒井2006）。5050SLと5060SLは扁楕円形を呈するが、削剥の程度によるもので、3580SLと3590SLと同様に、平面形は二等辺三角形形状の平面形を呈すると思われる。いずれも床面は煙道部側が傾斜する。

炉穴3590SL、5050SLにおいては、底面の焼土からやや浮いた位置で押型文土器（1～3）が出土した。その他、3580SLからは熔結凝灰岩製石核・剥片、安山岩製剥片が出土した。遺構内の覆土は土壤選別を実施したが、遺物は認められなかった。3590SLは煙道部付近に基盤層中の花こう岩が露出した状態で検出されたが、花こう岩自体は明確には被熱してなかった。土坑1540SKの付近には、早期前半末葉の高山寺式土器（4）、早期末葉の東海条痕文系土器、天神山式（5・6）、块状耳飾り2点（3430・3431）が出土している。これらから、1540SKは早期前半に後出する時期に帰属することも想定される。

なお、3580SL、3590SL、5050SL、5060SLにおいて出土した炭化材の放射性炭素年代測定を実施した結果、いずれも縄文時代早期前半の年代を示した（第4章（1）を参照）。

分布

検出状況

配置・平面形

床面

遺物出土状況

年代測定

竪穴建物3001SI（遺構図版27）

分布	丘陵平坦面北緩斜面において縄文時代中期後半の竪穴建物1棟（3001SI）を検出した。
平面形	平面形は径3.0mの円形で、中央付近に方形の石囲炉を布設する。主柱穴に相当する柱穴は検出されなかった。
石囲炉	石囲炉から計測した主軸の方位はN6.5°-Eで、石囲炉の長軸は外法0.75m、内法0.50m、短軸は外法0.60m、内法0.35mを計測する。石囲炉は花こう岩を用いて構築され、石材は被熱等によって著しく風化していた。また、約0.2m掘り窪められた炉の底面は被熱によって赤変硬化していた。床面においては土坑4314SKが検出された。4314SKは石囲炉の掘方と形状、規模が類似する。
遺物出土状況	石囲炉付近、竪穴建物内の土坑4314SKにおいては、中期後半の（古付）深鉢（16～23）、塩基性岩製磨製石斧（3389）、熔結凝灰岩・黒曜石・下呂石製剥片等の若干の石器が散在して出土した。
分布	陥穴と推定される土坑（遺構図版28～33） 丘陵斜面を中心に縄文時代の陥穴と推定される土坑を50基（08区9基・09区13基・10区28基）を検出した（第2表）。
平面形・法量	土坑の平面形は円形か楕円形が多く、隅円方形に近いもの、不整形のものも認められる。土坑の断面形は円筒形で、土坑底面には小土坑が検出されるものが多い。土坑の法量は検出面の削剥の程度にもよるが、径1m程度、深さ1m程度、小土坑の深さは0.15～0.65mで、小土坑を含めた土坑の深さが2mに達するものもある。
遺物出土状況	土坑からほとんど遺物は出土しないが、5791SKにおいては安山岩製打製石斧（3340）が出土した。その他、チャート製石鏃（4783SK）、砂岩製磨石（4888SK）、剥片・大型剥片、縄文土器が出土した土坑（3525SK）等がある。
年代測定	なお、土坑内から採取した炭化物の放射性炭素年代測定を実施した結果、測定した過半数（11基中の7基）が縄文時代後期前葉の年代を示し、その他、早期後半、中期後半、後期初頭の年代を示した（第4章（1）を参照）。
0020SD	溝状の落ち込み0020SD・0128SD・0138SD（遺構図版25） 丘陵北東斜面において調査区を南西から北東に縦断する溝状の落ち込み0020SDを検出した。溝の幅は約1.6～4.5m、深さは約0.2～1.2mと一定せず、溝の掘方もやや曖昧である。上層の埋土はやや黒み帯びるが、下層の埋土は色調の変化に乏しい。
0128SD・0138SD	0128SD・0138SDは、小支谷0130SXに面した斜面を流下する。溝の幅は1.0～2.0m、深さは0.2～0.5mで、溝の形状や堆積状況は0020SDと類似する。
遺物出土状況	これらの溝状の落ち込みの上層には古墳時代前期以前の土器がごくわずかに包含されるのみであるが、奈良時代の遺構に先行すること、溝内から採取した炭化物の放射性炭素年代測定を実施した結果、縄文時代晩期後半の年代を示したことから（第4章（1）を参照）、縄文時代の遺構に含めた。
年代測定	

参考文献

- 小瀬学2003『埴道付穴及びび穴に関する一考察』『関西縄文時代の集落・墓地と生業 関西縄文論集1』六一書房
 筒井京2006『び穴考 東海地区におけるび穴の分布と形態研究—静岡県を中心として—』『静岡県埋蔵文化財調査研究所 研究紀要』第12号 財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所

第1表 縄文時代伊六一覧

調査区	遺構番号	グリッド	規模 (m)			¹⁴ C年代 (BP/yrBP)	出土遺物		
			長軸	短軸	深さ				
10F	3580SL	10C14m/14n	1.67	0.83	0.26	2.01	9515±30	焼結凝灰岩製石椀・調片、安山岩製調片	
10F	3590SL	10C14n	1.49	0.66	0.21	2.26	9565±30	9545±30	押型文土器 (1)
10F	5050SL	10C16p	0.81	0.62	0.18	1.31	9425±35	押型文土器 (2・3)	
10F	5060SL	10C16p	1.09	0.84	0.19	1.30	9460±30		
10F	3920SL	10C11m	*1.24	-	0.15	-			
09F	1540SK	10B17o	1.75	1.40	0.25	1.25			

第2表 縄文時代土坑 (陥穴) 一覧

調査区	遺構番号	グリッド	規模 (m)			¹⁴ C年代 (BP/yrBP)	出土遺物			
			上坑 長径	上坑 短径	小土坑 径			深さ		
08F	0014SK	10E17n	1.45	1.30	0.80	-	-			
08F	0017SK	10E14b	1.25	0.95	1.15	-	-			
08F	0024SK	10E10f	1.20	0.75	1.00	0.25	0.20	1.20		
08F	0025SK	10E7c/8o	1.65	1.30	1.80	0.25	0.30	2.10	3620±25	
08F	0031SK	10E9f	1.65	*1.3	1.70	0.15	0.55	2.25		
08F	0032SK	10E11j/12j/11k/12k	1.75	1.40	1.60	0.25	0.60	2.20	3615±20	
08F	0033SK	10E17j	1.00	0.80	0.95	0.25	0.60	1.55	3965±20	
08F	0111SK	10E17n	1.15	0.95	1.70	-	-	-	7070±25	
08F	0126SK	10E16c	1.30	1.25	1.70	0.20	0.50	2.20		
09F	1039SK	10B20/1B11	1.15	1.15	1.00	0.25	0.15	1.15	3625±20	
09F	1045SK	1B1k	1.25	1.00	0.90	0.20	0.65	1.55	3630±25	
09F	1216SK	10B19t	1.00	0.85	0.95	0.20	0.15	1.10	3555±20	安山岩製大型調片・調片
09F	1249SK	10C15a	1.00	0.70	0.85	0.15	0.15	1.00		
09F	1265SK	10C19a/20a	1.15	0.70	1.05	-	-	-		
09F	1296SK	10B19r	1.05	0.70	1.45	0.25	0.35	1.80	安山岩製大型調片、凝結凝灰岩製調片	
09F	1346SK	10C17a/17b	0.90	0.80	1.00	0.25	0.25	1.25	3635±20	
09F	1805SK	10B17j/10C17a	0.70	0.60	1.40	0.20	0.25	1.65	凝灰岩製調片	
09F	1851SK	10B20s	1.70	0.95	1.10	-	-	-		
09F	2081SK	10C7a	1.35	1.00	0.90	0.25	0.55	1.45	3610±25	
09F	2127SK	10C11a	1.00	0.90	1.05	0.20	0.50	1.55	4160±20	
09F	2173SK	10C9a	0.95	0.75	0.85	0.15	0.40	1.25	4330±25	
09F	2178SK	10B12n	0.80	0.75	-	-	-	-	安山岩製大型調片	
10F	3087SK	10C6d	1.45	1.35	1.55	0.30	0.50	2.05		
10F	3500SK	10C5g/4g	1.25	1.10	1.45	0.20	0.55	2.00		
10F	3524SK	10C6h/6h	1.25	1.20	1.05	0.25	0.55	1.60		
10F	3525SK	10C6h	1.50	1.15	1.55	-	-	-	縄文土器	
10F	3528SK	10C6f	1.20	1.00	0.85	0.20	0.40	1.25		
10F	3529SK	10C4k	2.00	1.45	1.50	0.25	0.35	1.85		
10F	3532SK	10C4f	1.60	1.50	1.70	0.20	0.40	2.10		
10F	3560SK	10C11d	1.20	0.85	0.85	-	-	-		
10F	3572SK	10C4f/5f	1.40	1.05	0.90	0.10	0.30	1.20		
10F	3748SK	10C4h/4h	0.90	0.70	0.6	0.15	0.55	1.15		
10F	3749SK	10C3m	1.50	1.25	1.1	0.25	0.40	1.50		
10F	3800SK	10C1o	1.15	1.00	1.15	0.15	0.35	1.50		
10F	3890SK	10C9f	1.20	1.05	1.15	0.15	0.30	1.45		
10F	3891SK	10C9g	1.25	1.15	1.65	-	-	-		
10F	3934SK	10C3e/4e/3p/4p	1.10	0.85	0.6	0.20	0.50	1.10		
10F	4208SK	10C10p	0.95	0.95	0.9	0.25	0.35	1.30		
10F	4656SK	10C9h	1.30	0.90	1.4	0.30	0.35	1.75		
10F	4783SK	10C10e	0.85	0.85	1.05	-	-	-	チャート製石鏃、焼結凝灰岩製調片	
10F	4888SK	10C11d	1.10	0.95	1.2	0.15	0.25	1.45	砂岩製磨石	
10F	4923SK	10C13c	1.20	0.90	0.9	0.25	0.45	1.35	安山岩製織打のある礫、焼結凝灰岩製調片	
10F	5015SK	10C12c	0.85	0.60	0.8	0.15	0.25	1.05		
10F	5131SK	10C15p	1.10	1.00	1.2	-	-	-		
10F	5132SK	10C7i	1.35	1.00	0.8	0.10	0.60	1.40		
10F	5145SK	10C7o	0.90	0.70	0.85	0.15	0.35	1.20		
10F	5612SK	10D12e/13e	1.20	1.00	1.2	0.20	0.25	1.45		
10F	5632SK	10C6r	1.10	1.10	1.05	0.25	0.15	1.20		
10F	5791SK	10C11a/12a	1.30	1.15	0.95	0.15	0.20	1.15	安山岩製打製石斧 (C340)	
10F	5968SK	10C12s	1.25	0.75	0.7	0.20	0.45	1.15		

（3）縄文時代の土器・弥生時代前期・中期の土器

縄文土器（遺物図版1・2）

概要	縄文土器として、早期前半、早期末葉、中期初頭、中期後半、後期前葉、晩期前葉に帰属すると思われる個体を抽出した（1～50）。1～3は丘陵頂部平坦面中央の炉穴（煙道付炉穴）、15～23は丘陵頂部平坦面北部の竪穴建物3001SIとそれに付属する土坑4314SKに伴って出土したが、それ以外は、丘陵西斜面の黒色土周辺において弥生時代以降の堆積層中に混入した状態で出土したものが多く。
押型文系土器	1～4は早期前半の押型文系土器で、1は炉穴3590SL、2・3は炉穴5050SLより出土した。いずれも器表面の摩滅が著しく、施文原体を明確に把握することは難しい。
早期前半 高山寺式	1～3は「ネガティブな押型文」を施す大川式新段階萩平型または神宮寺式（矢野2008a）に対比される。4は外面に楕円押型文、内面に右下がりの斜行沈線を施す早期前半末葉の高山寺式である。器壁の厚さは約12mmとやや厚手で、楕円文は長径7mm、短径4mm程度、斜行沈線の幅は約10mmである。豊川市天井平遺跡における文様分類（豊川市教育委員会2009）の押型文2類（長径8mm以下の楕円形の回転押型文が施されたもの）、斜行沈線B種（沈線幅が10mm以上の幅広で断面が曲線的な波状を呈する斜行沈線）に対応し、高山寺式第2段階（矢野2008b）に対比される。
早期末葉 中期初頭	5・6は早期末葉の天神山式（山下2008）に対比される深鉢で、胎土中に繊維を含む。7～15は集合沈線文、連続爪形文を主文様とする一群の土器で、およそ中期初頭の北屋敷1式（増子2008a）または山田平下層式（山下1998）に対比される。7は鉢状の器形で、口縁部の隆帯下端に「U」字形の文様を並列する。13は底部下端が強く張る器形で、半葦竹管による区画内に集合沈線を充填する。14はキャリバー形に大きく括れる部位に連続爪形文を水平に施す。
中期後半	16～23は竪穴建物3001SIから出土した厚手で立体的な装飾を施す深鉢（台付深鉢）で、多くは同一個体と思われる。中期後半の神明式（額綱・高橋2008）、加曾利E3式に対比される。16・17は口縁部、18～20は立体的な装飾、21は隆起帯による方形区画文を配した体部上位の部分、22・23は台付深鉢の脚台部分である。24～26も隆起帯による渦巻文をもつ厚手で装飾的な深鉢の口縁部、27は台付深鉢の脚台部分である。28～37は隆帯や沈線を文様とする一群で、中期後半の範疇に含まれると思われる。
後期前葉	39は口縁端部に横位沈線を施し、それ以下を無文とする深鉢で、後期前葉の緑帯文系土器とした。40は後期以降の無文粗製の深鉢である。
晩期前葉	41・42は器面を巻貝条痕によって調整する後期前葉から晩期前半の粗製の深鉢、43～47は半葦竹管による沈線文を施した晩期前葉の深鉢である（増子2008b）。これら晩期前葉の一群は、大ノ木遺跡を標識とする「大宮式」に関連する。48は口縁部の端部と外面に突起を貼付して押圧を加え、口縁部外面には突起を起点とした玉抱き三叉文と弧線文による文様が展開する（山村2008）。晩期初頭に対比される。49は刻文帯によって区画された文様帯に下向きの三角形削込文、滋賀里II式の「櫃原式文様」を配した晩期前葉の有文の精製土器である（大塚1995）。50は口縁端部に刺突列を施した小型の鉢で、晩期前葉に対比されると思われる。

弥生時代前期・中期の土器（遺物図版3）

弥生時代前期・中期の遺構は確認されていないが、弥生時代後期以降の遺構や包含層に混在して前期前半、前期後半、中期前葉、中期中葉、中期後葉の土器が少量出土している。

51～57は前期前半、椀王式の砲弾形を呈する深鉢の口縁部で、いずれも横方向に条痕を施す。55は先端の端面が窪み、56、57は先端がわずかに引き出される。58は前期後半、水神平式の甕で、口縁部が外反する。59～71は前期の椀王式の深鉢または水神平式の甕の体部で、横方向から斜方向の条痕を施す。71は底部付近に相当すると思われる。72は遠賀川系（亜流遠賀川式、金剛坂式）の壺の体部で、貼付突帯に押圧を加え、半裁竹管による沈線を施す。色調は赤褐色で、胎土中には金雲母を含む。

73は中期前葉、岩滑式（条痕文系）の内傾口縁土器、74は口縁部が袋状を呈する壺で、いずれも条痕を施す。78～93は中期中葉、瓜髷式の甕で口縁部付近は横方向、底部付近は斜方向から縦方向に柳条痕を施す。86～90は口縁部先端に突帯を付し、押圧や刻みを加える。94は瓜髷式の受口状口縁を呈する大頭壺で、口縁部外面の文様帯に柳条痕を連爪文状に施す。96は瓜髷式の壺の頸部付近で、刻み突帯より上位にヘラによる複合脈歯文を施す。97、98は瓜髷式の壺の体部で、柳条痕を施す。

99・100は中期後葉、古井式の壺で、櫛描波状文を施す。

参考文献

- 大塚道郎1995「榎原式紋様論」『東京大学文学部考古学研究室研究紀要』第13号 東京大学文学部考古学研究室
 藤岡茂・高橋健太郎2008「中富式・神明式土器」『総覧縄文土器』アム・プロモーション
 豊川市教育委員会2009「天井平遺跡」
 増子康直2008a「北夷C～北屋敷B式土器」『総覧縄文土器』アム・プロモーション
 増子康直2008b「晩期半裁竹管文土器」『総覧縄文土器』アム・プロモーション
 矢野健一2008a「押型文系土器（大川式・神宮寺式土器）」『総覧縄文土器』アム・プロモーション
 矢野健一2008b「押型文系土器（高山寺式・穂谷式土器）」『総覧縄文土器』アム・プロモーション
 山下勝年1998「山田平遺跡出土の縄文中期初頭の土器」『伊勢考古』12 知多古文化研究会
 山下勝年2008「東海条痕文系土器」『総覧縄文土器』アム・プロモーション
 山村貴輝2008「玉造き三叉文」『総覧縄文土器』アム・プロモーション

概要

出土状況

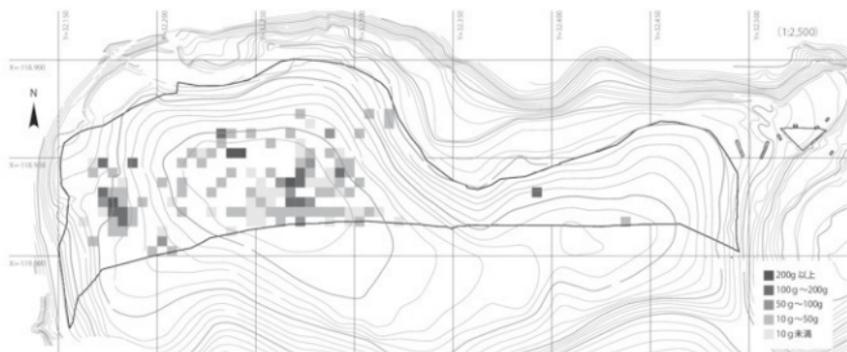
前期

遠賀川系土器

中期前葉

中期中葉

中期後葉



第11図 出土土器重量分布（弥生時代中期以前）

（４）後期旧跡時代・縄文時代の石器・石製品

概要

時期 ここて報告する石器群は、後期旧石器時代から縄文時代に属する遺物がほぼ多数を占め、弥生時代前期および中期と特定できる石器資料は極めて少ない。ここでは、縄文時代が明瞭な定形的な器種や形態、および発掘調査で出土状況の同一性があると認められた資料をもとに、後期旧石器時代および縄文時代草創期の資料として報告する。その他の遺物については、縄文時代の出土遺物として一括して報告する。

後期旧石器時代の石器（遺物図版117～120）

剥片	0124SX出土石器（3001～3009） 3001～3005・3007・3009は剥片で、やや横長の貝殻状を呈する3004以外は、縦長に剥がされたものが主体である。3004・3005・3007
石核	では剥片作出前に打面調整が行われている。3006は各面で剥片が作出されており石核と考えたが、最右に図示した面では、一端からの打撃による作出が行われており、これ自体が菱形形状の剥片かもしれない。3008は削器で、打面調整が行われた後に縦長状に作出された剥片の側面に、二次加工が加えられている。この辺には表裏に不連続な微細剥離が認められる。石材は3009のチャート以外、すべて熔結凝灰岩である。
削器	
石材	
ナイフ形石器	0130SX出土石器（3010～3024） 3010はナイフ形石器である。断面形状がやや扁平な三角形を呈する縦長剥片の打点側を基部にして、先端部の一辺には刃潰し加工が、反対の一辺には不連続な微細剥離が認められる。3011～3014・3016～3020は剥片である。3011～3014・3016・3017・3018は縦長状に作出された剥片である。3011・3012のように長さ2cm程度と小ぶりのものと、3013・3014・3016のように長さ5cm程度のものがある。3011・3014・3016は剥片作出前の打面調整が明瞭か。3017・3020は横長あるいは貝殻状の剥片である。3018は、裏面の斜方向に伸びる縁辺に微細剥離が認められる。使用痕かもしれない。3015・3021～3024は石核である。石材はすべて凝灰岩あるいは熔結凝灰岩である。
剥片	
石核	
石材	
削器	その他08B区出土石器（3025～3043） 3025は削器とした。残存長で8.5cmを測る縦長剥片で、一側面の背になる側に剥離調整が加えられている。3026～3036は剥片である。3026は断面三角形の縦長様の剥片で、天地逆にみると、3010に類似する。その他の剥片は、横長あるいは貝殻状を呈するものである。3036は縁辺に不連続な微細剥離があり、使用痕かもしれない。3037～3043は石核である。3037・3039以外は礫の風化面を残すもので、3038・3041は風化面側から直接敲打が加えられている。3039は同一方向から縦長に剥片を作出していたものの、最後に打面を90度変えて横長の剥片を作出して終了したものと考えられる。石材は3035が安山岩、3036が下呂石以外は、すべて熔結凝灰岩あるいは凝灰岩である。
剥片	
石核	
石材	

縄文時代草創期の石器（遺物図版121）

丸ノミ形石斧（3044） 長さ13.6cmを測る石斧で、中央に稜が立ち、断面形状は三角形あるいは五角形状を呈するものである。器面の風化が著しく不明であるが、もともとは刃部側に局部磨製が施されていたものと思われる。石材は安山岩である。

局部磨製

石材

有溝砥石（3045） 扁平な形状を呈するもので、片面の中央には断面V字状の深い溝が形成されている。溝の上端幅は最大1cmを測る。石材は砂質凝灰岩である。

溝

石材

有舌尖頭器（3046～3048） いずれも、表裏同様に身部まで深く入る剥離調整が加えられている。3048は柳又型といわれるものであろう。3046は基部に対して身部が短くなっているが、同様であろう。3047は先端部側が半分欠損しており明瞭なことは言えないが、身部が細く長身気味に伸びるのであれば、萩平型になる可能性もあろう。石材は熔結凝灰岩あるいは凝灰岩である。

柳又型

萩平型

石材

木葉形尖頭器（3049・3050） いずれも半分欠損である。表裏とも同様に、身部まで深く剥離調整が入るもので、断面形状が菱形を呈する。石材は熔結凝灰岩あるいは凝灰岩である。

剥離調整

石材

使用痕のある剥片（3051） 打面調整が行われたあと縦長に作出された剥片が使われており、側面には微細剥離が連続して認められる。後期旧石器がまとまって確認されたOSB区以外の出土であるが、石器群の中では古相を呈するため、ここで報告する。熔結凝灰岩製である。

微細剥離

石材

縄文時代に属する石器・石製品（遺物図版122～154）

石鏃（3052～3084） 38点出土し、33点を図化した。38点の基部形態は、無茎凹基が18点、無茎平基が7点、その他無茎が2点、有茎は8点、形態不明が3点である。石材は安山岩12点、熔結凝灰岩12点、黒曜石5点、凝灰岩3点、下呂石3点、チャート3点であるが、このうち、有茎鏃は安山岩5点と熔結凝灰岩3点である。

基部形態

石材

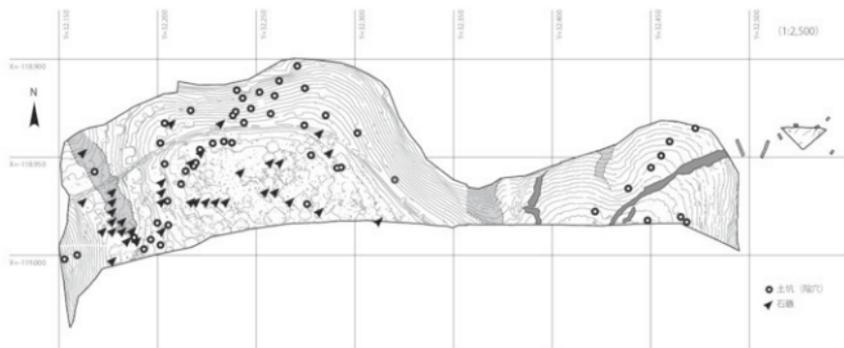
3052～3076は無茎鏃である。3052・3057・3060・3061・3063～3066・3068～3071・3073～3076は凹基、3058・3059・3062・3967・3072は平基である。

無茎鏃

3073は鏃身側面が細かい鋸歯状を呈する。3077～3084は有茎鏃である。鏃身部分が五角形を呈するものが多く、3081は肩の張る、いわゆる飛行機鏃と言われるものである。

有茎鏃

飛行機鏃



第12図 石鏃と縄文時代の土坑（陥穴）の分布

摘部	石錐 (3085~3089) 5点出土し、すべて図化した。3086・3088・3089は一端が幅広となり摘部を有するもので、3087は摘み部を有しない、全体が棒状を呈するものである。石材は熔結凝灰岩、黒曜石、安山岩である。
石材	尖頭器 (3090~3093) 4点出土し、すべて図化した。3090は長さ6cmとやや大型であるが、3091は長さ3.5cmと石鏃と同様の法量を示す。いずれも表裏同様に剥離調整が行われている。石材は安山岩、凝灰岩、熔結凝灰岩である。
縦形	石匙 (3094~3106) 13点出土し、すべて図化した。13点の中で縦形は2点 (3094・3095)、その他はすべて横形である。3094は素材剥片の様子が不明なほど、両面に剥離調整が加えられている。3095は縦長剥片の端部側に摘部をつけるものである。3097・3101・3104は横形ではあるが、素材剥片の長軸側に摘部をつけるものである。3105は両面に入念な剥離調整が施されており、平面形状はやや潰れてはいるが台形様を呈している。縄文時代前期に属するかもしれないが、本調査では当該時期の土器は認められない。
横形	スクレイパー・使用痕のある剥片 (3107~3149) 使用と考えられる不連続な剥離が認められるものである。58点確認し、43点を図化した。このうち、3107~3116・3126~3137・3139~3143・3145~3148は、刃部側に二次加工と考えられる整った剥離が認められることからスクレイパーとし、それ以外を使用痕のある剥片とした。剥片素材としては、貝殻状を含めた横長が多いなか、3125・3127・3132などのように熔結凝灰岩および凝灰岩を中心に縦長様の素材が利用されているものもある。石材は熔結凝灰岩28点、凝灰岩21点、黒曜石3点、安山岩3点、下呂石1点・チャート1点、凝灰質砂岩1点である。
剥片素材	
石材	
階段状剥離	楔形石器・両極打撃のある石器 (3150~3152・3300~3302) 対向する両辺に階段状剥離が認められるものである。10点出土し、6点を図化した。10点中の石材は、安山岩5点 (3150・3151)、チャート2点 (3152)、凝灰岩3点 (3300~3302) である。
石材	
大型剥片	刃器 (3153~3160) 大型の剥片などの一辺を刃として使用したものである。10点出土し、9点を図化した。3153は長辺側に使用による不連続な剥離が認められ、刃部側が湾曲を呈する。3154は両面に剥離調整が施されており、スクレイパーの部類かもしれない。3155・3156は貝殻状剥片の側面が使用されている。3157・3159・3160は横長剥片の縁辺に不連続な剥離が認められる。石材は安山岩5点 (3158~3160)、熔結凝灰岩 (3155~3157)、泥質凝灰岩 (3154)、紅塵石片岩 (3153) である。
貝殻状剥片	
横長剥片	
石材	
石鏃の製作	二次加工のある剥片 (3161~3179) 25点確認し、19点を図化した。主体となるのは石鏃の製作に対応するものと考えられる。3173は器面中央に瘤状残存部が認められるものである。石材は熔結凝灰岩11点 (3161~3168)、凝灰岩4点 (3169~3171)、安山岩5点 (3172~3176)、チャート2点 (3177・3178)、黒曜石2点 (3179)、変塩基性岩1点である。
石材	
両頭様	異形石器 (3180) 3180は、中央部の両側面からの挟り入れが著しく、両頭様を呈するものである。安山岩製。
点数	剥片石核類 (3181~3299) 上記報告以外で、剥片は1393点、石核は207点を確認した。一部、後期旧石器に属するものも含まれている可能性がある。剥片の中には、打面転位を行った結果、縦長様を呈するものもある (3181・3182・3231・3232・3271・

3281) が、横長・菱形、そして貝殻状を呈するものが多い。

主要な石材のみ取り上げると、熔結凝灰岩は578点・4351.7g (3181～3230)、凝灰岩は542点・5055.1g (3231～3256)、安山岩は258点・2038.0g (3257～3270)、チャートは39点・196.2g (3271～3280)、黒曜石は46点・99.1g (3281～3291)、下呂石は12点・30.2g (3292・3293)、瑪瑙は3点・10.6g (3294・3295)、オパールは3点・10.2g (3296～3298)、松脂石は2点・96.3g (3209・3299) で、その他石材のものは98点・589.4gである。

打製石斧 (3303～3349) 99点出土し、47点を図化した。平面形状は短冊形および楕形があると思われるが、楕形としたものでも基部側が若干すばまる程度のものにとどまり、短冊形としたものと形態的には連続している。長さは10cm程度のもので多く、3303の24cmを測るものは特異である。断面は扁平な板状など薄手のものが多く、3328・3341・3346などのように肉厚の形状を呈するものは少ない。刃部端には使用によるとと思われるツブレ様の打撃痕や、器面の磨減や線状痕などがよく認められる。石材は安山岩32点 (3340～3345)、緑色片岩32点 (3303～3321)、泥質凝灰岩9点 (3330～3336、3336は只持石か)、片麻岩9点 (3322～3325)、変塩基性岩5点 (3346～3349)、凝灰岩4点 (3337～3339)、砂質凝灰岩2点、結晶片岩2点 (3227・3228)、熔結凝灰岩2点、黒色片岩1点 (3329)、泥質片岩1点 (3326) である。

大型剥片石器・大型剥片・礫器あるいは大型剥片石核 (3350～3388) 大型の打製石器関係のものを集めた。この中で、大型剥片石器としたものは17点であり、一部は打製石斧の部分かもしれない。石材は安山岩7点 (3377)、凝灰岩4点 (3356～3359)、片麻岩1点、変塩基性岩1点 (3384)、熔結凝灰岩1点、泥質凝灰岩1点、珪質片岩1点、結晶片岩1点である。大型剥片としたのは457点である。貝殻状を含めた横長剥片が多い (3380・3382)。3379は長さ19cmを測るもので、大型の打製石斧に対応する素材剥片かもしれない。石材別に見ると、安山岩375点 (3373・3374・3379～3382)、泥質凝灰岩20点、変塩基性岩16点、緑色片岩12点、凝灰岩10点、塩基性岩8点 (3387)、黒色片岩は6点、熔結凝灰岩4点、塩基性凝灰岩2点、砂質凝灰岩1点、片麻岩1点、変玄武岩1点、花こう岩1点である。

礫器あるいは大型剥片の石核は37点確認した。石材別に見ると、安山岩15点 (3371・3372・3375・3376・3378)、凝灰岩10点 (3355・3360～3368)、泥質凝灰岩は3点 (3352～3354)、泥質凝灰岩でも只持石と考えられるもの2点 (3350・3351)、変塩基性岩2点 (3383・3385)、砂質凝灰岩2点 (3369)、凝灰質砂岩1点 (3370)、珪質岩1点 (3386)、長石1点 (3388) である。

磨製石斧と関連遺物 (3389～3410・3499) 磨製石斧は製品と加工途上と考えられるものが出土している。製品は29点出土し、15点図化した。3389・3390・3499は側面に面取りが認められる定角式で出土した3点をすべて図化した。それ以外は、面取りのないもの (非定角式と仮称する) で15点を確認した。非定角式の多くは、断面形状が円あるいは楕円形状を呈し、かつ平面形状が細長いものであることから、いわゆる乳棒状であろう。少数ではあるが、3401など断面形状が扁平なものもある。3402は刃部が幅狭く、ノミ状を呈するものである。定角式の石材は塩基性岩2点 (3389・3499)、凝灰岩

石材

短冊形と楕形

石材

大型の打製石器

石材

大型剥片

石材

礫器・

大型剥片石核

石材

製品

定角式

非定角式

乳棒状

ノミ状

石材

1点(3390)である。非定角式の石材は変塩基性岩10点(3392~3396・3398~3400・3402)、塩基性岩2点(3391・3397)、塩基性凝灰岩1点、泥質凝灰岩1点、片麻岩1点(3401)である。断面形状不明のものは、変塩基性岩9点、塩基性岩1点である。

製作途上

3403~3410は、磨製石斧の製作途上と考えられるものである。3403・3410は敲打調整の後で全面研磨が施されているものである。3403は刃部を中心として研磨が掛けられている状態であるが、これで完成品の可能性もある。3404~3409は敲打調整を施している段階のもので、調整が剥離様である段階(3404・3409・3407)と、緻密な敲打が進みツブレ状になる段階(3405・3406・3408)とが認められる。これらの石材はすべて変塩基性岩である。

石材

磨石敲石類(3411~3423) 後述するように、今回の調査では、古墳時代に属する磨石敲石類および石皿台石類が多量に出土している。資料群の中から、大きな凹みや敲打痕が認められるなど、縄文時代に属すると考えられるものを13点のみ抽出できた。円礫の中央・側面に敲打痕、平面に磨痕が認められるものが多い。3422・3423は礫端部に敲打痕が認められるものである。石材は3411が軽石、3412が塩基性岩、3413・3416・3417・3423が花こう岩、3414・3419・3221が片麻岩、3415が砂質凝灰岩、3418が安山岩、3420・3422が変塩基性岩である。

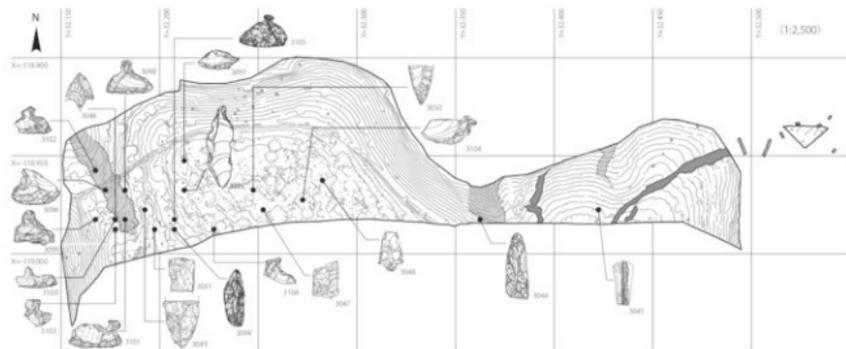
縄文時代

石材

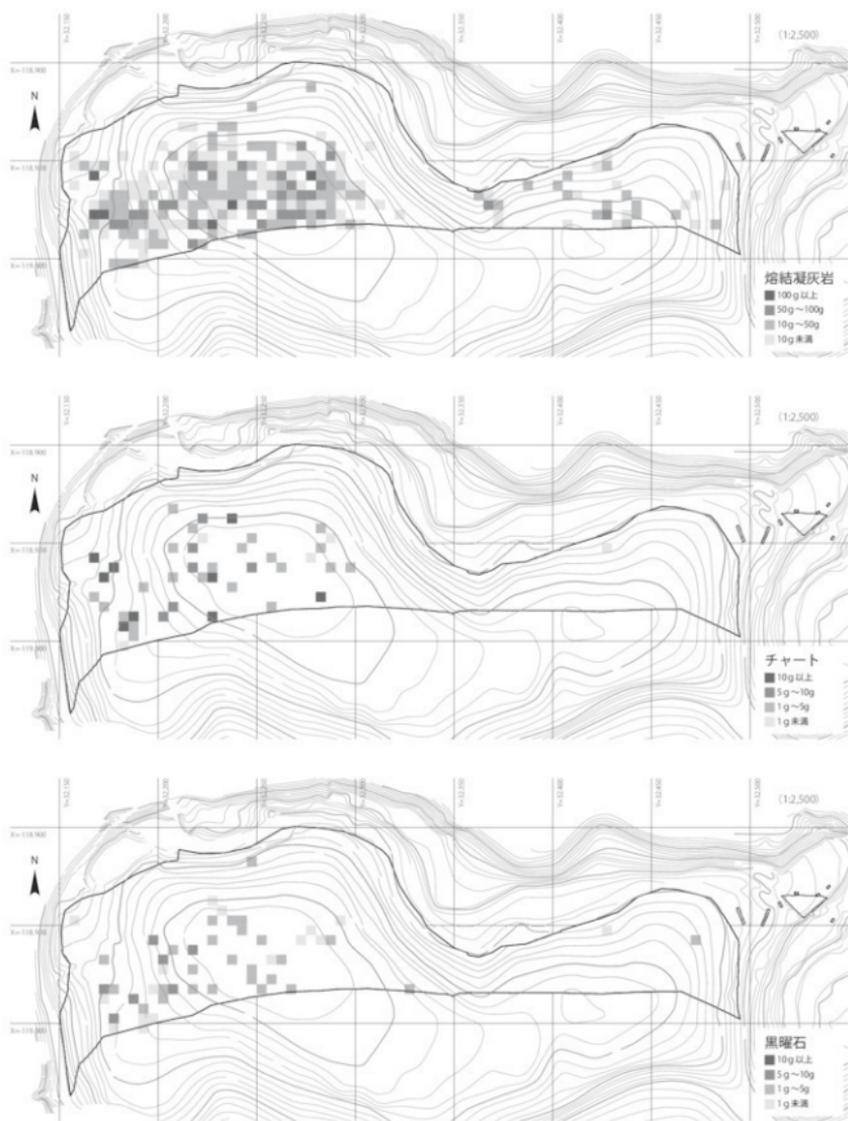
石棒・石刀 石棒石刀類(3424~3428) 3424は石棒の頭部あるいは石刀の柄部分であろうか。断面形状は扁平である。3425は断面形状が菱形を呈するもので、石剣になるかもしれない。3426・3427は細長い棒状礫を利用したものであろうか。石材は3424・3425が緑色片岩、3426が黒色片岩、3427が変塩基性岩、3428が片麻岩である。

块状耳飾り(3430・3431) 2点とも半分欠失しているが、径4~5cm程度の法量になると推測される。中央の穿孔が径2cmほどと大きく開けられ、幅1cm強の環状を呈するものになっている。石材は両者とも滑石製である。

不明石製品(3429) 長さ10cmほどの棒状を呈するもので、中央にくびれを有する。全面研磨が施されており、器面は平滑である。一端部には、敲打痕が認められるか。変塩基性岩製である。



第13図 縄文時代草創期の石器・石匙の分布



第14図 石材重量分布 (熔結凝灰岩・チャート・黒曜石)

第3節 弥生時代後期から古墳時代前期の遺構と遺物

(1) 概要

検出遺構

概要

遺跡の主体である弥生時代後期から古墳時代前期の主要な遺構として、竪穴建物334棟（実棟数295棟）と掘立柱建物8棟、柱穴列（掘立柱墓）とその他多数の小土坑を検出した。なお、環濠や集落内を区画する溝、方形周溝墓等の埋葬遺構は検出されていない。これらの遺構は西部丘陵（狐塚地区）の西向き斜面から丘陵頂部の平坦面にかけて稠密な分布を示し、丘陵の北寄りの斜面に散在して分布する。その他、東部丘陵（長頭貝津地区）、南部丘陵（儀徳地区、新城市教育委員会調査）にも散在して遺構が分布する。

分布

建物の分布による群別

分布と群別

竪穴建物を中心とする建物群の全体的な配置について、分布の様態から西斜面下段のA群、北西斜面のB群、西斜面上段のC群、平坦面西級斜面のD群、平坦面北級斜面のE群、平坦面中央のF群、平坦面北東斜面のG群、平坦面南東斜面のH群、東斜面上段のI群、北東斜面下段のJ群（以上、西部丘陵の狐塚地区）、東部丘陵（長頭貝津地区）のK群、南部丘陵（儀徳地区、新城市教育委員会調査）のL群の計12群に大別する。

分布の細別

さらにA群を5群、B群を4群、C群を5群、D群を7群、E群を3群、F群を4群、G群を3群、H群を3群、I群を3群、J群を4群、K群を2群に細別し、L群を加えて計44群として扱うこととする（第15図）。

竪穴建物の検出棟数

総棟数

各群における検出された竪穴建物の棟数を第3表に示す。「総棟数」とした334棟は拡張や建て替え、地床葺や掘方、周溝のみを検出したもの、B群に散見される竪穴状の掘り込みの可能性のあるもの（竪穴建物の埋没過程における再掘削）を含めた総数で、これらを除外した棟数を「実棟数」として同表に示した。

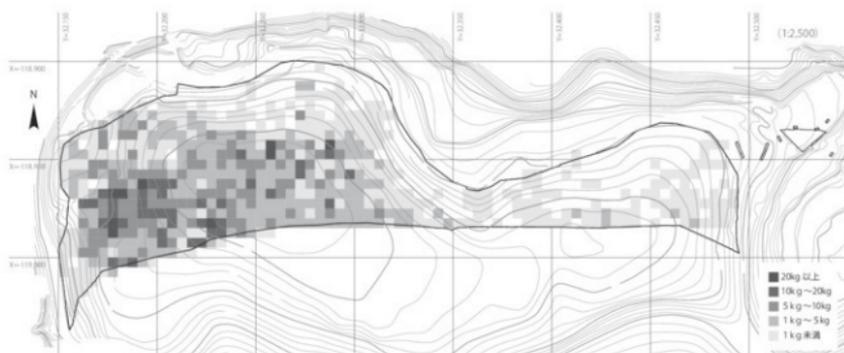
実棟数

第3表 検出竪穴建物棟数一覧

		総棟数	実棟数	建付元 [※] のみ	不確定	
A群	Aa群	10	10			
	Ab群	12	10	1	1	
	Ac群	7	6	1		
	Ad群	12	11	1		
	Ae群	14	12	2		
	B群	Ba群	4	2	1	1
		Bb群	6	4		2
		Bc群	10	7	1	2
		Bd群	3	2		1
	C群	Ca群	5	5		
		Cb群	13	12	1	
		Cc群	5	5	3	
Cd群		9	6	2	1	
Ce群		5	4	1		
D群	Da群	12	11		1	
	Db群	19	18		1	
	Dc群	10	10			
	Dd群	6	5	1		
E群	De群	9	8		1	
	De群	11	9	2		
	Dg群	4	4			
	Ea群	6	5	1		
F群	Eb群	4	4	27		
	Ec群	19	18	1		
	Ed群	9	8	1		
G群	Ef群	9	8		1	
	Fe群	12	9	1	2	
	Fd群	7	6		1	
	Fa群	9	9			
H群	Gb群	6	6	20		
	Gc群	6	5	1		
	Ha群	17	16	1		
I群	Hb群	9	9	33		
	Hc群	10	8	1	1	
	Ia群	4	3		1	
J群	Ib群	3	3	10		
	Ic群	5	4		1	
	Ia群	3	3			
K群	Ib群	2	2	11		
	Ic群	4	4			
	Ij群	2	2			
L群	Ja群	1	1	2		
	Kb群	1	1			
合計	2	2	2			
合計		336	297	17	11	



第15図 竖穴建物の分布と群別



第16図 出土土器重量分布（弥生時代後期から古墳時代前期）

出土土器量・分布

弥生時代後期から古墳時代前期の土器は2020.856kgが出土した（全出土土器の総重量2031.4201kgの99.48%）。土器は北向き斜面を除いて、ほぼ丘陵全域に分布する（第16図）。また、丘陵頂部の平坦面（竖穴建物F群周辺）の出土量はやや少なく、丘陵緑辺から西向き斜面（竖穴建物A群・C群・E群）にかけて濃密に分布する傾向がある。最も出土量が多いのはEc群3742SIが重複するグリッドで53.529Kgの土器が出土した。次いで、Ac群1456SI、Ad群1411SI・1464SI、Ca群1276SI・1474SI、Dc群3005SI、Gc群5770SIが重複するグリッドの出土量が多い。

出土土器量
分布

（２）竪穴建物の調査の方法

以下、竪穴建物にかかる膨大な資料の前提となる調査の方法を明記する。

遺構検出と掘り下げ

遺構検出

遺構検出時には複数棟の竪穴建物が重複して検出されることが多く、平面的に遺構の先後関係を確定することは困難な場合が多かった。手順としては、平面による遺構検出後、覆土を除去する以前にサブトレンチを掘削して、先後関係を把握する方法も考えられたが、竪穴建物の残存状況は概して良好で、遺構掘削の深度が深くなる場合も多く、掘削幅を限定したサブトレンチによる土層断面の観察で先後関係を確定することは実際には困難であった。また、10 数棟前後の竪穴建物を同時に調査する状況で、サブトレンチによる土層断面の観察、先後関係の確定後に覆土の除去を開始する手順は、調査工程上現実的ではないと判断した。

掘り下げ

そこで、複数棟が重複する竪穴建物の調査に際しては、重複した複数棟の竪穴建物の先後関係を厳密には確定せず、土層の観察によって先後関係の確定、検証、記録が可能となるように土層観察用畦を設定し、重複する複数棟の竪穴建物の覆土を同時に掘り下げることにした。ただ、土層観察用畦の設定に際しては、土層断面による竪穴建物の先後関係の確定を優先させると、畦が竪穴建物の主軸方向に直交・平行しない場合や、中心付近から位置が著しく偏ってしまう場合も多く、さらに、複数棟の竪穴建物を一連とした長大な畦の設定は伐採後の根株によって妨げられることもしばしばで、土層断面の記録として全ての要件を満たすことは難しかった。

土層観察用畦

遺物の取り上げ

三次元情報の記録

重複する複数棟の竪穴建物を同時に掘り下げる過程において出土する遺物については、出土時にはそれが帰属する遺構を確定することができないので、個体識別が可能で、遺構の時期や性格の推定に関係すると考えられる遺物については、出土位置の三次元情報を記録し、平面・土層断面図上に位置を示すようにした。一方、竪穴建物の輪郭や先後関係が確定する以前に取り上げた微小な土器片などの遺物については、帰属が曖昧ながら竪穴建物の遺構番号を付し、「上層」として扱った。つまり、重複する竪穴建物の「上層」出土遺物（特に三次元情報がない遺物）は、帰属に厳密性を欠くことを示す。なお、遺物図版においては、取り上げ時の情報として、「上層」と明記した（以下の遺物の取り上げ時の情報も同様）。なお、竪穴建物の出土遺物の取り上げに際しては、通常の 5m 四方のグリッドを（細分せずに）そのまま適用した。

「上層」出土遺物

土層断面の精査と記録

土層断面の精査

竪穴建物の覆土の掘り下げが一定の深度（実際には床面付近）に達した段階には、土層観察用畦に沿ってサブトレンチを基盤層（加工面）以下まで掘削し、一定程度に掘り下げが進行した段階の竪穴建物の調査状況も考慮して、土層断面における覆土の堆積状況の観察、先後関係の確定、貼床以下、掘方までの精査と記録作業を行った。この前後、つまり、重複する竪穴建物の先後関係がほぼ確定した段階から床面上の精査までに取り上げた遺物については、「下層」として扱った。つまり、「下層」出土遺物の帰属に対する信頼度は「上層」出土遺物に対して相対的に高いことを示す。

「下層」出土遺物

床面の精査

床面の精査ではほぼ確実に地床材が検出された。地床材の焼土面の多くは明確に被熱によって硬化し、その認識は容易であった。その一方で、竪穴建物の帰属、平面上の位置関係の解釈に困難を来すことも少なくなかった。

床面を精査する過程において床面直上で出土した遺物については、「床直」¹⁾として扱った。床面付近においては、炭化材が検出されることも多く、出土状況が良好な竪穴建物については、放射性炭素年代測定用の試料を可能な限り採取し、分析を依頼した。

床面は掘方の掘削、整地後に貼床が施される場合も多く、床面上は一様に痕状を呈していた。このため、貼床や整地面の上面において、柱穴や貯蔵穴等の竪穴建物に付属する遺構を見落とすことなく調査することは難しかった。そこで、床面とそれに伴う地床材を一通り検出した段階で、機能面までの調査を一旦完了し、「床面検出状況」の記録作業を行った。竪穴建物が重複する場合、先後関係で後出する竪穴建物の「床面検出状況」の記録作業までを完了し、先行する竪穴建物の調査に移行した。さらに竪穴建物が重複する場合、同様の作業工程を繰り返した。なお、平面図（遺構全体図、個別遺構図）上においては、最も先行する竪穴建物の調査が完了した時点の状況を掲載し（平面図上においては竪穴建物の先後関係を明示していない）、その過程ですでに調査を完了した個別の竪穴建物についての平面図上の記録は抽出して別に掲載した。

付属施設と掘方の調査

「床面検出状況」の記録作業後は、地床材の断ち割り²⁾と断面の記録作業、貼床の除去と掘方（基盤層）までの掘り下げ、柱穴、貯蔵穴等の付属遺構の掘削と精査を随時行い、加工面までの調査を完了した時点で、「完掘状況」の記録作業を行った。なお、貼床の除去、掘方の掘り下し時に出土した遺物については、「掘方」³⁾として扱った。ただし、調査工程上、掘方の調査の作業工程を省略した部分がある。

結果的に多くを基盤層（加工面）上において検出した柱穴、貯蔵穴等を含む遺構は、竪穴建物の覆土上面または覆土中（竪穴建物の埋没過程）、竪穴建物の床面（竪穴建物の構築時）、竪穴建物の床面下位の基盤層上（竪穴建物の構築以前）の遺構が混在するが、それらが掘り込まれた面や帰属する竪穴建物の確定に厳密を期せないことから、（帰属の確定、未確定にかかわらず）検出した全遺構を重複する各竪穴建物の床面（機能面）上に反映させた。そのため、遺構図として掲載した平面、断面図には床面、主柱穴等の付属遺構との関係に整合を欠く部分がある（特に床面と主柱穴の上端の高さは調査方法の関係上、対応しない）。

発掘調査後の検証作業

遺物の整理作業の進行状況に応じて、出土位置の三次元情報を取得した遺物については、土層断面図上に投影した出土位置から、帰属遺構・層位を確認し、必要に応じて出土時の情報を修正した。発掘調査時に決定した遺構の先後関係についても、出土遺物の様相も考慮しながら改めて検討して一部を修正したが、修正が困難で、全体の整合性を欠く遺構も残されている。採取した試料の年代測定結果との整合、不整合についても十分な検討ができていない。調査上の不備は依然として残されているが、本報告は現段階の成果として提示するもので、今後の再検討によって改められる余地もあることを付記する。

地床材

「床直」出土遺物

貼床

「床面検出状況」

竪穴建物の重複

掘方の調査

「掘方」出土遺物

柱穴・貯蔵穴

出土位置の確認

先後関係の検証

（3）竪穴建物の諸属性・時期区分

記述方法・方針

報告の方針 後段以下の竪穴建物群の報告においては、検出状況と先後関係、遺物出土状況にかかる遺構の所見と特記事項、遺構の性格や帰属時期の推定にかかる特徴的な遺物についてのみ記述することとする。竪穴建物についての各属性と推定される帰属時期については、一覧表に記載した（第4～8表）。記載した属性は、「方位」、「規模」、「平面形」、「主柱穴」、「周壁溝」、「か¹」、「貯蔵穴」である。

方位

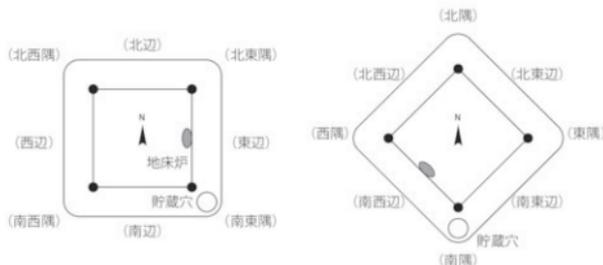
「主軸」方向 竪穴建物の「主軸」（に平行、または直交する方向）が真北に対して東西に振れる角度（東西に45°まで）を計測した。遺構図版（遺構図版34～181）に掲載する竪穴建物の個別遺構図はこの方位を考慮して配置し、重複する竪穴建物を同時に配置する場合はいずれかの竪穴建物の方位を優先して配置した。竪穴建物の一部分を呼称する場合、方位が真北に近い場合（東西の方位の振れが22.5°未満）は、各辺を北辺、東辺、南辺、西辺、（特に後述の貯蔵穴の配置が関係する）各隅を北東隅（「NE」）、南東隅（「SE」）、南西隅（「SW」）、北西隅（「NW」）、方位が真北から東西に振れる場合（東西の方位の振れが22.5°以上、45°未満）は、各辺を北東辺、南東辺、南西辺、北西辺、各隅を北隅（「N」）、東隅（「E」）、南隅（「S」）、西隅（「W」）とする（第17図）。

規模

長軸と短軸の計測 竪穴建物の長軸方向と短軸方向の距離を計測した。計測は遺構の上端の輪郭を基準とした。計測値は遺構の遺存状況に左右され、厳密性を欠くが、竪穴建物の著しい重複や根の攪乱等、他の多くの不確定な要素も考慮して厳密を期すことは難しいと判断し、あくまでも概算的な計測値として提示することとした。なお、部分的に残存する竪穴建物で、主柱穴配置（後述）が判明する場合、主柱穴との位置関係から竪穴建物の平面形を反転復原して長軸と短軸を計測した。また、主柱穴配置（後述）が判明する竪穴建物については、柱間の長軸方向と短軸方向の距離を計測した。

面積

竪穴建物の面積は便宜的に長軸と短軸の計測値を乗じて算出した。長軸と短軸の計測値が得られない場合は、一方を便宜的に長軸として、その計測値を2乗して算出した。



第17図 竪穴建物の部分呼称

平面形

竪穴建物の平面形は長方形または正方形に限られる。台形または五角形に近い形状も認められるが、検出状況が良好でなく、平面形を確定できるものではない。

正方形と長方形の区別については、便宜的に竪穴建物の長軸に対する短軸の比（長短比）が0.9以上を正方形、0.9未満を長方形とした。短軸の計測値が得られない竪穴建物で、主柱穴配置が判明する場合は、柱間における長軸と短軸の比を適用した。

その他、竪穴建物の四辺が剛張り気味のものや直線のなものと直線的なものと直線的なもので分類が可能と思われるが、客観的な基準を準備することができなかったため、属性としては採用せず、必要に応じて言及することとした。

周壁溝

竪穴建物の各辺に沿って掘り窪められる周壁溝については、掘方や貼床の上面における精査時に、その有無（掘り下げ）についての意識的な区別ができていない。さらに竪穴建物が相互に重複する場合や西向き斜面の黒色土中に掘り込まれている場合、その判断はより難しい。これらの不確定な要素を内包するが、周壁溝について、全周（四辺の約8割）するもの（「全」と記載）、四辺の約半分にあるもの（「半」と記載）、部分的（約4割以下）にあるもの（「部」と記載）、全く検出されないもの（「無」と記載）の4類型に区分した。主柱穴

確認された主柱穴の配置は4本配置（「4」）または主柱穴を欠くもの（「0」）で、2本配置、6本配置等の主柱穴配置は認められない。また、調査区の制約、遺構の重複や流出による欠失、発掘調査時における遺構の見落とし等によって主柱穴配置が完全に判明しない竪穴建物でも4本配置が推測される場合、確認した主柱穴の基数を示した（「(1) 4」、「(2) 4」、「(3) 4」と記載）。主柱穴配置を確認した竪穴建物については、断面図を作成した。主柱穴としては浅いように思われる柱穴もあるが、前段に記述したような調査上、記録上の不備もあることから、主柱穴の認定にかかる明確な基準は設定しなかった。

床面

床面は貼床を施すもの（「○」と記載）、掘り下げた面を直接床とするものがある。前者には硬化した面が認識されることも多く、(08区・09区のみ)その範囲を平面図上に示した。炉

確認した炉はいずれも床面が直接に火を受けた地床炉である（「○」と記載）。地床炉には一石（または二石）の礎を置いた、あるいは埋めた炉（いわゆる「埋石炉」、「置石炉」）も散見される（「◎」と記載）。竪穴建物の床面上に複数の地床炉が認められる場合もあるが、複数の焼土面が少し離れる程度、焼土が散在する程度の事例もあって、地床炉の基数を明確に示すことは難しい。また、地床炉の上面は著しく硬化した部分が確認されることも多く、(10区のみ)その範囲を平面・断面図上に示した。

貯蔵穴様の土坑（貯蔵穴）

竪穴建物の一隅には径0.5mから1m程度の円形または楕円形の土坑が検出されることが多い。土坑には残存状況が比較的良好な土器を伴うことも多い。土坑の用途を明確にすることは難しいが、便宜的に貯蔵穴様の土坑（以下、単に「貯蔵穴」として扱うこととする。貯蔵穴の位置は前述の竪穴建物の部分呼称（第17図）に従って示した。

長方形と正方形

長短比

調査の状況

全周・半周
部分的・無し

4本配置

硬化範囲

礎の使用

基数

硬化範囲

規模・平面形

遺物出土状況

貯蔵穴

掘方

形状 竪穴建物の掘方は可能な限り調査し、記録した。確認された掘方の造作、形状としては、床下の全面を掘り下げるもの（「全」と記載）、中央付近の床下を方形に掘り下げるもの（「方」と記載）、周壁に沿って床下を平面「ロ」字状（「ロ」と記載）、「コ」字状（「コ」と記載）、「L」字状（「L」と記載）に掘り下げるものに加えて、いずれか一边のみを掘り下げるもの（「辺」と記載）がある。また、一部分を掘削するもの（「有」と記載）に加えて、斜面側に置き土をしたもの（「斜」と記載）もある。

その他

周境帯 竪穴建物の一隅に盛り土または基盤層の掘り残しによる土手状の施設（周境帯）が確認されることがあるが、良好な検出事例は少ない。また、竪穴建物の床面付近や覆土中に未焼成の粘土塊（溜まり）が残されていることがある。建物の構築や土器の焼成に用いる目的で保管されていた可能性がある。

粘土塊（溜まり）

時期区分の設定と帰属時期の推定

時期区分 竪穴建物の重複が著しい部分では、確実に5棟が重複するので、少なくとも10回程度の立て替え、つまり、10段階程度の変遷が想定される。一方、出土土器として安定して組成し、型式区分が比較的容易な有段高杯は、有段高杯A（山中型）が3型式、有段高杯B（欠山型）が8型式、計11型式に細分される。これらにより、遺構変遷と土器編年（第4章（7）を参照）は、1期から10期（11期）の10期（11期）区分が妥当であると判断し、以下の遺構・遺物の記述、分析に適用した。

大別時期 時期区分が難しい遺構、遺物については、弥生時代後期（1期から3期）、弥生時代終末期（4・5期）、古墳時代前期初頭（6期から8期）、古墳時代前期前半（9・10期）の4時期の大別を用いた（以下、単に「後期」、「終末期」、「前期初頭」、「前期前半」とする）。三河地域周辺の既往の様式区分との対応については、後期が「寄道式」、終末期が「欠山式」、前期初頭が「元屋敷式（古）」、前期前半が「元屋敷式（新）」の古相部分に重複する。年代としては「後期」を1世紀から2世紀前半（2世紀前半以前）、「終末期」を2世紀後半、「前期初頭」を3世紀前半、前期前半を3世紀後半と想定する。

既往の様式
年代

帰属時期の推定 竪穴建物の帰属時期の推定に際しては、まず、有段高杯をA1からA3の3型式、B1からB8の8型式に型式分類し、A1からA3、B1からB8の型式組列を想定した。ただ、高杯の型式分類に厳密を期して、それを直接に遺構の時期区分に反映させると、同一の竪穴建物（の床面直上）で複数型式の高杯が共存する事例の扱い、遺構の先後関係、相互の位置関係との整合に困難を来すことになる。そこで、仮に高杯A1とA2の両型式を伴う（ことが想定される）遺構の時期を1期、以下、A2とA3を2期、A3とB1を3期、B1とB2を4期、B2とB3を5期、B3とB4を6期、B4とB5を7期、B5とB6を8期、B6とB7を9期、B7とB8を10期として認識した。いずれかの型式が出土する竪穴建物については、遺構の先後関係、遺構配置との整合を考慮し、（高杯との共存関係から検証した）他の形式の形式的な位置（土器の形式・型式分類と編年の詳細は第4章（7）を参照）を加味して、可能な限り帰属時期を確定することとした（以下、原則として「く字状口縁台付甕」を「甕」、「有段高杯」を「高杯」と呼称し、有段口縁甕、碗形高杯等、他の形式の甕、高杯に対してのみ形式名を使用する）。

第4表 竪穴建物一覧（弥生時代後期から古墳時代前期） 1

群	遺構番号	時期		方位	規模			柱間			平面積	埋蔵品	土柱穴	基床	形	貯蔵穴の配列	掘方	その他
		大塚時期	瀬田時期		長軸 (m)	短軸 (m)	長短比	長軸 (m)	短軸 (m)	長短比								
1	Aa 2093S1	後期	1期	N-42°W	-	-	-	-	-	-	-	(全)	1(4)	○	-	S	-	-
2	Aa 2022S1	(前平)	(9・10期)	N-27.5°W	-	-	-	-	-	-	-	(全)	0	○	-	-	有	-
3	Aa 2034S1	(初頭)		N-27°W	-	-	-	-	-	-	-	(掘)	1(4)	○	○	S	-	-
4	Aa 2023S1	(竪木)	(4・5期)	N-21°W	-	-	-	-	-	-	-	(掘)	0	○	-	-	-	-
5	Aa 2006S1	前平		N-27°W	5.05	4.25	0.84	21.5	-	-	-	長方形	0	○	○	S	-	-
6	Aa 2021S1	前平	10・11期	N-27°W	2.90	-	-	8.4	-	-	-	(掘)	0	○	-	S	-	-
7	Aa 2005S1	(初頭)		N-27°W	3.20	-	-	10.2	-	-	-	平	0	-	-	-	-	-
8	Aa 1957S1	竪木	4期	N-16.5°E	4.15	4.05	0.98	16.8	2.25	2.15	0.96	方形	平	3(4)	○	(凹)	SE	方
9	Aa 1958S1	前平	9期	N-8°W	5.15	-	-	26.5	2.80	-	-	全	2(4)	○	-	-	-	-
10	Aa 1959S1	(初頭)	(6・7期)	N-0°	-	-	-	-	-	-	-	(全)	0	-	-	-	-	コ
11	Ab 1991S1	竪木	4期	N-21°W	4.40	4.15	0.94	18.3	-	-	-	方形	無	0	○	○	SE	方
12	Ab 1993S1	(後期)	(1・2期)	N-37.5°W	4.90	4.85	0.99	23.8	-	-	-	方形	無	0	○	-	-	辺
13	Ab 1994S1	(初頭)		N-37.5°W	3.45	3.25	0.94	11.2	-	-	-	方形	無	0	○	N	-	-
14	Ab 1995S1	(後期)	(1・2期)	N-41°W	4.00	-	-	16.0	-	-	-	(掘)	0	-	-	-	-	-
15	Ab 1992S1	(前平)	(9・10期)	N-41°W	4.10	4.05	0.99	16.6	-	-	-	方形	全	0	-	-	-	-
16	Ab 2077S1	後期	2期	N-32°W	6.30	5.40	0.86	34.0	3.25	3.05	0.94	長方形	無	4	○	○	S	-
17	Ab 2033S1	前平	10期	N-24°W	5.30	-	-	28.1	-	-	-	無	0	○	○	-	-	-
18	Ab 1967S1	後期	3期	N-32°W	7.05	6.15	0.87	43.4	3.80	3.65	0.96	長方形	無	3(4)	○	○	-	-
19	Ab 1952S1	前平	9期	N-12°W	4.75	-	-	22.6	-	-	-	部	0	○	○	-	-	有
20	Ab 1953S1	後期	2期	N-12°W	2.85	-	-	8.1	-	-	-	無	0	-	-	-	-	-
21	Ab 1954S1	竪木	4期	N-12°W	4.20	-	-	17.6	-	-	-	無	0	○	-	-	-	辺
22	Ab 2129S1	初頭	6期	N-12°W	2.85	-	-	8.1	-	-	-	(部)	0	-	-	-	-	-
23	Ac 1454S1	初頭	8期	N-41°E	4.95	4.85	0.98	24.0	-	-	-	方形	全	0	○	E	-	-
24	Ac 1444S1	前平	9期	N-20°W	5.40	-	-	29.2	-	-	-	無	0	-	-	SW	-	-
25	Ac 1455S1	竪木	4期	N-41°W	7.55	6.70	0.89	50.6	4.50	4.05	0.90	長方形	全	4	○	○	E	有
26	Ac 1937S1	竪木	5期	N-5.5°W	3.00	-	-	9.0	-	-	-	(掘)	0	-	-	-	-	-
27	Ac 1456S1	初頭	8期	N-18.5°W	5.50	-	-	30.3	-	-	-	平	0	○	○	SE	-	斜
28	Ac 1490S1	初頭	6期	N-21.5°W	-	-	-	-	-	-	-	平	0	○	-	-	-	-
29	Ac 1489S1	不明	不明	-	-	-	-	-	-	-	-	(掘)	0	○	-	-	-	-
30	Ad 1295S1	前平	9期	N-32.5°W	3.10	3.10	1.00	9.6	-	-	-	方形	部	0	○	×	-	-
31	Ad 1464S1	初頭	6期	N-33.5°W	8.10	6.90	0.85	55.9	4.55	3.95	0.87	長方形	平	3(4)	○	○	E	辺
32	Ad 1410S1	(初頭)	(7・8期)	N-34.5°W	5.35	5.05	0.94	27.0	3.00	2.90	0.97	方形	平	3(4)	○	-	S	有
33	Ad 1495S1	(竪木)	(4・5期)	N-38.5°W	2.10	1.60	0.76	3.4	-	-	-	長方形	平	0	-	E	-	-
34	Ad 1411S1	前平	10期	N-33.5°W	5.00	4.80	0.96	24.0	2.30	2.10	0.91	方形	平	4	○	-	-	-
35	Ad 1329S1	初頭	7期	N-29.5°W	5.55	4.05	0.73	22.5	1.85	1.85	1.00	方形	部	3(4)	○	○	S	-
36	Ad 1175S1	(前平)	(10・11期)	-	-	-	-	-	-	-	-	(掘)	0	○	○	-	-	粘土
37	Ad 1330S1	初頭	6期	N-41.5°W	-	-	-	-	-	-	-	無	0	○	○	-	-	陶磁器
38	Ad 1277S1	初頭	8期	N-30°W	6.25	5.95	0.95	37.2	2.80	-	-	方形	全	2(4)	○	-	S	L
39	Ad 1332S1	(竪木・初頭)	(5・6期)	N-26.5°E	-	-	-	-	-	-	-	(掘)	0	○	-	-	-	有
40	Ad 1402S1	(初頭・前平)		N-26.5°W	2.65	2.45	0.92	6.5	-	-	-	方形	平	0	○	S	-	陶磁器
41	Ad 1403S1	竪木	4期	N-15.5°W	4.20	3.95	0.94	16.6	-	-	-	方形	部	0	○	SW	-	全
42	Ae 1250S1	前平	9期	N-16.5°W	-	-	-	-	-	-	-	無	0	○	-	-	-	有
43	Ae 1270S1上	初頭	7期	N-18°W	3.15	2.95	0.94	9.3	-	-	-	方形	無	0	○	SE	-	-
44	Ae 1270S1下	初頭	6期	N-18°W	3.15	2.65	0.84	8.3	-	-	-	長方形	平	0	○	SE	-	-
45	Ae 1220S1	後期	3期	N-14°W	4.80	4.65	0.97	22.3	-	-	-	方形	無	0	○	SE	-	-
46	Ae 1357S1	(後期)	(1期)	N-33.5°W	-	-	-	-	-	-	-	(掘)	0	○	-	-	-	-
47	Ae 1206S1上	竪木	4期	N-4°W	4.55	-	-	20.7	-	-	-	無	0	○	○	-	-	-
48	Ae 1206S1下	後期	3期	N-4°W	4.55	-	-	20.7	-	-	-	無	0	○	○	-	-	-
49	Ae 1275S1	(後期)	(1期)	N-22.5°W	3.60	2.65	0.74	9.5	-	-	-	長方形	平	0	○	-	-	-
50	Ae 1246S1	竪木	5期	N-6°W	4.85	4.35	0.90	21.1	3.75	3.45	0.92	長方形	無	3(4)	○	-	-	-
51	Ae 1225S1	(初頭)	(6・7期)	N-31.5°W	3.40	-	-	11.6	-	-	-	無	0	○	-	-	-	有
52	Ae 1224S1	初頭	8期	N-18°W	4.05	4.00	0.99	16.2	2.20	2.00	0.91	方形	部	4	○	-	-	-
53	Ae 1181S1	後期	2期	N-3°W	6.20	5.00	0.81	31.0	-	-	-	長方形	無	0	○	○	-	辺
54	Ae 1167S1	(初頭・前平)	(8・9期)	N-17°W	-	-	-	-	-	-	-	全	0	○	○	-	-	有
55	Ae 1178S1	(初頭)	(6・7期)	N-37.5°W	5.20	-	-	27.0	3.05	-	-	部	2(4)	○	-	-	-	全
56	Ba 1896S1	前平	9期	N-45°W	4.55	-	-	20.7	-	-	-	無	0	○	○	S	-	-
57	Ba 1930S1	初頭	8期	N-45°W	3.75	-	-	14.1	-	-	-	無	0	○	○	E	コ	
58	Ba 1931S1	初頭	8期	N-6.5°E	5.75	5.05	0.88	29.0	-	-	-	長方形	無	0	×	-	-	-
59	Ba 1908S1	(竪木)	(4・5期)	N-39.5°E	4.45	4.00	0.90	17.8	2.65	-	-	長方形	無	2(4)	×	S	L	-
60	Bb 1891S1	不明	不明	N-7.5°W	3.75	-	-	14.1	-	-	-	無	0	○	-	-	-	-
61	Bb 1895S1	初頭	6期	N-45°W	4.20	4.00	0.95	16.8	2.35	2.20	0.94	方形	部	2(4)	○	○	S	-
62	Bb 1906S1	初頭	8期	N-45°W	3.35	3.30	0.99	11.1	-	-	-	方形	無	0	○	S	-	-
63	Bb 1907S1	(竪木)	(4・5期)	N-32.5°E	2.90	2.50	0.86	7.3	-	-	-	長方形	無	0	○	S	-	-
64	Bb 1922S1	前平	9期	N-9.5°E	3.30	3.05	0.92	10.1	-	-	-	方形	平	0	-	-	-	-
65	Bb 1917S1	初頭	7期	N-6.5°W	4.80	4.65	0.97	22.3	-	-	-	方形	平	0	-	-	-	コ
66	Bc 3218S1	初頭	6期	N-7°W	4.90	3.70	0.76	18.1	2.50	2.25	0.90	長方形	平	3(4)	○	(+)	SW	-
67	Bc 3220S1	竪木	4期	N-0°	2.55	2.40	0.94	6.1	-	-	-	方形	無	0	○	-	-	-
68	Bc 1899S1	(初頭)	(7・8期)	N-19°W	2.95	2.20	0.75	6.5	-	-	-	長方形	無	0	-	-	-	-

第5表 竪穴建物一覽(弥生時代後期から古墳時代前期) 2

群	遺跡番号	時期		方位	基礎			柱間		平面形	埋蔵物	主柱	柱穴	*	貯蔵物の穴	掘方	その他
		大塚時期	竪穴時期		長軸(m)	短軸(m)	長短比	面積(m ²)	長軸(m)								
69	Bc 3219SI	終末	5期	N29.5°E	-	-	-	-	-	-	無	0	-	-	-	-	-
70	Bc 1860SI	(前半)	(9・10期)	N40°W	3.90	3.20	0.82	12.5	2.15	-	長方形	無	2(4)	○	○	-	-
71	Bc 1861SI上	終末	5期	N32°W	5.25	4.70	0.90	24.7	3.05	2.85	0.93	長方形	平	4	○	○	S
72	Bc 1861SI下	終末	4期	N32°W	5.25	4.70	0.90	24.7	3.05	2.85	0.93	長方形	平	4	○	○	S
73	Bc 1862SI	初頭	8期	N31.5°W	3.45	3.20	0.93	11.0	-	-	-	方形	無	0	-	-	斜
74	Bc 1873SI	初頭	6期	N37.5°E	3.70	3.60	0.97	13.3	-	-	-	方形	無	0	-	-	斜
75	Bc 2128SI	不明	-	N35.5°E	-	-	-	-	-	-	-	(無)	0	-	-	-	-
76	Bd 1852SI	初頭	8期	N26.5°E	3.65	-	-	13.3	-	-	-	無	0	-	-	-	全
77	Bd 3809SI	初頭	6期	N10.5°E	3.65	-	-	13.3	-	-	-	無	0	-	-	-	SE
78	Bd 3810SI	終末	5期	N11.5°W	3.05	-	-	9.3	-	-	-	無	0	-	-	-	-
79	Ca 1938SI	後期	3期	N19°W	5.55	-	-	30.8	-	-	-	部	0	○	NE・SE・SW	-	-
80	Ca 1929SI	終末	5期	N17°W	3.45	3.25	0.94	11.2	-	-	-	部	0	○	○	-	口
81	Ca 1474SI	終末	5期	N9.5°W	3.80	3.55	0.93	13.5	-	-	-	方形	無	0	-	-	SE
82	Ca 1276SI	初頭	7期	N5.5°W	7.50	-	-	56.3	-	-	-	部	0	-	-	-	全
83	Ca 1338SI	前半	9期	N13.5°W	3.05	-	-	9.3	-	-	-	無	0	-	-	-	SE
84	Cb 1349SI	(初頭)	(8期)	N17.5°W	3.75	-	-	14.1	-	-	-	部	0	○	SE	-	同層等
85	Cb 1378SI	(初頭)	(6期)	N17.5°W	4.70	-	-	22.1	2.75	-	-	無	2(4)	-	-	-	NE・SE
86	Cb 1253SI	終末	4期	N27.5°W	6.80	6.15	0.90	41.8	3.70	3.40	0.92	方形	全	4	○	-	W
87	Cb 1348SI	前半	10期	N12°W	4.05	-	-	16.4	-	-	-	無	0	-	-	-	(SW)
88	Cb 1231SI	後期	2期	N21.5°W	5.15	4.95	0.96	25.5	3.00	2.80	0.93	方形	無	3(4)	-	-	右
89	Cb 1229SI	前半	9期	N31°W	4.85	4.85	1.00	23.5	2.40	-	-	方形	部	2(4)	-	-	全
90	Cb 1222SI	終末	5期	N41°E	5.90	5.05	0.86	29.8	2.85	2.70	0.95	長方形	部	4	-	-	E
91	Cb 1271SI	初頭	7期	N31°W	4.70	4.60	0.98	21.6	2.85	2.45	0.86	方形	平	4	○	○	E
92	Cb 1254SI	(後半・終末)	(3・4期)	N20°W	-	-	-	-	-	-	-	平	0	-	-	-	全
93	Cb 1176SI	前半	10期	N33°W	5.50	-	-	30.3	-	-	-	部	0	-	-	-	-
94	Cb 1138SI	後期	1期	N19°E	-	-	-	-	3.40	-	-	平	0	-	-	-	-
95	Cb 1180SI	前半	9期	N34.5°W	5.85	5.30	0.91	31.0	3.40	3.25	0.96	方形	平	3(4)	○	E	粘土
96	Cb 1217SI	(後半~初頭)	-	N45°W	-	-	-	-	2.85	2.65	0.93	方形	無	3(4)	-	-	-
97	Cc 1918SI	前半	10期	N9°W	4.00	3.80	0.95	15.2	2.30	2.15	0.93	方形	無	4	○	○	SW
98	Cc 1894SI	初頭	8期	N3.5°W	5.00	-	-	25.0	-	-	-	部	0	-	-	-	右
99	Cc 1897SI	(初頭)	(6期)	N3.5°W	3.55	-	-	12.6	-	-	-	無	0	-	-	-	-
100	Cc 1197SI	前半	9期	N12.5°W	7.20	6.35	0.88	45.7	-	-	-	長方形	無	0	-	-	L
101	Cc 1218SI	(終末)	(5期)	N19°W	-	-	-	-	-	-	-	無	0	-	-	-	SE
102	Cd 1190SI	(終末・初頭)	-	N35.5°W	3.00	-	-	9.0	-	-	-	(無)	0	-	-	-	N
103	Cd 1157SI	前半	10・11期	N27°W	5.70	-	-	32.5	-	-	-	無	0	-	-	-	-
104	Cd 1252SI	(終末・初頭)	-	N27°W	3.70	3.30	0.89	12.2	-	-	-	長方形	無	0	-	-	-
105	Cd 1251SI	後期	3期	N34°W	-	-	-	-	-	-	-	無	0	-	-	-	-
106	Cd 1732SI	前半	9期	N29.5°W	3.70	3.50	0.95	13.0	-	-	-	方形	無	0	-	-	-
107	Cd 1331SI	前半	10期	N29.5°W	3.25	3.15	0.97	10.2	-	-	-	方形	無	0	-	-	-
108	Cd 1196SI	初頭	6期	N25.5°W	5.35	5.30	0.99	28.4	-	-	-	方形	平	0	-	-	口
109	Cd 1152SI	初頭	7期	N25.5°W	5.35	5.30	0.99	28.4	-	-	-	方形	無	0	-	-	口
110	Cd 1160SI	(後半・終末)	-	N19.5°W	-	-	-	-	-	-	-	無	0	-	-	-	-
111	Ce 3026SI上	(後半・終末)	-	N21°W	5.80	-	-	33.6	-	-	-	平	0	○	-	-	-
112	Ce 3026SI下	(後半・終末)	-	N21°W	-	-	-	-	-	-	-	平	0	○	-	-	-
113	Ce 3006SI	初頭	8期	N1°E	4.70	4.55	0.97	21.4	2.80	2.70	0.96	方形	無	3(4)	○	-	右
114	Ce 3007SI	(初頭)	(6期)	N21°W	-	-	-	-	-	-	-	全	0	○	-	-	-
115	Ce 3082SI	(前半)	(9・10期)	N5.5°E	-	-	-	-	-	-	-	(全)	0	-	-	-	-
116	Da 1872SI	(初頭)	-	N13°W	3.75	3.00	0.80	11.3	-	-	-	長方形	無	0	-	-	SW
117	Da 1140SI	終末	4期	N20.5°W	5.35	5.20	0.97	27.8	-	-	-	方形	平	0	○	-	右
118	Da 1139SI	後期	2期	N18°E	4.95	4.60	0.93	22.8	2.90	2.55	0.88	方形	全	3(4)	○	-	L
119	Da 3034SI	初頭	8期	N23.5°W	-	-	-	-	-	-	-	無	0	-	-	-	右
120	Da 3042SI	初頭	6期	N24.5°W	-	-	-	-	-	-	-	(無)	0	-	-	-	-
121	Da 3003SI	前半	10期	N10.5°W	5.75	5.50	0.96	31.6	3.10	2.95	0.95	方形	無	4	○	○	-
122	Da 1872SI	前半	9期	N22°W	4.90	4.75	0.97	23.3	-	-	-	方形	平	0	-	-	右
123	Da 4343SI	(初頭)	(6・7期)	-	-	-	-	-	-	-	-	(無)	0	-	-	-	-
124	Da 3028SI	(終末)	(4・5期)	N18.5°W	4.00	-	-	16.0	-	-	-	部	0	-	-	-	-
125	Da 3002SI	前半	9期	N30°W	4.35	4.20	0.97	18.3	2.40	2.15	0.90	方形	平	4	○	○	S
126	Da 3027SI	(初頭)	(6・7期)	N18.5°W	4.85	4.15	0.86	20.1	2.75	2.25	0.82	長方形	平	3(4)	○	○	SW
127	Da 3127SI	(後期)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	(無)	0	-	-	-	斜
128	Db 4414SI	後期	3期	N1.5°W	4.30	-	-	18.5	-	-	-	無	0	-	-	-	NE
129	Db 4469SI	終末	4期	N25.5°W	3.35	-	-	11.2	-	-	-	平	0	-	-	-	-
130	Db 1863SI	後期	2期	N24.5°W	4.40	4.40	1.00	19.4	-	-	-	方形	平	0	○	-	-
131	Db 4459SI	初頭	6期	N38.5°W	2.80	2.50	0.89	7.0	-	-	-	長方形	部	0	-	-	-
132	Db 4502SI	初頭	8期	N18.5°W	5.20	5.10	0.98	26.5	-	-	-	方形	部	0	-	-	-
133	Db 4796SI	(初頭)	(6・7期)	N45°W	2.25	2.00	0.89	4.5	-	-	-	長方形	無	0	-	-	E
134	Db 4401SI	(後期)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	無	0	-	-	-	-
135	Db 4413SI	(初頭)	(7期)	N36.5°W	3.05	2.75	0.90	8.4	-	-	-	方形	部	0	-	-	口
136	Db 4360SI	(終末)	(5期)	N21.5°W	4.30	4.15	0.97	17.8	-	-	-	方形	平	0	○	-	右

第6表 竪穴建物一覧(弥生時代後期から古墳時代前期) 3

群	遺構番号	時期		方位	規模			柱間			平面形	周壁溝	土柱穴	基壇	形	貯蔵穴の配列	扉方	その他			
		大塚時期	竪穴時期		長軸 (m)	短軸 (m)	長短 比	長軸 (m)	短軸 (m)	長短 比											
137	Db 4412SI	(後期)	(3期)	N-21.5°W	4.95	4.40	0.89	21.8	-	-	-	長方形	半	0	-	-	-	-			
138	Db 4357SI	(後期)	(1期)	N-12.5°W	-	-	-	-	-	-	-	(全)	0	○	-	-	-	有			
139	Db 4362SI	前半	10期	N-25.5°W	6.00	5.95	0.99	35.7	-	-	-	方形	半	0	○	W	-	有			
140	Db 4359SI	(後期・終末)		N-18.5°W	-	-	-	-	-	-	-	無	0	-	-	-	-	-			
141	Db 3055SI	初頭	7期	N-25.5°W	5.70	-	-	32.5	-	-	-	-	半	0	○	-	-	-			
142	Db 3128SI	前半	11期	N-18.5°W	-	-	-	-	-	-	-	(無)	0	○	○	-	-	-			
143	Db 3556SI	(初頭)		N-7°W	2.60	2.35	0.90	6.1	-	-	-	方形	半	0	○	NW・SW	-	有			
144	Db 3029SI	初頭	8期	N-30°W	5.30	5.25	0.99	27.8	-	-	-	方形	無	0	(D)	S	L	-			
145	Db 3004SI	終末	5期	N-20°W	4.95	4.80	0.97	23.8	2.80	2.55	0.91	方形	全	4	○	SE・SW	-	有			
146	Db 3025SI	前半	9期	N-20°W	6.40	6.10	0.95	39.0	3.90	3.75	0.96	方形	全	3(4)	○	○	-	-			
147	De 3006SI	(前半)	(9・10期)	N-43.5°W	4.05	3.40	0.84	13.8	-	-	-	長方形	無	0	○	○	-	-			
148	De 3007SI	終末	5期	N-23°W	-	-	-	-	-	-	-	(無)	0	○	-	-	-	方			
149	De 5167SI	(後期)	(1期)	N-22°E	-	-	-	-	-	-	-	部	0	-	-	-	-	-			
150	De 3006SI	後期	2期	N-11.5°W	4.05	-	-	16.4	2.90	-	-	部	2(4)	○	○	-	-	-			
151	De 3005SI	終末	4期	N-18.5°W	3.85	3.05	0.79	11.7	2.25	2.10	0.93	長方形	部	4	○	-	-	-			
152	De 3005SI	初頭	8期	N-23°W	4.35	4.10	0.94	17.8	2.50	2.10	0.84	方形	無	3(4)	○	-	-	口			
153	De 3002SI	(後期)	(1期)	N-30°W	4.30	3.90	0.91	16.8	2.55	1.80	0.71	方形	部	3(4)	-	-	-	-			
154	De 3076SI	初頭	7期	N-44.5°W	4.15	3.45	0.83	14.3	-	-	-	長方形	部	0	-	-	-	-			
155	De 3079SI	前半	9期	N-13.5°W	5.10	4.70	0.92	24.0	2.80	2.50	0.89	方形	全	3(4)	○	○	SW	-	有		
156	De 3075SI	終末	5期	N-0.5°E	4.00	3.05	0.76	12.2	2.40	1.65	0.69	長方形	全	4	○	-	-	-			
157	Dd 4340SI	(初頭)		N-16.5°W	3.95	3.25	0.82	12.8	-	-	-	長方形	無	0	x	-	-	-			
158	Dd 4341SI	(初頭)	(7期)	N-11.5°W	3.05	2.35	0.77	7.2	-	-	-	長方形	無	0	○	SW	-	有			
159	Dd 4337SI	終末	5期	N-14.5°W	6.10	6.10	1.00	37.2	3.50	3.50	1.00	方形	部	4	○	SE	-	辺			
160	Dd 4338SI	前半	9期	N-9°W	4.20	3.95	0.94	16.6	-	-	-	方形	無	0	○	-	-	-			
161	Dd 4342SI	前半	9期	N-14°W	4.80	4.70	0.98	22.6	2.50	2.20	0.88	方形	全	4	○	SE	-	口			
162	Dd 4336SI	初頭	7期	N-14°W	6.45	6.40	0.99	41.3	3.80	3.40	0.89	方形	半	4	○	SW	-	-			
163	De 3797SI	前半	9期	N-2°W	3.40	3.10	0.91	10.5	-	-	-	方形	無	0	○	○	SE	-	方		
164	De 3798SI	(終末)	(4・5期)	N-6.5°W	-	-	-	-	-	-	-	全	0	-	-	-	-	有			
165	De 4770SI	(終末・初頭)	(5・6期)	N-14°W	-	-	-	-	-	-	-	無	0	-	-	-	-	有			
166	De 3832SI	後期	3期	N-13.5°E	4.50	4.00	0.89	18.0	2.45	2.20	0.90	長方形	全	4	(x)	-	-	-			
167	De 3830SI	初頭	8期	N-2°E	5.50	5.00	0.91	27.5	-	-	-	方形	半	0	○	○	-	L			
168	De 3831SI	(後期・終末)		N-6°W	3.65	-	-	13.3	-	-	-	(無)	0	-	-	-	-	-			
169	De 3931SI	前半	10期	N-33.5°E	3.80	3.55	0.93	13.5	-	-	-	方形	全	0	○	○	-	-			
170	De 3932SI	初頭	6期	N-13°W	4.25	4.10	0.96	17.4	-	-	-	方形	全	0	○	○	SW	-	L		
171	De 4021SI	終末	4期	N-8.5°W	3.40	-	-	11.6	-	-	-	-	半	0	-	-	-	SW	-	有	
172	Df 3057SI	初頭	3期	N-8°E	9.05	7.80	0.86	70.6	5.15	4.15	0.81	長方形	全	4	○	-	-	-	-		
173	Df 3261SI	後期	2期	N-8°E	9.05	7.80	0.86	70.6	5.15	4.15	0.81	長方形	全	4	○	-	-	-	-		
174	Df 3308SI	後期	1期	N-8°E	6.20	5.10	0.82	31.6	3.45	2.75	0.80	長方形	全	4	(D)	-	-	-	-		
175	Df 3216SI	前半	9期	N-5.5°W	3.65	3.45	0.95	12.6	2.00	1.95	0.98	方形	無	4	(D)	-	-	-	同規模		
176	Df 3217SI	初頭	7期	N-9.5°W	2.65	-	-	7.0	-	-	-	-	半	0	○	-	-	-	-		
177	Df 3281SI	終末	5期	N-9.5°W	-	-	-	-	-	-	-	(無)	0	○	-	-	-	-	-		
178	Df 3282SI	初頭	6期	N-9.5°W	4.15	-	-	17.2	-	-	-	-	全	0	-	-	-	-	-		
179	Df 3215SI	初頭	8期	N-10°W	4.45	4.15	0.93	18.5	2.90	2.50	0.86	方形	半	4	○	○	SW	-	-		
180	Df 3185SI	(後期・終末)	(3・4期)	N-25.5°W	3.30	3.05	0.92	10.1	-	-	-	方形	半	0	○	-	-	-	-		
181	Df 3205SI	初頭	7期	N-40.5°W	4.50	4.35	0.97	19.6	2.35	2.10	0.89	方形	半	3(4)	○	○	E	-	-		
182	Df 3206SI	前半	10期	N-34.5°W	4.20	3.90	0.93	16.4	2.10	1.95	0.93	方形	半	3(4)	○	○	S	L	-		
183	Dg 3117SI	(初頭)	(6・7期)	N-31°E	4.10	-	-	16.8	-	-	-	-	半	0	○	-	-	-	-		
184	Dg 3121SI	前半	9期	N-45°E	6.40	5.70	0.89	36.5	2.90	2.60	0.90	長方形	半	3(4)	○	-	-	-	L	粘土	
185	Dg 3099SI	後期	3期	N-14.5°E	-	-	-	-	-	-	-	(全)	1(4)	○	-	-	-	-	有	粘土	
186	Dg 3088SI	不明		N-32.5°W	-	-	-	-	-	-	-	(無)	-	-	-	-	-	-	-	-	
187	Ea 3811SI	(後期)	(3期)	N-15°E	-	-	-	-	-	-	-	無	0	-	-	-	-	-	-	-	
188	Ea 3306SI	初頭	6期	N-11.5°W	5.80	5.10	0.88	29.6	2.70	2.55	0.94	長方形	無	4	○	○	SW	-	-		
189	Ea 3897SI	終末	5期	N-11.5°W	5.15	5.10	0.99	26.3	2.70	2.55	0.94	方形	全	4	○	○	SW	-	-		
190	Ea 3814SI	(後期)	(1・2期)	N-25°W	-	-	-	-	-	-	-	(無)	0	○	-	-	-	-	-	-	
191	Ea 3404SI	初頭	7期	N-12.5°W	5.00	4.65	0.93	23.3	2.80	2.65	0.95	方形	部	4	○	○	SW	-	L	-	
192	Ea 3669SI	初頭	8期	N-24.5°W	4.10	3.60	0.88	14.8	-	-	-	長方形	無	0	-	-	-	-	-	方	
193	Eb 3375SI	終末	5期	N-4°W	5.50	5.30	0.96	29.2	3.15	3.05	0.97	方形	半	3(4)	○	○	-	-	-	-	
194	Eb 3376SI	後期	3期	N-35°W	4.10	3.85	0.94	15.8	2.30	2.05	0.89	方形	全	4	○	○	S	口	-	-	
195	Eb 3711SI	(初頭)	(8期)	N-40°W	4.25	4.05	0.95	17.2	2.55	2.10	0.82	方形	全	4	○	-	-	-	-	-	
196	Eb 3710SI	(終末・初頭)	(4・6期)	N-5°W	4.30	4.25	0.99	18.3	2.70	2.65	0.98	方形	半	4	○	-	-	-	-	-	
197	Ec 3608SI	前半	10期	N-34°W	3.35	2.75	0.82	9.2	-	-	-	長方形	無	0	○	-	-	-	-	-	
198	Ec 3898SI	(後期)	(1・2期)	N-21.5°W	4.60	4.25	0.92	19.6	2.60	2.15	0.83	方形	無	4	(D)	SE	-	-	-	-	
199	Ec 3907SI	(終末・初頭)		N-29.5°W	3.15	2.75	0.87	8.7	1.65	-	-	長方形	無	2(4)	x	S	-	-	-	有	
200	Ec 3906SI	(前半)	(9・10期)	N-40.5°W	5.25	5.15	0.98	27.0	2.85	2.75	0.96	方形	半	4	○	E	口	-	-	-	
201	Ec 3946SI	(後期)	(2期)	N-30°W	4.35	3.85	0.89	16.7	2.75	2.20	0.80	長方形	部	4	-	-	-	-	-	-	-
202	Ec 3933SI	終末	5期	N-32.5°W	4.95	4.50	0.91	22.3	2.85	2.55	0.89	方形	全	4	○	-	-	-	-	-	S
203	Ec 3948SI	(初頭)	(7・8期)	N-33°W	3.70	-	-	12.7	-	-	-	-	無	0	○	-	-	-	-	-	有
204	Ec 3909SI	前半	10期	N-34°W	4.00	3.95	0.99	15.8	2.25	2.10	0.93	方形	全	4	○	○	S	-	-	-	-

第7表 竪穴建物一覽(弥生時代後期から古墳時代前期) 4

群	遺跡番号	時期		方位	基礎			柱間			平面形	隅張り	主柱六	柱本	#	石敷の配置	掘方	その他
		大塚時期	細野時期		長軸(m)	短軸(m)	長短比	面積(m ²)	長軸(m)	短軸(m)								
205	Ee 3949SI	(後期)		N-29.5°E	4.00	3.90	0.98	15.6	2.00	1.80	0.90	方形	無	4	○	-		
206	Ee 3947SI	(初期)		N-31.5°W	2.15	2.15	1.00	4.6	-	-	-	方形	無	0	×	-		
207	Ee 4173SI	(初期)	(6期)	N-42.5°W	5.55	4.95	0.89	27.5	3.25	3.15	0.97	方形	部	4	○	S		
208	Ee 4174SI	(終末)	(5期)	N-42.5°W	4.00	3.45	0.86	13.8	-	-	-	長方形	無	0	○	-		方
209	Ee 3760SI	(終末)		N-0.5°E	4.00	3.50	0.88	14.0	2.40	1.55	0.65	長方形	(無)	4	○	SW		
210	Ee 3743SI	(初期)	8期	N-33.5°W	5.60	5.55	0.99	31.1	2.75	2.55	0.93	方形	全	4	○	-		口
211	Ee 3884SI	(後期)	(1・2期)	N-37°E	-	-	-	-	-	-	-	(無)	0	○	-			
212	Ee 3741SI	(前平)	9期	N-39.5°E	5.00	-	-	25.0	-	-	-	(無)	0	○	E		有	
213	Ee 3742SI	(初期)	6期	N-20°W	6.15	5.85	0.95	36.0	3.40	3.20	0.94	方形	全	4	○	SE・SW		粘土
214	Ee 4121SI	(後期・終末)		N-42°E	-	-	-	-	-	-	-	(無)	0	○	-			
215	Ee 3651SI	(前平)	10期	N-39°E	4.10	3.15	0.77	12.9	-	-	-	長方形	全	0	(○)	-		
216	Fa 3211SI	(終末)	4期	N-5.5°W	4.70	4.60	0.98	21.6	2.95	2.80	0.95	方形	平	4	○	SE		有
217	Fa 4193SI	(初期)	7期	N-5.5°W	6.60	6.20	0.94	40.9	3.70	3.65	0.99	方形	平	4	○	-		
218	Fa 4311SI	(初期)	6期	N-5.5°W	6.60	6.20	0.94	40.9	3.70	3.65	0.99	方形	平	4	-	-		L
219	Fa 4309SI	(初期)	(1・2期)	N-45°E	5.90	5.60	0.95	33.0	3.05	2.85	0.93	方形	平	4	○	-		コ
220	Fa 3188SI	(初期)	8期	N-3.5°E	3.75	3.10	0.83	11.6	-	-	-	長方形	全	0	(○)	-		
221	Fa 3189SI	(後期)	1期	N-18.5°E	3.40	2.90	0.85	9.9	-	-	-	長方形	無	0	×	-		有
222	Fa 4310SI	(前平)	9期	N-17°E	5.25	4.90	0.93	25.7	3.00	2.80	0.93	方形	無	4	○	-		
223	Fa 3190SI	(前平)	10期	N-40°E	4.20	3.95	0.94	16.6	2.30	2.15	0.93	方形	全	4	○	-		
224	Fa 3150SI	(終末)	(4・5期)	N-37.5°E	7.55	7.25	0.96	54.7	4.45	4.15	0.93	方形	全	4	○	S		口
225	Fb 3149SI	(前平)	9期	N-42.5°E	9.10	8.85	0.97	80.5	5.00	4.90	0.98	方形	全	4	○	E		L
226	Fb 3257SI	(後期・終末)		N-35°W	5.80	-	-	33.6	-	-	-	(無)	0	○	-			
227	Fb 3327SI	(後期～初期)		N-42°E	-	-	-	-	-	-	-	(全)	0	○	-			
228	Fb 3781SI	(後期～初期)		N-42°E	-	-	-	-	-	-	-	(無)	144	○	-			
229	Fb 3303SI	(初期)	6期	N-20.5°W	5.00	4.80	0.96	24.0	2.45	2.40	0.98	方形	無	34(0)	○	-		
230	Fb 3148SI	(終末)	5期	N-4.5°E	4.00	-	-	16.0	-	-	-	(無)	0	○	-			
231	Fb 3221SI	(初期)	(7期)	-	-	-	-	-	-	-	-	(無)	0	○	-			
232	Fb 3097SI	(後期)	2期	N-15.5°E	3.70	2.50	0.68	9.3	-	-	-	長方形	全	0	(○)	-		
233	Fb 3316SI	(不明)	不明	N-37.5°E	-	-	-	-	-	-	-	(全)	0	○	-			
234	Fe 3223SI	(終末)	4期	N-17°W	5.05	4.65	0.92	23.5	2.85	2.40	0.84	方形	全	4	○	SE		L
235	Fe 3304SI	(初期)	6期	N-43°W	5.40	4.90	0.91	26.5	3.40	3.00	0.88	方形	全	4	○	E		口
236	Fe 3283SI	(初期)	8期	N-29.5°E	4.20	3.55	0.85	14.9	2.05	1.70	0.83	長方形	全	4	○	-		有
237	Fe 3824SI	(後期)	(1期)	N-35°W	5.65	4.85	0.86	27.4	3.15	2.65	0.84	長方形	無	4	○	-		
238	Fe 3306SI	(前平)	(10期)	N-14°W	4.25	4.20	0.99	17.9	1.50	1.35	0.90	方形	無	4	○	-		
239	Fe 3815SI	(前平)	(11期)	-	-	-	-	-	-	-	-	(無)	0	○	-			
240	Fe 3389SI	(前平)	9期	N-40.5°W	5.05	4.85	0.96	24.5	2.85	2.25	0.79	方形	平	34(0)	○	-		
241	Fe 3388SI	(初期)	7期	N-35°W	7.50	7.25	0.97	54.4	4.55	4.10	0.90	方形	全	4	○	-		
242	Fe 3623SI	(初期)	6期	N-35°W	6.85	6.45	0.94	44.2	4.20	3.75	0.89	方形	全	4	○	-		
243	Fe 3481SI	(終末)	(4・5期)	N-15°E	4.00	3.95	0.99	15.8	-	-	-	方形	無	0	○	-		
244	Fe 3422SI	(初期・前平)		-	-	-	-	-	-	-	-	(無)	0	○	-			
245	Fe 3147SI	(後期)	3期	N-23°E	5.70	5.35	0.94	30.5	2.90	2.90	1.00	方形	平	4	○	E		
246	Fd 3145SI	(初期)	8期	N-41.5°W	8.15	8.10	0.99	66.0	4.90	4.80	0.98	方形	全	4	○	S・N		口
247	Fd 3274SI	(終末)	(4・5期)	N-2.5°E	6.50	6.10	0.94	39.7	3.70	3.50	0.95	方形	全	4	-	SW		有
248	Fd 3146SI	(前平)	10期	N-21.5°W	4.80	4.55	0.95	21.8	2.20	2.10	0.95	方形	全	4	×	NE		有
249	Fd 3747SI	(後期)	3期	N-27.5°W	5.00	4.80	0.96	24.0	3.20	2.70	0.84	方形	平	4	-	-		
250	Fd 3273SI	(初期)	6期	N-44°W	5.30	-	-	28.1	-	-	-	(無)	0	(○)	-		E	
251	Fd 3275SI	(前平)	(9・10期)	-	-	-	-	-	-	-	-	(無)	0	○	-			
252	Fd 3321SI	(終末)	(4・5期)	N-11°W	4.50	4.15	0.92	18.7	-	-	-	方形	(平)	0	○	SW		岡堤帯
253	Ga 3606SI	(終末)	5期	N-32°E	3.00	2.55	0.85	7.7	-	-	-	長方形	平	0	○	-		全
254	Ga 3605SI	(前平)	10期	N-27.5°W	3.80	3.75	0.99	14.3	2.60	2.55	0.98	方形	平	34(0)	○	-		有
255	Ga 3620SI	(前平)	(9・10期)	N-11°E	4.35	-	-	18.9	-	-	-	(全)	0	○	-			
256	Ga 3607SI	(初期)	8期	N-43.5°E	4.35	4.15	0.95	18.1	2.45	2.45	1.00	方形	全	4	○	-		口
257	Ga 3608SI	(前平)	(9・10期)	N-8.5°E	3.55	3.10	0.87	11.0	-	-	-	長方形	無	0	(○)	SE		
258	Ga 3609SI	(初期)	6期	N-35.5°E	4.75	4.70	0.99	22.3	2.85	2.70	0.95	方形	部	4	○	S		有 岡堤帯
259	Ga 3728SI	(終末)	4期	N-24.5°W	3.95	3.70	0.94	14.6	1.95	1.80	0.92	方形	無	4	-	-		
260	Ga 3624SI	(終末・初期)		N-31.5°E	3.65	-	-	13.3	-	-	-	(平)	0	○	-			
261	Ga 3668SI	(終末・初期)		N-31.5°E	3.25	-	-	10.6	-	-	-	(無)	0	○	-			
262	Gb 3409SI	(終末)	5期	N-36°W	6.35	5.80	0.91	36.8	4.05	3.50	0.86	方形	部	4	○	S		全
263	Gb 3406SI	(後期)	3期	N-17°E	5.00	-	-	25.0	-	-	-	(全)	0	○	-			
264	Gb 3704SI	(初期)	(7期)	N-28°W	2.75	2.75	1.00	7.6	-	-	-	方形	無	0	○	-		
265	Gb 3405SI	(初期)	(8期)	N-13°W	2.75	2.70	0.98	7.4	-	-	-	方形	無	0	(○)	-		
266	Gb 3408SI	(初期)	(7期)	N-22°W	4.50	3.65	0.81	16.4	-	-	-	長方形	無	0	○	-		有
267	Gb 3407SI	(前平)	10期	N-26°W	7.25	7.15	0.99	51.8	4.25	3.85	0.91	方形	平	34(0)	○	-		
268	Gc 3621SI	(後期)	2期	N-28.5°W	5.30	-	-	28.1	-	-	-	(全)	0	○	○	S		岡堤帯
269	Gc 5785SI	(終末)	4期	N-38°W	5.30	5.20	0.98	27.6	-	-	-	方形	全	0	○	S		粘土
270	Gc 6054SI	(初期)	6期	N-44°E	-	-	-	-	-	-	-	平	0	(○)	-			
271	Gc 3622SI	(初期)	7期	N-44°E	3.40	-	-	11.6	-	-	-	部	0	○	-			
272	Gc 5784SI	(前平)	(9・10期)	N-40°E	4.10	4.05	0.99	16.6	-	-	-	方形	平	0	○	-		

第8表 竪穴建物一覧(弥生時代後期から古墳時代前期) 5

群	遺構番号	時期		方位	平面			柱間			開口部	主柱	扉体	射	貯蔵穴の配置	掘方	その他
		大別時期	細別時期		長軸 (m)	短軸 (m)	長短比	長軸 (m)	短軸 (m)	長短比							
273	Ge 5770S	初頭	8期	N-30°W	3.05	2.95	0.97	9.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-
274	Ha 3380S	(前半)	(9期)	N-39°E	7.15	6.75	0.94	48.3	3.65	3.65	1.00	方形	(掘)	4	○	○	S
275	Ha 3791S	(初頭)	(8期)	N-39°E	7.15	6.45	0.90	46.1	3.65	3.65	1.00	方形	全	4	○	○	S
276	Ha 5808S	(後期・終末)		N-32°W	3.20	3.15	0.98	10.1	-	-	-	方形	(掘)	0	(+)	-	辺 同規模
277	Ha 3379S	後期	3期	N-40°E	3.60	-	-	13.0	-	-	-	無	0	○	×	-	全
278	Ha 3323S	(後期)	(1期)	N-36.5°W	-	-	-	-	-	-	-	(全)	0	○	-	-	-
279	Ha 6212S	(後期)	(2期)	N-45°E	-	-	-	-	-	-	-	(掘)	0	-	-	-	-
280	Ha 4991S	終末	5期	N-28°W	6.50	6.40	0.98	41.6	3.85	3.55	0.92	方形	無	4	○	○	-
281	Ha 5653S	初頭	7期	N-40°E	3.60	-	-	13.0	-	-	-	無	0	○	○	-	-
282	Ha 5637S	前半	9期	N-40°E	5.05	4.80	0.95	24.2	2.90	2.40	0.83	方形	全	4	○	○	S
283	Ha 3378S	前半	11期	N-29.5°E	5.20	4.35	0.84	22.6	3.55	3.00	0.85	長方形	無	4	○	-	-
284	Ha 5634S	初頭	7期	N-37°W	7.00	6.40	0.91	44.8	3.80	3.70	0.97	方形	全	4	○	○	S
285	Ha 5635S	(終末)	(4・5期)	N-1.5°W	5.90	5.10	0.86	30.1	-	-	-	長方形	全	0	○	○	SE・SW 辺
286	Ha 5633S	前半	10期	N-19.5°W	4.45	4.30	0.97	19.1	-	-	-	方形	無	0	○	○	SE 有
287	Ha 3320S	(後期・終末)		N-13.5°W	5.20	4.80	0.92	25.0	3.10	2.40	0.77	方形(半)	3(4)	-	-	-	SE
288	Ha 3328S	初頭	7期	N-44°W	3.45	-	-	11.9	-	-	-	半	0	○	○	S	
289	Ha 3329S	前半	11期	N-41°W	2.95	2.60	0.88	7.7	-	-	-	長方形	全	0	○	○	E
290	Ha 3330S	前半	9期	N-44°W	4.70	4.55	0.97	21.4	2.55	2.45	0.96	方形	無	4	○	○	-
291	Hb 5649S	初頭	6期	N-36.5°E	5.40	5.20	0.96	28.3	2.75	2.6	0.95	長方形	半	4	○	○	-
292	Hb 5651S	(後期・終末)		N-36°W	5.60	4.65	0.81	20.3	2.75	2.6	0.95	長方形	無	3(4)	-	-	-
293	Hb 5652S	初頭	7期	N-36°W	-	-	-	-	-	-	-	(掘)	0	(◎)	-	-	有
294	Hb 5705S	(後期・終末)		N-42.5°E	4.55	4.30	0.95	19.6	2.20	2.05	0.93	方形	全	4	○	○	E
295	Hb 5706S	前半	9期	N-40.5°W	4.25	4.10	0.96	17.4	-	-	-	方形	無	0	×	-	-
296	Hb 5703S	初頭	8期	N-40.5°W	4.10	3.65	0.89	15.0	-	-	-	長方形	無	0	○	-	-
297	Hb 5704S	終末	5期	N-21°W	4.80	-	-	23.0	-	-	-	全	0	○	○	SE 有	
298	Hb 5706S	(後期・終末)		N-35°E	-	-	-	-	-	-	-	無	0	-	-	-	-
299	Hb 5702S	前半	10・11期	N-40.5°W	4.20	3.10	0.74	13.0	-	-	-	長方形	無	0	×	-	-
300	Hc 5547S	前半	10期	N-33.5°E	4.10	3.65	0.89	15.0	-	-	-	長方形	無	0	○	○	S
301	Hc 5545S	終末	5期	N-33.5°E	6.20	6.15	0.99	38.1	3.10	-	-	方形	半	2(4)	(◎)	S	辺 船上
302	Hc 5668S	(終末)	(4期)	N-23.5°W	4.10	4.00	0.98	16.4	2.55	2.35	0.92	方形	全	4	○	○	-
303	Hc 5667S	初頭	7期	N-29°W	2.25	2.25	1.00	5.1	-	-	-	方形	半	0	○	○	S 有
304	Hc 5556S	(後期)	(1期)	N-45°W	-	-	-	-	-	-	-	(半)	0	○	○	-	-
305	Hc 5636S	初頭	8期	N-45°W	-	-	-	-	-	-	-	(掘)	0	-	-	-	-
306	Hc 5548S	前半	10期	N-26°W	3.50	3.30	0.94	11.6	-	-	-	方形	無	0	○	-	-
307	Hc 5546S	(後期)	(2期)	N-45°W	-	-	-	-	-	-	-	(掘)	0	○	-	-	-
308	Hc 5650S	前半	9期	N-41.5°W	3.70	3.40	0.92	12.6	-	-	-	方形	半	0	○	○	S 有
309	Hc 6189S	不明	不明	N-41°W	-	-	-	2.65	-	-	-	(部)	2(4)	-	-	-	-
310	Ia 5911S	初頭	6期	N-29°E	4.35	-	-	18.9	-	-	-	半	0	○	○	-	辺
311	Ia 5935S	初頭	8期	N-27°W	5.05	4.55	0.90	23.0	2.50	2.15	0.86	方形	全	3(4)	○	○	-
312	Ia 5913S	(前半)	(10期)	-	-	-	-	-	-	-	-	(掘)	0	-	-	-	-
313	Ia 5897S	終末	4期	N-20°E	3.40	3.40	1.00	11.6	-	-	-	方形	無	0	○	-	-
314	Ib 5909S	前半	9期	N-45°E	3.95	3.25	0.82	12.8	-	-	-	長方形	半	0	○	○	S
315	Ib 5910S	初頭	7期	N-28°E	5.20	4.95	0.95	25.7	-	-	-	方形	全	0	○	-	-
316	Ib 6027S	不明	不明	N-35.5°W	-	-	-	-	-	-	-	(全)	-	-	-	-	-
317	Ic 5914S	後期	3期	N-38°W	3.20	-	-	10.2	-	-	-	半	0	○	-	-	-
318	Ic 6038S	(後期・初頭)		N-28°E	3.30	-	-	10.9	-	-	-	(全)	0	○	-	-	E 有
319	Ic 6040S	前半	9期	N-40°E	4.55	4.50	0.99	20.5	2.40	2.40	1.00	方形	部	3(4)	○	○	-
320	Ic 6067S	前半	10期	N-31°W	3.10	-	-	9.6	-	-	-	無	0	○	-	-	-
321	Ic 6041S	(後期・初頭)		-	-	-	-	-	-	-	-	(掘)	0	-	-	-	-
322	Ia 3535S	(終末・前半)		N-7°W	2.45	-	-	6.0	-	-	-	無	0	-	-	-	全
323	Ia 3515S	(前半)	(9・10期)	N-7°W	4.05	-	-	16.4	-	-	-	全	0	○	-	-	-
324	Ia 3666S	不明	不明	N-8°E	4.35	-	-	18.9	-	-	-	無	0	-	-	-	-
325	Ib 3602S	初頭	6期	N-7°W	3.70	-	-	13.7	-	-	-	無	0	○	-	-	-
326	Ib 3603S	(初頭・前半)		N-9.5°E	3.25	-	-	10.6	-	-	-	無	0	○	-	-	-
327	Ic 5600S	初頭	6期	N-24.5°W	3.20	-	-	10.2	-	-	-	部	0	○	○	E	
328	Ic 5555S	不明	不明	N-21.5°W	2.65	-	-	7.0	-	-	-	無	0	○	○	-	新
329	Ic 5553S	初頭	6期	N-36°W	3.15	-	-	9.9	-	-	-	無	0	○	-	-	-
330	Ic 5554S	不明	不明	N-30°W	3.55	-	-	12.6	-	-	-	無	0	○	-	-	新
331	Ia 5550S	終末	4期	N-19°W	4.30	-	-	18.5	-	-	-	無	0	○	-	-	-
332	Ia 5500S	初頭	6期	N-19°W	4.10	-	-	16.8	-	-	-	無	0	○	-	-	辺
333	Ka 0121S	前半	9期	N-5.5°E	4.25	3.85	0.91	16.4	-	-	-	方形	無	0	○	SE	
334	Kb 0016S	後期	3期	N-42°W	4.25	3.75	0.88	15.9	-	-	-	長方形	無	0	○	S	
335	L S1	終末	4期	N-35.5°E	4.00	3.90	0.98	15.6	-	-	-	方形	無	0	×	-	-
336	L S2	不明	不明	N-1.5°E	4.15	-	-	17.2	-	-	-	無	-	-	-	-	-

（４）竪穴建物A群

棟数と構成

西斜面下段の緩斜面に分布する総棟数55棟（実棟数50棟）の竪穴建物群で、北寄りの10棟から構成されるAa群、中央北寄りの12棟（10棟）から構成されるAb群、中央の7棟（6棟）から構成されるAc群、中央南寄りの12棟（11棟）から構成されるAd群、南寄りの14棟（12棟）から構成されるAe群に細分する。Aa群からAd群は小支谷2000SXに堆積した黒色土上面が遺構検出面となる部分も多く、遺構検出は困難を極めた。そのため、遺構の形状には不確定な部分が多い（第18図）。

検出状況



Aa群2093SI・2034SI・2022SI (遺構図版34)

北西向きに緩斜面で検出した竪穴建物の一群であるが、調査時、地形の傾斜変化に対する認識が十分でなく、表土掘削時に2022SIの覆土を誤って掘削した。2034SIの地床が露出した時点で、表土掘削の掘削深度を浅くしたが、遺構の形状が大きく損なわれた。2034SIの貼床除去後、その下位に2093SIを確認し、調査区壁面においても2093SI→2034SI→2022SIの先後関係を確認した。2022SIの覆土に最終埋没を示す黒色土が流れ込むようにして厚く堆積していることから、この先後関係は追認される。

検出状況・先後関係

2093SI床面直上出土の広口壺(101)は体部にハケを連弧文状に施す。類例に乏しいが、装飾的な要素が弥生時代中期に近いことから、1期(以前)と推測した。共存する甕(103)の(脚台上位の曲線的な)形状から推測される時期とも齟齬しない。2034SI床直上出土の中型壺または内湾口緑壺(106)は外面全面を赤彩し、7期前後(前期初頭)と推測される。2034SIに後出する2022SIは前期前半と推定した。

出土遺物・時期

Aa群2023SI・2005SI・2006SI・2021SI (遺構図版35)

北西から西向きに緩斜面で検出した竪穴建物の一群で、表土掘削時に誤って2005SIの覆土を誤って掘削した。検出した平面形状からは2005SIと2021SIが同一の可能性も考えられたが、同一と理解した場合、竪穴が著しい長方形を呈すること、床面の高さが異なることから、別個の竪穴建物とした。竪穴建物の残存状況は良好でないが、2023SI→2006SI→2021SIの先後関係を確認した。2005SIとの先後関係は確定できなかった。2021SI上層においては、ほぼ同形同大の小型鉢(碗)が4個体(127~130)、台付甕の脚部(131・132)が集積された状態で検出された。

検出状況・先後関係

2006SI出土の高杯は杯部が著しく深い、脚部の形状から9期と推定される。2021SI下層出土の広口壺(126)は10期に組成する加飾広口壺が無文化した個体でより後出的である。2005SIと2006SIに先行する2023SIは終末期と推定した。2005SIは明確ではないが、周囲の竪穴建物との位置関係を考慮して前期初頭に含めた。2005SI下層からは遠江系の折り返し口緑壺(116)も出土している。

遺物出土状況

出土遺物・時期

Aa群1957SI・1959SI・1958SI (遺構図版36・37)

西向きに緩斜面で検出した竪穴建物の一群で1958SIと1959SIは斜面側が流失する。重複部分は少ないが、先後関係を1957SI→1958SI、1959SI→1958SIと判断した。1958SIの覆土には最終埋没を示す黒色土が厚く堆積していることから、この先後関係は追認される。

検出状況・先後関係

1957SIの地床が礫(炉石)を伴う位置に灰白色粘土が埋め込まれていた。1957SIは主柱穴間の床面が広範囲に著しく硬化する。1957SIの床面除去後、中央付近に竪穴状の掘り込みを検出した。先行する竪穴建物の可能性も考えられたが、主柱穴や地床等付属施設は検出されず、遺物もほとんど出土しないことから、掘り込みは1957SIの掘方と判断した。

附属施設

掘方

1957SIは床面付近に炭化物が散布し、床面直上から下層において甕(133・135等)、有段口緑壺(136)、碗形高杯(141)等、4期の土器が良好に出土した。1958SIは下層出土の底部を輪台状とした内湾口緑壺または中型壺(148)から9期と推定される。1959SIは1958SIに先行することから前期初頭(6・7期)と推定した。

出土遺物・時期

Ab群1995SI・1993SI・1991SI・1994SI・1992SI（遺構図版38・39）

検出状況・先後関係 西向きに緩斜面から続く平坦面で検出した竪穴建物の一群であるが、削割が著しく、1993SI、1991SI、1992SIは検出面付近ですでに地床が露呈していた。1995SIは（掘方の）一部を検出したのみで、竪穴建物としては確実性に乏しい。

1991SIの覆土上面に1992SIの地床が設置されていることから、1991SI→1992SIの先後関係が確定する。他は竪穴建物の残存状況が良好ではなく、やや不確定であるが、先後関係を1995SI→1993SI→1992SI、1993SI→1994SIと判断した。2169SKは1993SIに伴う可能性もあるが、位置関係から1994SIに伴う貯蔵穴とした。

遺物出土状況 花こう岩の棒状礫を伴う1991SIの地床下の焼土上面には凝灰岩製台石（3524）が残されていた。その付近からは花こう岩製磨石（3432）も出土した。

掘方 1991SIの床面除去後、竪穴状の掘り込みを検出したが、主柱穴や地床等の付属施設は検出されず、遺物もほとんど出土しないことから、この掘り込みを1991SIの掘方とした。

出土遺物・時期 1991SIは床面直上出土の甕（168）から4期と推定される。他の竪穴建物は遺構の先後関係を竪穴建物相互の位置関係から（1995SIと）1993SIを後期（1・2期）、1994SIを前期初頭、1992SIを前期中半と推定した。

Ab群2077SI・1967SI・2033SI（遺構図版40・41）

検出状況・先後関係 小支谷2000SXに堆積した黒色土上面で検出した。遺構検出が困難であったため、遺構の形状には不確定な部分が多い。1967SIの貼床除去後、その下位に2077SIを確認した。2077SIが1967SIの竪穴状の掘方である可能性も考えられたが、主柱穴配置が二重に確認されること、2077SIの床面で地床が検出されたことから、2077SIを拡張して1967SIが構築されたと判断した。2033SIと2077SIの先後関係は明確にできなかった。

遺物出土状況 2077SIの貯蔵穴2141SKにおいては、中型鉢（182）等がややまとまって出土した。

出土遺物・時期 2077SI掘方出土の口縁部を有段状とする小型加飾広口壺（177）は後期、1967SI出土の高杯（183）は器壁が厚く、高杯A3またはB1を粗雑化した個体として、3期と推定した。これにより拡張前の2077SIを2期、拡張後の1967SIを3期と推定した。2077SIと1967SIの平面形が長方形であることもその傍証となる。2033SIは下層出土の高杯B8（172）から10期と推定した。

Ab群1953SI・1954SI・2129SI・1952SI（遺構図版42）

検出状況・先後関係 西向きに緩斜面で検出した竪穴建物の一群で、いずれの竪穴も斜面側が流失する。1953SIと1954SIは重複部分が少ないが、出土遺物の内容も考慮して1953SI→1954SIと判断した。

出土遺物・時期 1953SI上層においては、西遠江系の小型鉢（202）が出土した。同じく上層出土の高杯A3（203）が示す時期（3期）に対応する可能性が高いと思われる。1953SIは複数時期の土器が混在するが、上層に含まれる3期の土器から、2期（3期以降に埋没）と推定した。1953SIに後出する1954SIは4期、1952SIは9期と推定される。2129SIは竪穴建物相互の位置関係も考慮して6期と推定した。

Ac群1454SI（遺構図版44・45）

検出状況・先後関係 1454SIは竪穴建物の全形を検出した。他の竪穴建物との重複関係はないが、南東辺には段が認められ、上層に竪穴建物が重複する可能性も考えられたが、土層断面からその存

在は認識できなかった。

1454SIにおいては北東から南東辺の床面付近に大量の土器(222～252)が廃棄された状態で出土し、周囲には炭化材も散在していた。その他、南東辺付近の床面直上において、片麻岩製手持砥石(3485)、熔結凝灰岩製砥石が出土した。貯蔵穴とした1449SKからは高杯(253)が出土した。出土した土器群(222～253)は8期の良好な一括資料で、全形が判明する叩き甕(227)を伴うことも特筆される。

Ac群1455SI・1444SI(遺構図版46)

1455SI・1444SIは小支谷2000SXに堆積した黒色土中で検出した。遺構検出はかなり困難で、1444SIと1455SIの2棟以上の重複も想定しつつ、竪穴建物の形状、先後関係が確定しないまま床面付近までを掘削したが、1455SIの地床が1444SIの北東辺によって失われていること、1444SIの覆土に連続して厚く堆積する黒色土から、先後関係は1455SI→1444SIと判断した。

1455SIの床面直上で出土した加飾広口壺(278)の帰属は確実であるが、覆土中の遺物は帰属が不確かなものが多い。1455SIに伴う貯蔵穴1785SKにおいては、中型壺1個体(296)が単独で、1444SIに伴う貯蔵穴1804SKにおいては、平底甕2個体(273・274)、甕1個体(275)、内彎口緑壺1個体(276)が良好な状態で出土した。

1454SI出土土器群(222～253)は1455SIは床面直上、貯蔵穴1785SKより出土した土器から4期と推定される。1444SIはバレス系壺(258)、椀形高杯(269)等、床面直上から下層に伴う土器は8期の様相を示すが、貯蔵穴1804SKにおいて出土した内彎口緑壺(276)は広く短い口頸部、突出した底部など、8期の内彎口緑壺に後出する要素が多い。また、近在の1454SIには8期の良好な土器が伴い、8期における両者の同時併存を想定することが難しいことから、1444SIは8期よりむしろ9期を主体とする想定される。

Ac群1937SI・1490SI・1456SI・1489SI(遺構図版43・44)

小支谷2000SXに堆積した黒色土中で検出した1490SI、1456SIは竪穴建物の形状、先後関係が確定しないまま床面付近までを掘削した。斜面側はさらに検出が困難で、遺構の形状を示すことができないが、すでに流失した可能性もある。1937SIは後世の大溝1900SDによって北西部分が大きく欠失する。1489SIは基盤層上において検出した焼土面を未検出の竪穴建物に伴う地床として、竪穴建物の存在を推定した。1490SI、1456SIは平面の検出時に先後関係を確定することはできなかったが、土層断面において1490SI→1456SIの先後関係を確認した。

1456SIは床面付近に遺物が集積し、検出面上面から覆土中にかけても大量に遺物が包含されていた(297～338)。土器群は混入と思われる個体もあるが、8期に帰属する土器が多い。体部球形の大容量の甕(297)は主に8期に組成する。貯蔵穴1813SKから出土した加飾広口壺(340)は口縁部内面を段によって区画し、ヘラ状工具による羽状刺突文を施す。貯蔵穴1813SKにおいては、甕(339)、加飾広口壺(340)が出土した。

1490SIに伴う可能性がある貯蔵穴1815SKにおいては、高杯(346)、大型(甕系)鉢(347)が出土した。土器群は6期に対応する。1937SIは床面直上において出土した椀形高杯(348)から5期と推定される。1489SIは時期不明とした。

遺物出土状況

出土遺物・時期

検出状況・先後関係

遺物出土状況

出土遺物・時期

検出状況・先後関係

遺物出土状況

出土遺物・時期

Ad群1495SI・1464SI・1410SI・1295SI・1411SI (遺構図版47~49)

検出状況・先後関係 1464SI, 1410SI, 1411SI 東半(丘陵側)は小支谷2000SXに堆積した黒色土中で検出し、特に1411SIの遺構の形状、後述する1329SI, 1330SI等との関係には不明確な部分がある。

1410SI, 1464SI, 1411SIはいずれも床面が明確で、土層断面において、1410SI→1411SI, 1464SI→1411SIの先後関係を把握したが、1411の北西側は検出することができなかった。1464SIと1295SIは両遺構の一边が接する程度で先後関係は明確でない。1410SIに重複する1495SIは1410SIとの先後関係を土層断面等で確定できなかった。

遺物出土状況 1464SIの貯蔵穴1741SK付近の床面直上には比較的多くの遺物が散在していた(377~381)。その他、南隅の床面付近より花こう岩製敲石(3489)が出土した。1411SIの床面付近からは高杯等、比較的多くの土器が出土した(396~404・406~424)。土器群は10期の良好な資料である。その他、1411SIの貯蔵穴1696SKより凝灰岩製貯蔵罎(3486)が出土した。

出土遺物・時期 1411SIに先行する1464SIは床面直上出土の高杯(377)、上層出土の内埵口縁壺(392)等から6期と推定される。1411SIに先行し、1464SIに近接する1410SIは前期初頭(7・8期)、1495SIは上層出土の有段口縁甕(375)から終末期、1295SIは床面直上において出土した内埵口縁壺(374)から9期と推定した。

Ad群1330SI・1329SI・1277SI・1175SI (遺構図版50・51)

検出状況・先後関係 1330SI, 1329SI, 1175SIの全体、1277SIの大部分は小支谷2000SXに堆積した黒色土中で検出し、遺構の正確な形状を把握することは困難であった。特に1175SIは明確に硬化した床面と地床が確認したが、平面形を検出することができなかった。1329SIは堅穴建物の規模と比較して支柱穴間の距離が著しく短く、焼土面とも重複することから、支柱穴が未検出の堅穴建物に伴う可能性、または堅穴建物が拡張された可能性も想定する必要がある。

1277SIは床面が広範囲に硬化していた。土層断面から1329SI→1175SIの先後関係は明確であるが、1277SI, 1330SIにかかる先後関係は明確にできなかった。なお、1330SIの覆土上面に集積していた土器群(450~457)を1404SXとした。

1404SX 出土遺物・時期 1330SI 掘方出土のS字甕A類(442)は6期に対応する。1329SIは床面直上において出土した高杯B5(431)等から7期、1277SIは貯蔵穴1447SKにおいて出土した口縁部を貝殻腹縁による連弧文で加飾した内埵口縁壺(463)から8期と推定される。1175SIは7期の1329SI, 8期の1277SIに後出することから10期(11期)と推定した。ただし、遺構の確認が困難であったことから、遺物の帰属は不確かなものも少なくない。

Ad群1403SI・1402SI (遺構図版52)・Ad群1332SI (遺構図版52)

検出状況・先後関係 1332SIは東辺の一部と地床が検出したのみで、周辺に散在する小穴も、多くは黒色土下位の起伏や植栽痕である。1403SIは削割が著しく、検出面付近に地床が露呈していた。1403SIの貯蔵穴1417SKにおいては、内埵口縁壺(469)、甕(470)が出土した。

出土遺物・時期 1403SIは貯蔵穴1417SK出土の内埵口縁壺(469)から4期、1402SIは1403SIとの先後関係から前期初頭から前期前半と推定される。1332SIは上層出土の加飾広口壺(467)と周囲の堅穴建物との位置関係を考慮して、終末期から前期初頭(5・6期)と推定した。

Ae群1357SI・1220SI・1270SI（下面・上面）・1250SI（遺構図版53）

・1275SI・1200SI（下面・上面）・1240SI・1225SI・1224SI（遺構図版54・55）

西向きから南西向きの緩斜面で竅穴建物が著しく重複した状態で検出された。遺構の稠密な分布に加えて、調査区の制約から面的な把握が難しい点もあって、全体の形状を正確に把握できなかった竅穴建物も多く、各竅穴建物相互の先後関係の整合にも不安を残す。複雑な遺構の重複に加え、遺構の誤認もあって、遺物の帰属も不確かなものが多い。また、未検出の竅穴建物に伴う可能性がある主柱穴3基（1550SK・1558SK・1491SK）を検出した。

検出状況・先後関係

1270SIは拡張、1200SIは建て替えに伴う2面の床面と地床を確認した。1270SI上面は高杯B4（508）から7期、同下面は6期と推定される。1250SIは上層に高杯B7（519）、口縁部の内彎が弛緩した内彎口縁壺（515）等、9期から10期の土器が多く含まれることから9期と推定される。1220SIは5期の1240SI、6・7期の1270SIに先行することから3期と推定した。その他、1220SIの貯蔵穴1529SKにおいて蓋の把手部分と思われる棒状土製品（541）が出土している。上層はパレス系壺（530・532）、S字甕B類新段階（540）等、9期の土器を多く包含する。1357SIは3期とした1220SIに先行することから1期（以前）と推定した。

出土遺物・時期

1200SI下面においては加飾広口壺（542）と中型壺（543）に加えて緑色片岩製置底石（3491）、同上面においては高杯（544）が良好な状態で出土した。1224SIは床面直上から下層にかけて比較的多くの土器（548～569）に加えて、片麻岩製磨石・敲石（3444）が出土した。

遺物出土状況

1200SI上面の高杯（544）は全体に厚手で脚部の透孔を欠く。柱状の脚部上位から脚部下位が内彎する形状を高杯B1の派生型と理解して、4期に対応すると推定した。下面は加飾広口壺（542）と底径が大きい中型壺（543）からも3期と推定した。1240SIは碗形高杯（572）から5期、1224SIは甕（548～557）、高杯B5（558）を含む下層の土器群から8期と推定される。その他、1224SIにおいては、南関東（久ヶ原式・山田橋式）系の（複合口縁）加飾広口壺（562）が出土している。1225SIは5期の1240SIに後出し、8期の1224SIに先行することから、6期または7期、1275SIは5期の1240SIに先行し、3・4期の1200SIとも接することから1期（以前）と推定した。

出土遺物・時期

Ae群1181SI・1178SI・1167SI（遺構図版56・57）

緩斜面における傾斜の変化と斜面の堆積に対する認識が十分でなく、表土掘削時に1178SI等の覆土を誤って掘削した。1181SIと1178SI、1181SIと1167SIの先後関係も明確にできなかった。1178SIと1167SIは重複する部分に根が介在し、先後関係の確認は困難であった。1181SI周辺には多数の小穴が散在するが、黒色土下位の起伏や植栽痕が多く含まれ、掘立柱建物の復原には至っていない。

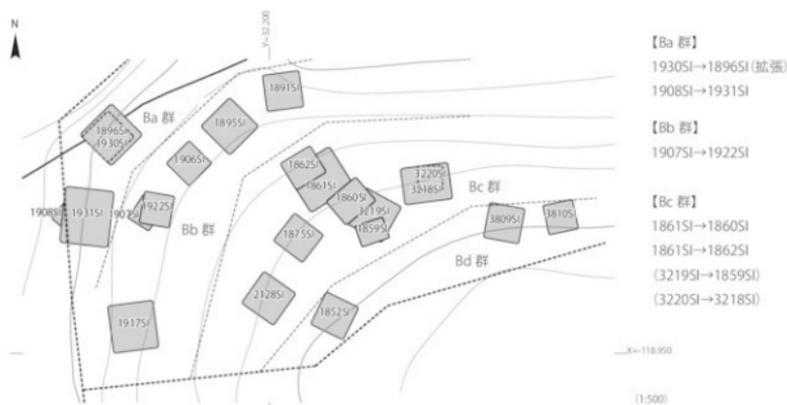
検出状況・先後関係

1181SIの床面直上においては、円板状の紐孔付蓋（586）が出土した。1181SIは高杯A2またはA3（582・583）、口縁部が緩やかに外反するパレス系壺（585）から2期と推定される。3・4期の1200SIに後出する1178SIは6期または7期、1178SIと重複する1167SIは8期または9期と推定した。その他、1178SI床面直上において小型の板状鉄斧（3561）、1167SIにおいて庄内式甕または布留式傾向甕（591）が出土している。

出土遺物・時期

（５）竪穴建物B群

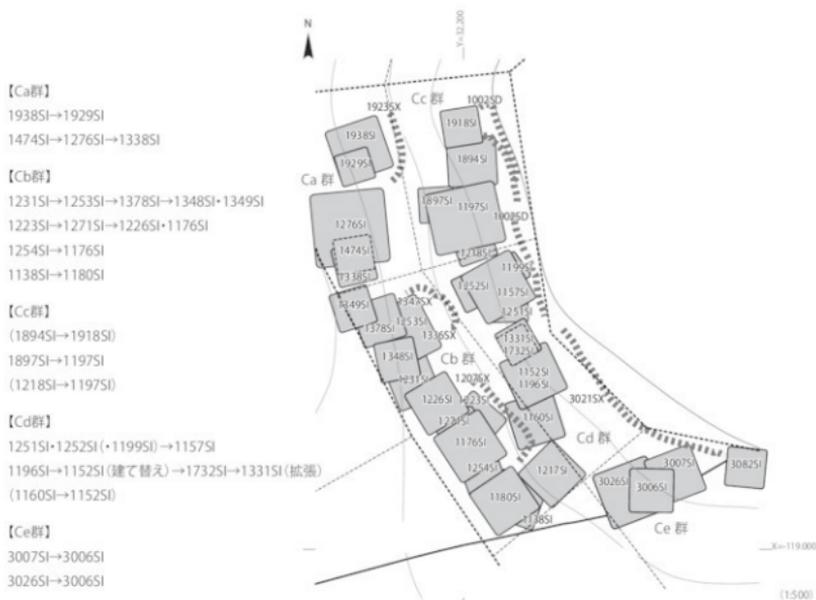
棟数と構成	北西斜面に分布する総数23棟（実数14棟）の竪穴建物群で、下位の4棟（2棟）から構成されるBa群、中位の6棟（4棟）から構成されるBb群、上位の10棟（7棟）から構成されるBc群、丘陵縁辺の3棟（2棟）から構成されるBd群に細分する。Bc群以外、竪穴建物は重複せず、Bc群の重複も2棟までに止まる。竪穴建物は丘陵側が著しく深く、斜面側が流失した状態で検出されるものが多い（第19図）。
検出状況	Ba群1930SI・1896SI（遺構図版58）
検出状況・先後関係	1930SI（1896SI）は拡張とそれに伴う上下2面の床面を確認した。1930SIと1896SIの遺物は明確に分離できないが、甕（600）、平底甕（603）、高杯B7（604）は9期に対応することから、拡張後の1896SIを9期、拡張前の1930SIを8期と推定した。
出土遺物・時期	Ba群1908SI・1931SI（遺構図版60）
検出状況・先後関係	1931SIは1908SIの一定の埋没後、やや方位を違えて掘削された竪穴状の掘り込み（再掘削）で、明確な床面や地床は構築されず、主柱穴も認められない。覆土中には土器（606～631）を多く包含する。土器群は、先行する1908SIの遺物が混在している可能性もあるが、高杯B6（615・616）、椀形高杯（617～620）、中型壺（622）等、8期を主体とする。これにより、1931SIを8期、先行する1908SIを終末期と推定した。
出土遺物・時期	Bb群1891SI（遺構図版59）
検出状況・先後関係	1891SIは地床が検出されず、遺物の出土もごく少ないことから、北向き斜面下位に散在中世の竪穴状遺構の可能性もある。時期は不明とした。
出土遺物・時期	Bb群1895SI（遺構図版60）・1906SI（遺構図版60）・1917SI（遺構図版62）
検出状況・先後関係	いずれも他の竪穴建物と重複しない。1895SIの床面直上には炭化材が散在する。下層
出土遺物・時期	出土のS字甕A類（633）、内彎口縁小型壺（637）等から6期と推定した。
遺物出土状況	1906SIの床面付近においては、広口壺（640）、中型壺（641～643）、著しく杯部が



深い高杯(646)等が良好な状態で出土した。貯蔵穴1928SKからは甕(652)、凝灰岩製台石(3527)が出土した。土器群は菊川式に関連する体部下位が強く張る中型壺(641・642)、著しく杯部が深い高杯(646)等の特徴的な個体を含む。8期と推定した。	出土遺物・時期
1917SIは床面直上に炭化材が散在する。時期は床面直上において出土した高杯(690)、下層出土の椀形高杯(691)、中型壺(687)等から7期と推定した。	検出状況・先後関係 出土遺物・時期
Bb群1907SI・1922SI(遺構図版61)	
1922SIはBa群の1908SI、1931SIと同様、1907SIの一定の埋没後にやや方位を逸えて掘削された竪穴状の掘り込み(再掘削)で、明確な床面や地床が、主柱穴は構築されない。1922SIの覆土中には多くの土器(653～679)が包含されていた。土器群は先行する1907SIの遺物が混在している可能性もあるが、高杯B6・B7(672・673・677)等、9期を主体とする。1922SIに先行する1907SIは終末期と推定した。	検出状況・先後関係 遺物出土状況 出土遺物・時期
Bc群3220SI・3218SI(遺構図版63)	
3220SIと3218SIは上下に重複するが、3218SIの床面に地床が確認されなかったことから、先後関係を誤認している(または地床が見落とした)可能性もある。3220SIは上層出土の高杯(700)から4期、それに後出する3218SIは6期と推定した。	検出状況・先後関係 出土遺物・時期
Bc群1861SI(下面・上面)・1862SI・1860SI・3219SI・1859SI(遺構図版64・65)	
1861SIは立て替えに伴う上下2面の床面を確認した。1860SIは上層に斜面からの流出土が厚く堆積する状況からも、重複する1861SI、1862SIに後出することが推察される。1859SI・3219SIは部分的な検出で、先後関係の確認は困難であるが、1859SIと3219SIの位置関係から、1859SIは3219SIの埋没過程における再掘削の可能性はある。	検出状況・先後関係
1860SIの床面直上においてはヤリガンナ(3563)出土した。1961SI上面の床面直上においては、散在する炭化材に混じって甕(712)、椀形高杯(716)等が良好な状態で出土した。土器は5期に対応し、同下面は4期とした。1861SIに後出する1862SIは高杯(720)等から8期、1860SIは前期前半と推定した。3219SIは高杯B2(727)から5期、3219SIと前期前半の1860SIに重複する1859SIは前期初頭(7・8期)と推定した。	遺物出土状況 出土遺物・時期
Bc群1875SI(遺構図版65)	
1875SIは地床が検出されず、遺構の形状もやや不整であることから、先行する竪穴建物埋没する過程における再掘削の可能性はある。時期は上層出土の広口壺(710)が6期の1464SI出土の広口壺(386)に類似することも勘案して6期と推定した。	検出状況・先後関係 出土遺物・時期
Bc群2128SI(遺構図版63)	
2128SIは削刺が著しく、北東辺の一部を検出したのみで、検出面付近には地床が露呈していた。床面直上においては、鳥形土製品(698)が出土している。時期は不明とした。	検出状況・先後関係 出土遺物・時期
Bd群1852SI(遺構図版66)・3809SI(遺構図版66)・3810SI(遺構図版66)	
いずれも他の竪穴建物と重複しない。1852SIは床面付近から下層に土器(731～749)を多く包含する。また、床下全面を約0.3m掘り下げた掘方を確認した。1852SIの土器群は口縁部が中膨らみする甕(731)、底部が突出する中型壺(737・738)、高杯B5・B6(747～749)、退化した椀形高杯(750)等を含み、8期と推定される。	検出状況・先後関係 掘方 出土遺物・時期
3809SIは床面直上において出土した高杯(751)、加飾広口壺(752)から6期、3810SIは下層出土の有段口縁甕(758)から5期と推定した。	

（6）竪穴建物C群

棟数と構成	西斜面上段に分布する総数 37 棟（実数 32 棟）の竪穴建物群で、下位北部の 5 棟から構成される Ca 群、下位南部の 13 棟（12 棟）から構成される Cb 群、上位北部の 5 棟から構成される Cc 群、上位中央の 9 棟（6 棟）で構成される Cd 群、上位南部の 5 棟（4 棟）で構成される Ce 群の 5 群に細分する。竪穴建物は等高線に沿って多数が重複しながら分布し、丘陵側が著しく深く、斜面側が流失した状態で検出されるものが多い（第 20 図）。各竪穴建物群の背後には斜面を段状に加工する造作（Ca 群 1938SI に 1923SX、Cb 群 1253SI に 1347SX・1336SX、1207SX、Cd 群から Ce 群に 3021SX）が認められ、Cc 群から Cd 群の背後の斜面 1002SD には大量の遺物と礫が廃棄されていた。
検出状況	Ca 群 1938SI・1929SI（遺構図版 68・69）
斜面を加工した段	1938SI は人為的に埋め戻された堆積状況を示し、それが 1929SI の構築によって崩り込まれていることも明確であった。最終埋没を示す黒色土も 1929SI 側に厚く堆積していることから先後関係が追認される。
検出状況・先後関係	1938SI の貯蔵穴 2086SK においては、橢形高杯（799）の脚部内面と中型壺（800）の体部下位が密着して出土した。高杯の脚径（11.3cm）と中型壺の口径（10.9cm）が近似することからも、高杯脚部は中型壺の蓋に転用された可能性がある。1929SI の床面直上には径 25cm 前後の炭化材が良好に遺存していた。1938SI の背後を加工した段 1923SX においては、土製紡錘車（820）を含む土器（801～820）が散在して出土した。
遺物出土状況	
1923SX	



第20図 竪穴建物C群の配置

<p>1938SIは重複する5期の1929SIに先行すること、貯蔵穴2086SKにおいて出土した土器から3期と推定した。1938SIに後出する1929SIはS字甕(823)、菊川系の有段口緑壺(826)、内彎口緑壺(829・830)等を含む土器群から5期と推定される。</p>	出土遺物・時期
<p>Ca群1474SI・1276SI・1338SI(遺構図版67)</p>	
<p>1276SIが調査区によって分割されたこと、斜面の堆積と竪穴建物の埋没過程に対する認識が十分でなかったこと、斜面側に小支谷2000SXに堆積した黒色土が重なることから、遺構の精査には不備が多い。1338SIの地床が伴う床面が1276SIの覆土上面に形成されていたことから、1276SI→1338SIの先後関係は確定する。</p>	検出状況・先後関係
<p>1474SIの南東隅付近の床面直上においては、甕(871・872)、大型(甕系)鉢(873)、椀形高杯(874・876)等が良好に出土した。1276SI南東隅付近の床面直上においては、炭化種子に混じって鉄剣(3564)と小鉄片(3565)が出土した。1338SIの東辺付近の床面直上においては、広口壺(878)が正位の状態でも出土した。またその付近から、砂質凝灰岩製台石(3528)が出土した。</p>	遺物出土状況
<p>1474SI床面直上出土の土器群(871～876)は5期に対応する。1276SI下層出土の体部球形の大容量の甕(841)は、8期とした1456SIの同形式の甕(297)に体部内面の調整等、先行する要素が認められることから、1276SIは7期(から8期)と推定される。1276SIに後出する1338SIは、広口壺(878)等からも9期(から10期)と推定した。</p>	出土遺物・時期
<p>Cb群1253SI・1378SI・1348SI・1349SI(遺構図版70・71)</p>	
<p>1253SIはCa群1938SIと同様、人為的に埋め戻された堆積状況を示し、それが1378SIと1348SIの構築時に掘り込まれていることも明確であった。最終埋没を示す黒色土も1348SIの覆土上位に連続して堆積していることから先後関係が追認される。</p>	検出状況・先後関係
<p>1253SIの覆土中には複数時期の土器が混在するが、厚手で、高杯B1の粗製化した型式と考えられる高杯(902)と高杯A3(903)が床面直上において出土していることから4期と推定した。1348SIは下層出土の甕(929)から10期と推定される。1378SIと1349SIは、周囲の竪穴建物との位置関係も考慮して、4期の1253SIに後出する1378SIを6期、1378SIに後出する1349SIを8期と推定した。</p>	出土遺物・時期
<p>Cb群1231SI・1254SI・1223SI・1271SI・1226SI・1176SI(遺構図版72～74)</p>	
<p>1223SIの地床が1271SIによって欠失すること、1271SIと1254SIの覆土上面に1176SIの地床が伴う床面が構築されていることから、1223SI→1271SI→1176SI、1254SI→1176SIの先後関係が確定する。1231SIと1253SI、1348SI、1226SI、1254SIと1180SIの先後関係は確認することができなかった。</p>	検出状況・先後関係
<p>1226SI東隅の貯蔵穴1294SK付近においては、有段口緑壺(956)、椀形高杯(957)、広口壺(958)等がややまとまって出土した。1176SIの床面付近、覆土中には比較的多くの土器が包含されていた(972～987)。</p>	遺物出土状況
<p>1231SIは床面直上において出土した高杯A2(944)から2期、1223SIは貯蔵穴1294SKから出土した椀形高杯(957)から5期、1176SIは床面直上から下層にかけて出土した高杯(983・984等)、中型鉢(978)等から10期と推定される。1223SIに後出する1271SIは7期、1271SIに先行する可能性が高い1254SIは3・4期、1271SIに後出する1226SIは9期と推定した。</p>	出土遺物・時期

Cb群1138SI・1180SI・1217SI（遺構図版74）

検出状況・先後関係 1217SIは基盤層上において検出した焼土面から想定した竪穴建物で、主柱6配置を復原した。1180SIの床面直上においては花こう岩製台石（3526）が出土した。

遺物出土状況 1138SIは床面直上において出土した高杯A 1（989）から1期、1180SIは床面直上において出土した中型壺（990）、上層出土の高杯（1002）等から9期と推定した。1217SIは1138SI、1180SIとの位置関係から後期から前期初頭（3期から7期）と推定した。

Cc群1894SI・1918SI・1218SI・1897SI・1197SI（遺物図版75・76）

検出状況・先後関係 Cc群の竪穴建物群については、南北の調査区に分割されたこともあって、整合を欠く部分がある。また、竪穴建物の置土中に背後の斜面を段状に加工した1002SDから包含層が連続して堆積していることを十分に把握して精査することができなかつた。1894SI南半の平面形も適確に把握することができず、出土遺物の採取にも混乱が生じた。

1894SIと1918SIの先後関係は炭化材の散在状況も考慮して1918SI→1894SIとしたが、出土遺物の内容から、先後関係を1894SI→1918SIに修正した。1218SIと1197SIの先後関係については1218SI→1197SIと判断したが、土坑2182SKの重複によって土層断面からは確認することができなかつた。

遺物出土状況 斜面を段状に加工した1002SDには大量の土器（1080～1163）と礫が包含されていた。包含層は1894SIに連続して堆積し、1002SDの土器群と1894SIに帰属する遺物を明確に弁別することは難しい。1894SIまたは1918SIの貯蔵穴2107SKにおいては、中型（内湾口縁）壺（1034）が良好な状態で出土した。1918SIの床面付近には炭化材が散在する。

1894SIにほぼ確実に伴う土器として、体部球形の大容量の甕（1015）、高杯B 6（1016）がある。これらは（7期から）8期に対応する。1894SIまたは1918SIの貯蔵穴2107SK出土の中型（内湾口縁）壺（1034）は頸部以下の全体的な形状は内湾口縁壺に類似するが、口縁部が著しく短い。型式的な特徴からは（7期から）8期とした1894SIに伴う可能性が高いと判断される。1918SI床面直上において出土したパレス系壺（1029）は砂粒を多く含む粗悪な胎土で製作され、体部文様はハケ状工具による短い単斜刺突、山形文を組み合わせ、文様帯の下端にヘラ状工具の先端による刺突列を加える。パレス系壺の著しい退化型式で、（9期から）10期に対応する。1197SIは比較的多くの土器（1038～1079）が出土しているが、1002SDと1897SIの土器が混在している可能性がある。時期は高杯B 6・B 7（1071～1076）を含むことから、9期と推定される。1218SIは床面直上において出土している桶形高杯（1035）から5期、1897SIは9期とした1197SIに先行する可能性が高いことから6期とした。その他、特徴的な個体として、1197SI出土の焼成前底部穿孔壺（1055）、菊川式の壺（1057）、叩き甕（1046）、焼成粘土塊（1079）がある。

1002SD土器群 1002SD土器群として、口縁端部に刻みを施した甕（1080）、有段口縁甕（1081～1083）、甕（1084～1106）、加飾広口壺（1107～1113）、口縁部内面に結節縄文を施した広口壺（1114）、遠江系の折り返し口縁壺（1115・1116）、菊川式の壺（1117）、広口壺または直口壺（1118～1140）、内湾口縁壺（1141・1142）、高杯A（1143・1144）、高杯B（1145～1152）、大型（甕系）鉢（1153・1154）、中型鉢（1155・1156）、小型鉢（1157）、小型壺（1158・1159）、木製容器を転写した楕円形土器（1160）、球状土鍾（1161・1162）、焼成粘土塊（1163）がある。これらの土器群は3期から8期に対応する。

Cd群1251SI・1252SI・1199SI・1157SI (遺構図版77)

1157SI 背後には、斜面を段状に加工した1002SDがCc群から連続する。Cc群1894SIと同様に、1157SIには1002SDから包含層が連続して堆積する。1251SIは地床が1157SIによって一部が失われていることから、1251SI→1157SIの先後関係が確定する。1199SIは東辺付近の一部を確認したのみで、斜面を加工した段の一部である可能性もあるが、1256SKが1199SIに伴う貯蔵穴である可能性を考慮して堅穴建物とした。1157SIとの先後関係は1199SI→1157SIと判断した。

検出状況・先後関係

1251SIの床面直上において炭化材に混じって出土した高杯(1165)は、高杯A3に形状が類似する。著しく器壁が厚くハケ調整も表面化するが、3期と推定した。1251SIに後出する1157SIは床面直上出土の柳ヶ坪壺(1172)、高杯B8(1173～1175)から10期(から11期)と推定される。1252SIと1199SIは1157SIに先行することから、終末期から前期初頭(4期から6期)と推定した。

出土遺物・時期

Cd群1160SI・1196SI・1152SI・1732SI・1331SI (遺構図版78・79)

1196SI(1152SI)は立て替え、1732SI(1331SI)は拡張に伴う上下2面の床面と地床を確認した。調査時には1152SIの床面、1331SIとの重複を見落としたまま部分的に下位の1196SIの床面付近までを掘削してしまったことから、1152SIの遺物には1196SIと1331SIの遺物が混在する可能性がある。Cd群南端の1160SIは残存状況が良好でなく、1152SIとの先後関係を確定することはできなかったが、1160SI→1152SIと推定した。

検出状況・先後関係

1331SIの床面直上において、炭化材に混じって大量の土器が出土した。覆土中の土器の包含も多い。南東隅の貯蔵穴1653SKの上面には人頭大の粘土塊が残され、それに接するようにして甕(1185)が伏せられた状態で置かれていた。

遺物出土状況

拡張後の1331SIの土器群(1184～1216)は10期に対応することから、拡張前の1732SIは9期と推定される。1331SI・1732SIに先行する1152SIはバレス系壺(1229)等からも7期、1152SIの立て替え前の1196SIは下層出土の椀形高杯(1220)等からも6期と推定される。1196SIに先行する可能性が高い1160SIは4期以前と推定した。

出土遺物・時期

Ce群3026SI・3007SI・3006SI (遺構図版80・81)

Ce群は南西向き斜面に分布する堅穴建物群で丘陵側(北東側)の掘り込みが著しく深い状態で検出された。丘陵側には北西方向から南東方向にかけて斜面を加工した緩やかな段3021SXを検出した。3026SIは立て替えに伴う上下2面の床面と地床を確認したが、3007SIとの先後関係は確認することができなかった。

検出状況・先後関係

3006SIの主柱穴3083SK、3089SK付近の床面直上においては、甕(1288～1291)、高杯(1292)、加飾広口壺(1293・1294)、広口壺(1295)等の土器、安山岩製置碁石(3494)が良好な状態で出土した。なお、柱穴の掘方は大きく布掘り状に掘削される。

遺物出土状況

3006SIは床面直上において出土した土器群(1288～1295)に高杯B5(1292)等が含まれることから8期と推定される。3006SIに先行する3007SIは下層出土の椀形高杯(1258・1259・1261)等から6期、3026SIは4期以前と推定した。

出土遺物・時期

Ce群3082SI (遺構図版82)

3082SIは他の堅穴建物と重複しない(大部分は調査区外)。時期は遺構内に包含層が連続して堆積する状況から、前期前半と推定した。

検出状況・先後関係
出土遺物・時期

（7）竪穴建物D群

棟数と構成

平坦面西緩斜面に分布する総数71棟（実数65棟）の竪穴建物群で、下位の12棟（11棟）で構成されるDa群、中位北部の19棟（18棟）で構成されるDb群、中位南部の10棟で構成されるDc群、上位北西部の6棟（5棟）から構成されるDd群、上位北東部の9棟（8棟）で構成されるDe群、上位中部の11棟（9棟）で構成されるDf群、上位南部の4棟で構成されるDg群の7群に細分する。斜面から安定した平坦面に移行する緩斜面に中小の竪穴建物が稠密に分布し、Da群には掘立柱建物群、Df群には大型竪穴建物3308SI（・3261SI・3057SI）、布掘り柱掘方をもつ大型掘立柱建物3300SBが含まれる（第21図）。

検出状況

【Da群】

1140SI→1872SI
1139SI・3042SI→3034SI→3003SI
1140SI→4343SI
3028SI→(3003SI・)3002SI
3127SI・3032SI→3027SI→3002SI

【Dc群】

3056SI→3037SI→3036SI
3032SI・3035SI→3005SI
5167SI→3076SI
3075SI→3076SI→3079SI

【Dd群】

4337SI→4341SI→4338SI
4336SI→4342SI

【De群】

3798SI→3797SI
(3832SI・)4770SI→3830SI
(3831SI→3830SI・3931SI)
(4021SI→)3932SI→3931SI

【Df群】

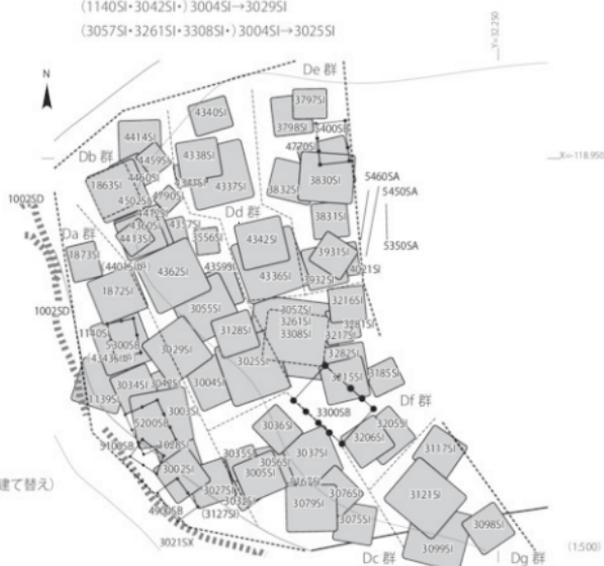
3057SI・3281SI→3217SI
3281SI→3216SI
3282SI→3215SI→3300SB
3205SI→3206SI
3308SI→3261SI（拡張）→3057SI（建て替え）

【Dg群】

3099SI→3121SI

【Db群】

4414SI→4459SI
1863SI・4460SI・4412SI→4502SI
4357SI→4412SI→4360SI→4413SI 4357SI→4362SI
4359SI→3055SI→4362SI
4401SI→1872SI
(3055SI→3128SI)
(1140SI・3042SI・)3004SI→3029SI
(3057SI・3261SI・3308SI・)3004SI→3025SI



第21図 竪穴建物D群の配置

Da群1873SI (遺構図版82)

1873SIは他の竪穴建物と重複しない。地床が付近には炭化物が比較的濃密に散布する。時期は貯蔵穴1829SKから出土した甕(1317)等から前期初頭(7期前後)と推定した。

検出状況・先後関係

出土遺物・時期

Da群1139SI・1140SI・1872SI・4343SI・3042SI・3034SI・3003SI

(遺構図版83・84)

1139SIは1140SIと重複するが、土層断面から先後関係を確認することができなかった。1140SIの覆土上面(遺構検出面)において焼土面を広範囲に検出した。帰属する竪穴建物の平面形を確認することはできないが4343SIとした。3003SIは南辺が3028SIの北辺と接するようにして重複し、調査時には3003SI→3028SIとしたが、出土遺物の内容、周囲の竪穴建物との関係を検討した結果、先後関係を誤認している可能性が高いと判断して、先後関係を3028SI→3003SIに修正した。

検出状況・先後関係

1139SI下層からは花こう岩製台石(3530)、1140SI下層からは片麻岩製磨石(3460)、1872SI南東隅の貯蔵穴4887SK付近の床面直上においては、砂質凝灰岩製台石(3531)、高杯(1318・1319)等が散在して出土した。3034SIの北東隅の床面直上においては、小型高杯(1343)、小型鉢(1344)、小型壺(1345)等が炭化材に混在して出土した。

遺物出土状況

1139SIは貯蔵穴4920SK出土の甕(1331)から2期、重複する1140SIは下層出土の内彎口縁壺(1137)等から4期、1872SIは南東隅付近の床面直上において出土した土器群に含まれる高杯B7(1318)等から9期、3042SIは床面直上において出土した椀形高杯(1351)、上層出土のS字甕A類(1352)から6期と推定される。6期とした3042SIに後出する3034SIは床面直上において出土した小型高杯(1343)、小型壺(1345)等からも8期、3034SIに後出する3003SIは10期と推定した。その他、3003SI上層から砂質凝灰岩製石製紡錘車(3552)が出土した。

出土遺物・時期

Da群3127SI・3028SI・3027SI・3002SI (遺構図版86・87)

3002SIと3027SIの近辺の基盤層上において焼土面を検出したが、焼土面は位置関係から3027SIに伴うとは考えにくいことから、別個の竪穴建物を想定して3127SIとした(平面形は不明)。

検出状況・先後関係

全形を検出した3002SIは床面直上のほぼ全面に炭化材が散乱した状態で検出された。破鏡(3556)は竪穴建物の調査着手直後、根株の処理中またはサブトレンチ掘削中に出土し、出土状況を詳細に記録することができなかった。なお、破鏡に共伴する出土土器(1370～1383)は多くないが、床面直上においては不明土製品の紐部分(1382)、球状土錘(1383)が出土した。

遺物出土状況

3027SIは床面直上または下層出土の口縁部が屈折する広口壺(1360)、高杯B4(1366)、叩き甕(1367)等から6・7期、3027SIに後出する3002SIは下層出土の口縁部の内彎が著しく弛緩した内彎口縁壺(1379)、上層出土の下膨れで、底部を輪台状とする小型壺(1381)等からも9期と推定される。6・7期とした3027SIに先行する3028SIは終末期、3127SIは後期と推定した。4期とした1140SIの覆土上面を床面とする4343SIは前期初頭以降と推定されるが、近接する1872SIを9期としたことから、それとの位置関係を考慮して、6・7期と推定した。

出土遺物・時期

Db群1863SI・4414SI・4460SI・4459SI・4502SI（遺構図版88・89）

検出状況・先後関係

4460SIは東辺が4459SIの西辺と接するようにして重複するが、土坑4552SKの重複によって先後関係を土層断面から確認することができなかった。

遺物出土状況

全形を検出した小型の竪穴建物4459SIは北西辺から北東辺付近に高杯（1398）、広口壺（1400）、脚付内彎浅鉢（1399）、内彎浅鉢（1401）、有孔鉢（1402）、甕（1403）の各器種が良好な状態で出土した。その対向する位置には炭化材が散在していた。

出土遺物・時期

4459SI下層出土土器群は6期に対応する。最も後出する4502SIは下層出土の加飾広口壺（1397）も参考にして8期と推定した。4502SIに先行し、4459SIに重複する4460SIは床面直上出土の高杯B（1393）から4期と推定した。4414SIは4459SIに先行することから4期以前と推定されるが、近接する4460SIを4期と推定したことから3期と推定した。1863SIは4502SI出土とした口縁部に刻みを施した甕（1396）が伴っていた可能性が高いと思われること、4460SIとの位置関係から2期と推定した。

Db群4790SI（遺構図版87）

検出状況・先後関係

4790SIは他の竪穴建物と重複しない。時期は竪穴建物の平面形と規模が6期とした

出土遺物・時期

4459SI、3556SIと相互に類似することから、6・7期と推定した。

Db群4357SI・4412SI・4359SI・4360SI・4413SI・

4362SI・4401SI・3055SI・3128SI（遺構図版90～92）

検出状況・先後関係

4357SIと4412SIの先後関係は明確ではないが、4357SI→4412SIと判断した。4401SIは基盤層上に焼土面が露出した地床炉のみを検出した。地床炉は1872SIによって一部が欠失することから、先後関係を4401SI→1872SIと判断した。3128SIは3055SI、3057SI、3025SIを検出する過程で、遺物を包含する竪穴建物の覆土と思われる堆積層が残存するのを確認した。付近に地床炉も確認されたことから、竪穴建物の一部と判断した。覆土とした堆積層は3055SI等、周囲の竪穴建物の覆土上面に堆積していたことから、先後関係を3055SI→3128SIと判断した。

出土遺物・時期

4413SIは上層出土の8期に対応する体部球形の大容量の甕（1411）から7期と推定して、4413SIに先行する4360SIを5期、（4360SIに先行する）4412SIを3期と推定した。4362SIは床面直上と上層出土の高杯B8（1426・1429）、下層出土の加飾広口壺（1428）、上層出土の甕（1431）等、9期と推定される3025SIにも近接（重複）する3128SIは床面直上出土の高杯B7またはB8（1435）等からも（10期から）11期、両者に先行する3055SIは下層出土の内彎口縁甕（1416）、口縁部が屈折気味に外反する加飾広口壺（1423）、上層出土の中型壺（1425）等から7期と推定される。4357SIは上層から遠江系の折り返し口縁壺（1407）が出土しているが、4362SIと4412SIに先行することから1期、3055SIに先行する4359SIは後期から終末期と推定した。4401SIは9期の1872SIに先行し、5期と推定した4360SIに先行する可能性が高いことから後期と推定した。

Db群3556SI（遺構図版92）

検出状況・先後関係

3556SIは他の竪穴建物と重複しない。地床炉周辺の床面直上においては、広口壺（1437）等が良好な状態で出土した。時期は下層出土の甕（1440・1441）から前期初頭（7期前後）と推定される。

Db群3004SI・3029SI・3025SI (遺構図版93・94)

3004SIと3025SIは先後関係を確定しないまま、先行して3004SIの床面までを掘削したが、その過程で3025SIの地床が検出したことで、上位の3025SIの床面を誤って掘削していたことが判明した。その後、3004SI→3025SIの先後関係を土層断面において改めて確認した。3025SIは北東隅の比較的広範囲の床面(基盤層)上が著しく被熱赤変していた。位置は地床がとしては不自然であるが、この位置に重複する他の遺構を想定することも難しく、被熱赤変部分の帰属や性格は判然としない。

検出状況・先後関係

床面の被熱赤変

3029SIと1140SI、3042SIとの先後関係、3025SIとDf群3057SI(・3261SI・3308SI)の先後関係は、重複部分は少ないが、1140SIと3042SIが3029SIに、3057SI(・3261SI・3308SI)が3025SIに先行すると判断した。

3004SIは下層出土の口縁部内面の先端付近に沈線を施した高杯(1442)、椀形高杯(1444)等から5期、3029SIは床面直上出土の緑帯口縁壺(1452)、上層出土の加飾広口壺(1455・1456)、高杯(1460)等から8期と推定される。(10期から)11期と推定した3128SIとも近接(重複)する3025SIは下層出土の口縁部が中彫らみする甕(1462)、内彎口縁甕(1463)等からも9期と推定した。高杯A2(1464)はDf群3057SI(・3261SI・3308SI)からの混入と思われる。

出土遺物・時期

その他、Db群遺構外出土の小型鉢(1474)は、内面に水銀朱が付着する(第4章(5)を参照)。出土地点からは、4413SI上層に伴っていた可能性も推測される。

Db群遺構外出土

Dc群3032SI・5167SI・3056SI・3035SI・3037SI・3005SI・3036SI
(遺構図版95～97)

3032SIと3035SIは重複部分が少なく、土層断面から先後関係を確認できなかったが、3032SIがDa群3027SIに先行することを確認した。3035SIと3027SIについては、重複部分は少ないが、3035SIが先行すると判断した。5167SIは根株の除去後、竪穴建物の北隅付近のみが検出された。3056SI、3037SIとの先後関係は明確ではないが、3076SIに先行することを確認した。

検出状況・先後関係

3005SIは上層に大量の礫が廃棄されていた。下層から床面付近にかけては、広口壺・直口壺(1492・1493等)、椀形高杯(1512・1513)、甕(1519～1522)、大型(甕系)鉢(1529)等の各器種に加えて、塩基性岩製磨石・敲石(3455・3456)が良好な状態で出土した。床面直上には炭化材も散乱していた。

遺物出土状況

3005SI出土土器群は下層が7期、上層が8期を主体とする。先行する3037SIは上層出土の甕(1482)等から5期(から6期)、3037SIに先行する3056SIは上層出土の高杯A3(1479)から2期、3056SIに先行する5167SIは1期(以前)と推定される。3037SIに後出する3036SIは7期以降と推定されるが、3005SIとの位置関係を考慮して、前期前半と推定した。3005SIに先行する3035SIは、7期と推定したDa群3027SIに先行することから5期以前と推定されるが、5期とした3037SIとの位置関係を考慮して4期と推定した。下層出土の口縁部が屈折する広口壺(1486)は、重複する3027SIの床面直上において同型式の個体(1360)出土していることから、3027SIから混入した可能性がある。3035SIと重複する3032SIは3期とした3056SIとの位置関係を考慮して1期と推定した。

出土遺物・時期

Dc群3075SI・3076SI・3079SI（遺構図版98・99）

遺物出土状況 3079SIは南西隅の貯蔵穴3228SK付近で甕（1537・1539）、広口壺（1543・1544）、高杯（1552・1553）等の各器種、片麻岩製置砥石（3497）、花こう岩製台石（3551）等の遺物が集積し、主柱穴3226SK付近で甕（1536）が良好な状態で出土した。3076SIは東隅の床面直上において、内彎口緑壺（1559）が良好な状態で出土した。

出土遺物・時期 3079SI床面直上出土の土器群は甕（1535～1537）、高杯B7（1552）等から9期に対応する。西邊江系の有段（複合）口緑壺（1545）は口縁部外面の文様帯をヘラ状工具による羽状刺突文で充填し、棒状浮文を付す。器表面の風化が著しく、覆土中に混入した可能性が高い。3079SIに先行する3076SIは床面直上出土の内彎口緑壺（1559）、下層出土の椀形高杯（1570）等から7期、3076SIに先行する3075SIは有段口緑壺（1573）から5期と推定される。

Dd群4340SI（遺構図版101）

検出状況・先後関係 他の竪穴建物と重複しない4340SIは主柱穴、地床が検出されなかったことから、住居としての利用を想定することは難しい。上層からは板状の青銅製品（3558）が出土した。

遺物出土状況 出土遺物は少ないが、時期は上層出土の体部文様が羽状刺突文、直線文、単斜刺突で構成される加飾広口壺（1581）も参考にして前期初頭と推定した。

Dd群4337SI・4341SI・4338SI（遺構図版100・101）

検出状況・先後関係 4338SIは4337SI、4341SIの覆土上面に地床がとそれに伴う床面を構築していたことから、4337SI、4341SIに後出することが確定する。4337SI床面直上においては、砂質凝灰岩製台石（3533）が出土した。

遺物出土状況 4337SI下層出土の小型高杯（1588）は形状が高杯B2に類似することから5期と推定される。4337SIに後出する4338SIは下層出土の口縁部が著しく短い小型壺（1595）、上層出土の口縁部下端が肥厚する甕（1593）等から9期と推定される。4337SIに後出し、4338SIに先行する4341SIは下層出土の小型鉢（1582）等からも7期と推定した。

Dd群4336SI・4342SI（遺構図版102）

検出状況・先後関係 4336SIと4342SIは4336SIの地床が4342SIの掘削によって一部が欠失していることから、4336SI→4342SIの先後関係が確定する。

出土遺物・時期 4336SIは掘方出土の高杯B5（1601）、上層出土の粗製化した有段浅鉢（1608）から7期と推定される。4336SIに後出する4342SIは周囲との竪穴建物との位置関係も考慮して9期と推定した。

De群3798SI・3797SI（遺構図版103）

出土遺物・時期 3797SIは床面直上出土の緑帯口緑壺（1612）、甕（1613）、小型丸底壺（1614）、加飾広口壺（1615）から9期と推定される。3797SIに先行する3798SIは3797SIの覆土中に含まれた土器（1616～1620）が3797SIから混入した可能性も考慮して終末期と推定した。

De群3832SI・4770SI・3830SI・3831SI（遺構図版104・105）

検出状況・先後関係 調査時に4770SI→3830SI→3832SIとしたが、3832SIの床面直上に高杯A3（1622・1623）が確実に伴っていること、3832SIの平面形がやや胴張りの長方形、3830SIの平面形が方形を呈することから、3832SIは3830SIに先行する可能性が高く、先後関

係を3832SI→3830SIに修正した。また、3832SI出土土器群中には3830SIに帰属する土器が混在する。4770SIの地床が3830SIの掘削によって失われていることから、4770SI→3830SIの先後関係が確定する。3831SIは平面形が不整で、地床も検出されなかったことから堅穴建物としては明確でなく、堅穴建物の掘方のみを検出した可能性がある。先後関係は3831SI→3830SI・3931SIと推定した。

3832SIは床面直上出土の高杯A3(1622・1623)から3期と推定される。覆土中に含まれた土器(1625～1634)で下層出土の高杯(1624)、加飾広口壺(1625・1628)、内彎口緑壺(1626)、甕(1632)は8期に対応し、本来は3830SIの床面付近に伴っていた可能性が高い。3830SI上層出土の小型壺(1639)からも、3830SIは8期と推定される。小型壺(1639)は体部下位に剥離した痕跡が認められ、二連(三連)土器の可能性もある。3830SIに先行する4770SIは上層出土の甕(1635～1638)から終末期から前期初頭(5・6期)と推定される。3831SIは8期の3830SIに先行すること、周囲の堅穴建物との位置関係から後期から終末期と推定した。

De群4021SI・3932SI・3931SI(遺構図版106)

3932SIの地床が3931SIの掘削によって失われていることから3932SI→3931SIの先後関係が確定する。4021SIと3923SIは重複部分に3931SIが大きく重複するが、先後関係を4021SI→3923SIと推定した。

貯蔵穴4823SKにおいては、脚台が分離した状態で有段口緑甕1個体(1656)が出土した。4823SKは3931SI南隅に配された貯蔵穴の可能性もあるが、周壁溝と重複すること、3931SI出土土器(1646～1655)と時期が整合しないことから、4021SI南西隅の貯蔵穴の可能性が高いと判断した。

3931SIは下層出土の甕(1647)、上層出土の高杯B8(1652)等から10期と推定される。上層出土の小型鉢(1653・1654)は内面に水銀朱、外面にスス(1653)が付着する朱精製用鉢である(第4章(5)を参照)。3931SIに先行する3932SIは下層出土の内彎口緑壺(1643)から6期、3932SIに先行する4021SIは貯蔵穴4823SK出土の有段口緑甕(1656)から4期と推定した。

Df群3308SI・3261SI・3057SI・3281SI・3217SI・3216SI(遺構図版108・109)

3308SI(3261SI・3057SI)は拡張と建て替えに伴う3面の床面とそれぞれに伴う地床を確認した。3261SI・3057SIと3216SI、3217SIと3216SIの先後関係は確定することができなかった。3216SIは南東隅を囲う周境帯を検出した。3217SIは覆土上層に礫が大量に廃棄されていた。

拡張後の3261SIは床面直上出土の底部が突出しない広口壺(1667)、高杯A2またはA3(1668)、上層出土の口縁端部に刻みを施した甕(1671)等から2期、3261SI上面の3057SIは床面直上出土の高杯A3(1672)等から3期と推定される。拡張前の3308SIは1期と推定した。この推定は3308SI(3261SI・3057SI)の平面形がやや胴張りの長方形を呈することからも追認される。

3216SIは甕(1676)、高杯B7(1677・1679・1680・1683)から9期と推定される。3281SIは3期の3057SIに後出する可能性が高く、3217SIと3216SIに先行することから5期、3217SIは3281SIに後出することから7期と推定した。

出土遺物・時期

検出状況・先後関係

遺物出土状況

出土遺物・時期

検出状況・先後関係

出土遺物・時期

Df群3185SI・3282SI・3215SI（遺構図版107）

検出状況・先後関係 3215SIと3282SIは当初、1棟の竪穴建物として検出したが、3215SIの周壁溝の検出により、2棟の重複が判明した。これにより、一部の遺物の採取に混乱が生じている。

遺物出土状況 3185SIの床面直上においては、不明土製品（1690）が出土した。3215SIは貯蔵穴3311SK付近において甕（1691・1692）、広口壺（1698）が良好な状態で出土した。また、床面直上において高杯（1693・1694）、内彎口縁小型壺（1696）、広口壺（1697）、砂質凝灰岩製台石（3534）等が散在して出土した。

出土遺物・時期 3215SIの床面直上出土の土器群は8期（から9期）に対応する。下層出土の加飾広口壺（1701）は口縁部外面の文様帯と口縁部内面に羽状刺突文を施す。3215SIに先行する3282SIは3期の3057SIに後出する可能性が高く、5期とした3281SIと7期とした3217SIに近接することから6期と推定した。床面直上においては、底部を平底とする中型壺（1687）が出土している。3185SIは6期とした3282SI、9期とした3215SI、1期と推定されるFa群の3186SIと近接することから、3・4期と推定した。

Df群3205SI・3206SI（遺構図版110）

遺物出土状況 3205SIの床面直上において、凝灰岩製の円板状石製品（3555）、片麻岩製置砥石（3500）、凝灰質砂岩製手持砥石（3501）が出土した。円板状石製品は紡錘車未成品の可能性がある。貯蔵穴3310SKにおいては、中型壺（1707）、甕（1708）が出土した。

出土遺物・時期 3206SIは床面直上において出土した平底の中型鉢（1710）、高杯B 8（1711）、柳ヶ坪型壺（1712）等から10期と推定される。3206SIに先行する3205SIは体部下位が屈曲気味の菊川式（系）の中型壺（1703）、口縁部が短く内彎する内彎口縁壺（1704）等、特徴的な個体が含まれる。時期は7期（前後）と推定した。

Dg群3117SI（遺構図版111）

検出状況・先後関係 3117SIは削剥が著しく北東辺付近のみを検出した。3121SIとの先後関係も不明である。

出土遺物・時期 地床が薄い焼土面が残存する程度であった。時期は3121SIとの位置関係も考慮して、前期初頭（6・7期）とした。

Dg群3099SI・3121SI（遺構図版112・113）

3099SI北側の下層に高杯（1726・1727）、西遠江系の小型鉢（1730）等がややまとまって状態で出土した。北辺付近には床面からやや浮いた状態で人頭大の粘土塊が出土した。3121SI北側の床面直上にも粘土塊が残されていた。また、片麻岩製台石（3535）と花こう岩製台石（3536）も床面直上から出土した。

出土遺物・時期 3099SIは下層出土の高杯A 3（1726～1728）、底部が突出しない広口壺（1731・1732）から3期と推定される。これらの土器群には西遠江系の小型鉢（1730）と菊川式の（鐮口縁）高杯（1729）が伴う。3121SIは床面直上出土の甕（1733）と高杯（1737）、下層出土の高杯B 7（1738・1739）、パレス系壺（1741）等から9期と推定される。1734は布留式甕とした。

Dg群3098SI（遺構図版111）

検出状況・先後関係 大部分が調査区外で、時期不明とした。器壁が厚い高杯（1747）は高杯B 1が粗製化した型式と思われ、3期の3099SIから混入した可能性が高いと思われる。あるいは3099SIとの重複を見落としていた可能性もある。

(8) 竪穴建物E群

平坦面北緩斜面に分布する総数29棟(実数27棟)の竪穴建物群で、斜面側の6棟(5棟)で構成されるEa群、中央の4棟で構成されるEb群、丘陵平坦面側の19棟(18棟)で構成されるEc群に細分する。斜面側のEa群、中央のEb群は2群程度が一定の間隔を空けて分布するが、丘陵平坦面側のEc群は北東から南西方向にかけて竪穴建物が連続して分布する。また、中央のEb群は西傾斜面(De群)側に複数の柱穴列(5350SA・5450SA・5460SA)を確認した(第22図)。

Ea群3814SI・3811SI・3897SI・3306SI・3404SI(遺構図版114・115)

3897SI(3306SI)は拡張に伴う2面の床面とそれに伴う地床を確認した。

3306SIは東辺の周壁に密着するようにして加飾広口壺の口縁部(1777)が出土した。
3404SIは覆土中に比較的多くの土器(1789～1812)を包含していた。

拡張後の3306SIは高杯B3(1770)、パレス系壺(1777)、加飾広口壺(1778)、内湾口縁壺(1784)等から6期、拡張前の3897SIは5期と推定される。3811SIは上層において高杯B5(1758)が出土しているが、3897SIとの先後関係から3期と推定した。高杯B5(1758)は重複する3306SIからの混入で、上層出土の袋状口縁壺(1765)が竪穴建物の構築の時期に関係する可能性が考えられる。3814SIは5期とした3897SIに先行し、3期とした3811SIに近接することから、1・2期と推定した。3404SIは床面直上出土の内湾口縁壺(1788)、下層出土の加飾広口壺(1789)に加えて、5・6期とした3897SI・3306SIに近接することから7期と推定した。覆土中に含まれる土器群は、パレス系壺(1792)、有段口縁壺(1795)、中型壺(1803・1804)、S字壺B類新段階(1805)、高杯(1809・1810)、小型鉢(1812)等、8期前後に対応する。

棟数と構成

検出状況

検出状況・先後関係

遺物出土状況

出土遺物・時期



第22図 竪穴建物E群の配置

Ea群3669SI（遺構図版116）

検出状況・先後関係 3669SIは他の竪穴建物と重複しない。また、南辺付近を段状に掘り残した掘方を検出した。時期は下層出土の加飾広口壺（1813・1814）、高杯B6（1816）、高杯B5（1817）、椀形高杯（1815）から8期と推定される。

Eb群3376SI・3375SI（遺構図版116・117）

検出状況・先後関係 3375SIは3376SIの覆土上面に床面を構築していることから、3376SIに後出することは確実であるが、南辺に近接して支柱穴を検出したことから、（検出した3376SIに重複する）南辺の位置を誤認している可能性が高いと思われる。3376SIは西隅の床面直上において甕（1821）、地床が付近の床面直上において広口壺（1822）が出土した。3375SIは床面直上において高杯（1824）、甕（1825）、片麻岩製置砥石（3507）が出土した。

出土遺物・時期 3375SIは床面直上出土の高杯B3（1824）から5期と推定される。3375SIの覆土中からは組帯文とも思われる線刻を施した広口壺体部（1832）が出土した。同一個体の体部（1833）は3375SIからやや離れた遺構検出面付近において出土した。3375SIに先行する3376SIは床面直上出土の甕（1821）からも3期と推定した。

Eb群3710SI・3711SI（遺構図版118）

遺物出土状況 3710SIは南辺付近の床面直上において、片麻岩製大型砥石（3509）が出土した。

出土遺物・時期 時期は周囲との竪穴建物との位置関係を考慮して、3711SIを8期、3711SIに先行する3710SIを4期または6期と推定した。

Ec群3898SI・3907SI・3908SI（遺構図版119）

検出状況・先後関係 3898SIは遺構検出面付近で床面の一部と地床が露呈していた。重複する3907SI、3908SIとの先後関係は3898SI→3907SI、3898SI→3908SIと判断した。

出土遺物・時期 3908SIは床面直上出土の口縁部内面を段によって区画する加飾広口壺（1860）等から10期と推定される。3898SIは3907SIに先行し、3908SIに加えて、4期としたDe群4021SI、9期としたDf群3216SIに対しても先行する可能性が高いことから1・2期、3907SIは終末期から前期初頭（3期以降8期以前）と推定した。

Ec群3946SI・3933SI・3948SI・3906SI（遺構図版120・121）

検出状況・先後関係 3946SIは大部分が3906SIと重複する。北西辺付近を検出したのみであるが、先後関係を3946SI→3906SIと推定した。3946SIの平面形が支柱穴配置から長方形を呈する可能性が高いと思われることも、平面形が正方形を呈する3906SIに先行する可能性が高いことを示唆する。3948SIは3933SIの覆土上面において検出した地床を伴う竪穴建物で、周辺に掘方の残存を確認した。

遺物出土状況 3933SIは床面直上から高杯B2（1846・1847）、下層から広口壺（1848）、内彎口縁壺（1849）、椀形高杯（1850）等、5期の良好な土器群に加えて、凝灰質砂岩製磨石（3463）と花こう岩製台石（3537）が出土している。3933SIに後出する3906SIは床面直上において甕（1855）、袋状口縁壺（1856）が出土しているが、（7期以降における）両者の共伴は疑わしく、後者は3906SIに先行する可能性が高い（支柱穴配置が）平面長方形の3946SIに伴っていたことも考えられる。不確定な要素を含むが、遺構の先後関係と周囲の竪穴建物との位置関係、上記の想定を踏まえて、3946SIを2期、3906SIを前期前半（9・10期）と推定し、3933SIに後出する3948SIを前期初頭（7・8期）と推定した。

Ec群3949SI・3947SI・3909SI (遺構図版124)

3949SIは床面付近に礫が集積されていた。時期は最も後出する3909SIが下層出土の高杯B 8 (1883) から10期と推定される。3949SIは10期の3909SI、5期の3933SIに先行する可能性が高いことから後期、3949SIに後出し、5期の3933に近接する3947SIは前期初頭と推定した。

遺物出土状況
出土遺物・時期

Ec群3884SI・3766SI・4174SI・4173SI・3743SI (遺構図版122・123)

4174SI (4173SI) は拡張に伴う上下2面の床面と地床を確認した。3766SIは3743SIに先行することを確認したが、4173SIとの先後関係は確定できない。

検出状況・先後関係

3743SIは床面直上に炭化材、遺物が散在する。有段口緑甕(1902)と中型壺(1903)が良好な状態で出土した4399SKは3743SIの貯蔵穴とも考えられるが、3743SI出土土器(1887～1901)と時期が整合しないことから、先行する3766SIの貯蔵穴とした。

遺物出土状況

3743SIは下層出土の甕(1887～1889)、中型壺(1900)、上層出土の緑帯口緑甕(1892)等から8期、先行する3766SIは貯蔵穴とした4399SK出土の有段口緑甕(1902)、中型壺(1903)から4期と推定される。4174SI・4173SIは8期の3743SI、10期の3909SIに先行することに加えて、4173SI下層出土の口縁端部に刻みを施した甕(1873)から、拡張前の4174SIを5期、拡張後の4173SIを6期と推定した。大部分が3743SI、3742SI、3766SIに重複(先行)する3884SIは後期(1・2期)と推定した。

出土遺物・時期

Ec群4121SI・3742SI・3741SI (遺構図版125～127)

3741SIは遺構検出面に床面と焼土面が露呈し、3742SIとの先後関係の確定も難しい。3742SIは覆土中から床面付近にかけて礫と遺物(1904～2053)を大量に包含していた。出土した遺物は相対的な上位を上層、下位を下層に区分した。床面付近には炭化材が散在する。中央付近に配された土坑4300SKは炭化材、炭化物が濃密に含まれ、粘土塊、甕(2054)等も散見された。南東隅に配された貯蔵穴4305SKは、土坑内に粘土が充填され、土坑周辺の床面上にも粘土が盛り上がった状態で残されていた。

検出状況・先後関係

3742SIの覆土中に含まれた土器群は5・6期を主体とする。甕は有段口緑甕A(1906・1907・1919～1922)が一定量組成する。その他、有段口緑甕B(1908)、内彎口緑甕(1923・1924)、庄内式と推定される大型甕(1904)が含まれる。く字甕は口縁部先端が先細りする形状(1912等)を典型とする。鉢は大型(甕系)鉢(1959)を含み、その他、有段浅鉢(1957)、小型鉢(1966～1968)がある。1968は内面に水銀朱が付着する。椀形高杯は著しく杯部が浅い個体(1969・1970)、杯部が深い個体(1973)がある。高杯(1981～1998)はB 2、B 3、B 4で構成される。壺は大型の有段口緑甕(2002)、有段口緑甕(2003・2004)、直口壺(2005)、パレス系壺(2033・2034)がある。その他の加飾広口壺は口縁部に羽状・単斜刺突を多用する個体が多い(2035～2044)。

出土遺物・時期

3741SIは高杯B 7(2057・2059)、内彎口緑甕(2056)、広口壺(2058)から9期、大部分が3742SIに重複する4121SIは後期または終末期(4期以前)と推定した。

Ec群3651SI (遺構図版119)

3651SIは上層に礫が集積され、礫に混在して遺物が出土した。高杯A 3(2061・2063)、内彎口緑甕(2072・2073)等、覆土中に3・4期の土器が混在するが、下層出土の高杯B 8(2062)から構築は10期と推定される。

遺物出土状況
出土遺物・時期

（9）竪穴建物F群

棟数と構成 丘陵頂部の平坦面に分布する総数 37 棟（実数 31 棟）の竪穴建物群で、西（北西）側の 9 棟（8 棟）で構成される Fa 群、南（南西）側の 9 棟（8 棟）で構成される Fb 群、北（北東）側の 12 棟（9 棟）で構成される Fc 群、東（南東）側の 7 棟（6 棟）で構成される Fd 群に細分する。各群には大型竪穴建物が分布し、Fc 群にはやや大型の掘立柱建物 5000SB が混在する（第 23 図）。

Fa群4309SI・3211SI・4311SI・4193SI・4310SI・3190SI・3186SI・3188SI
 （遺構図版128～131）

検出状況・先後関係 4311SI（4193SI）は立て替えに伴う上下2面の床面とそれに伴う地床が確認した。4311SI（4193SI）には3211SI、4310SI、4309SI、3190SIが大きく重複し、各竪穴建物の平面形が正確に把握できなかった部分も多い。採取した遺物についても一部に混乱がある。3211SIと4309SIの先後関係については、4310SIが大きく重複し、確認は困難であった。

4310SIは調査時に3211SIの地床がの一部が4310SIの掘削によって欠失していることを根拠として、北（北東）辺の位置を求め、それに含まれない北（北東）側の竪穴建物の掘り込みを4310SIとは異なる竪穴建物として認識したが、4310SIの北（北東）辺と西（北西）辺が主柱穴と近接することから、4310SIの北（北東）辺と西（北西）辺は3211SIの床面直上で出土した（4310SIの掘削が及ばなかった）土器群付近にまで求められる可能性が高いと思われる。3211SIの地床がとして検出された焼土面が小範囲であることも、4310SIと3211SIの床面の高さを勘案すると、4310SIの構築に伴う削測によるものと判

【Fa群】

3211SI→4310SI
 4309SI→4311SI→4193SI（建て替え）→3190SI・4310SI
 3186SI→3188SI→3190SI

【Fb群】

3148SI→3221SI
 3257SI・3148SI・3327SI・3781SI→3149SI

【Fc群】

3824SI→3283SI→3305SI→3815SI
 3223SI→3304SI→3283SI→3305SI→3815SI
 3623SI（監視）→3388SI→3389SI
 3481SI→3422SI

【Fd群】

3274SI→3145SI・3146SI
 3321SI→3378SI（Ha群）
 （3747SI→3273SI）



第23図 竪穴建物F群の配置

断される。なお、4310SIの北東隅（の掘り込みとした部分）については、根の擾乱により、竪穴建物の形状が損なわれている。

3211SIの北辺付近の床面直上においては、土器群（2078～2086）を良好な状態で検出した。土器群には炭化材も混在する。遺棄時の土器群の大部分または一部分は後出する4310SIの掘削によって失われていると思われる。4309SIの床面直上においては、安山岩製手持砥石（3514）、片麻岩製置砥石（3515）が出土し、上層からも安山岩製手持砥石（3513）が出土した。3190SIの床面直上においては、花こう岩製磨石・砥石（3465）が出土した。

3211SI床面直上の土器群は、高杯（2078～2080）、碗形高杯（2081）、甕（2082）、広口壺（2083・2084）、大型（甕系）鉢（2085・2086）により構成される。覆土下層出土の袋状口緑壺（2087）も含めたこれらは4期の良好な土器群である。高杯（2078）は脚部が内彎して開き、杯部は深い半球形を呈する。形状が類似する高杯は西遠江地域に多い。

立て替え前の4311SIは床面直上出土の高杯B3（2107）、S字甕A類（2109）から6期、立て替え後の4193SIは床面直上出土の中型壺（2112）からも7期と推定される。4期の3211SI、6・7期の4311SI（4193SI）に後出する4310SIは下層出土の高杯B7（2127）、上層出土の高杯B8（2128）から9期、同じく4311SI（4193SI）に後出する3190SIは床面直上出土の高杯B8（2140）、甕（2131）等から10期と推定される。3190SIの床面直上出土とした高杯B2（2138）、B5（2139）は出土位置と層位から、前者は下位の4309SI上層、後者は4193SIに伴う可能性が高い。甕（2130）も後者と同様の可能性がある。その他、4期に相当すると思われる袋状口緑壺（2146）、遠江系の折り返し口緑壺（2145）、7・8期に相当すると思われる加飾広口壺（2144）、庄内系高杯（2143）が混在する（混入または誤認）。

3190SIに先行する3188SIは、下層出土の甕（2162）、上層出土の大容量の甕（2163）、加飾広口壺（2165・2166）、叩きを施したとみられる内彎口緑壺（2167）から8期と推定される。3186SIは床面直上出土の口縁端部に刻みを施した甕（2156）、下層出土の甕（2158）、上層出土の甕（2160）から1期と推定される。下層出土の口径が大きく口縁部が内彎する甕（2159）、上層出土の加飾広口壺（2161）は8期の3188SIからの混入と考えられる。4309SIは6・7期の4311SI（4193SI）に先行し、4期の3211SIとも重複することから、後期（1・2期）と推定される。

Fa群3150SI（遺構図版132・133）

大型竪穴建物3150SIは他の竪穴建物と重複しない。覆土の一部については、備いによる土壤選別を実施し、凝灰岩製石製鈴鐺車（3553）を採取したが、他の特徴的な遺物は抽出されなかった。

出土遺物は全体に少ないが、下層からは凝灰岩製置砥石（3510）が出土した。下層出土の有段口緑壺（2168）は3期から4期、上層出土の有段口緑壺（2169）、口縁端部に刻みを施した甕（2171）は前期初頭に対応すると思われ、それぞれ遺構の上層と下層の時期を示す。1・2期と推定した4309SI、2・3期と推定されるFb群3257SI（後述）、6・7期と推定した4311SI（4193SI）と近接することからも、3150SIの時期は4・5期と推定される。

遺物出土状況

出土遺物・時期

検出状況・先後関係

遺物出土状況

出土遺物・時期

Fb群3257SI・3148SI・3303SI・3221SI・3327SI・3781SI・3149SI
 (遺構図版134~136)

検出状況・先後関係	3149SIは各辺に壁柱穴をもつ壁立ち式の竪穴建物で、規模も最大である。3781SIは壁立ち式の大型竪穴建物3149SIの床面の構築に伴って埋め戻されている状況が土層断面によって確認される。3221SIは3148SIの覆土上面（遺構検出面）において検出した地床がから想定した。平面形やその他の付属施設は確認されなかった。3303SIは3257SI、3149SIと重複するが、3303SIの南半は削剥され、先後関係を確認することはできなかった。
遺物出土状況	壁立ち式の大型竪穴建物3149SIは全体に出土遺物が少ないが、覆土下層と覆土上面において大型の管状土鍾2点（2196・2197）、覆土上層において不明鉄製品（3567）が出土した。覆土の一部については、篩いによる土壌選別を実施したが、特徴的な遺物は抽出されなかった。3148SI上層（または3148SIの覆土上面を床面とする3221SI床面直上）においては、礫が集積され、遺物も混在していた。
出土遺物・時期	3148SIは床面直上出土の内罎口緑壺（2198）、小型壺または西遠江系の小型鉢（2199）から5期と推定される。上層は6期のバレス系壺（2204）、3期の高杯A3（2210）、8期の高杯B6（2211）等を含む。3303SIは床面直上出土の高杯B（2212）から6期と推定される。 5期の3148SIに後出し、6期の3303SIにも後出する可能性が高い3149SIは、下層出土の高杯B8（2180）、上層出土の加飾広口壺（2187）、内罎口緑甕（2191）、有段口緑甕B（2192）、緑帯口緑甕（2193・2194）等、覆土中に9期から10期の土器を包含するが、10期と推定されるFd群3146SI（後述）に近接することから、9期（から10期）と推定される。これにより、3148SIに後出し、3149SIと重複（先行）する可能性が高い3221SIは7期（前後）と推定した。3148SI上層出土の土器（2203～2211）のいずれかが3221SIの時期に対応する可能性もある。その他の3149SIに重複する3257SI、3327SI、3781SIは出土遺物が少なく、時期の推定は困難である。3257SIは6期の3303SIと重複し、それに先行する可能性が高いことから、後期から終末期（4期以前）、3327SI、3781SIは後期から前期初頭（7期以前）と推定した。
	Fb群3097SI・3316SI（遺構図版133）
検出状況・先後関係	3097SIは南半が調査区外に展開するが、壁面の土層断面を参考にすると竪穴建物の平面形は長方形に復原される。時期は床面直上出土の高杯A2（2215）、下層出土の高杯（2216）から2期と推定される。8期以降に対応すると思われる加飾壺（2218）、甕（2219）は出土状態が不安定な個体で、混入（または誤認）の可能性が高い。
出土遺物・時期	3316SIは大部分が調査区外で、時期も不明とした。
Fb群遺構外出土	その他、Fb群遺構外出土の小型鉢（2221）は内面に水銀朱が付着する朱精製容器である（第4章（5）を参照）。3149SI等に伴っていた可能性も想定される。
	Fc群3824SI・3223SI・3304SI・3283SI・3305SI・3815SI（遺構図版138~141）
検出状況・先後関係	3824SIは削剥が著しく、検出面付近で床面と地床が露呈する。土層断面から3824SI→3283SIの先後関係を確認したが、3304SI、3147SIとの先後関係を確定することはできなかった。3305SIも削剥が著しく平面形も不確定な部分が多いが、3283SIの覆土上面において地床が検出したことから、3283SI→3305SIの先後関係が確定す

る。さらに、3305SIの覆土上面(遺構検出面)において検出した地床が伴う堅穴建物を3815SIとした。3305SIは主柱穴配置も復元されるが、検出した堅穴建物の平面形に対して柱間が著しく短いことから、主柱穴が上位の3815SI(堅穴建物の平面形は不明)に伴う可能性、あるいは3305SIから3815SIへの建て替え(拡張)も想定される。

3304SI地床が周辺の床面直上には礫が散在する。3283SIの覆土上層には大量の礫が投棄され、礫群中には比較的多くの土器(2245～2277)も混在していた。3304SIに伴う貯蔵穴4373SKにおいては、甕の脚台付近のみ5個体(2240～2244)が出土した。

3223SIは床面直上出土の高杯B1(2225)、底部の突出が弱い広口壺(2226)、下層出土の加飾広口壺(2277)、貯蔵穴4398SK出土の椀形高杯(2228)が4期に対応する。3283SI上層出土土器群は後期から前期初頭の土器が混在する。高杯B5(2274)、底部が明確に突出する短頸直口の中型壺(2261)等が土器群の下限の時期に近いと思われ、4期の3223SI、さらに3304SIに後出することからも3283SIを8期と推定した。これにより、3304SIは6期と推定され、床面直上出土の高杯(2234)等の出土土器とも整合する。3305SIは3283SIに後出することから(9期から)10期、3305SIに後出する3815SIは(10期から)11期と推定した。3824SIは3期と推定される3147SI(後述)と6期とした3304SIと重複し、8期とした3283SIに先行することから1期と推定した。

Fc群3623SI・3388SI・3389SI(遺構図版142・143)

大型堅穴建物3623SI(3388SI)は二重に確認された主柱穴と周壁溝から、3623SIから3388SIに拡張されたと判断した。3623SI(3388SI)の南隅に配された土坑4015SKは貯蔵穴としては著しく深く、大型掘立柱建5000SBの棟持柱に対応する柱穴とも考えられたが、Gb群の大型堅穴建物3409SIの貯蔵穴4038SK、3407SIの貯蔵穴4097SKの貯蔵穴も同様に深いことから、3623SI(3388SI)の貯蔵穴とした。4015SKからは2個体の甕の脚台(2328・2329)が出土した。主柱穴4022SKにおいては、礫群に混在して大型(平底)鉢(2295)、甕の脚台付近のみ4個体(2296～2299)が出土した。また、南隅付近の床面直上において、花こう岩製台石(3540)が出土した。3389SIは3623SI(3388SI)の覆土上面において地床がとそれに伴う床面を確認したが、堅穴建物の平面形と地床が、復元した主柱穴相互の位置関係は不自然であることから、いずれかを誤認している可能性がある。床面直上においては、花こう岩製台石(3541)が出土した。

拡張後の大型堅穴建物3388SIは床面直上出土の椀形高杯(2280)、下層出土の高杯B4またはB5(2281)、内頸口縁小型壺(2287)等から7期、拡張前の3623SIは掘方出土の高杯(2279)からも6期と推定される。3388SIに後出する3389SIは、10期と推定されるGb群3407SIに近接することから、9期と推定した。

Fc群3481SI・3422SI・3147SI(遺構図版137)

3481SIの覆土上面(遺構検出面)において地床を検出した。平面形等は不明であるが、地床が帰属する堅穴建物を3422SIとした。

3481SIは体部外面下半を赤彩した加飾広口壺(2278)が4期とした3223SI出土の個体(2227)に類似することから終末期、3481SIに後出する3422SIは前期初頭から前期前半(8期から10期)と推定した。他の堅穴建物と重複しない3147SIは、床面直上・下層出土の高杯A3またはB1(2307～2309)から3期と推定される。

遺物出土状況

出土遺物・時期

検出状況・先後関係

遺物出土状況

検出状況・先後関係

遺物出土状況

出土遺物・時期

検出状況・先後関係

出土遺物・時期

Fd群3274SI・3145SI・3146SI（遺構図版144～146）

- 検出状況・先後関係 大型竪穴建物3145SIは3274SIと重複し、3274SIに後出することを確認した。
- 遺物出土状況 3145SIは床面直上出土のバレス系壺（2333）、下層出土のS字甕（2339）等から8期と推定される。3146SIは床面直上出土の高杯B 8（2532・2553）、下層出土の中型壺（2357）等から10期と推定される。3145SIに先行する3274SIは出土遺物が少ないが、椀形高杯と思われる個体（2340）から、終末期と推定した。

Fd群3747SI・3273SI・3275SI（遺構図版147）

- 検出状況・先後関係 3747SIと3273SIについては、調査時に3273SIが3747SIに先行すると判断したが、3274SIの南西辺付近で3273SIの地床がと思われる焼土面が検出され、西隅付近でも甕（2342）等が良好な状態で出土したことから、3747SIが3273SI埋没後に重複して掘り込まれていることは考えにくく、3273SIの掘削によって、3747SIの大半が失われたと判断し、先後関係を3747SI→3273SIに修正した。3273SIの北東半は検出されていないことから、北隅付近は後出する3145SI、後世の擾乱によって失われ、北東辺と南東辺の大部分は3747SIとの重複によって3273SIの掘り込みを見落とされたと思われる。この理解によれば、土坑3871SKは3273SIの東隅に配された貯蔵穴の可能性も考えられることになる。先行する3747SIは3273SIの重複によって大半が失われ、大部分は周壁溝と柱穴のみが残存したと考えられる。

なお、3747SIの北西辺の中央付近には基盤層を掘り残した（削り出した）高まりが認められた。高まりが残された部分には3273SIも重複し、その解釈には窮するが、あるいは基盤層の掘り残し（削り出し）ではなく、土盛り（置き土）を誤認した可能性もある。断ち割り調査の記録や所見が確認できないので、これ以上の推断は難しい。

3747SI、3273SIに近接する位置の基盤層上では焼土面が検出された。平面形等は不明であるが、地床が所属する竪穴建物を3275SIとした。

- 遺物出土状況 3273SIの南西辺付近の床面直上においては、甕（2342）、広口壺（2344）等の土器に加えて、凝灰質砂岩製礫石（3470）、凝灰岩製置礫石（3516）、片麻岩製台石（3542）が出土した。
- 出土遺物・時期 3273SIは3747SIの遺物が混在している可能性もあるが、床面直上出土の甕（2342）、高杯B 4（2350）から6期と推定される。有段口縁甕（2341）は3273SIに伴う可能性もあるが、型式的に先行すると判断して、3273SIに先行する3747SIに伴う個体とした。これにより、3747SIを3期（から4期）と推定した。3275SIは周囲の竪穴建物との位置関係を考慮して前期前半と推定した。

Fd群3321SI（遺構図版145）

- 検出状況・先後関係 3321SIは削削が著しく、大型竪穴建物3145SI、Ha群3378SIと重複する部分もわずかで先後関係を確定することは難しいが、3378SIとの先後関係を3321SI→3378SIと判断した。時期は床面直上出土の有段口縁甕（2358）から終末期と推定した。
- 出土遺物・時期

(10) 竪穴建物G群

丘陵頂部の平坦面北東斜面上段に分布する総数 21 棟 (実数 20 棟) の竪穴建物群で、北向き斜面側の 9 棟で構成される Ga 群、丘陵側の 6 棟で構成される Gb 群、北東向き斜面側の 6 棟 (5 棟) で構成される Gc 群に細分する。丘陵側の Gb 群には (壁立ち式の可能性がある) 大型竪穴建物が含まれる (第 24 図)。

Ga群3606SI (遺構図版148)・3605SI (遺構図版148)・3620SI (遺構図版149)

3605SI、3606SI、3620SIは他の竪穴建物と重複しない。

3605SIの北西辺付近の床面直上においては、花こう岩製台石 (3544) が出土した。竪穴建物南半の床面直上においては加飾広口壺 (2361)、広口壺 (2362) が出土し、下層から上層にかけても、比較的多くの土器が包含されていた (2363～2382)。

3605SIは覆土中に各時期の土器が混在するが、床面直上出土の内面を段によって区画し、ハケ状工具による羽状刺突文を施した加飾広口壺 (2361) から 10 期と推定される。上層から出土した広口壺と思われる個体の体部 (2381) の外面には線の描出が明瞭な線刻がある。3606SIは床面直上出土の甕 (2383)、加飾広口壺 (2384) から 5 期と推定される。3620SIは床面直上出土の内彎口縁甕 (2385) から前期前半と推定した。

Ga群3624SI・3668SI (遺構図版149)

3624SI、3668SIは後世の大溝 1900SD によって大きく欠失する。両者の位置関係から 1 棟の平面長方形の竪穴建物の可能性も考えられたが、床面の高さが異なることから、別個の竪穴建物と判断した。いずれも時期の確定は難しいが、5 期の 3606SI、6 期の 3609SI、8 期の 3607SI と方位が近似することから、終末期から前期初頭と推定した。

棟数と構成

検出状況

検出状況・先後関係

遺物出土状況

出土遺物・時期

検出状況・先後関係

出土遺物・時期

【Ga 群】

3609SI→(3607SI)・3608SI

3728SI→3609SI

【Gb 群】

3406SI→3409SI→3405SI→3407SI

3409SI→3408SI・3704SI→3407SI

【Gc 群】

3621SI→3622SI

5785SI→6054SI→3622SI(拡張)→5784SI



第24図 竪穴建物G群の配置

Ga群3728SI・3609SI・3607SI・3608SI（遺構図版150・151）

検出状況・先後関係

3607SIと3609SIは重複部分が少なく、先後関係の確定は難しい。3609SIは南東辺付近、貯蔵穴3912SKをそれぞれ囲む周堤帯が伴う。

遺物出土状況

3609SI 南半の床面付近から覆土中には大量の礫が混入し、遺物（2395～2404）も混在する。

出土遺物・時期

3609SIは床面直上・上層出土の高杯B 4（2393・2395）、椀形高杯（2398）、広口壺（2401）等から6期、3609SIに先行する3728SIは貯蔵穴3921SK出土の大型（平底）鉢（2387）、袋状口縁壺（2388）からも4期と推測される。3607SIは下層出土の加飾広口壺（2389）から（3609SIに後出する）8期、3608SIは下層出土の小型高杯（2391）、高杯（2392）から前期前半と推測した。

Gb群3406SI・3409SI・3405SI・3408SI・3704SI・3407SI（遺構図版152～154）

検出状況・先後関係

Gb群は大型堅穴建物3409SI、3407SIとそれに重複する中小の堅穴建物で構成される。3409SIは北辺と西辺、3407SIは残存する各辺に壁柱穴と思われる小柱穴が検出されたことから壁立ち式の可能性がある。各堅穴建物の平面形や先後関係の把握はかなり困難で、床面付近を精査する段階でようやく堅穴建物の棟数、平面形が確定した。帰属が不確かなまま採取した遺物も少なくなく、「3407SI他」とした遺物（2458～2493）には、Gb群中の帰属が曖昧な遺物を含めた。

出土遺物・時期

3409SI、3405SI、3704SIの覆土上面で3407SIの地床跡とそれに伴う床面が検出されたことから、3409SI・3405SI・3704SI→3407SIの先後関係は確定する。

（壁立ち式の可能性がある）大型堅穴建物3409SIの貯蔵穴4038SK、3407SIの貯蔵穴4097SKは、他の堅穴建物に伴う貯蔵穴と比して著しく深い。前者は中層から上層にかけて小型鉢（2435）、甕（2436）、内彎口縁壺（2437）が出土した。後者は上層に礫が集積され、土坑の中心付近には広口壺の体部破片が敷かれたような状態で残されていた。

3407SI床面直上・下層出土遺物（2445～2453）、貯蔵穴4097SK出土遺物（2454・2455）は3407SIに帰属する可能性が高いが、3407SIへの帰属が確定ではない遺物については「3407SI他」とした（2458～2493）。後者には各時期の土器が混在し、変容したバレス系壺（2465・2466）、菊川式の広口壺（2467）、体部に連弧文を施した内彎口縁壺（2472）、S字甕A類（2482）、低脚の（不明）器種（2487）等も含まれる。

小型の堅穴建物3405SIは3407SIと大きく重複し、10期に対応すると思われる上層出土の小型の内彎浅鉢（2442）はGb群中で最も後出する3407SIの床面付近に伴っていた可能性が高い。これにより、後出する3407SIを10期、3407SIに先行する3405SIを8期、3407SIに先行し、3405SIに近接する小型の堅穴建物3704SIを7期と推定した。

3405SIと3704SIに先行する3409SIは床面直上出土の小型高杯（2421）、椀形高杯（2422）、下層出土の小型壺または小型鉢（2425）、上層出土の有段口縁壺（2433）等から5期と推定される。3409SIに先行する3406SIは床面直上出土の広口壺（2409）以外に、良好な出土状況を示すものが少ないが、口縁端部に刻みを施した甕（2415・2416）、上層出土の有段口縁壺（2417）等から3期と推定した。上層出土の小型壺または小型鉢（2413）は、重複（後出）する3409SIからの混入した可能性がある。3409SIに後出し、3407SIに先行する3408SIは8期のGa群3607SIと近接することから7期と推定した。

Gc群3621SI・5785SI・6054SI・3622SI・5784SI（遺構図版156～158）

6054SIは3622SIの内側において検出された周壁溝から想定した竪穴建物で、6054SIから3622SIへの拡張と判断した。5784SIは5785SIと3622SIの覆土上面に地床柱とそれに伴う床面を構築していることから、5785SI→5784SI、3622SI→5784SIの先後関係が確定する。5785SIの床面はほぼ全面が硬化し、明瞭に検出された。

検出状況・先後関係

3622SIは床面直上において、高杯（2567～2570）が良好な状態で出土した。5785SIは床面直上において、有段口縁甕（2581）、椀形高杯（2583・2584）、短頸壺（2589）が良好な状態で出土した。5785SIの貯蔵穴6018SKは主柱穴と同様に著しく深く、底面からやや浮いた位置で口縁端部に刻みを施した甕（2596）が出土した。また、南東辺付近の下層覆土中から銅鍍（3557）と思われる青銅製品が出土した。

遺物出土状況

5785SI床面直上出土の土器群（2581～2589）は4期の良好な一括資料である。有段口縁甕（2581）は加飾を伴わず、全体に器壁が薄い。椀形高杯は杯部が深い個体（2583）と浅い個体（2584）がある。覆土中に含まれた土器（2590～2595）もほぼ同時期に対応する。

出土遺物・時期

3622SI床面直上出土の高杯B4（2567・2568）、上層出土の内彎口縁壺（2576）、S字甕B類古段階（2579）は6期から7期に対応する。有段高杯（2570）は出土状況から、内彎する円錐形の脚部ではなく、脚部が大きく開く脚部が伴うと判断した。6054SI、3622SIは4期の5785SIと接することからも6054SIは（5期から）6期、3622SIは（6期から）7期と推定される。6054SI（3622SI）に先行する（5785SIにも接する可能性が高い）3621SIは床面直上出土の口縁端部に刻みを施した甕（2558・2559）から2期、後出する5784SIは前期前半と推定した。

Gc群5770SI（遺構図版155）

小型の竪穴建物5770SIは他の竪穴建物と重複しない。覆土中には大量の礫と遺物（2494～2557）を包含する。取り上げに際しては、相対的に覆土の上位において出土した遺物を上層、下位において出土した遺物を下層とした。

検出状況・先後関係

出土土器群は7・8期を主体とする。甕は有段口縁甕A（2494）はごく少なく、内彎口縁甕（2498）、縁帯口縁（平底）甕（2523）、平底甕（2524）も散見される。内彎口縁壺（2527）、小型壺または小型鉢（2532）、内彎口縁小型壺（2533）は内彎が形骸化する。高杯は高杯B5、B6（2540～2550）で構成される。椀形高杯は少ない。2539は遺江系とも思われるが、系譜や時期の詳細は不明である。

出土遺物・時期

(11) 堅穴建物H群

棟数と構成

丘陵頂部平坦面南東斜面上段に分布する総数36棟（実数33棟）の堅穴建物群で、丘陵北西側の17棟（16棟）で構成されるHa群、丘陵南西側の9棟で構成されるHb群、北東向き斜面側の10棟（8棟）で構成されるHc群に細分する。堅穴建物はHa群とHb群に濃密に分布し、Ha群には（壁立ちの可能性が有る）大型堅穴建物、Hb群には布張り柱掘方をもつ大型掘立柱建物6000SBが混在する（第25図）。

Ha群5808SI・3791SI・3380SI（遺構図版159・160）

出土状況・先後関係

大型堅穴建物3380SIの北東辺の周壁溝の内側に周溝が確認されたことから、それを拡張前の堅穴建物3791SIに伴うものと判断した。

出土遺物・時期

3380SI（3379SI）は良好な出土状況を示す遺物は少ないが、床面直上出土の甕（2602）、中型壺（2608）、下層出土の椀形高杯（2615）、掘方出土の内彎口縁壺（2611）、上層出土のバレス系壺（2620）、広口壺（2621）等、8・9期に対応する個体が多く、拡張を伴う3380SI（3791SI）を8・9期と推定した。5808SIは3380SI（3379SI）に先行することから、後期から終末期（6期以前）と推定した。

Ha群3323SI・6212SI・3379SI・4991SI・5653SI・5637SI・3378SI
（遺構図版160～162）

出土状況・先後関係

3378SIは4991SIの覆土上面に地床跡を伴う床面が構築されていることから、4991SI→3378SIの先後関係が確定するが、3378SIの平面形は正確に把握することができなかった。

遺物出土状況

5653SIの南隅付近の床面直上においては、花こう岩製磨石（3473）と凝灰岩製置砥石（3518）が出土した。5653SIに重複する小土坑5708SK内には、高杯1個体（2693）が逆位で埋置されていた。5708SKは堅穴建物または掘立柱建物に付属する柱穴の可能性もあ

5708SK

【Ha群】

(5808SI→)3791SI→3380SI(拡張)
3323SI→4991SI→3378SI
6212SI→4991SI→5653SI→5637SI・3329SI
(6212SI→)3379SI→3380SI
5635SI→5633SI 5635SI→5634SI
(3328SI→3330SI)
3320SI→(5653SI・)3329SI

【Hb群】

5651SI→5652SI
5705SI→5700SI→5702SI
5706SI・5705SI・5704SI→5703SI→5702SI

【Hc群】

5545SI→5547SI
5668SI→5667SI
5556SI(下面)→5546SI(上面)→5548SI



第25図 堅穴建物H群の配置

るが、付属する建物は特定できなかった。その他、3378SIの覆土上面において、大型の板状鉄斧(3562)が出土した。

3379SIは口縁端部に刻みを施した甕(2629)、上層出土の袋状口縁壺(2631)、高杯A2(2632)から3期と推定される。一部分のみを検出した3323SIと6212SIは3379SIに先行する後期(1・2期)と推定した。3378SIは下層出土の高杯B8等から10期(から11期)、3378SIに接する5637SIは下層出土の高杯B7(2642)、主柱穴5974SK出土の甕(2647)等から9期と推定される。下層出土の把手付容器(2645)は木製容器からの転写と考えられる。5634SIと接合関係にあることから、5634SIから混入した可能性もある。5653SIは5637SIに先行することから7期、4991SIは5653SIに先行することから5期と推定した。4991SI下層出土のバレス系壺(2633)は7期に対応することから、本来は5634SI(後述)に伴っていた可能性がある。

Ha群5635SI・5634SI・5633S(遺構図版164~166)

5633SIは5635SIの覆土上面に地床が伴う床面が構築されていることから、5635SI→5633SIの先後関係が確定する。5634SIと5635SIは重複部分が少ないが、先後関係を5635SI→5634SIと判断した。5634SIと5633SIの先後関係は確定できなかった。

5635SIの地床は花こう岩の棒状礫と花こう岩製台石(3545)を転用して使用している。5634SIの南東辺付近の床面直上においては、凝灰岩製台石(3543)が出土した。

5633SIは下層出土の高杯(2661)、上層出土の甕(2662)等から10期、5633SIに先行する5634SIは下層出土のS字甕B類古段階(2648)、甕(2649)等から7期と推定される。5635SIは5634SIに先行することから終末期と推定した。

Ha群3320SI・3328SI・3330SI・3329SI(遺構図版163)

3328SIと3330SIは3328SIの周壁溝に沿って散在する炭化材が3330SIと接する南東辺付近には認められないことから、先後関係を3328SI→3330SIと判断した。3328SIの地床が付近の床面直上においては甕(2670)が出土した。

最も後出する3329SIは下層出土の甕(2673・2674)等からも10期(から11期)、3329SIに先行する3330SIは下層出土の高杯B7(2686)、庄内系高杯(2688)等から9期、3330SIに先行する3328SIは床面直上出土の甕(2670)、上層出土の庄内式甕(2671)と手埴形土器(2672)等から7期と推定した。3320SIは7期の5653SIに先行する可能性が高いことから後期から終末期(4期以前)と推定した。

Hb群5649SI・5651SI・5652SI・5700SI・5705SI・

5706SI・5704SI・5703SI・5702SI(遺構図版167~169)

5649SIは5651SI、5705SIと接するが、両者との先後関係は確認できなかった。5700SIは遺構検出面に地床が露呈した状態で、掘方のみを確認した。5652SIとの先後関係は土坑5851SKの重複により判然としませんが、5652SI→5700SIと判断した。5702SIは炭化材と炭化物が散在する範囲を考慮して検出したが、掘り込みが浅く、平面形が著しい長方形を呈すること、床面が曖昧で、地床が主柱穴も検出されなかったことから、堅穴建物としてはやや不確実である。

5652SIに伴う貯蔵穴5844SKにおいては、内嚢口縁(小型)壺(2708)が良好な状態で出土した。5705SIに伴う貯蔵穴5830SKの上面においては、広口壺の体部(2712)が

出土遺物・時期

検出状況・先後関係

遺物出土状況

出土遺物・時期

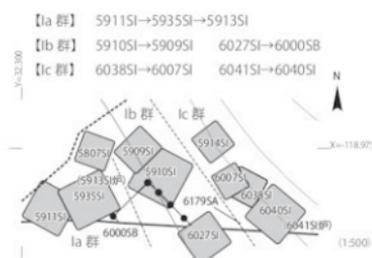
検出状況・先後関係

出土遺物・時期

検出状況・先後関係

遺物出土状況

- 敷かれたような状態で出土した。5649SI は床面直上に炭化材が良好な状態で検出された。
- 出土遺物・時期 良好な状態で遺物が伴う竪穴建物は少なく、時期の推定は遺構の先後関係に依拠する部分が大きいが、5652SI の貯蔵穴 5844SK 出土の内彎口縁（小型）壺（2708）は 7 期に対応し、5652SI に後出する可能性が高い 5700SI は 9 期、5700SI に後出する 5702SI は 10 期（から 11 期）と推定した。5649SI は上層出土の加飾広口壺（2700）から 6 期、5703SI は床面直上出土の甕（2713）等から 8 期、5703SI に先行する 5704SI は床面直上出土の甕（2709）等から 5 期と推定した。7 期の 5652SI に先行し、6 期の 5649SI と接する 5651SI、8 期の 5703SI に先行する 5705SI と 5706SI はいずれも後期から終末期（4 期以前）と推定した。
- Hc 群 5545SI・5547SI（遺構図版 170）
- 検出状況・先後関係 5545SI は地床が土器片（未図化）が立位に埋め込まれていた。床面直上においては、炭化材に混在して高杯（2726～2728）、甕（2729）等が良好な状態で出土した。また、南西辺付近と南東辺付近の床面直上から下層には花こう岩製台石（3546・3547）が正位で置かれていた。
- 出土遺物・時期 5545SI 床面直上出土の高杯は高杯 B 2（2726）、B 3（2727）、厚手粗製の高杯（2728）で構成され、5 期に対応する。5545SI に後出する 5547SI は下層出土の高杯 B 7 または B 8（2751）等から 10 期と推定される。
- Hc 群 5668SI・5667SI（遺構図版 171）
- 遺物出土状況 5668SI の北東辺付近の床面直上においては、片麻岩製台石（3548）が出土した。
- 出土遺物・時期 5667SI は下層出土の内彎口縁壺（2756）から 7 期、5667SI に先行する 5668SI は、5 期の 5545SI とともに近接し、後期の 5556SI（5546SI）とも重複することから、4 期と推定した。
- Hc 群 5556SI・5546SI・5636SI・5548SI（遺構図版 172）
- 検出状況・先後関係 5556SI の覆土上面において検出された散在する焼土面を平面形は不明ながら、5546SI の地床がとした（建て替えの可能性はある）。5556SI と 5545SI は重複部分が少ないが、先後関係を 5556SI → 5545SI と推定した。5636SI は周囲に攪乱が多く、平面形や先後関係を明確にできなかった。5548SI と Ha 群 5635SI は先後関係を 5548SI → 5635SI としたが、先後関係を誤認している可能性が高い。5548SI は焼土面が小範圍で、それも床面精査時に失われてしまった。
- 出土遺物・時期 5556SI（5546SI）は 5545SI、5668SI に重複すること、5556SI 下層出土の椀（ワイングラス）形高杯（2758）から、確実ではないが、後期（1・2 期）と推定した。5548SI は先後関係を誤認しているものとして、下層出土の高杯（2766）から 10 期と推定した。5636SI は床面直上出土の広口壺（2760）、内彎口縁壺（2761）、甕（2762）等から 8 期と推定した。
- Hc 群 5650SI（遺構図版 171）・6189SI
- 検出状況・先後関係 5650SI は他の竪穴建物と重複しない。6189SI は斜面の流出により、竪穴建物の周壁溝のみが残存する。時期は高杯 B 6 または B 7（2767・2768）から 9 期と推定される。
- 出土遺物・時期 6189SI は時期不明とした。



第26図 竪穴建物1群の配置

(12) 竪穴建物1群

丘陵頂部平坦面東緩斜面に分布する総数12棟(実数10棟)の竪穴建物群で、平坦面側上位の4棟(3棟)で構成されるIa群、中位の3棟で構成されるIb群、斜面側下位の5棟(4棟)で構成されるIc群に細分する。Ia群とIb群間には布掘り柱掘方をもつ大型の掘立柱建物6000SBが混在する(第26図)。

棟数と構成

検出状況

Ia群・5911SI・5935SI・5913SI(遺構図版173)

5935SIの覆土上面において検出された焼土面を5913SIの地床材とした(平面形等は不明)。5911SIは下層出土の内彎口緑壺(2779)、甕(2781)等から6期、5911SIに後出する5935SIは高杯(2782・2783)等から8期と推定される。5935SIに後出する5913SIは10期と推定した。

検出状況・先後関係
出土遺物・時期

Ia群5807SI(遺構図版174)

5807SIは小範囲の焼土を検出したが、他の竪穴建物と同様の明確な地床材ではなかった。南半の床面付近(下層)においては、甕(2773・2774)、有段口緑甕(2775)、高杯(2776)、中型壺(2777)等が散在して出土した。土器群は4期に対応する。

検出状況・先後関係
出土遺物・時期

Ib群5910SI・5909SI(遺構図版174)

5909SIの床面直上においては、高杯(2789)が良好な状態で出土した。時期は床面直上出土の高杯B7(2789)、上層出土のS字甕B類新段階(2794)から9期と推定される。5909SIに先行する5910SIは内彎浅鉢(2797)等から7期と推定した。

検出状況・先後関係
出土遺物・時期

Ib群6027SI(遺構図版175)

大部分が調査区外で時期不明としたが、掘立柱建物6000SBの布掘り溝6015SDと重複し、それに先行することを調査区壁面の土層断面から確認した。

検出状況・先後関係

Ic群5914SI(遺構図版175)

5914SIは他の竪穴建物と重複しない。時期は下層出土の甕(2806)、高杯A3(2810)から3期と推定される。

検出状況・先後関係
出土遺物・時期

Ic群6041SI・6038SI・6040SI・6007SI(遺構図版176)

調査区壁面において確認した焼土面を地床材とする竪穴建物を6041SIとした。平面形は検出できなかったが、土層断面から6041SI→6040SIの先後関係を確認した。

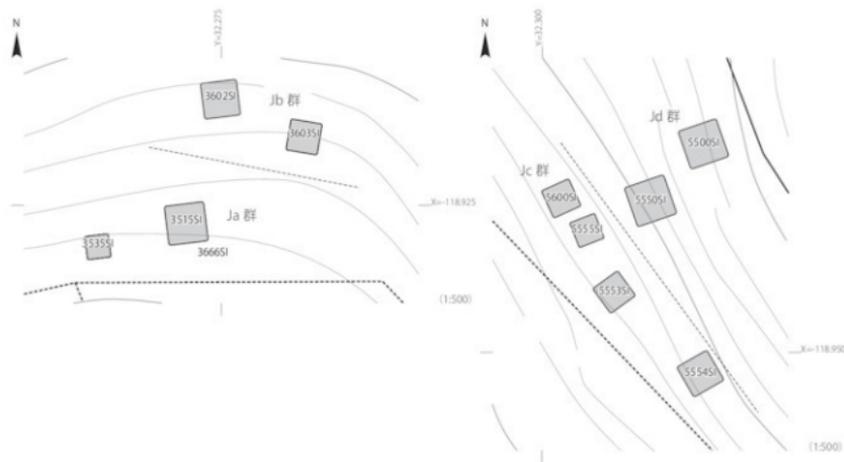
検出状況・先後関係

6007SIは下層出土の高杯(2811)から10期、6040SIは床面直上出土の甕(2812)、口縁部の内彎が弛緩した内彎口緑壺(2813)、下層出土の加飾広口壺(2816)、上層出土の小型壺または小型鉢(2820・2821)から9期と推定される。6007SIに先行し、6040SIと接する6038SI、6040SIに先行する可能性が高い6041SIは後期から前期初頭(7期以前)とした。帰属する建物は不明ながら、6076SKからは、有段口緑甕(2823)と紐帯文を線刻した高杯(2824)が出土した。土器群は4期に対応する。

検出状況・先後関係
出土遺物・時期

(13) 竪穴建物J群

棟数と構成	北斜面から北東斜面にかけて分布する11棟の竪穴建物群で、北斜面上位の3棟で構成されるJa群、下位の2棟で構成されるJb群、北東斜面上位の4棟で構成されるJc群、下位の2棟で構成されるJd群に細分する。竪穴建物は相互に重複しない。竪穴建物の主軸方向は概ね地形の方向に一致する（第27図）。
検出状況	Ja群3515SI・3535SI・3666SI（遺構図版177）
遺物出土状況	3515SIの南辺（丘陵側）付近においては、礫に混じって土器が散在して出土した。時期は床面直上出土の広口壺（2825・2826）、下層出土の高杯（2830）等から、前期前半と推定した。上層に包含される西遠江系の有段（複合）口縁壺（2833）、菊川式の広口壺（2834）、扇形文を施した加飾広口壺（2835）は混入と思われる。
出土遺物・時期	3535SIは終末期（4期）以降、3666SIは時期不明とした。
遺物出土状況	Jb群3602SI・3603SI（遺構図版178）
出土遺物・時期	3602SIの下層から床面付近においては、甕（2840）、椀形高杯（2847・2848）、小型壺または小型鉢（2852）等の土器が良好な状態で出土した。土器群は6期に対応する。3603SIは下層出土の内彎口縁甕（2856）から前期初頭から前期前半と推定した。
遺物出土状況	Jc群5600SI・5553SI・5555SI・5554SI（遺構図版179）
出土遺物・時期	5600SIの床面直上において、内彎口縁小型壺（2857）等が出土した。時期は6期と推定した。5553SIは床面直上出土の口縁部が内彎する大型の平底鉢（2860）、下層出土の甕（2861）、広口壺（2863）から6期と推定される。5555SI、5554SIは時期不明とした。
遺物出土状況	Jd群5550SI・5500SI（遺構図版180）
出土遺物・時期	5500SI北西隅の床面直上においては、甕（2872・2873）、椀形高杯（2874）、小型壺（2875）が良好な状態で出土した。時期は6期と推定される。5550SIは上層出土の口縁端部に刻みを施した甕（2868）、高杯（2870）等から4期と推定した。



第27図 竪穴建物J群の配置

(14) 竪穴建物K群

丘陵東端から北東端(丘陵東部の長頭貝津地区)は遺構検出面付近が高位段丘を構成する砂礫層に相当する。周囲は遺構の分布も希薄で、丘陵東端で0016SI (Ka群)、北東端で0121SI (Kb群)の各1棟を検出した(第28図)。

Ka群0121SI (遺構図版181)

覆土中にも礫が多く含まれ、礫に混在して遺物も出土した。床面直上においては花こう岩製磨石(3478)、下層からは泥質凝灰岩製手持砥石(3522)、片麻岩製台石(3549)が出土した。また、遺構に伴わないが、床面直上において、凝灰質砂岩製有溝砥石(3045)が出土した。貯蔵穴SP1においては、中型壺(2896)が出土した。

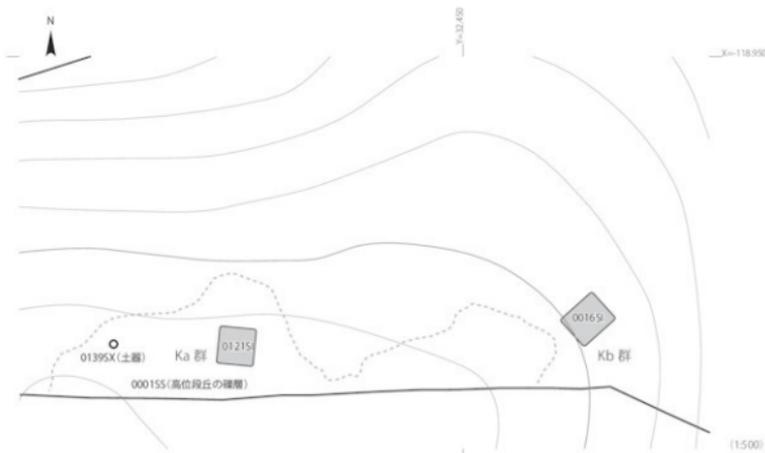
時期は下層出土の甕(2885・2886)、S字甕B類新段階(2889)、床面直上・上層出土の高杯B7(2890・2891)、床面直上出土のバレス系壺(2892)、貯蔵穴SP1出土の中型壺(2896)等から9期と推定される。

その他、礫層が露出する西端付近(Ka群西端付近)において、礫に混在して広口壺(2897)が正位の状態出土した(0139SX)。

Kb群0016SI (遺構図版181)

竪穴建物のほぼ中軸線上の床面直上には花こう岩の棒状礫が置かれ、礫を地床材に伴うものと判断したが、周囲はほとんど被熱していないかった。貯蔵穴SP2においては、小型壺(2884)が出土した。覆土上層には長大な花こう岩製台石(3550)も含まれていた。

時期は下層出土の高杯A3(2878・2880)、床面直上出土の高杯A3またはB1(2879)等から3期と推定される。その他、杯部と脚部の接合部分に列点を施した高杯(2881)が覆土中から出土した。



第28図 竪穴建物K群の配置

検出状況
棟数と構成

遺物出土状況

出土遺物・時期

0139SX

床面状の礫
遺物出土状況

出土遺物・時期

(15) 掘立柱建物・柱穴（列）

概要

検出棟数 弥生時代後期から古墳時代前期に帰属する掘立柱建物は8棟を確認（復原）した（第9表）。布掘り柱掘方をもつ大型の掘立柱建物3300SBとやや大型の5000SBは丘陵頂部の平坦面、布掘り柱掘方をもつ大型の掘立柱建物6100SBと6000SBは丘陵頂部北東の緑辺に分布し、丘陵の北西から南西の緑辺には複数棟の小型の掘立柱建物が窺される。

その他 また、掘立柱建物が想定されるような柱穴列も幾つか確認したが、竪穴建物の著しい重複もあって確実性を欠く。また、桁行1間・梁行1間の柱配置は削削された竪穴建物の主柱穴の可能性も十分に想定されることから、掘立柱建物としての復原は桁行2間以上の建物に限定した。その他、掘立柱建物の復原に及ばなかった柱穴列（掘立柱柵）、特に大きな掘方をもつ柱穴がある。

3300SB（遺構図版182）

規模・平面形 竪穴建物DF群中において検出した。桁行4間・6.6m、梁行1間4.8m、床面積31.7m²の遺跡最大の掘立柱建物で、両桁行方向に布掘り柱掘方をもつ。大型竪穴建物3261SI（3057SI）、3215SIと重複し、3282SI、3206SI、3205SI、Dc群3037SIとも接する位置に構築される。柱穴3276SK・5134SKが3215SIの覆土上面から掘り込まれていること、3215SIの地床が柱穴5133SKによって欠失していることによって、3215SIに後出することを確認した。

柱掘方と柱痕跡 布掘り柱掘方は桁行方向を溝状に掘削し、さらに各柱穴の位置を20cmから60cm程度の深さで柱掘方を壺掘りする類型で、東隣の隅柱に相当する柱穴3202SKは径1.0m前後と柱掘方も大きい。柱痕跡は5131SK、5138SK、5140SK、5141SK、3020SK、5135SK、3145SK、5133SKで確認し、5140SK、5134SKでは柱の自重と建物の荷重によると思われる窪み（柱の当たり）も確認した。柱痕跡と柱の当たりから、柱の径は20cm前後と推測される。

時期 先行する3215SIは8期（から9期）で、建物の構築は3215SIの埋没後（10期から11期）、遺跡の最終末に近い時期と考えられるが、3300SBは10期（11期）の3206SIとも接することから、構築時期の推定には問題も残る。遺物は布掘り溝3040SDから広口壺（1716）、甕（1717）、高杯（1718・1719）、柱穴5135SKから甕（1720）、柱穴5134SKから中型鉢（1721）が出土している。上記に推定した時期に照らすと、高杯（1718・1719）は建物の構築時に混入した可能性が高いと思われる。

第9表 掘立柱建物一覧（弥生時代後期から古墳時代前期）

群	遺構番号	種別	大塚時期	掘立柱時期	方位	桁行 (m)	梁行 (m)	面積 (m ²)	長短比
DF	3300SB	布掘建物 (前半)	(9期)	(9期)	N-48°E	4間 6.6	1間 4.8	31.7	0.73
Fc	5000SB	掘立柱建物 (後期・終末)	(5期以前)	(5期以前)	N-52°W	3間 5.2	1間 3.6	18.7	0.69
Hb	6100SB	布掘建物 (初級)	(7期)	(7期)	N-46°E	4間 6.6	1間 4.5	29.7	0.68
Ia/B	6000SB	布掘建物 (前半)	(10期)	(10期)	N-44.5°E	(4間) 5.1以上	1間 5.0	25.5以上	-
De	5400SB	掘立柱建物	不明	不明	N-6°E	3間 4.2	1間 3.0	12.6	0.71
Da	5200SB	掘立柱建物	不明	不明	N-25°E	3間 4.5	2間 3.6	16.2	0.80
Da	5300SB	掘立柱建物	不明	不明	N-12°E	2間 3.6	2間 2.7	9.7	0.75
Da	4900SB	掘立柱建物	不明	不明	N-36°E	2間 3.6	1間 2.5	9.0	0.69

5000SB (遺構図版183)

竪穴建物Fc群中において検出した。桁行3間・5.2m、梁行1間3.6m、床面積18.7㎡のやや大型の側柱建物である。大型竪穴建物3623SI(3388SI)、3389SIと重複するが、3623SI(3388SI)の床面の精査時に建物の存在を認識したことから、それらとの先後関係は十分に検討することができなかった。

規模・平面形
重複・先後関係

柱痕跡は確認されず、いずれも抜き取られた可能性がある。柱掘方(抜き取り穴)が深さ80cm前後の深い柱穴も多い。なお、4753SKは柱の当たりと思われる窪みを確認した。

柱掘方と柱痕跡

出土遺物は柱穴4354SKから甕(2330)が抽出されるのみで、時期を明確にすることは難しい。周囲の竪穴建物との位置関係を参考にすると、6期の大型竪穴建物3623SI、3623SIから拡張された7期の3388SI、3388SIに後出する9期の3389SIに重複し、(壁立ち式の可能性がある)大型竪穴建物Gb群3407SIにも近接することから、5期以前(後期・終末期)の可能性が高いと思われる。

出土遺物・時期

6100SB (遺構図版184)

竪穴建物Hb群中において検出した。桁行4間・6.6m、梁行1間4.5m、床面積29.7㎡の大型掘立柱建物で両桁行方向に布掘り柱掘方をもつ。(一方の桁行が)5704SI、5703SI、5706SIと重複するが、先後関係は明確に確認することができなかった。

規模・平面形
重複・先後関係

布掘り柱掘方は3300SBと同様の類型で、柱痕跡は6152SK、6151SK、6162SK、6147SKで確認した。柱痕跡から、柱の径は20cm前後と推測される。

柱掘方と柱痕跡

遺物は6154SKから小型壺(2723)と小鉄片またはヤリガンナ(3566)、6151SKから甕(2724)が出土した。6151SKにおいては粘土も検出した。6154SKの抜き取り穴の上面で出土した小型壺(2723)は、口縁部が著しく短い小型壺A2で、体部全面にハケ調整を施すことから、前期初頭(7期)以降に対応する。重複する5706SIは4期以前、5704SIは5期、5703SIは8期、また、近接する5702SIが10期と推定されることも参考になると、構築は7期に求められる可能性が最も高いと思われる。

出土遺物・時期

6000SB (遺構図版185)

竪穴建物Ia・Ib群中において検出したが、南半は調査区外に展開する。桁行3間・5.1m以上、梁行1間・5.0m、床面積25.5㎡以上の大型掘立柱建物で両桁行方向に布掘り柱掘方をもつ。確認した一方の桁行は3間分であるが、布掘り溝が調査区壁まで続くことを確認し、Ib群中の6100SBとほぼ柱筋を揃えていることから、6100SBと同じ規格の桁行4間、梁間1間に復原される可能性が高い。(一方の桁行が)5910SI、6027SIと重複し、柱穴5936SKが5910覆土上面から掘り込まれていることから5910SIに後出すると判断した。また、調査区壁において布掘り溝6015SDが6027SIに後出することも確認した。

規模・平面形

重複・先後関係

布掘り柱掘方は3300SB、6100SBと比較して相対的に深く、各柱穴の深さは布掘り柱掘方の深さに近似することから、掘削した布掘り溝を埋め戻してさらに柱位置を壺掘りしたことも想定される。柱痕跡は確認されていないが、西側の隅柱に相当する6006SKは柱穴の底面に拳大程度の礎(礎石)を詰め込んで基礎を固めていた。また、6160SK、5936SKは柱の当たりによって、柱穴の底面の土質が変化していることを確認した。

柱掘方と柱痕跡

基礎固め

遺物は5936SKから内甕口緑壺(2801)、布掘り溝6015SDから緑帯口緑壺(2802)が出土した。内甕口緑壺(2801)は口頸部高が体部高を凌駕する小型の内甕口緑壺B1

出土遺物・時期

で、底部は安定した平底を呈する。緑帯口縁甕（2802）は折り返された口縁部が特に厚い。先行する5910SIは7期と推定され、8期の5935SI、9期の5909SIとも近接することから、6000SBの構築は10期に求められる可能性がある。ただし、この想定は5936SK出土の内湾口縁甕（2801）の時期（型式）と出土状況（遺構の帰属）に問題を残す。

5400SB（遺構図版186）

規模・平面形
柱掘方と柱痕跡
出土遺物・時期

竪穴建物Da群中において検出した。桁行3間・4.2m、梁行1間・3.0m、床面積12.6㎡の側柱建物である。柱痕跡は4654SK、3832SKで確認した。南西隅の隅柱の柱穴がやや浅いことから、桁行2間に復原される可能性もある。出土遺物は抽出されず、詳細に時期を検討することは難しい。

5200SB（遺構図版186）・遺構図版5300SB・4900SB（遺構図版187）

規模・平面形

いずれも竪穴建物Da群中で検出した側柱建物で、丘陵頂部平坦面西緩斜面に等高線に沿うようにして分布する。平面形・規模は5200SBが桁行3間・4.5m、梁行2間・3.6m、床面積16.2㎡、5300SBが桁行2間・3.6m、梁行1間・2.7m、床面積9.7㎡、4900SBが桁行2間・3.6m、梁行1間・2.5m、床面積9.0㎡である。いずれも柱穴の径は小さい。出土遺物は抽出されず、詳細に時期を検討することは難しい。

柱掘方と柱痕跡
出土遺物・時期

3317SK・3850SS（遺構図版185）

大型柱穴

3317SKは竪穴建物Fb・Fd群中で検出した径1.6m以上、深さ1.6mを計測する大型の土坑で、調査区外に展開する掘立柱建物の柱穴を想定した。土坑底面から前期前半（9期）に対応する小型の平底甕（2359）が出土した。

集石（基礎）

3850SSは竪穴建物Ea群西端で検出した集石で、柱掘方は検出されなかったものの、緩斜面の整地後に、掘立柱の基礎固め（または礎石）のように拳大から人頭大の礫が敷かれていた。遺物を伴わず、時期も不明である。

柱穴列（掘立柱柵）

概要

柵の可能性のある柱穴列は丘陵頂部の平坦面とその緑辺で10基程度（5450SA・5460SA・5350SA・5250SA・5490SA・5480SA・5430SA・5160SA・6200SA・6179SA）を復原した（第10表・第29図）。

5160SA

Fc群中の5160SAは北東—南西方向の柱穴列と北西—南東方向の柱列で、やや大型の掘立柱建物5000SB、大型竪穴建物3623SI（3388SI）を区画することも想定されるが、

6260SA

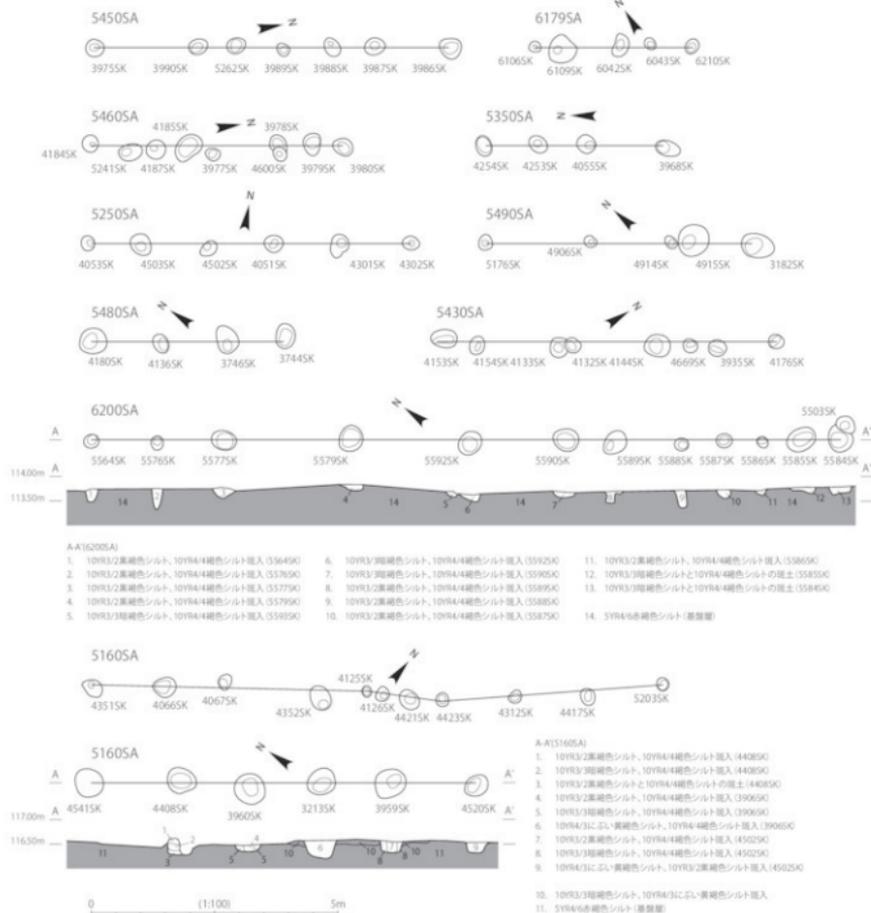
柱穴列の復原にはやや難がある。Hc群中の6260SAは丘陵頂部平坦面の北東の緑辺において検出した。布掘り柱掘方をもつ大型掘立柱建物6100SBとの関連も想定される一方で、中世の大溝1900SDにも沿うことから、第10表 柱穴列（掘立柱柵）一覧

中世以降に帰属する可能性もある。

その他

他の柱穴列は長さも短く、明確な区画を構成する施設を想定することは難しいが、各竪穴建物群の緑辺（竪穴建物群間）で検出される傾向が認められ、竪穴建物群が何らかの簡易な施設によって区画されていたことを示唆する。

群	遺構	方位	柱間	m	備考
Eh/De	5450SA	N-10°-E	6間	7.2	
Eh/De	5460SA	N-9°-E	5間	5.1	
Eh/De	5350SA	N-1.5°-W	3間	3.6	
Eh/De	5250SA	N-79.5°-E	5間	6.5	
Ec/De	5490SA	N-41°-W	3間	5.4	
Ec/Ga	5480SA	N-34.5°-W	3間	3.9	
Fe/Ec	5430SA	N-32°-E	6間	6.9	
Fe/Ec	5160SA	N-50°-E	8間	11.6	区画?
Fe/Fa	6200SA	N-34°-W	5間	7.8	
Hc/Jd	6200SA	N-36.5°-W	11間	15.2	中世?
Hh/Je	6179SA	N-58°-W	4間	3.2	



第29図 柱六列 (掘立柱礎)

(16) 弥生時代後期から古墳時代前期の石器・石製品

概要

記述の方針

この時期は、今回の石座神社遺跡の調査において、最も中心となる時期である。竪穴建物内などで、良好な状態で石器の出土を見た。ここでは、その石器群について、報告を行う。

遺物の配列は器種別のもと、遺構順やそれに準じた出土地区の順番になっている。

器種

出土した遺物の器種には、磨石・石皿・石臼・砥石、

出土状況

そして鈴車などがある。これらの中で、竪穴建物の床面直上で特に有意な出土状況を示すものの一例に、5653SI 出土の3473 (磨石・石皿) と3518 (砥石) がある (写真図版 82)。遺物図版の遺物番号上位に、「床直」と示したものは、遺構との出土関係が特に有意なものであり、今回図示した資料でいえば34例を提示できる (第11表)。

セット関係

これらの遺構は、特に保存状況が良好であったことを示唆するものであり、磨石・石皿類と砥石あるいは石臼・石皿類とのセット関係が認められる1991SI (3432・3524)、3933SI (3463・3537)、3273SI (3470・3516・3542)、そして5653SIの各事例は、当時の具体的活動内容を示唆する事例として、注目できる。

磨石・石皿類 (3432～3480)

古墳時代

使用痕として、敲打痕や磨痕が認められるものである。縄文時代に属する可能性のあるものとして、先に13点を報告したが、それを除き68点を確認し、49点を図化した。

形態による分類

形態としては、平円状・直方体状、棒状、三角柱状・球状・分銅状の3群に分けられる。

平円状・直方体状

平円状・直方体状 (3432～3434・3437・3440～3444・3446・3447・3449・3452・3454・3457・3458・3460・3463・3465～3468・3471・3472・3474・3475・3477・3478) は、最も多く認められるものである。部分的に敲打痕が認められるものもあるが、ほぼすべてに磨痕が認められることから、磨石としての使用が主体であったといえる。

棒状

棒状 (3435・3438・3439・3451・3453・3455・3456・3462・3469・3470) は、

第11表 竪穴建物床面直上出土の石器と伴出状況

群	遺物番号	時期	磨石・石皿類	砥石	石臼・石皿類
9	Aa 1958SI	9期			3523
11	Ab 1991SI	4期	3432		3524
23	Ac 1454SI	8期		3485	
27	Ac 1456SI	8期	3436		
31	Ad 1464SI	6期	3439		
48	Ae 1200SI 下面	3期			3491
52	Ae 1224SI	8期	3444		
83	Ca 1338SI	9期			3528
95	Cb 1180SI	9期			3526
103	Cd 1157SI	10・11期			3529
107	Cd 1331SI	10期	3454		
113	Ce 3906SI	8期		3494	
122	Da 1872SI	9期			3531
155	Dc 3079SI	9期		3497	3532・3551
159	Dd 4337SI	5期			3533
179	Df 3215SI	8期			3534
181	Df 3205SI	7期		3500・3501	
184	Dg 3121SI	9期			3535・3536
193	Eb 3375SI	5期		3507	
196	Eb 3710SI	(4・6期)		3509	
202	Ec 3933SI	5期	3463		3537
222	Fa 4309SI	(1・2期)		3514・3515	
223	Fa 3190SI	10期	3465		
240	Fc 3389SI	9期			3541
241	Fc 3388SI	7期			3540
250	Fd 3273SI	6期	3470	3516	3542
254	Ga 3605SI	10期			3544
281	Ha 5653SI	7期	3473	3518	
284	Ha 5634SI	7期			3543
285	Ha 5635SI	(4・5期)			3545
301	He 5545SI	5期			3546・3547
302	He 5668SI	(4期)			3548
319	Ic 6040SI	9期	3475		
333	Ka 0121SI	9期	3478		

平面および側面に磨痕が認められるものが多い。中には端部に敲打痕が認められるものもある。

三角柱状・球状・分銅状 (3436・3445・3448・3450・3459・3461・3464・3473・3476・3479・3480) は、いずれも端部に著しい磨面が形成されるもので、スタンプ様を呈する。この一群が、石座神社遺跡出土の磨石の中で特徴的なものといえる。

使用石材は、花こう岩 17 点、変塩基性岩 13 点、砂質凝灰岩 8 点、片麻岩 8 点、凝灰岩 6 点、砂岩 5 点、凝灰質砂岩 3 点、アブライト 2 点、安山岩 3 点、塩基性岩 2 点、角閃石 1 点である。

この磨石・砥石類の中の最も顕著な特徴は、光沢を持つほど平滑になった磨痕である。用途としては、硬い砂状のものをさらに細かい粉末にする際に使用された可能性がある。対象物については断言できないものの、赤色顔料精製に関わるものの可能性もあろう。但し、器面に若干認められた赤色部分を蛍光 X 線分析で測定しても、水銀朱の成分は検出されなかったことを付言しておく。

砥石 (3481~3498・3500~3522)

今回の調査で 71 点を確認し、41 点を図化した。法量および形状から、大きくは、台石形状の置砥石と、棒状などの磨石様の手持砥石とに分けられる。使用痕としては平坦部分の形成や浅い凹みが形成されることが多く、削痕状の筋に混じって、鋭く細い溝が形成されたものもある。また、3486 や 3492 のように、削痕の進行方向に対して垂直方向に連続した筋が認められるものもある。鉄器などの金属製利器の加工などに使用されたものと考えられる。

砥石は、作業工程上、目の細かさによって荒砥石から仕上げ砥石まで複数段階に分けられるが、それは使用石材によってある程度分類が可能である。凝灰岩 24 点、片麻岩 13 点、砂質凝灰岩 7 点、安山岩 7 点、泥質凝灰岩 4 点、緑色片岩 4 点、凝灰質砂岩 2 点、凝灰質泥岩 2 点、熔結凝灰岩 2 点、花こう岩 2 点、黒色片岩 1 点、変塩基性岩 1 点、塩基性岩 1 点、泥岩 1 点で、花こう岩以外はキメの細かい石材が多く、仕上げ砥石に対応するものが多いか。

石皿台石類 (3523~3551)

大きく扁平な平石を用いたもので、使用痕には敲打痕や磨痕が認められるが、大多数のものには磨痕の分布が認められる。36 点を確認し、29 点を図化した。平面のみならず側面にも使用による磨面が認められるものもある。使用石材は花こう岩 15 点、片麻岩 6 点、砂質凝灰岩 5 点、凝灰岩 5 点、塩基性岩 2 点、アブライト 1 点、安山岩 1 点、ハンレイ岩 1 点である。

紡錘車など (3552~3555)

紡錘車は 3 点確認した。厚さはいずれも 1 cm 弱であるが、推定径 4 cm ほどのもの (3552) と推定径 6 cm ほどのもの (3553・3554) があり、対象とする繊維など、用途などが異なるか。石材は砂質凝灰岩あるいは凝灰岩である。3555 は紡錘車と同様な作り方をしているものではあるが、中央に穿孔が認められないものである。これも石材は凝灰岩である。

三角柱状・球状・
分銅状

石材

用途

法量・形状

蛍光 X 線分析

置砥石・

手持砥石

作業工程と石材

使用痕

石材

法量・用途

石材

(17) 弥生時代後期から古墳時代前期の金属製品

概要

構成

弥生時代後期から古墳時代前期の金属製品として、破鏡 (3556)、銅鏃 (3557)、板状青銅製品 (3558)、銅滴または青銅滓 (3559・3560)、板状鉄斧 (3561・3562)、ヤリガンナ (3563)、鉄剣 (3564)、小鉄片 (3565・3566) が出土した。

破鏡 (方格規矩四神鏡)

出土状況・時期

破鏡 (3556) は丘陵頂部平坦面南西端に分布する竪穴建物 Da 群 3002SI から出土した。竪穴建物の時期は前期前半 (9期) と推定される。

遺存状況

遺存状況は良好であるが、蛍光X線分析の結果、青銅の組成は本来の銅、スズの組成比が逆転し、スズが占める割合が多い結果を示すことから、銅成分はかなり土中に溶出したものと思われる。破鏡の鏡面、破断面は丁寧に研磨され、破断面には2小穴が確認される。

研磨と穿孔

型式

鏡文

破鏡は岡村秀典による編年の漢鏡5期(後漢前期、1世紀中葉)に対応し、型式は方格規矩四神鏡V A式である(岡村1993)。銘帯の「泉」の文字が明確に読み取れることから、

銘文は樋口隆康による分類の(K)式銘(樋口1983)、「尚方作竟鎮大巧、上有仙人不知老、渴飲玉泉飢食菓、浮游天下放四海、徘徊神山采芝草、壽如金石爲國保」で、文字は三句目の「泉」と思われる。(K)式銘は四神鏡に圧倒的に多いとされ、原鏡としては、七言六句の完銘から四句銘に省略が進んだ段階の四神鏡が(後述する図文との位置関係からも)相応しい。字体は岡村秀典による分類の「字体1」、「細線で表現されるが、筆線の丸味を失ない、全体がこじんまりとした正方体のもの」で「一種の隸体」(岡村1984)である。

字体

図像の復原

方格内の十二支の銘帯と(K)式銘の配置関係から、「泉」の文字付近には白虎が配されることが多い。このことから推測すると、残存する主文の図像は右向きの白虎と推測され、不鮮明なもの、左から白虎の尾、後足、体軀、羽、首、前足の表現が見て取れる(第30図)。原鏡の類例としては、羽咋郡宝達志水町宿東山1号墳出土鏡(石川県立埋蔵文化財センター1987)がある(出土破鏡については、岡村秀典氏より詳細なご教示を頂いた)。その他の青銅製品

銅鏃

銅鏃(3557)は残存長3.2cm、残存幅1.2cm、厚さ0.4cm、重さ3.2gで、鏃身は胴身のような形状である。Gc群5785SI下層出土で、終末期(4期)に対応する。

板状青銅製品

板状青銅製品(3558)は残存長4.2cm、残存幅6.5cm、厚さ0.2~0.3cm、重さ16.6gで、全体に湾曲する形状を呈する。文様は確認できないが、全体の形状や厚さから銅鐔破片の可能性も想定される。Dd群4340SI上層出土で、前期初項に対応する可能性がある。

銅滴または銅滓

銅滴または青銅滓(3559・3560)は1cmから2cm程度の大きさで、明確な形状を呈さない。西向き斜面の包含層から出土した。詳細な時期は不明である。

板状鉄斧

小型板状鉄斧

板状鉄斧(3561)は刃部付近をわずかに欠損するが、全体に良好な状態で遺存する。

法量・形状

全長6.5cm、刃部幅3.4cm、身部幅2.5cm、身部の厚さ0.6cm、重さ31.4gを計測する小型品で、身部から刃部にかけて撥状に広がる形状を呈する。両刃の加工で、川越哲志による分類のA2型板状鉄斧(川越1993)に相当する。竪穴建物Ac群1178SI床面

型式

出土状況・時期



第30図 図像の復原

直上出土で、前期初頭（6・7期）に対応する。

板状鉄斧（3562）は身部で折損し、全体に層状の剥離が進行する。残存長 10.1cm、刃部幅 4.3cm、身部幅 3.9cm、身部の厚さ 0.7cm、重さ 109.1 g を計測する大型品で、刃部幅が身部より大きい梯形を呈する。両刃の伏採用で、川越哲志による分類の A 1 型板状鉄斧に相当する。竪穴建物 Ha 群 3378SI 上層出土で、前期前半以降（11 期）に対応する。

ヤリガンナ

ヤリガンナ（3563）は刃部と身部で折損した状態で出土し、部分的に変形する。残存長 8.5cm、刃部幅 1.2cm、身部幅 0.9cm、重さ 12.0 g で、刃部が身部幅よりやや大きい（刃と身が分化する）。刃部には鑄と反りがあり、断面は「V」字状を呈する。身部の横断面形は長方形で、厚さは 0.7cm とかなり厚い。川越哲志による分類の B 3 型（「瀬戸内系施 II」）、古瀬清秀による分類の IIa 類（古瀬 1977）に相当する。竪穴建物 Be 群 1860SI 床面直上出土で、前期前半（9・10 期）に対応する。

鉄剣

鉄剣（3564）は剣身が折損した状態で出土し、折損した部分を中心に層状剥離や変形が認められるものの、切先から茎部分までが残存する。全長 11.7cm、刃部長 9.7cm、茎部長 2.0cm、刃部幅 2.3cm、茎部幅 1.8cm、刃部厚さ 0.5cm、茎部の厚さ 0.4cm、重さ 32.5 g を計測する短茎の短剣である。遺存状況により判然としない部分もあるが、間はほぼ直角に近く、茎には径 0.2cm の目釘孔を穿つ。関付近から茎にかけて把装具と思われる木質がわずかに確認される。装具は豊島直博による鉄剣の把の分類で、把縁が剣身まで及ぶ「一木造り式把縁穿孔型 A 類」（豊島 2005）に対応すると思われる。大型竪穴建物 Ca 群 1276SI 床面直上出土で、前期初頭（7 期）に対応する。

小鉄片・その他

小鉄片（3565・3566）は残存長 3.9cm、厚さ 0.6cm、重さ 2.1 g の断面円形のもの（3565）、残存長 3.7cm、残存幅 1.0cm、厚さ 0.2cm、重さ 1.5g の薄板状のもの（3566）がある。何らかの製品の断片の可能性もあるが、鍛打による鉄器製作の素材、半製品または製作切片（松木 1999）とも想定される。前者は竪穴建物 Ca 群 1276SI 床面直上、後者は Hb 群中の布掘り柱掘方をもつ大型掘立柱建物 6100SB の柱穴 G145SK 出土で、いずれも前期初頭（7 期）に対応する。不明鉄製品（3567）は壁立ち式の大形竪穴建物 Fb 群 3149SI の覆土上層から出土した。彎曲する背の反対側を鋸歯状に切り出し、歯は表裏交互に刃を研ぎ出している。3149SI は前期前半（9 期）に対応するが、古墳時代以前に同様の形状の利器の類例は知られていないことから、混入の可能性がある。

参考文献

- 石川県立埋蔵文化財センター 1897 『宿東山遺跡』
 岡村秀典 1984 「前漢境の編年と様式」『史林』第 67 巻第 5 号 史学研究会
 岡村秀典 1993 「後漢境の編年」『国立歴史民俗博物館研究報告』第 55 集 国立歴史民俗博物館
 川越哲志 1993 「弥生時代の鉄器文化」雄山閣
 豊島直博 2005 「弥生時代の鉄剣刀剣」独立行政法人文化財研究所奈良文化財研究所
 樋口隆康 1983 「中国古銅器の類型的研究」『展望 アジアの考古学—樋口隆康教授退官記念論集—』新潮社
 古瀬清秀 1977 「古墳出土の鐮の形態的特徴とその役割」『考古論集—慶祝松崎寿和先生六十三歳論文集—』松崎寿和先生退官記念事業会
 松木武彦 1999 「岡山地域における弥生時代鉄器の展開」『古代古銅』第 21 集 古代古銅研究会

第4節 古代の遺構と遺物

概要

構成

丘陵の東向き斜面（長頭貝津地区）において、奈良時代の竪穴建物3棟、掘立柱建物5棟とこれらの建物群を区画する溝を検出した（第31図）。

出土土器量・分布

古代の土器（土師器・須恵器・灰軸陶器）は1,3122kg（全出土土器の0.06%）が出土した。出土土器は東向き斜面の建物群周辺に分布し、大溝1900SD周辺にも散在する（第33図）。区画溝

検出状況

古代の建物群の丘陵側斜面を開削した溝0010SDを検出した（第32図）。丘陵の東向き斜面をほぼ南北方向に通じ、北東向き斜面で東西方向に屈曲する。区画と遺構・遺物の分布範囲が対応すること、須恵器が出土したことから古代に帰属すると判断した。

出土遺物・時期

竪穴建物（遺構図版18B）

検出状況・先後関係

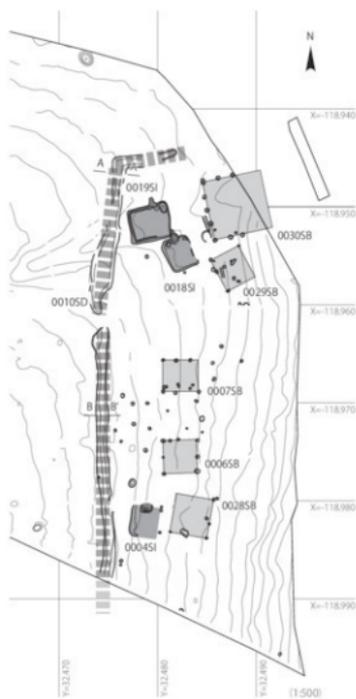
区画溝0010SD付近において竪穴建物3棟0019SI、0018SI、0004SIを検出した。0019SIと0018SIは一部が重複するのみであるが、0019SIが0018SIに先行すると判断した。

0019SI

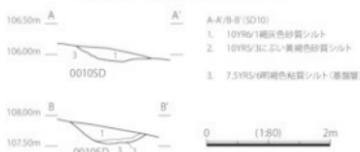
規模・平面形

0019SIは残存状況が良好で全形を検出した。長軸4.20m、短軸3.50mの平面長方形で、北辺（長辺側）の東辺寄りに竈を布設する。竈は天井が落下した状態で遺存する。竈内の底面には炭化物が広がり、土師器甕が散乱していた。竈の東側には貯蔵穴様の土坑（以下、貯蔵穴）が付属する。主柱

付属施設



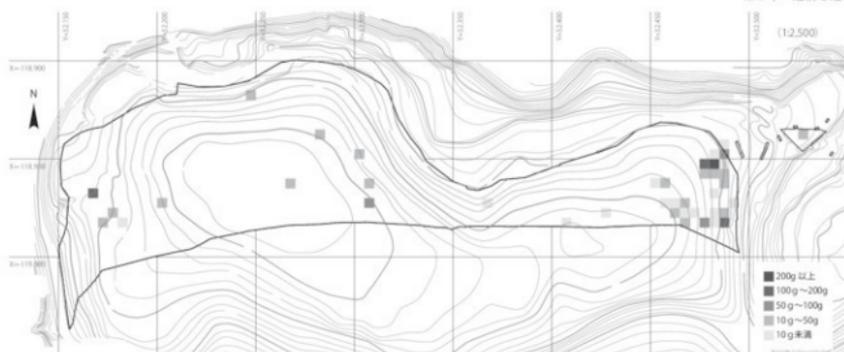
第31図 奈良時代の遺構配置



第32図 区画溝0010SD土層断面

第12表 竪穴建物一覧（奈良時代）

遺構番号	時期	方位	規模				柱間			平面形	掘立柱	主柱穴	竈	貯蔵穴の配置	その他	
			長軸 (m)	短軸 (m)	長短比	面積 (㎡)	長軸 (m)	短軸 (m)	長短比							
1	0019SI	8世紀前半	N-12.5°-W	4.20	3.50	0.83	14.7	-	-	-	-	-	長方形 (全)	0	○	NE
2	0018SI	8世紀中葉	N-21.5°-W	3.40	2.85	0.84	9.7	-	-	-	-	-	長方形	無	0	NE・NW
3	0004SI	7世紀末葉～8世紀初頭	N-8°-E	4.30	-	-	-	-	-	-	-	-	無	0	○	-



第33図 出土土器重量分布(古代)

穴は検出されなかった。床面のほぼ中央には炭化物が広がる。南西隅付近の床面からやや浮いた位置で8世紀前半の須恵器蓋(2961)が出土した。

遺物出土状況

0018SIは中央付近が根によって掘乱されていた。長軸3.40m、短軸2.85mの平面長方形で、北辺(短辺側)の中央に竈を布設する。竈の遺存状況は良好でなく、焼土粒を包含する埋土が遺存するのみであった。竈の東西両側には貯蔵穴が付属する。主柱穴は検出されなかった。電付近から土師器がわずかに出土した。

0018SI

規模・平面形

付属施設

遺物出土状況

0004SIは大部分が流失し、丘陵側の西辺と西辺寄りの竈の痕跡のみを確認した。北辺は試掘坑によって失われているが、一辺3.40m程度で、0018SIと同様の平面形、規模が想定される。主柱穴は検出されなかった。遺物は出土していないが、竪穴建物の斜面側のやや下方において出土した7世紀末葉から8世紀初頭の須恵器無台杯(2967)が竪穴建物に伴っていた可能性が高いと思われる。

0004SI

規模・平面形

付属施設

遺物出土状況

掘立柱建物(遺構図版189・190)

区画溝0010SDによる区画内には柱穴と思われる小土坑が散在し、不確実なものを含めて5棟の掘立柱建物、0030SB、0029SB、0007SB、0006SB、0028SBを復原した。掘立柱建物はいずれも側柱建物である。建物を構成する柱穴から遺物は出土していないが、遺構の分布状況から古代に帰属すると判断した。

分布

0030SBは桁行4間・6.0mのやや大型の掘立柱建物で、梁行は斜面の流失により、2間・3.0m分のみを確認した。他の掘立柱建物と比較して柱穴もやや大きく深いが、明確な柱痕跡は確認されなかった。

0030SB

0029SB、0007SBは桁行3間・梁行2間、0028SBは桁行3間・梁行1間、0006SBは桁行2間・梁行2間の掘立柱建物として復原した。いずれの掘立柱建物も0030SBと比較して柱穴はやや小さく、明確な柱痕跡も確認されなかった。

その他

第13表 掘立柱建物一覧(奈良時代)

遺構番号	種類	方位	桁距 (m)	梁行 (m)	面積 (㎡)	長短比
0006SB	側柱建物	N2°E	2間	3.4 (2間)	11.6	1.00
0007SB	側柱建物	N0°	(3間)	3.6 (2間)	11.5	0.89
0028SB	側柱建物	N10°W	(3間)	4.0 (1間)	15.2	0.95
0029SB	側柱建物	N28°W	(3間)	3.6 (2間)	11.5	0.89
0030SB	側柱建物	N12°E	4間	6.0 2間以上	3.0以上	18.0以上

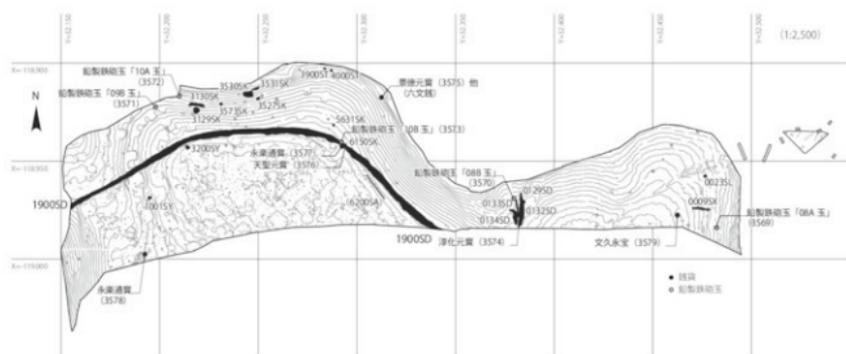
第5節 中世以降の遺構と遺物

概要

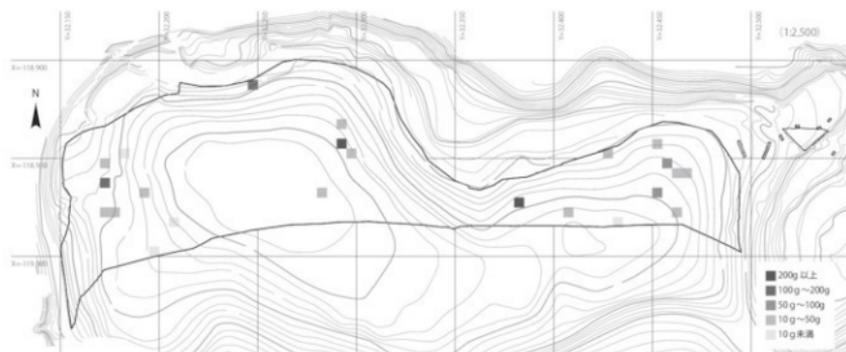
中世・近世の遺構 中世前半の遺構として、丘陵を縦断する大溝 1900SD、溝 0129SD・0134SD 等、堅穴状遺構（土坑）3530SK 等、土坑墓 5631SK、中世後半（または近世）の遺構として、土坑墓 6150SK、火葬施設 0023SL、土坑墓 3900ST・4000ST を検出した（第34図）。これら中世の遺構は、大溝 1900SD の近辺に分布する土坑墓 5631SK・6150SK を含め、いずれも大溝 1900SD 以北、以東の北向き斜面、東向き斜面に分布する。

出土土器量・分布 中世以降の土器（陶器）は 1.1838kg（全出土土器の 0.06%）が出土した。出土土器は大溝 1900SD の近辺、北向き斜面、東向き斜面、西向き斜面に散在して分布し、丘陵頂部の平坦面にはほとんど分布しない（第35図）。その他、鉛製鉄砲玉が5点出土した。

近世・近代の遺構 また、近世から近代の遺構として、炭焼窯 2基（1001SY・3200SY）を検出した。



第34図 中世以降の遺構配置



第35図 出土土器重量分布（中世以降）

溝0129SD・0132SD・0133SD・0134SD（遺構図版191）

丘陵北向き斜面の鞍部に掘削された溝群を検出した。溝は断面が「V」字に近い形状を呈する部分もある。溝群の付近に他の中世の遺構はほとんど認められない。出土遺物はごく少ないが、0129SDの底面において完形のロクロ成形土師器皿(2984)が出土した。成形、法量等から12世紀後半から13世紀前半に比定される(川井1993)。0134SDにおいては、銭貨淳化元寶(3574)、馬骨が出土した。

検出状況
遺物出土状況

大溝1900SD（遺構図版192・193）

大溝1900SDはすでに発掘調査前の地表から視認されていた遺構で、現地表面の観察や縄張り調査からは「陣城群の遺構」、あるいは地籍図上の石座神社境内地の境界との位置関係の一致からは「石座神社の結界」と推定されていた。

調査前の状況

大溝1900SDは東向き斜面から西向き斜面にかけて丘陵の緑辺に沿って掘削される一方、西向き斜面においては北東方向から南西方向に丘陵崖まで直線的に掘削される。溝の掘方も一様ではなく、「土橋」状に掘り残されている部分、「階段」状、「箱堀」状に掘削されている部分もある(グリッド10B14m・10B13a・10C10a・10C7m・10C7o・10C8r・10C9s・10C9t・10C10t・10D10a・10D11b・10D15e・10D16g付近)。溝は完全に埋没していない部分が多いが、西向き緩斜面の部分(グリッド10B14n・10B13p、土層断面B-B'・C-C')は人為的に埋め戻された状況を示すことから、掘削後、付近は土橋として利用されていた可能性がある。土塁等(の痕跡)は確認されなかったが、丘陵頂部平坦面北東の緑辺(大溝の内側)において検出された掘立柱柵6200SAが大溝に伴っていた可能性がある。

検出状況・形状

堆積状況

土塁・柵

大溝からは(先行する堅穴建物から混入したと思われる遺物が少量出土する以外に)ほとんど遺物は出土しないが、西向き緩斜面の埋め戻された溝の底面において完形のロクロ成形土師器皿(2985)が出土した。成形、法量から、12世紀後半から13世紀前半に比定され、大溝の掘削時期も同時期に求められる。ただ、大溝の上層付近には須恵器(2969～2972)が散見されることから、より以前に掘削された可能性もある。

遺物出土状況

堅穴状遺構（遺構図版194）

北向き斜面の中間から下位において斜面を開削した堅穴状遺構(土坑)3129SK・3130SK・3530SK・3531SK・3527SK・3527SKを検出した。これらの堅穴状遺構(土坑)の多くは底面が鉄分の固着により硬化していた。東向き斜面において検出された溝状の遺構0009SXも遺構の底面が同様に硬化していることから、これらの堅穴状遺構(土坑)に類する遺構とした。遺構からほとんど遺物は出土しないが、3530SKより遅美奈福年2b型式期、12世紀末葉から13世紀初頭(安井2012)を前後する山茶碗(2990)が出土していることから、これらの遺構は12世紀から13世紀に帰属すると推定される。

分布・検出状況

遺物出土状況

土坑墓5631SK（遺構図版195）

丘陵北向き斜面の上位、大溝1900SD付近において検出した。南北を長軸とする長軸1.30m・短軸1.0mの隅門長方形の土坑で、土坑南端の下層において馬(ウマ)の上下顎の歯が並んだ状態で出土した。上下顎の位置からすると、馬一頭体を埋葬したと推測される。

検出状況

規模・形状

馬遺体出土状況

馬(ウマ)遺体は体高140cm前後、6歳前後の雌(メス)と同定された(第4章(2))

同定・分析

遺物出土状況	を参照）。なお、馬（ウマ）遺体にわずかに遺存していた左下顎骨については炭素・窒素安定同位体比分析を実施している（第4章（3）を参照）。土坑からは渥美窯編年2 b 型式期、12世紀末葉から13世紀初頭を前後する山茶碗（2990）が出土している。 土坑墓6150SK（遺構図版195）
検出状況	丘陵北向き斜面の上位、大溝1900SDが土橋状に掘り残された部分の付近において検出した。南北を長軸とする長軸1.15 m、短軸0.85 mの隅円長方形の土坑で、土坑北端付近の下層において同形同大の非ロクロ成形土師器皿3点（2987～2989）、銭貨2点（天聖元寶、3576・判読不能）がまとまって出土した。他に土坑付近から出土した銭貨1点（永業通寶、3577）も土坑に伴っていた可能性がある。非ロクロ成形土師器皿は杉山遺跡における分類（北村1988）の皿F（「内湾する口縁部。丸味をもつ底部との境は不明瞭。」）、b手法（「内側のみナデ調整。外面は未調整のまま。」）に対応し、時期はおよそ15世紀から16世紀とされる。
規模・形状	
遺物出土状況	
出土遺物	火葬施設0023SL（遺構図版195）
検出状況	丘陵東向き斜面において検出した。付近に同時期の遺構は認められない。径1.60mの円形の土坑に通風孔と思われる突出部が伴う。床面は著しく被熱し、炭化材も多く残されていた。出土遺物はなく、火葬骨も（取骨により）確認されなかった。出土した炭化材について、放射性炭素年代測定を実施した結果、17世紀から20世紀の年代を示した（第4章（1）を参照）。
年代測定	土坑墓3900ST・4000ST（遺構図版195）
規模・形状	北向き斜面の下位において検出した。3900STは長軸1.25m、短軸1.00m、4000STは長軸1.30m、短軸1.15mの隅円長方形の土坑で、覆土中からは火葬骨が大量に出土した。火葬骨以外の出土遺物は認められなかった。出土した火葬骨について、放射性炭素年代測定を実施した結果、火葬施設0023SLと同様、17世紀から20世紀の年代を示した（第4章（1）を参照）。
火葬骨出土状況	
年代測定	その他
六文銭	北向き斜面の下位においては六文銭（景徳元寶他5枚、3575）が出土した。また、斜面の周辺では渥美窯産の蓮弁文壺（2898）も採集されている。六文銭は斜面下位に分布する土坑墓に関連する可能性がある。渥美窯産の蓮弁文（三筋文系装飾文）壺（2898）は、並行する沈線間の上下段に上向きの半円弧文（花卉）を描出する。渥美窯編年2 a 型式期または2 b 型式期の製品で、12世紀後葉から13世紀初頭に比定される（安井2012）。
渥美窯産	鉛製鉄砲玉
蓮弁文壺	遺跡からは鉛製鉄砲玉5点（3569～3573）が出土、または採集されている。4点（3569～3571・3573）は08 A区、08 B区、09 B区、10 B区の丘陵東向き斜面から北向き斜面の表土直下から出土した。1点（3572）は10 A区の排土付近で採集した。出土状況から鉛製鉄砲玉の詳細な時期を決定することは難しいが、他の中世の遺構と同様に、大溝1900SDの以北、以東に分布する。なお、5点の鉄砲玉は鉛同位体比分析の結果、使用された鉛材料はいずれも「日本産材料」とされた（第4章（4）を参照）。
分布・出土状況	
鉛同位体比分析	

炭焼窯1001SY・3200SY（遺構図版196・197）

近世から近代の遺構として、炭焼窯2基（1001SY・3200SY）を検出した。1001SYは弥生時代後期から古墳時代前期の斜面を加工した段の痕跡（標高111.5m）、3200SYは大溝1900SDの掘削による斜面の段（標高114.5m）を利用して構築されている。

1001SYは長軸2.05m、短軸1.40m、長短比0.68の楕円形（無花果形）、3200SYは長軸2.10m、短軸1.85m、長短比1.85の円形（無花果形）の半地下式窯である。いずれも炭化室は側壁が垂直に近い円筒状で、中軸線上に基盤層を掘り抜いた煙道を造り付ける。炭化室と煙道の壁面は被熱により著しく硬化する。炭化室の底面は平坦で、石材等は使用されていない。焚口には拳大から人頭大の礫が焚口を閉塞するように積まれていた。

焚口の前面には斜面を加工した前庭部が付属し、炭化物層が広範囲に堆積する。前庭部には土坑（1001SYに1003SK・1004SK等、3200SYに3058SK）が掘削され、土坑内は天井片や焼土、炭化物が濃密に含まれていた。

1001SYの前庭部においては産地不明の陶器（2999）が散在して出土し、炭化室からは瓦、鉄板が少量出土した。3200SYの前庭部付近においては常滑産の土管（3000）が出土した。

出土した炭化材について、放射性炭素年代測定を実施した結果、1001SYは19世紀から20世紀前半、3200SYは19世紀の年代を示した（第4章（1）を参照）。年代範囲（2σ暦年代範囲）の下限は1001SYが1920年、3200SYが1939年を示していることから、少なくとも戦前の構築であることはほぼ確実である。

第14表 炭焼窯一覧

調査区	グリッド	遺構番号	時期	方位	規模			平面形	構造	煙道	出土遺物
					長軸 (m)	短軸 (m)	長短 比				
09区	10B14a/14c	1001SY	19世紀～20世紀前半	N-59.5°W	2.05	1.40	0.68	楕円形	半地下	○	陶器・瓦・鉄板
10区	10C9a/9c	3200SY	19世紀	N-31°E	2.10	1.85	0.88	円形	半地下	○	土管

参考文献

- 川井啓介1993「三河地域出土の土師器について」『年報 平成4年度』財団法人愛知県埋蔵文化財センター
- 北村和宏1988「杉山遺跡出土の「中世土器」について」『杉山遺跡』愛知県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第5集 財団法人愛知県埋蔵文化財センター
- 高田繁1996「三河長篠城及び長篠合戦陣所群に関する検討」『中世城郭研究』創刊10周年記念号 第10号 中世城郭研究会
- 安井俊周2012「渥美窯」『愛知県史 別編 窯業3 中世・近世 常滑系』
- 安井俊周・中野晴久2012「押印・刻文」『愛知県史 別編 窯業3 中世・近世 常滑系』愛知県

第4章 分析・考察

（1）放射性炭素年代測定

パレオ・ラボ AMS 年代測定グループ

伊藤 茂・安昭枝・佐藤正教・廣田正史・山形秀樹・小林紘一

Zaur Lomtadze・Ineza Jorjoliani・中村賢太郎・黒沼保子・小林克也

1) はじめに

概要

愛知県新城市に位置する石座神社遺跡から出土した試料について、加速器質量分析法（AMS法）による放射性炭素年代測定を行った。なお一部の試料を用いて、炭素・窒素安定同位体比測定（同章（3）を参照）と、樹種同定が行われている。

2) 試料と方法

炭化材

試料は、90点の出土炭化材と土器付着炭化物である。炭化材は、1411SIから5点、(PLD-21493～21495、PLD-21499、21500)、3742SIから4点(PLD-21447、21450～21452)、3034SI(PLD-21454～21456)、4459SI(PLD-21457～21459)、5545SI(PLD-21460～21462)、5649SI(PLD-21464～21466)、5785SI(PLD-21468～21470)、3002SI(PLD-21472～21474)、1331SI(PLD-21503～21505)、1861SI(PLD-21508～21510)、1929SI(PLD-21514～21516)から各3点、0019SI(PLD-13945、13946)、0121SI(PLD-13952、13953)、0023SL(PLD-13954、13955)、3005SI(PLD-21445、21446)、3743SI(PLD-21448、PLD-21449)、3590SL(PLD-21476、21477)、1001SY(PLD-21482、21484)、1253SI(PLD-21496、21497)、1454SI(PLD-21501、21502)、1917SI(PLD-21512、21513)から各2点、0009SX(PLD-13942)、0016SI(PLD-13943)、0018SI(PLD-13944)、0020SD(PLD-13947)、0025SK(PLD-13948)、0032SK(PLD-13949)、0033SK(PLD-13950)、0111SK(PLD-13951)、3211SI(PLD-21453)、5050SL(PLD-21463)、5770SI(PLD-21467)、3742SIに付属する4300SKから1点(PLD-21471)、3580SL(PLD-21475)、5060SL(PLD-21478)、4041SK(PLD-21479)、3900ST(PLD-21480)、3200SY(PLD-21481)、1001SYに付属する1004SK(PLD-21483)、1045SK(PLD-21485)、1039SK(PLD-21486)、1216SK(PLD-21488)、2081SK(PLD-21489)、2127SK(PLD-21490)、2173SK(PLD-21491)、1200SI(PLD-21492)、1464SI(PLD-21498)、1346SK(PLD-21506)、1002SD(PLD-21507)、1907SI(PLD-21511)から各1点の、計85点である。0016SIのPLD-13943、0019SIのPLD-13945、0023SLのPLD-13954、13955、3034SIのPLD-21454～21456、5785SIのPLD-21469、21470、1001SYのPLD-21482、1004SKのPLD-21483では最終形成年輪が残っており、4459SIのPLD-21457～21459では、辺材部が残っていたが、それ以外の炭化材の採取部位は不明であった。

土器付着炭化物

土器付着炭化物は、1455SIから出土した甕(288)の体部内面(PLD-24861)、3215SIから出土した壺(1696)の底部外面(PLD-24862)、6076SKから出土した甕(2823)

の体部外面 (PLD-24863)、3404SI から出土した壺 (1794) の体部内面 (PLD-24864)、5785SI から出土した甕 (2581) の体部外面 (PLD-24865) の5点である。測定試料の情報、調製データは第15～18表のとおりである。

試料は調製後、加速器質量分析計 (パレオ・ラボ、コンパクト AMS: NEC 製 1.5SDH) を用いて測定した。得られた ^{14}C 濃度について同位体分別効果の補正を行った後、 ^{14}C 年代、暦年代を算出した。

方法

3) 結果

第19～22表に、同位体分別効果の補正に用いる炭素同位体比 ($\delta^{13}\text{C}$)、同位体分別効果の補正を行って暦年較正に用いた年代値と較正によって得られた年代範囲、慣用に従って年代値と誤差を丸めて表示した ^{14}C 年代を、第42～53図に暦年較正結果をそれぞれ示す。暦年較正に用いた年代値は下1桁を丸めていない値であり、今後暦年較正曲線が更新された際にこの年代値を用いて暦年較正を行うために記載した。

^{14}C 年代は AD1950 年を基点にして何年前かを示した年代である。 ^{14}C 年代 (yrBP) の算出には、 ^{14}C の半減期として Libby の半減期 5568 年を使用した。また、付記した ^{14}C 年代誤差 ($\pm 1\sigma$) は、測定の統計誤差、標準偏差等に基づいて算出され、試料の ^{14}C 年代がその ^{14}C 年代誤差内に入る確率が 68.2% であることを示す。

 ^{14}C 年代

なお、暦年較正の詳細は以下のとおりである。

暦年較正とは、大気中の ^{14}C 濃度が一定で半減期が 5568 年として算出された ^{14}C 年代に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の ^{14}C 濃度の変動、および半減期の違い (^{14}C の半減期 5730 ± 40 年) を較正して、より実際の年代値に近いものを算出することである。

暦年較正

^{14}C 年代の暦年較正には OxCal4.1 (較正曲線データ: IntCal13) を使用した。なお、 1σ 暦年代範囲は、OxCal の確率法を使用して算出された ^{14}C 年代誤差に相当する 68.2% 信頼限界の暦年代範囲であり、同様に 2σ 暦年代範囲は 95.4% 信頼限界の暦年代範囲である。カッコ内の百分率の値は、その範囲内に暦年代が入る確率を意味する。グラフ中の縦軸上の曲線は ^{14}C 年代の確率分布を示し、二重曲線は暦年較正曲線を示す。

4) 考察

以下、各試料の暦年較正結果のうち 2σ 暦年代範囲 (確率 95.4%) に着目して、時期別に結果を整理し、年代順のマルチプロット図 (第38～41図) にまとめた。なお、暦年代と考古学編年との対応関係については、縄文時代は矢野 (2008)、金子 (2008)、瀬瀬・高橋 (2008)、千葉 (2008)、中村 (2008)、工藤 (2012)、弥生時代は小林 (2009)、山本 (2007)、古墳時代は赤塚 (2009) を参照した。また炭素・窒素安定同位体比分析の結果では、いずれの土器付着炭化物も陸産の C_3 植物や草食動物に由来すると推定されており、海洋リザーバー効果の影響は受けていないと考えられる。

マルチプロット図
暦年代と編年

またマルチプロット図の順序について、複数点の測定が行われている遺構については、測定結果の中で最も新しい暦年代を示した試料が、古木効果等の影響を最も受けていない試料であると想定し、配置した。

第 15 表 測定資料と処理 1

測定番号	遺跡データ	試料データ	前処理
PLD-13942	グリッド:10E15p 遺構:00068X 試料No.1 (AMS-1)	種類:炭化材 試料の性状:部位不明 状態:dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸:1.2N, 水酸化ナトリウム:1.0N,塩酸:1.2N)
PLD-13943	グリッド:10E16m 遺構:00160SI 試料No.2 (AMS-2)	種類:炭化材(枝材) 試料の性状:最終形成年輪 状態:dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸:1.2N, 水酸化ナトリウム:1.0N,塩酸:1.2N)
PLD-13944	グリッド:10E 遺構:0018SI 試料No.3 (AMS-3)	種類:炭化材 試料の性状:部位不明 状態:dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸:1.2N, 水酸化ナトリウム:1.0N,塩酸:1.2N)
PLD-13945	グリッド:10E11p 遺構:0019SI 試料No.4 (AMS-4)	種類:炭化材(枝材) 試料の性状:最終形成年輪 状態:dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸:1.2N, 水酸化ナトリウム:1.0N,塩酸:1.2N)
PLD-13946	グリッド:10E11p 遺構:0019SI 試料No.5 (AMS-5)	種類:炭化材 試料の性状:部位不明 状態:dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸:1.2N, 水酸化ナトリウム:1.0N,塩酸:1.2N)
PLD-13947	グリッド:10E12n 遺構:0020SD下層 試料No.6 (AMS-6)	種類:炭化材 試料の性状:部位不明 状態:dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸:1.2N, 水酸化ナトリウム:1.0N,塩酸:1.2N)
PLD-13948	グリッド:10E8p 遺構:0025SK 試料No.7 (AMS-7)	種類:炭化材 試料の性状:部位不明 状態:dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸:1.2N, 水酸化ナトリウム:1.0N,塩酸:1.2N)
PLD-13949	グリッド:10E12h 遺構:0032SK 試料No.8 (AMS-8)	種類:炭化材 試料の性状:部位不明 状態:dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸:1.2N, 水酸化ナトリウム:1.0N,塩酸:1.2N)
PLD-13950	グリッド:10E17m 遺構:0033SK 試料No.9 (AMS-9)	種類:炭化材 試料の性状:部位不明 状態:wet	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸:1.2N, 水酸化ナトリウム:1.0N,塩酸:1.2N)
PLD-13951	グリッド:10E17o 遺構:0111SK 試料No.10 (AMS-10)	種類:炭化材 試料の性状:部位不明 状態:wet	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸:1.2N, 水酸化ナトリウム:1.0N,塩酸:1.2N)
PLD-13952	グリッド:10E16f 遺構:0121SI 試料No.11 (AMS-11)	種類:炭化材 試料の性状:部位不明 状態:wet	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸:1.2N, 水酸化ナトリウム:1.0N,塩酸:1.2N)
PLD-13953	グリッド:10E17f 遺構:0121SI 試料No.12 (AMS-12)	種類:炭化材 試料の性状:部位不明 状態:dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸:1.2N, 水酸化ナトリウム:1.0N,塩酸:1.2N)
PLD-13954	グリッド:10E12o 遺構:0023SL 試料No.13 (AMS-13)	種類:炭化材(丸木) 試料の性状:最終形成年輪 状態:wet	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸:1.2N, 水酸化ナトリウム:1.0N,塩酸:1.2N)
PLD-13955	グリッド:10E12o 遺構:0023SL 試料No.14 (AMS-14)	種類:炭化材(枝材) 試料の性状:最終形成年輪 状態:dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸:1.2N, 水酸化ナトリウム:1.0N,塩酸:1.2N)
PLD-21445	グリッド:10C17f 遺構:3005SI床直 試料No.49 (AMS-49)	種類:炭化材(クリ) 試料の性状:部位不明 状態:dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸:1.2N, 水酸化ナトリウム:1.0N,塩酸:1.2N)
PLD-21446	グリッド:10C17f 遺構:3005SI床直 試料No.50 (AMS-50)	種類:炭化材(クリ) 試料の性状:部位不明 状態:dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸:1.2N, 水酸化ナトリウム:1.0N,塩酸:1.2N)
PLD-21447	グリッド:10C10f 遺構:3742SI上層 試料No.51 (AMS-51)	種類:炭化材(クリ) 試料の性状:部位不明 状態:dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸:1.2N, 水酸化ナトリウム:1.0N,塩酸:1.2N)
PLD-21448	グリッド:10C10f 遺構:3743SI下層 試料No.52 (AMS-52)	種類:炭化材(クリ) 試料の性状:部位不明 状態:dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸:1.2N, 水酸化ナトリウム:1.0N,塩酸:1.2N)
PLD-21449	グリッド:10C11f 遺構:3743SI下層 試料No.53 (AMS-53)	種類:炭化材(クリ) 試料の性状:部位不明 状態:dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸:1.2N, 水酸化ナトリウム:1.0N,塩酸:1.2N)
PLD-21450	グリッド:10C9m 遺構:3742SI下層 試料No.54 (AMS-54)	種類:炭化材(スダジイ) 試料の性状:部位不明 状態:dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸:1.2N, 水酸化ナトリウム:1.0N,塩酸:1.2N)
PLD-21451	グリッド:10C10m 遺構:3742SI下層 試料No.55 (AMS-55)	種類:炭化材(スダジイ) 試料の性状:部位不明 状態:dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸:1.2N, 水酸化ナトリウム:1.0N,塩酸:1.2N)
PLD-21452	グリッド:10C10f 遺構:3742SI下層 試料No.56 (AMS-56)	種類:炭化材(スダジイ) 試料の性状:部位不明 状態:dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸:1.2N, 水酸化ナトリウム:1.0N,塩酸:1.2N)
PLD-21453	グリッド:10C13f 遺構:3211SI床直 試料No.57 (AMS-57)	種類:炭化材(モミ属) 試料の性状:部位不明 状態:dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸:1.2N, 水酸化ナトリウム:1.0N,塩酸:1.2N)

第16表 測定資料と処理 2

測定番号	道跡データ	試料データ	前処理
PLD-21454	グリッド:10C15c 道橋:3034SI床直 試料No.58 (AMS-58)	種類:炭化材(フバキ属) 試料の性状:最終形成年輪 状態:dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸:1.2N, 水酸化ナトリウム:1.0N,塩酸:1.2N)
PLD-21455	グリッド:10C15c 道橋:3034SI床直 試料No.59 (AMS-59)	種類:炭化材(モチノキ属) 試料の性状:最終形成年輪 状態:dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸:1.2N, 水酸化ナトリウム:1.0N,塩酸:1.2N)
PLD-21456	グリッド:10C15c 道橋:3034SI床直 試料No.60 (AMS-60)	種類:炭化材(ヒサカキ) 試料の性状:最終形成年輪 状態:dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸:1.2N, 水酸化ナトリウム:1.0N,塩酸:1.2N)
PLD-21457	グリッド:10C11d 道橋:4450SI床直 試料No.61 (AMS-61)	種類:炭化材(クリ) 試料の性状:辺材部 状態:dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸:1.2N, 水酸化ナトリウム:1.0N,塩酸:1.2N)
PLD-21458	グリッド:10C11d 道橋:4450SI床直 試料No.62 (AMS-62)	種類:炭化材(メルサ) 試料の性状:辺材部 状態:dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸:1.2N, 水酸化ナトリウム:1.0N,塩酸:1.2N)
PLD-21459	グリッド:10C11d 道橋:4450SI床直 試料No.63 (AMS-63)	種類:炭化材(メルサ) 試料の性状:辺材部 状態:dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸:1.2N, 水酸化ナトリウム:1.0N,塩酸:1.2N)
PLD-21460	グリッド:10C12r 道橋:5545SI下層 試料No.64 (AMS-64)	種類:炭化材(クスノキ科) 試料の性状:部位不明 状態:dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸:1.2N, 水酸化ナトリウム:1.0N,塩酸:1.2N)
PLD-21461	グリッド:10C12r 道橋:5545SI下層 試料No.65 (AMS-65)	種類:炭化材(スダジイ) 試料の性状:部位不明 状態:dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸:1.2N, 水酸化ナトリウム:1.0N,塩酸:1.2N)
PLD-21462	グリッド:10C12r 道橋:5545SI下層 試料No.66 (AMS-66)	種類:炭化材(クリ) 試料の性状:部位不明 状態:dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸:1.2N, 水酸化ナトリウム:1.0N,塩酸:1.2N)
PLD-21463	道橋:5050SL 道物No.1065 試料No.67 (AMS-67)	種類:炭化材(クリ) 試料の性状:部位不明 状態:dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸:1.2N, 水酸化ナトリウム:1.0N,塩酸:1.2N)
PLD-21464	グリッド:10C16g 道橋:5640SI上層 試料No.68 (AMS-68)	種類:炭化材(クスノキ科) 試料の性状:部位不明 状態:dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸:1.2N, 水酸化ナトリウム:1.0N,塩酸:1.2N)
PLD-21465	グリッド:10C16g 道橋:5640SI上層 試料No.69 (AMS-69)	種類:炭化材(クスノキ) 試料の性状:辺材部 状態:dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸:1.2N, 水酸化ナトリウム:1.0N,塩酸:1.2N)
PLD-21466	グリッド:10C16g 道橋:5640SI上層 試料No.70 (AMS-70)	種類:炭化材(クリ) 試料の性状:部位不明 状態:dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸:1.2N, 水酸化ナトリウム:1.0N,塩酸:1.2N)
PLD-21467	グリッド:10C9r 道橋:5770SI下層 試料No.71 (AMS-71)	種類:炭化材(キハダ) 試料の性状:部位不明 状態:dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸:1.2N, 水酸化ナトリウム:1.0N,塩酸:1.2N)
PLD-21468	グリッド:10C10s 道橋:5785SI床直 試料No.72 (AMS-72)	種類:炭化材(クリ) 試料の性状:部位不明 状態:dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸:1.2N, 水酸化ナトリウム:1.0N,塩酸:1.2N)
PLD-21469	グリッド:10C10s 道橋:5785SI床直 試料No.73 (AMS-73)	種類:炭化材(コナラ属アカガシ亜属) 試料の性状:最終形成年輪 状態:dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸:1.2N, 水酸化ナトリウム:1.0N,塩酸:1.2N)
PLD-21470	グリッド:10C10s 道橋:5785SI床直 試料No.74 (AMS-74)	種類:炭化材(スダジイ) 試料の性状:最終形成年輪 状態:dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸:1.2N, 水酸化ナトリウム:1.0N,塩酸:1.2N)
PLD-21471	グリッド:10C9l 道橋:4300SK 試料No.75 (AMS-75)	種類:炭化材(樹皮) 試料の性状:部位不明 状態:dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸:1.2N, 水酸化ナトリウム:1.0N,塩酸:1.2N)
PLD-21472	グリッド:10C17d 道橋:3002SI上層 試料No.76 (AMS-76)	種類:炭化材(クリ) 試料の性状:部位不明 状態:dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸:1.2N, 水酸化ナトリウム:1.0N,塩酸:1.2N)
PLD-21473	グリッド:10C17d 道橋:3002SI上層 試料No.77 (AMS-77)	種類:炭化材(クリ) 試料の性状:部位不明 状態:dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸:1.2N, 水酸化ナトリウム:1.0N,塩酸:1.2N)
PLD-21474	グリッド:10C17d 道橋:3002SI床直 試料No.78 (AMS-78)	種類:炭化材(ケヤキ) 試料の性状:辺材部 状態:dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸:1.2N, 水酸化ナトリウム:1.0N,塩酸:1.2N)
PLD-21475	グリッド:10C14m 道橋:3580SL 試料No.79 (AMS-79)	種類:炭化材(クリ) 試料の性状:部位不明 状態:dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸:1.2N, 水酸化ナトリウム:1.0N,塩酸:1.2N)
PLD-21476	グリッド:10C14m 道橋:3590SL 試料No.80 (AMS-80)	種類:炭化材(クリ) 試料の性状:部位不明 状態:dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸:1.2N, 水酸化ナトリウム:1.0N,塩酸:1.2N)

第 17 表 測定資料と処理 3

測定番号	遺跡データ	試料データ	前処理
PLD-21477	グリッド:10C14m 遺構:3590SL 試料No.81 (AMS-81)	種類:炭化材(クワ) 試料の性状:部位不明 状態:dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸:1.2N, 水酸化ナトリウム:1.0N,塩酸:1.2N)
PLD-21478	グリッド:10C16p 遺構:5060SL 試料No.82 (AMS-82)	種類:炭化材(クワ) 試料の性状:部位不明 状態:dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸:1.2N, 水酸化ナトリウム:1.0N,塩酸:1.2N)
PLD-21479	グリッド:10C12p 遺構:4041SK 試料No.83 (AMS-83)	種類:炭化材(クワ) 試料の性状:部位不明 状態:dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸:1.2N, 水酸化ナトリウム:1.0N,塩酸:1.2N)
PLD-21480	グリッド:10C1q 遺構:3900ST 試料No.84 (AMS-84)	種類:炭化材(マツ根縦管束断面) 試料の性状:部位不明 状態:dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸:1.2N, 水酸化ナトリウム:1.0N,塩酸:1.2N)
PLD-21481	グリッド:10C9c 遺構:3200SY 試料No.85 (AMS-85)	種類:炭化材(シャシヤンボ) 試料の性状:部位不明 状態:dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸:1.2N, 水酸化ナトリウム:1.0N,塩酸:1.2N)
PLD-21482	グリッド:10B14 遺構:1001SY 試料No.15 (AMS-15)	種類:炭化材(スダジイ) 試料の性状:最終形成年輪 状態:dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸:1.2N, 水酸化ナトリウム:1.0N,塩酸:1.2N)
PLD-21483	グリッド:10B14s 遺構:1004SK 試料No.16 (AMS-16)	種類:炭化材(スダジイ) 試料の性状:最終形成年輪 状態:dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸:1.2N, 水酸化ナトリウム:1.0N,塩酸:1.2N)
PLD-21484	グリッド:19B15s 遺構:1001SY莖口 試料No.17 (AMS-17)	種類:炭化材(スダジイ) 試料の性状:部位不明 状態:dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸:1.2N, 水酸化ナトリウム:1.0N,塩酸:1.2N)
PLD-21485	グリッド:1B1k 遺構:1045SK 試料No.18 (AMS-18)	種類:炭化材(クリ-シノキ属) 試料の性状:部位不明 状態:dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸:1.2N, 水酸化ナトリウム:1.0N,塩酸:1.2N)
PLD-21486	グリッド:10B20f 遺構:1039SK 試料No.19 (AMS-19)	種類:炭化材(クリ-シノキ属) 試料の性状:部位不明 状態:dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸:1.2N, 水酸化ナトリウム:1.0N,塩酸:1.2N)
PLD-21488	グリッド:10B19f 遺構:1216SK 試料No.20 (AMS-20)	種類:炭化材(クワ) 試料の性状:部位不明 状態:dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸:1.2N, 水酸化ナトリウム:1.0N,塩酸:1.2N)
PLD-21489	グリッド:10C7a 遺構:2081SK 試料No.21 (AMS-21)	種類:炭化材(広葉樹) 試料の性状:部位不明 状態:dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸:1.2N, 水酸化ナトリウム:1.0N,塩酸:1.2N)
PLD-21490	グリッド:10C9a 遺構:2127SK 試料No.22 (AMS-22)	種類:炭化材(クワ) 試料の性状:部位不明 状態:dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸:1.2N, 水酸化ナトリウム:1.0N,塩酸:1.2N)
PLD-21491	グリッド:10C11a 遺構:2173SK 試料No.23 (AMS-23)	種類:炭化材(クワ) 試料の性状:部位不明 状態:dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸:1.2N, 水酸化ナトリウム:1.0N,塩酸:1.2N)
PLD-21492	グリッド:1B1 r 遺構:1200SI 上面 試料No.24 (AMS-24)	種類:炭化材(クワ) 試料の性状:部位不明 状態:dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸:1.2N, 水酸化ナトリウム:1.0N,塩酸:1.2N)
PLD-21493	グリッド:10B17p 遺構:1411SI 下層 試料No.25 (AMS-25)	種類:炭化材(クワ) 試料の性状:部位不明 状態:dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸:1.2N, 水酸化ナトリウム:1.0N,塩酸:1.2N)
PLD-21494	グリッド:10B17p 遺構:1411SI 下層 試料No.26 (AMS-26)	種類:炭化材(クワ) 試料の性状:部位不明 状態:dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸:1.2N, 水酸化ナトリウム:1.0N,塩酸:1.2N)
PLD-21495	グリッド:10B17p 遺構:1411SI 下層 試料No.27 (AMS-27)	種類:炭化材(クワ) 試料の性状:部位不明 状態:dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸:1.2N, 水酸化ナトリウム:1.0N,塩酸:1.2N)
PLD-21496	グリッド:10B16s 遺構:1253SI 床直 試料No.28 (AMS-28)	種類:炭化材(クリ-シノキ属) 試料の性状:部位不明 状態:dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸:1.2N, 水酸化ナトリウム:1.0N,塩酸:1.2N)
PLD-21497	グリッド:10B16s 遺構:1253SI 床直 試料No.29 (AMS-29)	種類:炭化材(クワ) 試料の性状:部位不明 状態:dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸:1.2N, 水酸化ナトリウム:1.0N,塩酸:1.2N)
PLD-21498	グリッド:10B17o 遺構:1464SI 床直 試料No.30 (AMS-30)	種類:炭化材(樹皮) 試料の性状:部位不明 状態:dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸:1.2N, 水酸化ナトリウム:1.0N,塩酸:1.2N)
PLD-21499	グリッド:10B17p 遺構:1411SI 下層 試料No.31 (AMS-31)	種類:炭化材(クワ) 試料の性状:部位不明 状態:dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸:1.2N, 水酸化ナトリウム:1.0N,塩酸:1.2N)
PLD-21500	グリッド:10B17p 遺構:1411SI 下層 試料No.32 (AMS-32)	種類:炭化材(ツブラジイ・コナラ属) 試料の性状:部位不明 状態:dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸:1.2N, 水酸化ナトリウム:1.0N,塩酸:1.2N)

第18表 測定資料と処理 4

測定番号	造路データ	試料データ	前処理
PLD-21501	グリッド:10B15n 造構:1454SI下層 試料No.33 (AMS-33)	種類:炭化材(スダジイ) 試料の性状:部位不明 状態:dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸:1.2N, 水酸化ナトリウム:1.0N,塩酸:1.2N)
PLD-21502	グリッド:10B15n 造構:1454SI下層 試料No.34 (AMS-34)	種類:炭化材(クリ) 試料の性状:部位不明 状態:dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸:1.2N, 水酸化ナトリウム:1.0N,塩酸:1.2N)
PLD-21503	グリッド:10C16a 造構:1331SI床直 試料No.35 (AMS-35)	種類:炭化材(クスノキ科) 試料の性状:部位不明 状態:dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸:1.2N, 水酸化ナトリウム:1.0N,塩酸:1.2N)
PLD-21504	グリッド:10C16a 造構:1331SI床直 試料No.36 (AMS-36)	種類:炭化材(クリ) 試料の性状:部位不明 状態:dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸:1.2N, 水酸化ナトリウム:1.0N,塩酸:1.2N)
PLD-21505	グリッド:10C16a 造構:1331SI床直 試料No.37 (AMS-37)	種類:炭化材(クリ) 試料の性状:部位不明 状態:dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸:1.2N, 水酸化ナトリウム:1.0N,塩酸:1.2N)
PLD-21506	グリッド:10C17b 造構:1346SK 試料No.38 (AMS-38)	種類:炭化材(クリ) 試料の性状:部位不明 状態:dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸:1.2N, 水酸化ナトリウム:1.0N,塩酸:1.2N)
PLD-21507	グリッド:10C12a 造構:1002SD 試料No.39 (AMS-39)	種類:炭化材(モミ属) 試料の性状:部位不明 状態:dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸:1.2N, 水酸化ナトリウム:1.0N,塩酸:1.2N)
PLD-21508	グリッド:10C7a 造構:1861SI床直 試料No.40 (AMS-40)	種類:炭化材(クリ) 試料の性状:部位不明 状態:dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸:1.2N, 水酸化ナトリウム:1.0N,塩酸:1.2N)
PLD-21509	グリッド:10C7a 造構:1861SI床直 試料No.41 (AMS-41)	種類:炭化材(クリ) 試料の性状:部位不明 状態:dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸:1.2N, 水酸化ナトリウム:1.0N,塩酸:1.2N)
PLD-21510	グリッド:10C7a 造構:1861SI床直 試料No.42 (AMS-42)	種類:炭化材(クリ) 試料の性状:部位不明 状態:dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸:1.2N, 水酸化ナトリウム:1.0N,塩酸:1.2N)
PLD-21511	グリッド:10C8 r 造構:1907SI下層 試料No.43 (AMS-43)	種類:炭化材(キハダ) 試料の性状:部位不明 状態:dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸:1.2N, 水酸化ナトリウム:1.0N,塩酸:1.2N)
PLD-21512	グリッド:10C10 r 造構:1917SI床直 試料No.44 (AMS-44)	種類:炭化材(クリ) 試料の性状:部位不明 状態:dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸:1.2N, 水酸化ナトリウム:1.0N,塩酸:1.2N)
PLD-21513	グリッド:10B10 r 造構:1917SI床直 試料No.45 (AMS-45)	種類:炭化材(クリ) 試料の性状:部位不明 状態:dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸:1.2N, 水酸化ナトリウム:1.0N,塩酸:1.2N)
PLD-21514	グリッド:10B13 r 造構:1929SI床直 試料No.46 (AMS-46)	種類:炭化材(スダジイ) 試料の性状:部位不明 状態:dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸:1.2N, 水酸化ナトリウム:1.0N,塩酸:1.2N)
PLD-21515	グリッド:10B13 r 造構:1929SI床直 試料No.47 (AMS-47)	種類:炭化材(スギ) 試料の性状:部位不明 状態:dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸:1.2N, 水酸化ナトリウム:1.0N,塩酸:1.2N)
PLD-21516	グリッド:10B13 r 造構:1929SI床直 試料No.48 (AMS-48)	種類:炭化材(スギ) 試料の性状:部位不明 状態:dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸:1.2N, 水酸化ナトリウム:1.0N,塩酸:1.2N)
PLD-24861	グリッド:10B14a 造構:1455SI 遺物No.288	種類:土器付着炭化物 付着部位:裏体部内面 状態:dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸:1.2N, 水酸化ナトリウム:0.1N,塩酸:1.2N) サルフィックス処理
PLD-24862	グリッド:10C15h 造構:3215SI床直 遺物No.1696	種類:土器付着炭化物 付着部位:中型裏庭部外面 状態:dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸:1.2N, 水酸化ナトリウム:0.1N,塩酸:1.2N) サルフィックス処理
PLD-24863	グリッド:10D16e 造構:6076SK 遺物No.2823	種類:土器付着炭化物 付着部位:裏体部外面 状態:dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸:1.2N, 水酸化ナトリウム:0.1N,塩酸:1.2N) サルフィックス処理
PLD-24864	グリッド:10C10h 造構:3404SI上層 遺物No.1794	種類:土器付着炭化物 付着部位:広口裏体部内面 状態:dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸:1.2N, 水酸化ナトリウム:0.1N,塩酸:1.2N) サルフィックス処理
PLD-24865	グリッド:10C10s 造構:578SI床直 遺物No.2581	種類:土器付着炭化物 付着部位:裏体部外面 状態:dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸:1.2N, 水酸化ナトリウム:0.1N,塩酸:1.2N) サルフィックス処理

第19表 放射性炭素年代測定と暦年校正の結果 1

測定番号	$\delta^{13}\text{C}$ (‰)	暦年校正用年代 (yrBP $\pm 1\sigma$)	^{14}C 年代 (yrBP $\pm 1\sigma$)	^{14}C 年代を暦年時代に校正した年代範囲	
				1 σ 暦年年代範囲	2 σ 暦年年代範囲
PLD-13942 0009SX	-28.99 \pm 0.13	908 \pm 19	910 \pm 20	1049AD(43.4%)1085AD	1039AD(93.8%)1170AD
				1124AD(12.8%)1137AD	1175AD(1.6%)1183AD
				1150AD(12.0%)1161AD	
PLD-13943 0016SI	-27.61 \pm 0.19	1793 \pm 19	1795 \pm 20	176AD(8.1%)191AD	138AD(77.6%)258AD
				212AD(48.5%)255AD	284AD(17.8%)322AD
				300AD(11.6%)318AD	
PLD-13944 0018SI	-26.39 \pm 0.11	1234 \pm 18	1235 \pm 20	711AD(35.7%)745AD	690AD(44.9%)749AD
				764AD(13.8%)778AD	761AD(15.7%)780AD
				792AD(6.8%)804AD	788AD(34.8%)875AD
				816AD(2.8%)823AD	
				841AD(9.1%)861AD	
PLD-13945 0019SI	-27.50 \pm 0.12	1297 \pm 19	1295 \pm 20	671AD(45.0%)710AD	665AD(62.7%)723AD
				746AD(23.2%)764AD	740AD(32.7%)768AD
PLD-13946 0019SI	-26.04 \pm 0.13	1260 \pm 19	1260 \pm 20	694AD(61.9%)747AD	681AD(95.4%)774AD
				763AD(6.3%)768AD	
PLD-13947 0020SD下層	-27.26 \pm 0.13	2709 \pm 20	2710 \pm 20	894BC(28.9%)869BC	901BC(95.4%)815BC
				854BC(39.3%)823BC	
PLD-13948 0025SK	-27.80 \pm 0.23	3622 \pm 23	3620 \pm 25	2022BC(31.8%)1991BC	2112BC(1.1%)2103BC
				1984BC(36.4%)1950BC	2036BC(94.3%)1911BC
PLD-13949 0032SK	-26.68 \pm 0.19	3613 \pm 22	3615 \pm 20	2018BC(23.6%)1995BC	2031BC(95.4%)1906BC
				1981BC(44.6%)1941BC	
PLD-13950 0033SK	-26.52 \pm 0.14	3965 \pm 22	3965 \pm 20	2559BC(23.3%)2536BC	2570BC(38.3%)2515BC
				2491BC(44.9%)2465BC	2501BC(56.4%)2455BC
					2417BC(0.7%)2410BC
PLD-13951 0111SK	-28.01 \pm 0.11	7070 \pm 26	7070 \pm 25	5996BC(25.2%)5974BC	6006BC(95.4%)5901BC
				5951BC(43.0%)5917BC	
PLD-13952 0121SI	-27.89 \pm 0.17	1836 \pm 20	1835 \pm 20	135AD(42.6%)179AD	128AD(95.4%)236AD
				187AD(25.6%)213AD	
PLD-13953 0121SI	-27.58 \pm 0.10	1819 \pm 21	1820 \pm 20	140AD(15.9%)159AD	
				166AD(27.0%)196AD	130AD(95.4%)245AD
				208AD(25.4%)235AD	
PLD-13954 0023SL	-27.43 \pm 0.17	148 \pm 20	150 \pm 20	1677AD(11.4%)1693AD	1667AD(15.6%)1700AD
				1727AD(28.9%)1766AD	1720AD(35.3%)1783AD
				1772AD(2.4%)1777AD	1796AD(11.2%)1819AD
				1800AD(9.1%)1812AD	1832AD(15.0%)1880AD
				1919AD(16.3%)1940AD	1915AD(18.3%)1948AD
PLD-13955 0023SL	-28.09 \pm 0.10	149 \pm 18	150 \pm 20	1678AD(10.9%)1692AD	1668AD(15.6%)1698AD
				1728AD(30.3%)1765AD	1725AD(37.4%)1781AD
				1774AD(1.5%)1776AD	1797AD(11.2%)1815AD
				1800AD(9.1%)1812AD	1834AD(12.3%)1878AD
				1920AD(16.5%)1940AD	1916AD(18.9%)1945AD
PLD-21445 300SSI床直	-27.48 \pm 0.16	1898 \pm 20	1900 \pm 20	81AD(68.2%)126AD	54AD(94.3%)139AD
					160AD(0.4%)165AD
					197AD(0.8%)206AD
PLD-21446 300SSI床直	-25.19 \pm 0.16	1885 \pm 20	1885 \pm 20	83AD(68.2%)130AD	67AD(90.8%)176AD
					191AD(4.6%)211AD
PLD-21447 3742SI上層	-25.87 \pm 0.15	1865 \pm 19	1865 \pm 20	87AD(15.3%)106AD	82AD(95.4%)218AD
				121AD(40.6%)171AD	
				194AD(12.3%)210AD	
PLD-21448 3743SI下層	-24.87 \pm 0.14	1900 \pm 20	1900 \pm 20	80AD(68.2%)125AD	53AD(95.2%)138AD
					199AD(0.2%)202AD
PLD-21449 3743SI下層	-24.25 \pm 0.13	1866 \pm 19	1865 \pm 20	86AD(17.8%)109AD	81AD(95.4%)218AD
				118AD(39.4%)170AD	
				194AD(10.9%)210AD	
PLD-21450 3742SI下層	-24.91 \pm 0.12	1841 \pm 19	1840 \pm 20	133AD(43.6%)178AD	126AD(95.4%)237AD
				188AD(24.6%)213AD	
PLD-21451 3742SI下層	-25.73 \pm 0.13	1889 \pm 19	1890 \pm 20	85AD(68.2%)127AD	64AD(93.1%)170AD
					194AD(2.3%)209AD

第20表 放射性炭素年代測定と暦年校正の結果 2

測定番号	$\delta^{13}\text{C}$ (‰)	暦年校正用年代 (yrBP $\pm 1\sigma$)	^{14}C 年代 (yrBP $\pm 1\sigma$)	^{14}C 年代を暦年代に校正した年代範囲	
				1 σ 暦年代範囲	2 σ 暦年代範囲
PLD-21452 3742SI下層	-25.58 \pm 0.17	1859 \pm 20	1860 \pm 20	94AD(2.1%)97AD 125AD(46.2%)178AD 189AD(19.9%)213AD	85AD(95.4%)223AD
PLD-21453 3211SI床直	-26.31 \pm 0.13	1967 \pm 20	1965 \pm 20	16AD(68.2%)65AD	22BC(3.6%)11BC 2BC(91.8%)77AD
PLD-21454 3034SI床直	-27.33 \pm 0.14	1883 \pm 20	1885 \pm 20	84AD(68.2%)131AD	70AD(89.8%)176AD 191AD(5.6%)212AD
PLD-21455 3034SI床直	-27.47 \pm 0.12	1893 \pm 22	1895 \pm 20	82AD(68.2%)127AD	58AD(92.9%)170AD 194AD(2.5%)209AD
PLD-21456 3034SI床直	-28.99 \pm 0.11	1839 \pm 20	1840 \pm 20	134AD(42.8%)179AD 187AD(25.4%)213AD	126AD(95.4%)238AD
PLD-21457 4459SI床直	-26.48 \pm 0.19	1858 \pm 21	1860 \pm 20	125AD(68.2%)214AD	85AD(95.4%)225AD
PLD-21458 4459SI床直	-25.10 \pm 0.14	1911 \pm 20	1910 \pm 20	70AD(31.9%)90AD 99AD(36.3%)124AD	53AD(95.4%)131AD
PLD-21459 4459SI床直	-25.54 \pm 0.11	1911 \pm 21	1910 \pm 20	70AD(31.8%)90AD 99AD(36.4%)124AD	52AD(95.4%)132AD
PLD-21460 5545SI下層	-28.92 \pm 0.13	1872 \pm 21	1870 \pm 20	81AD(56.6%)140AD 158AD(4.4%)166AD 196AD(7.2%)208AD	78AD(95.4%)215AD
PLD-21461 5545SI下層	-26.94 \pm 0.11	1888 \pm 21	1890 \pm 20	81AD(68.2%)129AD	65AD(91.6%)174AD 192AD(3.8%)211AD
PLD-21462 5545SI下層	-25.93 \pm 0.12	1915 \pm 21	1915 \pm 20	66AD(36.2%)90AD 99AD(32.0%)124AD	30AD(1.9%)38AD 51AD(93.5%)130AD
PLD-21463 5050SL	-27.93 \pm 0.11	9426 \pm 33	9425 \pm 35	8752BC(41.6%)8699BC 8679BC(26.6%)8642BC	8789BC(95.4%)8626BC
PLD-21464 5649SI上層	-26.37 \pm 0.11	1878 \pm 21	1880 \pm 20	78AD(68.2%)138AD	73AD(95.4%)214AD
PLD-21465 5649SI上層	-27.56 \pm 0.15	2266 \pm 21	2265 \pm 20	392BC(52.2%)358BC 276BC(16.0%)259BC	397BC(56.8%)353BC 292BC(38.6%)231BC
PLD-21466 5649SI上層	-26.34 \pm 0.11	1861 \pm 19	1860 \pm 20	90AD(6.8%)100AD 124AD(44.2%)176AD 191AD(17.2%)212AD	85AD(95.4%)220AD
PLD-21467 5770SI下層	-26.55 \pm 0.15	1853 \pm 20	1855 \pm 20	128AD(45.6%)179AD 188AD(22.6%)213AD	86AD(7.7%)109AD 119AD(87.7%)231AD
PLD-21468 5785SI床直	-26.03 \pm 0.15	1862 \pm 20	1860 \pm 20	90AD(8.5%)101AD 123AD(43.8%)174AD 192AD(15.9%)211AD	84AD(95.4%)220AD
PLD-21469 5785SI床直	-28.51 \pm 0.17	1882 \pm 21	1880 \pm 20	81AD(68.2%)133AD	70AD(88.0%)179AD 187AD(7.4%)213AD
PLD-21470 5785SI床直	-29.53 \pm 0.12	1849 \pm 20	1850 \pm 20	129AD(45.9%)177AD 190AD(22.3%)213AD	87AD(4.8%)106AD 121AD(90.6%)234AD
PLD-21471 4300SK	-27.58 \pm 0.16	1887 \pm 20	1885 \pm 20	83AD(68.2%)129AD	66AD(91.7%)175AD 192AD(3.7%)211AD
PLD-21472 3002SI上層	-24.85 \pm 0.11	1843 \pm 19	1845 \pm 20	133AD(43.7%)179AD 188AD(24.5%)213AD	125AD(95.4%)236AD
PLD-21473 3002SI上層	-26.41 \pm 0.15	1892 \pm 21	1890 \pm 20	83AD(68.2%)127AD	59AD(93.0%)170AD 194AD(2.4%)209AD
PLD-21474 3002SI床直	-28.58 \pm 0.14	1807 \pm 20	1805 \pm 20	143AD(9.0%)155AD 168AD(22.2%)195AD 209AD(37.0%)243AD	132AD(92.8%)253AD 303AD(2.6%)314AD
PLD-21475 3580SL	-27.10 \pm 0.18	9513 \pm 32	9515 \pm 30	9114BC(14.2%)9081BC 9051BC(11.1%)9021BC 8841BC(42.8%)8758BC	9121BC(37.7%)9002BC 8920BC(57.7%)8740BC
PLD-21476 3590SL	-27.16 \pm 0.13	9547 \pm 31	9545 \pm 30	9119BC(44.1%)9006BC 8916BC(5.4%)8900BC 8853BC(18.7%)8803BC	9132BC(50.5%)8980BC 8931BC(44.9%)8769BC

第 21 表 放射性炭素年代測定と暦年校正の結果 3

測定番号	$\delta^{13}\text{C}$ (‰)	暦年校正用年代 (yrBP $\pm 1\sigma$)	^{14}C 年代 (yrBP $\pm 1\sigma$)	^{14}C 年代を暦年年代に校正した年代範囲	
				2 σ 暦年年代範囲	
				1 σ 暦年年代範囲	2 σ 暦年年代範囲
PLD-21477 3590SL	-28.06 \pm 0.17	9563 \pm 32	9565 \pm 30	9121BC(42.3%)9003BC	9140BC(51.3%)8967BC
				8918BC(9.8%)8890BC	8956BC(44.1%)8786BC
PLD-21478 5060SL	-25.48 \pm 0.14	9458 \pm 32	9460 \pm 30	8791BC(64.2%)8709BC	8827BC(95.4%)8633BC
				8666BC(4.0%)8659BC	
PLD-21479 4041SK	-28.74 \pm 0.21	1980 \pm 22	1980 \pm 20	2AD(68.2%)56AD	40BC(95.4%)69AD
PLD-21480 3900ST	-24.61 \pm 0.14	141 \pm 18	140 \pm 20	1681AD(11.0%)1696AD	1671AD(15.8%)1707AD
				1726AD(20.5%)1763AD	1719AD(28.3%)1779AD
				1802AD(8.1%)1814AD	1797AD(11.4%)1826AD
				1837AD(3.2%)1844AD	1832AD(21.9%)1884AD
				1852AD(10.2%)1876AD	1913AD(18.0%)1944AD
PLD-21481 3200SY	-26.97 \pm 0.14	127 \pm 18	125 \pm 20	1683AD(11.2%)1705AD	1681AD(27.6%)1739AD
				1720AD(8.0%)1734AD	1745AD(3.3%)1763AD
				1806AD(7.3%)1819AD	1802AD(49.8%)1893AD
				1833AD(32.1%)1880AD	1907AD(14.7%)1939AD
				1915AD(9.5%)1930AD	
PLD-21482 1001SY	-27.25 \pm 0.13	85 \pm 19	85 \pm 20	1700AD(19.1%)1720AD	1694AD(25.6%)1728AD
				1819AD(12.9%)1833AD	1812AD(69.8%)1919AD
				1880AD(36.1%)1915AD	
PLD-21483 1004SK	-25.52 \pm 0.13	91 \pm 18	90 \pm 20	1698AD(22.0%)1724AD	1694AD(26.5%)1728AD
				1816AD(15.3%)1834AD	1812AD(68.9%)1919AD
				1878AD(31.0%)1917AD	
PLD-21484 1001SY黄口	-26.84 \pm 0.14	95 \pm 18	95 \pm 20	1697AD(23.9%)1725AD	1693AD(26.7%)1728AD
				1815AD(17.1%)1835AD	1812AD(68.7%)1920AD
				1877AD(15.3%)1896AD	
				1903AD(11.9%)1917AD	
PLD-21485 1045SK	-26.47 \pm 0.15	3629 \pm 23	3630 \pm 25	2024BC(68.2%)1957BC	2116BC(3.6%)2098BC
					2039BC(91.8%)1921BC
PLD-21486 1039SK	-25.51 \pm 0.16	3625 \pm 22	3625 \pm 20	2022BC(68.2%)1953BC	2113BC(1.7%)2101BC
					2036BC(93.7%)1918BC
PLD-21488 1216SK	-24.86 \pm 0.14	3553 \pm 22	3555 \pm 20	1937BC(68.2%)1882BC	1962BC(80.4%)1872BC
					1846BC(9.2%)1812BC
					1802BC(5.8%)1777BC
PLD-21489 2081SK	-25.75 \pm 0.14	3611 \pm 24	3610 \pm 25	2020BC(23.8%)1993BC	2031BC(95.4%)1900BC
				1983BC(44.4%)1937BC	
PLD-21490 2127SK	-26.43 \pm 0.13	4160 \pm 22	4160 \pm 20	2872BC(12.0%)2850BC	2877BC(19.0%)2835BC
				2813BC(7.2%)2800BC	2818BC(75.7%)2665BC
				2793BC(3.0%)2786BC	2644BC(0.7%)2640BC
				2780BC(22.2%)2741BC	
				2730BC(21.5%)2694BC	
				2686BC(2.3%)2681BC	
PLD-21491 2173SK	-26.88 \pm 0.19	4331 \pm 23	4330 \pm 25	3009BC(17.3%)2987BC	3014BC(95.4%)2897BC
				2935BC(50.9%)2901BC	
PLD-21492 1200SI上面	-25.43 \pm 0.15	1839 \pm 20	1840 \pm 20	134AD(42.8%)179AD	126AD(95.4%)238AD
				187AD(25.4%)213AD	
PLD-21493 1411SIF下層	-25.41 \pm 0.17	1876 \pm 19	1875 \pm 20	79AD(68.2%)138AD	75AD(95.4%)214AD
PLD-21494 1411SIF下層	-25.73 \pm 0.16	1822 \pm 20	1820 \pm 20	140AD(16.1%)157AD	131AD(95.4%)241AD
				167AD(28.7%)196AD	
				208AD(23.4%)231AD	
PLD-21495 1411SIF下層	-25.29 \pm 0.16	1789 \pm 20	1790 \pm 20	180AD(2.5%)186AD	138AD(20.1%)201AD
				214AD(47.3%)258AD	206AD(49.6%)260AD
				296AD(18.4%)321AD	279AD(25.7%)326AD
PLD-21496 1253SI床直	-26.08 \pm 0.20	1851 \pm 20	1850 \pm 20	129AD(46.0%)178AD	87AD(6.2%)108AD
				189AD(22.2%)213AD	120AD(89.2%)233AD
PLD-21497 1253SI床直	-25.15 \pm 0.22	1839 \pm 19	1840 \pm 20	134AD(43.0%)178AD	127AD(95.4%)236AD
				188AD(25.2%)213AD	

第22表 放射性炭素年代測定と暦年較正の結果 4

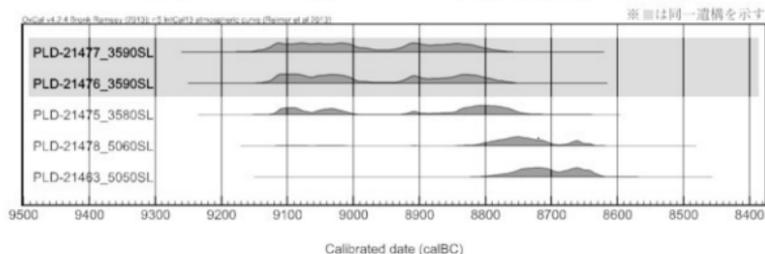
測定番号	$\delta^{13}\text{C}$ (‰)	暦年較正用年代 (yrBP $\pm 1\sigma$)	^{14}C 年代 (yrBP $\pm 1\sigma$)	^{14}C 年代を暦年較正した年代範囲	
				1 σ 暦年較正範囲	
				1 σ 暦年較正範囲	2 σ 暦年較正範囲
PLD-21498 1464SI床直	-26.87 \pm 0.23	1842 \pm 20	1840 \pm 20	133AD(43.3%)179AD 187AD(24.9%)213AD 140AD(15.8%)158AD	93AD(0.7%)97AD 125AD(94.7%)237AD
PLD-21499 1411SI下層	-25.71 \pm 0.20	1820 \pm 20	1820 \pm 20	166AD(27.4%)196AD 208AD(25.0%)234AD	132AD(95.4%)242AD
PLD-21500 1411SI下層	-24.94 \pm 0.20	1845 \pm 20	1845 \pm 20	131AD(43.4%)180AD 186AD(24.8%)214AD	90AD(2.2%)100AD 124AD(93.2%)236AD
PLD-21501 1454SI下層	-24.74 \pm 0.15	1806 \pm 20	1805 \pm 20	143AD(8.7%)155AD 168AD(21.7%)195AD 209AD(37.8%)244AD	132AD(92.0%)254AD 302AD(3.4%)315AD
PLD-21502 1454SI下層	-25.57 \pm 0.19	1892 \pm 19	1890 \pm 20	85AD(68.2%)126AD	60AD(92.4%)140AD 154AD(1.5%)168AD 195AD(1.5%)208AD
PLD-21503 1331SI床直	-26.57 \pm 0.30	1854 \pm 20	1855 \pm 20	127AD(45.5%)179AD 187AD(22.7%)213AD	86AD(8.6%)110AD 115AD(86.8%)230AD
PLD-21504 1331SI床直	-25.63 \pm 0.24	1873 \pm 19	1875 \pm 20	81AD(60.1%)140AD 160AD(2.4%)165AD 197AD(5.8%)208AD	77AD(95.4%)214AD
PLD-21505 1331SI床直	-26.78 \pm 0.32	1859 \pm 20	1860 \pm 20	94AD(2.1%)97AD 125AD(46.2%)178AD 189AD(19.9%)213AD	85AD(95.4%)223AD
PLD-21506 1346SK	-25.46 \pm 0.19	3635 \pm 20	3635 \pm 20	2027BC(68.2%)1966BC	2119BC(4.9%)2096BC 2040BC(90.5%)1938BC
PLD-21507 1002SD	-25.02 \pm 0.19	1947 \pm 18	1945 \pm 20	27AD(19.2%)40AD 48AD(49.0%)75AD	5AD(91.9%)87AD 105AD(3.5%)120AD
PLD-21508 1861SI床直	-25.15 \pm 0.23	1966 \pm 19	1965 \pm 20	19AD(68.2%)64AD	22BC(2.9%)11BC 2BC(92.5%)78AD
PLD-21509 1861SI床直	-25.68 \pm 0.22	1920 \pm 18	1920 \pm 20	62AD(45.1%)88AD 104AD(23.1%)121AD	32AD(1.5%)37AD 52AD(93.9%)29AD
PLD-21510 1861SI床直	-25.66 \pm 0.17	1872 \pm 18	1870 \pm 20	82AD(59.7%)140AD 160AD(2.5%)165AD 197AD(6.0%)208AD	78AD(95.4%)214AD
PLD-21511 1907SI下層	-24.86 \pm 0.19	1870 \pm 19	1870 \pm 20	83AD(55.2%)141AD 157AD(5.3%)167AD 196AD(7.7%)208AD	80AD(95.4%)215AD
PLD-21512 1917SI床直	-25.58 \pm 0.17	1861 \pm 19	1860 \pm 20	90AD(6.8%)100AD 124AD(44.2%)176AD 191AD(17.2%)212AD	85AD(95.4%)220AD
PLD-21513 1917SI床直	-24.21 \pm 0.17	1890 \pm 19	1890 \pm 20	85AD(68.2%)127AD	63AD(93.3%)170AD 194AD(2.1%)209AD
PLD-21514 1929SI床直	-25.24 \pm 0.18	1851 \pm 19	1850 \pm 20	129AD(46.5%)177AD 190AD(21.7%)212AD	87AD(5.4%)106AD 121AD(90.0%)232AD
PLD-21515 1929SI床直	-24.59 \pm 0.23	1865 \pm 18	1865 \pm 20	87AD(15.3%)106AD 121AD(40.7%)171AD 194AD(12.2%)210AD	83AD(95.4%)217AD
PLD-21516 1929SI床直	-25.21 \pm 0.16	1931 \pm 19	1930 \pm 20	52AD(62.4%)86AD 110AD(5.8%)116AD	25AD(95.4%)126AD
PLD-24861 1455SI	-25.20 \pm 0.12	1805 \pm 18	1805 \pm 20	143AD(7.9%)155AD 168AD(20.8%)195AD 210AD(39.5%)244AD	133AD(93.4%)252AD 305AD(2.0%)312AD
PLD-24862 3215SI床直	-25.37 \pm 0.15	1895 \pm 18	1895 \pm 20	85AD(68.2%)126AD	58AD(95.0%)139AD 198AD(0.4%)204AD
PLD-24863 6076SK	-26.40 \pm 0.16	1878 \pm 17	1880 \pm 15	84AD(68.2%)133AD	75AD(88.7%)177AD 190AD(6.7%)212AD
PLD-24864 3404SI上層	-26.03 \pm 0.11	1839 \pm 18	1840 \pm 20	134AD(43.7%)178AD 189AD(24.5%)213AD	128AD(95.4%)233AD
PLD-24865 5785SI床直	-28.88 \pm 0.14	1869 \pm 18	1870 \pm 20	84AD(54.5%)141AD 157AD(5.6%)167AD 196AD(8.1%)208AD	80AD(95.4%)215AD

縄文時代

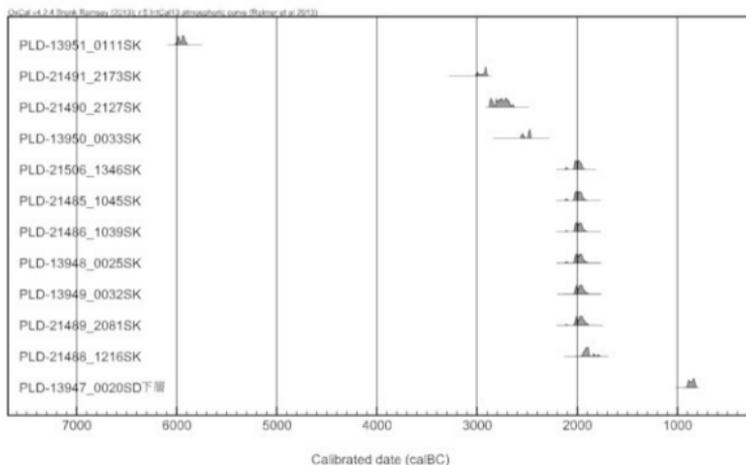
縄文時代早期前半 3590SL の PLD-21477 は 9140-8967 cal BC(51.3%) および 8956-8786 cal BC(44.1%)、3590SL の PLD-21476 は 9132-8980 cal BC(50.5%) および 8931-8769 cal BC(44.9%)、3580SL の PLD-21475 は 9121-9002 cal BC(37.7%) および 8920-8740 cal BC(57.7%)、5060SL の PLD-21478 は 8827-8633 cal BC(95.4%)、5050SL の PLD-21463 は 8789-8626 cal BC(95.4%) で、紀元前 9140 ～ 8620 年頃となった。これは、縄文時代早期前半に相当する。またこれらの測定結果を、第 36 図にまとめる。

縄文時代早期後半 0111SK の PLD-13951 は 6006-5901 cal BC(95.4%) で、紀元前 6010 ～ 5900 年頃となった。これは、縄文時代早期後半に相当する。

縄文時代中期後半 2173SK の PLD-21491 は 3014-2897 cal BC(95.4%)、2127SK の PLD-21490 は 2877-2835 cal BC(19.0%)、2818-2665 cal BC(75.7%)、2644-2640 cal BC(0.7%) で、紀元前 3020 ～ 2600 年頃となった。これは、縄文時代中期後半に相当する。



第36図 縄文時代（早期前半）のマルチプロット図



第37図 縄文時代（早期後半から晩期）のマルチプロット図

0033SK の PLD-13950 は 2570-2515 cal BC(38.3%)、2501-2455 cal BC(56.4%)、2417-2410 cal BC(0.7%)で、紀元前 2570～2410 年頃となった。これは、縄文時代後期初頭に相当する。

縄文時代後期初頭

1346SK の PLD-21506 は 2119-2096 cal BC(4.9%)および 2040-1938 cal BC(90.5%)、1045SK の PLD-21485 は 2116-2098 cal BC(3.6%)および 2039-1921 cal BC(91.8%)、1039SK の PLD-21486 は 2113-2101 cal BC(1.7%)および 2036-1918 cal BC(93.7%)、0025SK の PLD-13948 は 2112-2103 cal BC(1.1%)および 2036-1911 cal BC(94.3%)、0032SK の PLD-13949 は 2031-1906 cal BC(95.4%)、2081SK の PLD-21489 は 2031-1900 cal BC(95.4%)、1216SK の PLD-21488 は 1962-1872 cal BC(80.4%)、1846-1812 cal BC(9.2%)、1802-1777 cal BC(5.8%)で、紀元前 2040～1770 年頃となった。これは、縄文時代後期前葉に相当する。

縄文時代後期前葉

0020SD 下層の PLD-13947 は 901-815 cal BC(95.4%)で、紀元前 910～810 年頃となった。これは、縄文時代晩期後半に相当する。また、これら縄文時代の測定結果について、第 37 図にまとめる。

縄文時代晩期後半

弥生時代～古墳時代

4041SK の PLD-21479 は 40 cal BC-69 cal AD(95.4%)、3211SI 床直の PLD-21453 は 22-11 cal BC(3.6%)および 2 cal BC-77 cal AD(91.8%)、1002SD の PLD-21507 は 5-87 cal AD(91.9%)および 105-120 cal AD(3.5%)で、紀元前 1 世紀後半～紀元後 2 世紀前半の暦年代を示した。これは、弥生時代後期に相当する。

弥生時代後期

3215SI (PLD-24862)、3005SI (PLD-21445)、6076SK (PLD-24863)、1861SI (PLD-21508、21510)、5545SI (PLD-21461～21461)、1907SI (PLD-21511)、3743SI (PLD-21448～21449)、5649SI (PLD-21464、21466)、1917SI (PLD-21512～21513)、4459SI (PLD-21457～21459)、1331SI (PLD-21503～21505)、5770SI (PLD-21467)、1929SI (PLD-21514、21516)、3404SI (PLD-24864)、5785SI (PLD-21465、24868～21470)、1253SI (PLD-21496～21497)、1464SI (PLD-21498)、3742SI (PLD-21447、PLD-21450～21452)、3742SI に付随する 4300SK (PLD-21471)、3034SI (PLD-21454～21456)、1200SI (PLD-21492)、0121SI (PLD-13952～13953) では、紀元前 1 世紀後半～紀元後 3 世紀中頃の暦年代を示した。これは、弥生時代後期～古墳時代早期に相当する。

弥生時代後期～
古墳時代早期

なお 5649SI では、上層の PLD-21465 が 397-353 cal BC(56.8%)および 292-231 cal BC(38.6%)で、弥生時代中期の暦年代を示し、5649SI で出土した他の試料と比較すると、時期が大きく異なっていた。PLD-21465 は上層から出土し、共存遺物でも弥生時代中期中葉の土器が混入していることから、試料は遺構外から流れ込んだ炭化材であると考えられる。

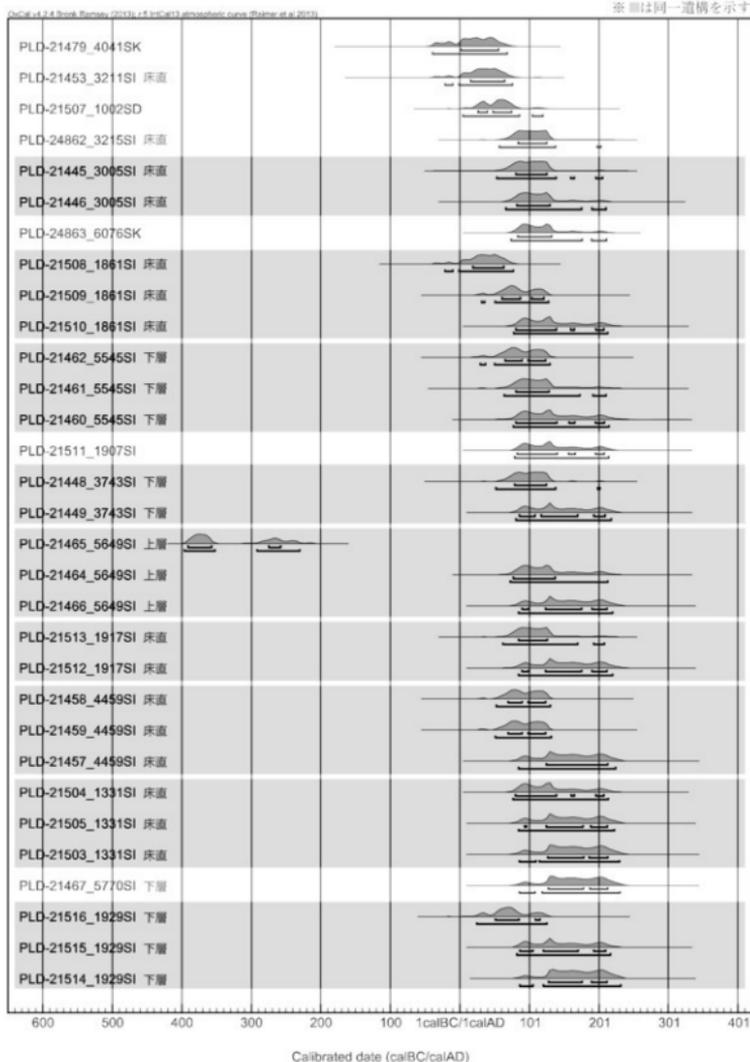
弥生時代中期

1455SI (PLD-24861)、3002SI (PLD-21472～21474)、1454SI (PLD-21501～21502)、0016SI (PLD-13943)、1411SI (PLD-21493～21495、21499～21500) では、2 世紀前半～4 世紀前半の暦年代を示した。これは、弥生時代後期～古墳時代前期に相当する。

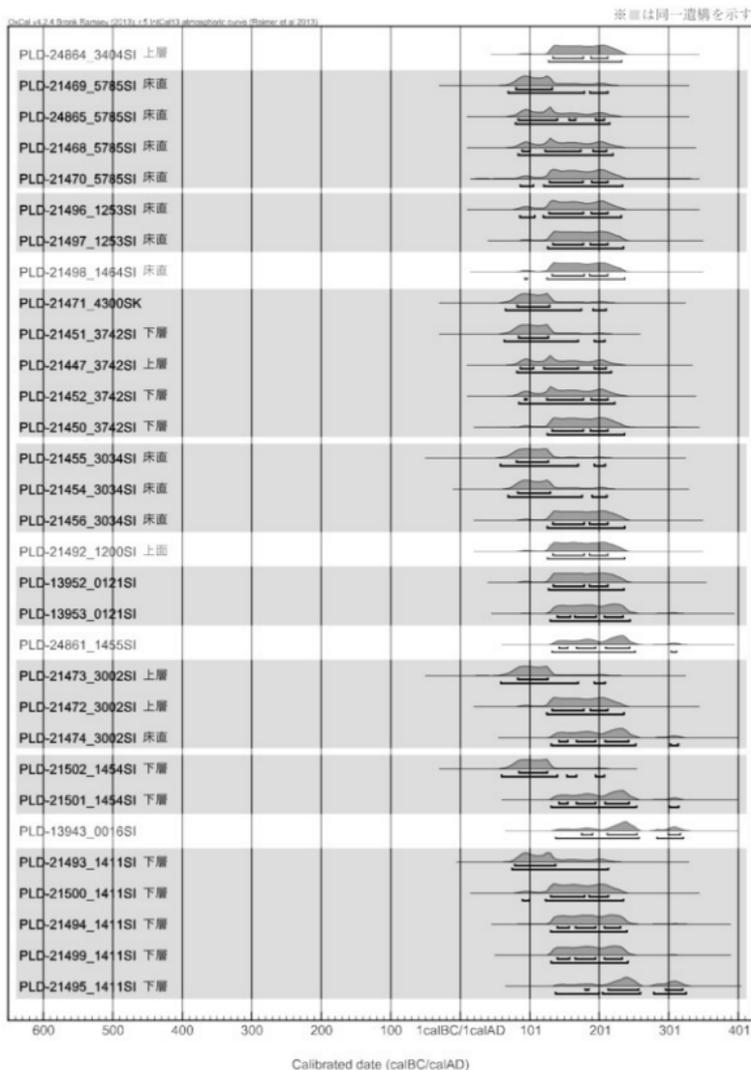
弥生時代後期～
古墳時代前期

弥生時代～古墳時代の測定結果について、第 38・39 図にまとめる。

※ 図は同一遺構を示す



第38図 弥生・古墳時代のマルチプロット図 1



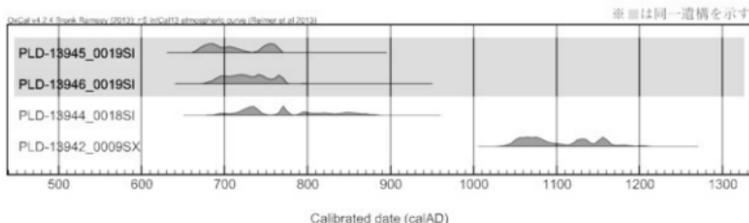
第39図 弥生・古墳時代のマルチプロット図 2

古代～中世

飛鳥～奈良時代 0019SI の PLD-13945 は 665-723 cal AD(62.7%) および 740-768 cal AD(32.7%)、PLD-13946 は 681-774 cal AD(95.4%) で、7 世紀後半～8 世紀末の暦年代を示した。これは、飛鳥時代～奈良時代に相当する。

飛鳥～平安時代 0018SI の PLD-13944 は 690-749 cal AD(44.9%)、761-780 cal AD(15.7%)、788-875 cal AD(34.8%) で、7 世紀末～9 世紀後半の暦年代を示した。これは、飛鳥時代～平安時代前期に相当する。

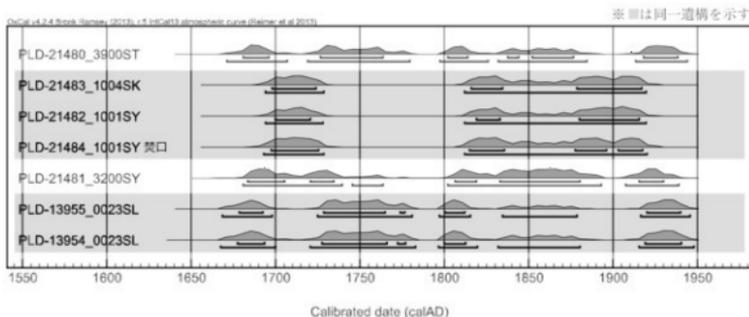
平安時代中～後期 0009SX の PLD-13942 は 1039-1170 cal AD(93.8%)、1175-1183 cal AD(1.6%) で、11 世紀前半～12 世紀後半となった。これは、平安時代中期～後期に相当する。これら飛鳥時代～平安時代の測定結果について、第 40 図にまとめる。



第40図 古代・中世のマルチプロット図

近世～近代

江戸時代後期以降 3900ST の PLD-21480 は 1671-1707 cal AD(15.8%)、1719-1779 cal AD(28.3%)、1797-1826 cal AD(11.4%)、1832-1884 cal AD(21.9%)、1913-1944 cal AD(18.0%)、1001SY に付随する、1004SK の PLD-21483 は 1694-1728 cal AD(26.5%) および 1812-1919 cal AD(68.9%)、1001SY では、PLD-21482 は 1694-1728 cal AD(25.6%) および 1812-1919 cal AD(69.8%)、焚口の PLD-21484 は 1693-1728 cal AD(26.7%)、1812-1920 cal AD(68.7%)、3200SY の PLD-21481 は 1681-1739 cal AD(27.6%)、1745-



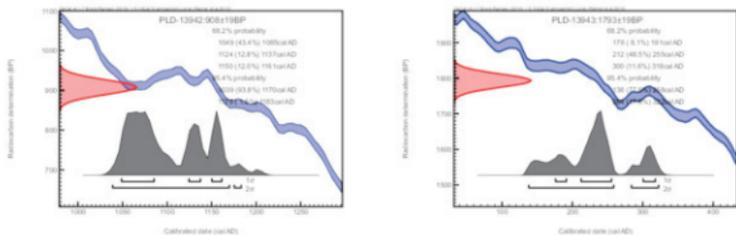
第41図 近世以降のマルチプロット図

1763 cal AD(3.3%)、1802-1893 cal AD(49.8%)、1907-1939 cal AD(14.7%)、0023SLのPLD-13955は1668-1698 cal AD(15.6%)、1725-1781 cal AD(37.4%)、1797-1815 cal AD(11.2%)、1834-1878 cal AD(12.3%)、1916-1945 cal AD(18.9%)、0023SLのPLD-13954は、1667-1700 cal AD(15.6%)、1720-1783 cal AD(35.3%)、1796-1819 cal AD(11.2%)、1832-1880 cal AD(15.0%)、1915-1948 cal AD(18.3%)で、17世紀後半～20世紀中頃の暦年代を示した。これは、江戸時代後期～昭和時代に相当する。

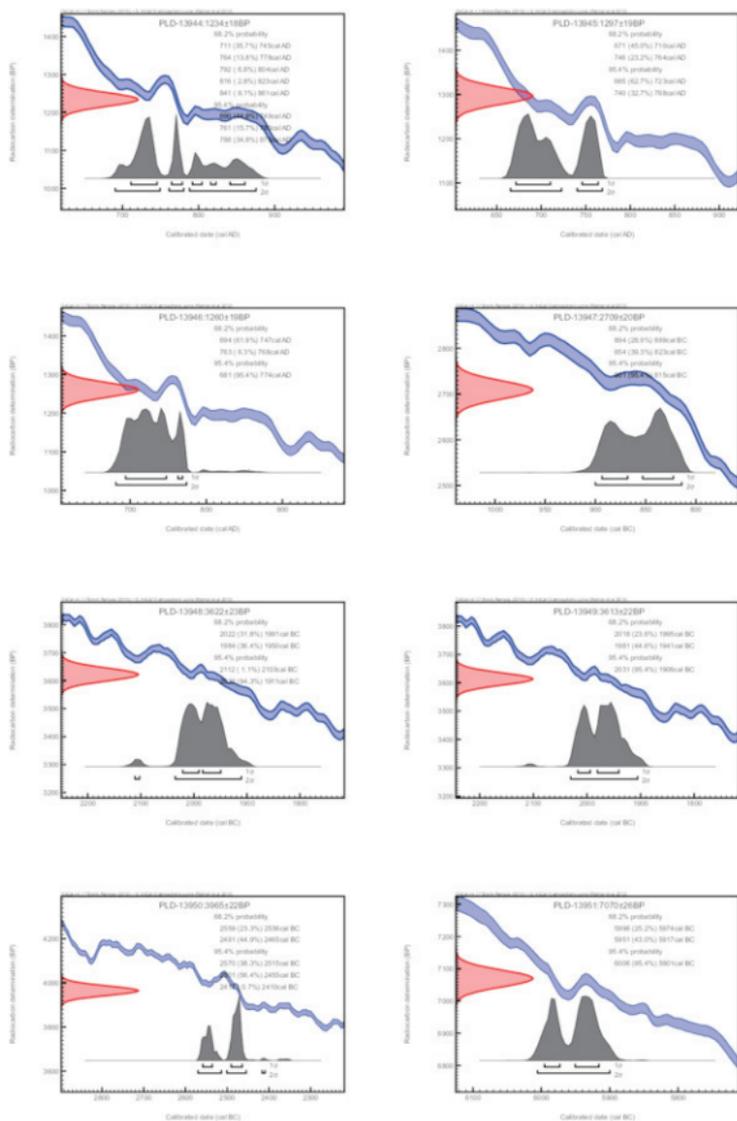
これら近世～近代の測定結果について、第41図にまとめる。

参考文献

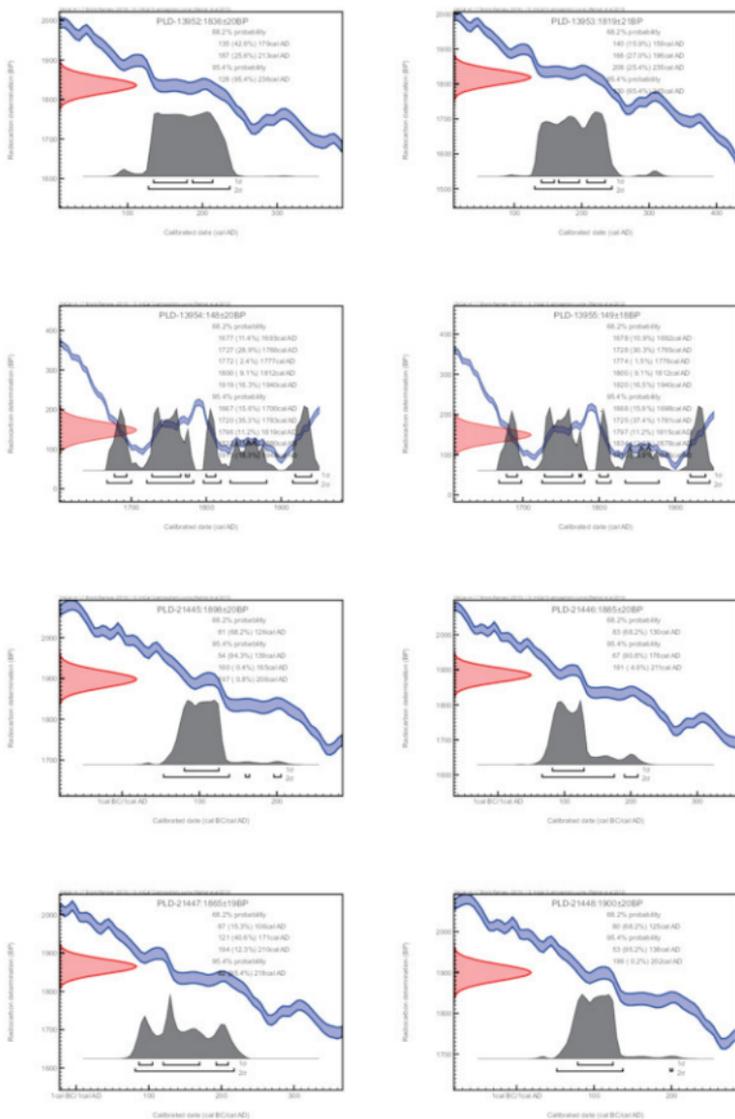
- 赤塚次郎 (2009) 弥生後期から古墳中期(八王子古宮式から宇田式期)の暦年代, 日本文化財科学会第26回大会実行委員会編「日本文化財科学会第26回大会研究発表要旨集」: 14-20, 日本文化財科学会。
- Bronk Ramsey, C. (2009) Bayesian Analysis of Radiocarbon dates, *Radiocarbon*, 51(1), 337-360.
- 藤尾慎一郎 (2009) 弥生時代の実年代, 西本豊弘編「新弥生時代のはじまり第4巻弥生農耕のはじまりとその年代」: 9-54, 雄山閣。
- 金子直行 (2008) 柔墳文系土器, 小林達雄編「総覧縄文土器」: 138-145, アム・プロモーション。
- 小林謙一 (2009) 近畿地方以東の地域への拡散, 西本豊弘編「新弥生時代のはじまり第4巻弥生農耕のはじまりとその年代」: 55-82, 雄山閣。
- 齋瀬 茂・高橋健太郎 (2008) 中富式・神明式土器, 小林達雄編「総覧縄文土器」: 494-501,
- 工藤雄一郎 (2012) 旧石器・縄文時代の環境文化史—高精度放射形炭素年代測定と考古学—, 373p, 新泉社。
- 中村健二 (2008) 凸帯文系土器(中四国・近畿・東海地方): 798-805, アム・プロモーション。
- 中村俊夫 (2000) 放射性炭素年代測定法の基礎, 日本先史時代の ^{14}C 年代編集委員会編「日本先史時代の ^{14}C 年代」: 3-20, 日本第四紀学会。
- Reimer, P.J., Bard, E., Bayliss, A., Beck, J.W., Blackwell, P.G., Bronk Ramsey, C., Buck, C.E., Cheng, H., Edwards, R.L., Friedrich, M., Grootes, P.M., Guilderson, T.P., Hafllidason, H., Hajdas, I., Hatté, C., Heaton, T.J., Hoffmann, D.L., Hogg, A.G., Hughen, K.A., Kaiser, K.F., Kromer, B., Manning, S.W., Niu, M., Reimer, R.W., Richards, D.A., Scott, E.M., Southon, J.R., Staff, R.A., Turney, C.S.M., and van der Plicht, J.(2013) IntCal13 and Marine13 Radiocarbon Age Calibration Curves 0-50,000 Years cal BP, *Radiocarbon*, 55(4), 1869-1887.
- 千葉 豊 (2008) 緑帯文土器, 小林達雄編「総覧縄文土器」: 642-649, アム・プロモーション。
- 山本直人 (2007) 東海・北陸における弥生時代の開始年代, 西本豊弘編「新弥生時代のはじまり第2巻縄文時代から弥生時代へ」: 35-44, 雄山閣。
- 矢野健一 (2008) 押型文系土器(大川式・神宮寺式土器), 小林達雄編「総覧縄文土器」: 154-161, アム・プロモーション。



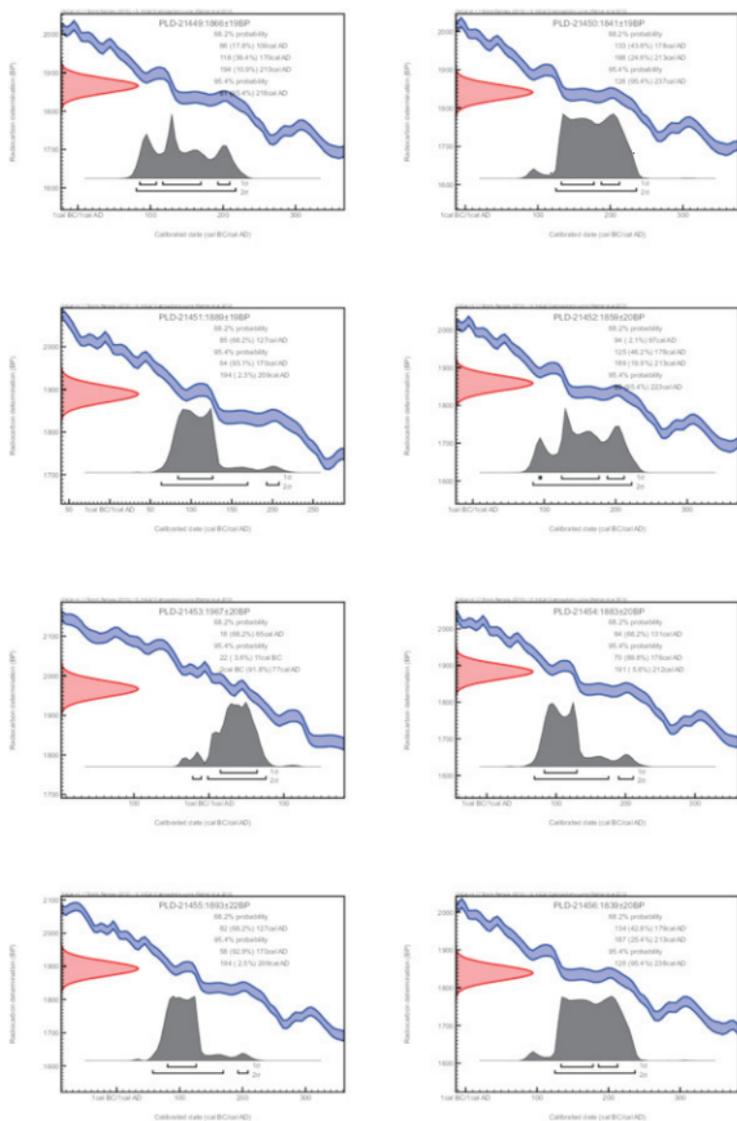
第42図 暦年代校正結果 1



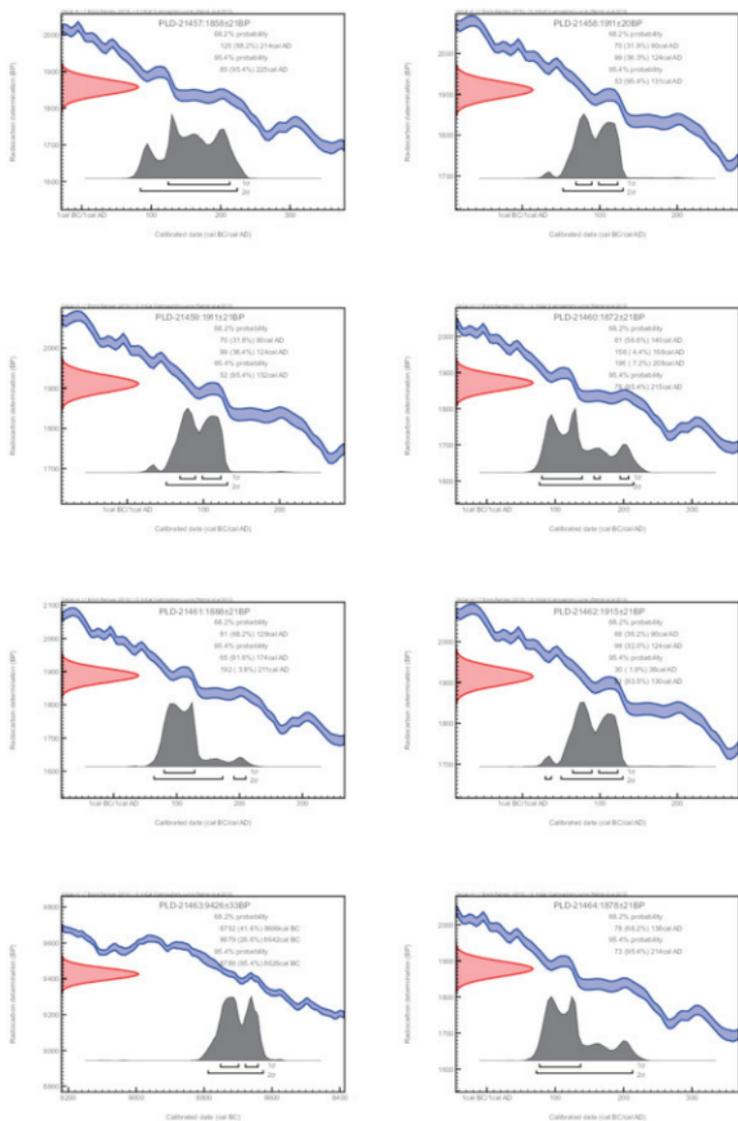
第43図 暦年校正結果 2



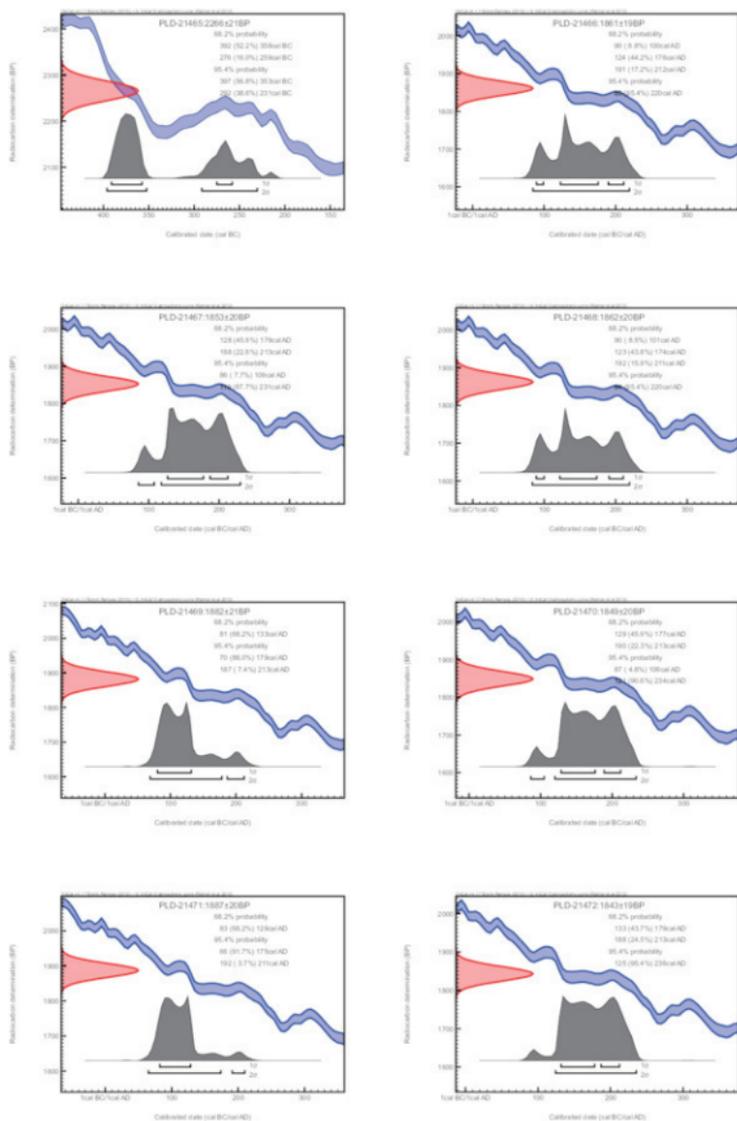
第44図 暦年校正結果 3



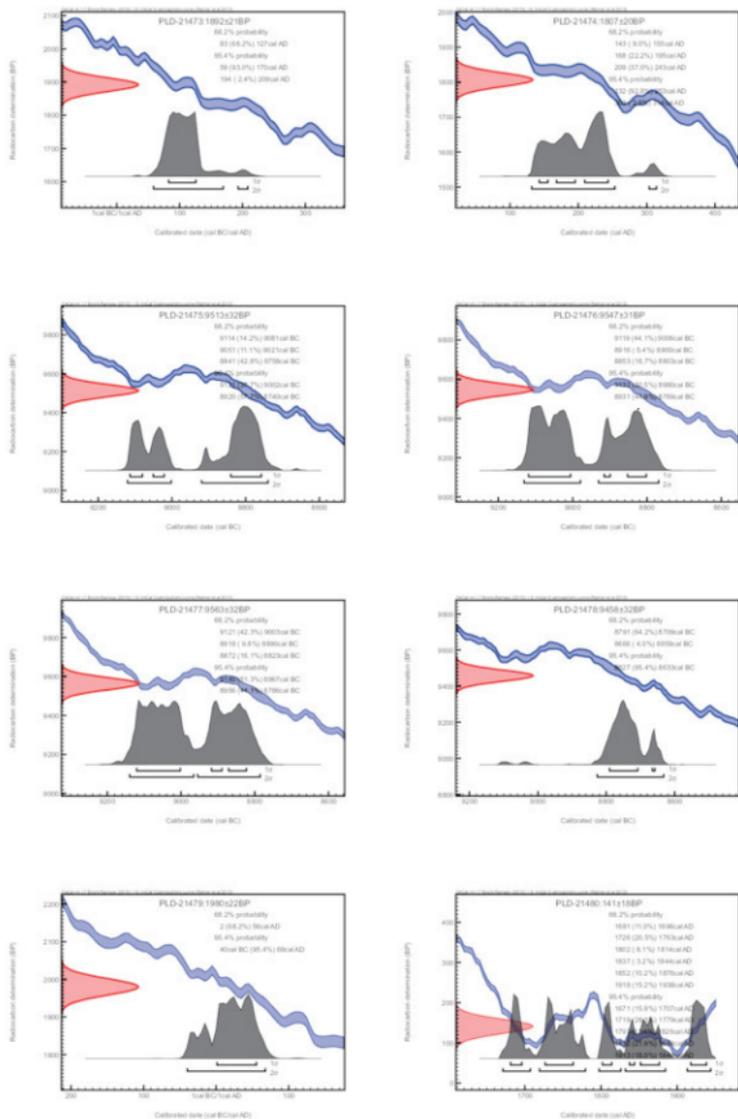
第45図 暦年校正結果 4



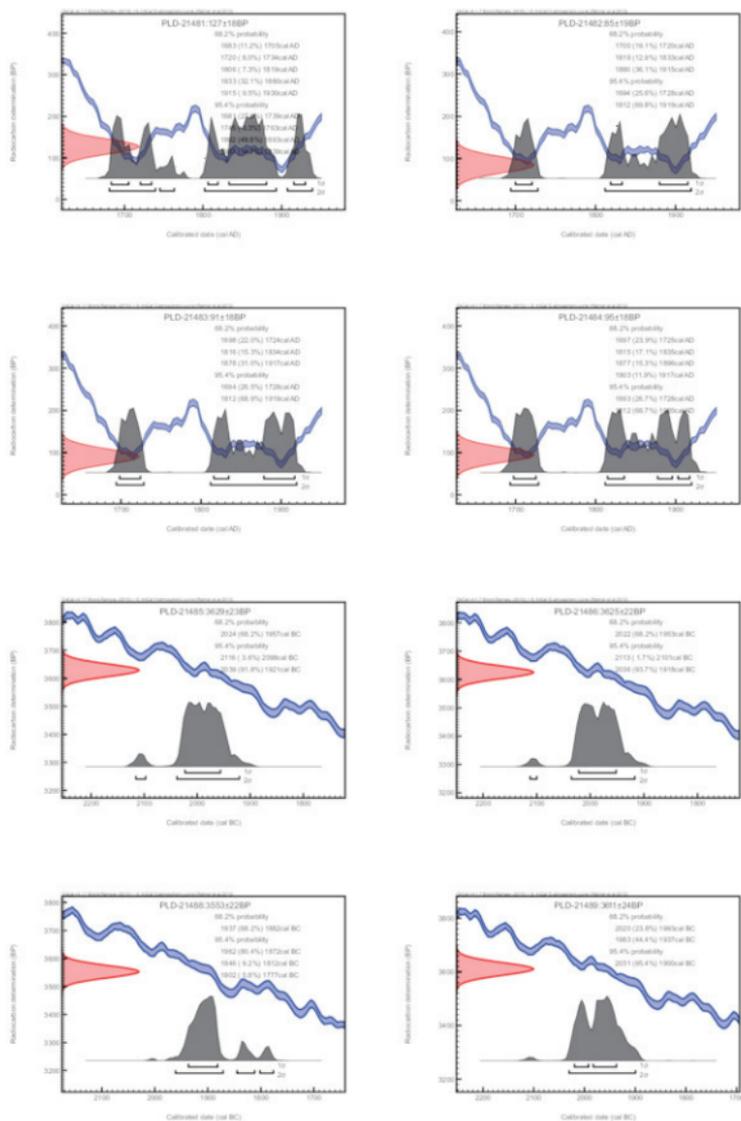
第46図 暦年較正結果 5



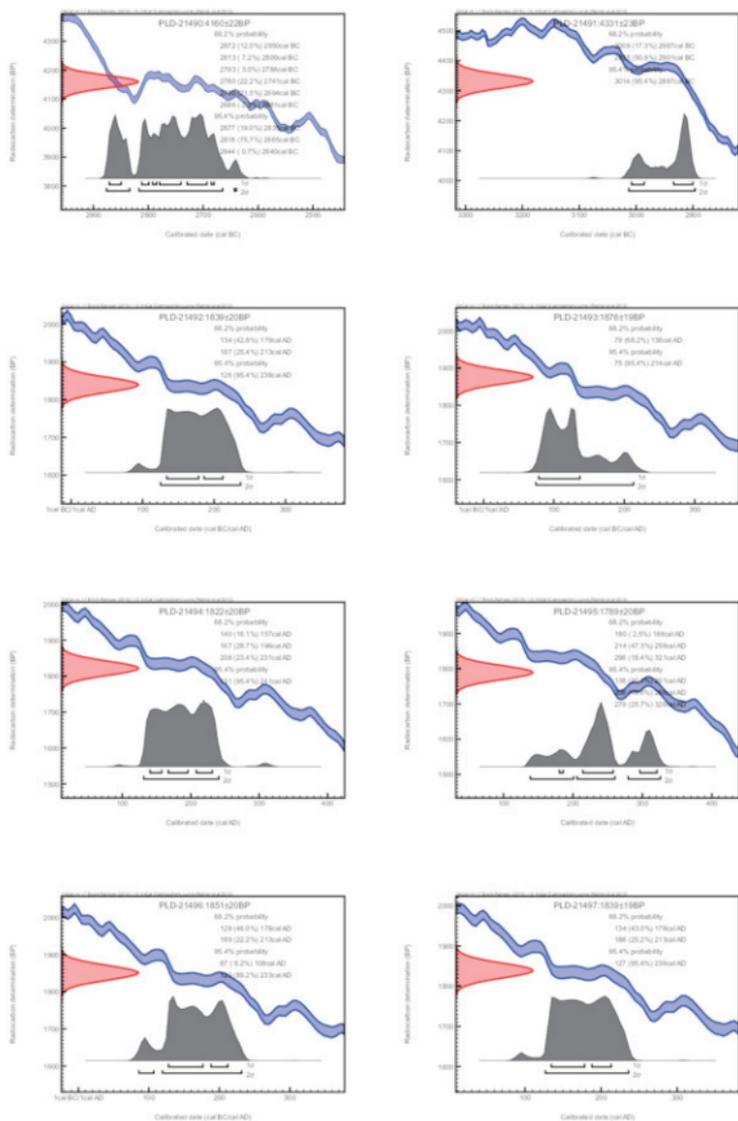
第47図 暦年校正結果 6



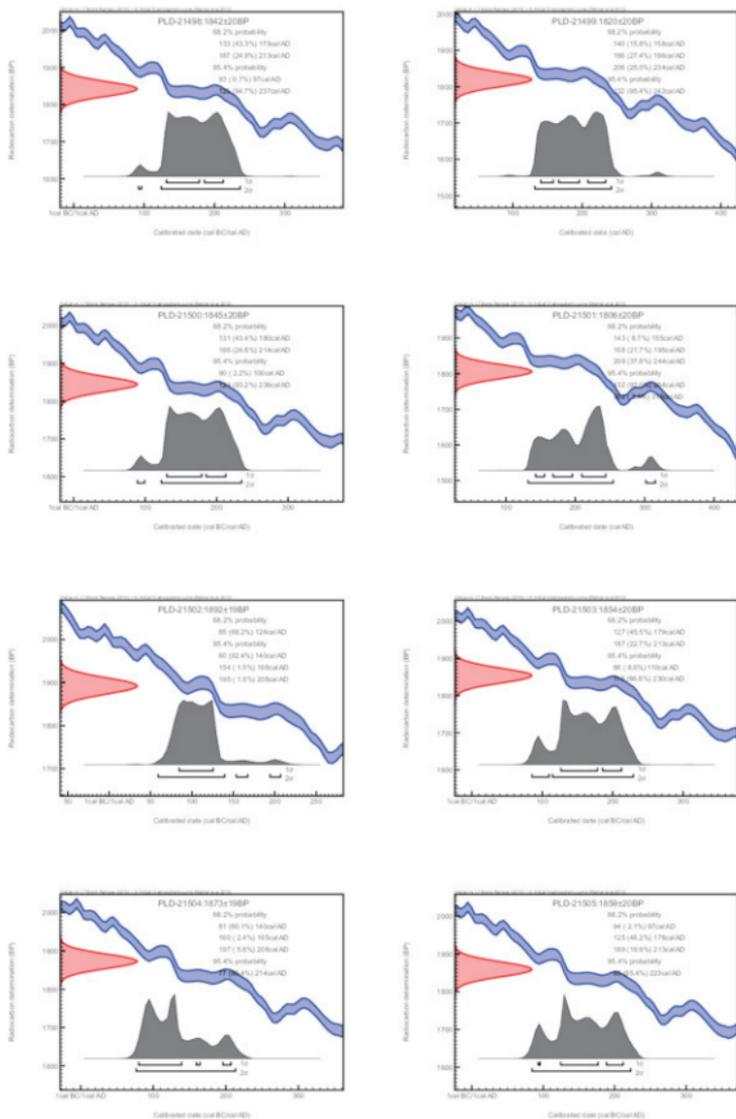
第48図 暦年較正結果 7



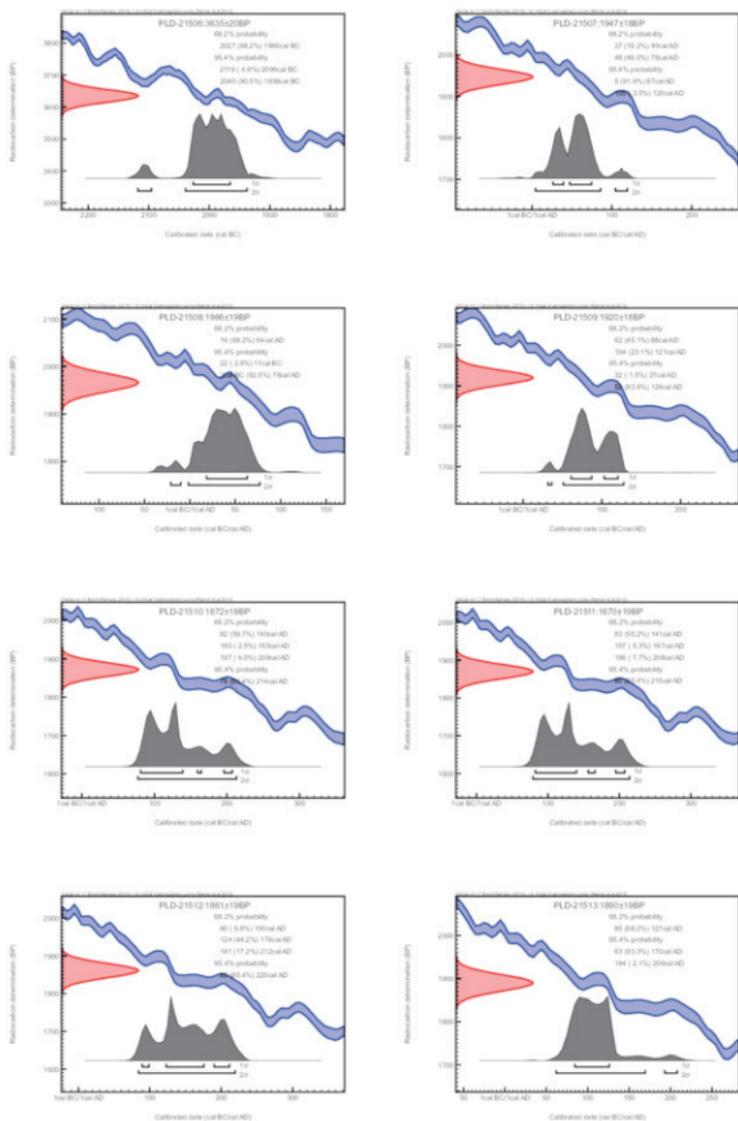
第49図 暦年校正結果 8



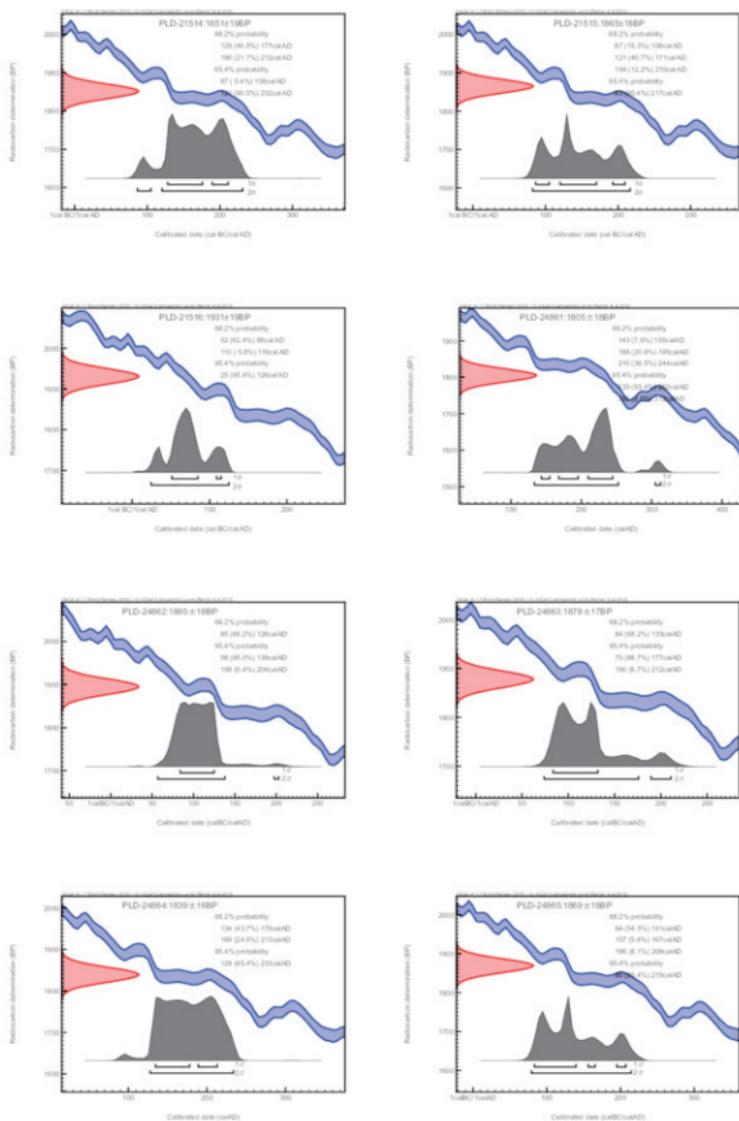
第50図 暦年較正結果 9



第51図 暦年校正結果 10



第52図 暦年較正結果 11



第53図 暦年校正結果 12

(2) 石座神社遺跡出土のウマ

中村賢太郎 (パレオ・ラボ)

1) はじめに

石座神社遺跡は新城市大宮に所在し、連吾川と大宮川に挟まれた標高約 110m の台地に立地する。台地の北側縁辺には、石座神社の社地を区画したと思われる中世（古代に遡る可能性もあり）の大溝が巡る。大溝のやや北側の斜面にある土坑内からウマの骨が出土した。ここでは、ウマの部位同定結果や計測値を記載し、年齢、性別、体高の推定を示した上で、ウマ遺体の性格について考察する。

概要

2) 試料と方法

試料は、大溝から北側へ約 5m 離れた斜面、10B 区 10C7r に位置する土坑 5631SK 出土のウマ 1 体である。5631SK は、南北に長軸を持つ、長さ約 1.3m、幅約 1.0m の長方形で、南端の覆土最下部から、上下顎の歯が並んで出土した。下顎の歯が下位にあり、直上から上顎の歯が出土し、上下の歯とも、南側に傾いていた。平面で見ると、東側から切歯、西側から臼歯が出土した。5631SK 内からは、上顎歯と下顎骨以外の部位は見られなかった。ウマ骨の他に 5631SK 内から出土した遺物は、山茶碗など土器の破片のみであった。山茶碗の形態から、時期は 12 世紀末から 13 世紀の初め頃と考えられる。

出土状況

時期

試料は、保存処理が施され、上顎切歯、上顎左臼歯、上顎右臼歯、下顎切歯、下顎左臼歯、下顎右臼歯（第 2 前臼歯～第 2 後臼歯）、下顎右第 3 後臼歯の 6 部分に分けて、樹脂で固められていた。

試料

部位同定には愛知県埋蔵文化財センター所蔵のウマ現生標本を使用した。歯の計測にはノギスを用い、0.1 mm 単位まで計測した。

方法

第 23 表 同定された部位と歯冠計測値

上顎			
左		右	
第1切歯		第1切歯	
第2切歯		第2切歯	
第3切歯		第3切歯	
第2前臼歯	46.3mm	第2前臼歯	44.8mm
第3前臼歯	55.9mm	第3前臼歯	52.9mm
第4前臼歯	53.2mm	第4前臼歯	51.4mm
×		第1後臼歯	47.8mm
×		第2後臼歯	56.2mm
×		第3後臼歯	49.6mm
下顎			
左		右	
第1切歯		第1切歯	
第2切歯		第2切歯	
×		第3切歯	
第2前臼歯	40.2mm	第2前臼歯	44.1mm
第3前臼歯	47.9mm	第3前臼歯	51.2mm
第4前臼歯	56.0mm	第4前臼歯	57.4mm
第1後臼歯	54.6mm	第1後臼歯	56.9mm
第2後臼歯	58.7mm	第2後臼歯	60.6mm
×		第3後臼歯	61.1mm
左右の下顎臼歯の内側には下顎体の一部遺存			

注：「×」は欠落

3) 結果

同定されたのはウマ (*Equus caballus*) の上顎歯と下顎骨であった。全て焼けていない生の状態であった。同定された歯種および歯冠計測値を第 23 表に示した。また、臼歯列長も計測し、値は本文中に記した。

左上顎の歯は、第 1～3 切歯、第 2～4 前臼歯が認められた。左上顎の前臼歯列長は 89.8 mm であった。

左上顎

右上顎の歯は、第 1～3 切歯、第 2～4 前臼歯、第 1～3 後臼歯が認められた。右上顎の前臼歯列長は 89.0 mm、後臼歯列長は 73.5 mm、全臼歯列長は 162.5 mm であった。

右上顎

左下顎の歯は、第 1～2 切歯、第 2

左下顎

～4 前臼歯、第 1～2 後臼歯が認められた。左下顎の前臼歯列長は 86.1 mm であった。

右下顎

右下顎の歯は、第 1～3 切歯、第 2～4 前臼歯、第 1～3 後臼歯が認められた。右下顎の前臼歯列長は 85.2 mm、後臼歯列長は 79.3 mm、全臼歯列長は 164.5 mm であった。

4) 考察

年齢・性別

ウマの年齢は、臼歯の歯冠高から 6 歳前後と推定される。性別は、犬歯が無い点からおそらくメスと推定される。全臼歯列長からは頭蓋骨長が 460 mm 前後と推定され、体高については推定された頭蓋骨長に基づく 140 cm 前後と推定される。

体高

埋葬

左右の下顎臼歯内側に下顎体の一部が遺存していた点を除けば歯のみの出土であり、歯の並びが解剖学的な正位置を留めていた点から、元は頭蓋骨と下顎骨が 5631SK 内に存在し、埋没中の分解、溶解で歯以外が消失したと考えられる。さらに、5631SK 内の出土位置から、頭部は土坑南端にあり、頭頂をやや南に傾け、東側に吻部を向けた状態だったと考えられる。5631SK 内は南端を除くと遺物分布の空白があり、おそらくウマ頭部に続いて北側に頸部、胸部、四肢が連なっていたと推定される。つまり、食用に伴う解体と残滓の廃棄ではなく、5631SK 内にウマ遺体の全身が納められていたと推定される。

祭祀の可能性

石座神社の社地に近い点や、神社にウマ関連の伝承がある点から、ウマが何らかの祭祀の犠牲として 5631SK 内に納められたとの想定が可能である。ただし、歯以外の部位が無いため刺殺や斬首など人為的な殺害の痕跡は確認できない。また、5631SK 内から祭祀に関わると判断される遺物の出土も無い。

5631SK の南東約 10m でも同規模の土坑が検出され、そこから完形の土師器や六文銭など祭祀と判断される遺物が出土した。しかし 2 基の土坑が一連の行為の痕跡であるか明瞭ではなく、5631SK が祭祀関連と判断する直接の証拠とはならない。さらに、ウマが出土した SK5631 は大溝の北側斜面にあり、大溝が社地の区画とすれば、5631SK の位置は社地の区画外にあたる。ウマを犠牲とする祭祀と考えるには、直接の証拠が足りず、5631SK の位置を説明するのやや難しい。

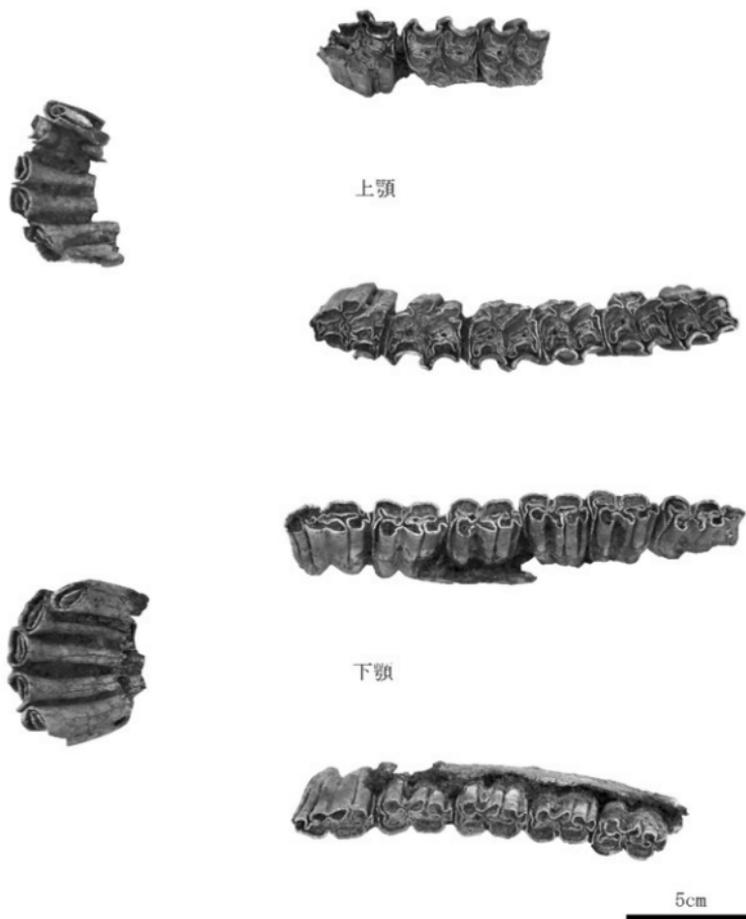
現在、大溝を東側に追っていくと、そのまま山道に繋がる。13 世紀の初め頃にも大溝が社地区画だけでなく道としても使われていた可能性が考えられる。仮に道としての利用を考えるならば、道中で倒れたウマを道の脇に葬った可能性も考えられる。

5) おわりに

12 世紀末から 13 世紀の初め頃の 5631SK では、ウマ（体高 140 cm 前後、年齢 6 歳前後、性別はおそらくメス）のおそらく全身が埋められたと考えられた。ウマを土中に埋める契機は、ウマを犠牲とする祭祀や死んだウマの埋葬などが考えられた。

参考文献

- 林田重幸・山内忠平（1957）馬における骨長より体高の推定法。鹿児島大学農学部学術報告書，6，146-156。
 松井章（2008）動物考古学，312p，京都大学学術出版会。
 西本豊弘・松井章編（1999）考古学と動物学，210p，同成社。
 西中川駿編（1991）古代遺跡出土骨から見たわが国の牛・馬の渡来時期とその経路に関する研究；平成 2 年度文化庁科学者科学研究費補助金（一般研究 B）研究成果報告，鹿児島大学農学部獣医学科。



第54図 石座神社遺跡5631SK出土のウマ

(3) 炭素・窒素安定同位体比分析

山形秀樹・小林克也 (パレオ・ラボ)

1) はじめに

概要

愛知県新城市に位置する石座神社遺跡より出土した獣骨(ウマ)および土器の付着炭化物を対象として、炭素と窒素の安定同位体比を測定した。また、炭素含有量と窒素含有量を測定して試料のC/N比を求めた。なお、土器付着炭化物について放射性炭素年代測定が、獣骨(ウマ)について部位同定や計測が行われている(同章(1)・(2)を参照)。

2) 試料および方法

試料

試料は、石座神社遺跡から出土した獣骨1点と土器付着炭化物5点の計6点である。獣骨は5631SKから出土したウマの左下顎骨1点で、土器付着炭化物は、1455SIから出土した甕(288)、3404SI上層から出土した壺(1794)の内面付着炭化物2点と、3215SI床面直上から出土した壺(1696)、6076SKから出土した甕(2823)、5785SI床面直上から出土した甕(2581)の外表面付着炭化物3点である。

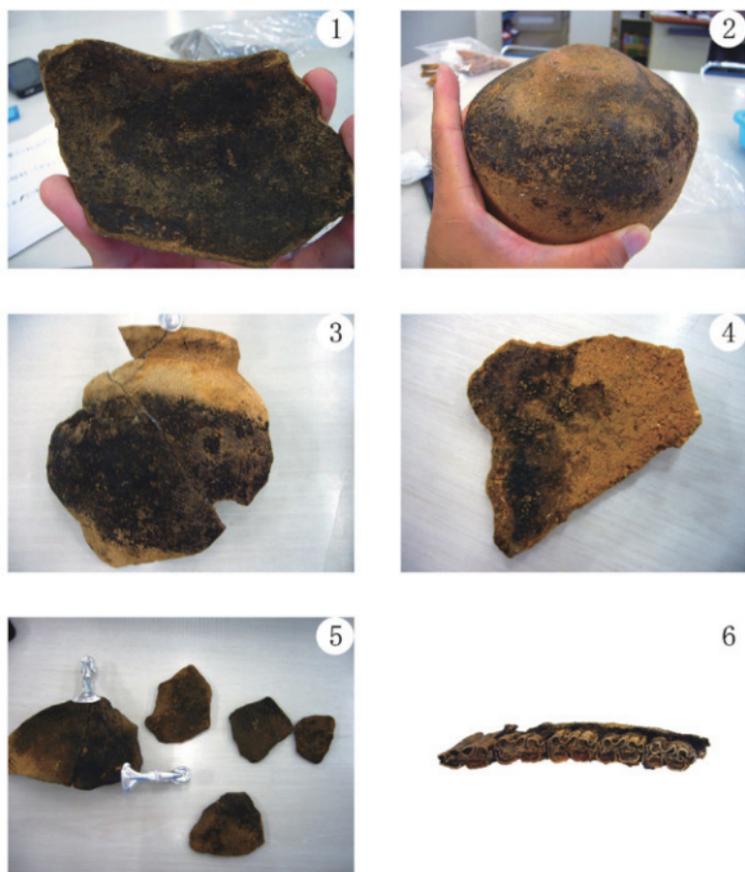
方法

測定を実施するにあたり、獣骨試料はコラーゲン抽出を行い、土器付着炭化物は酸・アルカリ・酸洗浄(HCl:1.2N, NaOH:0.1N)を施して試料以外の不純物を除去した後、測定を行った。炭素含有量および窒素含有量の測定には、EA(ガス化前処理装置)であるFlash EA1112(Thermo Fisher Scientific社製)を用いた。スタンダードは、アセトニトリル(キシダ化学製)を使用した。また、炭素安定同位体比($\delta^{13}C_{PDB}$)および窒素安定同位体比($\delta^{15}N_{AIR}$)の測定には、質量分析計DELTA V(Thermo Fisher Scientific社製)を用いた。スタンダードは、炭素安定同位体比にはIAEA Sucrose(ANU)、窒素安定同位体比にはIAEA N1を使用した。

測定は、次の手順で行った。スズコンテナに封入した試料を、超高純度酸素と共に、EA内の燃焼炉に落とし、スズの酸化熱を利用して高温で試料を燃焼、ガス化させ、酸化触媒で完全酸化させる。次に還元カラムで窒素酸化物を還元し、水を過塩素酸マグネシウムでトラップ後、分離カラムでCO₂とN₂を分離し、TCDでそれぞれ検出・定量を行う。この時の炉および分離カラムの温度は、燃焼炉温度1000°C、還元炉温度680°C、分離カラム温度45°Cである。分離したCO₂およびN₂はそのままHeキャリアガスと共にインター

第24表 分析結果一覧

試料番号	試料情報	$\delta^{13}C_{PDB}$ (‰)	$\delta^{15}N_{AIR}$ (‰)	炭素含有量 (%)	窒素含有量 (%)	C/N比
288	遺構:1455SI 種類:土器付着炭化物(内面)	-24.3	1.46	56.2	5.15	12.7
1696	遺構:3215SI床直 種類:土器付着炭化物(外面)	-24.2	8.13	27.3	0.958	33.2
2823	遺構:6076SK 種類:土器付着炭化物(外面)	-25.9	9.87	42.1	1.71	28.7
1794	遺構:3404SI上層 種類:土器付着炭化物(内面)	-25.5	2.52	44.7	4.26	12.2
2581	遺構:5785SI床直 種類:土器付着炭化物(外面)	-27.4	8.57	17.2	0.549	36.5
ウマ	遺構:5631SK 種類:ウマ左下顎骨	-18.7	6.39	42.5	12.9	3.84



第55図 土器附着物の安定同位体比と炭素窒素比測定を行なった試料

- | | |
|-----------------|-----------------|
| 1, 288 (甕体部内面) | 2, 1696 (甕体部外面) |
| 3, 2823 (甕体部外面) | 4, 1794 (甕体部内面) |
| 5, 2581 (甕体部外面) | 6, ウマ (左下顎骨) |

フェースを通して質量分析計に導入し、安定同位体比を測定した。

得られた炭素含有量と窒素含有量に基づいて C/N 比を算出した。

3) 結果

第24表に試料情報名と炭素安定同位体比、窒素安定同位体比、炭素含有量、窒素含有量、C/N比を示す。第56図には炭素安定同位体比と窒素安定同位体比の関係、第57図には

炭素安定同位体比と C/N 比の関係を示した。

第 56 図において、土器附着炭化物 2 点 (試料番号:288・1794) は C_3 植物・草食動物の位置に、その他の土器附着炭化物 3 点 (試料番号:1696・2823・2581) はいずれも C_3 植物・草食動物付近のやや窒素安定同位体比の高い位置に、獣骨 1 点 (試料番号:ウマ) は C_3 植物・草食動物と海産物の中間付近の位置にプロットされた。

第 57 図において、288 と 1794 の土器附着炭化物は C_3 植物・草食動物の位置に、1696 と 2581 の土器附着炭化物はいずれも堅果類の位置に、2823 の土器附着炭化物は堅果類と土壌 (黒色土) の間の位置に、獣骨 (ウマ) は C_3 植物・草食動物よりも $\delta^{13}C$ の値が高い位置にプロットされた。

4) 考察

甕 (288) と壺 (1794) の内面附着炭化物 2 点は、第 56 図と第 57 図のいずれにおいても C_3 植物・草食動物に相当する位置にプロットされ、 C_3 植物・草食動物に由来すると推定される。

壺 (1696) と甕 (2581) の外面附着炭化物 2 点は、 $\delta^{15}N$ が高く第 56 図では C_3 植物より上方に分布したが、C/N 比が 1696 では 33.2、2581 では 36.5 と高いことから、主に C_3 植物に由来すると推定される。

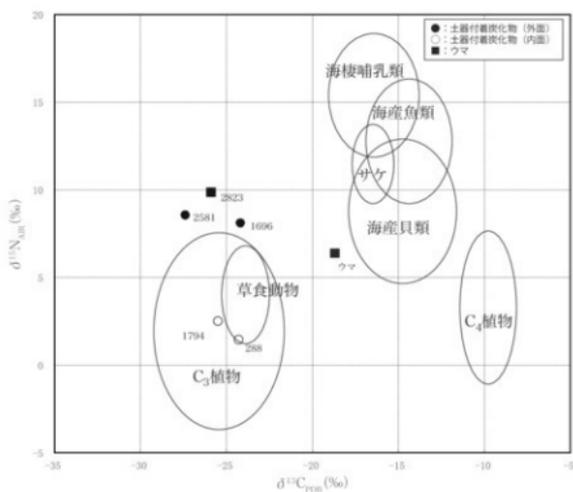
甕 (2823) の外面附着炭化物は、 $\delta^{15}N$ が高く第 56 図では C_3 植物より上方に分布したが、C/N 比が 28.7 で第 57 図では堅果類と土壌 (黒色土) の間の位置にプロットされ、 C_3 植物に由来すると推定される。

ウマ左下顎骨は、第 56 図で C_3 植物・草食動物よりも $\delta^{13}C$ の値が高い位置に、第 57 図でも C_3 植物・草食動物よりも $\delta^{13}C$ の値が高い位置にプロットされた。以上より、測定を行なったウマは、 C_3 植物の他に C_4 植物も食していた可能性が考えられる。

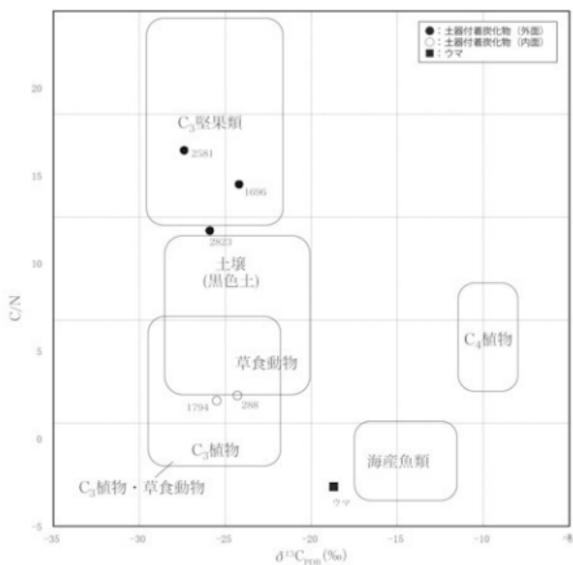
なお、コラーゲンの C/N 比は、コラーゲンの保存状態を評価する指標として用いられ、一般的に骨コラーゲンの C/N 比は 2.9 ~ 3.6 の間に収まる (DeNiro, 1985)。ウマ左下顎骨から抽出したコラーゲンの C/N 比は 3.84 であり、一般的な C/N 比の範囲より僅かであるが高い。そのため、コラーゲンの汚染や劣化が僅かながらおこっている可能性があり、測定結果に影響を及ぼしている可能性がある。

参考文献

- 赤澤 威・南川雅男 (1989) 炭素・窒素同位体比に基づく古代人の食生活の復元。田中 球・佐原 眞編「新しい研究法は考古学になにをもたらしたか」: 132-143, クバプロ。
- DeNiro, M. J. (1985) Postmortem Preservation and Alteration of *in vivo* Bone Collagen Isotope Ratios in Relation to Palaeodietary Reconstruction. *Nature*, 317, 806-809.
- 坂本 稔 (2007) 安定同位体比に基づく土器附着物の分析。国立歴史民俗博物館研究報告, 137, 305-315.
- 米田 穰 (2008) 丸根遺跡出土土器附着炭化物の同位体分析。豊田市郷土資料館編「丸根遺跡・丸根城跡」: 261-263, 豊田市教育委員会。
- Yoneda, M., M. Hirota, M. Uchida, A. Tanaka, Y. Shibata, M. Morita, and T. Akazawa (2002) Radiocarbon and stable isotope analyses on the Earliest Jomon skeletons from the Tochibara rockshelter, Nagano, Japan. *Radiocarbon* 44(2), 549-557.
- 吉田邦夫・宮崎ゆみ子 (2007) 煮炊きして出来た炭化物の同位体分析による土器附着炭化物の由来についての研究。平成 16-18 年度科学研究補助金基礎研究 B (課題番号 16300290) 研究報告書研究代表者西田泰民「日本における稲作以前の主食植物の研究」, 85-95.
- 吉田邦夫・西田泰民 (2009) 考古学が探る火炎土器。新潟県立歴史博物館編「火焔土器の国 新潟」: 87-99, 新潟日報事業社。



第56図 炭素・窒素安定同位体比 (吉田・西田2009に基づいて作成)



第57図 炭素安定同位体比とC/N比の関係 (吉田・西田2009に基づいて作成)

（４）金属製品の産地推定

西田京平・平尾良光（別府大学文化財研究所）

1) はじめに

概要 愛知県埋蔵文化財センターから、石座神社遺跡の発掘調査で出土した資料の材料産地を推定する依頼があった。今回調査した資料は弥生時代の青銅器材料3点と、戦国時代の火縄銃弾丸5個であり、それぞれ時代と資料の持つ意味が異なるので、別々に考察することとした。

石座神社遺跡から出土した弥生・古墳時代青銅器

資料 本調査で取り扱った資料は第25表で示される3点で、弥生時代後期から古墳時代前期の遺物と推測されている。出土位層などを示す。これら資料から、少量の鉛を採取し、化学組成による材料の性質と鉛同位体比分析による産地推定を行った。

弥生時代の青銅器 今までに、弥生時代青銅器に関する材料産地の解析から、次のような経緯が示されている¹⁾。弥生時代の前期後半から中期初頭（前180年頃？）に青銅器は朝鮮半島から日本へ流入したとされ、流入した青銅器は細形銅剣や細形銅矛などであった。近畿地方では初期の銅鐸（Ⅰ式銅鐸：菱環鈕銅鐸）などがその例であった。鉛同位体比の図（第58図と第59図）では朝鮮半島領域と示される範囲である。材料は朝鮮半島産だけでなく、インゴットらしき青銅遺物は見つからない。しかし流入してからしばらくして、日本の中でも鋳造が始まったと言われる。その後、前108年以降に朝鮮半島産材料から中国産材料へと変化した。青銅製品の形式では中細形銅矛、あるいはⅡ式（外縁付鈕Ⅰ式）銅鐸で、これらの形式のかなりの部分は朝鮮半島産材料を利用していたが、中国華北産材料も利用され始める。次の時代になると、中広形銅矛、あるいは銅鐸のⅡ式のⅡ式などが製作されるようになり、中国華北産材料がその主流を占める。鉛同位体比の図（第58図と第59図）では華北産領域と示される範囲である。それ以降、Ⅲ式（偏平鈕）では中国華北産材料だけになる。これらの時代を弥生時代中期後半あるいは後期前半に置くかは議論のあるところである。弥生時代後期になって、広形銅矛あるいはⅣ式（突縁鈕銅鐸）の時代になると、材料は華北産材料の中でもどこか決まった鉱山1つだけの材料であるかの様相を呈する。すなわち、鉛同位体比的には一定の値を持つ青銅が利用されるようになる。それが、銅矛でも、銅鐸でも同じ傾向を示す。鉛同位体比図（第58図と第59図）では華北領域の'a' 'a' と示される。

こうした材料の流れは他の青銅器でも見られ、銅剣、銅鏃、銅鋤先などにも年代的な変化の類推が可能である。それ故、弥生時代の青銅器材料は大きな流れと見た場合に、朝鮮半島産材料 → 中国華北産材料 → 中国華北 'a' 領域へと変化する と推定できる。

古墳時代の青銅器 この傾向は古墳時代の青銅器になると一変する。古墳時代の青銅器はその初期から華南産の材料が用いられるようになる。鉛同位体比図（第58図と第59図）では華南領域と示される。古墳時代には華北産材料は全く現れない。それ故、弥生時代青銅器であるかどうかは、華北産材料であるか華南産材料であるかで、殆どの場合判別できる。

銅鏡 青銅器の中で銅鏡に関しては少々様相が異なる。前漢鏡には華北産材料が利用されてお

り、後漢鏡には華南産材料が主として利用されている。しかし鏡の種類によって、例えば方格規矩鏡、内行花文鏡などは年代との関連性に関する判断が難しい。後漢時代になっても、華北産材料と華南産材料が利用されるからである。

本調査における資料が青銅器の年代的な変遷の中でどの時代に位置し、発掘調査の年代観とどのように整合するののかに関して調べることができれば、本調査の意義は大きいこととなろう。

石座神社遺跡から出土した戦国時代の火縄銃の弾丸

火縄銃の弾丸は金属鉛でできていることが多く、一般的な大きさは直径約1cmの球形である。今回の資料も概ねこのような大きさであり、材質であった。しかしながら、地中にある間に錆びて、白色の炭酸鉛で覆われていることが多い。

ここで、日本における鉛生産を歴史的に概観する⁽²⁾⁽³⁾。奈良時代になって、銅の生産と共に、鉛は日本で生産されるようになり、銅への添加物として利用された。少量ながら、軸葉、白色顔料などにも利用されたが、大部分の鉛は銅、あるいは青銅への添加物として利用されることが多かった。このことは皇朝十二銭で示されるように、鉛は青銅製品の主成分の一つとして加えられており、その発行枚数を考慮するとかなりの量にのぼる。皇朝十二銭に含まれる鉛は鉛同位体比の研究からすべて日本産の鉛が使用されていた事が判っている。皇朝十二銭の最後の1種は乾元大宝（初铸963年）であり、この時には大きさが和同開珎よりも小さくなり（大きさが約70%、質量で約50%）、鉛濃度も50%を超えたという。これは日本における銅の生産が行き詰まったため、代わりに鉛が加えられていることを示す。それ故、鉛の生産は十分にあったという事であろう。

平安時代後期になって、日本産材料を用いた青銅は1150年以降殆どなくなり、鎌倉時代には中国産の青銅が始どすべての青銅材料として利用されるようになる。それは経筒、鎌倉大仏、持念仏その他の青銅製品がすべて中国産の鉛同位体比を示すからである。その材料は中国から輸入した宋銭であると推測される。

室町時代になると、日本における銅の生産が復活し、日明貿易における日本からの主輸出品は銅となる。日本国内では日本産と中国産の青銅が出まわる。おそらく、日本産の銅（青銅）には日本産の鉛が加えられたことを示唆する。このことは日本における鉛の生産は銅の使用量によって制御されていたとも言える。室町時代後期の1533年に灰吹き法という銀の製錬方法で鉛を大量に利用するようになり、また、1543年以降、鉄砲玉として鉛自体が大量に必要となる。

火縄銃は1543年に種子島へ伝来して以来、日本の中では各大名が競ってこれを戦闘に取り入れた。この時に各大名は銀製錬のための鉛と鉄砲玉の鉛が必要であり、新しい鉛鉱山を開発したのであろう。歴史的には鉛鉱山の開発や増産は大変であったかも知れないが、鉛玉は確保できたのではないかと考えられる。しかし、火縄銃の弾丸に用いられた鉛玉に関する今までの研究から、鉄砲玉として用いられた鉛は鉄砲玉全体の、20～40%がタイ産の鉛、約20%が中国産、残りの約50%が日本産の鉛であることが判明した⁽⁴⁾。すなわち、用いられた鉄砲玉の約半数は外国産鉛であるという結論である。これは何を意味するのであろうか。もう一つの問題として、灰吹き法という銀生産に用いられた鉛の方が鉄砲玉よりもはるかに大量の鉛を必要としたであろう。このために国内で鉛を十分に供給できたか

奈良時代の鉛生産

平安時代後期

室町時代

火縄銃の弾丸

どうかである。火縄銃の弾丸に日本産の鉛が50%しか利用できなかったことは銀製の鉛もこのように足りなかったのではなかろうか。

火縄銃の火薬

ここで、火縄銃に大切な材料は鉛と火薬である。鉛のことは前述したので、火薬のことを考える。この火薬をどのように手に入れるかは鉛と同様に重大な問題であったろう。今までの研究で日本における火縄銃使用の初期には火薬を100%輸入していた。火薬は硝石と木炭と硫黄を混合して作ったいわゆる黒色火薬であり、中国で生産されていた。中国で硝石は採れたが、硫黄はそれ程産出できなかった。それ故、日本から輸入したとされている。日本では硝石が採れないので、硝石を中国あるいは東南アジアから輸入し、硫黄と炭素を混合することで火薬を生産したとされる。それ故、火薬そのものあるいは硝石を手に入れることが鉄砲を使用するための最重要事項であった。一方、当時の南蛮船あるいはジャンク船が日本の銀を求めて来港していたが、その時に日本では火薬(硝石)(鉛も?)を非常にほしがっていた。それ故、火薬(硝石)だけでなく、火薬(硝石)と鉛をセットとして売り込めば、その方が儲かったであろう。買い入れる大名も鉛と火薬がセットであれば、好都合であったろう。当時の東南アジアにはアユタヤ王国があり、鉛をふんだんに生産していたことが判っている。また文献にも硝石、あるいは鉛を運んだことがあちこちに散見する。そこで、火薬(硝石)を手に入れるためには鉛も一緒に買い込んだのではないだろうか。

三好・松永の戦い

鉄砲玉の解析例を挙げる。その一つは1567年に東大寺を挟んで起きた三好・松永の戦いがある。この時の鉄砲玉が東大寺南大門の仁王像で見つかった。5個の鉄砲玉の内3個の鉛同位体比を測定した。その結果1個が日本産材料、2個がタイ産の鉛であった。このことから、タイ産の鉛は早くから、日本へ流入していたと考えられる⁽⁵⁾。

長篠の戦い

その二つ目は長篠の戦いで用いられた鉄砲玉である⁽⁶⁾。長篠の戦いは1575年に織田・徳川連合軍と武田勝頼軍の間に起きた戦いである。この時の戦いで、織田軍は3000挺の鉄砲隊を用意し、3段撃ちという新戦法を応用したと言われる。3000挺の鉄砲と弾薬を織田軍はどのようにして用意したのであろうか。

これまでに、「設楽原を守る会」から12個の鉛玉に関して鉛同位体比測定を依頼され、その結果が出ている。それからすると、12個の鉛玉の内3個はタイ産の鉛(1個はタイと日本産鉛の混合)、7個が日本産の鉛(5個は未知の鉱山産であり、鉛同位体比が殆ど一致。2個は別の鉱山)、残りの2個が朝鮮半島(あるいは遼寧省産材料)であることが判った。それ故、織田信長はタイ産の鉛を輸入している大名の一人であり、他にどこの地域の鉛を利用しているかは意義の深い資料である。すなわち、領国内で新たな鉛鉱山を開いた可能性を示唆する。

長篠の戦いでどれだけの鉄砲玉が撃たれたかは判らないが、武田側か信長側の弾丸が示している内容は大きい。それ故、今回の5個の鉄砲玉が今までの12個の鉄砲玉に加えて、どこの産地の材料が利用されているかを判断する上で、重要な資料である。そこで、これら資料に関して、鉛同位体比法を用いて材料産地を推定した。

2) 鉛同位体比法

原理

地球が誕生したのは45.6億年前とされている。そして、この時にすべての元素の同位

体組成は地球上で元素毎にある値になっていて、地球のどこでも同じ値であったとされている。ほとんどの元素の同位体比は時間が経っても変化しなかったが、例外的なくつかの元素は変化した。鉛はその例外的な元素の一つである。

鉛 (Pb) には ^{204}Pb , ^{206}Pb , ^{207}Pb , ^{208}Pb の同位体があり、地球が誕生した時にできた岩石中に他の元素と一緒に含まれていた。時間が経つと岩石中に含まれていた ^{238}U は ^{206}Pb に、 ^{235}U は ^{207}Pb に、 ^{232}Th は ^{208}Pb に変化する。よって、U (ウラン) と Th (トリウム) が減少した量だけ鉛の量は増えてくる。各鉛同位体の量は岩石中の U、Th、Pb の量および岩石中で Pb と U、Th が共存していた時間の長さによって、それぞれの増加量が異なるため、鉛同位体比の違いとして表わすことができる。それ故、同位体の量が地球の誕生から変わっていない ^{204}Pb 量と、変化した ^{206}Pb , ^{207}Pb , ^{208}Pb 量との比を調査し、これを世界の鉛鉱山の同位体比と比較することによって鉛の産地の違いを判別することができる⁽⁷⁾。

分析方法

鉛同位体比分析は研究対象となった資料から分析用の試料採取が必要な分析方法であるが、約 0.01 mg の微量でも測定可能であるので、文化財資料の形態損傷を最少限に分析することが可能である。本調査に於いて鉛同位体比分析を行うために、資料から鉛を少量採取した。青銅資料に関しては、資料から剥落したと思われる鉛を採取し、鉄砲玉資料からは、表面の鉛を微量採取した。採取した試料に関しては次のような処理をして鉛同位体比を測定した。

まず、試料をエタノールで洗浄した後、石英製ビーカーに入れ、硝酸で溶解した。これを蒸留水で約 5ml に希釈し、直流 2V で電気分解した。約 1 日の時間をかけて電気分解を続け、陽極に析出した二酸化鉛を硝酸と過酸化水素水で溶解した。この溶液から 0.2 μg の鉛を分取し、これにリン酸とシリカゲルを加えてレニウムフィラメント上に乗せた。以上のように準備したフィラメントを質量分析計 (別府大学に設置されているサーモエレクトロン社の表面電離型質量分析計 MAT262) の中にセットし、条件を整え、鉛同位体比を 1200°C で測定した。また、同一条件で標準鉛試料 NBS-SRM981 を測定し、規格化した。分析値の表し方

一般的に鉛同位体比分析結果は分かりやすく、比較しやすくするために図式化して比較している。鉛には ^{204}Pb , ^{206}Pb , ^{207}Pb , ^{208}Pb の独立した 4 つの同位体があり、同位体比は $^{206}\text{Pb}/^{204}\text{Pb}$, $^{207}\text{Pb}/^{204}\text{Pb}$, $^{208}\text{Pb}/^{204}\text{Pb}$, $^{204}\text{Pb}/^{206}\text{Pb}$, $^{207}\text{Pb}/^{206}\text{Pb}$, $^{208}\text{Pb}/^{206}\text{Pb}$, $^{204}\text{Pb}/^{207}\text{Pb}$, $^{206}\text{Pb}/^{207}\text{Pb}$, $^{208}\text{Pb}/^{207}\text{Pb}$, $^{204}\text{Pb}/^{208}\text{Pb}$, $^{206}\text{Pb}/^{208}\text{Pb}$, $^{207}\text{Pb}/^{208}\text{Pb}$ という 12 の方法で表現される。この方法の中で一番整った図で表現でき、4 種類の同位体を含む $^{207}\text{Pb}/^{209}\text{Pb}$ - $^{208}\text{Pb}/^{206}\text{Pb}$ (A 式図) と $^{206}\text{Pb}/^{204}\text{Pb}$ - $^{207}\text{Pb}/^{204}\text{Pb}$ (B 式図) という 2 つの図を用いた表現方法がよく利用されている。

図式に表示した領域は馬淵久夫、平尾良光の研究によって次の基準で設定されている。中国の前漢時代、後漢時代・三国時代の銅鏡を分析して、これらを第 58 図と第 59 図の中にプロットすると、前漢時代の銅鏡と後漢・三国時代の銅鏡の材料が、はっきり区分されて分布する。そこで前漢時代の銅鏡が分布した領域は、他の出土資料と比較して華北産材料の領域と示され、後漢時代・三国時代の銅鏡が分布する領域は華南産材料の領域と示されている。弥生時代後期の突線鈕銅鐸や広形銅矛などの青銅器の中でもより後期とされ

鉛同位体

鉛同位体比分析

分析方法

図式化の方法

華北産と華南産

a 領域

る資料は華北産材料の領域の中で一定の範囲に集まって分布するので、この領域を特定領域 'a' と 'a'' と表している。

日本産 日本産材料の領域を設定する場合、西暦 6 世紀頃までの遺物で日本産の材料を用いたと断定できる資料は今のところ確認できていないので、8 世紀以降に作られた銭貨と現代の鉛鉱山が示す分布を日本産材料の領域と設定している。

朝鮮半島産 朝鮮半島産材料の領域には、朝鮮半島で製作されたと考えられる多鈕細文鏡を用い、それらが示す分布領域を朝鮮半島産材料の範囲と設定している⁽⁷⁾。

鉛材料の産地は当然鉛鉱山が示す値から設定するべきであるが、文化財資料が製作された当時に利用された鉱山を探すことは無理であり、現実的にも限界がある。そのため、これまで分析した文化財資料から確認できる結果を基に鉛原料の産地を推定している。

3) 結果

資料の記載は第 25 表、蛍光 X 線分析法で得られた化学組成は第 26 表⁽⁸⁾、質量分析法により得られた鉛同位体比は第 27 表で示される⁽⁵⁾。

第 25 表 鉄砲玉と青銅製品

資料名	遺物番号	グリッド	遺構・層位	分析番号
石塚神社遺跡鉄砲玉-1	3572	10B7i	表探	BP5655
石塚神社遺跡鉄砲玉-2	3571	10B5t	遺構外	BP5656
石塚神社遺跡鉄砲玉-3	3570	10D15p	遺構外	BP5657
石塚神社遺跡鉄砲玉-4	3573	10C9s	1900SD	BP5658
石塚神社遺跡鉄砲玉-5	3569	10E17q	遺構外	BP5659
破鏡	3556	10C17d	3002SI	BP5671
板状青銅製品	3558	10C10e	4340SI上層	BP5672
銅鏝	3557	10C10s	5785SI下層	BP5673

第 26 表 蛍光 X 線法による資料の化学組成（質量%）

資料名	Fe	Cu	As	Ag	Sn	Sb	Pb	分析番号
石塚神社遺跡鉄砲玉-1	0.34	-	-	-	-	-	99.66	BP5655
石塚神社遺跡鉄砲玉-2	0.21	-	-	-	-	-	99.79	BP5656
石塚神社遺跡鉄砲玉-3	1.75	-	-	-	-	-	98.25	BP5657
石塚神社遺跡鉄砲玉-4	0.01	-	-	-	-	-	99.99	BP5658
石塚神社遺跡鉄砲玉-5	0.52	-	-	-	-	-	99.48	BP5659
破鏡	1.14	12.46	0	0.19	80.93	0.95	4.34	BP5671
板状青銅製品	1.53	67.59	0	1.13	13.84	2.42	13.49	BP5672
銅鏝	0.22	82.38	0	1.09	5.49	1.63	9.19	BP5673

第 27 表 資料の鉛同位体比

資料名	²⁰⁸ Pb/ ²⁰⁹ Pb	²⁰⁷ Pb/ ²⁰⁹ Pb	²⁰⁶ Pb/ ²⁰⁹ Pb	²⁰⁷ Pb/ ²⁰⁸ Pb	²⁰⁶ Pb/ ²⁰⁸ Pb	分析番号
石塚神社遺跡鉄砲玉-1	18.433	15.620	38.729	0.8474	2.1011	BP5655
石塚神社遺跡鉄砲玉-2	18.492	15.628	38.777	0.8451	2.0969	BP5656
石塚神社遺跡鉄砲玉-3	18.418	15.591	38.644	0.8465	2.0981	BP5657
石塚神社遺跡鉄砲玉-4	18.370	15.590	38.613	0.8487	2.1019	BP5658
石塚神社遺跡鉄砲玉-5	18.419	15.575	38.478	0.8456	2.0890	BP5659
破鏡	17.843	15.563	38.480	0.8722	2.1566	BP5671
板状青銅製品	17.743	15.549	38.433	0.8763	2.1660	BP5672
銅鏝	17.742	15.551	38.438	0.8765	2.1665	BP5673
誤差範囲(1σ)	±0.010	±0.010	±0.030	±0.0003	±0.0006	

4) 考察

石座神社遺跡から出土した弥生・古墳時代青銅器

得られた化学組成から判断すると、これら青銅器には銅、スズ、鉛が主成分として検出された。青銅は錆びると化学元素濃度が著しく変化する。一般論として銅が溶出して減少し、スズと鉛は逆に濃縮する傾向がある。もちろんその場の条件に依存して、銅が濃縮する場合もあり得る。

主成分

今回の石座神社出土資料では特別な条件ではないようで、(破)鏡で銅が12%という値はこのままの値が本来の数値ではなく、銅が溶出し、スズが濃縮した典型例であろう。その他の不純物成分が見られたことはこれら資料の材料が現代産ではなく、当時の材料であることを示唆する。

鉛同位体比を図に示すと第58図と第59図となった。これらの図から、板状青銅製品と銅鏡が同図で、'a'領域に含まれた。このことから、青銅製品は弥生時代後半に利用された青銅製品(広形銅矛、第IV式銅鐔など)と同じ材料を利用していると推測される。それ故、これら資料は弥生時代の中でも終末期に近い頃の材料を用いていると判断される。また、破鏡は華北産材料領域に含まれたが、後漢時代の方格規矩鏡や内行花文鏡がこのような値を示すことがあり、3資料はほぼ同一の時代の資料であり、弥生時代後期、それも、より終末期に近い頃の資料であろう。

鉛同位体比

石座神社遺跡から出土した戦国時代の鉄砲玉

得られた化学組成から判断すると、この鉄砲玉は鉛製である。白い錆は炭酸鉛であろう。鉛製の丸い玉は火縄銃の弾丸以外に推測される製品は考えにくい。また発掘品であることから古い時代の資料であれば、長篠の戦いで利用された鉄砲玉の可能性が高い。それ故、長篠の戦いに関係ある鉄砲玉として考える。

化学組成

これら鉄砲玉の同位体比を第60図と第61図で示す。これらの図から、測定した5個の鉄砲玉は産地が少し違っているがすべて日本産材料であると判断できる。鉄砲玉1~4は同図でほぼ一直線に並んでいるようにも見えるため、2種類の日本産材料を混合したとも見受けられる。その線から外れている鉄砲玉5は異なる材料と判断される。

鉛同位体比

5個の鉄砲玉を設楽原・長篠城から出土した鉄砲玉およびその他の鉄砲玉と比較してみる。第62図と第63図で示されるように、東大寺南大門の鉄砲玉(3個)は1567年の三好・松永の戦い、田中城跡の鉄砲玉(56個)は九州熊本県の北部にある旧三加和町の田中城で、1587年に土地の豪族である丹羽氏と豊臣秀吉との間にあった戦い、そして「設楽原を守る会」が提供して下さった織田・徳川軍と武田軍が戦った設楽原と長篠城から出土した鉄砲玉(12個)を比較した。

鉄砲玉の比較

これらの資料の分布と、今回の5個の分布状態を比較判断すると、特に大きな違いはみられない。また、設楽原から出土した資料とも特に違いは見られない。それ故、今回測定した5個の鉄砲玉は特別な鉛を利用したのではなく、一般に利用されていた鉛であると判断できる。その中で、特徴的なことは今回の5個の鉛玉はすべて日本産材料であった。そして鉄砲玉2番目が前に測定された設楽原の鉄砲玉資料と重なった。前回測定した鉄砲玉12個のうち、7個が日本産であり、そのうち5個が第62図と第63図で殆ど一箇所に集まった。この集まりの中に今回の2番目の鉄砲玉が含まれた。また、鉄砲玉5は田中城

の鉄砲玉（No.27）と重なっているため、これも関連性がありそうである。鉄砲玉5が例えば豊臣秀吉軍と関係があるならば、九州の田中城とも関連性があったとしてもおかしくはない。すなわちこれら鉄砲玉は織田軍側の鉄砲玉である可能性が高くなる。

長篠の戦い

長篠の戦いで用いられた鉄砲玉の12個が測定され、そのうちの3個がタイ産材料、2個が朝鮮半島あるいは遼寧省であった。すなわち12個中5個が外国産であった。それが今回の測定値を加えることになると、17個中12個（75%）が日本産材料であり、5個（25%）が外国産材料となった。このことは外国産材料の比率が見かけ上、下がったことになるけれども、25%がまだ外国産であることは大きな問題点である。しかし比率を出して、統計的に取り扱うまでには鉄砲玉の数が集まっていない事は事実である。

鉄砲玉の材料産地のことから、銀製銃に用いられた鉛のことを類推することも大切であり、今回の鉄砲玉の持つ意義は大きい。

参考文献

- (1) 平尾良光、鈴木浩子：弥生時代青銅器の産地推定、『古代青銅の流通と製造』鶴山堂（東京）p163-208（1999）
- (2) 平尾良光：材料が語る中世—鉛同位体比測定からみた経路—、『経路が語る中世の世界』、別府大学文化財研究所企画シリーズ-1、共編：小田富士雄、平尾良光、飯沼賢司、思文閣（京都）、p21-33（2008）
- (3) 平尾良光、飯沼賢司：大航海時代における東アジア世界と日本の鉛流通の意義、『キリシタン大名の考古学』、別府大学文化財研究所企画シリーズ2、「ヒトとモノと環境が語る」別府大学文化財研究所・九州考古学会・大分県考古学会編、思文閣（京都）p144-166（2009）
- (4) 魯観球、西田京平、平尾良光：南蛮貿易と金属材料、『キリシタン大名の考古学』、別府大学文化財研究所企画シリーズ2、「ヒトとモノと環境が語る」別府大学文化財研究所・九州考古学会・大分県考古学会編、思文閣（京都）p131-141（2009）
- (5) 平尾良光、榎本淳子：鉛製弾丸の自然科学的調査、釘・鋸の化学的調査、『東大寺南大門 国宝木造金剛力士立像修理報告書本文編』文化庁編、p142-p156（1993）
- (6) 西田京平、平尾良光：設楽原・長篠城から出土した鉛玉の意味、『設楽原を守る会』（2011年4月29日）で報告・発表。
- (7) 平尾良光、榎本淳子：古代日本の青銅器の鉛同位体比、『古代青銅の流通と製造』編集 平尾良光、鶴山堂（東京）、p29-161（1999）
- (8) 大野克美、川瀬晃、中村利廣：『X線分析法』共立出版（東京）（1987）
- (9) 中井泉：『蛍光X線分析の実際』、日本分析化学会X線分析研究懇談会監修、朝倉書店（2005）

追記

板状青銅製品（3558）は銅鐸片の可能性も想定される（第3章第3節（17）を参照）。銅鐸（3557）と思われる青銅製品も含めて、測定された鉛同位体比は豊橋市西側遺跡出土銅鐸片、同瓜郷遺跡出土銅鐸片と近似した数値を示し、近畿式・三遠式銅鐸とほぼ同一の「規格品の原料」が使用されていることも想定されている（齊藤2005）。

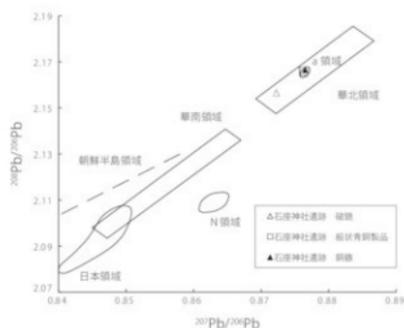
第28表 西側遺跡・瓜郷遺跡出土銅鐸片の鉛同位体比

資料名	$^{208}\text{Pb}/^{206}\text{Pb}$	$^{207}\text{Pb}/^{206}\text{Pb}$	$^{208}\text{Pb}/^{207}\text{Pb}$	$^{207}\text{Pb}/^{208}\text{Pb}$	$^{206}\text{Pb}/^{208}\text{Pb}$	分析番号
西側遺跡出土銅鐸片	17.757	15.567	38.471	0.877	2.167	B7701
瓜郷遺跡出土銅鐸片	17.777	15.564	38.466	0.876	2.164	B7703

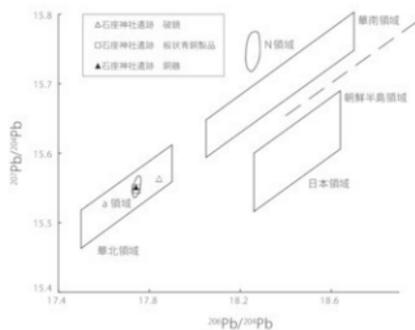
参考文献

齊藤努2005「西側遺跡・瓜郷遺跡出土銅鐸片の鉛同位体比測定結果」『西側遺跡（1）』豊橋市埋蔵文化財調査報告書第82集 豊橋市教育委員会

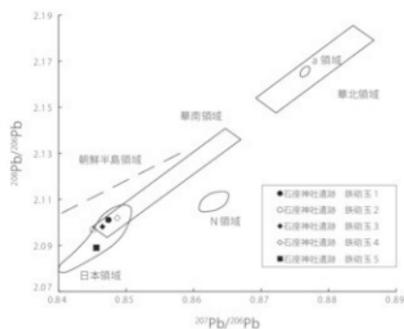
（早野浩二）



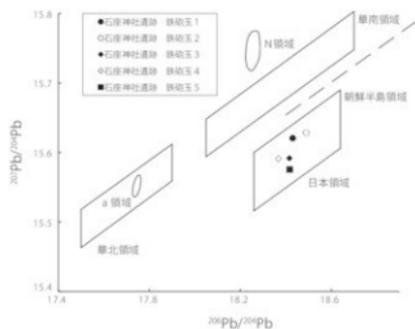
第58図 石座神社遺跡出土青銅器の鉛同位体比 (A式図)



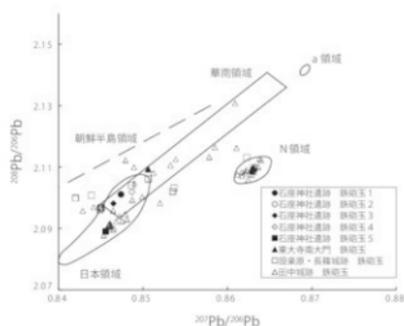
第59図 石座神社遺跡出土青銅器の鉛同位体比 (B式図)



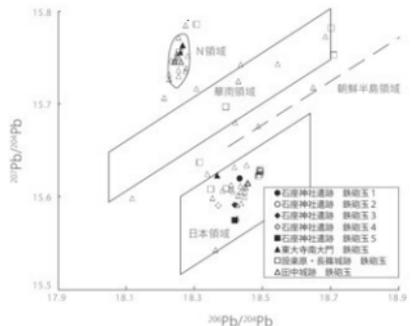
第60図 石座神社遺跡出土鉛玉の鉛同位体比 (A式図)



第61図 石座神社遺跡出土鉛玉の鉛同位体比 (B式図)



第62図 設楽原他との鉄砲玉の鉛同位体比の比較 (A式図)



第63図 設楽原他との鉄砲玉の鉛同位体比の比較 (B式図)

(5) 土器に付着した赤色顔料の蛍光X線分析

堀本真美子

1) 試料および分析方法

測定試料 分析を行った試料は、土器5点(1474・1653・1654・1968・2221)に付着した赤色顔料である。これらの赤色の物質をセロハンテープを用いて土器より剥離し、測定試料とした。測定は2箇所で行った。測定機器は(株)堀場製作所製XGT-5000を用い、測定条件は、X線管電圧50kV、測定時間500秒、照射径100 μ m、雰囲気は大気である。

2) 測定結果

第29表 各試料に認められた元素

測定結果

測定結果を第29表に示す。赤色顔料で認められた元素は、K(カリウム)、Ti(チタン)、Fe(鉄)、Mn(マンガン)、Cu(銅)、Hg(水銀)である。水銀が検出されたことから、分析を行った赤色顔料は朱であると判断した。

	K	Ti	Fe	Mn	Cu	Hg
1474			○		○	○
1653		○	○	○		○
1654		○	○			○
1968	○	○	○		○	○
2221		○	○			○

水銀の検出

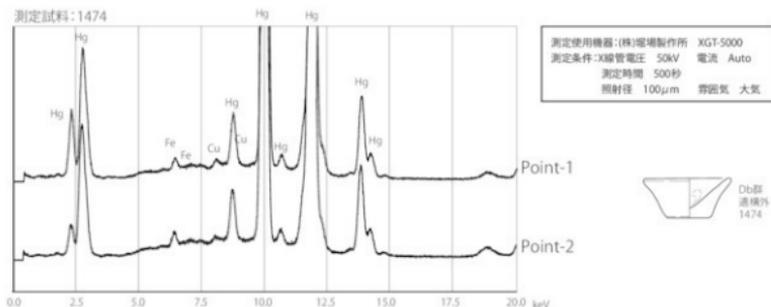
朱は、辰砂(硫化水銀)から作られた赤色

朱の産地推定

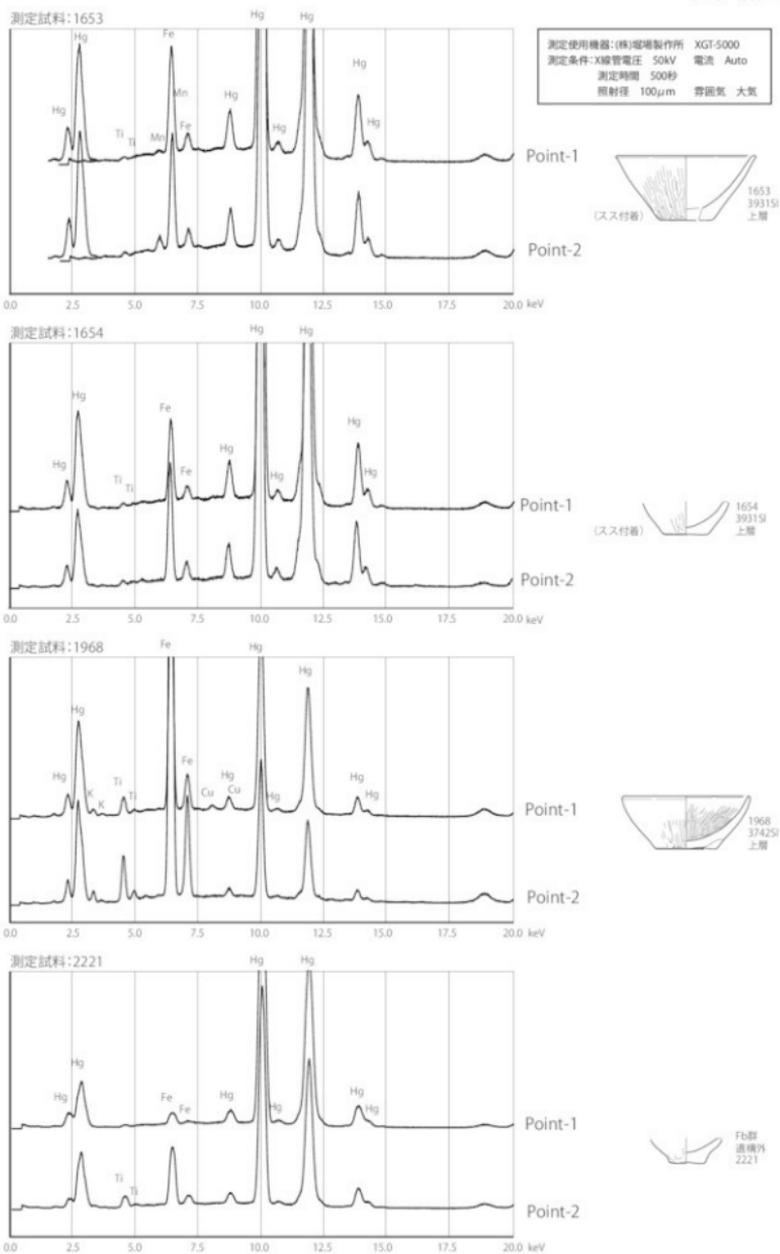
顔料である。水銀は現在の元素分布をみても、限られた地域にしか分布していない。また石座神社遺跡のある愛知県東部は水銀の濃度は低い地域となる(今井ほか2004)。また朱の産地推定の試みは硫黄同位体比分析や微量成分の分析などがなされている。その中でも、硫黄同位体比分析は中国産と国内産の識別に有効であるとされた(南ほか2003)。今回の分析で確認された水銀については、遺跡周辺で採取することができないことから、他所からの持ち込みであることは確かである。今後は分析事例をふやし、水銀の移動経路の推測に役立てたい。

参考文献

- 南武志・今井亮・豊満秋・富田克敏・比佐陽一郎・岡山真知子・楊主明・今津節生(2003):中国貴州省辰砂鉱石のイオウ同位体比測定,考古学と自然科学,第46号,67-74.
今井登・寺島茂・太田克恒・御子榮(氏家)真澄・岡井貴司・立花好子・富樫茂子・松久幸歌・金井豊・上岡晃・谷口政徳(2004):日本の地球化学図,産業技術総合研究所地質調査総合センター,200p.



第64図 赤色顔料のスペクトル図 1



第65図 赤色顔料のスペクトル図 2

（6）黒曜石原産地の蛍光X線分析

（株）第四紀 地質研究所

1）実験条件

分析方法 分析はエネルギー分散型蛍光X線分析装置（日本電子製 J S X-3 2 0 0）で行なった。

この分析装置は標準試料を必要としないファンダメンタルパラメータ法（F P法）による自動定量計算システムが採用されており、6 C～9 2 Uまでの元素分析ができ、ハイパワーX線源（最大30 k V、4 mA）の採用で微量試料～最大290mmφ×80mm Hまでの大型試料の測定が可能である。小型試料では16試料自動交換機構により連続して分析できる。分析はバルクF P法でおこなった。F P法とは試料を構成する全元素の種類と濃度、X線源のスペクトル分布、装置の光学系、各元素の質量吸収係数など装置定数や物性値を用いて、試料から発生する各元素の理論強度を計算する方法である。

実験条件 実験条件はバルクF P法（スタンダードレス方式）、分析雰囲気＝真空、X線管ターゲット素材＝R h、加速電圧＝30 k V、管電流＝自動制御、分析時間＝200秒（有効分析時間）である。分析対象元素はSi, Ti, Al, Fe, Mn, Mg, Ca, Na, K, P, Rb, Sr, Y, Zrの14元素、分析値は黒曜石の含水量＝0と仮定し、化合物の重量％を100％にノーマライズし、表示した。地質学的には分析値の重量％は小数点以下2桁で表示することになっているが、微量元素のRb, Sr, Y, Zrは重量％では小数点以下3～4桁の微量となり、小数点以下2桁では0と表示される。ここでは分析装置のソフトにより計算された小数点以下4桁を用いて化学分析結果を表示した。

分析対象元素

相関図の作成 主要元素と微量元素の酸化物濃度（重量％）でSiO₂-Al₂O₃-Fe₂O₃-TiO₂-K₂O-CaOの各相関図、Rb-Srは積分強度の相関図の4組の組み合わせで図を作成した。

2）関東・中部・東海の黒曜石

長野県 長野県内に分布する黒曜石は、和田峠周辺の西餅屋、東餅屋、小深沢地区をあわせた和田峠系—1、男女倉5～7地区と星ヶ塔地区をあわせた和田峠系—2、北八ヶ岳の麦草峠周辺と冷山地区をあわせた蓼科系の3地域に分かれる。和田峠系の黒曜石はフォッサマグナ中央部の大規模流紋岩中に産する。高松山—虫倉山の南斜面を北西—南東方向に走る鷹山断層の南側の黒曜石はガスの抜けた気泡痕がなく、均質で、ハンマーでうち欠くと貝殻状に割れ、鋭利な刃先が打ち出される黒曜石である。この黒曜石を産する流紋岩は新生代第四紀の約70～130万年前に噴出、あるいは貫入したものである。麦草峠と冷山の黒曜石は第四紀に噴出した八ヶ岳火山群の丸山溶岩流に被覆された同じ流紋岩の中に形成されたもので、26～27万年前とされている。

和田峠系

A）和田峠系—1

分布 a 長野県和田村西餅屋 西餅屋の黒曜石は和田峠の西側に隣接する標高1657mの山体を取り囲んでリング状に分布する。この黒曜石は現在、芙蓉パーライト（株）によって採石されている。試料は同社の採掘現場である坑道内で採取した。坑道内の黒曜石岩体は全体として亀裂が多く、10～15cmの角礫状であるが一部に30～50cm大のものもある。黒曜石は黒色で気泡跡に乏しく、小片にすると透明性が高く、貝殻状に割れる。

特徴

- b 長野県和田村東餅屋 和田峠東の東餅屋の黒曜石は標高1500m付近の採石場跡の露頭に分布し、厚さ1~2cmの薄い黒曜石脈が流紋岩と互層して産する。黒曜石脈の厚いところでは15~20cm、黒色で気泡跡と亀裂が多く3~5cmの小角礫に分離する。 分布 特徴
- c 長野県和田村小深沢 小深沢の黒曜石は和田峠北のピーナスラインの道路沿い標高1600m付近に分布する。現在黒曜石はほとんど採掘され、その規模は定かではない。試料はこの採石場跡の法面から採取した。法面は高さ約30m、幅80~100mと広い。顆粒状の5mm±の黒曜石が厚さ約1~2cmの縞状の流紋岩中に互層して挟まっている。本来の黒曜石岩体はもっと大きいと推察される。その痕跡として段切りした法面で10~15cmの角礫状のものが採取される。この黒曜石は黒色で気泡跡に乏しく、貝殻状に割れる。 分布 特徴
- B) 和田峠系-2
- a 長野県和田村男女倉 男女倉地区の黒曜石は男女倉川の東側、標高1300~1350mの斜面に分布し、北から男女倉-5、6、7とほぼ南北に分類されている。男女倉-5の黒曜石は標高1350mの山腹の南側斜面から沢に至る地すべり地内で採取される。この地すべり地末端を横断する林道の切通し法面（高さ約15m）に斜面上部から移動し、堆積した多量の黒曜石岩塊が露出している。黒曜石は黒色で50~60cmの垂円礫で気泡跡が点在する。男女倉-6は黒曜石の採石が行われた跡地で、黒曜石の岩塊は黒色でジョイントが多く、5~7cmの角礫状を呈し、気泡跡が多い。男女倉-7は林道路盤に露出するもので、男女倉-6と連続する黒曜石である。 分布 特徴
- b 長野県和田村星ヶ塔 星ヶ塔の黒曜石は和田峠東方、新和田トンネル諏訪側出口の東を流下する御料沢の上流域、標高1576mの山体にリング状に分布する。現在は山体北側斜面の標高1350~1400mで芙蓉パライト（株）によって黒曜石が採石されている。黒曜石の試料採取は現在稼働中の採石場の岩体で行なった。黒曜石は幅20~25m、高さ約10~15mの岩体で、ジョイントが多く入り、10×5cm程度の角礫となるが大きなものでは50×30cmのものもある。黒曜石は黒色で気泡跡に乏しく、均質で、貝殻状に割れる。薄く割ると透明となる。 分布 特徴
- c 長野県長門町鷹山 鷹山の黒曜石は標高1350~1400mの鷹山部落の鷹山川沿いに河床堆積物として分布する。大きなものでは人頭大のものが採取されたといわれているが、現在はベンション脇の支流の小さな法面と支流の河床中で採取される。黒曜石は黒色、硬質で、打ち欠いた薄い断面では透明で、気泡跡に乏しく、均質で、貝殻状に割れる。 分布 特徴
- C) 蓼科系
- 麦草峠と冷山との間には丸山溶岩が広く分布し、両地域の黒曜石は異なる時期に生成したように見えるが冷山と麦草峠の黒曜石は同時期の流紋岩の中に生成したものである。冷山の黒曜石はサカサ川の上流域の標高約1800m付近に広く分布し、麦草峠の黒曜石は麦草峠（標高2120m）から白駒池駐車場の東側、国道299号の道路法面にわたる広い地域に分布する。両者の距離は直線距離で、約3.0kmである。 蓼科系
- a 長野県茅野市冷山 冷山の黒曜石は麦草峠の西斜面で、サカサ川の上流域の標高約1800m付近に広く分布している。露頭は高さ10~15m、幅50~70mの広い範囲で急崖をなす。露頭の下部では黒曜石は厚さ1~2cm、3~5mmの顆粒状を呈し、黒曜石と流紋岩との間で厚さ2~3cmの互層をなす。黒曜石は最上部では1m+の厚さを有し、 分布 特徴

黒色で気泡跡に乏しく、透明性が高い。岩塊では黒色であるが、貝殻状細片では透明となる。

分布 b 長野県八千穂村麦草峠 麦草峠の黒曜石は麦草峠（標高2120m）から白駒池駐車場の東側、国道299号の道路法面にかけたの広い地域に分布する。露頭する黒曜石の岩体は30×50mと大きく、黒曜石は黒色で気泡跡が点在し、露頭ではジョイントが多く5～8cm程度の角礫に分離する。この岩体を中心として斜面上部と下部では黒曜石は貧弱となり、流紋岩の中に3～5mmの顆粒状の黒曜石として互層する。

3) 分析結果

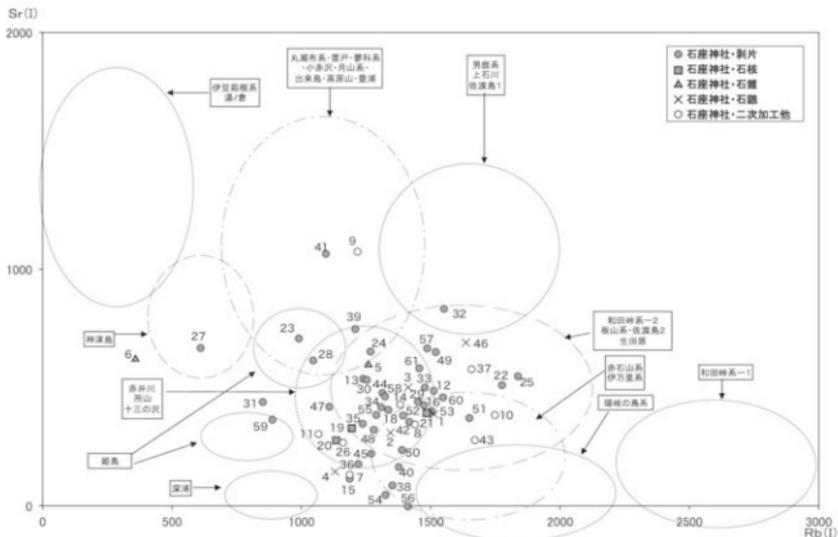
第30表には分析結果、第31表には分析結果に基づいて原産地も記載してある。

和田峠系-2 1) Rb-Sr図（第66図）に示すように、和田峠系-1は検出されず、和田峠系-2が中心となる。

2) 最も多く検出されたのは和田峠系-2で、61個のうち36個が該当する。弱被熱・和田峠系-2は18個、強被熱・和田峠系-2が2個である。神津島？が3個、月山系？2個である。

3) 神津島と月山系については？マークを付けてある。これらは被熱して領域が幾分ずれることによるものである。

星ヶ塔 4) 和田峠系-2のうち男女倉5は黒色でガスの抜けた小さな跡があり均質ではなく、透明感のある材質からすると石座神社遺跡の遺物は均質な星ヶ塔に近い。



第66図 石座神社遺跡 Rb-Sr 図

参考文献

- 井上 巖 (2000) 東北・北陸北部における原産地黒曜石の重光X線分析 (XRF)、北越考古学、第11号、23-38。
- 井上 巖 (2001) テフラ中の火山ガラスの同定に関する一提言、軽石学雑誌、第7号、23-51。
- 井上 巖 (2008) 東北日本の原産地黒曜石 関東・中部・東海編
- 井上 巖 (2008) 東北日本の原産地黒曜石 東北・北陸編
- 井上 巖 (2008) 東北日本の原産地黒曜石 北海道編
- 井上 巖 (2008) 東北日本の原産地黒曜石写真集

第 30 表 分析結果一覧

試料	Na2O	MgO	Al2O3	SiO2	P2O5	K2O	CaO	FeO	R2O3	SO3	Y2O3	ZrO2	Total	Heft	Relf	原産地	製法	標準	分析番号	
Bk 1	2.6226	0.0000	11.1187	78.6399	0.0599	5.0442	0.5284	0.1437	0.1085	0.0228	0.0276	0.0077	0.0052	0.0175	100.0000	153.4	290	黒曜石系-2	石脈	1537/2075
Bk 2	2.0077	0.0000	11.3541	78.0122	0.0522	5.1705	0.5225	0.1636	0.0247	0.0282	0.0248	0.0056	0.0027	0.0159	100.0000	134.0	300	黒曜石系-2	石脈	1552/2074
Bk 3	2.6257	0.0000	14.6242	74.7176	0.0790	4.8489	0.5633	0.2033	0.1080	0.4011	0.0258	0.0040	0.0066	0.0211	100.0000	140.7	503	黒曜石・黒曜石系-2	石脈	1248/2575
Bk 4	3.1237	0.0000	11.0444	75.3601	0.0159	4.7097	0.7817	0.1574	0.0755	0.0608	0.0208	0.0208	0.0176	0.0478	99.9999	126.2	601	黒曜石系-2	石脈	1022/2076
Bk 5	0.5614	0.0000	11.7656	80.3017	0.5797	4.2851	0.4605	0.0885	0.1213	1.5099	0.0441	0.0245	0.0147	0.0478	99.9999	126.2	604	黒曜石・黒曜石系-2	石脈	3042/3088
Bk 6	3.1989	0.0000	11.2848	79.1527	0.5900	3.1907	0.8516	0.1099	0.1212	1.3552	0.0086	0.0103	0.0212	0.0332	99.9999	355	624	輝石岩	石脈	3076/3080
Bk 7	3.8302	0.0000	11.0091	77.4649	0.5163	5.2106	0.6109	0.1613	0.0988	1.8497	0.0217	0.0024	0.0051	0.0180	100.0000	118.8	120	黒曜石系-2	スレシヤバー	1548/3147
Bk 8	2.7226	0.0000	11.1138	78.5274	0.5649	5.0670	0.4848	0.1534	0.1063	0.0948	0.0256	0.0063	0.0067	0.0121	100.0000	144.2	343	黒曜石系-2	スレシヤバー	2238/3148
Bk 9	2.6276	0.0000	12.1078	77.1651	0.5360	4.2319	0.7815	0.1722	0.0853	2.5713	0.0297	0.0209	0.0208	0.0338	100.0000	221.1	1075	川石? (黒曜石系-2)	陸上加工のある試片	2302/3149
Bk 10	3.0034	0.0000	12.2556	76.8225	0.6232	5.2414	0.5993	0.1774	0.1105	1.8325	0.0323	0.0277	0.0039	0.0248	100.0000	174.3	381	黒曜石系-2	二次加工のある試片	19/3170
Bk 11	2.5941	0.0000	10.9547	79.1852	0.6344	4.8845	0.5094	0.1473	0.1213	0.9163	0.0183	0.0054	0.0194	0.0186	99.9999	106.6	308	黒曜石系-2	陸上加工	227/3281
Bk 12	2.5910	0.0000	10.8924	79.4860	0.6140	4.7840	0.4941	0.1158	0.0208	0.8681	0.0261	0.0086	0.0044	0.0127	100.0000	151.3	488	黒曜石系-2	試片	2294/3282
Bk 13	2.3069	0.0000	11.0377	79.5799	0.6429	4.7215	0.5314	0.1229	0.0883	0.8777	0.0218	0.0097	0.0081	0.0150	100.0000	132.7	530	黒曜石・黒曜石系-2	試片	2513/3283
Bk 14	2.6123	0.0000	11.4823	78.7991	0.5707	4.8536	0.5201	0.1493	0.0494	0.8866	0.0223	0.0077	0.0047	0.0164	100.0000	138.2	429	黒曜石系-2	陸上加工のある試片	1759/3284
Bk 15	3.1567	0.0000	12.2704	77.2563	0.6524	4.8249	0.5356	0.1424	0.1011	0.2860	0.0181	0.0208	0.0033	0.0122	99.9999	116.7	130	黒曜石系-2	試片	845/3285
Bk 16	2.4706	0.0000	11.2853	79.0106	0.5734	4.1441	0.4592	0.2304	0.1062	1.3492	0.0382	0.0112	0.0028	0.0192	99.9998	147.6	425	黒曜石・黒曜石系-2	試片	481/3286
Bk 17	2.9815	0.0000	10.9280	77.5396	0.6000	5.2077	0.6646	0.1508	0.1834	1.3823	0.0811	0.0039	0.0183	0.0217	100.0000	341.2	160	黒曜石・黒曜石系-2	試片	17/3287
Bk 18	2.9681	0.0000	11.5669	77.9146	0.6506	4.9857	0.5657	0.1291	0.0909	1.0540	0.0236	0.0067	0.0103	0.0142	100.0000	149.3	403	黒曜石・黒曜石系-2	試片	290/3288
Bk 19	2.0011	0.0000	10.8453	80.0708	0.6557	4.5699	0.5533	0.1327	0.1102	0.9326	0.0240	0.0068	0.0141	0.0232	100.0000	119.0	329	黒曜石系-2	石脈	771/3289
Bk 20	2.6665	0.0000	11.2810	78.1181	0.7300	3.5446	0.5716	0.1617	0.1017	0.9765	0.0391	0.0509	0.0057	0.0154	100.0000	113.3	274	黒曜石・黒曜石系-2	石脈	845/3290
Bk 21	2.8228	0.0000	11.274	79.3873	0.6233	4.7933	0.5013	0.1773	0.0959	0.5110	0.0264	0.0077	0.0039	0.0293	100.0000	148.1	308	黒曜石系-2	石脈	848/3291
Bk 22	2.6764	0.0000	13.1169	76.8987	0.6188	4.8339	0.5181	0.1049	0.1170	1.3612	0.0538	0.0098	0.0034	0.0214	100.0000	177.8	507	黒曜石系-2	試片	16
Bk 23	1.8055	0.0000	11.7556	76.6627	0.6054	5.7577	0.4762	0.1037	0.1017	1.0147	0.0199	0.0146	0.0332	0.0253	100.0000	98.9	270	黒曜石・黒曜石系-2	試片	18
Bk 24	3.1388	0.0000	12.1793	77.3906	0.7549	4.8987	0.5095	0.1533	0.1117	1.0196	0.0214	0.0123	0.0051	0.0147	99.9998	128.6	650	黒曜石系-2	試片	30
Bk 25	2.4364	0.0000	11.6161	78.2375	0.6729	5.0442	0.5094	0.1571	0.1236	1.0426	0.0357	0.0059	0.0028	0.0216	100.0000	183.5	500	黒曜石系-2	試片	201
Bk 26	2.5709	0.0000	13.4714	76.0246	0.6921	5.3320	0.5972	0.1658	0.1094	1.0337	0.0168	0.0040	0.0029	0.0109	99.9998	115.8	277	黒曜石・黒曜石系-2	陸上加工	396/3292
Bk 27	2.4372	0.0000	11.4742	79.3104	0.6882	3.9653	0.8034	0.1391	0.1336	1.4161	0.0118	0.0193	0.0037	0.0183	99.9999	163.9	679	輝石岩	試片	371
Bk 28	2.7394	0.0000	11.0789	78.9900	0.6762	4.7259	0.5116	0.1431	0.1067	0.9391	0.0178	0.0168	0.0057	0.0170	100.0000	104.5	612	黒曜石系-2	試片	424
Bk 29	2.5426	0.0000	11.2147	78.8262	0.6714	4.9534	0.5187	0.1280	0.1128	0.9458	0.0263	0.0082	0.0052	0.0076	100.0000	145.2	441	黒曜石系-2	試片	518
Bk 30	3.5889	0.0000	11.7628	77.1912	0.8082	3.0888	0.5432	0.1293	0.1110	0.9566	0.0219	0.0093	0.0113	0.0144	99.9999	232.5	532	黒曜石系-2	試片	828
Bk 31	3.3056	0.0000	12.4247	77.8292	0.6698	4.3487	0.9169	0.1686	0.1003	1.3241	0.0159	0.0084	0.0001	0.0107	100.0000	85.3	438	輝石岩?	試片	836
Bk 32	3.0115	0.0000	10.9459	78.0667	0.6663	4.8292	0.7698	0.1377	0.1132	0.9716	0.0292	0.0162	0.0075	0.0170	100.0000	154.9	833	黒曜石・黒曜石系-2	試片	1290
Bk 33	2.9297	0.0000	11.0118	78.8556	0.6634	4.1718	0.5238	0.1266	0.1076	0.9972	0.0245	0.0085	0.0074	0.0171	100.0000	147.8	501	黒曜石系-2	試片	1292
Bk 34	2.2160	0.0000	11.3322	79.3014	0.7290	4.6589	0.8533	0.1121	0.1066	0.9493	0.0229	0.0075	0.0028	0.0193	100.0000	138.8	417	黒曜石系-2	試片	1310
Bk 35	1.5129	0.0000	15.0325	75.8204	0.8281	4.6277	0.5286	0.2581	0.1323	1.8428	0.0245	0.0057	0.0030	0.0138	100.0000	222.7	345	黒曜石・黒曜石系-2	試片	1346
Bk 36	2.6821	0.0000	12.5407	77.4669	0.7110	4.6250	0.4992	0.1560	0.1147	1.5888	0.0280	0.0034	0.0030	0.0191	99.9999	121.9	178	黒曜石系-2	試片	1549
Bk 37	3.5641	0.0000	10.4025	78.0640	0.7117	4.1157	0.5089	0.1249	0.0991	0.9167	0.0319	0.0113	0.0048	0.0137	100.0000	165.7	582	黒曜石・黒曜石系-2	陸上加工	1584
Bk 38	2.8804	0.0000	11.3824	78.9678	0.7146	4.7481	0.4987	0.1428	0.1155	0.9559	0.0237	0.0043	0.0045	0.0171	100.0000	135.0	88	黒曜石系-2	試片	1602
Bk 39	2.3713	0.0000	12.8477	77.1708	0.6764	4.8552	0.5157	0.1825	0.1265	1.2276	0.0286	0.0143	0.0059	0.0130	99.9998	120.8	789	黒曜石・黒曜石系-2	試片	1607
Bk 40	3.5016	0.0000	11.2770	77.7758	0.7057	4.7813	0.5544	0.1395	0.1077	0.9982	0.0369	0.0032	0.0037	0.0221	100.0000	137.4	164	黒曜石系-2	試片	1613
Bk 41	2.8443	0.0000	13.3498	76.3211	0.5972	4.1116	0.7143	0.1368	0.0208	2.0057	0.0234	0.0232	0.0121	0.0242	99.9999	106.6	100	川石?	試片	1725
Bk 42	2.6314	0.0000	11.8779	78.3063	0.7059	4.6099	0.5136	0.0883	0.1188	1.5437	0.0276	0.0077	0.0050	0.0199	100.0000	141.7	354	黒曜石・黒曜石系-2	試片	1769
Bk 43	2.5860	0.0000	11.3185	78.5533	0.7081	4.7013	0.5540	0.1444	0.1041	1.1685	0.0332	0.0057	0.0079	0.0219	99.9999	167.4	289	黒曜石・黒曜石系-2	二次加工のある試片	1778
Bk 44	2.6779	0.0000	11.1191	79.0003	0.6471	4.7047	0.5261	0.1634	0.1063	0.9820	0.0257	0.0096	0.0132	0.0216	100.0000	130.2	475	黒曜石系-2	試片	1797
Bk 45	3.1457	0.0000	11.2602	78.2453	0.5839	4.8908	0.5285	0.1883	0.1155	1.8031	0.0229	0.0040	0.0152	0.0135	99.9999	126.9	218	黒曜石系-2	試片	1883
Bk 46	1.9425	0.0000	11.8895	79.4950	0.6735	4.8394	0.5047	0.1319	0.2944	0.3341	0.0147	0.0114	0.0189	100.0000	163.7	689	黒曜石・黒曜石系-2	石脈	1900	
Bk 47	2.7298	0.0000	10.9622	79.0288	0.7001	4.7922	0.5246	0.1119	0.1003	0.9652	0.0184	0.0077	0.0044	0.0137	99.9999	114.8	427	黒曜石系-2	試片	1968
Bk 48	2.8712	0.0000	10.8995	79.1072	0.7135	4.8448	0.5302	0.1364	0.1081	0.9148	0.0225	0.0056	0.0050	0.0159	99.9999	127.5	325	黒曜石系-2	試片	2048
Bk 49	2.0276	0.0000	11.4108	79.3146	0.7047	4.1583	0.4379	0.1025	1.0062	0.3227	0.0143	0.0203	0.0248	0.048	99.9998	120.2	649	黒曜石系-2	試片	2076
Bk 50	2.2308	0.0000	11.1485	78.8614	0.6203	5.1243	0.5866	0.1701	0.1326	1.0561	0.0252	0.0044	0.0086	0.0130	99.9999	130.0	238	黒曜石系-2	試片	2114
Bk 51	2.1946	0.0000	11.7408	78.5278	0.6639	4.8704	0.5481	0.1863	0.1003	1.1181	0.0315	0.0072	0.0074	0.0207	100.0000	164.9	576	黒曜石・黒曜石系-2	試片	2154
Bk 52	3.5306	0.0000	12.7453	7																

第31表 原産地対比表

試料名	原産地	器 種	整理番号	登録番号	試料名	原産地	器 種	遺物番号	登録番号
IK-1	和田峠系-2	石鏡	1537	3073	IK-1	和田峠系-2	石鏡	1537	3073
IK-2	和田峠系-2	石鏡	1535	3074	IK-2	和田峠系-2	石鏡	1535	3074
IK-3	岩被熱・和田峠系-2	石鏡	1248	3075	IK-4	和田峠系-2	石鏡	12	3076
IK-4	和田峠系-2	石鏡	12	3076	IK-5	和田峠系-2	石鏡	3042	3088
IK-5	和田峠系-2	石鏡	3042	3088	IK-7	和田峠系-2	スクレイパー	1548	3147
IK-6	神津島	石鏡	3076	3089	IK-8	和田峠系-2	スクレイパー	2238	3148
IK-7	和田峠系-2	スクレイパー	1548	3147	IK-10	和田峠系-2	二次加工のある銅片	19	3179
IK-8	和田峠系-2	スクレイパー	2238	3148	IK-11	和田峠系-2	銅片	27	3281
IK-9	月山系?	使用痕のある銅片	2202	3149	IK-12	和田峠系-2	銅片	2266	3282
IK-10	和田峠系-2	二次加工のある銅片	19	3179	IK-13	和田峠系-2	銅片	2513	3283
IK-11	和田峠系-2	縦長銅片	27	3281	IK-14	和田峠系-2	銅片	179	3284
IK-12	和田峠系-2	銅片	2266	3282	IK-15	和田峠系-2	銅片	840	3285
IK-13	和田峠系-2	銅片	2513	3283	IK-19	和田峠系-2	石核	771	3289
IK-14	和田峠系-2	使用痕のある銅片	179	3284	IK-21	和田峠系-2	石核	848	3291
IK-15	和田峠系-2	銅片	840	3285	IK-22	和田峠系-2	銅片	16	
IK-16	岩被熱・和田峠系-2	銅片	611	3286	IK-24	和田峠系-2	銅片	201	
IK-17	岩被熱・和田峠系-2	銅片	17	3287	IK-25	和田峠系-2	銅片	30	
IK-18	岩被熱・和田峠系-2	銅片	290	3288	IK-28	和田峠系-2	銅片	434	
IK-19	和田峠系-2	石核	771	3289	IK-29	和田峠系-2	銅片	518	
IK-20	岩被熱・和田峠系-2	石核	845	3290	IK-30	和田峠系-2	銅片	828	
IK-21	和田峠系-2	石核	848	3291	IK-33	和田峠系-2	銅片	1292	
IK-22	和田峠系-2	銅片	16		IK-34	和田峠系-2	銅片	1310	
IK-23	強被熱・和田峠系-2	銅片	18		IK-36	和田峠系-2	銅片	1549	
IK-24	和田峠系-2	銅片	20		IK-38	和田峠系-2	銅片	1602	
IK-25	和田峠系-2	銅片	301		IK-40	和田峠系-2	銅片	1613	
IK-26	岩被熱・和田峠系-2	微細銅片	362		IK-44	和田峠系-2	銅片	1797	
IK-27	神津島	銅片	371		IK-45	和田峠系-2	銅片	1883	
IK-28	和田峠系-2	銅片	434		IK-47	和田峠系-2	銅片	1990	
IK-29	和田峠系-2	銅片	518		IK-48	和田峠系-2	銅片	2048	
IK-30	和田峠系-2	銅片	828		IK-49	和田峠系-2	銅片	2073	
IK-31	神津島?	銅片	836		IK-50	和田峠系-2	銅片	2154	
IK-32	岩被熱・和田峠系-2	銅片	1280		IK-53	和田峠系-2	銅片	2323	
IK-33	和田峠系-2	銅片	1292		IK-54	和田峠系-2	銅片	2405	
IK-34	和田峠系-2	銅片	1310		IK-58	和田峠系-2	銅片	3040	
IK-35	岩被熱・和田峠系-2	銅片	1346		IK-60	和田峠系-2	銅片	3264	
IK-36	和田峠系-2	銅片	1549		IK-61	和田峠系-2	銅片	3271	
IK-37	岩被熱・和田峠系-2	微細銅片	1594		IK-9	月山系?	使用痕のある銅片	2202	3149
IK-38	和田峠系-2	銅片	1602		IK-41	月山系?	銅片	1735	
IK-39	岩被熱・和田峠系-2	銅片	1607		IK-6	神津島	石鏡	3076	3089
IK-40	和田峠系-2	銅片	1613		IK-27	神津島	銅片	371	
IK-41	月山系?	銅片	1735		IK-31	神津島?	銅片	836	
IK-42	岩被熱・和田峠系-2	銅片	1769		IK-23	強被熱・和田峠系-2	銅片	18	
IK-43	岩被熱・和田峠系-2	二次加工のある銅片	1778		IK-59	強被熱・和田峠系-2	銅片	3200	
IK-44	和田峠系-2	銅片	1797		IK-3	岩被熱・和田峠系-2	石鏡	1248	3075
IK-45	和田峠系-2	銅片	1883		IK-16	岩被熱・和田峠系-2	銅片	611	3286
IK-46	岩被熱・和田峠系-2	石鏡	1960		IK-17	岩被熱・和田峠系-2	銅片	17	3287
IK-47	和田峠系-2	銅片	1990		IK-18	岩被熱・和田峠系-2	銅片	290	3288
IK-48	和田峠系-2	銅片	2048		IK-20	岩被熱・和田峠系-2	石核	845	3290
IK-49	和田峠系-2	銅片	2073		IK-26	岩被熱・和田峠系-2	微細銅片	362	
IK-50	和田峠系-2	銅片	2154		IK-32	岩被熱・和田峠系-2	銅片	1280	
IK-51	岩被熱・和田峠系-2	銅片	2211		IK-35	岩被熱・和田峠系-2	銅片	1346	
IK-52	岩被熱・和田峠系-2	銅片	2301		IK-37	岩被熱・和田峠系-2	微細銅片	1594	
IK-53	和田峠系-2	銅片	2323		IK-39	岩被熱・和田峠系-2	銅片	1607	
IK-54	和田峠系-2	銅片	2405		IK-42	岩被熱・和田峠系-2	銅片	1769	
IK-55	岩被熱・和田峠系-2	銅片	2586		IK-43	岩被熱・和田峠系-2	二次加工のある銅片	1778	
IK-56	岩被熱・和田峠系-2	銅片	2725		IK-46	岩被熱・和田峠系-2	石鏡	1960	
IK-57	岩被熱・和田峠系-2	銅片	3039		IK-51	岩被熱・和田峠系-2	銅片	2211	
IK-58	和田峠系-2	銅片	3040		IK-52	岩被熱・和田峠系-2	銅片	2301	
IK-59	強被熱・和田峠系-2	銅片	3290		IK-55	岩被熱・和田峠系-2	銅片	2586	
IK-60	和田峠系-2	銅片	3264		IK-56	岩被熱・和田峠系-2	銅片	2725	
IK-61	和田峠系-2	銅片	3271		IK-57	岩被熱・和田峠系-2	銅片	3039	

(7) 弥生時代後期から古墳時代前期の土器編年

1) 編年の目的と意義、方法

弥生時代後期から古墳時代前期の集落の動態を明らかにする際の前提として、遺跡出土土器の編年を提示する。また、遺跡は弥生時代後期から古墳時代前期に間断なく継続し、検出した遺構・遺物の質量からしても、同時期に組成する器種の多くを網羅するものと考えられ、土器編年として資する部分も大きいと思われる。

編年は集落の変遷に即した10期(11期)区分とした。編年に際しては、安定して組成し、組列が比較的明確な有段高杯を型式分類し、遺構における相伴関係を参照しつつ、他の形式の型式組列を想定した。同時に遺構の遺構の先後関係、位置関係、遺物の出土状況との整合を図りながら遺構の属属時期を可能な限り推定し、各形式の型式組列をも検証した。本来であれば、この作業を反復し、より精度を高める必要があるが、その作業はなお不十分である。また、周辺の遺跡の事例を可能な限り精査して検証に努める必要もある。今後の課題である。

2) 器種(形式)分類

弥生時代後期から古墳時代前期の土器は、甕、壺、有孔鉢、(有孔鉢を除く)鉢、高杯各種から構成される。器種(形式)分類は第67図・第32表に示した。

甕は大多数が脚台を付した台付甕で、口縁部の形状から「く字状口縁台付甕(く字甕)」、「有段口縁台付甕(有段口縁甕)」、「内彎口縁台付甕(内彎口縁甕)」、「緑帯口縁台付甕(緑帯口縁甕)」、「跳ね上げ口縁台付甕(跳ね上げ口縁甕)」、「S字状口縁台付甕(S字甕)」に区分した。底部が平底の甕については特に「平底甕」とし、さらに、体部外面に叩き調整が認められる平底甕については「叩き甕」とした。なお、台付甕の多くは「く字状口縁台付甕(く字甕)」で占められることから、原則として「く字状口縁台付甕(く字甕)」と脚台のみの個体等で形式の判別が困難な甕については単に「甕」と呼称する。

壺は大型品を主体とする「広口壺」、中・小型品を主体とする「内彎口縁壺(瓶形壺)」、「小型丸底壺」、その他の中・小型品を主体とする「中・小型壺」に区分した。(有孔鉢を除く)鉢は大型品の「大型鉢」、中・小型品の「中・小型鉢」と「浅鉢」、小型容器の「小型鉢(碗)」に区分した。なお、底部中央に円孔を穿つ「有孔鉢」を鉢とは区別した。

高杯は杯部に段を有し、大型品を主体とする「有段高杯」と、杯部が碗形で小型品を主体とする「碗形高杯」に区分した。「有段高杯」は弥生時代後期に組成する「有段高杯A(山中型)」、弥生時代終末期から古墳時代前期に組成する「有段高杯B(欠山型)」、「碗形高杯」は終末期から前期初頭に組成する「碗形高杯A(杯部口径>脚径)」、前期前半以降に組成する「碗形高杯B(杯部口径<脚径)」に区分した(後述)。なお、原則として「有段高杯」は「高杯」と呼称し、碗形高杯等、他の形式の高杯に対してのみ形式名を使用する。

(小型器台を含む)器台、蓋は識別が可能な個体はほとんどなく、当遺跡においては原則として組成しない。周辺の遺跡の状況からも器台(小型器台)の本格的な受容は、前期後半(11期)以降と思われる。

その他、ミニチュア(手捏ね土器)、他の材質の器物各種を象徴した土製品がある。

集落の動態

土器編年

10期(11期)区分

型式分類

型式組列

出土状況の検証

構成

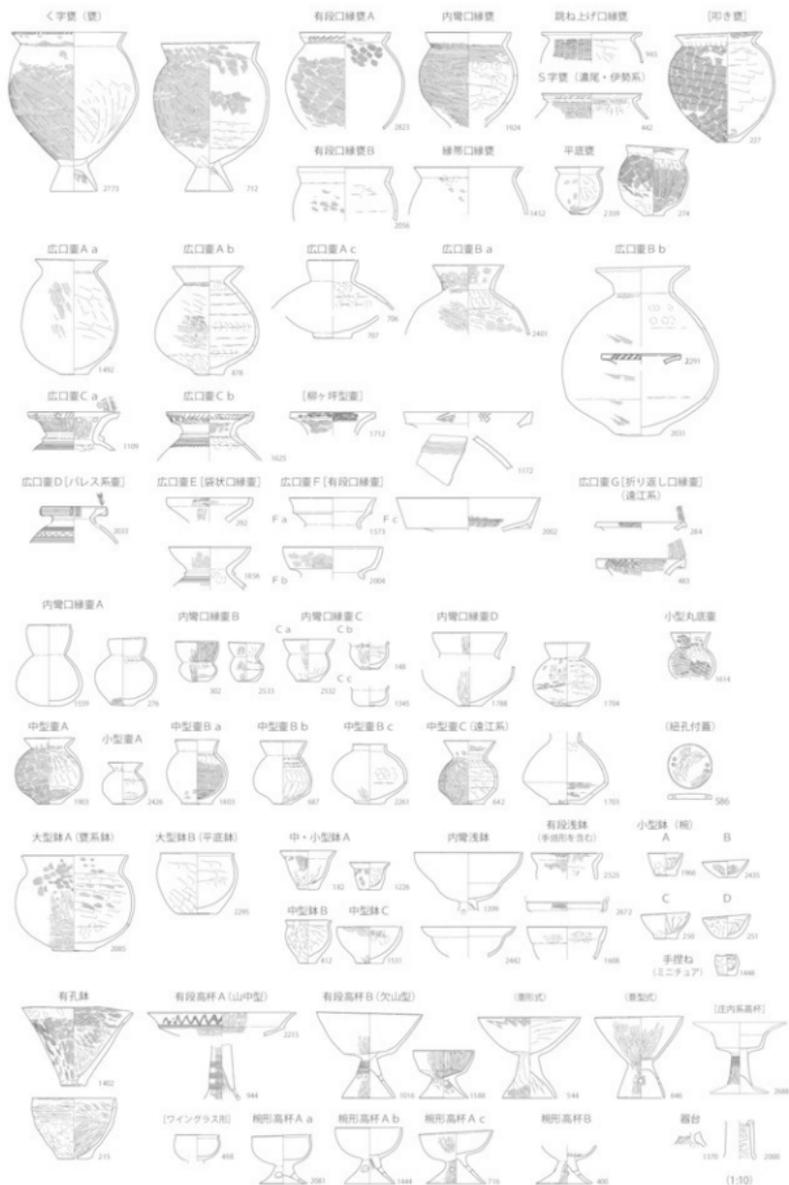
甕

壺

高杯

器台・蓋

その他



第67図 器種 (形式) 分類

第32表 器種(形式)・型式分類一覧

器種・形式	細別形式	型式	分類要素
羹	く字状口縁台付羹(く字羹)		「く」字状に単純に外反する口縁部
	有段口縁台付羹	有段口縁羹 A 有段口縁羹 B	受口状の口縁部(加飾多い) 受口状の口縁部(加飾少ない)
	内彎口縁台付羹		全体が内彎する口縁部
	縁帯口縁台付羹		縁帯状の口縁部(折り返しなどによる)
	跳ね上り口縁台付羹		強く折れる口縁部、端部は跳ね上り状
	S字状口縁台付羹(S字羹)	(鹿尾・伊勢系)	「S」字状に屈曲しながら外反する口縁部
	平底羹		平底の底部
	[叩き羹]		叩き調整の平底羹
壺	広口壺(大型壺)	広口壺A a 広口壺A b 広口壺A c 広口壺B a 広口壺B b [加飾広口壺] 広口壺C a 広口壺C b [柳ヶ坪型壺] 広口壺D(尾張系) [ハレス系壺] 広口壺E [袋状口縁壺] 広口壺F a 広口壺F b 広口壺F c [折り返し口縁壺] 広口壺G(遠江系)	単純に外反する口縁部、無花果形の体部 単純に外反する口縁部、球形か下影れの体部 短直頂口口縁 直口口縁、端部に面 外反または屈曲気味の口縁部、端部に面(加飾) 単純に外反する口縁部、端部に面(加飾) 肥厚帯・垂下帯等によって口縁端部を拡張(加飾) 広口壺Cで口縁部内外面に割状羽突文 口縁部の端部に縦凹線と棒状浮文、内面に羽状文 袋状の口縁部 有段状の口縁部、頸部径小 有段状の口縁部、頸部径大 口縁部の段が明瞭に屈折 口縁部先端を折り返す
	内彎口縁壺	内彎口縁壺A(瓶形壺) 内彎口縁壺B 内彎口縁壺C a 内彎口縁壺C b 内彎口縁壺C c 内彎口縁壺D	全体が内彎する口縁部、中型 全体が内彎する口縁部、小型 小型広口、突出しない平底の底部 小型広口、輪台状の底部 小型広口、著しく扁平な体部 やや大型、短頸の口縁部
	小型丸底壺		直口口縁、球形の体部(丸底の底部)
	そのの中・小型壺	中・小型壺A 中型壺B a 中型壺B b 中型壺B c 中型壺C(遠江系)	単純に外反する口縁部、球形または下影れの体部 短く外彎する口縁部、寸胴に近いやや長い体部 直口口縁、下位または中位が張る体部 短直頂口口縁 下位が屈曲または強く張る 無花果形の体部
有孔鉢(飯)			小さい底部、単孔
鉢	大型鉢	大型鉢A(壺系鉢) 大型鉢B(平底鉢)	器形が壺に類似、突出する平底 短い口縁部、突出しない平底
	中・小型鉢	中・小型鉢A 中型鉢B(短頸鉢) 中型鉢C(壺系鉢)	口縁部と体部分化 強く折れる口縁部 壺の体部下半と同じ器形
	浅鉢	内彎浅鉢 有段浅鉢(手船形を含む)	内彎して大きく開く口縁部 有段状の口縁部(手船形土器を含む)
	小型鉢(碗)	小型鉢(碗) A 小型鉢(碗) B 小型鉢(碗) C 小型鉢(碗) D	肉厚の底部、わずかに外彎する体部 浅く開く体部 全体が彎曲して開く体部 底部が不明瞭、碗形
高杯	有段高杯	有段高杯 A(山中型) 有段高杯 B(穴山型)	高杯A 1 相対的に深い杯部、杯部内面の段は曖昧 高杯A 2 上半が大きく外反する杯部、加飾性に富む 高杯A 3 上半が外傾する杯部、加飾性に乏しい 高杯B 1 杯部上位と下位の高さが近似、脚高12.6cm~ 高杯B 2 上位が下位を大きく凌駕する深い杯部、脚高9.6~12.5cm 高杯B 3 杯部は上下に圧縮気味、脚高8.5~9.5cm 高杯B 4 底部が水平に近い深い杯部、脚高8.5~9.0cm 高杯B 5 杯部深さ8.0~9.0cm、脚高8.5cm前後 高杯B 6 杯部深さ7.0cm~8.0cm、脚高8.0cm前後 高杯B 7 杯部深さ7.0cm~9.0cm、脚高7.0cm~8.0cm 高杯B 8 杯部深さ6.0cm前後、脚高7.0cm前後
	(庄内系高杯)		杯部上半が大きく外傾、杯部下半に段
	碗形高杯	碗形高杯 A a 碗形高杯 A b 碗形高杯 A c 碗形高杯 B	杯部口径>脚径、杯部全体が彎曲 杯部口径>脚径、深い杯部 杯部口径>脚径、浅い杯部 杯部口径<脚径

3) 各形式の細別、型式分類と組列

遺跡の10期（11期）区分に応じて、各細別形式の型式分類と組列の概略を示す。

く字状口縁台甕（「く字甕」または単に「甕」）—第78図

各属性

口縁部が「く」字状に単純に外反する甕は口縁端部の刻み（刺突）の有無、頸部から口縁部の形状と接合手法、体部の成形と調整、法量等の各属性の組み合わせから型式分類が可能であるが、煩雑となるのでここでは詳述せず、各属性の推移の概略のみを示す。

口縁端部の刻み

口縁端部の刻みにはハケ状工具による列点、ヘラ状工具の先端による押捺または鉄製刀子による鋭利な切り込みが認められる。1期から4期は前者主体で、5期以降は後二者にほぼ限定される。9期にはほぼ消失すると思われるが、10期に帰属すると推定した平底甕に刻みを施した個体（1193）がある。鋭利な切り込みは8期を前後する時期に散見される。刻みの施文率、あるいは他の属性との相関関係について、客観的な分析結果を提示できないが、必ずしも段階的に低減する傾向は認められないようである。ただし、ヘラ状工具による押捺にほぼ限定される5期に一定程度、施文率が低減する傾向が認められる。

頸部から口縁部

頸部から口縁部の形状と接合手法（第68図）については、1期の頸部から緩やかに外反する形状a（2156・2160）が、2期以降、頸部の屈曲が明瞭化した形状b（2558・2773）に推移し、4期から5期には口縁部先端が先細りする形状c（712・1912）に変化する。5期以降は、頸部に口縁部との接合痕が表面化する形状dが多くなる。7期以降、擬口縁状とした頸部には中位が中影らみする口縁部（1441・222・1535）、ヨコナデが十分でない口縁部（1887・1536）、口縁部下端が肥厚する口縁部（1733・1593・929）が

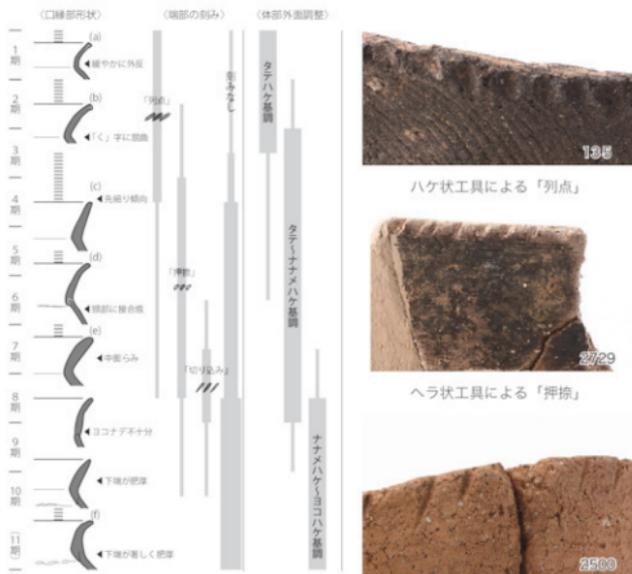
形状a

形状b

形状c

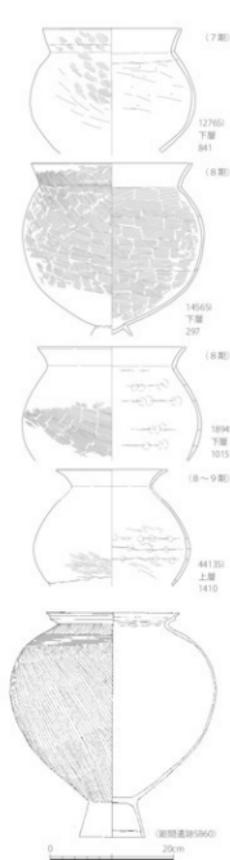
形状d

形状e



第68図 甕の型式変化と属性の相関

鉄製刀子による「切り込み」



第69図 大容量の甕(8期前後)



第70図 鉢状の甕(6期以降)

付されることが多い(以上、口縁部形状 e)。特に口縁部下端が著しく肥厚する形状 f (2662) は、10 期に後続する 11 期の南貝津遺跡 SB21 出土の個体に類似することから、前期後半に近い時期が想定される。

体部の成形と調整については、弥生時代中期末葉から後期にかけての調整手法(体部外面の長いタテハケ、体部内面のケズリ)から乖離する変化の方向性が想定される。特に体部外面の調整は、1期のタテハケを基調とする調整(2156)またはナデを基調とする調整(2330・2160)、2期から3期のやや斜行するハケ調整(2558)、4期から5期の部分的にヨコハケを重ねる調整(2773・712)、6期から7期のナナメハケを基調とする調整(1403・841)、8期以降のナナメハケからヨコハケを基調とする調整(297・1733・1676)への推移が想定される(第68図)。それに伴い、4期から5期には体部下位の接合単位が表面化する傾向(2082・712)、さらに、7・8期以降は体部内面の接合痕の表面化がより顕著になる傾向(1317・222・929)も認められる。

法量については、定量的な分析結果を提示できないが、特徴的な個体として、体部球形の大容量の甕(841・297・1015・1410)が認められ、8期を中心に組成する。これに関連して、ほぼ同時期と推定される廻間遺跡 SB60 に大容量の S 字甕が複数、組成することが想起され、広域に発露する現象とも目される(第69図)。

その他、特徴的な個体として(7期から)8期のほとんど窄まらない頸部から口縁部をほとんど未調整とする鉢状の甕(2248)がある。類似する個体は豊川市雨谷遺跡 SD02 に認められ、S 字甕 A 類が共存することから、後述する台付甕の下半を鉢とした個体(347)も含め、6期以降に組成することか推測される(第70図)。

平底甕—第78図

底部を平底とする平底甕は8期以降に組成する。8期の1454SIに叩き甕(227)が伴うことから、叩き甕の移入によって、平底甕が組成する素地が形成されたとも考えられる。実際、1454SIにおいて叩き甕に共存する体部がやや細身で口縁部が内彎気味の平底甕(228)は底部が輪台状を呈し、色調や焼成の程度も叩き甕に類似する。以後、9期と10期を通じてやや細身の平底甕(603)、口縁部が内彎気味の平底甕(1193)が認められる。

形状 f

体部の成形と調整

法量

体部球形・大容量

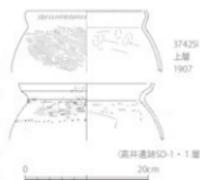
鉢状の甕

叩き甕

有段口縁甕A—第79図

加飾
口縁部形状
高井遺跡SD-1・1層

口縁部到有段(受口)状とする甕で、加飾を伴うことが多い。3期から6期に組成し(4・5期が主体)、口縁部上段が受口状に折れる一群(2168・2358・2581・1907)、口縁部先端が短く立ち上がる一群(2775・136・1239・1656・1919・1241・956)、口縁部先端に内傾する面をもつ一群(2341・1906・1902・2823・285)が



それぞれ推移する。体部外面に棒状工具の先端による列点(第71図)を施した個体(1907)は、6期から7期に対応する豊橋市高井遺跡SD-1・1層に類似する個体がある(第71図)。

有段口縁甕B—第79図

加飾なし
口縁部形状
諏訪遺跡SB014

口縁部到有段状(受口状)とする甕で、加飾を伴わない。有段口縁甕Aとの系譜関係は不明であるが、6期以降に組成すると思われる。台付甕ではない個体を含む可能性もある。内彎口縁台付甕(内彎口縁甕)—第79図

口縁部全体が内彎する甕で、6期以降に組成すると思われる。内彎が比較的明瞭な一群(1784・2761・332)、内彎が不明瞭な一群(1924・1416)がある。後者は6期の諏訪遺跡SB014に類似した個体がある。10期に対応すると思われる口縁部の内彎がほとんど認められない個体(1647)も同形式の範疇に含めた。

緑帯口縁台付甕(緑帯口縁甕)—第79図

上ノ川遺跡SB01

口縁部を折り返しなどにより緑帯状とする甕で、5期から9期に対応する上ノ川遺跡SB01に類似した個体がある。7期以降に確実に組成し、5770SIに底部を平底とする個体(2523)があることから、平底甕(または大・中型鉢)も含まれていると思われる。

S字状口縁台付甕(「S字甕」)—第79図

A類
B類古段階
B類新段階

口縁部が「S」字状に屈曲しながら外反する濃土・伊勢系の甕で、搬入品が少なからず含まれていると思われる。全形が判明する個体はないが、口縁部が緩やかに外反し、押し引き状の刺突を施すS字甕A類(442・2482・2109・2931・1352)、口縁部の屈曲が明瞭で頸部内面にヨコハケを施すS字甕B類古段階(2579・2648・480・2933)、口縁部の屈曲が鈍化し、頸部内面のヨコハケを消失するS字甕B類新段階(540・2794・2889)に加えて脚台(823・481・2339・1299・2889・147・1188)を抽出した。

出現
高杯との共伴関係からの検証

高杯B2(833)を伴う5期の1929SI出土の脚台(823)から、5期にS字甕が伴う可能性もあるが、6期以降には確実に伴う。以下、高杯との共伴事例を参照すると、上層に7期または8期の高杯B5(449)が伴う1330SIにS字甕A類(442)、高杯B3(2107)を伴う6期の4311SIにS字甕A類(2109)、高杯B4(2567・2568)を伴う7期の3622SIの上層にB類古段階(2579)、高杯B7(2890・2891)を伴う9期の0121SIにS字甕B類新段階(2889)、高杯B7(2789)を伴う9期の5909SIの上層にS字甕B類新段階(2794)が伴う。なお、10期に後続する11期の南貝津遺跡SB21には頸部に沈線を施したS字甕C類古段階の良好な個体が伴う。これらから、およそ6期にS字甕A類、7期にS字甕B類古段階、8期にS字甕B類古段階とS字甕B類新段階、9期から10期にS字甕B類新段階、10期から11期にS字甕C類古段階が対応することが想定される。

広口壺（大型壺）—第80～82図

大型品を主体とする広口壺は、主として口縁部の形状により細別形式を設定した。なお、加飾を伴う（後述の「バレス系壺」、「柳ヶ坪型壺」を除く）広口壺については、特に「加飾広口壺」と呼称することがある。

広口壺A 広口壺Aは口縁部先端が先細りする形状で加飾しない。器形により広口壺A a、広口壺A b、広口壺A cに細別する。



第72図 広口壺A a

広口壺B aは口縁部が直線的に外傾する形状の一群で（2084・1688・827・2401・640・1543等）、体部外面にミガキを施す個体が多い。終末期（4期から5期）は器壁が薄く、前期初頭から前期前半（8期から9期）に器壁が厚くなる傾向が認められる。また、頸部に突帯を付した直口壺（1120・601）は8期から9期に伴う個体としたが確定ではない。

広口壺B bは全体に薄手で、加飾を伴うことがある。口縁部が単純に外反する一群（2586・2024等）と、中位が屈折気味の一群（2031等）がある。後者からは、6期から7期に体部上半を加飾する一群（1789・2535等）、8期から10期に屈折する口縁部内面をへら、ハケ状工具による羽状刺突文で加飾する一群（340・2361・1860）、頸部に突帯を付す個体（853）が派生する。口縁部が屈折する形状で無文の個体（126）はより後出すると推測される。

広口壺C 広口壺Cは口縁端部の幅広の面を文様帯とする広口壺（加飾広口壺）で、端部の文様帯をほとんど拡張しない、またはわずかに拡張する広口壺C a、肥厚帯や垂下帯等



第73図 加飾広口壺（6期）

広口壺A aは口縁部が単純に外反し、体部が無花果形を呈する一群（1492・306・318・2825・2826）で、7期以降、確実に組成する。なお、5期から7期に対応する高井SD-1・2層に類似する個体がある（第72図）。

広口壺A bは口縁部が単純に外反し、体部が球形または下膨れを呈する一群（2025・878）で、全体に厚手の個体が多い。6期以降、一定量組成するが、5期以前は良好な個体が少ない。

広口壺A cは口縁部が短く直線的に外傾する形状の一群（1769・706・707・1493）で、5期から7期に多い形式と推定される。全体に厚手で、胎土や調整も粗悪な個体が多い。

広口壺B 広口壺Bは口縁部先端に面をもつ形状で、全体に薄手の個体が多い。口縁部の形状により広口壺B a、広口壺B bに細別する。

広口壺B aは口縁部が直線的に外傾する形状の一群で（2084・1688・827・2401・640・1543等）、体部外面にミガキを施す個体が多い。終末期（4期から5期）は器壁が薄く、前期初頭から前期前半（8期から9期）に器壁が厚くなる傾向が認められる。また、頸部に突帯を付した直口壺（1120・601）は8期から9期に伴う個体としたが確定ではない。

広口壺B bは全体に薄手で、加飾を伴うことがある。口縁部が単純に外反する一群（2586・2024等）と、中位が屈折気味の一群（2031等）がある。後者からは、6期から7期に体部上半を加飾する一群（1789・2535等）、8期から10期に屈折する口縁部内面をへら、ハケ状工具による羽状刺突文で加飾する一群（340・2361・1860）、頸部に突帯を付す個体（853）が派生する。口縁部が屈折する形状で無文の個体（126）はより後出すると推測される。

広口壺C aは弥生時代後期以降、加飾広口壺の主体を占める形式と思われるが、当遺跡において、5期以前の良好な個体はほとんど抽出されなかった。確定ではないが、終末期（5期）以前と推定される個体（1341・1362）は口縁端部の文様帯に擬凹線文を施す。口縁部先端が上方にわずかに拡張され、内面が擬凹線状に窪む一群（2743・2863）は、6期に対応

する南貝津遺跡SB04に類似した個体がある（第73図）。

形式の細別

広口壺A a

高井遺跡SD-1・2層

広口壺A b

広口壺A c

広口壺B a

広口壺B b

加飾広口壺

広口壺C a

擬凹線文系

南貝津遺跡SB04

- 刺突文系 6期以降は口縁端部がわずかに垂下する一群（1615等）、上方にわずかに拡張する一群（2370・1109・1107・2700等）、ほとんど拡張しない一群（2389・2536・1397等）で構成され、多くは口縁端部の文様帯にハケ状工具による単斜・羽状刺突文を施す。
- 広口壺C b 広口壺C bは口縁部を有段状に拡張する形状（1878・2017）、口縁部が屈折する形状（1628）、口縁部内面の段の上位が彎曲する形状（1625・315）等、多様な形状が派生する。文様に関係する属性も多様で、相関関係を分析するには至っていないが、広口壺C aを含めて、6期から9期と推定される羽状刺突文を多用する一群（2035・2037・2700・2389・2120・2144・210・1455・2175・1701・1012・1793・2816・1456・2218・2187）が10期の「柳ヶ坪型壺」（1712・1172）に集約される流れが想定される。なお、当遺跡において、二重口縁状の口縁部を付した柳ヶ坪型壺は出土していない。
- 柳ヶ坪型壺 パレス系壺（広口壺D） 拡張した口縁部先端に擬凹線文と棒状浮文、口縁部内面の文様帯に櫛、ヘラ状工具による羽状文を施す加飾壺（とその系列に属する加飾壺）を特に「パレス系壺」（広口壺D）と呼称する。尾張系で、赤彩されることがある。口縁部の形状により、D 1、D 2、D 3、D 4の4型式に分類する。
- 広口壺D 1 D 1は口縁部全体が緩やかに外反する形状（585）で、2期の1181SIにおいて出土している。
- 広口壺D 2 D 2は口縁部が大きく屈折する形状（1777・1053・2033等）、D 3は小さく屈折する一群（2034等）で、屈折させた口縁部上面を幅広の文様帯とする。口縁部の屈折（文様帯の区画）は突帯によって強調されることがある。D 2の体部の文様は直線文と波線文によって構成される（2033）。出土した3306SI（1777）、3742SI（2033）から、D 2は6期に対応することが想定され、D 3はそれに後出する7期に対応することが予測される。
- 広口壺D 4 D 4は口縁部が屈折しない形状で、口縁部先端の擬凹線文帯をわずかに上方、または上下に拡張する（2333・258）。また、D 4と同様の形状で、口縁部先端の擬凹線文帯が縮小した一群をD 5とする（532等）。D 4、D 5は口縁部内面の文様帯区画を欠き、施文しない個体（530・2620）も多く、羽状文が多状化した個体（2333・532）、さらにそれが乱れた個体（1792）もある。出土した0121SI（2892）から、D 5は9期、それに型的に先行するD 4は8期に対応することが想定される。なお、多条化した羽状文と竹管刺突文による口縁部内面の文様構成は、豊橋市境松遺跡SZ-1の加飾広口壺の文様構成とよく類似する（第74図）。
- 境松遺跡SZ-1 多様な属性の摂取 その他、棒状浮文上に刻みを加える個体（2620）、体部の文様帯として、波線文に単斜刺突文を組み合わせた個体（2465）、刺突列点文を加えた個体（1029）等、パレス壺とは異なる属性を取り入れた一群も9期から10期に対応することが想定される。
- 広口壺E 1 袋状口縁壺（広口壺E） 口縁部を袋状とする広口壺を広口壺Eとして、口縁部先端が受口状で加飾を伴う一群（292・1167・1765）を広口壺E 1、頸部から口縁部が内彎しながら大きく開く一群（1856・2087・2146・2388・1794・144）を広口壺E 2に細別する。良好な出土状況を示す個体は少ないが、広口壺E 1が2期から3期、広口壺E 2が3期から4期を中心として組成することを想定しておきたい。



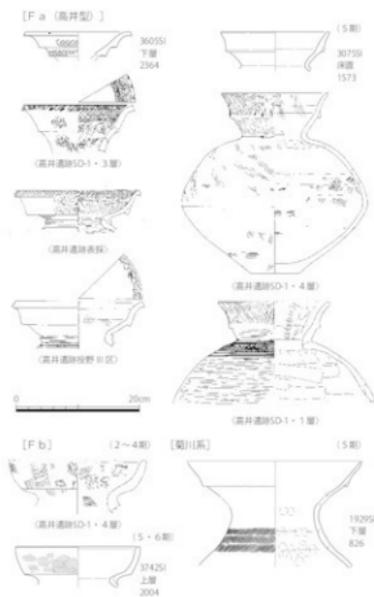
第74図 パレス系壺と関連資料

有段口縁壺（広口壺F） 有段口縁状の口縁部を付す広口壺で、頸部径が小さい広口壺F a、頸部径が大きい広口壺F b、口縁部の段が明瞭に屈折する広口壺F cに細別する。

広口壺F aは口縁部下位と上位が段を介して外反、外傾する。高井遺跡SD-1・4層、同一層に典型的な個体がある（「高井型」有段口縁壺、第75図）。高井遺跡における出土状況は、3期から7期に対応することを示し、よく類似した個体（1573）が5期とした3075SIにおいて出土している。9期の1226SIにおいて出土した個体（934の体部）は、6・7期とした1378SIから口縁部が出土している。これらの一群をF a 1とする。8期の1454SIから出土した個体（238）を後出する型式をF a 2として比較すると、6期以降、口縁部上位の外反と内面の段が失われ、口縁部先端が先細りする傾向が認められる。

広口壺F bは口縁部がわずかに外傾する程度で、筒状に近い。口径18cm～20cm程度で段が明瞭な一群（2004・2003）をF b 1、口径14cm～17cm程度で段が曖昧な一群（1518・237・305・625等）をF b 3、両者の中間的な個体（1795）をF b 2とする。F b 1は2期から4期に対応する高井遺跡SD-1・4層に類似する個体が認められるが、当遺跡における出土状況は5期から6期との対応を示す（第75図）。F b 3は口縁部を折り返して縁帯状とする個体（305・625）が認められ、製作上の位置は8期以降に散見される縁帯口縁壺に近い。出土状況も8期との対応を示すものが多い。両者の中間のF b 2の出土状況は7期との対応を示すことから、F b 1（5期から6期）からF b 2（7期）を経て、F b 3（8期）に推移する流れが推定される。

広口壺F cは1個体（2002）が抽出されるのみで、3742SIにおいてF b 1と共伴する。系譜については明確でない。その他、多段化した口縁部にヘラ状工具による羽状刺突文を施した個体（2364）は10期の3605SIから出土しているが、竪穴建物の覆土中には5期から6期の内彎口縁壺が混入していることから、それと同時期の可能性が高いと思われる。5期の1929SIにおいて出土している



第75図 有段口縁壺（広口壺F）の諸例

「高井型」

広口壺F a 1

広口壺F a 2

広口壺F b 1

広口壺F b 3

広口壺F b 2

広口壺F c

「菊川系」

の大型壺（826）も含めると、5期に有段口縁を付した多様な形式が移入されていることを想定することも可能である（第75図）。

体部の文様構成 口縁部の形状による広口壺の形式細別とは別に、（加飾広口壺の）体部の文様構成についても簡単に整理する。

文様の組み合わせ 体部の文様の多くは原則として柳描直線文と他の文様との組み合わせによって構成される。直線文と組み合わせられる文様として、柳描文系の扇形文（2835）、山形文（542・2278・2227）、波状文（443）、振り幅が大きい波状文（2050）、刺突文系の単斜刺突文（278）、短羽状刺突文（2463）、貝殻腹縁刺突文（2049・1110）、円形刺突文（2053）、貼付文系の円形浮文（2090・2922・1497・1702・1551・1328・1199）等がある。なお、円形浮文は8期を前後して、円文の大きさが小さくなる傾向、一単位を構成する円文相互の間隔が狭くなる傾向が認められる。

A種 これらの文様構成としては、直線文帯による波状文帯、刺突文帯等の分帯が明確なA種、
B種 直線文間に複数種の文様帯や無文帯を配し、直線文帯による分帯の原則を逸脱したB種、
C種 直線文帯の文様帯幅が著しく拡大したC種がある。また、上下に重ねた波状文、短羽状刺突文、円形浮文は文様構成B種とよく相関する。およそA種が後期から終末期（1期から5期）、B種が前期初頭（6期から8期）、C種が前期前半（9・10期）に盛行する傾向は認められるが、必ずしもそれに適合しない個体もある。

内彎口縁壺（瓢形壺）—第83図

脚付内彎口縁壺 口縁部全体が内彎する中・小型の壺（いわゆる瓢形壺）で、一部を除いて底部は突出しない平底、または明確な底部を欠く。脚付（2001・500）はごく少ない。外面調整にタテミガキを多用する。法量と器形により中型の内彎口縁壺A、小型の内彎口縁壺B、小型で頸部径が大きい内彎口縁壺C、中型からやや大型で頸部が短い内彎口縁壺Dに細別する。
口頸比・頸高比 内彎口縁壺Aは器高16cm～18cmの中型品で、終末期から前期初頭にかけて比較的安定して組成する。型式分類に際しては、口縁部が相対的に縮小する変化の方向性に着目して、頸部径に対する口縁部（最大）径の比率（以下、口頸比）、頸部径に対する口縁部高の比率（以下、頸高比）を参照した。

内彎口縁壺A1 A1は頸部から口縁部が大きく開き（口頸比2.00以上）、体部は中位が張る形状を呈する（469）。著しい短頸で明確な底部を欠く中型壺（2589）も、体部の形状は同型式に近い。
内彎口縁壺A2 A2は口頸部がやや縮小（口頸比1.85～2.00）し、体部は最大径の少し下位が強く張る（2072・1849・281・2198）。
内彎口縁壺A3 A3は口頸部が漸次縮小し（口頸比1.70～1.85）、体部はやや丸みを帯びる（2576・392）。
内彎口縁壺A4 A4は口頸部がさらに縮小する。口縁部の開きも小さく、口頸部高を頸部径が凌駕するようにもなる（口頸比1.30～1.70・頸高比0.75～1.00）。体部はより丸みを帯び、全体的な形状が「瓢形」に近くなる個体（1559）がある一方で、口縁部の内彎がかなり失われ、体部下位がやや強く張る個体（2527）も認められる。
内彎口縁壺A5 A5は頸部がより広く、短い（口頸比1.30以下・頸高比0.75以下）。球形の体部、突出する平底を呈する個体（276）、口頸部の内彎が完全に弛緩した個体（515）等、変容が著しい。後者は法量によると内彎口縁壺Dの範疇に含まれるが、型式的な位置を勘案して内彎口縁壺A（の退化型式）とした。全面にハケ調整が表面化し、体部下位が強く張る個体（1696）も同型式に含まれると思われる。なお、1444SI出土のA5（276）によく類似した個体が、南貝津遺跡SZ01において出土している（後述）。

共存関係の検証 出土状況を参照すると、5期の3933SIにA2（1849）と高杯B2（1846・1847）

が共伴する事例、6期の高杯B4(377)を伴う1464SIの上層にA3(392)が伴う事例、高杯B6(2545・2550等)を多く伴う5770SIにA4(2527)が伴う事例(8期)、9期の1250SI上層にA5(515)と高杯B7(519)が伴う事例に加えて、6期の雨谷遺跡SD02にA4とS字甕A類が共伴する事例、7期の諏訪遺跡SB110にA4と高杯B5が共伴する事例、9期の南貝津遺跡SZ01に(276に類似した)A5と高杯B7が共伴する事例がある(第76図)。これから、およそA1が4期、A2が4期から5期、A3が6期から7期、A4が7期前後、A5が9期から10期に対応する可能性が高いことが確かめられる。

内彎口緑壺B 内彎口緑壺Bは器高7cm~9cmの小型品で、体部に対する口頸部の大きさ(体部高に対する口頸部高の比率、以下、体口比)により、口頸部高が体部高を凌駕する一群(体口比1.00以上)をB1(2801・302等)、口頸部高を体部高が凌駕するが、相対的に口頸部が大きい一群(体口比0.60~1.00)をB2(2708・2857・2287等)、相対的に口頸部が小さい一群(体口比0.60以下)をB3(2533等)に型式分類した。

良好な出土状況を示す事例は少ないが、B1とB2が5期から7期に対応する高井遺跡SD-1・1層、同2層に多く含まれることから(第76図)、B1が5期、B2が6期から7期に対応することが想定される。型的に後出するB3は、7期から8期の土器を多く含む5770SIにおいて出土していることから、7期から8期に対応することが想定される。内彎口緑壺C 内彎口緑壺Cは器高は8cm前後と内彎口緑壺Bに近似するが、頸部径は6cm前後の内彎口緑壺Bと比較して7cm~8cmと大きい。西遠江地域(伊場式)に組成する小型鉢に系譜する可能性もある。突出しない平底を呈する一群をCa、底部を輪台状とする一群をCb、著しく体部が扁平なCcに細別する。

各形式とも型式分類に有意な属性を抽出することは難しいが、出土状況も踏まえると、Caは内彎口緑壺Bと同様、5期から7期を中心に組成し、CbとCcは8期から9期に組成することが想定される。底部を輪台状とするCbは叩き甕等、8期に顕在する平底の器種と製作技術上、近い位置にあることも予測される。

内彎口緑壺D やや大型の内彎口緑壺Dは抽出される個体が少ない(1704・1788・2167)。前期初頭を中心として、一部は前期前半に伴うことが想定される。その他、内彎する口縁部がやや短く、頸部に突帯を付す個体(2008)、体部が球形に近い個体(1704)も認められる。

内彎口緑壺の加飾 貝殻腹線またはへら状工具による連弧文が、内彎口緑壺A4(463・241・2472・1626)と内彎口緑壺C(2852)の両形式に認められる。相関する型式から、その盛行は6期から8期と推定される。



第76図 内彎口緑壺の諸例

小型丸底壺—第83図

ヨコミガキ

底部を欠くが、丸底が想定される小型の壺を小型丸底壺とした（1614）。直口口縁で、体部は球形を呈する。体部外面にヨコミガキを施す。共伴する土器から明確な時期を示すことは難しいが、9期に対応すると推定した。

その他の中・小型壺—第83図

形式の細別

内彎口縁壺と小型丸底壺を除く中・小型壺を器形により、口縁部がやや短く単純に外反し、体部が球形またはやや下膨れを呈する一群を中・小型壺A、口縁部が直線的に短く外傾する一群を中型壺B、無花果形で体部下位が屈曲、または強く張る一群を中型壺Cに細別する。

中型壺A 1

中・小型壺A 中型壺Aは口径8.0cm～11.0cm、器高10.0cm～17.0cmの中型品で、さらに口径11.0cm前後、器高15.0cm以上のA 1（800・296）、口径10.0cm前後、器高12.5cm～15.0cmのA 2（1903・1425）、口径8.0cm～9.0cm、器高10.0cm～12.5cmのA 3（2112・622）に型式分類した。A 1は相対的に底部が大きい安定した平底で、体部外面に暖味なミガキを施す。A 2は体部が球形に近い。A 3は体部が下膨れを呈し、外面調整はヨコミガキを基調とする。出土状況からおおよそ、A 1は後期から終末期（3期から4期）、A 2は終末期から前期初頭（5期から8期）、A 3は前期初頭から前期前半（7期から10期）に対応することが想定される。

小型壺A 1

小型壺Aは口径6.0～7.0cm、器高7.0～9.0cmの小型品で、体部高に対する口縁部高の比率（体口比）により、相対的に口縁部が長いA 1（体口比0.25以上、2426・2875）、口縁部が著しく短いA 2（体口比0.25以下、2723・1595・510）に型式分類した。出土状況からおおよそ、A 1は後期から前期初頭（6期以前）、A 2は前期初頭から前期前半（7期から10期）に対応することが想定される。

小型壺A 2

中型壺B a

中型壺B 中型壺Bは体部がやや長く寸胴に近い一群を中型壺B a（1687・1803等）、直口口縁で体部の下位または中位が張る一群を中型壺B b（687・2357・1205・1206等）、口頸部が著しく短い一群を中型壺B c（2261・411）に細別するが、細別形式間で各属性は相関しない。これらの形式は前期初頭から前期前半（6期以降）に盛行すると推定される。

中型壺B b

中型壺B c

遠江系（菊川系）

中型壺C 中型壺Cは体部下位が屈曲気味に強く張る器形の特徴から遠江系（菊川系）と考えられる。体部下位が著しく張り出す個体（1703）は、頸部が細く、底部は突出しない安定した平底である。体部下位がやや強く屈曲する個体（642）、屈曲がほとんど失われ、中型壺Bにも類似する個体（641）は1906SIにおいて共伴し、8期との対応が考えられる。

有孔鉢—第84図

濾過器

有孔鉢は濾過器としての用途が想定される。抽出された個体は少ない。安定した出土状況を示すものはさらに少ないが、深鉢形の個体（1402）が6期の4459SIに、口縁部先端付近が外折するやや浅い鉢形の個体（2718）が10期の5702SIに伴って出土している。底部は遺存しないが、後者に類似する9期の3330SI出土の鉢（2684）も有孔鉢の可能性はある。未調整部分が多い全体に粗雑な個体（215）は、後述する小型鉢（椀）Dとの製作上の類似から、前期前半（10・11期）と推定した。

大型鉢—第84図

大型鉢は口縁部と体部の形状が甕に類似し、底部を突出した平底とする大型鉢A（甕系鉢）、口縁部が相対的に短く、底部が突出しない安定した平底の大型鉢B（平底鉢）に細別する。前者はさらに口縁部の形状により、口縁部が単純に外反する大型鉢A 1、口縁部が内彎気味の大型鉢A 2に型式分類する。

大型鉢A 1は4期の3211SIに良好な個体がある（2085・2086）。4期を主体とする島田陣屋遺跡においても大型鉢が多く出土していることから、大型鉢A 1は4期を中心に組成することが推測される。5期の1474SIに伴う個体（873）は粗製化する。

大型鉢A 2は口縁部形状が内彎口縁甕に類似することから、両形式は消長を同じくする可能性が高く、出土状況からも7期から9期を中心に組成することが確かめられる。その他、「甕系鉢」として、製作途上の台付甕の下半を鉢とした個体（347）が6期の1409SIに伴う。

中・小型鉢—第84図

後述する浅鉢を除く中・小型の鉢は、口縁部と体部が分化し、中型と小型で器形が共通する中・小型鉢A、著しく頸部が短い中型鉢B（短頸鉢）、中型壺の体部下半と器形が共通する中型鉢C（壺系鉢）に細別する。

中・小型鉢Aは、頸部から口縁部の形状と接合手法に注目して、頸部から連続して外折する口縁部を成形するA 1（182・948）、頸部に口縁部との接合痕が表面化するA 2（1582・1447・1226）、口縁部を折り返すA 3（1365・1234）、口縁部が直立気味で体部との分化が曖昧なA 4（2095・2860・254・1710）に型式分類する。出土状況からもA 1は後期、A 2・A 4は終末期以降、A 3は前期初頭以降に対応することが想定される。

中型鉢Bは良好な個体が少なく、組成、型式変化は明確ではない。なお、10期の1411SIに伴う個体（412）は、後述する小型鉢（椀）Dと調整や胎土が類似する。

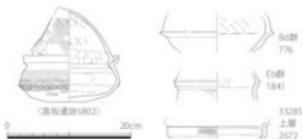
中型鉢Cは抽出された個体は少ないが、10期に対応する南貝津遺跡SB15出土の類似の個体も勘案して、前期中半（9・10期）に組成することを想定した。

浅鉢—第84図

浅鉢は口縁部が内彎して大きく開く内彎浅鉢、口縁部が有段状の有段浅鉢に細別する。

内彎浅鉢は脚付で口縁部が著しく大きく開く個体（1399）、底部が上げ底状の個体（1401）、扁平な個体（2442）がある。前二者は6期の4459SIにおいて共伴する。後者の扁平な個体は出土状況から明確な時期を示すことはできないが、10期に対応するモリ下遺跡6792SIにおいて類似する個体が出土している。

有段浅鉢は加飾がある一群（2525等）、段が曖昧でやや粗雑な一群（1608・2475等）がある。前者の一群には手焙形土器（2672）が含まれる。出土状況は良好ではないが、7期から8期に対応することが想定され、8期に対応する豊川市高坂遺跡SB02には良好な出土事例がある（第77図）。後者の一群は著しく大型化した個体（1225）も含めて、8期から10期に対応することが想定される。



第77図 手焙形土器

形式の細別

型式分類

大型鉢A 1

島田陣屋遺跡

大型鉢A 2

その他の甕系鉢

形式の細別

中・小型鉢A 1

中・小型鉢A 2

中・小型鉢A 3

中・小型鉢A 4

中型鉢B（短頸鉢）

中型鉢（壺系鉢）

南貝津遺跡SB15

形式の細別

内彎浅鉢

モリ下遺跡6792SI

有段浅鉢

手焙形土器

高坂遺跡SB02

小型鉢（椀）—第84図

形式の細別 小型鉢（椀）は口縁部と体部の区別を欠く小型容器で、やや厚い底部から体部がわずかに外傾する小型鉢（椀）A、体部が浅く開く小型鉢（椀）B、体部全体が彎曲して開く小型鉢（椀）C、底部が不明瞭な椀形の小型鉢（椀）Dに細別する。

小型鉢（椀）A 小型鉢（椀）Aは器高5.0～6.5cmの一群（896・1394・708・2612・680・520・1649等）、4.0～5.0cmの一群（184・1966・1967・1812・1003等）、3.0cm～4.0cmの一群（1344・326等）が各時期を通じて組成する。

小型鉢（椀）B 小型鉢（椀）Bは相対的に浅い一群（942・2435等）とやや深い一群（2209・1968・1533・252・1653等）がある。後者は口縁部先端をわずかに引き出す個体が多い。確実ではないが、前者が後期から前期初頭、後者が前期初頭から前期前半に組成する傾向が認められる。なお、小型鉢（椀）A・Bには朱精製の鉢（1968・1653・1654）が少なからず含まれていることが、蛍光X線分析によって判明している（第4章（5）を参照）。

小型鉢（椀）C 小型鉢（椀）Cは口径に対して相対的に底径が小さい一群（789・352等）、大きい一群（127等）、両者の中間の一群（2740・250・325）がある。出土状況からは、およそ小さい一群が後期から前期初頭、中間の一群が前期初頭から前期前半、大きい一群が前期前半に対応することが想定される。

小型鉢（椀）D 小型鉢（椀）Dは外面を未調整とする粗雑な一群（251・413）で、前期初頭から前期前半（8期以降）に組成する。

有段高杯A—第85図

型式分類 杯部上半が外反し、脚部が大きく開く有段高杯A（いわゆる「山中型」有段高杯）は杯部の形状により、A1、A2、A3に型式分類した。脚部の加飾については、直線文帯と無文帯や刺突文帯を交互、多段に配する（分帯）構成、刺突文帯が分化、直線文帯が集約化する（非分帯）構成に区分した。後者は有段高杯Bに普遍的な直線文帯に推移する。

有段高杯A1 杯部が相対的に深く、杯部内面の段が曖昧な一群（989等）。

有段高杯A2 杯部上半が大きく外反し、加飾性に富む（2215・2273等）。脚部は上位が柱状で、脚裾付近は大きく開く（944等）。脚部の加飾は分帯構成を基本とする。

有段高杯A3 杯部上半が外傾し、加飾性に乏しい（1622・1726・1143）。脚部は中位付近から大きく開く（1623・1727等）。脚部の加飾は非分帯構成を基本とする。

有段高杯B—第85図

型式分類 杯部が内彎し、脚部が円錐形を呈する有段高杯B（いわゆる「欠山型」有段高杯）は安定して組成し、型式変化も明瞭であることから、編年の軸軸として最も有効である。以下の型式分類に際しては、杯部上位と下位の相対的な高さ、杯部の口径に対する深さの比（口深比）、脚部の計測値を参照した。

杯部の上位と下位 有段高杯B1 杯部上位の高さが杯部下位の高さに近似する。脚部は柱状を呈する上位から大きく内彎して開く。脚高は著しく高い（脚高12.6cm以上）。

有段高杯B2 杯部は深く（杯部深さ9.0cm～10cm、口深比0.4前後）、上位が下位を大きく凌駕する。脚部は相対的に高く、大きく内彎して開く（脚高9.6cm～12.5cm）。

有段高杯B3 杯部はB2と同様の形態で、上下にやや圧縮気味となる。脚高が相対的に低い（脚高8.5cm～9.5cm）。

有段高杯B4 杯部下位をほとんど消失し、底部が水平に近い形態で（杯部下半の高さが杯部の10%以下）、杯部はB2、B3と同様に深い。脚部は相対的に高く、わずかに内彎する（脚高8.5cm～9.0cm）。

有段高杯B5 B4に類似するが、相対的に杯部が浅い（杯部深さ8.0cm～9.0cm、口深比0.4前後）。脚部は低く、内彎も弱い（脚高8.5cm前後）。

有段高杯B6 B4、B5に類似するが、より杯部が浅い（杯部深さ7.0cm～8.0cm、口深比0.3～0.4）。脚部は低く、内彎は痕跡程度のものが多い（脚高8.0cm前後）。

有段高杯B7 杯部は相対的に小さい（杯部深さ7.0cm～9.0cm、口深比0.3～0.5前後）。脚部は低く、直線的に開くものが多い（脚高7.0cm～8.0cm）。

有段高杯B8 杯部が小さく浅い（杯部深さ6.0cm前後、口深比0.3以下）。脚部はより低く、直線的に開くもの、外反気味のものでほぼ占められる（脚高7.0cm前後）。

その他の有段高杯—第85図

杯部口径が12cm～16cm程度の小型品がある（1588・2421・1971・1297・1319等）。杯部の形状は通有の有段高杯と同様の型式変化を示す。脚部の形状は椀形高杯に近い。

また、有段高杯から派生した壺型式とも把握される個体が散見される。有段高杯A3から派生したと思われる個体（1165）は器壁が著しく厚く、ハケ調整が表面化する。有段高杯B1から派生したと思われる一群（183・544）は、器壁が厚く杯部の段も曖昧で、脚部は透孔を欠く。杯部が深い椀形の個体（2078）は西遼江地域に散見される。大きく開く脚部は大型の椀形高杯の可能性もあるが、有段高杯と同様の杯部が伴うと思われる個体（2570）がある。その他、口径に対して著しく杯部が深い一群がある（646・117）。

椀形高杯—第85図

椀形高杯は他の遺跡で大型品も散見されるが、当遺跡においてはその可能性のある個体（1850・1977）が6期にごくわずかに認められる程度で、明確に組成するのは小型品のみである。杯部口径が脚径を凌駕する椀形高杯A、脚径が杯部口径を凌駕する椀形高杯Bに、さらに前者を杯部全体が大きく彎曲する椀形高杯Aa、杯部が深い半球形の椀形高杯Ab、杯部が相対的に浅い椀形高杯Acに細別する。椀形高杯Aは後期の「フイングラス形」高杯からの変化が想定されるが、後期における良好な個体はほとんどない。

椀形高杯A 椀形高杯Aaは口縁部先端に内傾する面をもつものが多い（2081・141・874・957）。椀形高杯Abは口縁部先端が先細りするものが多い（2583・1444・348・1973）。杯部が浅い椀形高杯Ac（2584・716・2848・2847・1970）は杯部が深い椀形高杯Abに後出する可能性もあるが、両者は4期の5785SIの床面直上において共存する（2583・2584）。各形式は4期から5期に杯部底部付近の膨らみが消失し、5期から6期に円錐形を呈する脚部から上位が柱状で中位以下が大きく広がる脚部に変化する。

椀形高杯Aaは6期以降、組成が不明瞭になる一方、椀形高杯Abは脚部との接合部分から杯部が大きく外傾する型式（1512・1514）に変化して8期まで組成する。椀形高杯Acは6期までは確実に組成し、著しく杯部口径が大きい型式（1970）に変化する。

椀形高杯B 椀形高杯Aとは異なる新出の形式で、10期には確実に組成することが確かめられる。大局として、前期初頭から前期前半にかけて椀形高杯Aから椀形高杯Bへの交替が想定される。

小型の有段高杯

壺型式（粗製）

深い椀形の杯部

大きく開く脚部

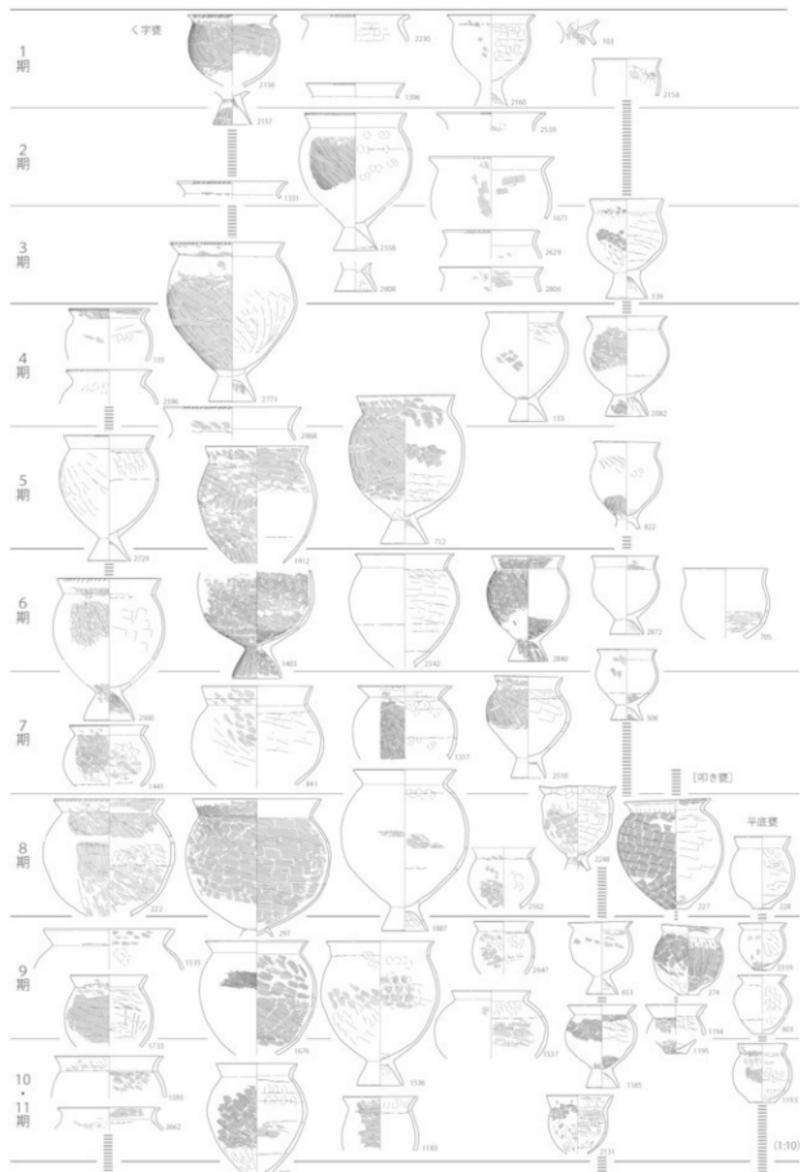
杯部が深い一群

小型品主体

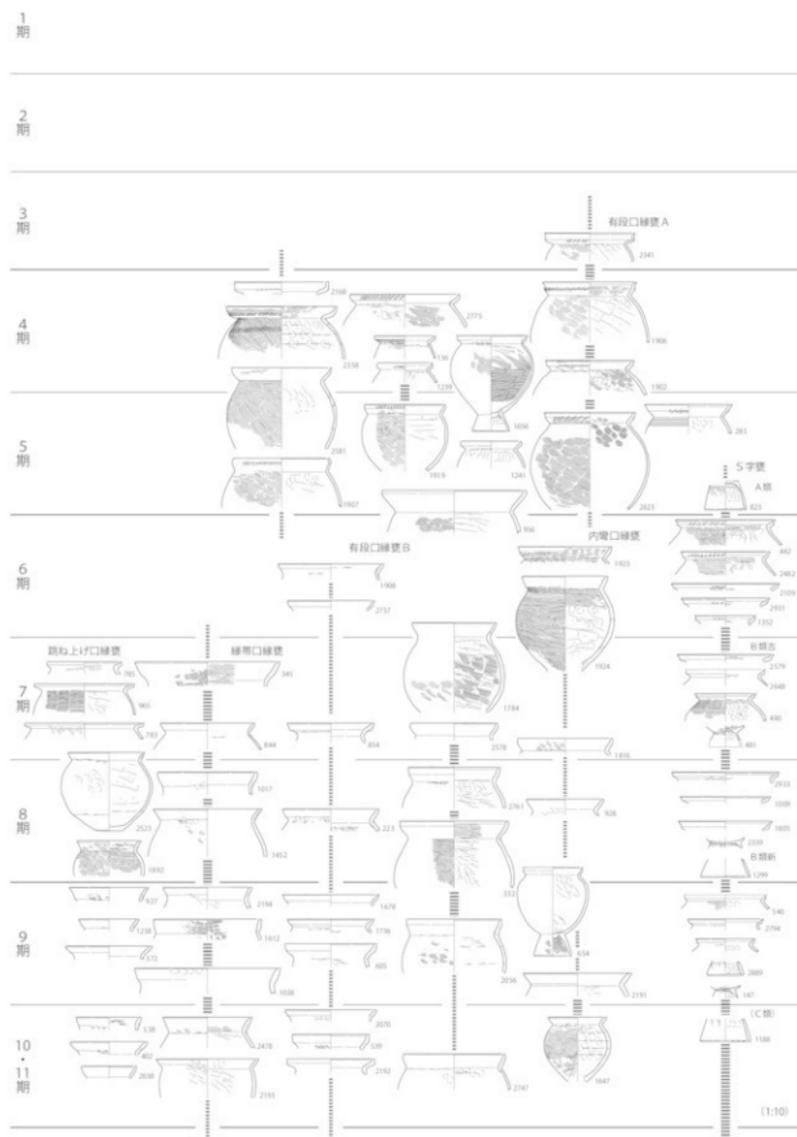
椀形高杯Aa

椀形高杯Ab

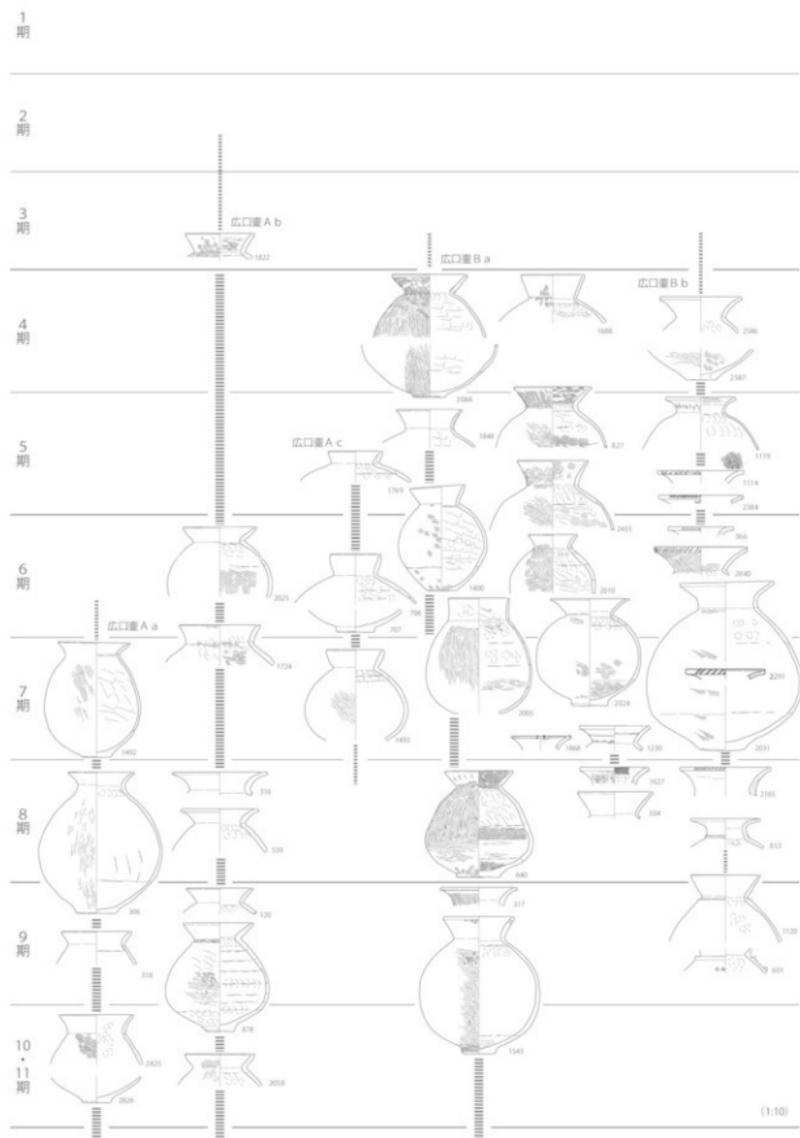
椀形高杯Ac



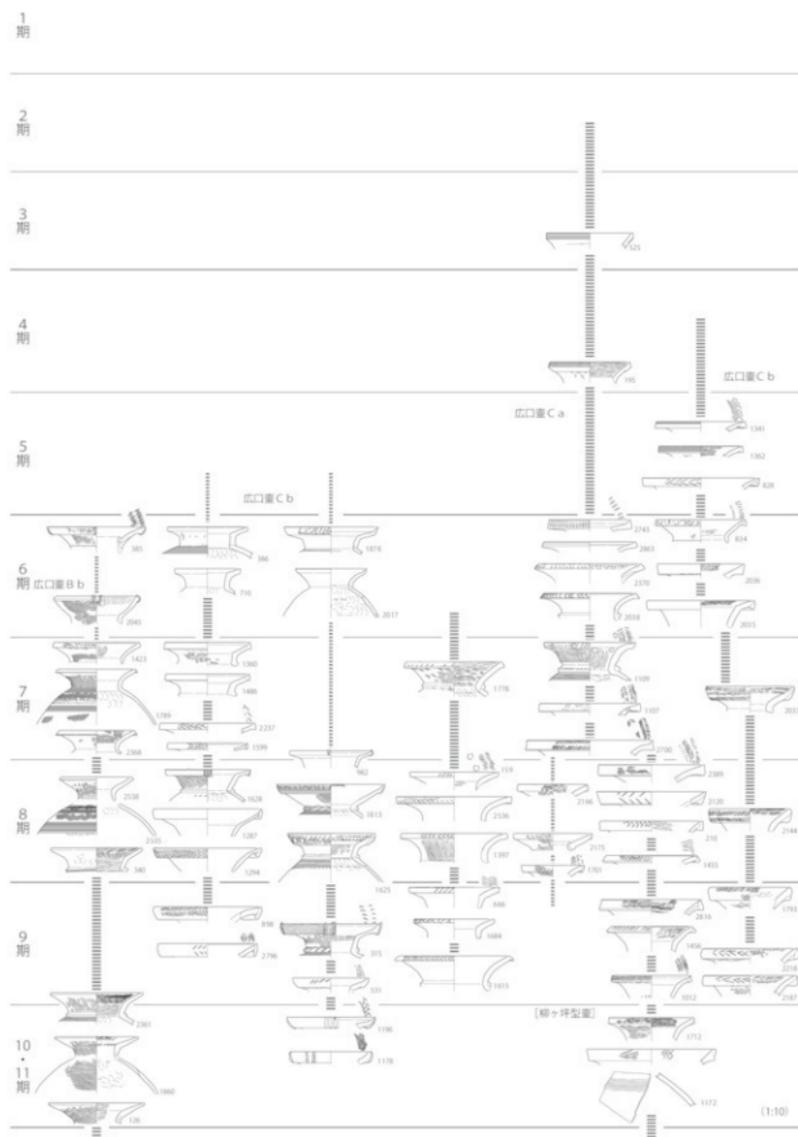
第78図 石座神社遺跡出土土器の編年（<字甕・平底甕）



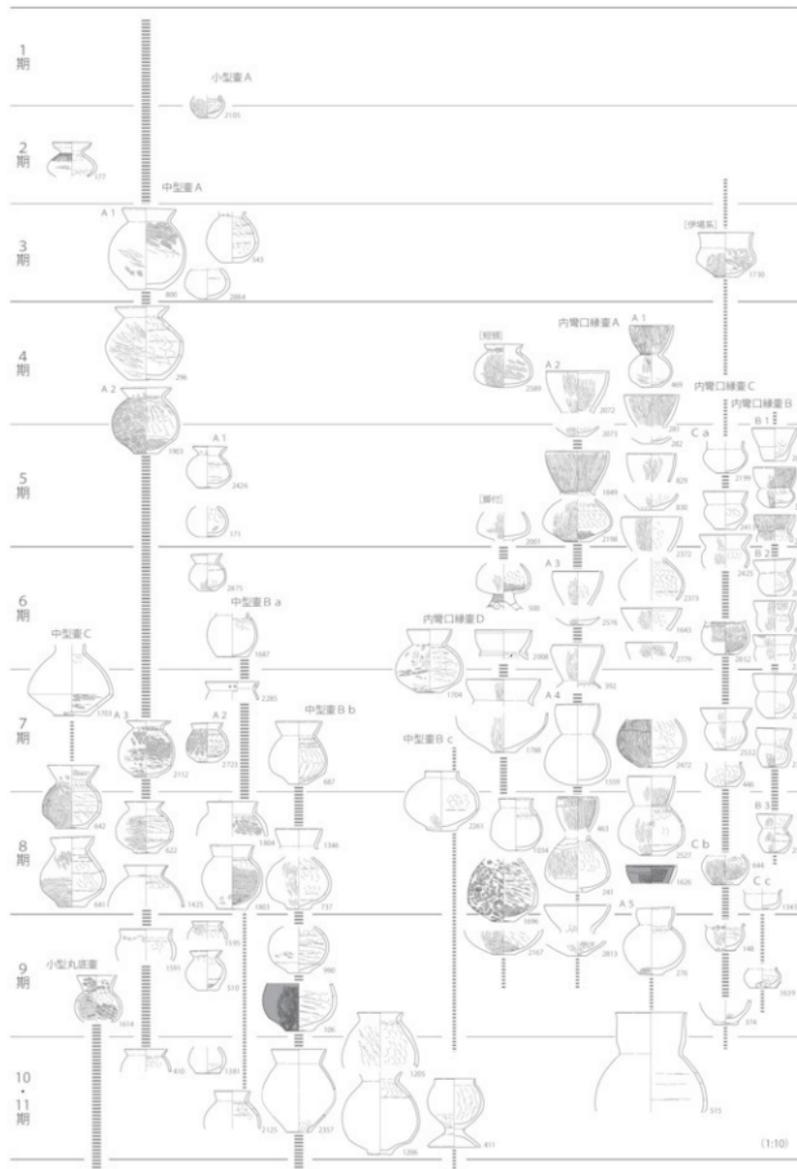
第79図 石座神社遺跡出土土器の編年（有段口縁甕・S字底等）



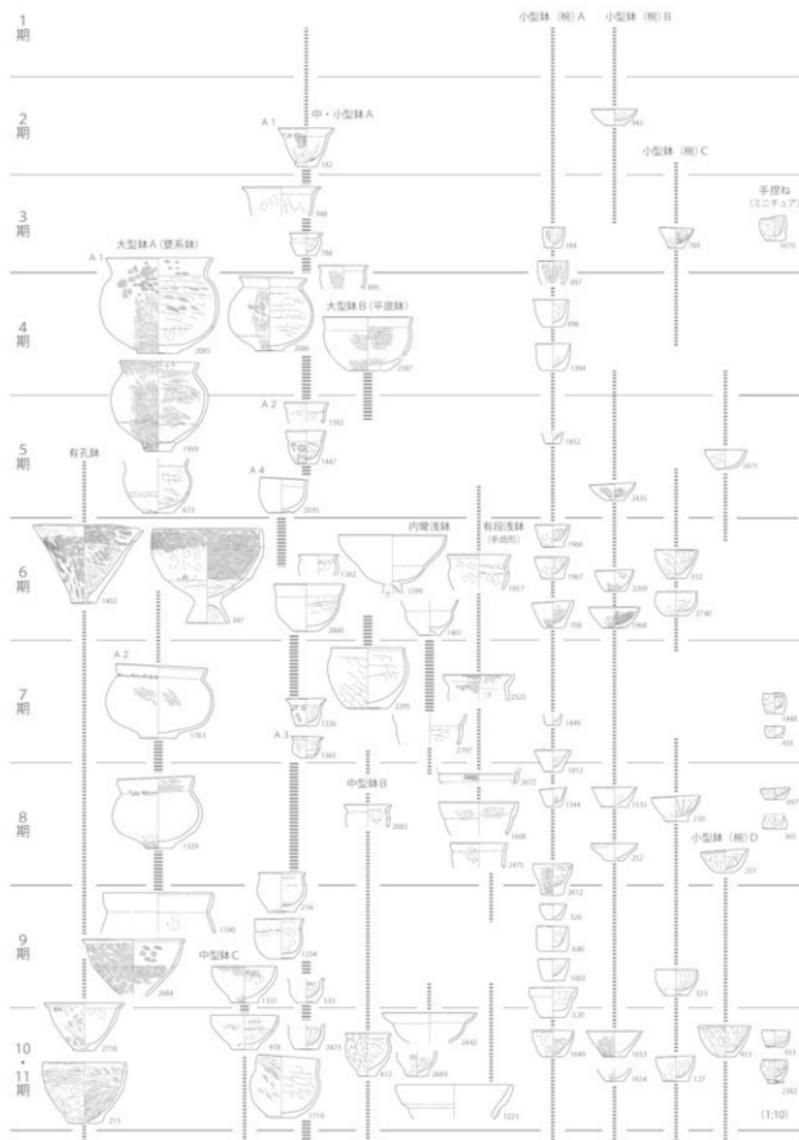
第80図 石座神社遺跡出土土器の編年 (廣口壺)



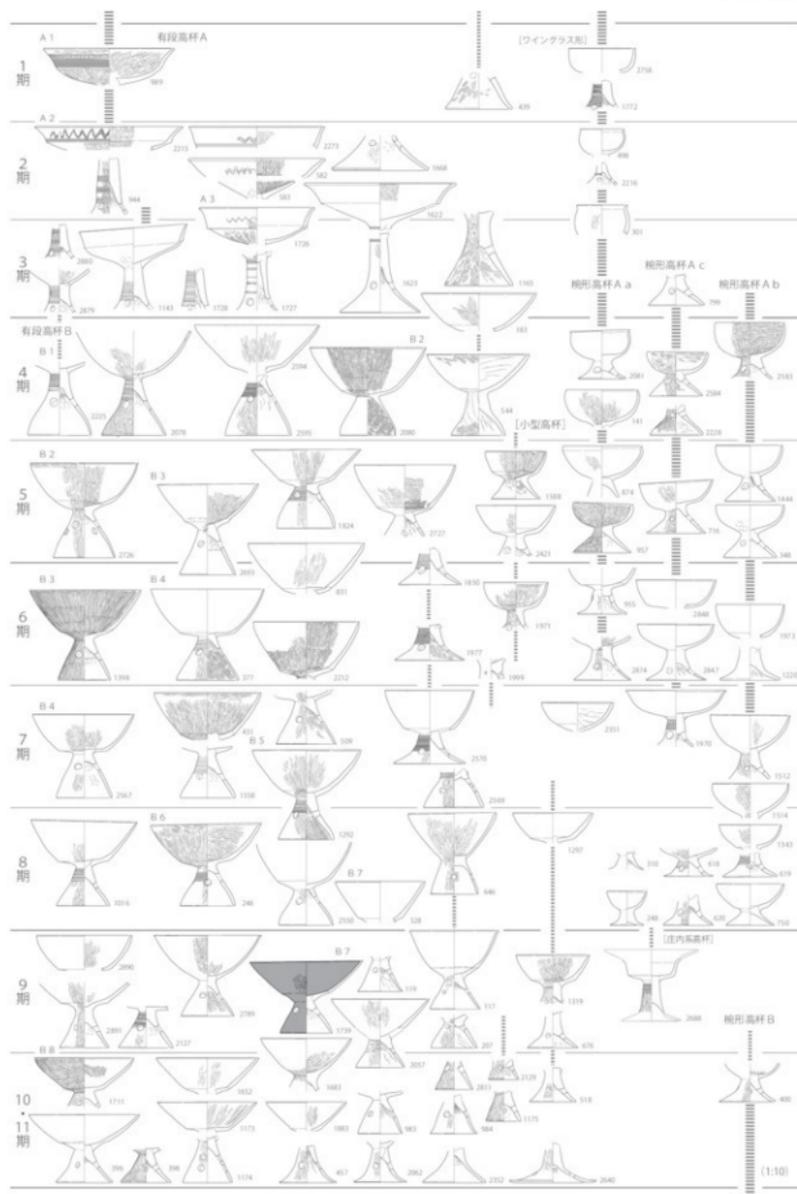
第81図 石座神社遺跡出土土器の編年(加飾広口壺)



第83図 石座神社遺跡出土土器の編年（内嚢口縁壺・中型壺・小型壺等）



第84図 石座神社遺跡出土土器の編年(鉢)



第85図 石座神社遺跡出土土器の編年(高杯)

4) 遠江系土器・南関東系土器

西遠江系土器

西遠江系土器として、折り返し口縁壺(広口壺G)、有段(複合)口縁壺(1545・1884・2260・2833)、小型鉢(202・1730・2199)を抽出した(第86図)。

折り返し口縁壺
(広口壺G)
(結節)縄文

折り返し口縁壺(広口壺G)として、30点以上を抽出した。これらには菊川式の広口壺、(鈔状口縁)高杯も含まれている可能性もある。口縁部の文様は、先端にヘラ状工具による刻み、内面に(結節)縄文を施す個体(2145・2755・2771・2786)、先端にハケ状工具による単斜刺突文を施す個体(112・163・284・916・1267)、口縁部先端と内面に櫛描波状文を施す個体(484)、先端にヘラ状工具による刻みを斜格子状に施す個体(483・1853・2046)、先端にハケ状工具による「x」刺突を施す個体(2598・2771・2903)等がある。加えて、広口壺Bの口縁部内面に結節縄文を施した個体(1114)がある。

有段(複合)口縁壺

有段(複合)口縁壺とした1545は大きく拡張した口縁部外面に多段化した羽状刺突文を施し、棒状浮文を付す。2260は内彎する口縁部外面に多段化した羽状刺突文を施す。1884は口縁部外面に棒状浮文を付し、刻みを加えた個体、2833は棒状浮文が細い沈線に転化した個体である。2833は後述する菊川式の広口壺(2834)と共伴して出土している。

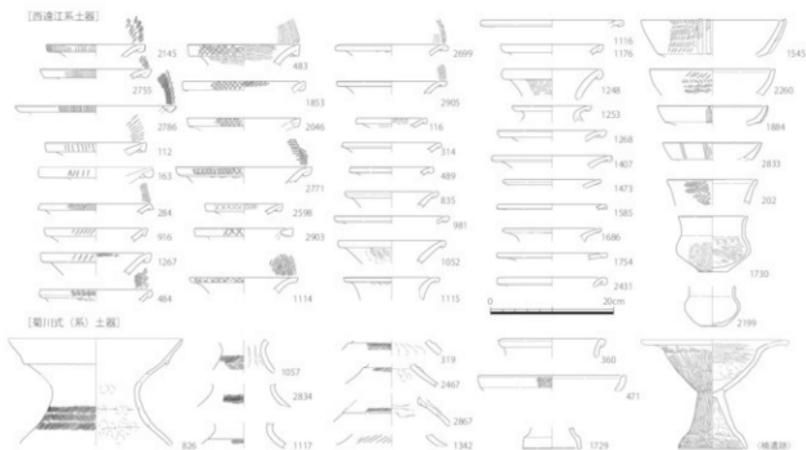
小型鉢

小型鉢は口縁部が外傾し、外面に多段化した羽状刺突文を施す個体(202)、口縁部が直立気味で体部中位が張る個体(1730)、頸部がやや縮まり体部の張りが弱い個体(2199)がある。202は2期の1953SI上層、1730は3期の3099SIにおいて後述する菊川式の(鈔状口縁)高杯(1729)と共伴して出土している。2199は5期の3148SIに伴う。なお、2199は小型壺の形状に近く、小型広口で突出しない平底の内彎口縁壺Caに型式変化する。

3099SI

上記の遺構における伴出から、西遠江地域との関係が顕在化する時期は後期後葉から終末期(3期から5期)が中心であると推察される。また、これらの西遠江土器は、丘陵頂部平坦面から西向き斜面に散在して分布する傾向が認められる。

西遠江系土器の
顕在化



第86図 遠江系土器

菊川式(系)土器

菊川式の範疇、またはその系譜に属する器種として、広口壺(319・826・1057・1117・1342・2467・2834・2867)、鉢(360・471)、高杯(1729)を抽出した(第86図)。

広口壺は頸部に「有段羽状文」を施すが、断面三角形の突帯による明確な段が認められる個体(319・2467)と明確な段が認められない個体(826・1057・1117・2834)の両者がある。2467は頸部に明確な段を有するが、文様を羽状ではなく単斜刺突とする。826は口縁部を有段状とする大型品である。「有段羽状文」は頸部区画文が拡大したもので、下位の文様が省略されている個体(826・2467)があることから、菊川式の後半期、3期から5期(篠原2006)に対応すると考えられる。また、「有段羽状文」は菊川式土器分布圏の西部に多く、東部に少ないことも指摘されている。

鉢は折り返し口縁の鉢(360)、浅鉢(471)がある。後者は台付鉢または(鉢形)高杯の可能性もある。(罎状口縁)高杯(1729)は有段状の脚部を抽出した。段が明確化していない形態の特徴から、菊川様式中(中嶋1988)以前に対応すると考えられる。同様の菊川式の(罎状口縁)高杯は近隣の楠遺跡においても出土している。

当遺跡において良好な出土状況を示す個体は少ないが、(罎状口縁)高杯(1729)は3期の3099SI(西遠江系の小型鉢が共伴)、広口壺(826)は5期の1929SIに伴う。菊川式に系譜すると考えられる中型壺Cが前期初頭(6期から8期)に伴うことも勘案すると、およそ菊川式の古相から中相が後期(3期以前)、菊川式の新相が終末期(4・5期)に対応し、菊川式(系)の終末は前期初頭(6期から8期)のいずれかの時期に求められる可能性が高い。また、これらの菊川式土器は西向き斜面(A群、B群、C群)に分布がやや集中する傾向がある(遠江系土器については鈴木敏則氏に詳細なご教示を頂いた)。

南関東系土器

南関東系土器として、「久々原式」系または「山田橋式」系(の(複合口縁)加飾広口壺(562)を抽出した。胎土中に砂粒を多く含む胎土で、搬入品の可能性が高いと思われる。

562は(複合)口縁外面の文様帯に棒状浮文を付し、棒状浮文と文様帯下端に刻みを密に加える。文様帯には羽状縄文を施しているようにも思われるが、器表面の風化により断定は難しい。8期の1224SI覆土中の出土で、混入の可能性もあるが、8期と併行関係が想定される南武蔵南部地域における北川谷5期(古屋2013)、房総地域の中台式(大村2004)との対応を想定することも不可能ではない(南関東系土器については西川修一氏、古屋紀之氏に詳細なご教示を頂いた)。

南関東系土器は安城市亀塚遺跡における出土が知られ(第87図)、今後、類例の増加も見込まれる。なお、亀塚遺跡においては南関東系土器に加えて、遠江・駿河系土器も出土している状況も石座神社遺跡と類似する。

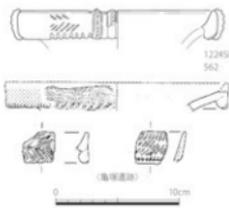
広口壺
(有段)羽状文

鉢
高杯

3099SI
1929SI
併行関係

久々原式・山田橋式
(複合口縁)加飾
広口壺
時期と併行関係

亀塚遺跡



第87図 南関東系土器

5) 様式的把握

弥生時代後期—1期・2期・3期

- 1期 後期は遺構の著しい重複もあって、組成の内容を明確に示すことは難しいが、後期前葉の1期は2093SI、3186SI、1138SI、後期中葉の2期は1231SI、3097SI、1139SI、1181SI、3261SI、3621SI、後期後葉の3期は3099SI、3832SI、1251SI、0016SI、1200SI下面、1938SIから組成の一端が示される。また、近隣の吉竹遺跡071SI出土土器群は2期、同047SI出土土器群は3期の良好な一群で、相互補充が可能である。

構成 主要な形式はく字甕、有段高杯A（とワイングラス形高杯）、広口壺C（加飾広口壺）である。有段高杯は1期にA1（A2）、2期にA2（A3）、3期にA3（B1）が伴う。

弥生時代終末期—4期・5期

- 4期 4期は1200SI上面、3223SI、1957SI、5807SI、5785SI、3211SI、5期は1861SI上面、1474SI、3933SI、5545SI、1929SI、3742SI（5期から6期）が標識的な遺構である。加えて、新城市教育委員会調査SI1が（3期から）4期に対応する。

構成 甕はく字甕に加えて有段口縁甕Aが一定量組成する。有段高杯は有段高杯Aから有段高杯Bに置換し、4期はB1、B2、5期はB2、B3が伴う。また、内彎口縁甕、大型（連系）鉢、碗形高杯が主要な形式として組成する。

古墳時代前期初頭—6期・7期・8期

- 6期 6期は4459SI、3747SI、1464SI、1490SI、3602SI、5500SI、7期は3622SI、1276SI、3076SI、3404SI、3388SI、5770SI（7期から8期）、8期は3005SI上層（下層は7期）、3006SI、3283SI、1224SI、1454SI、1906SIが標識的な遺構である。

構成 甕はく字甕に加えて有段口縁甕B、内彎口縁甕、縁帯口縁甕、S字甕等の多様な形式によって構成される。広口壺C（加飾広口壺）の多くは擬凹線文系から、刺突文系に変化し、バレス系壺（広口壺D）も明確に伴う。有段高杯は6期にB3、B4、7期にB4、B5、8期にB5、B6が伴う。

古墳時代前期前半—9期・10期・（11期）

- 9期 9期は1444SI、1922SI、3079SI、3216SI、3121SI、0121SI、10期（11期）は1331SI、1411SI、1157SI、3931SI、3206SI、1176SIが標識的な遺構である。

構成 甕は平底甕が一定量組成する。バレス系壺（広口壺D）、内彎口縁壺は退化し、段階的に組成から脱落する。有段高杯は9期にB6、B7、10期にB7、B8が伴う。碗形高杯は碗形高杯A消滅し、碗形高杯Bに置換する。

既往の土器様式との対応

- 「寄道式」 弥生時代後期（1期・2期・3期）は概ね既往の「寄道式」に相当するが、詳細については精査が必要である。弥生時代終末期（4期・5期）は既往の「欠山式」が大きく重複すると思われるが、欠山第2貝塚出土土器は高杯B1、B2、B3、B4、B5、B6を含むことから、厳密には終末期から前期初頭（4期から8期）に対応する。また、「寄道式」から「欠山式」に対応する高井遺跡環濠SD-1出土土器（鈴木1996・1997）は高杯A2、A3、B1で構成される4層以下が2期から4期、高杯B1、B2で構成される3層が4期、B2、B3、B4、B5で構成され、S字甕A類が伴う2層が5期から7期、高杯B3、B4、B5で構成される1層が6期から7期に対応する。これらの「欠山式」は後続する「元

屋敷式」との関係も含めてその扱いは問題が多く、地域固有の標識資料が希薄な前期前半(9・10期)を含めた再構成が必要である。様式編年の再構成

前段までの様式的把握、既往の土器様式との対応における問題を踏まえると、豊川中・上流域における弥生時代終末期から古墳時代前期の固有の土器様式として、断上山丘陵の石座神社遺跡と南貝津遺跡出土土器群を基軸とした「断上山式」を別に設定し、弥生時代終末期を古段階、古墳時代前期初頭を中段階、古墳時代前期前半を新段階とすることも可能である。同時に、先行する弥生時代後期(中葉・後葉)は吉竹遺跡出土土器群を基軸とした「吉竹式」として把握することが適当であろう。また、後期から前期初頭の諏訪遺跡、終末期の島田陣屋遺跡、前期初頭から前期前半に対応するモリ下遺跡出土土器群等はこれらを補完する。

後続する様式

後続する古墳時代前期後半の組成の内容は豊川市宮沢遺跡出土土器群によって一定程度が把握される。宮沢遺跡は竪穴建物の重複関係、位置関係からSB-10→SB-7→SB-4→SB-5の変遷が示され、前期前半から前期後半への連続的な組成の変化を確認することが可能である(第88図)。

SB-10は古相の柳ヶ坪型壺(7・8)、S字甕C類古段階(12)等から石座神社遺跡10期に対応する。10期に後続する時期を仮に11期、12期とすると、10期から11期に対応するSB-7は浅鉢(23~26)が多く組成し、11期から12期に対応するSB-4に細かいヨコミガキを施した直口壺(31)、S字甕C類新段階(35)、12期に対応するSB-5に無透孔屈折(中実柱状)脚高杯(37)、有段鉢(39)、小型丸底壺(40)が伴う。以上の内容から、前期後半(11期・12期)に対応する様式を「宮沢式」として呼称する。



第88図 宮沢遺跡における土器群の推移

併行関係

尾張地域 有段高杯を主とした型式の比較、共存するS字甕やパレス系甕から、尾張地域の編年（赤塚 1990・1994・1997・2002）との併行関係を整理する（第33表）。

弥生時代後期は、1期（後期前葉）が山中Ⅰ式以前、2期（後期中葉）が山中Ⅰ式から山中Ⅱ式、3期（後期後葉）が山中Ⅱ式に重複することが見込まれるが、詳細は不明な部分が多い。後続する弥生時代終末期は4期が廻間Ⅰ式0・1段階、5期が廻間Ⅰ式2・3段階に、古墳時代前期初頭は6期が廻間Ⅰ式4段階、7期が廻間Ⅱ式1・2段階、8期が廻間Ⅱ式3段階に、古墳時代前期前半は9期が廻間Ⅱ式4段階・廻間Ⅲ式1段階、10期が廻間Ⅲ式2段階に、古墳時代前期後半は11期が廻間Ⅲ式3・4段階、12期が松戸Ⅰ式1段階との併行が想定される。畿内における編年（西村 2008）との併行関係については、すでに提示されている尾張地域との併行関係（早野 2013）を援用した。

畿内との併行関係

第33表 編年対比表

		石座神社遺跡		豊川中・上流域		三河				
100	弥生時代後期前半	畿内	1	Aa群2093SI			高井SD-1 中野野島 宮沢 宮沢 宮沢 宮沢 宮沢 宮沢 宮沢 宮沢 宮沢 宮沢	寄道		
			2	Fa群3186SI						
			3	Cb群1138SI	Fb群3097SI	吉竹071SI				
		尾張	1	()						
			2	古						
			3	竹						
	150	弥生時代後期後半	畿内	4	Cb群1231SI上面	Da群1139SI			Ae群1181SI	
				5	Df群3261SI	Gc群3621SI				
				6	Dg群3099SI	De群3832SI			吉竹047SI	
		尾張	1	Cd群1251SI	Ka群0016SI	諏訪 SB114・SB101				
			2	Ae群1200SI下面	Ca群1938SI					
			3							
200	弥生時代終末期	畿内	4	Ae群1200SI上面	Fc群3223SI	石座神社(市) SI1↑				
			5	Aa群1957SI	Ia群5807SI	南貝津 SB03・SB12				
			6	Gc群5785SI	Fa群3211SI	島田陣屋				
		尾張	1	Bc群1861SI上面	Ca群1474SI	諏訪 SD01・SD04				
			2	Ec群3933SI	Hc群5545SI					
			3	Ca群1929SI	Ec群3742SI↓					
	250	古	畿内	4	Db群4459SI	Fd群3747SI	南貝津 SB04			
				5	Ac群1464SI	Ac群1490SI	諏訪 SB014			
				6	Jb群3602SI	Jd群5500SI				
		新	尾張	1	Gc群3622SI	Ga群1276SI	南貝津 SB10			
				2	Dc群3076SI	Ea群3404SI	諏訪 SB110			
				3	Fc群3388SI	Gc群5770SI↓	横山広畑			
300	古	畿内	4	Dc群3005SI↑	Ce群3006SI	南貝津 SB19				
			5	Fc群3283SI	Ae群1224SI					
			6	Ac群1454SI	Bb群1906SI					
	新	尾張	1	Ac群1444SI↑	Bb群1922SI	南貝津 SZ01				
			2	Dc群3079SI	Df群3216SI	上ノ川 SB06				
			3	Dg群3121SI	Ka群0121SI	モリ下2410SI・2067SI				
350	古	畿内	4	Cd群1331SI	Ad群1411SI	南貝津 SB15				
			5	Cd群1157SI	De群3931SI	モリ下3314SI・6792SI				
			6	Df群3206SI	Cb群1176SI	宮沢 SB-10・SB-6				
	中	尾張	7			南貝津 SB21				
			8			宮沢 SB-7・SB-4				
			9			宮沢 SB-5・SB-1上部				
新	尾張	10								
		11								
12										

畿内内・布留式 (西村 2008) / 尾張 (赤塚 1990・1994・1997・2002) / 三河 (鈴木 1996・1997)

参考文献

- 赤塚次郎1990『廻間式土器について』『廻間遺跡』愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第10集 財団法人愛知県埋蔵文化財センター
- 赤塚次郎1994『松戸様式の設定』『松戸遺跡』愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第48集 財団法人愛知県埋蔵文化財センター
- 赤塚次郎1997『廻間Ⅰ・Ⅱ式再論』『西上免遺跡』愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第73集 財団法人愛知県埋蔵文化財センター
- 赤塚次郎2002『濃尾平野における弥生時代後期の土器編年』『八王子遺跡』愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第92集 財団法人愛知県教育サービスセンター愛知県埋蔵文化財センター
- 大村直2004『山田橋遺跡群および市原台地周辺地域の後期弥生土器』『市原山田橋大山台遺跡』財団法人市原市文化財センター調査報告書第88集 財団法人市原市文化財センター
- 藤原和夫2006『登呂式土器と離宮塚式土器—駿河湾周辺地域における弥生時代後期の地域色に関する考察—』『静岡県考古学研究』No.38 静岡県考古学会
- 鈴木敏則1996『三河の後期弥生土器の編年』『高井遺跡』豊橋市埋蔵文化財調査報告書第26集 豊橋市教育委員会
- 鈴木敏則1997『三河・遠江から見た相模の後期弥生土器・前編』『西相模考古』第6号 西相模考古学会
- 中嶋大輔1988『いむゆる「菊川式」と「飯田式」の再検討』『転機』2号 転機発行会
- 西村歩2008『中河内地域の古式土器編年と諸問題』『シノボジウム』『邪馬台国時代の摂津・河内・和泉と大和』資料集。香芝市教育委員会・香芝市二上博物館
- 早野浩二2013『「庄内式」の成立、「漆町4群」の画期と東海の土器編年』『東生』第2号 東日本古墳学立期土器検討会
- 古原紀之2013『横浜市都筑区北川谷遺跡群における弥生時代後期〜古墳時代前期の編年』『横浜市歴史博物館紀要』第17号 財団法人横浜市ふるさと歴史財団
- 遺跡文献
- 石座神社遺跡：新城市教育委員会2011『石座神社遺跡発掘調査報告書』
- 上ノ川遺跡：新城市教育委員会1999『上ノ川遺跡発掘調査報告書』新城市埋蔵文化財調査報告書第17集
- 雨谷遺跡：豊川市教育委員会1989『郷中・雨谷』
- 欠山遺跡：第3回東海埋蔵文化財研究会1986『欠山式土器とその前後』
- 亀塚遺跡：安城市教育委員会2007『亀塚遺跡II』安城市埋蔵文化財発掘調査報告書第18集 安城市教育委員会
- 桶遺跡：新城市教育委員会1996『桶遺跡発掘調査報告書』新城市埋蔵文化財調査報告書X
- 高坂遺跡：財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団愛知県埋蔵文化財センター2008『高坂遺跡』愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第143集
- 境松遺跡：岩原剛2012『豊橋市境松遺跡SZ-1をめぐる評価—加飾壺・二重口緑壺・外米系土器を中心に—』三河考古学談話会定例会資料
- 島田陣屋遺跡：財団法人愛知県埋蔵文化財センター1995『島田陣屋遺跡』愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第58集
- 諏訪遺跡：財団法人愛知県埋蔵文化財センター1989『諏訪遺跡・杉山端城跡』愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第7集
- 高井遺跡：鈴木敏則1985『大清水遺跡の弥生土器—寄道式土器の再吟味—』『ホリデー考古』第3号 ホリデー考古発行会/鈴木敏則1988『山中様式三河型（寄道様式）』『三河考古』創刊号 三河考古発行会/豊橋市教育委員会1996『高井遺跡』豊橋市埋蔵文化財調査報告書第26集/豊橋市教育委員会・株式会社イビツク2001『高井遺跡（II）・荒木2号墳・下角庵遺跡』豊橋市埋蔵文化財調査報告書第57集
- 廻間遺跡：財団法人愛知県埋蔵文化財センター1990『廻間遺跡』愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第10集
- 南貝津遺跡：新城市教育委員会1989『南貝津遺跡』
- 宮沢遺跡：一宮町教育委員会1988『一宮東部地区ほ場整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書II』/一宮町教育委員会1989『宮沢遺跡』
- モリ下遺跡：公益財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団愛知県埋蔵文化財センター2015『モリ下遺跡』愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第196集
- 横山広畑遺跡：新城市教育委員会2009『市内遺跡発掘調査報告書（II）』新城市埋蔵文化財調査報告書
- 吉竹遺跡：公益財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団愛知県埋蔵文化財センター2015『吉竹遺跡』愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第191集

（8）弥生時代後期から古墳時代前期における竪穴建物の諸属性

はじめに

本節においては、弥生時代後期から古墳時代前期の竪穴建物 336 棟（新城市教育委員会調査の 2 棟を含む）の各属性を整理、分析する。

1) 規模・主柱穴

長軸

長軸の計測が可能な竪穴建物は 274 棟がある。274 棟の長軸の平均値は 4.55m で、長軸の計測値によって示される竪穴建物の規模はその前後に正規分布を示す（第 89 図）。なお、長軸 3m から 6m の規模の竪穴建物が全体の約 8 割を占める。面積（長軸と短軸の計測値の積または長軸の 2 乗）の平均値は 21.0 m² で、最小が 3.4 m²（Ad 群 1495SI）、最大が 80.5 m²（Fb 群 3149SI）である。

主柱穴配置

主柱穴の有無の確認が可能な竪穴建物は 332 棟がある。主柱穴配置（「4 本」）を確認した竪穴建物は、やや不確実な 37 棟（11.1%）を含めて 119 棟（35.8%）で、残りの 213 棟（64.2%）は主柱穴が認められない（「0 本」）。

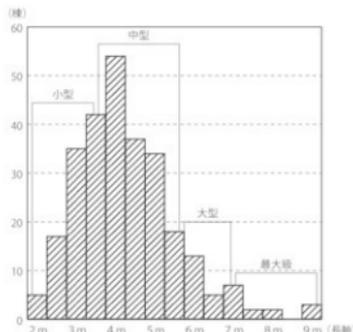
主柱穴配置と規模

主柱穴配置は規模と明確な相関が認められ、長軸 3.80 m 以下の竪穴建物 82 棟中の 80 棟（97.6%）に主柱穴は認められず、長軸 6.00 m 以上の竪穴建物 32 棟については、西向き斜面の Ae 群 1181SI（長軸 6.20 m）、Cc 群 1197SI（長軸 7.50 m）、Ca 群 1276SI（長軸 7.50 m）を除いた 29 棟のいずれにも主柱穴配置を確認した（第 34 表）。これにより、長軸 3.80 m 以下を小型の竪穴建物、長軸 6.00 m 以上を大型の竪穴建物、その中間を中型の竪穴建物として認識する。

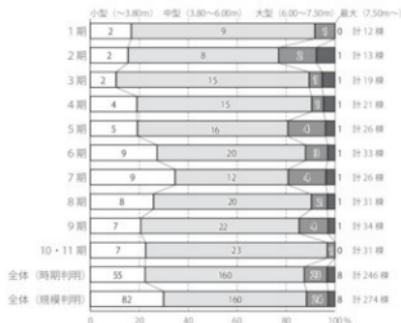
中型竪穴建物

長軸 3.80 m 以上、6.00 m 以下の中型の竪穴建物については、主柱穴配置が確認されるものと、確認されないものがほぼ同数を占める。中型の竪穴建物を規模によってさらに長軸 3.80 m 以上 4.80 m 以下の「中小型」、4.80 m 以上 6.00 m 以下の「中大型」に細分した結果、規模との一定の相関関係は認められるが、著しくは相違しない（第 34 表）。一方、竪穴建物の分布域と中型の竪穴建物の主柱穴配置の関係を示すと（第 35 表）、北東斜面と周辺地区の J 群・K 群・L 群はいずれも主柱穴配置が認められず、西斜面下段の A

分布域との相関



第89図 規模（長軸）の度数分布



第90図 竪穴建物の規模による構成と時期の相関

群は主柱穴配置が認められない堅穴 第34表 主柱穴配置と規模（長軸）の相関

建物が多い。一方、平坦面中央のF群（73.7%）、平坦面北緩斜面のE群（80.0%）は主柱穴配置が確認されるものが多い。つまり、主柱穴配置の有無は堅穴建物の立地とも相関することが確かめられる。

規模による堅穴建物の構成は、およそ小型が2割から3割、中型が6割から7割、大型が1割から2割で、各時期とも同様の構成で推移する（第90図）。ただ、7期（古墳時代前期初頭）は、小型と大型の比率がやや増加し、相対的に中型が少ない傾向を示す。

小型堅穴建物 主柱穴の有無（上

屋の構造）を考慮して認識した長軸3.80m以下の小型堅穴建物は規模が判明する274棟中に82棟（29.9%）がある（第91図）。最小の堅穴建物は長軸2.10m、短軸1.60mのAd群1495SIであるが、地床の有無は不明である。長軸2.15m、短軸2.15mのEc群3947SIは床面のほぼ全面を調査したが、地床は検出されなかった。一方で、長軸2.25m、短軸2.00mの4790SIは明確に地床が検出されている。相対して小型堅穴建物に地床が不明確なものが多いが、顕著な傾向としては難しい。

大型堅穴建物 前段の主柱穴の有無を考慮して、長軸6.00m以上の堅穴建物32棟を大型堅穴建物と認識したが、さらに、長軸7.50m以上（面積50㎡以上）、柱間4.0m以上の大型堅穴建物は8棟（Df群3261SI・3057SI、Ac群1455SI、Fa群3150SI、Ad群1464SI、Fc群3388SI、Fd群3145SI、Fb群3149SI）がある（第94図）。これらは主柱穴配置に加えて、全周する周溝等、一致する他の属性も多い。

Df群3261SIは2期、3261SIからの建て替え3057SIは3期、Ac群1455SIは4期、Fa群3150SIは4期または5期、Ad群1464SIは6期、Fc群3388SIは7期、Fd群3145SIは8期、Fb群3149SIは9期で、各時期における最大規模の堅穴建物に相当する。これらの大型堅穴建物は集落の中心的な施設として機能した可能性がある。また、平坦面西緩斜面のD群、西向き斜面下段のA群から丘陵頂部平坦面中央のF群に移動し、F群に配置が固定化する傾向も認められる。

最大規模の大型堅穴建物の平面形は後期（2・3期）の3261SI・3057SIは隅門長方形（長短比0.80前後）、終末期から前期初頭（4期から7期）の1455SI、3150SI、1464SI、3388SIは長方形または正方形（長短比0.90前後）、前期初頭から前期前半（8期から9期）の3145SI、3149SIは角張った正方形（長短比1.00前後）に変化する。

3149SIは各辺の周壁に壁柱穴をもつ壁立ち式の堅穴建物で、遺跡最大（長軸9.10m・短軸8.85m、柱間の長軸5.00m・同短軸4.90m）の大型堅穴建物である。一部の周壁

	0本	4本	合計		
全体	213	64.2%	119	35.8%	332
小型 (長軸3.80m以下)	80	97.6%	2	2.4%	82
中型 (長軸3.80~6.00m)	78	48.8%	82	51.3%	160
中小型 (長軸3.80~4.80m)	48	53.0%	41	46.1%	89
中大型 (長軸4.80~6.00m)	30	42.3%	41	57.7%	71
大型 (長軸6.00m以上)	3	9.4%	29	96.0%	32
最大型 (長軸7.50m以上)	0	0.0%	8	100.0%	8

第35表 主柱穴配置と分布域の相関（中型堅穴建物）

	0本	4本	合計		
A群 (西斜面下段)	15	65.2%	8	34.8%	23
B群 (北西斜面)	3	33.3%	6	66.7%	9
C群 (西斜面上段)	8	50.0%	8	50.0%	16
D群 (平坦面内緩斜面)	19	54.3%	16	45.7%	35
E群 (平坦面北緩斜面)	4	20.0%	16	80.0%	20
F群 (平坦面中央)	5	26.3%	14	73.7%	19
G群 (平坦面北東斜面)	6	60.0%	4	40.0%	10
H群 (平坦面南東斜面)	7	46.7%	8	53.3%	15
I群 (東斜面上段)	3	60.0%	2	40.0%	5
J・K・L群 (北東斜面・周辺地区)	8	100.0%	0	0.0%	8
合計	78	48.8%	82	51.3%	160

規模による構成

最小

地床炉の有無

最大級の堅穴建物

平面形の変化

壁立ち式堅穴建物

に壁柱穴と思われる小柱穴が検出された Gb 群 3409SI (5期)、Ha 群 3791SI・3380SI (8・9期)、Gb 群 3407SI (10期) も壁立ち式の竪穴建物の可能性がある。これらは 3149SI を含めて丘陵頂部の平坦面に分布し、各時期で最大、あるいはそれに次ぐ規模の竪穴建物として存在する。

2) 拡張・建て替え

類型区分

拡張・建て替えされた竪穴建物は 16 棟 (1 棟は 2 回の建て替え) がある。拡張・建て替えには、竪穴 (掘り込み) を拡張する事例、竪穴を拡張せず、床面のみが再構築される事例がある。また、拡張・建て替えに伴い主柱穴配置を拡張する事例と、主柱穴配置を固定したままの事例がある。これらの造作に従って、拡張・建て替えを以下の 4 類型に分類した (第 95 図)。

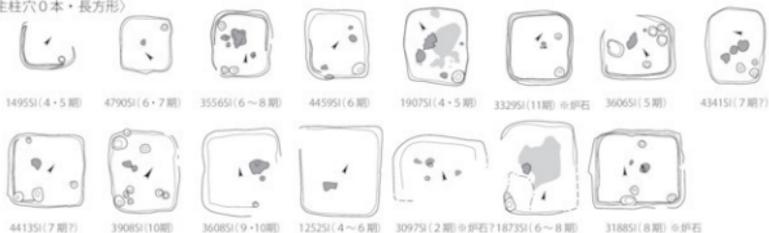
3308SI・3261SI
2077SI・1967SI

A 類型 竪穴と主柱穴配置を拡張し、床面を再構築する造作 (A 類型) として、Df 群 3308SI・3261SI (1・2期)、Ab 群 2077SI・1967SI (2・3期) の 2 例がある。なお、3261SI はさらに 3057SI への建て替えが認められる (後述の C 類型)。

1270SI 下面・上面
1930SI・1896SI
1732SI・1331SI

B 類型 主柱穴配置を固定したまま竪穴を拡張し (主柱穴が確認されない竪穴建物を含む)、床面を再構築する造作 (B 類型) としては、Ac 群 1270SI 下面・上面 (6・7期)、Ba 群 1930SI・1896SI (8・9期)、Cd 群 1732SI・1331SI (9・10期)、Ea 群

(主柱穴 0 本・長方形)



(主柱穴 0 本・方形)



(主柱穴 4 本・方形)



(主柱穴 0 本・地床护不明確)



0 6m

第91図 小型竪穴建物集成

(主柱穴0本・長方形)

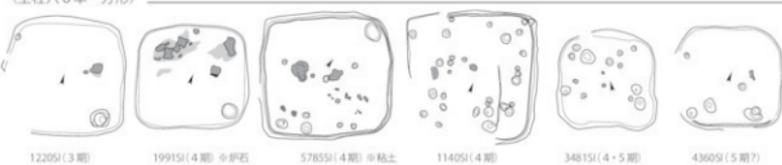
(3期)~(8期)



(8期)~(10期)



(主柱穴0本・方形)

後期~終末期
(3)~(5期)前期初頭~前期前半
(6)~(10期)

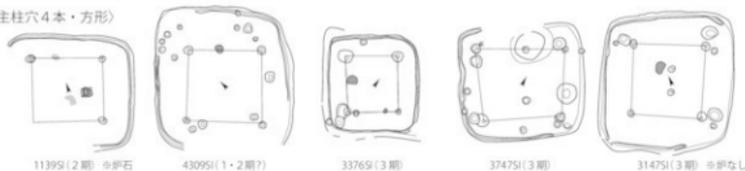
(主柱穴4本・長方形)

後期~前期初頭
(3)~(6期)前期初頭~前半
(7)~(10期)

第92図 中型穴建物集成 1

（主柱穴4本・方形）

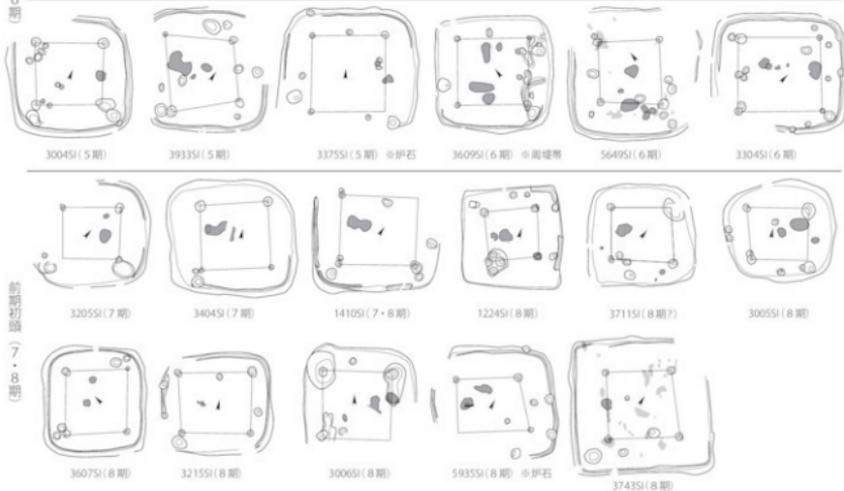
後期
2・3期



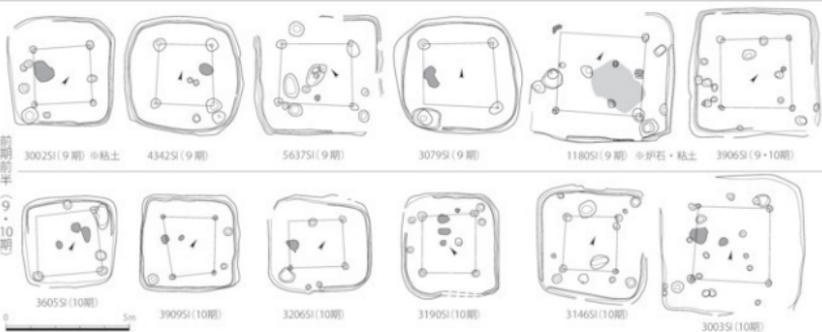
終末期
の初期段階
4・5・6期



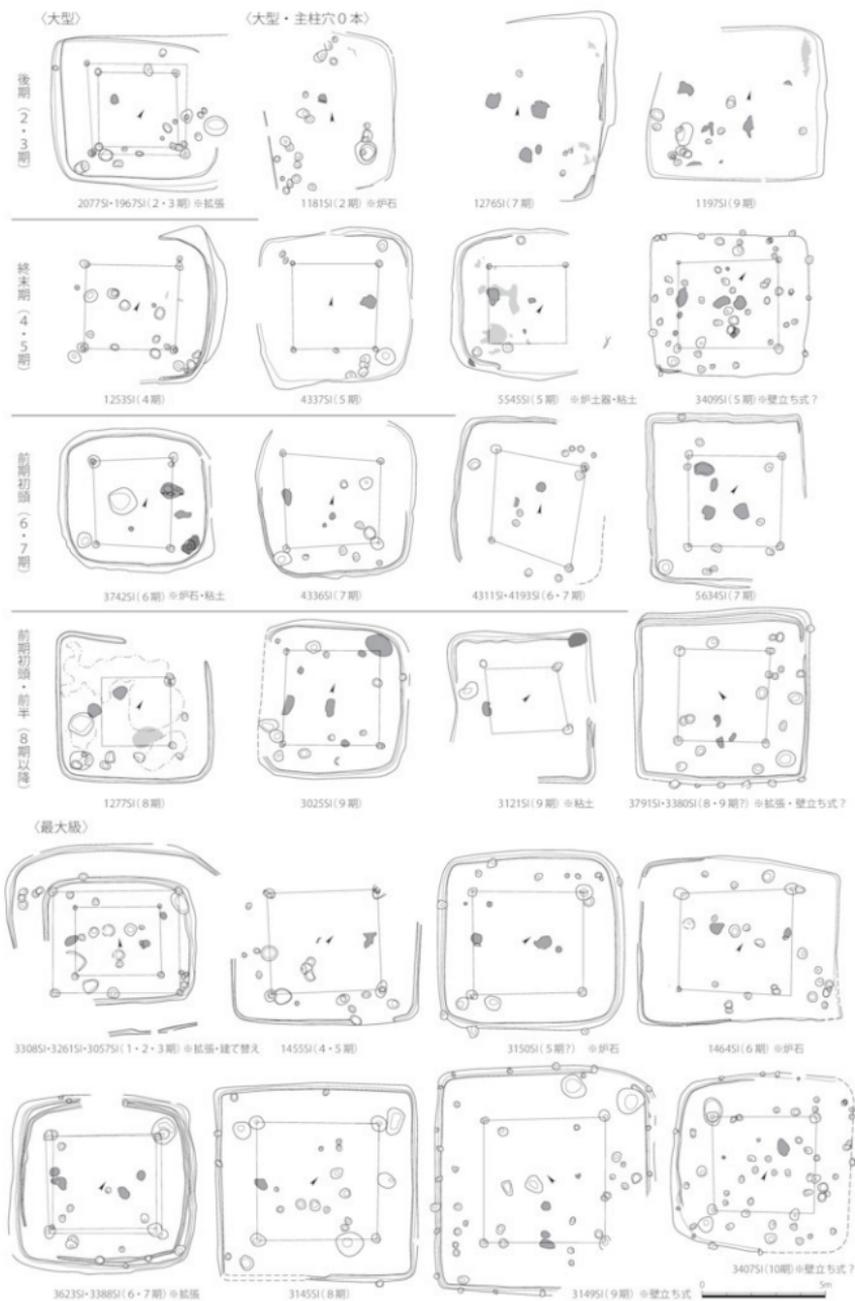
前期
の初期段階
7・8期



前期
の終期
9・10期



5m



第94図 大型竪穴建物集成

3897SI・3306SI 3897SI・3306SI (5・6期)、Ec群4174SI・
4174SI・4173SI (5・6期の可能性が高い)、Gc群
6054SI・3622SI (6・7期)の5例がある。

C類型 竪穴の平面形、主柱穴配置を変更せず
(主柱穴が確認されない竪穴建物を含む)、床面
のみを再構築する造作(C類型)としては、Ae
群1200SI下面・上面(3・4期)、Bc群1861SI
下面・上面(4・5期)、Cd群1196SI・1152SI
(6・7期)、Ce群3026SI下面・上面(後期・
終末期)、Fa群4311SI・4193SI(6・7期)の
6例に加えて、Df群3308SIを拡張した3261SIの
3057SIへの建て替え(2・3期)がある。やや
不明確であるが、Hc群5556SI・5546SI(1・2
期の可能性が高い)もこの類型に含まれる可能性
がある。

3623SI・3388SI D類型 床面は同一で、主柱穴配置と竪穴を拡張する造作(D類型)としては、Fc群
3623SI・3388SI(6・7期)の1例がある。

3791SI・3380SI E類型 床面は同一で、主柱穴を固定したまま竪穴を拡張する造作(E類型)としては、
Ha群3791SI・3380SI(8・9期?)の1例がある。

A類型は後期(1期から3期)の平面長方形の大型竪穴建物(A群・D群)中に、D類型とE類型は前期初頭から前期前半(6期から9期)の平面方形の大型竪穴建物(F群・H群)中に相関する。一方、B類型は終末期から前期前半(5期から10期)に、C類型は後期から前期初頭(1期から7期)の中・小型の竪穴建物に相関する傾向がある。

3) 掘方

掘方は部分的なものも含めて120棟程度(全体の約36%)に確認した。確認した掘方の形状、造作は以下の3類型に大別した(第96・97図)。

A類型 竪穴建物の床下の全面を掘り下げる。
10棟以上の竪穴建物に確認した。典型的な事例としてBd群1852SI(8期)がある。

B類型 竪穴建物の中央付近の床下を方形に掘り下げ、周壁沿いを段状に掘り残す。典型的な事例としてAa群1957SI(4期)、Ab群1991SI(4期)、Ec群4174SI(5期の可能性が高い)がある。また、いずれかの辺の周壁沿いを段状に掘り残すものもある(B'類型)。事例としては、Ea群3669SI(8期)等がある。

C類型 竪穴建物の周壁に沿って床下を溝状に掘り下げ、中央付近は台状に掘り残す。30棟から

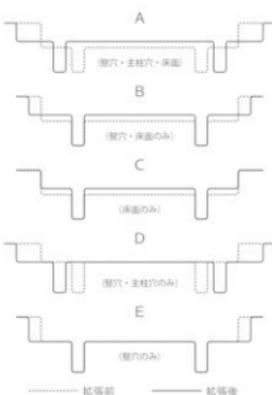
類型区分

1852SI

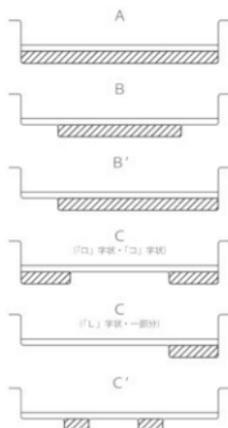
1957SI・1991SI

4174SI

3669SI



第95図 拡張・建て替え各類型模式図



第96図 掘方各類型模式図

40棟の竪穴建物に確認した。溝は平面「口」字状、「コ」字状、「L」字状に掘り下げるものに加えて、いずれか一边にのみ沿って、全体のまたは部分的に掘削するもの、隅付近のみを部分的に掘削するものがある。典型的な事例としてDc群3005SI（8期）、Dd群4342SI（9期）、Fa群3150SI（4・5期）、Ec群3906DI（9・10期）、Ea群3404SI（7期）がある。また、数は少ないが、竪穴建物の周壁沿いではなく、中央付近を溝状に掘り下げるものもある（C'類型）。事例としてはBd群1917SI（7期）がある。

3005SI・4342SI

3150SI・3906SI

3404SI

1917SI

他との相関関係

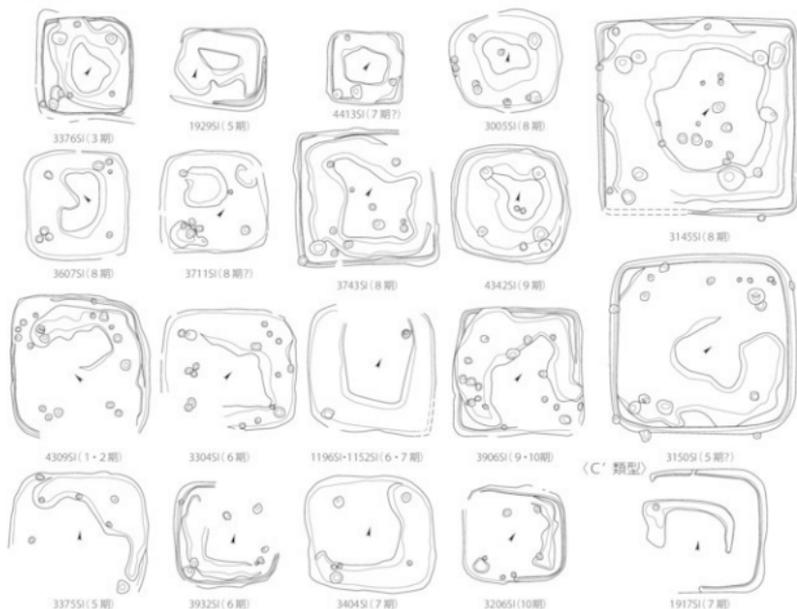
上記の掘方の類型と竪穴建物の規模や構造、分布域、時期との明確な相関関係は認められないが、竪穴建物の中央付近の床下を方形状に掘り下げ、周壁沿いを段状に掘り残すB類型のAa群1957SIとAb群1991SIは、竪穴建物の規模や平面形が類似する。両者は近在し、時期も4期と推定されることから、構築に同じ集団が関与した可能性も想定される。

<B類型>

<B'類型>



<C類型>



第97図 竪穴建物の掘方の諸例

4) 地床炉

検出状況

地床炉は257棟(94.8%)の竪穴建物で確認した(第98図)。床面のほぼ全面を精査したにもかかわらず、炉が検出されなかった竪穴建物は14棟(5.2%)で、竪穴建物の一定の埋没後に掘削された竪穴状の掘り込み(再掘削)の可能性があるBa群1931SI等を除くと、Ec群3947SI(長軸2.15m・短軸2.15m)等、小型竪穴建物が多い(他にAd群1295SI、Ec群3907SI、Fa群3186SI、Ha群3379SI、Ha群5808SI)。

礫を伴う地床炉

(置石・埋石炉)

地床炉に一石(または二石)の礫を置いた、あるいは埋めた炉(いわゆる「置石炉」、「埋石炉」)は21棟(7.7%)、(1期を除く)各時期に2棟前後を確認した(第36表)。礫ではなく土器を埋めた地床炉(Hc群5545SI)、粘土を埋めた地床炉(Aa群1957SI)もある。地床炉との関係の判断が難しい例(単に地床が付近で礫が検出された可能性がある例等)の10棟(3.7%)を含めたとしても、地床炉に礫を伴う比率は1割前後である。

設置方向と位置

後期は2期のAc群1181SI、Da群1139SIを典型として、礫は竪穴建物の長軸に対して直交方向に設置される。中期後葉の竪穴建物(第99図)からの連続性を示すものであろう。終末期以降は多くが竪穴建物の長軸に対して平行に設置される。位置についても、Da群1139SIが主柱穴間内、竪穴建物の中心からやや偏した中軸線上に設置される一方、



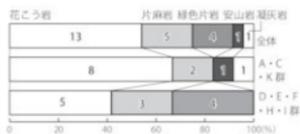
第98図 地床炉の検出状況



第99図 橋良遺跡SB11(中期後葉)

第36表 礫を伴う地床炉一覧

群	遺跡番号	時期	設置方向・位置	使用石材
11	Ab 1991SI	4期	長軸に平行	花こう岩
23	Ac 1454SI	8期	斜行	凝灰岩
31	Ad 1464SI	6期	長軸に平行・柱間直交	花こう岩
35	Ad 1329SI	7期	長軸に平行・柱間直交	花こう岩・安山岩
37	Ad 1330SI	6期	平行	花こう岩・片麻岩
48	Ae 1200SI下面	3期	平行	花こう岩
53	Ae 1181SI	2期	長軸に直交	花こう岩
84	Cb 1349SI	(8期)	平行	花こう岩
95	Cb 1180SI	9期	長軸に平行・柱間直交	片麻岩
118	Da 1139SI	2期	長軸に直交・柱内平行	緑色片岩
126	Da 3027SI	(6・7期)	長軸に平行・柱間直交	片麻岩
193	Eb 3375SI	5期	長軸に平行・柱間直交	花こう岩
213	Ec 3742SI	6期	長軸に平行・柱間直交	花こう岩・片麻岩
220	Fa 3188SI	8期	長軸に直交	花こう岩
224	Fa 3150SI	(4・5期)	長軸に平行・柱間直交	緑色片岩
280	Ha 4991SI	5期	長軸に平行・柱間平行	緑色片岩
285	Ha 5633SI	(4・5期)	長軸に平行	花こう岩
286	Ha 5633SI	10期	長軸に平行	片麻岩
289	Ha 3329SI	11期	長軸に直交	花こう岩
311	Ia 5035SI	8期	長軸に平行・柱間直交	緑色片岩
334	Kb 0016SI	3期	長軸に直交	花こう岩
301	Hc 5545SI	5期	長軸に平行・柱間直交	(土器)
8	Aa 1957SI	4期	平行・柱内直交	(粘土)



第100図 地床炉に伴う礫の石材の比率

第37表 礫を伴う地床炉と分布域の相関

	地床炉*	置石・埋石等	
A群(西斜面下段)	44	8	18.2%
B群(北西斜面)	17	0	0.0%
C群(西斜面中段)	30	2	6.7%
D群(平野面西傾斜面)	58	2	3.4%
E群(平野面北傾斜面)	24	2	8.3%
F群(平野面中央)	29	2	6.9%
G群(平野面北東斜面)	18	0	0.0%
H群(平野面南東斜面)	29	5	17.2%
I群(東斜面中段)	11	1	9.1%
J群(北東斜面)	8	0	0.0%
K群(東部丘陵)	2	1	50.0%
L群(南東部丘陵)	1	0	0.0%
全体	271	23	8.5%

終末期以降は多くが主柱穴間（またはその近辺）の直交する方向に設置される。

使用された礎の石材は13点の花こう岩（54.2%）が最も多く、以下、5点の片麻岩（20.8%）、4点の緑色片岩（16.7%）、1点の安山岩と凝灰岩（4.2%）がそれに続く。西向き斜面（A群・C群）は花こう岩が多くを占めるが、丘陵頂部の平坦面（D群・E群・F群・H群・I群）は花こう岩以外の石材が優勢である（第100図）。

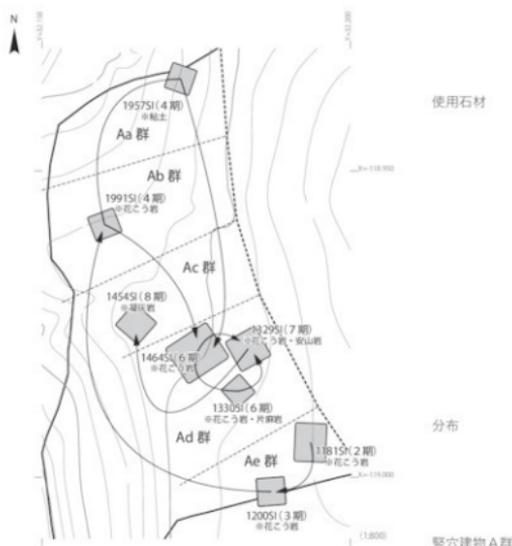
分布はA群が8棟（18.2%）、H群が5棟（17.2%）と多く、D群は2棟（3.4%）と少ない。B群、G群、J群は確認されない（第37表）。最も多いA群は2期のAe群1181SI（花こう岩）、3期のAe群1200SI下面（花こう岩）、4期のAb群1991SI（花こう岩）、Aa群1957SI（粘土）、6期のAd群1464SI（花こう岩）、Ad群1330SI（花こう岩・片麻岩）、7期のAd群1329SI（花こう岩・安山岩）、8期のAc群1454SI（凝灰岩）で礎を伴うことから、後期（2・3期）にAe群、終末期（4期）にAa・Ab群、前期初頭（6期から8期）にAc・Ad群に移動し、使用石材も変化することが確かめられる（第101図）。

5) 貯蔵穴

貯蔵穴（様の土坑）は118棟の竪穴建物で126基を確認した。（竪穴建物の「主軸」方向に対応して呼称した）設置位置は北隅（「N_J」）が3基（2.4%）、北東隅（「NE_J」）が4基（3.2%）、東隅（「E_J」）が22基（17.5%）、南東隅（「SE_J」）が27基（21.4%）、南隅（「S_J」）が42基（33.3%）、南西隅（「SW_J」）が25基（19.8%）、西隅（「N_J」）が2基（1.6%）、北西隅（「NW_J」）が1基（0.8%）で、南西方向から東方向を明確に志向する。北東隅の2基、北隅の1基、北西隅の1基は1棟の竪穴建物に複数が設置されたもので、北隅とした3145SIの3779SKは遺構の形状から貯蔵穴ではない可能性、1994SIの2169SKは1993SIに伴う可能性、1199SIの1256SKは、竪穴建物自体が斜面を加工した段の可能性がある。西隅とした1253SIの1769SK、4362SIの4551SKは南西方向に近いことから、原則として西方向から北方向には設置されなかったと考えられる。遺跡において竪穴建物の方向（あるいは入口）に一定の法則性があったことを示唆するものであろう。

遺跡文献

豊橋市教育委員会1994『橋良遺跡』豊橋市埋蔵文化財調査報告書第18集



第101図 竪穴建物A群における礎を伴う地床炉の動態
2期のAe群1200SI下面（花こう岩）、4期のAb群1991SI（花こう岩）、Aa群1957SI（粘土）、6期のAd群1464SI（花こう岩）、Ad群1330SI（花こう岩・片麻岩）、7期のAd群1329SI（花こう岩・安山岩）、8期のAc群1454SI（凝灰岩）で礎を伴うことから、後期（2・3期）にAe群、終末期（4期）にAa・Ab群、前期初頭（6期から8期）にAc・Ad群に移動し、使用石材も変化することが確かめられる（第101図）。

設置位置

方向と法則性

（9）弥生時代後期から古墳時代前期における集落の変遷

1) 竪穴建物棟数の推移

各時期の集計

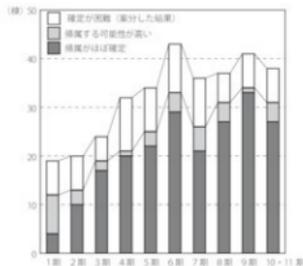
設定した時期区分に従って、拡張・建て替え等を含めた竪穴建物 336 棟（新城市教育委員会調査の 2 棟を含む）について、各時期の棟数を集計した（第 38 表）。出土土器や、竪穴の先後関係によって、時期をほぼ「確定」した竪穴建物は 210 棟、出土土器は少ないものの、先後関係、周囲の竪穴建物との位置関係から時期を「推定」した竪穴建物は 35 棟がある。一方、時期の確定が困難な竪穴建物は 80 棟、時期不明の竪穴建物は 11 棟がある。時期の確定が困難な竪穴建物については、帰属する可能性がある時期幅に応じて棟数を「案分」し、それを加算した棟数を各時期の「推定棟数」とした。

棟数の推移

各時期の竪穴建物を集計した結果、後期から終末期（1 期から 5 期）にやや高い増加率で棟数は増加し、前期初頭から前期前半（6 期から 10・11 期）は 40 棟前後（40±4 棟）で安定して推移することが示された（第 102 図）。先行する時期の竪穴建物の遺存状況、時期区分の前提としての土器編年の問題も考慮する必要があるが、傾向としては大過ないと思われる。

第 38 表 竪穴建物棟数の集計結果

	確定	推定	確定が困難	案分結果	推定棟数	増加率
1 期	4	8	25	7	19	-
2 期	10	3	25	7	20	5.3%
3 期	17	2	21	5	24	20.0%
4 期	20	1	36	11	32	33.3%
5 期	22	3	27	9	34	6.3%
6 期	29	4	29	10	39	14.7%
7 期	21	5	28	10	36	-7.7%
8 期	27	4	18	6	37	2.8%
9 期	33	1	16	7	41	10.8%
10・11 期	27	4	15	7	38	-7.3%
合計	210	35	240	79	324（平均 8.7%）	
不明	11	-	-	-	総計 335	



第 102 図 竪穴建物棟数の推移

2) 集落の変遷

弥生時代後期（1 期・2 期・3 期）—第 103 図

3308SI

後期は 1 期に構築されたやや大型の Df 群 3308SI が 2 期に最大級の 3261SI に拡張され、3 期にも同規模の 3057SI に立て替えられるように、平坦面西緩斜面を中心に集落が展開する。

3261SI

3057SI

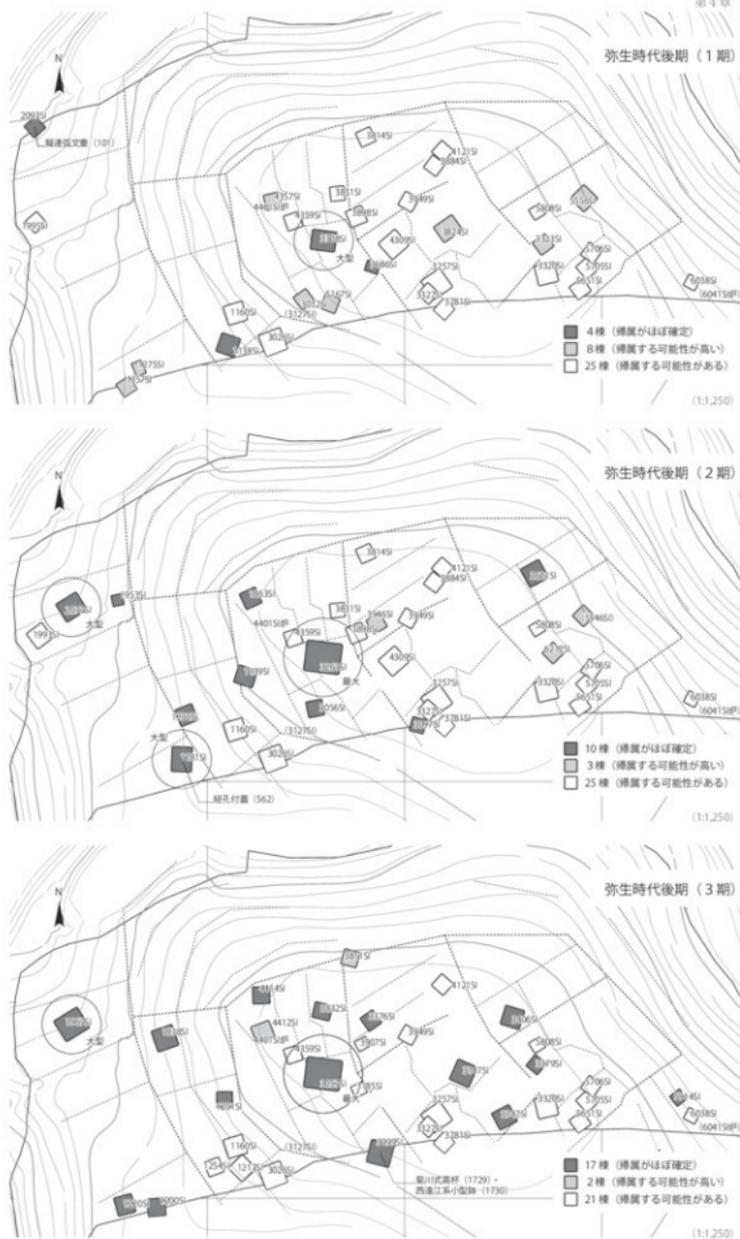
2093SI

丘陵縁辺の Aa 群 2093SI は体部にハケを連弧状に施した広口壺（101）の評価によっては、より以前に構築された可能性も考慮する必要がある。その他は、竪穴建物の著しい重複もあって、1 期の遺構・遺物は断片的なものが多いが、当初の遺跡は丘陵の南西向き

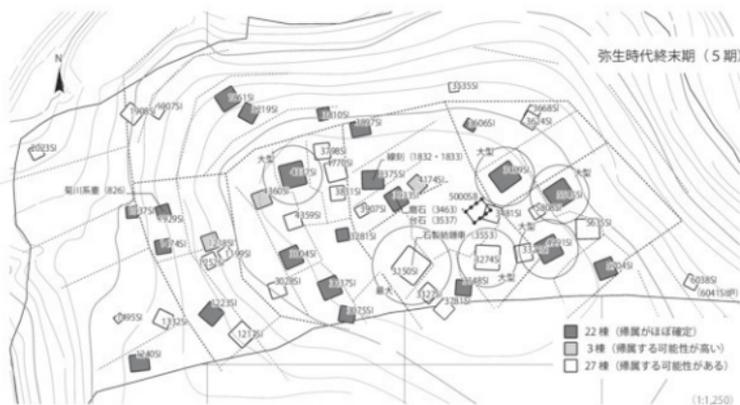
2077SI・1181SI

の緩斜面を中心とした比較的小規模な集落として形成されたと思われる。2 期は平坦面西緩斜面の大型竪穴建物 3261SI に加えて、西斜面下段にやや大型の Ab 群 2077SI、Ac 群 1181SI が構築され、Ab 群 2077SI は 3 期には 1967SI に拡張されるように、以後の丘陵平坦面と西斜面下段の大型竪穴建物をそれぞれ中心とした集落展開の方向性が顕在する。3 期は丘陵頂部の平坦面のほぼ全域から北東斜面まで集落が拡大し、4

K 群 0016SI



第103図 集落の変遷 (弥生時代後期)



第104図 集落の変遷（弥生時代終末期）

L群SI1（市）

期にかけて東部丘陵のK群（長頭貝津地区）から南部丘陵のL群（儀徳地区）の小規模な平坦面や緩斜面にまで竪穴建物が点在するようになる（Kb群0016SI・新城市教育委員会調査SI1）。4期以降に形成される南貝津遺跡も含めて、断上山の一带における集落の形成を3期から4期に想定することも可能であろう。3期のDg群3099SIに搬入された可能性が高い菊川式高杯（1729）と西遠江系小型鉢（1730）が共存することは、集落拡大の一つの背景を示唆するものであろう。

3099SI

弥生時代終末期（4・5期）—第104図

1455SI

1253SI

4期は西斜面下段の大型竪穴建物が3期のAb群1967SIからAc群1455SIに移動し、同時期最大級となる。西斜面下段から北西斜面の各群にも竪穴建物が分布し、西斜面上段にはやや大型のCb群1253SIが構築される。また、丘陵頂部平坦面の中心を起点として、南西向き緩斜面から北東斜面下段まで竪穴建物が列状に分布する傾向も読み取れる。

平坦面中央に分布する大型竪穴建物 Fa 群 3150SI は 4 期または 5 期と推定され、3150SI
群中の大型掘立柱建物 5000SB は 5 期以前と推測されるが、平坦面中央における 5 期に
5000SB
帰属する竪穴建物が Fb 群 3148SI 以外に抽出されないことから、両者は 5 期に帰属す
4337SI・3409SI
る可能性がより高いと思われる。この想定は周辺に分布するやや大型の竪穴建物 Dd 群
4337SI、(壁立ち式の可能性がある) Gb 群 3409SI、Ha 群 4991SI、Hc 群 5545SI、4
4991SI・5545SI
期または 5 期と推定される Fd 群 3274SI を含む平坦面中央を中心とした建物群の構成と
3274SI
も連関する。一方、西斜面下段における 5 期の大型竪穴建物は明確ではない。この時期ま
で竪穴建物は増加する傾向が継続し、それに伴って、平坦面中央を中心とした放射状、あ
るいは求心的な建物配置が志向、計画されたとも考えられる。

同時期の特徴的な遺物としては、4 期の Gc 群 5785SI に銅鏃 (3557)、Ic 群 6076SK 特微的な遺物
に線刻土器 (2824)、5 期の Ca 群 1929SI に菊川式 (系) の有段口緑壺 (826)、Eb 群
3375SI に線刻土器 (1832・1833) がある。
古墳時代前期初頭 (6 期・7 期・8 期) — 第 105 図

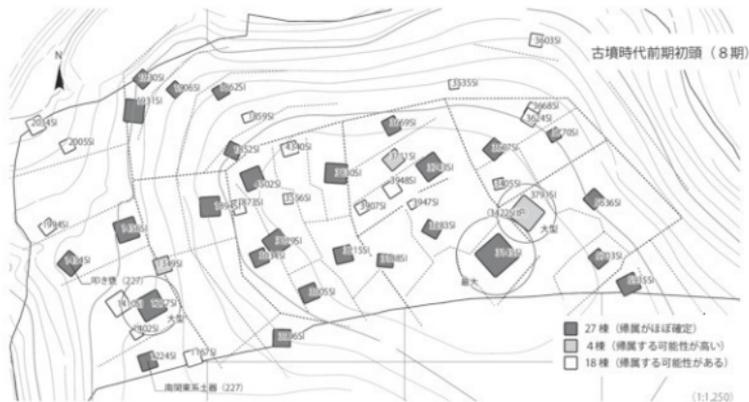
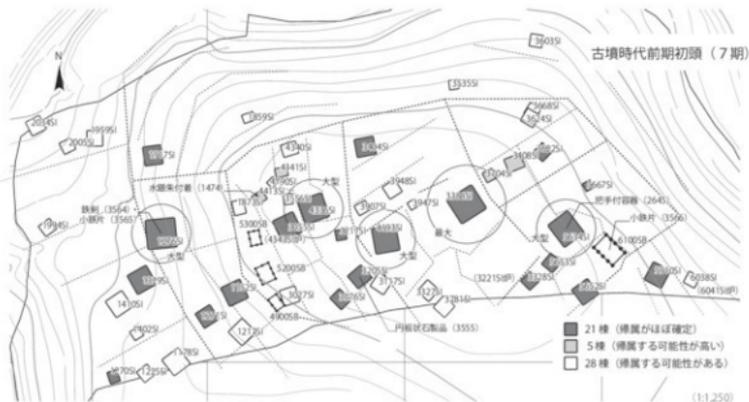
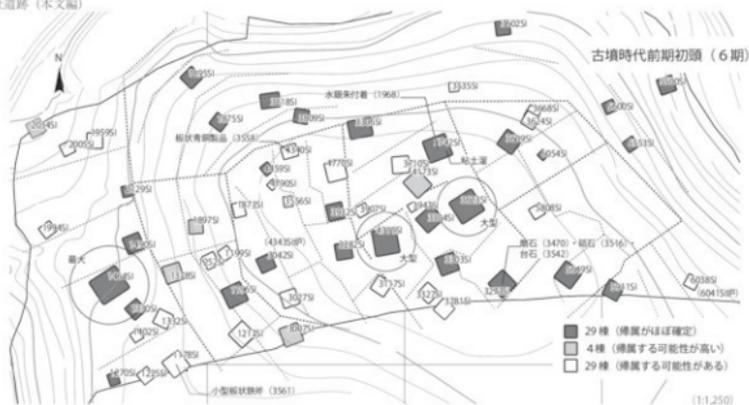
6 期には竪穴建物の棟数は最高の 40 棟前後にまで達したと推測され、それを示すよう
に竪穴建物の分布域も北西斜面、北東斜面の下段にまで拡大する。最大級の竪穴建物は 1464SI
西斜面下段の Ad 群 1464SI で、平坦面中央にはやや大型の竪穴建物として Fa 群 4311SI
4311SI・3263SI
と Fc 群 3623SI、その周辺には Ec 群 3742SI が分布する。7 期には Fa 群 4311SI が
3742SI
4193SI に建て替えられ、Fc 群 3623SI が 3388SI に拡張されたことは、平坦面中央に大
型竪穴建物の分布が固定化したことを示す。

7 期は拡張された Fc 群 3388SI が同時期の最大級で、隣接して立て替えられた Fa 群 3388SI
4193SI、周囲に Dd 群 4336SI、Ha 群 5634SI がやや大型の竪穴建物として分布する。西
4193SI・4336SI
斜面下段には Ca 群 1276SI が構築され、竪穴建物には鉄剣 (3564) と小鉄片 (3565) が伴っ
5634SI・1276SI
ていたことから、西斜面下段の中心的な建物として機能したことも推察される。

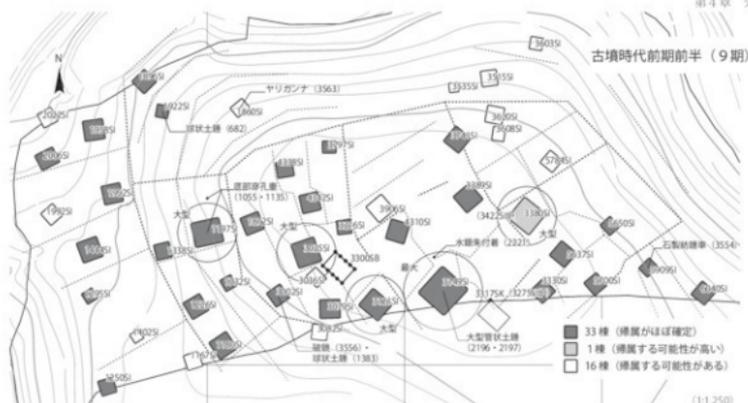
丘陵東縁には布掘り柱掘方をもつ大型掘立柱建物 6100SB が構築される。一方、丘陵
6100SB
西縁の Da 群は 7 期の竪穴建物が抽出されないことから、Da 群中に分布する掘立柱建物
掘立柱建物群
4900SB、5200SB、5300SB を同時期の構築として想定することも不可能ではない。これ
らの掘立柱建物については、その構造、立地から、倉庫としての機能を想定するのが妥当
であろう。とするなら、7 期に丘陵縁に倉庫 (群) が展開する集落景観を復原すること
も可能である。

8 期は平坦面中央に最大級の Fd 群 3145SI が構築され、やや近接するが、周辺のやや
3145SI・3791SI
大型の竪穴建物 Ha 群 3791SI も同時期または近い時期の構築を推定した。西斜面下
1277SI
段にはやや大型の Ad 群 1277SI が構築される。また 8 期を前後して、埋没過程の斜面
(1002SD) や竪穴建物 (Gc 群 5770SI、Ac 群 1454SI、Ac 群 1456SI、Dc 群 3005SI、
Fc 群 3283SI、Bb 群 1922SI 等) に大量の礫、土器が廃棄される。
礫、土器の廃棄

6 期は Ae 群 1178SI に小型の板状鉄斧 (3561)、Ec 群 3742SI に水銀朱付着土器 特微的な遺物
(1968)、7 期は Ca 群 1276SI に鉄剣 (3564) と小鉄片 (3565)、6100SB に小鉄片また
はヤリガンナ (3566) が伴う。Db 群出土の水銀朱付着土器 (1474) は確実ではないが、
7 期と推定される 4413SI に伴っていた可能性がある。前後する時期と推定される Dd 群
4340SI に銅鐸や銅鏃と原料を同じくする (あるいは銅鐸破片の可能性もある) 板状青銅



第105図 集落の変遷（古墳時代前期初頭）



第106図 集落の変遷（古墳時代前期前半）

製品（3558）が伴うこと、後続する前期前半にも水銀朱付着土器と鉄製品の出土が継続することからも、この時期、象徴的な財の入手に大きな変化が生じている可能性がある。

8期のAc群1454SIに伴う叩き甕（227）、Ae群1224SIに伴う南関東系の（複合口縁）加飾広口壺（562）はこれらの財の広域流通、あるいは布掘り柱掘方をもつ掘立柱建物の移入に一定の示唆を与えるものであろう。

古墳時代前期前半（9・10期）—第106図

壁立ち式のFb群3149SIが遺跡最大の堅穴建物として構築される。周辺にはやや大型の堅穴建物として、Db群3025SI、Dg群3121SIが分布し、Ha群3380SIも同時期の可能性が高い。西斜面中段にはやや大型の堅穴建物Cc群1197SIが分布する。

Df群中の布掘り柱掘方をもつ大型掘立柱建物3300SBは8期の3215SIに後出し、10期の3206SIに近接することから、9・10期間に存続したと理解されるが、前記のDb群

1454SI・1224SI

3149SI

3025SI・3121SI

3380SI・1197SI

3300SB

	3025SIとも比較的近接することからも、短期間の存続を想定しない限り、時期の確定は難しい。なお、3300SBの方位（N-48°-E）が壁立ち式の大形堅穴建物Fb群3149SIの方位（N-42.5°-W）とほぼ一致することは、両者の同時期または近接した時期の構築であることの傍証となる。また、3149SIの付近の土坑土坑3317SKは大型掘立柱建物の柱穴の可能性がある。
3317SK	
3002SI	破鏡（3556）が伴うDa群3002SIも同時期と推定される焼失堅穴建物で、大型建物にかかる集団の主宰による儀礼の可能性もある。その他の中小の堅穴建物は丘陵の西縁から斜面の各段に放射状に比較的整然と配置される。前段階に顕著に認められた土器廃棄も、建物配置の更新に伴う造成、整地に関係する可能性がある。
1197SI	その他、大型堅穴建物1197SI上層の覆土中と周辺の包含層中（1002SD土器群）から焼成前底部穿孔壺（1055・1135）が出土している。古墳の築造との関係が注意される。
0121SI	10・11期は遺構の重複関係から10期に後出する時期として11期を見込んでいることから、一時期の建物の棟数はより少ないと思われる。9期には東部丘陵にKa群0121SIが分布するが、10期には分布域も縮小し、斜面の近辺にはほとんど遺構が分布しなくなる。
3047SI	最大級の堅穴建物は抽出されず、同時期最大の堅穴建物として、（壁立ち式の可能性がある）Gb群3407SIが平坦面中央の周辺に分布する。丘陵東縁の布掘り柱壺方をもつ大型掘立柱建物6000SBは建物の先後関係や位置関係から10期と推定したが、時期の確定はやはり難しい。
6000SB	
特徴的な遺物	前期初頭と同様、水銀朱付着土器（1653・1654）がDe群3931SI、ヤリガンナ（3563）がBc群1860SI、大型の板状鉄斧（3562）がHa群3378SIに伴う。破鏡（3556）も含めてこれらは平坦面中央周辺に分布する中小の堅穴建物に伴う傾向がある。遺構には伴わないが、壁立ち式の大形堅穴建物Fb群3149SIの周辺で出土した水銀朱付着土器（2221）も前期初頭から前期前半の所産と推定される。
生産用具	その他、壁立ち式の大形堅穴建物3149SI出土の大形管状土鍾（2196・2197）に加えて、周辺の中小の堅穴建物に球状土鍾（Bb群1922SIに682、破鏡が伴うDa群3002SIに1383、Db群4362SIに1432、Fa群3190SIに2154）、石製紡錘車（Ib群5909SIに3554、Da群3003SIに3552）といった生産用具が伴う傾向も同時に認められる。ただし、3149SI出土の大形管状土鍾（2197の長さ9.8cm・径4.5～5.1cm、2196の残存長5.7cm・径4.7cm）については、天理市布留遺跡の石列と埴輪によって区画された祭祀遺構に「筒形土製品」（長さ9.5cm・径4.0cm、長さ7.8cm・径3.4cm）が伴うこと、小山市寺野東遺跡の大形堅穴建物（長軸8.0m、短軸7.5mのSI033、遺跡最大、長軸9.1m、短軸8.1mのSI518）に同様の大型管状土鍾（長さ6.6cm・径3.8cm、長さ5.9cm・径4.2cm）が伴うことも想起される（寺野東遺跡では他の遺構内外からも大型管状土鍾、球状土鍾が多数出土している）。今後、同時期の関連遺跡における類例の精査が必要である。
大型管状土鍾	
布留遺跡	
寺野東遺跡	
	遺跡文献 寺野東遺跡：栃木県教育委員会・小山市教育委員会・財団法人栃木県文化振興事業団1997『寺野東遺跡VI（古墳時代集落編）』栃木県埋蔵文化財調査報告第201集 布留遺跡：天理大学附属天理参考館1989『布留遺跡出土の埴輪』天理大学出版会／天理大学附属天理参考館1989『大布留遺跡展—物部氏の拠点集落を掘る—』（学）天理大学出版部

(10) 弥生時代後期から古墳時代前期の特徴的な遺構と遺物

1) 集落出土の破鏡(中国鏡)

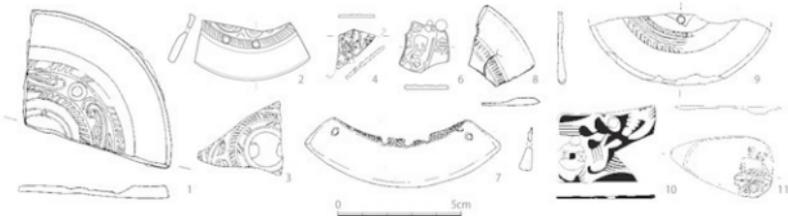
破鏡(3556)は前期前半(9期)に帰属する竪穴建物3002SIから出土した。詳細な出土状況は不明であるが、竪穴建物は長軸4.35m、短軸4.20mの規模で、焼失竪穴建物である。破鏡は漢鏡5期(岡村1993)に帰属する方格規矩四神鏡を原鏡とする。

東日本における集落出土の中国鏡の破鏡(第39表・第107図)としては、漢鏡4期(岡村1984)に帰属する名古屋市長高遺跡の魍龍文鏡(1)、清須市朝日遺跡の魍龍文鏡(2)、羽咋市古崎・次場遺跡の魍龍文鏡(3)、漢鏡5期に帰属する関市砂行遺跡の方格規矩四神鏡(4)、同大杉遺跡の内行花文鏡、南アルプス市長出口遺跡の内行花文鏡(7)、逗子市池子遺跡群の内行花文鏡(8)、山形市馬洗場B遺跡の内行花文鏡(9)、漢鏡6期前半に帰属する金沢市無量寺B遺跡の双頭龍文鏡(10)がある。これらに加えて、遼東半島から朝鮮半島の破鏡(再加工品)として、佐久市社宮司遺跡の多組無文鏡(11)がある。これらは漢鏡4期に北部九州で創出された破鏡(の儀礼)が北陸地方や東海地方西部に及び、それに続いて漢鏡5期には破鏡がさらに東方に拡散する過程を示す(岡村1999)。

砂行遺跡は丘陵斜面に立地する集落で、破鏡は長軸7.40m、短軸5.65m以上の大型竪穴建物(焼失建物)の床面から出土した。破鏡は方格規矩四神鏡V A式の内区の銘帯と四神の部分で、焼失竪穴建物における出土状況、鏡式が石座神社遺跡の破鏡に類似する。ただし、竪穴建物の時期はII-4期(廻間I式2・3段階、石座神社遺跡5期に併行)で、9期の石座神社遺跡とは異なる。池子遺跡群の破鏡は一辺5.0mの竪穴建物の覆土上層において大量の土器と鉄鍔2点(1点は短茎五角形式)、篋被付柳葉式銅鍔1点、有頭石鍔1点を伴って出土している。共存する土器は古墳時代前期後半に対応する。

第39表 東日本における集落出土の破鏡(舶載鏡)一覧

遺跡名	所在	遺構	鏡種	文献	
1 高蔵遺跡	愛知県名古屋市	第34次土坑SK44	魍龍文鏡	漢鏡4期	名古屋市教育委員会2003
2 朝日遺跡	愛知県清須市	99A区土坑SK01	魍龍文鏡	漢鏡4期	愛知県埋蔵文化財センター2007
3 古崎・次場遺跡	石川県羽咋市	V-8号土坑上面	魍龍文鏡	漢鏡4期	石川県埋蔵文化財センター1988
4 砂行遺跡	岐阜県関市	竪穴建物SBE01	方格規矩四神鏡	漢鏡5期	岐阜県文化財保護センター2000
5 大杉遺跡	岐阜県関市	竪穴建物覆土上層	内行花文鏡	漢鏡5期	
6 石座神社遺跡	愛知県新城市	竪穴建物3002SI	方格規矩四神鏡	漢鏡5期	愛知県埋蔵文化財センター2015
7 長田口遺跡	山梨県南アルプス市	5号溝状遺構(近世)	内行花文鏡	漢鏡5期	山梨県教育委員会1993
8 池子遺跡群	神奈川県逗子市	第2号竪穴住居址	内行花文鏡	漢鏡5期	神奈川県埋蔵文化財センター1994
9 馬洗場B遺跡	山形県山形市	竪穴建物覆土	内行花文鏡	漢鏡5期	高蔵2003
10 無量寺B遺跡	石川県金沢市	第3次B1区1号溝	双頭龍文鏡	漢鏡6期前半	金沢市教育委員会1986
11 社宮司遺跡	長野県佐久市	土器内に埋納	多組無文鏡	遼東・朝鮮半島	橋田2012・小林2013



第107図 東日本における集落出土の破鏡(中国鏡)一覧

出土破鏡の概要

漢鏡4期

漢鏡5期

漢鏡6期

多組無文鏡

砂行遺跡

池子遺跡群

大杉遺跡	また、大杉遺跡は竪穴建物の覆土上層からの出土で、遺跡では「田」字形の総柱建物が検出されている。
馬洗場B遺跡	馬洗場B遺跡の破鏡は竪穴建物の覆土中からの出土で、近隣の長衣遺跡
長田口遺跡	では近接棟持柱建物が検出されている(植松2004)。長田口遺跡の破鏡は後世の遺構に混入して出土したが、遺跡では弥生時代後期後半から古墳時代初頭の長軸12.0m、短軸8.0mの大型竪穴建物を含めて、長軸8m以上の大型竪穴建物が7棟(全体の30.4%)
特徴的な建物	検出されている。石座神社遺跡を含めたこれらの事例は漢鏡5期における破鏡の東方への拡散と特徴的な建物、大型建物を含む集落構成が相関していた可能性を示す。

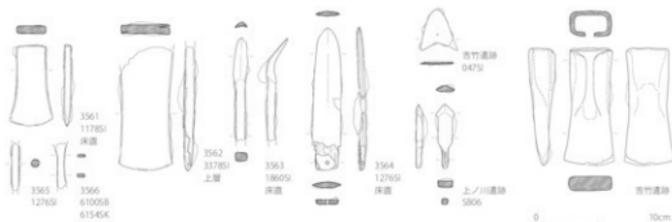
2) 鉄製品

器種	鉄製品は古墳時代前期初頭から前期前半(6期から10期)の遺構から、小型の板状鉄斧(3561)、大型の板状鉄斧(3562)、ヤリガンナ(3563)、鉄剣(3564)、小鉄片(3565・3566)が出土した。同時期の集落遺跡出土の鉄製品としては器種、数量が比較的多い点は特筆される。近隣の古竹遺跡における無茎三角形の鉄鏃と袋状鉄斧、上ノ川遺跡における定角式鉄鏃の出土(第108図)も含め、小地域における鉄製品の流通・消費形態の具体相を示す資料体として一定の評価も可能である。
----	---

古竹遺跡	古竹遺跡の鉄鏃は竪穴建物047SI出土で、弥生時代後期(石座神社遺跡3期)に帰属する。鏃身が1.5mmとかなり薄く、他のほとんどの無茎鉄鏃と同様に鋸切りによる切断のみで製作されていることを示す(村上1998)。対して、石座神社遺跡の断面円形、薄板状の小鉄片が鍛打による鉄器製作の素材、半製品または製作切片である可能性を想定するなら(松木1999)、弥生時代後期から古墳時代前期初頭にかけて、鋸切りによる切断を主体とする技術体系から、鍛打による整形を取り入れた技術体系に推移したことを類推することも可能となる。さらに、古墳時代前期前半(9期)に帰属する上ノ川遺跡の定角式鉄鏃はより高度な製作技術を必要とする立体的な造形で、同時期、列島の広域に分布する。
------	---

鉄剣の分布	鉄剣は伊勢湾沿岸において分布が希薄とされる一方で(豊島2005)、東遠江地域においては森町文殊堂遺跡MC群土坑墓M SF23・M I群土坑墓M SF70・M O群遺構外、磐田市梵天遺跡H地点墓・I地点墓、同竹之内原1号墓における出土が知られている。なお、文殊堂遺跡MC群土坑墓の鉄剣は鹿角製把を装着する鉄剣の西限を示す。
-------	--

集落出土の鉄剣	石座神社遺跡は菊川式を含む遠江系土器が比較的多く抽出されること、伊勢湾沿岸に鉄剣が希薄であることから、出土した鉄剣は、東遠江地域との関連も類推されるが、鉄剣の出土状況は大きく異なる。また、鹿角製把の分布域に含まれないことも注意される。一方、
---------	--



第108図 石座神社遺跡・周辺遺跡出土鉄製品

北部九州周辺地域以外の集落における鉄剣の出土例は、北陸地方の遺跡（金沢市塚崎遺跡、同西念・南新保遺跡、同岩出うわの遺跡）が知られる程度で、同地方においては「終末期」に墳墓に副葬される武器の主体が素環頭刀剣に置換することに伴い、集落における鉄剣の出土が顕在することが指摘されている（佐々木・林 2001）。

これに関連して想起されるのが豊橋市浪ノ上1号墳と副葬された素環頭鉄剣である。舶載素環頭鉄刀の再加工品である素環頭鉄剣は、永平寺町乃木山古墳、福井市塚越古墳に副葬された例が知られる程度で、特徴的な墳丘と副葬品には共通する要素が多い。

いずれにせよ、石座神社遺跡周辺における鉄製品の出土によって、当地域における鉄器製作の技術的展開、広域流通、集落と墳墓における取り扱いの意味等を考察する多くの端緒が与えられたことは特筆に値する。

3) 大型建物（壁立ち式大型堅穴建物と布掘り柱掘方をもつ大型掘立柱建物）

豊川流域における弥生時代後期から古墳時代前期の最大の堅穴建物は前通遺跡 SH8 で長軸 9.3m、短軸 8.8m を計測する（第 109 図）。長軸 9.10 m、短軸 8.85m を計測する石座神社遺跡 3149SI は同等の規模（柱間は前者が 5.8 m、後者が長軸 5.00m、短軸 4.90m で前者が大きい）で、各隅が角張った（丸みがない）正方形の平面形も類似する。前通遺跡 SH 8 は終末期（石座神社遺跡 4 期）に対応し、終末期以降、石座神社遺跡に出現する平面正方形の大型堅穴建物の消長とも関連する。

3149SI は周壁に壁柱穴をもつ壁立ち式の堅穴建物で、遺跡では他に壁立ち式の可能性のある堅穴建物として、3409SI（5 期）、3791SI・3380SI（8・9 期の可能性が高い）、3407SI（10 期）がある。壁立ち式の堅穴建物は、石座神社遺跡と同一丘陵上に立地する南貝津遺跡で 1 棟（SB10）、豊川流域においては浪ノ上遺跡で 2 棟（C 区 SB16・B 区 SB3）が確認されている（第 109 図）。南貝津遺跡 SB10 は長軸 5.2m、短軸 4.7m で 7 期に対応する。浪ノ上遺跡 C 区 SB16 は長軸 4.8m、短軸 4.6m、B 区 SB3 は長軸 4.7m、短軸 4.6m でいずれも 8 期に対応する。石座神社遺跡 3149SI と異なり、これらの堅穴建物の規模はいずれも中型の堅穴建物に対応する。

また、壁立ち式の堅穴建物は、西三河地域で比較的多く確認されている（豊田市高橋遺跡で 8 棟、同南山畑遺跡で 2 棟、同橋原遺跡で 1 棟、第 109 図）。いずれも長軸 6～8 m

浪ノ上1号墳

大型堅穴建物

前通遺跡

壁立ち式堅穴建物

南貝津遺跡

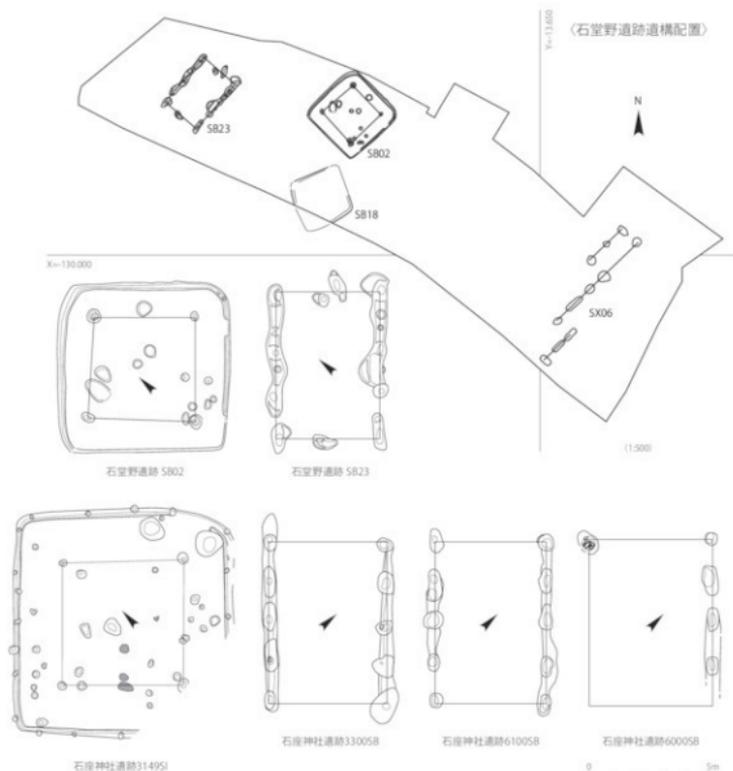
浪ノ上遺跡

西三河地域

高橋遺跡



第109図 三河地域の大型堅穴建物と壁立ち式堅穴建物



第110図 石堂野遺跡と石座神社遺跡の大型建物

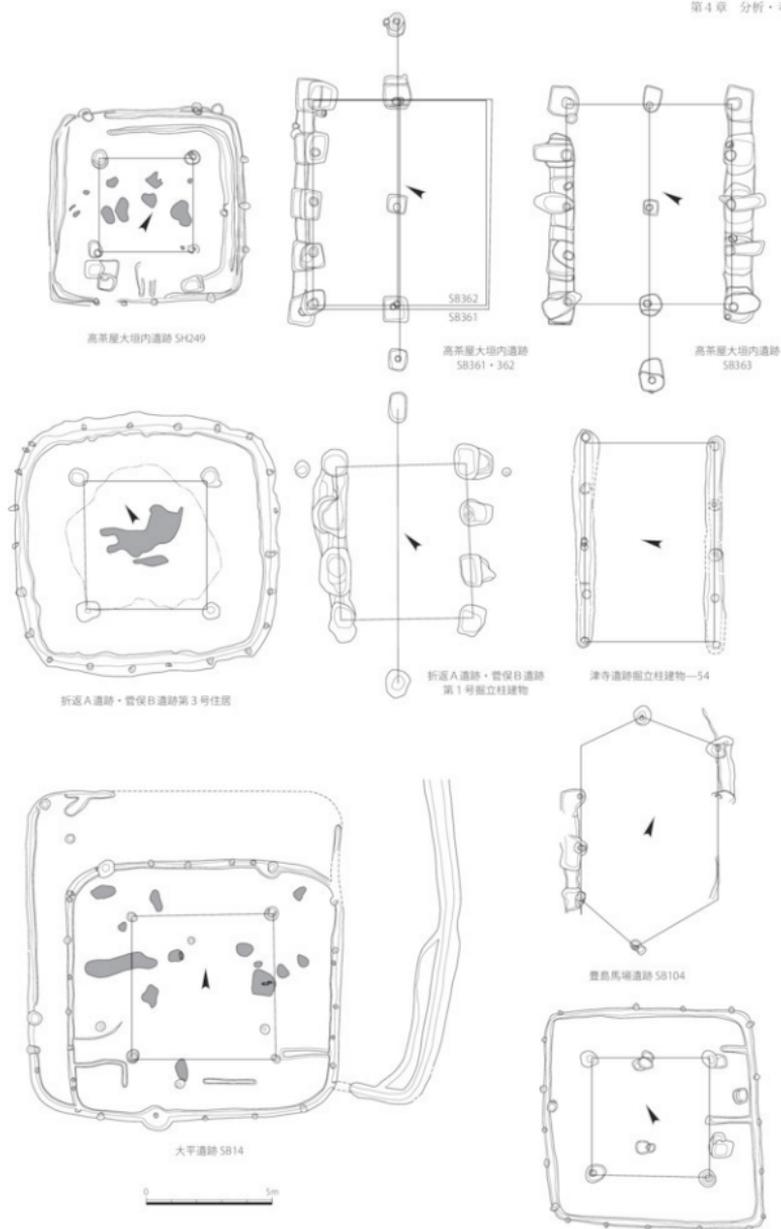
の大型堅穴建物で、後期から終末期の例が多いが、高橋遺跡では古墳時代中期、奈良時代の例も知られている。

布掘り柱掘方をもつ
大型掘立柱建物

前述の壁立ち式の大型堅穴建物に加えて、布掘り柱掘方をもつ大型掘立柱建物として、3300SB、6100SB、6000SBの3棟を確認した。前節において示したように、3300SBは9期（から10期）に構築されたことが推測され、壁立ち式の大型堅穴建物3149SIと同時に併存した可能性がある（第110図）。

布掘り柱掘方をもつ
大型掘立柱建物と
壁立ち式の
大型堅穴建物

布掘り柱掘方をもつ大型掘立柱建物と前述の壁立ち式の大型堅穴建物によって集落の中心施設が構成される遺跡の例として津市高茶屋大垣内遺跡、いわき市折返A遺跡・菅保B遺跡がある（第111図）。これらの遺跡においては柵列や板塀等による方形の区画施設も確認されている。また、方形区画に布掘り柱掘方をもつ大型掘立柱建物が伴う例として岡山市津寺遺跡、東京都北区豊島馬場遺跡等、方形区画に壁立ち式の大型堅穴建物が伴う例



第111図 「方形区画」に伴う大型建物

石堂野遺跡 として浜松市大平遺跡、矢板市堀越遺跡等がある(第111図)。なお、豊川市石堂野遺跡は前期初頭(7・8期)に対応する長軸7.0m、短軸6.9mの大型竪穴建物SB02(方位N-46°-W)と、桁行4間(または3間)・6.0m、梁行1間(または2間)・4.2mの布振り柱掘方をもつ大型掘立柱建物SB23(方位N-49°-W)、柱穴列SX06(方位N-46°-W)による類似した構成を示す可能性がある(第110図)。これらの例から、布振り柱掘方をもつ大型掘立柱建物、(壁立ち式の)大型竪穴建物の両者、またはいずれかが集落の中心施設を構成し、それらに方形区画を伴うことも多いことが知られるが、石座神社遺跡は大型建物を区画する施設を認めることが難しい。

布振り柱掘方をもつ大型掘立柱建物3300SB(・6100SB・6000SB)の規模と構造は、折返A遺跡・菅俣B遺跡の棟持柱をもつ第1号掘立柱建物、津寺遺跡掘立柱建物-54、石堂野遺跡SB23に類似する(第110・111図)。折返A遺跡・菅俣B遺跡第1号掘立柱建物は、桁行3間・6.2m、梁行1間・5.2mで規模が近似し、梁間の柱間が広い点が3300SBと類似するが、側柱の妻側外に棟持柱を有する点が異なる。石堂野遺跡SB23の両妻側の柱穴も検出された位置から、棟持柱の可能性はある。津寺遺跡掘立柱建物-54は、桁行4間・8.1m、梁間1間・5.2mで同じく規模が近似し、梁間の柱間が広く棟持柱の有無が明瞭でない点が3300SBに類似する。

高茶屋大垣内遺跡 高茶屋大垣内遺跡の布振り柱掘方をもつ大型掘立柱建物SB361・SB362・SB363は、梁間が2間(以上)で、片側にのみ独立棟持柱を伴う点が異なる。規模もSB361が桁行4間・8.2m、梁行2間以上・5.4m以上、SB362が桁行4間・8.3m、梁行2間・5m以上、SB363が桁行4間・8m、梁行2間・6.6mで、石座神社遺跡3300SB等と比較してより長大である。

折返A遺跡・菅俣B遺跡 壁立ち式の大型竪穴建物として例示した折返A遺跡・菅俣B遺跡の第3号住居は一辺10.5mの大型竪穴建物、高茶屋大垣内遺跡SH249は、遺跡最大、一辺7.5mの大型竪穴建物、大平遺跡SB14Bは長軸13.2m、短軸12.4mの大型竪穴建物SB14Aが立て替えにより長軸10.8m、短軸10.4mに縮小したもので、堀越遺跡大型建物は長軸8.8m、短軸8.6mの規模である(第111図)。いずれも各遺跡における最大級の規模の建物で、中心施設を構成する建物として明確であることが特徴である。

参考文献

- 植松松彦2004「長表遺跡の古墳時代前期の棟持柱建物跡について」『研究紀要』第2号 山形県埋蔵文化財センター
- 岡村秀典1984「前漢境の福年と様式」『史林』第67巻第5号 史学研究会
- 岡村秀典1993「後漢鏡の福年」『国立歴史民俗博物館研究報告』第55集 国立歴史民俗博物館
- 岡村秀典1999「三角縁神獣鏡の時代」吉川弘文館
- 岡村秀典2011「青谷上寺地遺跡出土の漢鏡」『青谷上寺地遺跡出土品調査研究報告6 金属器』鳥取県埋蔵文化財センター調査報告39 鳥取県埋蔵文化財センター
- 佐々木勝・林大智2001「北陸南西部地域における弥生時代の鉄製品」『補遺編』石川県考古資料調査・集成事業報告書 石川考古学研究会
- 豊島直博2005「弥生時代の鉄製刀剣」独立行政法人文化財研究所奈良文化財研究所
- 松木武彦1990「岡山地域における弥生時代鉄鏡の展開」『古代吉備』第21集 古代吉備研究会
- 村上恭通1998『倭人と鉄の考古学』青木書店

遺跡文献

- 朝日遺跡：財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団愛知県埋蔵文化財センター2007『朝日遺跡VII』愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第138集
- 池子遺跡群：神奈川県立埋蔵文化財センター1994『池子遺跡群I』神奈川県立埋蔵文化財センター調査報告27
- 石堂野遺跡：財団法人愛知県埋蔵文化財センター1987『石堂野遺跡』財団法人愛知県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第1集
- 岩出うわの遺跡：佐々木勝・林大智2001『北陸南西部地域における弥生時代の鉄製品』『補遺編』石川県考古資料調査・集成事業報告書 石川考古学研究会
- 上ノ川遺跡：新城市教育委員会1999『上ノ川遺跡発掘調査報告書』新城市埋蔵文化財調査報告書17
- 馬洗場B遺跡：高橋敏2003『最北の破鏡一鏡片分布から見た古墳出現期の動態（予察）』『研究紀要』創刊号 山形県埋蔵文化財センター
- 大平遺跡：財団法人浜松市文化協会1992『佐鳴湖西岸遺跡群』
- 長田口遺跡：山梨県教育委員会1993『長田口遺跡』山梨県埋蔵文化財センター調査報告書第82集
- 折返A遺跡・菅保B遺跡：いわき市教育委員会・財団法人いわき市教育文化事業団2003『折返A遺跡・菅保B遺跡』いわき市埋蔵文化財調査報告第95冊
- 西念・南新保遺跡：金沢市教育委員会1989『金沢市西念・南新保遺跡II』
- 社宮遺跡：柳田康博2012『銅鏡』『東日本の弥生時代青銅器祭祀の研究』雄山閣／小林青樹2013『戈形の象徴性』『樹木史学』第27号 国学院大学栃木大畑大史学会
- 砂行遺跡：財団法人岐阜県文化財保護センター2000『砂行遺跡』岐阜県文化財保護センター調査報告書第65集
- 高蔵遺跡：名古屋市教育委員会2003『埋蔵文化財調査報告書46 高蔵遺跡（第34次・第39次）』名古屋市文化財調査報告60
- 高茶屋大垣内遺跡：三重県埋蔵文化財センター2000『高茶屋大垣内遺跡（第3・4次）発掘調査報告』三重県埋蔵文化財調査報告184
- 高橋遺跡：堀克彦1997『豊田市高橋遺跡における集落の変遷』『三河考古』第10号 三河考古学談話会
- 竹之内原1号墓：磐田市教育委員会1992『竹之内1号墓遺跡』
- 塚越古墳：福井市立郷土歴史博物館・小羽山墳墓群研究会2010『小羽山墳墓群の研究』福井市立郷土歴史博物館研究報告
- 塚崎遺跡：石川県教育委員会1976『北陸自動車道開拓埋蔵文化財調査報告書II』／佐々木勝・林大智2001『北陸南西部地域における弥生時代の鉄製品』『補遺編』石川県考古資料調査・集成事業報告書 石川考古学研究会
- 津寺遺跡：岡山県教育委員会・岡山県古代古蹟文化財センター1998『津寺遺跡5』岡山県埋蔵文化財発掘調査報告127
- 豊島馬場遺跡：東京都北区教育委員会1999『豊島馬場遺跡II』北区埋蔵文化財調査報告第25集
- 栃原遺跡：豊田市教育委員会2010『栃原遺跡』豊田市埋蔵文化財発掘調査報告書第43集
- 浪ノ上遺跡：浪ノ上1号墳：豊橋市教育委員会1982『浪ノ上遺跡範囲確認調査』『豊橋市埋蔵文化財調査報告書第3集』／豊橋市教育委員会2009『浪ノ上1』豊橋市埋蔵文化財調査報告書第100集／豊橋市教育委員会2010『浪ノ上II』豊橋市埋蔵文化財調査報告書第112集
- 乃木山古墳：まつおか古代フェスティバル実行委員会『発掘された北陸の古墳報告会資料集』
- 那越遺跡：栃木県教育委員会・財団法人とちぎ生誕学習文化財団『那越遺跡』栃木県埋蔵文化財調査報告書第287集
- 梵天遺跡：磐田市教育委員会2003『県道浜松袋井線緊急地方道道路改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』
- 前通遺跡：豊川市教育委員会1991『前通遺跡』
- 南貝津遺跡：新城市教育委員会1989『南貝津遺跡』
- 南山畑遺跡：豊田市教育委員会1999『南山畑遺跡』豊田市埋蔵文化財発掘調査報告書第10集
- 無量寺B遺跡：金沢市教育委員会1986『金沢市文化財紀要』59
- 文殊堂遺跡：財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所2006『森町門田丘陵の遺跡』静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告第167集
- 吉竹遺跡：公益財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団愛知県埋蔵文化財センター2015『吉竹遺跡』愛知県埋蔵文化財センター調査報告第191集
- 吉崎・次場遺跡：石川県立埋蔵文化財センター1988『吉崎・次場遺跡』

(11) 古代・中近世の遺構と遺物

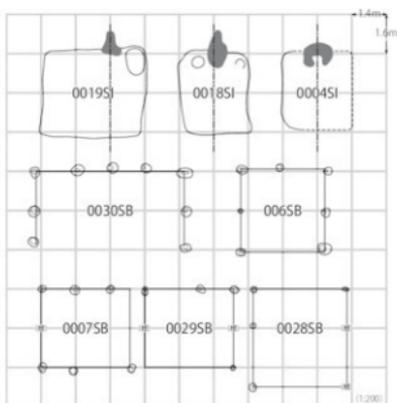
1) 奈良時代の建物の規格

竪穴建物の規格

竪穴建物 0019SI、0018SI は南北辺の長さが 1:1、東西辺が 3:2 の長さで (0018SI が 0019SI の電側部分の空間の規格にほぼ一致)、電の中央を中軸線として分割される左右の空間を基準として平面形が決定されていることが推察される (第 112 図)。0004SI も 0018SI と同様の規格であった可能性が高い。

掘立柱建物の規格

さらに、0019SI の長辺は掘立柱建物の 3 間分、0019SI の短辺または 0018SI の長辺は掘立柱建物の 2 間分の長さにも一致または近似することから、竪穴建物の規格と掘立柱建物の柱間寸法も相互に関連していた可能性もある。



第 112 図 奈良時代建物の平面形の比較

2) 中近世の土坑墓・火葬施設

馬埋葬土坑

5631SK

落川遺跡

K-11-5号土坑

12 世紀末葉から 13 世紀初頭と推定される馬埋葬土坑 5631SK と同様、土坑の一端から馬の頭蓋部分 (上下顎の歯と下顎骨の一部) が出土した遺構として、日野市落川遺跡 K-11-5 号土坑がある (第 113 図)。落川遺跡 K-11-5 号土坑は長軸 2.02m、短軸 1.10m、深さ 0.39m の土坑で、時期は「平安時代後期後半頃」と推測されている。遺体の計測値から比較される馬の大きさは「中小型の御崎馬」にほぼ一致する (金子 1995)。

埋葬姿勢の復原

5631SK は落川遺跡 K-11-5 号土坑と比較すると長軸が短く、同土坑の金子浩昌による埋葬姿勢の復原を参考にすると、四肢に加えて首も押し曲げるようにして埋葬されたものと思われる (第 4 章 (2) を参照)。



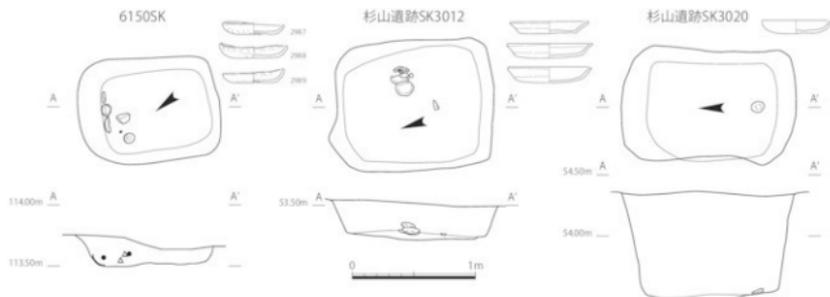
第 113 図 馬埋葬土坑 5631SK と落川遺跡 K-11-5 号土坑

土坑墓 6150SK に類似した遺構は杉山遺跡に検出例がある（第114図）。杉山遺跡 SK3012 は長軸 1.2m、短軸 1.12m の方形土坑で、14 世紀から 15 世紀とされる同形同大の土師器皿 3 点が出土している。同 SK3020 は長軸 1.4m、短軸 0.92m の方形土坑で、土師器皿 1 点、寛永通宝（古寛永、新寛永を含む）7 点が出土していることから、時期は近世後半と推測される。6150SK は土坑の規模はやや小さいが、遺物出土状況はこれらの土坑に類似し、時期も両者の中間と理解しても不自然ではない。

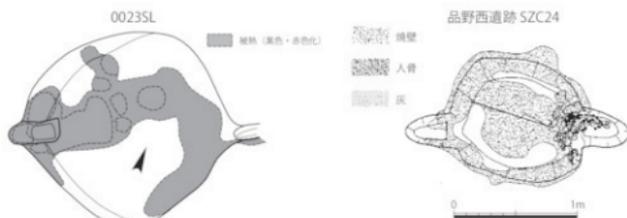
火葬施設 0023SL は瀬戸市品野西遺跡において検出された火葬施設 SZC24 に土坑の規模や形状、使用状況に類似する点が多い（第115図）。なお、品野西遺跡の火葬施設を含めた中世墓群は 15 世紀前半から 16 世紀前半とされる。

火葬施設 0023SL は東向き斜面、火葬骨が出土した土坑墓 3900ST・4000ST は北向き斜面に離れて分布するが、両者は丘陵頂部の平坦面から約 10 m 低い標高 107 m 付近の丘陵中腹に位置し、放射性炭素年代測定の結果が示す年代範囲もほとんど一致する（第4章（1）を参照）。これらのことから、丘陵中腹には土坑墓と火葬施設からなる葬墓地が展開していたと考えられる。火葬施設が品野西遺跡の遺構に類似すること、近世には土葬が主流になることからすると、葬墓地の時期は 15 世紀から 16 世紀と考えられるが、炭化材や火葬骨の年代測定の結果は 18 世紀前後を示していることから、時期の確定には課題が残る。

土坑墓6150SK
杉山遺跡SK3012
杉山遺跡SK3020
火葬施設0023SL
品野西遺跡
SZC24
土坑墓3900ST・
4000ST
時期の確定



第114図 土坑墓5631SKと杉山遺跡SK3012・SK3020



第115図 火葬施設0023SLと品野西遺跡SZC24

3) 鉛製鉄砲玉

設楽原の鉄砲玉 設楽原において、鉄砲玉は計 17 点が採取されている（2 点が所在不明、1 点が鉄製、鉄砲玉の分布 14 点が鉛製、第 40 表）。これらは連吾川右岸の石座神社遺跡に 5 点、大宮川右岸に 3 点、連吾川右岸の低地に 3 点、連吾川左岸の低地に 1 点、連吾川左岸の段丘上に 5 点が分布する（今泉他 1997・小林 2012・2013・中島他 2014）。遺跡から出土した鉄砲玉の直径は 11.20mm から 12.00mm（平均 11.71mm）、重量は 6.6 g から 9.4 g（平均 8.4 g）で、計測可能な 15 点の平均値（直径 11.74mm、重量 8.3 g）に近似する。鉄砲玉の直径から推定される使用筒は 4～5 匁筒（鉄砲玉の直径が 11.1mm から 11.6mm）または 4.5～6 匁筒（鉄砲玉の直径が 11.9 から 12.5mm）とされる（小林 2012）。

鉛材料の産地 5 点の鉄砲玉は鉛同位体比分析の結果、使用された鉛材料はいずれも「日本産材料」とされた（第 4 章（4）を参照）。設楽原で採集された 5 点と長篠城跡の発掘調査で出土した 7 点、計 12 点の鉛製鉄砲玉の測定結果によると、3 点が「タイ産材料」、2 点が「朝鮮半島あるいは遼寧省」、7 点が「日本産材料」と推定されている。現状においては、「日本産材料」が優勢であるが、今後さらに測定数を増やすことが望まれる。

第 40 表 石座神社遺跡出土・設楽原探査の鉛製鉄砲玉一覧

	グッド	出土遺構	発見時期	材質	直径(mm)	重量(g)	匁	鉛材料	備考
3569	「石座08A」玉	10E17q	焼出	平成20年	鉛製	11.90	9.4	2.5	日本産
3570	「石座08B」玉	10D15p	焼出	平成21年	鉛製	12.00	9.1	2.4	日本産
3571	「石座09B」玉	10B5c	焼出	平成22年	鉛製	11.90	8.0	2.1	日本産
3572	「石座10A」玉	10B7r	表探	平成23年	鉛製	11.55	9.1	2.4	日本産
3573	「石座10B」玉	10C3s	1900SD	平成23年	鉛製	11.20	6.6	1.8	日本産
	「墓田」玉	連吾川左岸低地	大正10年頃	鉛製	-	-	-	-	-
	「本田」玉1	連吾川右岸	昭和37年	鉛製	9.80	5.1	1.4	日本産	潰れ
	「本田」玉2	連吾川右岸	昭和37年	鉄製	14.20	7.5	2.0	-	歪み
	「本田」玉3	連吾川左岸段丘上	平成3年	鉛製	11.20	8.0	2.1	-	凹み
	「山田」玉1	大宮川右岸	平成4年	鉛製	12.50	9.7	2.6	日本産	-
	「山田」玉2	大宮川右岸	平成4年	鉛製	11.20	6.2	1.7	日本産	小穴2
	「山田」玉3	大宮川右岸	平成4年	鉛製	-	-	-	-	-
	「熊谷」玉	連吾川左岸段丘上	平成8年	鉛製	14.90	17.5	4.7	タイ・ソントー産	歪み
	「熊谷」玉1	連吾川左岸段丘上	平成9年	鉛製	11.10	7.3	1.9	日本産	小穴
	「熊谷」玉2	連吾川左岸段丘上	平成13年	鉛製	9.50	5.1	1.4	日本産	-
	「高橋」玉	連吾川左岸段丘上	平成12年	鉛製	10.80	6.7	1.8	華南・朝鮮半島産	凹み多
	「神真島」玉	連吾川右岸	平成15年	鉛製	12.40	9.0	2.4	日本産	-

文献

- 今泉正治・小林芳春1997「検証「設楽原の戦い」その1 白い玉が語るもの」『研究紀要』創刊号 設楽原歴史資料館
金子浩昌1995「春権動物遺体」『落川遺跡Ⅳ [自然科学編]』日野市落川遺跡調査会
小林芳春2012「古戦場から出土した火闘銃の玉 その2 その後の出土と鉛の産地」『研究紀要』第16号 新城市設楽原歴史資料館・新城市長篠城址史跡保存館
小林芳春2013「設楽原の鉄砲使用と鉛玉」『銃砲史研究』第371号 日本銃砲史学会
中島清・内藤彰・小林芳春2014「設楽原出土-17個の鉄砲玉」『戦国ウォーク 長篠・設楽原の戦い』黎明書房

遺跡文献

- 落川遺跡：日野市落川遺跡調査会1996『落川遺跡Ⅰ [遺構編—第二分冊—]』
品野西遺跡：財団法人瀬戸市埋蔵文化財センター1997「品野西遺跡」財団法人瀬戸市埋蔵文化財センター調査報告第13集
杉山遺跡：財団法人愛知県埋蔵文化財センター1988「杉山遺跡」愛知県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第5集

第5章 総括

弥生時代中期以前

縄文時代の遺構として、早期の竪穴6基、中期後半の竪穴建物1棟、陥穴と推定される土坑50基を検出した。放射性炭素年代測定の結果、陥穴と推定される土坑の多くは後期前葉に帰属することも判明した。縄文時代早期、中期は一定の居住を目的とした小規模な土地利用が志向されるが、後期は東西の低位段丘上に立地する石岸遺跡、大ノ木遺跡に集落が形成され、遺跡周辺は主として狩猟を中心とした活動領域であったことが想定される。

上記の遺構に加えて、後期旧石器時代と縄文時代草創期の石器群、縄文時代早期・中期・後期・晩期、弥生時代前期・中期の土器と各時期の石器が出土した。特に後期旧石器時代のナイフ形石器、縄文時代草創期の有溝砥石（矢柄研磨器）、縄文時代前期の滑石製夾状耳飾り2点等の出土が注目される。

弥生時代後期から古墳時代前期

弥生時代後期前葉（1世紀）から古墳時代前期前半（3世紀後半）には、丘陵頂部の平坦面を中心として周辺の斜面まで、東西約300m、南北約100mの範囲に広く集落が展開する（第116図）。集落は竪穴建物336棟、掘立柱建物8棟から構成され、長軸7.50m以上の大型竪穴建物8棟、布掘り柱掘方をもつ大型掘立柱建物3棟をも含む。一方、環濠や集落内を区画する溝、方形周溝墓等の埋葬遺構は検出されていない。この点、集落に付随して環濠と方形周溝墓が検出されている諏訪遺跡（第116図）、豊川市山ノ奥遺跡等とは対照的である。

これらの遺構について、出土土器を基準にして1期から10・11期の10段階の遺構変遷を想定し、一時期に20棟前後から40棟前後の竪穴建物が推移することを示した。各時期に比定した竪穴建物を近接した時間幅における構築として、今回の発掘調査で遺跡の約半分の様相が判明したとすると、遺跡には一時期に40棟から80棟前後の竪穴建物が分布していたことが想定される。竪穴建物の9割以上は地床跡を布設することから、基本

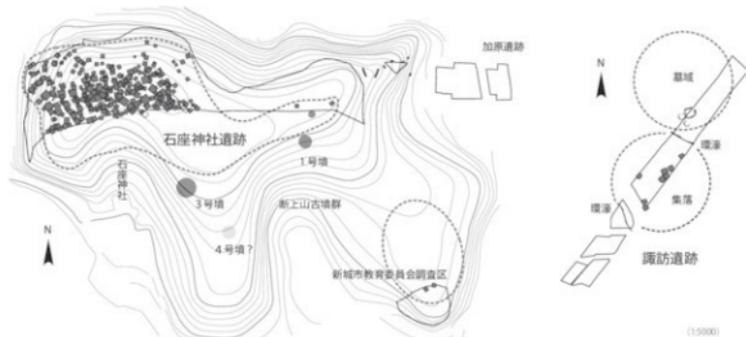
縄文時代の遺構

後期旧石器時代・
縄文時代草創期
石器群

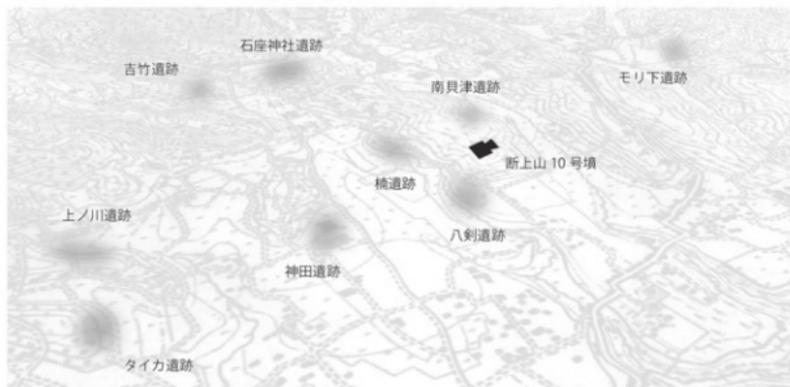
集落の展開

集落の構成
環濠・方形周溝墓一時期（同時期）
の竪穴建物数

集落人口の推計



第116図 石座神社遺跡と諏訪遺跡（環濠集落）の比較



第117図 「雁峰山麓の遺跡群」と断上山10号墳の位置関係



第118図 豊川流域における弥生時代後期から古墳時代前期の集落と前期古墳の分布

的に1棟の竪穴建物を1消費単位として、それに4人1世帯を想定すると、集落人口は200人から300人程度と推計される。

その他、これらの遺構にかかる基礎的な属性を整理、分析することを本報告の主眼とし、同時期の集落研究の基礎資料とした。また、竪穴建物に伴って良好に出土した土器も多く、土器編年の基礎資料としての活用度も高い。同時にAMS法による放射性炭素年代測定を精密に実施した。今後、その成果を活用した集落論の展開も期待される。

出土遺物としては、破鏡と鉄剣、板状鉄斧、ヤリガンナを含む鉄製品が目玉される。これらの金属製品は単に器物の材質転換のみを意味するのではなく、新しい外部の世界観に地域社会が開かれたことを意味する。また、水銀朱付着土器は5点を確認した。

破鏡は後漢代前半(1世紀後半)に製作された方格規矩四神鏡を分割したもので、破鏡が出土した竪穴建物3002SIは遺構の先後関係と出土土器から、古墳時代前期前半(9期、3世紀後半)と推定した。つまり、鏡の製作から破鏡に分割され、最終的に埋没するまでに約200年間を要したことになる。

以上、遺跡は竪穴建物の著しい重複が示す集落への集住、大型竪穴建物と大型掘立柱建物を含む建物群の構成、破鏡や鉄剣等の特定個人の墳墓に副葬されることが多い象徴的な器物の出土(それに対して環濠や方形周溝墓の欠如)によって特徴付けられる。また、周辺には吉竹遺跡、南貝津遺跡、八剣遺跡、上ノ川遺跡、モリ下遺跡が各時期に消長し、「雁峰山麓の遺跡群」を形成する(第117図)。これらの諸特徴、現象は流域の土地開発の進展とそれに伴う集落の増大、利器の鉄器化と物資流通の拠点形成が一体として進行したことを背景として顕現したと考えられる。こうした地域社会の形成過程が同一丘陵に立地する前方後方墳の断上山10号墳の築造に帰結したのであろう。

それと前後して、豊川河口域(三河湾沿岸域)には市杵嶋神社古墳、下流域(石巻地区周辺)には勝山1号墳、権現山1・2号墳等の前方後方墳、前方後円墳が築造され、前者は若宮遺跡・境松遺跡を含む牟呂地区の遺跡群、後者は西側遺跡、高井遺跡、浪ノ上遺跡等の形成が深く関係していたことも容易に推察される(第118図)。これらの地域を含めた集落と古墳の動態を今後、詳細に比較検討する必要がある。

いずれにせよ、大規模な集落遺跡(大型集落、大集落)を拠点集落、豪族(首長)居館といった術語に充てるのみではなく、これらの諸様相の相関性を丁寧に説明することで、弥生時代後期から古墳時代前期の社会変化を見通すことが重要である。石座神社遺跡はその可能性を大いに秘めていることは間違いない。

古代

丘陵の東向き斜面を利用した奈良時代の小規模な集落が形成される。集落は竪穴建物と掘立柱建物の数棟から構成され、建物相互には一定の規格性も確認した。

中世以降

中世前半には丘陵を縦断する大溝1900SDが掘削される。他の中世(または近世)の遺構として、馬埋葬土坑を含む土坑墓、火葬施設等がある。その他、鉛製鉄砲玉が5点出土した。鉄砲玉の時期を特定することはできないが、設楽原周辺で発掘調査を通じて最初に検出した例として貴重である。これらの遺構・遺物は当地域の歴史叙述に欠かせない式内社石座神社、長篠・設楽原の戦いに関連する可能性がある。

集落研究

土器編年

年代測定

特徴的な出土遺物

破鏡

雁峰山麓の遺跡群

断上山10号墳

豊川流域

大規模集落

小規模な集落

大溝1900SD

鉛製鉄砲玉

式内社石座神社

長篠・設楽原の戦い

遺跡文献

- 市杵嶋神社古蹟：豊橋市教育委員会1991『市杵嶋神社遺跡（1）—市杵嶋神社貝塚・市杵嶋神社古蹟—』豊橋市埋蔵文化財調査報告書第13集
- 石塚神社遺跡：新城市建设部・新城市教育委員会2011『石塚神社遺跡発掘調査報告書』
- 上ノ川遺跡：新城市教育委員会1999『上ノ川遺跡発掘調査報告書』新城市埋蔵文化財調査報告書第17集
- 勝山1号墳等：豊橋市教育委員会1993『古墳測量調査（1）』豊橋市埋蔵文化財調査報告書第17集
- 楠遺跡：新城市教育委員会1996『楠遺跡発掘調査報告書』新城市埋蔵文化財調査報告書X
- 権現山1・2号墳：豊橋市教育委員会1997『権現山』豊橋市埋蔵文化財調査報告書第35集
- 神田遺跡：新城市教育委員会2009『愛知県新城市八剣遺跡・新田遺跡発掘調査報告書』
- 諏訪遺跡：財団法人愛知県埋蔵文化財センター1989『諏訪遺跡・杉山端城跡』愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第7集
- タイカ遺跡：新城市教育委員会1979『上平井タイカ・豊栄直向遺跡』新城市誌資料13
- 高井遺跡：鈴木敏則1985『大清水遺跡の弥生土器—寄道式土器の再吟味—』『ホリデー考古』第3号
- ホリデー考古刊行会／鈴木敏則1988『山中様式三河型（寄道様式）』『三河考古』創刊号
- 三河考古刊行会／豊橋市教育委員会1996『高井遺跡』豊橋市埋蔵文化財調査報告書第26集／豊橋市教育委員会・株式会社イビソク2001『高井遺跡（II）・荒木2号墳・下角庵遺跡』豊橋市埋蔵文化財調査報告書第57集
- 断上山10号墳：名古屋大学考古学研究室1974『断上9、10号墳』『重要遺跡指定促進調査報告—地形測量調査の概要—』愛知県教育委員会／柴垣勇夫1977『新城市断上9、10号墳発掘調査報告』『重要遺跡指定促進調査報告II』愛知県教育委員会／費元洋1988『愛知県三河地方の前方後方墳』『古代』第86号
- 早稲田大学考古学会／赤塚次郎1997『愛知県内前方後円（方）墳等の測量調査概要報告1』『愛知県史研究』創刊号
- 愛知県／須川勝以2005『断上山古墳群』『愛知県史 資料編3 考古3 古墳』愛知県
- 浪ノ上遺跡：豊橋市教育委員会1982『浪ノ上遺跡範囲確認調査』『豊橋市埋蔵文化財調査報告書第3集』／豊橋市教育委員会2009『浪ノ上I』豊橋市埋蔵文化財調査報告書第100集／豊橋市教育委員会2010『浪ノ上II』豊橋市埋蔵文化財調査報告書第112集
- 西側遺跡：豊橋市教育委員会『西側遺跡（I）』豊橋市文化財調査報告書第82集／豊橋市教育委員会『眼鏡下池北遺跡（IV）・西側遺跡（VI）・西側古墓群（II）』豊橋市埋蔵文化財調査報告書第113集／豊橋市教育委員会2010『西側遺跡（VII）・西側古墓群（III）・洗島遺跡（III）・眼鏡下池北遺跡（V）・中郷遺跡（II）』豊橋市埋蔵文化財調査報告書第114集
- 南貝津遺跡：新城市教育委員会1989『南貝津遺跡』
- モリ下遺跡：公益財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団愛知県埋蔵文化財センター2015『モリ下遺跡』愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第196集
- 八剣遺跡：岩野見司・井上健・山本一二三・織田勇司1965『八剣遺跡』『豊川用水路関係遺跡調査報告』愛知県教育委員会／新城市教育委員会2009『愛知県新城市八剣遺跡・新田遺跡発掘調査報告書』
- 山ノ奥遺跡：豊川市教育委員会2008『山ノ奥遺跡』
- 古竹遺跡：公益財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団愛知県埋蔵文化財センター2015『古竹遺跡』愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第191集

登録番号	グランド	通所	階位等	設備	日付	経緯	高さ	備考	登録番号	グランド	通所	階位等	設備	日付	経緯	高さ	備考
1 10C14n	3505SL		下層	雑文土版/深鉢				"5.0 押型文系土版	76 10C104	4414S	側方	劣生土版/溝					"3.3 岩積式
2 10C10p	5605SL			雑文土版/深鉢				"6.0 押型文系土版	77 10B15p			劣生土版/溝		7.5			"3.6 中層
3 10C10p	5605SL			雑文土版/深鉢				"4.3 押型文系土版	78 10E14n	0128SD		劣生土版/溝		20.2			"2.9 広積式
4 10B15n	横出			雑文土版/深鉢				"5.2 高山平式	79 10C14j	3211SI	上層	劣生土版/溝		29.4			"3.6 広積式
5 10B16n	横出			雑文土版/深鉢				"3.3 天神山式	80 10C19n	1180SI	上層	劣生土版/溝		21.4			"3.7 広積式
6 10B18p	1410SI	側方		雑文土版/深鉢				"2.4 天神山式	81 10C10f	3798SI	上層	劣生土版/溝					"2.5 広積式
7 10C12n	横出			雑文土版/深鉢	37.0			"4.0 山田平下層式	82 10C11p	3409SI	床直	劣生土版/溝					"4.1 広積式
8 10B15p	横出			雑文土版/深鉢				"2.8 山田平下層式	83 10C11n	5668SI	下層	劣生土版/溝					"2.4 広積式
9 10B14n	1790SI	側方		雑文土版/深鉢				"3.5 山田平下層式	84 10C16r	5649SI	上層	劣生土版/溝					"1.4 広積式
10 10B18p	1410SI	下層		雑文土版/深鉢				"2.4 山田平下層式	85 10C16f	横出	劣生土版/溝						"1.2 広積式
11 10C13n	横出			雑文土版/深鉢				"3.3 山田平下層式	86 10C14c	横出	劣生土版/溝						"2.7 広積式
12 10B17q	1329SI	下層		雑文土版/深鉢				"2.6 山田平下層式	87 10C10f	3798SI	下層	劣生土版/溝					"1.5 広積式
13 10B17q	1329SI	下層		雑文土版/深鉢	23.8			"3.7 山田平下層式	88 10C13m	3388SI	下層	劣生土版/溝					"3.4 広積式
14 10B15p	横出			雑文土版/深鉢				"2.5 山田平下層式	89 10C13c	横出	劣生土版/溝						"3.4 広積式
15 10B18q	横出			雑文土版/深鉢				"2.7 山田平下層式	90 10C12n	5546SI	下層	劣生土版/溝					"2.8 広積式
16 10C1n	4314SK			雑文土版/台付深鉢				"5.2 神明式	91 10C9g	3797SI	上層	劣生土版/溝		6.4			"3.4 広積式
17 10C1n	4314SK			雑文土版/台付深鉢				"3.4 神明式	92 10C16m	3149SI	下層	劣生土版/溝		5.8			"2.1 広積式
18 10C1n	4314SK			雑文土版/台付深鉢				"3.0 神明式	93 10C13c	3481SI	下層	劣生土版/溝		5.8			"3.0 広積式
19 10C10n	3001SI			雑文土版/台付深鉢				"6.4 神明式	94 10C11n	3562SK	下層	劣生土版/大間壁	30.0				"4.3 広積式
20 10C1n	4314SK			雑文土版/台付深鉢				"4.0 神明式	95 10C19n	1138SI	上層	劣生土版/溝					"1.3 広積式
21 10C10n	3001SI	床直		雑文土版/台付深鉢				"4.8 神明式	96 10C9c	3006SI	下層	劣生土版/溝		15.2			"2.1 広積式
22 10C10n	3001SI	θ		雑文土版/台付深鉢			15.7	"11.5 神明式	97 10C16r	5649SI	上層	劣生土版/溝					"3.6 広積式
23 10C10n	3001SI	θ		雑文土版/台付深鉢			10.9	"7.2 神明式	98 10C9c	3515SI	上層	劣生土版/溝					"5.2 広積式
24 10B15p	横出			雑文土版/深鉢				"4.1 神明式	99 10C13m	横出	劣生土版/溝						"4.6 古方式
25 10B16p	横出			雑文土版/深鉢				"4.3 神明式	100 10B16p	横出	劣生土版/溝						"3.0 古方式
26 10C20n	1138SI	上層		雑文土版/深鉢				"4.0 神明式	101 10B9r	2993SI	床直	広口庫					"16.0 縦壁瓦文
27 10C8g	横出			雑文土版/深鉢	11.9			"6.0 神明式	102 10B9r	2993SI	中層	溝		4.8			"1.5
28 10B16p	横出			雑文土版/深鉢				"3.9 中間換平	103 10B9r	2993SI	床直	溝					"5.4
29 10B14n	1444SI	下層		雑文土版/深鉢				"2.9 中間換平	104 10B9r	2934SI	下層	溝		21.4			"6.3
30 10B16p	横出			雑文土版/深鉢				"4.0 中間換平	105 10B9r	2934SI	下層	溝		15.6			"6.7
31 10B16p	横出			雑文土版/深鉢				"3.8 中間換平	106 10B9r	2934SI	床直	中層内開口縁庫		5.8			"7.9 本業前
32 10B17q	横出			雑文土版/深鉢				"4.5 中間換平	107 10B9r	2934SI	床直	加納広口庫					"9.0
33 10B14p	1459SI	下層		雑文土版/深鉢				"4.7 中間換平	108 10B9r	2934SI	下層	小型鉄骨庫		5.3			"2.7
34 10B15n	1328SI	トレンチ		雑文土版/深鉢				"3.9 中間換平	109 10B9r	2934SI	床直	中層		4.1			"1.7
35 10B16p	横出			雑文土版/深鉢				"2.7 中間換平	110 10B9r	2934SI	上層	広口庫		15.6			"1.5 掘孔
36 10B15p	1455SI	下層		雑文土版/深鉢				"5.8 中間換平	111 10B8m	2022SI	下層	溝		21.8			"5.5
37 10C9g	横出			雑文土版/深鉢				"3.5 中間換平	112 10B8m	2022SI	下層	折り返し口縁庫		16.4			"2.0 遠江系
38 10B17q	横出			雑文土版/深鉢	9.8			"2.8	113 10B8m	2022SI	底直	溝		15.6			"4.5
39 10B16p	横出			雑文土版/深鉢				"4.0 晩期前平?	114 10B10f	2022SI	床直	溝		17.6			"7.1
40 10B15p	横出			雑文土版/深鉢				"5.4 晩・晩期前平	115 10B10f	2022SI	ベルト	溝		9.0			"5.4
41 10B16p	横出			雑文土版/深鉢				"3.1 晩期前平	116 10B10m	2006SI	下層	折り返し口縁庫		11.6			"1.6 遠江系
42 10B16p	横出			雑文土版/深鉢				"5.1 晩期前平	117 10B10f	2006SI	高杯	溝		18.0	10.2	16.1	"5.9
43 10B16p	横出			雑文土版/深鉢				"3.4 晩期前平	118 10B10m	2006SI	床直	高杯					"6.7
44 10B18p	1410SI	下層		雑文土版/深鉢				"2.5 晩期前平	119 10B10f	2006SI	高杯	溝		9.0			"7.2
45 10B14n	1455SI	下層		雑文土版/深鉢				"2.6 晩期前平	120 10B10f	2006SI	ベルト	広口庫		13.5			"5.4
46 10B13q	横出			雑文土版/深鉢				"2.5 晩期前平	121 10B10f	2006SI		溝		7.7			"5.7
47 10B12n	横出			雑文土版/深鉢				"2.4 晩期前平	122 10B10f	2006SI	上層	加納広口庫		14.9			"2.5
48 10B15p	横出			雑文土版/深鉢	19.8			"3.4 晩期前平積	123 10B10f	2006SI	2118SK	溝		6.4			"4.4
49 10B17p	1410SI			雑文土版/浅鉢				"5.9 晩期前平積	124 10B10m	2021SI	側方	加納広口庫		20.6			"2.8
50 10B16p	横出			雑文土版/深鉢	10.6			"3.8 晩期前平積?	125 10B10m	2021SI	側方	有段口縁壁庫		17.6			"3.2
51 10C12n	5540SI	下層		劣生土版/深鉢				"3.8 榎王式	126 10B10m	2021SI	側方	広口庫		19.4			"4.3
52 10C13n	3388SI	下層		劣生土版/深鉢				"3.7 榎王式	127 10B10m	2021SI	上層	小型鉄骨庫		7.8	5.3	5.3	"4.9
53 10C12n	5540SI	下層		劣生土版/深鉢				"2.9 榎王式	128 10B10m	2021SI	上層	小型鉄骨庫		7.6	5.0	4.9	"4.9
54 10C17m	3149SI	上層		劣生土版/深鉢				"2.8 榎王式	129 10B10m	2021SI	上層	小型鉄骨庫		7.6	5.5	4.1	"4.1
55 10C14r	3378SI	トレンチ		劣生土版/深鉢				"3.2 榎王式	130 10B10m	2021SI	上層	小型鉄骨庫		7.0	5.0	4.1	"4.1
56 10C15n	横出			劣生土版/深鉢				"4.2 榎王式	131 10B10m	2021SI	上層	溝		8.7			"6.1
57 10D7d	5550SI	上層		劣生土版/深鉢				"3.5 榎王式	132 10B10m	2021SI	上層	溝		8.6			"6.6
58 10C14q	3379SI	上層		劣生土版/溝				"4.4 水神平式	133 10B8n	1957SI	床直	溝		15.7	7.7	22.4	"4.0
59 10C12n	3481SI	下層		劣生土版/深鉢(覆)				"5.4 榎王/水神平式	134 10B8n	1957SI	床直	溝		20.2			"3.9
60 10C11c	5545SI	下層		劣生土版/深鉢(覆)				"4.1 榎王/水神平式	135 10B8n	1957SI	下層	溝		16.4			"10.7
61 10C10f	3150SI	上層		劣生土版/深鉢(覆)				"3.4 榎王/水神平式	136 10B8n	1957SI	下層	有段口縁壁A		12.2			"5.6
62 10C13m	3389SI	上層		劣生土版/深鉢(覆)				"4.5 榎王/水神平式	137 10B8n	1957SI	下層	溝		5.8			"4.3
63 10B16p	横出			劣生土版/深鉢(覆)				"4.4 榎王/水神平式	138 10B8n	1957SI	下層	加納広口庫					"5.4
64 10C14n	3147SI	上層		劣生土版/深鉢(覆)				"4.9 榎王/水神平式	139 10B7f	1957SI	下層	高杯		20.6			"2.3
65 10C13n	5548SI	上層		劣生土版/深鉢(覆)				"3.7 榎王/水神平式	140 10B8n	1957SI	下層	高杯		18.4			"5.0
66 10C12n	5550SI	側方		劣生土版/深鉢(覆)				"4.2 榎王/水神平式	141 10B7f	1957SI	床直	梶原高杯A	14.4				"7.8
67 10C10f	3404SI	上層		劣生土版/深鉢(覆)				"4.5 榎王/水神平式	142 10B7f	1957SI	下層	高杯		18.6			"8.3
68 10C15n	3145SI	下層		劣生土版/深鉢(覆)				"6.1 榎王/水神平式	143 10B8n	1957SI	上層	高杯		7.6			"6.1
69 10C12f	3222SI	上層		劣生土版/深鉢(覆)				"5.3 榎王/水神平式	144 10B8n	1957SI	上層	袋状口縁庫		15.8			"6.1
70 10C13n	3388SI	下層		劣生土版/深鉢(覆)				"6.1 榎王/水神平式	145 10B9n	1958SI	下層	溝		15.2			"3.8
71 10C15n	4566SK			劣生土版/深鉢(覆)				"7.2 榎王/水神平式	146 10B8n	1958SI	下層	溝			8.9		"5.4
72 10D13n	5650SI	上層		劣生土版/溝				"2.8 遺骨同系	147 10B9n	1958SI	下層	S字溝					"2.6
73 10C14f	3261SI	下層		内蔵口縁土版	10.4			"4.4 岩積式	148 10B9n	1958SI	下層	内層口縁庫C		3.9			"3.7
74 10C11c	1862SI	下層		劣生土版/溝	14.4			"2.4 岩積式	149 10B9n	1958SI	下層	小型庫		3.9			"3.7
75 10B14q	1408SI	床直		劣生土版/溝				"3.0 岩積式	150 10B9n	1958SI	下層	小型庫		4.1			"2.9

石室神社造跡 (本文編)

登録番号	グランド	遺構	階位等	部種	日経	経径	部高	備考	登録番号	グランド	遺構	階位等	部種	日経	経径	部高	備考		
151 1080a	1958S1	下層	中型竪		4.5	*1.7			226 10815m	1454S1	下層	塼		15.8		*13.2			
152 1080a	1958S1	下層	中型竪		5.8	*1.6			227 10815m	1454S1	下層	叩き塼		17.6	4.4	22.4	近畿系		
153 1080a	1958S1	下層	輻形高杯B			*3.5			228 10815m	1454S1	下層	平段塼		11.2	3.6	14.8	叩き塼類似		
154 1080a	1958S1	下層	高杯			*4.4			229 10815m	1454S1	下層	塼			10.0	*7.8			
155 1080a	1958S1	下層	高杯			*6.4			230 10816m	1454S1	下層	塼			9.4	*7.1			
156 1080a	1958S1	上層	塼		5.3	*5.0			231 10815m	1454S1	下層	塼			7.6	*6.7			
157 1080a	1958S1	上層	塼		5.4	*4.7			232 10816m	1454S1	下層	塼			6.0	*4.4			
158 1080a	1958S1	上層	広口竪		7.2	*3.2			233 10815m	1454S1	下層	塼			7.2	*3.6			
159 1080a	1958S1	上層	加飾広口竪	18.0		*3.8			234 10815m	1454S1	下層	広口竪			7.6	*16.7			
160 1080a	1958S1	上層	高杯			*5.1			235 10815m	1454S1	下層	広口竪			5.8	*4.6			
161 1080a	1959S1	下層	小型塼		3.8	*2.6			236 10815m	1454S1	下層	加飾広口竪					*5.4		
162 1080a	桃出	Ab部	有孔塼		6.0	*3.6			237 10815m	1454S1	下層	有段口竪塼		14.8			*4.5		
163 10810a	桃出	Ab部	新り近し口竪塼	18.4		*1.3	遼江系		238 10816m	1454S1	下層	広口竪		16.2			*3.8		
164 10813a	1993S1	観方	広口竪		13.6	*6.2			239 10815m	1454S1	下層	広口竪					*8.5		
165 10813a	1993S1	広口竪			3.2	*1.7			240 10816m	1454S1	下層	広口竪					5.4	*6.5	
166 10813a	1994S1	床直	高杯			*2.2			241 10816m	1454S1	下層	内門口竪塼A					*11.6	近畿文	
167 10813a	1995S1	2175SK	中型塼		3.8	*3.6			242 10816m	1454S1	下層	広口竪			5.0		*3.0		
168 10812a	1991S1	床直	塼	21.4		*6.0			243 10816m	1454S1	下層	広口竪			6.4		*2.0		
169 10813a	1991S1	床直	高杯			*8.4			244 10816m	1454S1	下層	小型塼(塼)			4.0		*1.6		
170 10813a	1991S1	床直	高杯			*6.2			245 10815m	1454S1	下層	小型塼(塼)			3.6		*1.9		
171 10812a	1991S1	上層	小型塼		3.6	*6.3			246 10815m	1454S1	下層	高杯		22.4	11.2	16.7			
172 10811a	2033S1	下層	高杯			*4.5			247 10815m	1454S1	下層	高杯					9.8	*13.7	
173 10811a	2033S1	下層	広口竪		11.4	*2.0			248 10816m	1454S1	下層	輻形高杯A		8.0	6.8	7.0			
174 10811a	2033S1	上層	広口竪	14.4		*2.1			249 10815m	1454S1	下層	輻形高杯A		3.8	2.6	3.7			
175 10811a	2033S1	上層	塼		7.9	*3.0	本業前		250 10816m	1454S1	下層	小型塼(塼)		9.8	4.8	5.2			
176 10811a	2033S1	上層	塼		10.0	*7.5			251 10816m	1454S1	下層	小型塼(塼)		9.6	2.4	4.6			
177 10811m	2077S1	観方	小型加飾広口竪	7.8		*7.0			252 10815m	1454S1	下層	広口竪		9.4		3.5			
178 10812a	2077S1	観方	塼			*4.1			253 10815m	1454S1	1449SK	高杯					10.8	*9.7	
179 10812a	2077S1	観方	塼			*2.0			254 10814a	1444S1	床直	中型塼		9.6	5.8	8.1			
180 10812a	2077S1	2141SK	塼		9.6	*5.6	1967S1		255 10815m	1444S1	下層	石孔塼			1.4		*3.2		
181 10812a	2077S1	2141SK	中型塼		4.9	*6.0	1967S1		256 10815m	1444S1	下層	小型塼(塼)			3.0		*2.9		
182 10812a	2077S1	2141SK	中型塼		11.4	4.4	7.9	1967S1	257 10815m	1444S1	下層	加飾広口竪		21.6			*2.5		
183 10812a	1967S1	床直	高杯		23.2		*8.7		258 10814a	1444S1	下層	ハレス系塼		22.2			*3.1		
184 10811a	1967S1	下層	小型塼(塼)		4.5	3.2	*4.3		259 10815m	1444S1	下層	広口竪					8.0	*2.3	
185 10811a	1967S1	下層	内門口竪塼A		3.8	*2.1			260 10814a	1444S1	下層	広口竪					6.0	*2.1	
186 10811a	1967S1	下層	広口竪		7.4	*8.5			261 10815m	1444S1	下層	広口竪					4.6	*1.9	
187 10811a	1967S1	下層	広口竪		7.2	*4.3			262 10815m	1444S1	下層	広口竪					8.2	*4.1	本業前
188 10811a	1967S1	下層	加飾広口竪		21.6		*3.7		263 10815a	1444S1	上層	中型塼					3.6	*4.3	
189 10812a	1967S1	下層	有段口竪		23.2		*3.1		264 10814a	1444S1	上層	広口竪					6.2	*3.8	
190 10812a	1967S1	上層	塼		20.4		*2.8		265 10814a	1444S1	上層	平段塼					5.0	*3.8	叩き塼類似
191 10812a	1967S1	上層	有段口竪塼A		19.6		*2.6		266 10815a	1444S1	上層	小型塼					3.4	*1.3	
192 10812a	1967S1	上層	塼		8.6	*6.3			267 10815a	1444S1	下層	高杯		22.2			*5.1		
193 10812a	1967S1	上層	塼		7.1	*6.1			268 10814a	1444S1	下層	小型高杯						*2.5	
194 10812a	1967S1	上層	加飾広口竪		15.8		*1.8		269 10814a	1444S1	上層	輻形高杯A		11.1			*4.1		
195 10811p	1954S1	上層	加飾広口竪		16.8		*4.4		270 10814a	1444S1	上層	塼					5.7	*3.9	
196 10811p	1954S1	上層	高杯			*8.2			271 10815a	1444S1	上層	塼					11.2	*8.7	
197 10811p	1953S1	下層	塼		16.3		*3.9		272 10814a	1444S1	上層	塼					7.4	*7.2	
198 10811p	1953S1	下層	広口竪		6.8	*2.7			273 10815a	1444S1	1804SK	平段塼					11.0	5.0	14.0
199 10811p	1953S1	下層	加飾広口竪		19.0		*3.0		274 10815a	1444S1	1804SK	平段塼					12.6	4.6	14.0
200 10811a	1953S1	上層	加飾広口竪		12.8		*1.8		275 10815a	1444S1	1804SK	塼					13.6		*17.3
201 10812p	1953S1	上層	加飾広口竪			*5.5			276 10815a	1444S1	1804SK	内門口竪塼A		7.4	5.2	13.6			
202 10811a	1953S1	上層	小型塼	14.6		*4.3	西遼江(伊勢)系		277 10814p	1455S1	床直						11.0	*7.1	
203 10811p	1953S1	上層	高杯			*9.6			278 10814p	1455S1	床直	加飾広口竪							*23.4
204 10812p	1952S1	下層	塼		8.5	*6.3			279 10814p	1455S1	下層	塼					22.2		*10.3
205 10812p	1952S1	下層	塼		7.8	*5.1			280 10814a	1455S1	下層	塼					22.4		*4.1
206 10812a	1952S1	下層	塼		6.1	*5.0			281 10814p	1455S1	下層	内門口竪塼A		11.2			*6.7		
207 10812p	1952S1	下層	高杯		9.3	*6.9			282 10814p	1455S1	下層	内門口竪塼A			4.2		*1.9		
208 10812p	1952S1	下層	中型塼		4.0	*4.0			283 10814a	1455S1	下層	内門口竪塼B		8.4			*5.5		
209 10812p	1952S1	下層	加飾広口竪		18.6		*3.3		284 10814p	1455S1	下層	新り近し口竪塼		18.6			*1.7	遼江系	
210 10812p	1952S1	上層	加飾広口竪		21.0		*2.3		285 10814a	1455S1	上層	有段口竪塼A		18.8			*6.0		
211 10811q	2129S1	下層	高杯			*7.0			286 10814a	1455S1	上層	塼					14.8		*5.5
212 10811q	2129S1	広口竪			16.0		*5.7		287 10814p	1455S1	上層	塼					14.0		*5.6
213 10812q	2129S1	広口竪			8.7	*5.2	本業前		288 10814a	1455S1	上層	塼					20.8		*10.5
214 10811q	2129S1	上層	加飾広口竪			*9.8			289 10814p	1455S1	上層	袋状口竪		17.6			*5.0		
215 10812k	2062SK	Ab部	有孔塼	16.9	6.9	12.4			290 10814a	1455S1	上層	袋状口竪		16.6			*5.3		
216 10814a	1900SD	Ab部	小型塼		5.2	*6.0			291 10817a	1455S1	観方	小型塼(塼)		9.8			*4.3		
217 10812q	1900SD	Ab部	小型塼		3.8	*5.3			292 10814p	1455S1	下層	高杯		22.0			*6.5		
218 10812m	桃出	Ab部	広口竪	15.4		*2.0	継孔		293 10815a	1455S1	トレンチ	高杯		20.6			*9.1		
219 10814a	1900SD	Ab部	広口竪		12.2	*4.0			294 10814p	1455S1	上層	高杯					*3.2		
220 10812a	桃出	Ab部	中型塼		5.3	*2.0			295 10814p	1455S1	上層	高杯		25.4			*3.8		
221 10812a	桃出	Ab部	小型高杯		6.2	*4.0			296 10814p	1455S1	1785SK	中型塼		10.9	6.6	15.1			
222 10815m	1454S1	下層	塼		22.0		*24.0		297 10814q	1456S1	下層	塼		26.0			*28.1		
223 10815m	1454S1	下層	塼		19.0		*4.6		298 10814q	1456S1	下層	塼		18.0			*19.3		
224 10815m	1454S1	下層	塼		19.0		*16.2		299 10814q	1456S1	下層	塼					8.5		*5.9
225 10815m	1454S1	下層	塼		17.4		*13.0		300 10814q	1456S1	下層	塼					7.6		*4.3

登録番号	グッド	通符	順位等	部種	日経	経採	部高	備考	登録番号	グッド	通符	順位等	部種	日経	経採	部高	備考
301	10814q	1456S	下層	ウイング型高杯	10.2		"6.2		376	10818p	1495S	上層	内側口録兼A	12.0			"3.6
302	10814q	1456S	下層	内側口録兼B	8.4	3.3	8.2 縦部録採		377	10816p	1464S	床直	高杯	23.0	12.6		18.6
303	10814q	1456S	下層	広口兼		5.8	"2.3		378	10816p	1464S	床直	兼		9.0		"11.9
304	10814q	1456S	下層	広口兼	15.2		"5.5		379	10817p	1464S	床直	高杯				"5.7
305	10814q	1456S	下層	有段口録兼	17.4		"4.4		380	10817p	1464S	床直	兼	12.5			"7.2
306	10814q	1456S	下層	広口兼	13.5	8.1	28.9		381	10816p	1464S	床直	兼	9.8			"6.2
307	10814q	1456S	下層	加飾広口兼	7.6		"23.6		382	10817p	1464S	下層	加飾広口兼				"1.9
308	10814q	1456S	下層	広口兼	8.8		"10.3 木要置		383	10817p	1464S	床直	兼	7.6			"6.0
309	10814q	1456S	下層	高杯	10.2		"8.4		384	10817p	1464S	トレンチ	兼	10.8			"6.4
310	10814p	1456S	下層	鞍形高杯A			"3.7		385	10817p	1464S	トレンチ	加飾広口兼	19.8			"5.3
311	10815p	1456S	下層	高杯	24.4		"3.2		386	10816p	1464S	トレンチ	加飾広口兼	16.0			"6.5
312	10814q	1456S	前方	加飾広口兼	18.6		"1.4		387	10816p	1464S	トレンチ	広口兼	15.2			"4.9
313	10814p	1456S	前方	有段口録兼A	14.8		"2.7		388	10817p	1464S	トレンチ	広口兼	9.4			"5.1
314	10814q	1456S	前方	折り返し口録兼	16.4		"1.6 遊江系		389	10817p	1464S	トレンチ	広口兼	8.8			"5.2
315	10814q	検出	Ac群	加飾広口兼	20.0		"7.0		390	10817p	1464S	トレンチ	広口兼	7.7			"3.0
316	10814q	検出	Ac群	広口兼	19.0		"4.8		391	10817p	1464S	上層	小型録(検)	5.2			"3.1
317	10814q	検出	Ac群	広口兼	15.4		"3.8		392	10817p	1464S	上層	内側口録兼A	10.2			"8.8
318	10814q	1456S	上層	広口兼	14.2		"7.7		393	10816p	1464S	上層	広口兼	17.0			"2.9
319	10814q	検出	Ac群	広口兼			"2.0 東瀬江(菊川)系		394	10816p	1464S	上層	広口兼	12.3			"5.5
320	10814q	1456S	上層	広口兼		7.0	"4.8		395	10816p	1464S	上層	兼	4.8			"4.5
321	10814q	1456S	上層	広口兼	11.2		"4.3		396	10817p	1411S	床直	高杯	22.4	11.4		13.9
322	10814q	1456S	上層	広口兼	5.8		"2.9		397	10817p	1411S	床直	高杯	10.8			"8.7
323	10814q	1456S	上層	広口兼	5.4		"3.8		398	10817p	1411S	床直	高杯	10.2			"7.1
324	10814q	1456S	上層	中型兼	5.6		"2.8		399	10817p	1411S	床直	鞍形高杯B	8.2			"6.8
325	10814q	検出	Ac群	小型録(検)	8.4	4.6	5.3		400	10817p	1411S	床直	高杯	11.4			"7.7
326	10814q	検出	Ac群	小型録(検)	5.4	2.4	3.2		401	10817p	1411S	床直	高杯				"6.7
327	10814q	検出	Ac群	ウイング型高杯	11.2		"4.9		402	10817p	1411S	下層	録帯口録兼	15.4			"2.8
328	10814q	検出	Ac群	高杯	17.8		"8.3		403	10817p	1411S	床直	兼	8.4			"5.1
329	10814q	1456S	上層	高杯			"8.1		404	10817p	1411S	床直	兼	8.8			"5.8
330	10814q	1456S	上層	高杯			"6.6		405	10817p	1411S	上層	兼	9.6			"6.3
331	10814q	検出	Ac群	高杯		9.0	"7.9		406	10817p	1411S	床直	兼	6.4			"3.9
332	10814q	検出	Ac群	内側口録兼	21.8		"13.7		407	10817p	1411S	床直	兼	10.2			"8.0
333	10814q	1456S	上層	兼	21.2		"4.5		408	10817p	1411S	床直	兼	10.0			"7.8
334	10814q	1456S	上層	兼	12.2		"7.9		409	10817p	1411S	下層	兼	9.4			"4.8
335	10814q	検出	Ac群	兼	20.4		"7.4		410	10817p	1411S	下層	中型兼	8.6			"3.7
336	10814q	1456S	上層	兼	21.2		"6.1		411	10817p	1411S	床直	中型兼	8.2	10.6		14.0
337	10814q	検出	Ac群	S字兼			"2.0		412	10817p	1411S	床直	中型録	9.0	3.8		8.9
338	10814q	検出	Ac群	母き兼			"2.2		413	10817p	1411S	床直	小型録(検)	10.6	3.0		6.4
339	10814q	1456S	1813SK	兼	15.0	8.4	20.4		414	10817p	1411S	床直	中型録	5.8			"5.8
340	10814q	1456S	1813SK	加飾広口兼	18.6		"5.0		415	10817p	1411S	床直	小型録(検)	4.8			"4.3
341	10815q	1490S	床直	加飾広口兼			"14.4		416	10817p	1411S	床直	小型録(検)	5.2			"4.5
342	10815q	1490S	床直	広口兼		7.8	"3.7		417	10817p	1411S	下層	ミニチュア?				"2.2
343	10814q	1490S	下層	加飾広口兼	14.4		"2.5		418	10817p	1411S	下層	小型兼	2.8			"1.2
344	10814p	1490S	上層	加飾広口兼			"4.7		419	10817p	1411S	床直	広口兼	18.6			"3.4
345	10815q	1490S	上層	録帯口録兼	29.4		"5.0		420	10817p	1411S	下層	高杯				"2.8
346	10815q	1490S	1813SK	高杯	23.4		"9.5		421	10817p	1411S	下層	加飾広口兼	13.2			"1.8
347	10815q	1490S	1813SK	大型兼系録	21.8	8.8	19.2 1456Sと統合		422	10817p	1411S	床直	広口兼	7.8			"3.0
348	10813p	1937S	床直	鞍形高杯A	13.8	10.8	10.8		423	10817p	1411S	床直	広口兼	6.8			"2.4
349	10813p	1937S	床直	加飾広口兼			"9.2		424	10817p	1411S	下層	袋状口録兼	14.2			"2.6
350	10813p	1937S	下層	加飾広口兼			"9.0		425	10817p	1411S	上層	加飾広口兼	20.6			"2.5
351	10813p	1937S	下層	広口兼	6.9		"4.1		426	10817p	1411S	上層	広口兼	16.4			"5.0
352	10813p	1937S	上層	小型録(検)	8.7	3.8	5.9		427	10817p	1411S	上層	高杯	17.0			"4.1 1410Sと統合
353	10815q	検出	Ac群	兼	19.4		"11.6		428	10818p	1411S	1690SK	兼	5.0			"1.3
354	10816p	検出	Ac群	高杯			"7.6 遊農系		429	10816q	1329S	床直	兼	19.6			"4.2
355	10813p	検出	Ac群	小型録(検)	2.5		"1.9		430	10817q	1329S	トレンチ	兼	9.8			"7.2
356	10815p	検出	Ac群	有孔録	4.2		"4.6		431	10816q	1329S	床直	高杯	21.6			"9.7
357	10813p	検出	Ac群	小型録(検)	7.8	4.8	5.2		432	10816q	1329S	下層	高杯				"5.8
358	10815p	検出	Ac群	小型録(検)	9.6	4.2	4.5		433	10817q	1329S	下層	高杯				"6.2
359	10815p	検出	Ac群	広口兼	21.2		"4.7 東瀬江(菊川)系		434	10817q	1329S	床直	広口兼	16.2			"4.2
360	10815q	検出	Ac群	録	17.4		"3.4 東瀬江(菊川)系		435	10816q	1329S	床直	小型録(検)	4.0			2.4
361	10815p	検出	Ac群	広口兼	12.6		"3.0		436	10817q	1329S	下層	広口兼	18.4			"3.8
362	10815q	検出	Ac群	ハレス系兼			"3.7		437	10817q	1329S	上層	広口兼	19.6			"4.8
363	10818p	1410S	下層	直口兼	10.2		"4.2		438	10816q	1329S	上層	内側口録兼A				"5.1
364	10818p	1410S	下層	加飾広口兼			"3.8		439	10816q	1329S	上層	高杯		13.5		"6.7
365	10818p	1410S	下層	小型録(検)		4.4	"2.6		440	10817q	1329S	1816SK	高杯				"3.7
366	10817p	1410S	上層	加飾広口兼	15.2		"1.4		441	10817q	1329S	1816SK	兼	8.4			"6.5
367	10817p	1410S	上層	内側口録兼B	17.4		"2.1		442	10818k	1330S	前方	S字兼	20.2			"5.3 A類
368	10818p	1410S	上層	兼			"5.1		443	10817p	1330S	上方	加飾広口兼				"11.5
369	10818p	1410S	上層	高杯			"5.7		444	10818k	1330S	床直	兼	13.8			"5.3
370	10818p	1410S	トレンチ	物成録上塊	長5.9 幅4.0	高2.7 重44.0kg			445	10818k	1330S	上層	兼	6.3			"9.4
371	10818p	1410S	上層	加工門板	長2.9 幅2.8	高0.9 重6.1kg			446	10817p	1330S	上層	内側口録兼C	4.2			"5.2
372	10817p	1295S	下層	録帯口録兼	17.6		"2.7		447	10818k	1330S	上層	広口兼	16.0			"3.2
373	10817p	1295S	下層	広口兼	13.0		"4.1		448	10818k	1330S	上層	高杯				"6.7
374	10817p	1295S	前方	内側口録兼C	14.8	5.2	"5.0		449	10817p	1330S	上層	高杯		10.2		"9.5
375	10818p	1495S	上層	有段口録兼A	14.8		"3.3		450	10818p	1494SK	兼		17.2			"12.2

登録番号	グランド	遺構	階位等	部種	日経	経経	部高	備考	登録番号	グランド	遺構	階位等	部種	日経	経経	部高	備考
451 10818p	1404SX		巻		20.0		"9.1		526 181q	1220S1	下層	加飾広口扉					"2.6
452 10817p	1404SX		加飾広口扉		14.2		"2.7		527 181q	1220S1	下層	広口扉		6.4			"2.6
453 10818p	1404SX		広口扉		15.6		"8.4		528 181q	1220S1		中型巻		5.4			"2.7
454 10818p	1404SX		広口扉			6.8	"4.9		529 181p	1220S1		中型巻		6.0			"2.8
455 10818p	1404SX		広口扉			7.6	"4.4		530 181p	1220S1	上層	パレス系巻		20.6			"2.2
456 10818p	1404SX		広口扉			7.8	"3.2		531 181p	1220S1	上層	加飾広口扉		15.2			"2.5
457 10818p	1404SX		高杯			11.3	"7.6		532 181p	1220S1	上層	パレス系巻		21.8			"11.6
458 10818a	1277S1		下層		27.6		"8.3		533 181p	1220S1	上層	小型鉢		3.8			"5.1
459 10818r	1277S1		床直			6.2	"7.7		534 181q	1220S1	下層	高杯		24.6			"4.9
460 10818r	1277S1		下層	小型鉢(陶)		4.6	"2.6		535 181p	1220S1	上層	高杯					"5.3
461 10817r	1277S1		上層	巻		12.6	"6.4		536 10820p	1220S1	下層	巻		23.4			"5.4
462 10817r	1277S1		上層	広口扉		14.6	"5.6		537 181p	1220S1	上層	巻		15.4			"3.8
463 10818r	1277S1	1447SK	内側口縁扉A		8.0		"7.2 建飯文		538 181p	1220S1	上層	緑帯口縁巻		13.2			"2.7
464 10817q	1175S1		下層	梶形高杯B			"5.8		539 181p	1220S1	上層	有段口縁巻B		15.6			"3.1
465 10817q	1175S1		広口扉		18.2		"3.0		540 181p	1220S1		S字巻					"2.5 非期新
466 10817q	1175S1		上層	広口扉		6.0	"2.1		541 181q	1220S1	1529SK	蓋?		長"5.9 幅3.6			高3.0 重"62.5g
467 10819a	1332S1		上層	加飾広口扉			"2.2		542 181r	1200S7別	下層	加飾広口扉		6.8			"26.9 底部縁刷
468 10810p	1403S1		上層	中型巻		5.4	"1.5		543 181r	1200S7別	下層	中型巻		4.4			"10.3
469 10820q	1403S1	1417SK	内側口縁扉A		8.9	4.1	12.7		544 181r	1200S1別	床直	高杯		20.8	11.0		16.5
470 10819q	1403S1	1417SK	巻			8.3	"8.3		545 181r	1200S1別	床直	巻		19.8			"3.9
471 10819q	1402S1		下層	鉢			"2.6 東瀛江(巻)用系		546 181r	1200S1別	床直	広口扉		21.0			"1.4
472 10819q	1402S1		下層	巻			"3.1		547 181r	1200S1別	床直	高杯		24.6			"3.4
473 10818r	1451SK		加飾広口扉		17.4		"1.7		548 181r	1224S1	下層	巻		22.8			"6.7
474 10818r	1451SK		巻			10.0	"6.6		549 10820r	1224S1	上層	巻		16.4			"3.0
475 10817b	焼出	Ad群	有段口縁巻A		18.4		"3.7		550 181r	1224S1	下層	巻		20.0			"25.0
476 10816b	焼出	Ad群	巻				"2.1		551 181q	1224S1	下層	巻		21.8			"11.8
477 10816b	焼出	Ad群	巻			9.6	"5.4		552 10820r	1224S1	下層	巻		17.4			"3.8
478 10816b	焼出	Ad群	巻				"5.2		553 181q	1224S1	下層	巻		9.0			"6.4
479 10816b	焼出	Ad群	S字巻		14.4		"2.7 A期		554 10820r	1224S1	下層	巻		9.4			"6.7
480 10817b	焼出	Ad群	S字巻		12.4		"5.6 非期古		555 10819a	1224S1	下層	巻		6.8			"4.2
481 10817b	焼出	Ad群	S字巻				"3.0		556 181r	1224S1	下層	巻		6.6			"3.7
482 10819q	焼出	Ad群	弓き巻		4.0		"2.5 近畿系		557 181r	1224S1	下層	巻		6.0			"3.2
483 10817b	焼出	Ad群	折り返し口縁扉		18.2		"3.4 瀛江系		558 181q	1224S1	下層	高杯		23.6			"10.4
484 10814a	焼出	Ad群	折り返し口縁扉		17.8		"2.0 瀛江系		559 181q	1224S1	下層	広口扉		15.6			"8.7
485 10818q	焼出	Ad群	加飾広口扉		16.0		"2.2		560 10820a	1224S1	下層	加飾広口扉		21.6			"5.0
486 10816q	焼出	Ad群	加飾広口扉		28.0		"4.0		561 10819a	1224S1	下層	広口扉		16.0			"3.6
487 10816q	焼出	Ad群	広口扉		16.0		"6.1		562 10820q	1224S1	ベルト	有段折台口縁扉		16.0			"2.4 曲間系
488 10818p	焼出	Ad群	広口扉		12.4		"2.5		563 10820r	1224S1	下層	広口扉		6.4			"3.7
489 10816b	焼出	Ad群	折り返し口縁扉		13.2		"1.4 瀛江系		564 181r	1224S1		平巻		6.0			"3.5
490 10818r	焼出	Ad群	広口扉		16.0		"4.8		565 10820r	1224S1	下層	中型鉢		4.0			"3.2
491 10818p	焼出	Ad群	広口扉		17.0		"5.7		566 181r	1224S1	上層	巻		22.0			"4.0
492 10816p	焼出	Ad群	内側口縁扉A		8.0		"3.5		567 10820r	1224S1	上層	小型巻		3.6			"1.2
493 10818r	焼出	Ad群	小型巻		7.4		"3.8		568 181q	1224S1	上層	加飾広口扉		17.6			"2.5
494 10817b	焼出	Ad群	内側口縁扉B		3.5	2.8	"2.1		569 181r	1224S1	1255SK		8.2			"5.9	
495 10818p	焼出	Ad群	小型巻		3.5	"3.1			570 181q	1240S1	床直	袋状口縁扉		16.0			"2.7
496 10818q	焼出	Ad群	中型鉢		2.2	"4.3			571 181q	1240S1	ベルト	巻		15.6			"4.4
497 10817q	焼出	Ad群	ミニチュア?		3.6	"2.8			572 181q	1240S1	ベルト	梶形高杯A		15.6			"6.3
498 10817p	焼出	Ad群	ワイングラス形高杯		8.8		"5.2		573 181r	1225S1	下層	巻		16.2			"12.6
499 10817b	焼出	Ad群	梶形高杯A		9.8		"6.0		574 181r	1225S1	下層	巻		8.0			"6.5
500 10817b	焼出	Ad群	餅形内側口縁扉				"9.5		575 181r	1225S1	下層	巻		14.8			"13.2
501 10817r	焼出	Ad群	高杯		10.4		"8.2		576 181r	1225S1		巻		19.4			"3.7
502 10817b	焼出	Ad群	高杯		12.8		"6.8		577 10820r	1181S1	床直	有段口縁巻A		17.2			"3.2
503 10817b	焼出	Ad群	高杯		10.6		"7.5		578 10819a	1181S1	彫方	巻		15.4			"4.5
504 10817b	焼出	Ad群	高杯		12.6		"7.8		579 10819a	1181S1	床直	巻		18.4			"3.3
505 10816q	焼出	Ad群	蓋?		長"7.9		幅4.0 高3.5 重"88.9g		580 10820r	1181S1	彫方	巻		6.4			"5.3
506 181p	1270S1		下層		12.0	6.6	14.4		581 10820a	1181S1	上層	巻					"4.6
507 181p	1270S1		下層	加飾広口扉			"7.0		582 10817r	1181S1	彫方	高杯		27.0			"4.0
508 181r	1270S1		高杯			12.2	"11.0		583 10820r	1181S1	彫方	高杯					"3.8
509 181r	1270S1	1340SK	巻		13.4		"4.4		584 10820r	1181S1	床直	高杯					"3.6
510 182p	1250S1	床直	小型巻		6.4	4.4	8.1		585 10819a	1181S1	彫方	パレス系巻		21.6			"4.5
511 181p	1250S1	下層	中型巻		10.0		"4.0		586 10820a	1181S1	床直	龍孔付蓋		9.0	9.0	1.1	"1.1
512 181p	1250S1	下層	広口扉		6.2		"2.8		587 181a	1178S1	彫方	巻		18.4			"4.4
513 181p	1250S1	上層	広口扉		4.2		"2.2		588 181a	1178S1	彫方	広口扉		16.4			"3.0
514 181p	1250S1	上層	広口扉		9.2		"19.7		589 181a	1178S1	彫方	巻		6.0			"3.4
515 181p	1250S1	上層	内側口縁扉A		14.2		"20.4		590 181a	1178S1	彫方	内側口縁扉A		17.6			"3.4
516 182p	1250S1		パレス系巻		15.6		"2.4		591 10820a	1167S1		庄内式巻		17.6			"2.0 近畿系
517 182p	1250S1	下層	小型巻				"4.6		592 10820r	1167S1		広口扉		15.2			"1.7
518 182p	1250S1		小型高杯		9.4		"7.0		593 10820r	1167S1	上層	巻					"9.6
519 181p	1250S1	上層	高杯			8.8	"7.9		594 181a	1167S1	彫方	巻		9.0			"6.7
520 182a	1250S1	上層	小型鉢(陶)		9.6	5.2	6.2		595 10820r	1167S1	彫方	中型巻		4.8			"1.8
521 182p	1250S1		巻		19.2		"5.1		596 10820r	1167S1	彫方	中型巻		5.0			"1.5
522 181p	1250S1	上層	巻		18.4		"5.2		597 10820r	1587SK	Ad群	加飾広口扉		17.2			"1.2
523 181p	1250S1	上層	巻		18.0		"3.2		598 181p	1419SK	Ad群	巻		8.8			"7.4
524 181p	1250S1	上層	巻			7.4	"6.0		599 181r	焼出	Ad群	部種不明		4.2			"2.3
525 181p	1220S1	床直	加飾広口扉		17.6		"3.3		600 1089q	1896S1	床直	巻		19.0			"8.6

登録番号	グリッド	造構	層位等	部種	日経	底径	器高	備考	登録番号	グリッド	造構	層位等	部種	日経	底径	器高	備考
601 10B0q	1896S	下層	加飾広口壺				5.1		676 10B8r	1922S	下層	小型高杯		10.2		7.4	
602 10B0q	1896S	上層	広口壺		11.4		4.6		677 10B8r	1922S	下層	高杯		10.0		9.3	
603 10B0r	1896S	下層	平底甕			3.8	5.5		678 10B8r	1922S	上層	高杯		8.8		7.5	
604 10B0r	1896S	下層	高杯				5.8		679 10B8r	1922S	上層	高杯					5.2
605 10B0r	1896S	1928SK	有段口鉢蓋目		18.4		4.9		680 10B8r	1922S	下層	小型鉢(陶)		5.2		5.2	
606 10B0q	1931S	下層	鉢帯口鉢蓋		18.4		6.0		681 10B8r	1922S	下層	小型鉢(陶)		4.0		7.3	
607 10B0q	1931S	下層	内甕口鉢蓋		13.0		2.0		682 10B8r	1907S	上層	塚状土埴	長2.3	幅2.3	高さ2.3	重4.3g	
608 10B0q	1931S	下層	甕			7.5	6.3		683 10B11r	1917S	底底	甕		9.0		6.2	
609 10B0q	1931S	下層	甕			8.0	5.7		684 10B10r	1917S	底底	甕		10.1		6.4	
610 10B0q	1931S	下層	甕			8.9	5.4		685 10B10r	1917S	下層	甕		7.5		4.7	
611 10B7q	1931S	下層	甕			8.0	5.5		686 10B11r	1917S	下層	甕		11.4		5.9	
612 10B7q	1931S	下層	甕			10.3	6.5		687 10B11r	1917S	下層	小型甕		9.4	3.8	12.9	
613 10B7q	1931S	下層	甕			9.4	6.4		688 10B10r	1917S	上層	加飾広口壺		18.0		2.6	
614 10B8q	1931S	下層	甕			7.7	5.1		689 10B10r	1917S	上層	広口壺			7.7	5.2	
615 10B8q	1931S	下層	高杯		10.3		8.4		690 10B10r	1917S	底底	高杯		23.4		5.4	
616 10B8q	1931S	下層	高杯		9.3		7.1		691 10B11r	1917S	下層	輪郭高杯A		14.6		5.7	
617 10B8q	1931S	底底	輪郭高杯A				7.2		692 10B10r	1917S	下層	輪郭高杯A				5.9	
618 10B7q	1931S	下層	輪郭高杯A		10.0		5.9		693 10B10r	1917S	上層	高杯				6.1	
619 10B8q	1931S	下層	輪郭高杯A		11.0		5.9		694 10B10r	1917S	下層	小型鉢		5.8		6.0	
620 10B8q	1931S	下層	輪郭高杯A		10.0		6.2		695 10B10r	1917S	上層	小型鉢		5.2		5.8	
621 10B8q	1931S	上層	高杯				6.6		696 10B10r	1917S	上層	小型甕		5.0		1.6	
622 10B8q	1931S	底底	小型甕		8.0	5.0	10.6		697 10B10r	1917S	上層	小型鉢(陶)		6.0	4.0	2.5	
623 10B8q	1931S	下層	加飾広口壺		22.0		5.1		698 10B0r	2128S	底底	鳥形土製品	4.1		5.3	重24.4g	
624 10B8q	1931S	下層	加飾広口壺		13.0		1.3		699 10C74	3220S	上層	甕			8.0	5.3	
625 10B8q	1931S	下層	有段口鉢蓋		14.2		4.6		700 10C74	3220S	上層	高杯			13.1	7.3	
626 10B8q	1931S	下層	広口壺			7.0	5.9		701 10C7c	3218S	下層	広口壺		20.0		5.1	
627 10B7q	1931S	下層	広口壺			7.7	5.0		702 10C74	3218S	下層	広口壺			6.2	6.1	
628 10B8q	1931S	下層	広口壺			7.2	2.8		703 10C74	3218S	下層	甕				5.3	
629 10B8q	1931S	トレンチ	広口壺			8.0	3.6		704 10C74	3218S	下層	甕		12.4		5.0	
630 10B8q	1931S	下層	広口壺			7.2	2.0		705 10C8a	1875S	下層	甕		17.2		14.5	
631 10B8q	1931S	上層	広口壺			7.0	2.3		706 10C8a	1875S	下層	広口壺		10.4		10.2	
632 10B8q	1908S	1932SK	内甕口鉢蓋		9.1		2.2		707 10C8a	1875S	下層	広口壺			7.8	4.7	
633 10B0r	1895S	下層	S字甕		14.8		11.1 A類		708 10C8a	1875S	上層	小型鉢(陶)		8.6	4.4	5.3	
634 10B0r	1895S	下層	甕		11.6		4.9		709 10C8a	1875S	上層	内甕口鉢蓋目		3.6		5.9	
635 10B0r	1895S	下層	甕		10.4		2.2		710 10C8a	1875S	上層	広口壺		13.4		5.3	
636 10B0r	1895S	下層	広口壺		6.2		3.1		711 10C8a	1875S	上層	内甕口鉢蓋A			3.8	2.0	
637 10B0r	1895S	下層	内甕口鉢蓋目		8.4		6.3		712 10C7a	1861S	底底	甕		19.8	9.6	20.3	
638 10B0r	1895S	上層	広口壺			6.8	4.1		713 10C7a	1861S	底底	甕		9.9		11.3	
639 10B0r	1895S	上層	小型鉢(陶)			3.2	2.5		714 10C7b	1861S	底底	広口壺		3.4		5.4	
640 10B7s	9066S	下層	広口壺		13.8	9.0	21.8		715 10C7b	1861S	底底	内甕口鉢蓋目		3.6		11.9	
641 10B7s	9066S	下層	小型甕		8.9	5.9	14.2 東瀛江(菊川)系		716 10C7b	1861S	底底	輪郭高杯A	15.0	12.0	10.5		
642 10B7s	9066S	下層	小型甕		10.5	6.5	12.9 東瀛江(菊川)系		717 10C7a	1861S	下層	有段口鉢蓋	18.6			5.9	
643 10B7s	9066S	下層	小型甕			4.2	9.9		718 10C7b	1861S	上層	広口壺				4.9	
644 10B0s	9068S	下層	内甕口鉢蓋C			5.5	6.2		719 10C7a	1861S	上層	小型甕			4.4	3.2	
645 10B7s	9068S	下層	加飾広口壺		16.6		2.1		720 10C7a	1862S	底底	高杯				8.0	
646 10B7s	9068S	下層	高杯		17.8	9.6	16.6		721 10C7a	1862S	底底	内甕口鉢蓋A		4.2		2.4	
647 10B7s	9068S	下層	高杯				5.3		722 10C7a	1862S	上層	広口壺		6.3		7.0	木製痕
648 10B7s	9068S	下層	甕			5.3	5.5		723 10C7a	1862S	上層	甕		6.8		4.5	
649 10B7s	9068S	下層	甕			7.0	4.4		724 10C7a	1862S	側方	甕		17.8		4.5	
650 10B7s	9068S	下層	甕			9.5	7.2		725 10C8b	1860S	上層	小型甕		5.4		5.3	
651 10B7s	9068S	下層	甕			9.6	6.4		726 10C7b	1860S	上層	広口壺		6.4		2.9	
652 10B7s	9068S	1928SK	甕				6.2		727 10C8b	3219S	トレンチ	高杯		13.4		12.6	
653 10B8r	1922S	下層	甕		13.0	6.5	14.7		728 10C8c	3219S	下層	広口壺		7.2		3.5	
654 10B8r	1922S	下層	有段口鉢蓋目		12.0	7.6	18.1		729 10C8b	3219S	トレンチ	小型甕		5.0		2.2	
655 10B8r	1922S	下層	甕		15.2		6.7		730 10C8c	3219S	上層	広口壺		5.0		2.7	
656 10B8r	1922S	下層	甕		21.6		8.2		731 10C10s	1852S	下層	甕		21.8		5.9	
657 10B8r	1922S	下層	内甕口鉢蓋		18.4		5.7		732 10C10s	1852S	下層	甕		13.6		7.4	
658 10B8r	1922S	下層	甕		19.7		7.2		733 10C10s	1852S	下層	甕		8.3		5.8	
659 10B8r	1922S	下層	甕			8.7	9.8		734 10C10s	1852S	上層	甕		6.7		5.2	
660 10B8r	1922S	下層	甕		11.1		7.4		735 10C10s	1852S	下層	小型鉢		5.3		5.7	
661 10B8r	1922S	下層	甕			8.0	5.1		736 10C10s	1852S	上層	小型甕		4.1		5.9	
662 10B8r	1922S	下層	広口壺		16.0		8.2		737 10C10s	1852S	下層	小型甕		4.5		10.7	
663 10B8r	1922S	下層	広口壺		12.2		5.0		738 10C10s	1852S	下層	小型甕		5.0		12.0	
664 10B7r	1922S	下層	広口壺				2.4		739 10C10s	1852S	下層	小型甕		4.6		5.8	
665 10B8r	1922S	下層	広口壺		6.8		4.1		740 10C10s	1852S	下層	小型甕		5.7		2.1	
666 10B8r	1922S	下層	加飾広口壺		18.2		4.3		741 10C10s	1852S	底底	広口壺		14.0		4.5	
667 10B7r	1922S	下層	加飾広口壺				6.9		742 10C10s	1852S	下層	広口壺		6.5		2.4	木製痕
668 10B8r	1922S	上層	パレス系甕				5.0		743 10C10s	1852S	下層	広口壺		6.5		5.4	
669 10B8r	1922S	上層	広口壺		7.2		4.3		744 10C10s	1852S	上層	広口壺		16.3		4.8	
670 10B8r	1922S	上層	加飾広口壺		19.0		4.3		745 10C10s	1852S	上層	広口壺		5.8		5.8	
671 10B8r	1922S	上層	加飾広口壺				5.5		746 10C10s	1852S	トレンチ	高杯		28.0		5.6	
672 10B8r	1922S	下層	高杯		23.8		7.3		747 10C10s	1852S	下層	高杯		18.6		8.1	
673 10B8r	1922S	下層	高杯				5.7		748 10C10s	1852S	下層	高杯		10.0		10.5	
674 10B8r	1922S	下層	高杯				5.5		749 10C10s	1852S	下層	高杯		9.3		9.1	
675 10B8r	1922S	下層	高杯				5.4		750 10C10s	1852S	下層	輪郭高杯A		13.8	9.6	8.5	

登録番号	グランド	遺構	階位等	部種	日積	縦積	高積	備考	登録番号	グランド	遺構	階位等	部種	日積	縦積	高積	備考
751	10C9c	3809S1	床直	高杯	24.2		7.6		826	10B13a	1929S1	下階	有段口縁臺				*17.2 東端江川側
752	10C9f	3809S1	床直	加飾広口臺			9.6		827	10B13q	1929S1	床直	広口臺	15.2			*13.8
753	10C9c	3809S1	上階	内側口縁臺	18.8		2.7		828	10B12a	1929S1	下階	加飾広口臺	23.8			*2.3
754	10C9c	3809S1	上階	内側口縁臺	16.0		2.9		829	10B13a	1929S1	下階	内側口縁臺A	10.0			*5.9
755	10C9c	3809S1	上階	加飾広口臺			5.7		830	10B13a	1929S1	下階	内側口縁臺A	5.0			*3.4
756	10C9f	3810S1	下階	広口臺		6.6	2.8		831	10B13r	1929S1	下階	高杯	25.6			*10.4
757	10C9f	3810S1	上階	広口臺		5.4	3.6		832	10B12a	1929S1	下階	高杯				*6.5
758	10C9f	3810S1	下階	有段口縁臺A	24.6		3.5		833	10B13r	1929S1	床直	高杯		11.4		*10.6
759	10C9g	3810S1	上階	縁帯口縁臺	16.6		3.5		834	10B13a	1929S1	上階	加飾広口臺	18.0			*4.8
760	10C9g	3810S1	上階	縁帯口縁臺	22.0		3.5		835	10B13a	1929S1	上階	新り返し縁臺	15.1			*2.6 端江系
761	10C9g	3810S1	上階	臺	18.4		5.9		836	10B13a	1929S1	上階	広口臺		11.4		*3.0
762	10C9g	3810S1	上階	臺	16.2		3.2		837	10B12a	1929S1	上階	広口臺		7.0		*3.0
763	10C9g	3810S1	上階	臺		8.9	6.7		838	10B13a	1929S1	上階	小形鉢		2.8		*2.7
764	10B11q	1929SK	和扉	小形鉢(和)	7.6	5.3	6.5		839	10B13a	1929S1	上階	梶形高杯A		10.6		*5.6
765	10B9q	1899SK	和扉	中型臺		5.0	3.0		840	10B13a	1929S1	上階	惣成土塊				員5.1 幅4.4 高さ2.5 東端江川側
766	10B10q	1916SK	和扉	加飾広口臺	16.0		4.5		841	10B15a	1276S1	下階	臺	22.4			*20.0
767	10B10q	1916SK	和扉	臺			2.6		842	10B14r	1276S1	下階	臺	20.4			*8.3
768	10B9b	1876SX		臺	15.4		9.7		843	10B13a	1276S1	縁帯口縁臺	17.4				*6.5
769	10B9b	1876SX		臺	6.4		3.7		844	10B13a	1276S1	上階	臺	19.0			*5.5
770	10B8r	1876SX		広口臺	15.0		3.8		845	10B13a	1276S1	上階	臺	17.6			*5.3
771	10B9b	1876SX		広口臺	15.4		4.1		846	10B13a	1276S1	上階	臺	17.4			*3.8
772	10C9a	焼出	和扉	高杯		12.0	8.4		847	10B13a	1276S1	上階	臺	11.0			*7.8
773	10C9a	焼出	和扉	高杯	20.6		11.9		848	10B14a	1276S1	下階	臺	7.7			*5.8
774	10C7f	1900SD	和扉	加飾広口臺			4.4		849	10B13r	1276S1	床直	臺	9.3			*6.6
775	10C11a	焼出	和扉	広口臺		9.0	6.1		850	10B13a	1276S1	下階	臺	8.4			*6.3
776	10C9d	焼出	和扉	手形形上部			5.6		851	10B14r	1276S1	下階	広口臺		8.0		*3.6
777	10C9e	1900SD	和扉	小形鉢(和)		7.0	2.0		852	10B15a	1276S1	上階	加飾広口臺	13.6			*2.4
778	10D10a	1900SD	和扉	有孔鉢	2.9		3.3		853	10B13a	1276S1	下階	広口臺		14.2		*6.1
779	10C9f	1900SD	和扉	臺		7.6	5.6		854	10B13a	1276S1	上階	広口臺		17.4		*4.1
780	10C9c	焼出	和扉	臺		8.8	4.8		855	10B13a	1276S1	上階	中型臺			5.8	*2.2
781	10C9g	焼出	和扉	臺		8.0	6.0		856	10B15a	1276S1	上階	加飾広口臺				*3.2
782	10C9f	1900SD	和扉	臺		10.3	6.2		857	10B12a	1276S1	下階	内側口縁臺A			3.6	*8.1
783	10B12a	1938S1	下階	縁帯土下口縁臺	24.2		3.3		858	10B14a	1276S1	下階	内側口縁臺A	8.2			*4.8
784	10B12a	1938S1	下階	臺			7.0		859	10B12a	1276S1	上階	内側口縁臺		3.8		*2.7
785	10B12a	1938S1	上階	縁帯土下口縁臺	15.0		2.6		860	10B12a	1276S1	上階	中型臺			4.0	*1.7
786	10B12a	1938S1	上階	臺		16.6	8.0		861	10B12a	1276S1	上階	中型臺			5.6	*1.6
787	10B12a	1938S1	下階	臺		7.0	4.6		862	10B12a	1276S1	上階	内側口縁臺B		7.4		*5.5
788	10B12a	1938S1	下階	小形鉢		6.8	4.0	4.6	863	10B12a	1276S1	上階	小形鉢		4.6		*4.6
789	10B13a	1938S1	下階	小形鉢(和)		7.0	3.4	4.1	864	10B14a	1276S1	高杯					*5.8
790	10B12r	1938S1	下階	高杯			5.2		865	10B14a	1276S1	高杯					*5.1
791	10B12a	1938S1	下階	臺		17.6	5.7		866	10B14a	1276S1	高杯					*6.5
792	10B12a	1938S1	下階	高杯			5.8		867	10B14a	1276S1	高杯					*4.8
793	10B12a	1938S1	上階	高杯			5.8		868	10B12a	1276S1	上階	梶形高杯		9.4		*5.4
794	10B12r	1938S1	下階	臺		11.6	3.2		869	10B12a	1276S1	上階	高杯				*7.6
795	10B12a	1938S1	上階	内側口縁臺B		7.0	4.8	9.0	870	10B15a	1276S1	上階	梶形高杯				*5.6
796	10B13a	1938S1	上階	ミニチュア?			4.5		871	10B15a	1474S1	床直	臺		18.0		*19.6
797	10B13r	1938S1	217-4SK	加飾広口臺			17.8		872	10B15a	1474S1	床直	臺				*16.0
798	10B13r	1938S1	217-4SK	有段口縁臺A			22.0		873	10B15a	1474S1	床直	大型(栗系)鉢			6.2	*11.0
799	10B12a	1938S1	2096SK	梶形高杯A		11.3	6.3		874	10B15a	1474S1	床直	梶形高杯A		16.0		*10.3
800	10B12a	1938S1	2096SK	中型臺		10.9	7.0	16.3	875	10B14r	1474S1	高杯					*5.0
801	10B13a	1923S1	上階	内側口縁臺		19.6	2.8		876	10B15a	1474S1	床直	梶形高杯A		10.8		*7.5
802	10B13a	1923S1	下階	臺		24.4	3.0		877	10B15a	1474S1	臺			15.0		*3.9
803	10B13a	1923S1	上階	臺		14.4	6.5		878	10B15a	1338S1	床直	広口臺		14.2		6.0 22.2
804	10B13a	1923S1	上階	臺		9.0	7.1		879	10B15a	1338S1	上階	有段口縁臺		19.8		*5.2
805	10B13a	1923S1	上階	高杯			5.8		880	10B15a	1338S1	上階	有段口縁臺B		15.6		*2.3
806	10B12a	1923S1	上階	加飾広口臺		22.5	1.7		881	10B14a	焼出	Co鉢	加飾広口臺				16.0 *18.7
807	10B12a	1923S1	上階	有段口縁臺		14.2	3.9		882	10B14r	焼出	Co鉢	広口臺				16.2 *4.1
808	10B13a	1923S1	下階	広口臺		13.4	4.3		883	10B12r	焼出	Co鉢	広口臺				*3.6
809	10B13a	1923S1	上階	内側口縁臺A		8.0	3.5		884	10B15r	焼出	Co鉢	内側口縁臺A		5.0		*5.3
810	10B12a	1923S1	上階	中型臺		13.0	5.3		885	10B15r	焼出	Co鉢	内側口縁臺B		4.0		*3.4
811	10B13a	1923S1	下階	ハルス系臺			4.5		886	10B14r	焼出	Co鉢	高杯			9.6	*6.9
812	10B12a	1923S1	上階	内側口縁臺D		4.0	6.5		887	10B13a	焼出	Co鉢	梶形高杯B		10.6		*3.4
813	10B13a	1923S1	上階	広口臺		6.5	3.7 本業直		888	10B16a	1253S1	床直	臺		27.4		*6.4
814	10B12a	1923S1	上階	小形鉢			4.6		889	10B16a	1253S1	床直	臺			7.9	*5.9
815	10B13a	1923S1	上階	小形鉢		4.0	4.2		890	10B16a	1253S1	臺	臺		24.4		*9.3
816	10B13a	1923S1	上階	小形鉢		4.3	3.5		891	10B16a	1253S1	下階	臺		8.2		*5.8
817	10B12a	1923S1	上階	内側口縁臺B		3.8	2.5		892	10B16a	1253S1	下階	縁帯口縁臺		16.0		*9.4
818	10B12a	1923S1	上階	高杯		22.4	4.5		893	10B16a	1253S1	下階	縁帯口縁臺		14.8		*5.3
819	10B13a	1923S1	上階	高杯			4.7		894	10B16a	1253S1	上階	臺		15.6		*6.5
820	10B12a	1923S1	上階	上製縁帯臺		長4.3 幅4.2	高1.9 重18.8kg		895	10B17a	1253S1	下階	小形鉢		10.2		*4.9
821	10B12r	1929S1	床直	臺		19.0	16.0		896	10B16a	1253S1	下階	小形鉢(和)		7.2		4.0 5.6
822	10B13r	1929S1	床直	臺		13.6	17.9		897	10B17a	1253S1	下階	小形鉢(和)		6.0		*4.9
823	10B13r	1929S1	床直	S字臺			8.4	6.0	898	10B16a	1253S1	下階	加飾広口臺		22.0		*2.6
824	10B13a	1929S1	下階	臺			9.8	6.9	899	10B16a	1253S1	下階	広口臺		19.6		*3.1
825	10B12r	1929S1	下階	臺			8.4	5.6	900	10B15a	1253S1	上階	広口臺		8.5		*4.1

登録番号	グランド	通稱	順位等	部種	日程	経年	部高	備考	登録番号	グランド	通稱	順位等	部種	日程	経年	部高	備考
901	10B16	1252S	上層	広口傘		10.9	'43		976	10C18a	1176S	上層	兼		16.4		'37
902	10B16	1253S	床直	高杯	22.2		'69		977	10C18a	1176S	上層	兼		16.0		'32
903	10B16	1253S	床直	高杯			'82		978	10C18a	1176S	下層	中野会系部		5.6		'70
904	10B16	1253S	下層	高杯			'61		979	10C18a	1176S	脱力	広口傘		6.0		'60
905	10B16	1253S	上層	高杯		8.6	'79		980	10C19a	1176S	広口傘		5.6	'56		'58
906	10B17a	1253S	1709SK	兼		16.8	'82		981	10C18a	1176S	下層	新り返し口録兼	18.6			1.6 遠江系
907	10B17a	1253S	1709SK	加齢広口傘			'47		982	10C18a	1176S	下層	加齢広口傘	16.4			'36
908	10B16	1347SX	兼			16.0	'32		983	10C18a	1176S	床直	高杯		8.8		'87
909	10B16	1347SX	広口傘		15.4		'50		984	10C19a	1176S	下層	高杯		9.4		'79
910	10B15a	1347SX	上層	中野会		6.2	'40		985	10C18a	1176S	下層	高杯				'73
911	10B15a	1347SX	上層	内野口録兼A		4.6	'25		986	10C19a	1176S	上層	高杯				'55
912	10B15a	1347SX	広口傘			8.2	'125		987	10C19a	1176S	上層	高杯				'64
913	10B16	1347SX	小型鉢		6.2	'31			988	10C19a	1176S	1206SK	鞍形高杯A	17.6			'31
914	10B16	1347SX	小型鉢(兼)		4.0	'23			989	10C20a	1138S	床直	高杯		26.4		'76
915	10B15a	1347SX	高杯			11.6	'85		990	10C20a	1180S	床直	中野会		4.4		'96
916	10B16	1336X	新り返し口録兼		16.6		'13 遠江系		991	10C20a	1180S	床直	広口傘		7.0		'23
917	10B16	1336X	高杯		18.4		'40		992	10C19a	1180S	下層	広口傘		6.0		'34
918	10B16	1378S	下層	兼		7.8	'45		993	10C19a	1180S	下層	中野会		5.0		'27
919	10B16	1378S	上層	兼		11.8	'53		994	10C19a	1180S	下層	中野会		6.0		'24
920	10B16	1378S	上層	高杯		15.8	'44		995	10C19a	1180S	下層	広口傘		17.6		'28
921	10B16	1378S	1502SK	高杯			'64		996	10C19a	1180S	下層	加齢広口傘				'47
922	10B16	1378S	1779SK	高杯			'47		997	10C19a	1180S	下層	高杯				'53
923	10B15a	1349S	下層	中野会		4.4	'32		998	10C19a	1180S	下層	兼		9.4		'63
924	10B16	1349S	下層	中野会		5.2	'26		999	10C19a	1180S	上層	中野会		4.6		'37
925	10B15a	1349S	上層	鞍形高杯			'39		1000	10C19a	1180S	上層	広口傘	12.8			'45
926	10B16	1349S	上層	兼		9.4	'55		1001	10C19a	1180S	上層	加齢広口傘				'21
927	10B15a	1349S	上層	録音口録兼		16.0	'29		1002	10C19a	1180S	上層	高杯				'73
928	10B16	1349S	1728SK	内野口録兼		17.4	'35		1003	10C19a	1180S	上層	小型鉢(兼)	6.1	4.2		4.5
929	10B16	1348S	下層	兼		16.4	'230		1004	10C18a	1211SK	Cb部	兼				'25
930	10B17a	1348S	下層	兼		10.0	'64		1005	10B16	1780SK	Cb部	中野会		4.2		'25
931	10B17a	1348S	下層	中野会		4.0	'24		1006	10B16	1797SK	Cb部	中野会		5.5	'33	
932	10B17a	1348S	下層	広口傘		8.0	'35		1007	10B17a	1718SK	Cb部	兼	17.4			'25
933	10B17a	1348S	上層	小型鉢(兼)		5.6	3.6		1008	10B16	1686SK	Cb部	中野会				'30
934	10B17	1220S	下層	有段口録兼		15.4	'109		1009	10B16	1686SK	Cb部	S子兼	18.4			'14 B新設
935	10B18	1220S	下層	広口傘		7.6	'32		1010	10B16	検出	Cb部	録音口録兼		24.0		'72
936	10B17	1220S	下層	中野会		4.8	'17		1011	10C19a	検出	Cb部	内野口録兼	12.6			'62
937	10B17	1220S	下層	録音口録兼		23.4	'30		1012	10B16	検出	Cb部	新+洋室兼	16.4			'46
938	10B17	1231S	床直	兼		8.6	'63		1013	10B17a	検出	Cb部	加齢広口傘	18.0			'35
939	10B17	1231S	床直	兼		9.0	'63		1014	10C18a	検出	Cb部	高杯		11.2		'100
940	10B17	1231S	床直	兼		9.4	'71		1015	10C12a	1894S	下層	兼		24.0		'186
941	10B17	1231S	床直	兼		9.0	'68		1016	10C13a	1894S	下層	高杯		21.5		10.8 '178
942	10B17	1231S	床直	小型鉢(兼)		9.2	3.6	'34	1017	10C13a	1894S	下層	録音口録兼		20.2		'47
943	10B17	1231S	床直	小型鉢		4.2	'65		1018	10C12a	1894S	下層	内野口録兼	12.0			'49
944	10B17	1231S	床直	高杯			'112		1019	10C13a	1894S	下層	兼		17.0		'28
945	10B17	1231S	下層	兼		7.6	'59		1020	10C13a	1894S	下層	兼		13.6		'50
946	10B18	1231S	ベント	兼		8.8	'64		1021	10C13a	1894S	下層	内野口録兼	13.2			'48
947	10B17	1231S	上層	兼		8.4	'50		1022	10C13a	1894S	下層	兼		8.2		'47
948	10B17	1231S	上層	小型鉢		16.0	'59		1023	10C12a	1894S	下層	兼		6.6		'40
949	10B18	1231S	ベント	小型鉢		4.8	'44		1024	10C13a	1894S	下層	広口傘	18.0			'48
950	10B17	1231S	上層	高杯			'45		1025	10C12a	1894S	下層	鞍形高杯A				'47
951	10B17	1231S	上層	広口傘		8.0	'32 水室取		1026	10C13a	1894S	下層	高杯				'53
952	10B17	1231S	上層	広口傘		5.8	'17		1027	10C12a	1894S	床直	小型鉢(兼)		4.3		'31
953	10C17a	1223S	床直	広口傘		8.0	'55		1028	10C12a	1894S	上層	中野会		4.6		'18
954	10C18a	1223S	床直	広口傘		9.8	'35		1029	10C12a	1918S	床直	パレス系兼				'110
955	10C17a	1223S	下層	鞍形高杯A		10.0	'84		1030	10C12a	1918S	床直	広口傘		7.1		'140
956	10C18a	1223S	1294SK	有段口録兼B		29.4	'88		1031	10C12a	1918S	床直	兼		8.0		'42
957	10C18a	1223S	1294SK	鞍形高杯A		11.2	11.6	10.1	1032	10C12a	1918S	床直	高杯				'53
958	10C18a	1223S	1294SK	広口傘		13.4	'38		1033	10C12a	1918S	上層	中野会		5.0		'17
959	10C18b	1207SX	床直	広口傘		12.4	'29		1034	10B12a	1918S	2107SK	内野口録兼A	6.9	3.6		10.6
960	10B18	1207SX	下層	兼		8.2	'55		1035	10C14a	1218S	床直	鞍形高杯A	15.8			'54
961	10C18a	1207SX	上層	兼			'38		1036	10B13a	1897S	高杯	高杯				'45
962	10C18a	1207SX	上層	高杯			'47		1037	10B13a	1897S	小型鉢(兼)		4.4			'27
963	10C18a	1207SX	上層	高杯			'46		1038	10C13a	1218S	下層	兼	29.6			'53
964	10C18b	1207SX	上層	高杯			'60		1039	10C14a	1975S	録音口録兼		11.6			'69
965	10C18a	1271S	下層	蔵ね上げ口録兼		20.0	'63		1040	10C13a	1975S	ベント	兼	21.2			'71
966	10C18a	1271S	ベント	兼		19.8	'31		1041	10C13a	1975S	下層	内野口録兼	13.8			'60
967	10C18a	1271S	小型鉢			4.6	'26		1042	10B13a	1975S	上層	有段口録兼B	20.4			'39
968	10B18	1271S	上層	小型鉢		5.3	'31		1043	10B14a	1975S	上層	兼	17.6			'27
969	10C14a	1269SK	Cc部	パレス系兼		22.0	'15		1044	10C14a	1975S	上層	兼	6.5			'40
970	10C14a	1269SK	Cc部	録音口録兼		15.4	'36		1045	10C13a	1975S	上層	兼	5.4			'32
971	10B18	1271S	1334SK	平置き		6.4	'49		1046	10B13a	1975S	上層	平置き		3.8		'27
972	10C19a	1176S	下層	兼		19.4	'44		1047	10C14a	1975S	脱力	有孔鉢		5.6		'26
973	10C19a	1176S	下層	兼		23.2	'47		1048	10C13a	1975S	下層	加齢広口傘	22.6			'40
974	10C19a	1176S	下層	兼		8.0	'59		1049	10B15a	1975S	ベント	加齢広口傘	17.2			'28
975	10C19a	1176S	上層	兼		21.6	'67		1050	10C14a	1975S	下層	加齢広口傘	18.4			'38

登録番号	グラッド	遺構	階位等	部種	日経	経緯	高さ	備考	登録番号	グラッド	遺構	階位等	部種	日経	経緯	高さ	備考
1051	10B13b	11975I	下層	広口壘	16.6		"4.1		1126	10C13b	10025D	上層	広口壘	12.0		"3.0	
1052	10C14a	11975I	下層	新り返し口縁壘	17.2		"3.8 遠江系		1127	10C13a	10025D		広口壘	16.6		"4.3	
1053	10C14a	11975I	上層	ハルス系壘	18.4		"1.7		1128	10C13a	10025D		広口壘	12.6	6.3	16.5	
1054	10C14a	11975I	上層	広口壘	16.8		"4.0		1129	10C13a	10025D		広口壘	11.6		"1.9	
1055	10B14a	11975I	下層	広口壘	8.6		"5.8 惣成段築部守孔		1130	10C12a	10025D		広口壘			"7.1	
1056	10C14a	11975I	上層	広口壘	6.2		"2.7		1131	10C13a	10025D		広口壘	7.4		"13.0	
1057	10C14a	11975I	トレンチ	広口壘			"5.4 東遠江(巻川)系		1132	10C13a	10025D		広口壘	6.8		"5.6	
1058	10C14a	11975I	上層	広口壘	14.6		"5.1		1133	10C13a	10025D		広口壘	9.0		"12.3	
1059	10B13b	11975I	上層	広口壘	6.0		"3.7		1134	10C13a	10025D		広口壘	7.6		"5.5	
1060	10B13b	11975I	上層	広口壘	7.6		"2.8		1135	10B12f	10025D	上層	広口壘	6.4		"2.7 部守孔	
1061	10B13b	11975I	上層	広口壘	6.8		"2.8		1136	10C12a	10025D		広口壘	7.6		"3.6	
1062	10C14a	11975I	上層	広口壘			"3.0		1137	10C13a	10025D		広口壘	4.0		"2.4	
1063	10C13a	11975I	下層	中壘壘	3.6		"3.5		1138	10C13a	10025D		広口壘	4.8		"2.5	
1064	10C13a	11975I	下層	中壘壘	5.4		"3.5		1139	10C13a	10025D	上層	広口壘	7.0		"2.4 本壘痕	
1065	10C13a	11975I	下層	中壘壘	4.2		"2.0		1140	10C13a	10025D	下層	広口壘	3.9		"2.4	
1066	10C14a	11975I	下層	中壘壘	4.6		"2.2		1141	10C12a	10025D	下層	内側口縁壘A	13.2		"4.6	
1067	10C14a	11975I	上層	中壘壘	5.4		"1.8		1142	10C13a	10025D	下層	内側口縁壘A	4.8		"6.9	
1068	10C14a	11975I	上層	小型特殊壘	3.8		"2.7		1143	10C13a	10025D		高杯	22.0		"16.7	
1069	10C14a	11975I	観方	中壘壘	4.4		"2.1		1144	10B14f	観出	Cc群	高杯			"3.7 棟状浮文	
1070	10C14a	11975I	下層	高杯	21.8		"9.1		1145	10C13a	10025D		高杯	25.2		"1.0	
1071	10C13a	11975I	下層	高杯	19.4		"6.2		1146	10B14f	10025D	上層	高杯	29.4		"7.1	
1072	10C13a	11975I	下層	高杯	18.0		"7.1		1147	10C13a	10025D		高杯			"13.7	
1073	10B14f	11975I		高杯	8.1		"7.2		1148	10C13a	10025D		高杯	11.5		"12.7	
1074	10B13b	11975I	下層	高杯	10.2		"8.8		1149	10C13a	10025D		高杯	11.2		"10.7	
1075	10B13b	11975I	上層	高杯	11.0		"8.4		1150	10C13a	10025D		高杯	12.4		"10.8	
1076	10B14f	11975I	上層	高杯	9.0		"8.5		1151	10C13a	10025D		高杯	12.0		"10.9	
1077	10C13a	11975I	下層	櫛形高杯A			"4.7		1152	10C12a	10025D	下層	高杯	10.2		"7.3	
1078	10C14a	11975I	下層	櫛形高杯A	10.8		"6.4		1153	10C13a	10025D		縁帯口縁壘(株)	14.4		"10.0	
1079	10C14a	11975I	ベレット	惣成粘土塊	縦6.6	縦3.6	高さ3.5	重63.2g	1154	10C13a	10025D	下層	縁帯口縁壘(株)	12.0		"3.5	
1080	10C13a	10025D		壘	14.6		"21.1		1155	10B12f	10025D	上層	中壘壘	5.2		"5.0	
1081	10C13a	10025D		有段口縁壘A	20.4		"9.0		1156	10C12a	10025D	上層	中壘壘	4.7		"3.0	
1082	10C13a	10025D	上層	有段口縁壘B	17.2		"2.8		1157	10C13a	10025D		小型壘	4.2		"5.2	
1083	10C13a	10025D		有段口縁壘B	18.2		"5.7		1158	10C13a	10025D		小型壘	2.9		"4.2	
1084	10C13a	10025D		壘	27.2		"8.1		1159	10C13a	10025D	上層	小型壘	3.2		"2.5	
1085	10C13a	10025D		壘	23.2		"9.7		1160	10B12f	10025D	上層	惣形土器	8.6	5.4	3.0	本製行跡の転写
1086	10C13a	10025D		壘	21.6		"10.9		1161	10C14a	10025D		塚状土層	縦2.8	縦2.7	重16.6g	
1087	10C13a	10025D		壘	20.0		"10.5		1162	10C14a	10025D		塚状土層	縦2.8	縦2.8	重6.6g	
1088	10C13a	10025D		壘	19.6		"16.4		1163	10B12f	10025D	上層	惣成粘土塊	縦9.7	縦6.8	重4.5	重170.2g
1089	10C13a	10025D		壘	20.6		"8.5		1164	10B14f	15945K	Cc群	高杯	10.1		"6.5	
1090	10C13a	10025D		壘			"4.0		1165	10C16a	12515I	床瓦	高杯	13.8		"15.2	
1091	10C13a	10025D		壘	16.8		"12.5		1166	10C16a	12515I	床瓦	小型壘	5.4		"2.7	
1092	10C13a	10025D	下層	壘	19.6		"7.7		1167	10C16a	12515I		突状口縁壘	12.2		"2.9	
1093	10C13a	10025D		壘	15.4		"15.4		1168	10C15a	12525I	床瓦	小型壘	2.4		"2.5	
1094	10C13a	10025D		壘	16.2		"9.0		1169	10C15a	12525I	上層	小型壘	3.8		"2.5	
1095	10C14a	10025D		壘	8.8		"7.3		1170	10C15a	12525I		ハルス系壘			"6.6	
1096	10C12b	10025D	上層	壘	7.6		"5.0		1171	10C15a	11998I		加飾広口壘			"6.7	
1097	10C13a	10025D		壘	6.4		"6.1		1172	10C15a	11578I	床瓦	髷ッ坪壘壘			"3.2	
1098	10C13a	10025D		壘	9.0		"5.5		1173	10C16a	11578I	床瓦	高杯	20.1		"6.1	
1099	10C13a	10025D		壘	8.4		"9.1		1174	10C15a	11578I	床瓦	高杯			10.0	"9.5
1100	10C13a	10025D		壘	9.2		"7.2		1175	10C15a	11578I	下層	小型高杯			7.1	"6.3
1101	10C12b	10025D	上層	壘	8.4		"6.6		1176	10C15a	11578I	下層	新り返し口縁壘	16.6		"1.7 遠江系	
1102	10C13a	10025D		壘	9.2		"5.7		1177	10C15a	11578I	下層	広口壘	4.6		"2.1	
1103	10C13b	10025D	上層	壘	8.2		"6.0		1178	10C15a	11578I	上層	加飾広口壘			"2.6	
1104	10C13a	10025D		壘	8.8		"5.6		1179	10C16a	11578I	上層	小型壘	4.2		"2.4	
1105	10C13a	10025D		壘	7.2		"4.4		1180	10C15a	11578I	上層	小型壘	4.2		"2.4	
1106	10C14a	10025D		壘	9.2		"4.8		1181	10C15a	11578I	上層	壘	7.0		"3.9	
1107	10C13a	10025D		加飾広口壘	17.6		"2.6		1182	10C16a	11578I	上層	壘	7.0		"5.7	
1108	10C13a	10025D	下層	加飾広口壘	21.0		"2.9		1183	10C16a	11578I	上層	壘	15.0		"11.0	
1109	10C13a	10025D		加飾広口壘	18.6		"7.9		1184	10C16b	13315I	床瓦	壘	14.8		"10.4	
1110	10C13a	10025D		加飾広口壘			"7.5		1185	10C17b	13315I	床瓦	壘	13.8	6.6	16.9	
1111	10C12a	10025D		加飾広口壘			"9.5		1186	10C16b	13315I	床瓦	壘	16.0		"10.1	
1112	10C13a	10025D		加飾広口壘			"16.5		1187	10C16b	13315I	床瓦	壘	16.0		"9.1	
1113	10C13a	10025D		加飾広口壘			"17.0		1188	10C16b	13315I	床瓦	S字溝			10.4	"4.7
1114	10C13a	10025D		加飾広口壘	26.0		"2.5 口縁部積層断面		1189	10C16a	13315I	床瓦	壘	7.8		"6.3	
1115	10C13a	10025D	下層	新り返し口縁壘	15.2		"3.7 遠江系		1190	10C16b	13315I	床瓦	壘			"5.1	
1116	10C12a	10025D	下層	新り返し口縁壘	23.4		"1.0 遠江系		1191	10C17b	13315I	床瓦	壘			5.0	"3.9
1117	10C13a	10025D	上層	壘			"4.3 東遠江(巻川)系		1192	10C16a	13315I	上層	壘	16.4		"4.2	
1118	10C13a	10025D		広口壘	16.2		"10.1		1193	10C17b	13315I	床瓦	平底壘	10.0	5.4	12.0	
1119	10C13a	10025D		広口壘	14.2		"11.5		1194	10C16b	13315I	トレンチ	叩き壘	12.4		"6.3	
1120	10C12a	10025D		広口壘	13.8		"13.7		1195	10C17b	13315I	ベレット	叩き壘			4.0	"3.0
1121	10C13b	10025D	上層	広口壘	18.0		"4.0		1196	10C16b	13315I	床瓦	加飾広口壘	18.0		"2.3	
1122	10C13a	10025D		広口壘	16.4		"3.7		1197	10C17b	13315I	上層	加飾広口壘			"1.8	
1123	10C12a	10025D	下層	広口壘	11.0		"1.8		1198	10C16a	13315I	床瓦	加飾広口壘	9.0		"3.5	
1124	10C12a	10025D	下層	広口壘	11.0		"2.2		1199	10C16b	13315I	上層	加飾広口壘			"2.8	
1125	10C12a	10025D	上層	広口壘	11.6		"2.0		1200	10C17b	13315I	ベレット	広口壘	7.4		"2.7 継孔	

登録番号	グッド	遺構	層位等	部種	日付	形状	器高	備考	登録番号	グッド	遺構	層位等	部種	日付	形状	器高	備考		
1201	10C16b	1331S	床直	広口短頸甕				"2.8 紐孔	1276	10C19c	3007S	上層	中頸甕				4.0	"2.2	
1202	10C16a	1331S	床直	中頸鉢		5.2	"4.7		1277	10C19c	3007S	上層	内頸口録兼B				4.0	"1.5	
1203	10C17b	1331S	床直	中頸甕		4.6	"1.7		1278	10C19c	3007S	下層	甕				17.4	"4.3	
1204	10C16a	1331S	床直	中頸甕		3.8	"2.4		1279	10C19c	3007S	上層	甕				15.6	"4.2	
1205	10C16b	1331S	床直	中頸甕		9.2	"9.2		1280	10C19c	3007S	トレンチ	甕				7.5	"6.8	
1206	10C17b	1331S	床直	中頸甕		5.0	"16.8		1281	10C19c	3007S	トレンチ	甕				6.3	"3.3	
1207	10C17b	1331S	ベルト	中頸甕		4.8	"3.7		1282	10C19d	3026S	床直	広口甕				7.0	"2.4	
1208	10C16a	1331S	上層	中頸鉢		9.2	"4.4		1283	10C19d	3026S	下層	甕				9.4	"6.8	
1209	10C16b	1331S	上層	小型鉢		3.4	"2.5		1284	10C19d	3006S	下層	甕				7.8	"7.1	
1210	10C16b	1331S	上層	小型鉢(陶)		4.0	"2.2		1285	10C19d	3026S	下層	高杯					"6.3	
1211	10C16a	1331S	上層	中頸甕		5.0	"2.4		1286	10C19d	3006S	上層	高杯				8.4	"7.0	
1212	10C16a	1331S	上層	広口甕		4.4	"2.7		1287	10C19d	3026S	上層	広口甕				21.8	"5.7	
1213	10C16a	1331S	床直	高杯			"4.8		1288	10C19d	3006S	床直	甕				18.0	"15.5	
1214	10C16b	1331S	床直	高杯			"4.9		1289	10C19d	3006S	床直	甕					7.5	"6.0
1215	10C16a	1331S	床直	甕		8.0	"6.6		1290	10C20d	3006S	床直	甕				8.5	"6.7	
1216	10C16a	1331S	上層	高杯			"6.7		1291	10C19d	3006S	床直	甕					7.3	"5.7
1217	10C17b	1196S	床直	高杯			"4.6		1292	10C19d	3006S	床直	高杯			22.0	11.0	18.3	
1218	10C17b	1196S	下層	高杯			"6.6		1293	10C19d	3006S	床直	加飾広口甕				14.5	"14.2	
1219	10C17b	1196S	下層	高杯			"7.3		1294	10C19d	3006S	床直	加飾広口甕			22.0	"4.9		
1220	10C17b	1196S	下層	髹髹高杯A		12.2	"6.7		1295	10C20d	3006S	床直	広口甕				7.6	"4.8	
1221	10C17b	1196S	ベルト	高杯		26.4	"3.1 1152S1		1296	10C19d	3006S	下層	高杯				9.0	"8.7	
1222	10C17b	1196S	ベルト	小型鉢		4.0	"2.4 1152S1		1297	10C19d	3006S	下層	小型高杯				16.2	"6.2	
1223	10C17b	1152S	下層	甕		23.0	"4.5		1298	10C19d	3006S	下層	広口甕				17.8	"3.2	
1224	10C17b	1152S	ベルト	甕			"5.4		1299	10C19d	3026S	下層	S字甕				10.0	"3.8	
1225	10C17b	1152S		有段浅鉢		23.2	"6.9		1300	10C19d	3006S	上層	中頸鉢				12.2	"5.4	
1226	10C17b	1152S		小型鉢		8.0	4.4 5.6		1301	10C19d	3006S	上層	甕				19.4	"3.9	
1227	10C17b	1152S		内頸口録兼A		2.8	"2.4		1302	10C19d	3006S	上層	内頸口録兼A				4.0	"3.9	
1228	10C17b	1152S		中頸甕		5.4	"2.7		1303	10C19d	3006S	上層	中頸甕				7.4	"1.4	
1229	10C17b	1152S		ハリス系甕		13.6	"3.5		1304	10C19d	3006S	上層	中頸甕				4.8	"1.8	
1230	10C17b	1152S		加飾広口甕		14.4	"5.2		1305	10C19d	3006S	上層	中頸甕				5.8	"2.3	
1231	10C17b	1152S	下層	広口甕		13.2	"4.2		1306	10C19d	3006S	上層	中頸甕				7.8	"2.7	
1232	10C17b	1152S	ベルト	高杯			"4.4		1307	10C19f	3082S	下層	中頸甕				4.3	"4.6	
1233	10C17b	1152S		高杯			"5.9		1308	10C19f	3082S	トレンチ	小型甕				3.4	"3.3	
1234	10C17a	1732S	床直	中頸鉢		9.8	4.0 8.2		1309	10C18f	3077SK	Ge群	甕				18.8	"3.1	
1235	10C16a	1732S	下層	中頸甕		10.2	"2.6		1310	10C18f	3077SK	Ge群	広口甕				8.2	"2.4	
1236	10C16a	1732S	下層	小型鉢(陶)		3.6	"2.3		1311	10C18f	3077SK	Ge群	甕				9.3	"7.3	
1237	10C17a	1732S	下層	小型鉢(陶)		4.6	"2.4		1312	10C18f	3021SK	Ge群	甕				8.3	"6.9	
1238	10C16a	1732S	下層	縁部口録兼		12.2	"2.5		1313	10C19f	3021SK	Ge群	高杯					"7.1	
1239	10C16a	1732S	下層	有段口録兼A		11.0	"5.2		1314	10C12b	1873S	上層	高杯					"6.7	
1240	10C16a	1732S	下層	有段口録兼B		15.6	"4.7		1315	10C13b	1873S	ベルト	広口甕				8.0	"4.8	
1241	10C16a	1732S	下層	有段口録兼B		12.4	"5.5		1316	10C13b	1873S	上層	広口甕				6.4	"2.3	
1242	10C16b	1732S	下層	髹髹高杯B			"2.9		1317	10B13b	1873S	1892SK	甕				19.2	"15.0	
1243	10C15a	1607NK	Cd群	高杯		"11.4			1318	10C14a	1872S	床直	高杯				8.8	"8.6	
1244	10C16b	1195NK	Cd群	甕		14.0	"3.3		1319	10C14a	1872S	床直	小型高杯				14.6	"9.5	
1245	10C16a	1569NK	Cd群	有段口録兼A		11.8	"2.1		1320	10C13c	1872S	下層	高杯				21.2	"3.9	
1246	10C18b	1233NK	Cd群	中頸甕		6.4	"2.9		1321	10C13c	1872S	下層	加飾広口甕				16.0	"4.2	
1247	10C18c	3029NK	Cd群	広口甕		7.2	"3.1		1322	10C13c	1872S	下層	内頸口録兼A				8.4	"4.3	
1248	10C18c	3008SD	Cd群	折り返し口録兼		15.6	"5.0 遼江系		1323	10C13c	1872S	上層	高杯					"8.2	
1249	10C17b	1002SD	上層	甕		19.4	"3.0		1324	10C13c	1872S	上層	高杯				26.4	"3.6	
1250	10C16a	横出	Cd群	有段口録兼B		15.2	"4.5		1325	10C14a	1872S	上層	甕					"2.6	
1251	10C17b	1002SD		甕		8.8	"4.4		1326	10C14a	1872S	上層	甕					"2.6	
1252	10C15b	1002SD		広口甕		15.2	"4.3		1327	10C13c	1872S	上層	中頸甕				6.0	"2.5	
1253	10C16a	横出	Cd群	折り返し口録兼		12.6	"2.5 遼江系		1328	10C13c	1872S	上層	加飾広口甕					"4.2	
1254	10C15b	1002SD		広口甕		6.0	"2.8		1329	10C13c	1872S	4887SK	高杯				22.8	"7.0	
1255	10C17b	1002SD	上層	小型鉢(陶)		4.2	"3.7		1330	10C15c	1139S	上層	小型鉢				11.4	3.2	"3.6
1256	10C17b	1002SD	上層	小型鉢(陶)		9.2	5.0 4.3		1331	10C15c	1139S	4920SK	甕				21.4	"3.5	
1257	10C15b	1002SD		高杯		8.1	"8.3		1332	10C15c	1140S	下層	高杯					"5.0	
1258	10C19c	3007S	下層	髹髹高杯A			"6.2		1333	10C15c	1140S	下層	高杯				23.0	"4.2	
1259	10C19c	3007S	下層	髹髹高杯A		10.3	"7.6		1334	10C15c	1140S	下層	高杯					"5.0	
1260	10C19c	3007S	下層	高杯			"4.9		1335	10C15c	1140S	下層	髹髹高杯A					"4.3	
1261	10C19c	3007S	下層	髹髹高杯A			"5.3		1336	10C14c	1140S	下層	有段口録兼A				19.0	"1.7	
1262	10C19c	3007S	下層	小型鉢		8.2	"4.2		1337	10C15c	1140S	下層	内頸口録兼A				16.4	"6.6	
1263	10C19d	3007S	下層	広口甕		15.8	"3.2		1338	10C14c	1140S	下層	小型甕				4.0	"2.9	
1264	10C19c	3007S	下層	広口甕		17.6	"3.6		1339	10C14c	1140S	上層	中頸甕				5.0	"2.7	
1265	10C19c	3007S	下層	広口甕		15.4	"2.2		1340	10C14c	1140S	上層	加飾広口甕					"1.2	
1266	10C19c	3007S	下層	広口甕		12.0	"4.6		1341	10C14c	1140S	上層	加飾広口甕				18.4	"2.0	
1267	10C19c	3007S	上層	折り返し口録兼		18.0	"3.6 遼江系		1342	10C14c	1140S	上層	広口甕					"5.9 東遼江(菊川系)	
1268	10C19c	3007S	上層	折り返し口録兼		17.8	"1.8 遼江系		1343	10C15c	3034S	床直	小型高杯				12.6	"5.0	
1269	10C19c	3007S	床直	広口甕		6.2	"6.4		1344	10C15c	3034S	床直	小型鉢(陶)				5.6	3.1 3.8	
1270	10C19c	3007S	上層	広口甕		6.6	"3.8		1345	10C15c	3034S	床直	内頸口録兼C				4.9	"4.1	
1271	10C19c	3007S	上層	広口甕		7.6	"4.6		1346	10C15c	3034S	甕	内頸口録兼A				9.6	"4.3	
1272	10C19c	3007S	下層	広口甕		7.5	"3.3		1347	10C15c	3034S	トレンチ	甕				7.7	"4.9	
1273	10C19d	3007S	下層	広口甕		6.0	"2.2		1348	10C15c	3034S	上層	甕				8.8	"5.2	
1274	10C19c	3007S	下層	内頸口録兼A		3.8	"2.3		1349	10C15c	3034S	上層	甕				6.0	"4.6	
1275	10C19c	3007S	上層	中頸甕		5.6	"2.2		1350	10C15c	3034S	上層	甕				5.8	"3.7	

登録番号	グッド	遺構	階位等	部種	日積	経積	部高	備考	登録番号	グッド	遺構	階位等	部種	日積	経積	部高	備考
1351	10C154	3042S1	床直	梶形高杯A			"8.0		1426	10C134	4362S1	床直	高杯				"6.1
1352	10C154	3042S1	上層	S字溝	12.4		"1.9	A類	1427	10C134	4362S1	下層	広口壺	14.0			"4.2
1353	10C164	3003S1	下層	内筒口縁部C	4.2		"1.7		1428	10C134	4362S1	下層	加飾広口壺	19.8			"2.4
1354	10C164	3003S1	下層	広口壺	8.3		"3.0		1429	10C134	4362S1	上層	高杯				"7.1
1355	10C174	3003S1	下層	高杯			"5.5		1430	10C134	4362S1	上層	広口壺	5.2			"1.7
1356	10C164	3003S1	上層	溝		7.2	"4.5		1431	10C124	4362S1	上層	溝	21.8			"5.2
1357	10C164	3003S1	上層	高杯	24.2		"2.4		1432	10C134	4362S1	前方	埴状土塊		102.1	高1.6	重10.7g
1358	10C164	3003S1	上層	溝	24.8		"9.8		1433	10C144	4362S1	4551SK	高杯	22.4			"6.0
1359	10C164	3003S1	上層	有段口縁部B	15.4		"1.4		1434	10C144	4362S1	4551SK	溝				"7.9
1360	10C174	3027S1	床直	広口壺	17.2		"4.8		1435	10C141	3128S1	床直	高杯				"10.0
1361	10C174	3027S1	床直	広口壺		7.6	"3.0		1436	10C141	3128S1	床直	小型鉢	4.7			"5.1
1362	10C174	3027S1	上層	加飾広口壺	17.2		"2.2		1437	10C124	3556S1	床直	広口壺	6.6			"5.9
1363	10C174	3027S1		加飾広口壺			"14.6		1438	10C124	3556S1	下層	広口壺	6.2			"2.1
1364	10C174	3027S1		小型壺	3.6		"2.0	底部縁部	1439	10C124	3556S1	下層	広口壺	5.4			"4.1
1365	10C174	3027S1	前方	小型鉢	6.6	3.0	4.4		1440	10C124	3556S1	下層	溝	13.6			"9.1
1366	10C174	3027S1	下層	高杯			"6.7		1441	10C124	3556S1	下層	溝	16.0			"12.5
1367	10C174	3027S1	下層	叩き臺			"4.0	3005S1と同一	1442	10C154	3004S1	下層	高杯	20.4			"4.0
1368	10C174	3027S1		3413SK	9.0		"6.0		1443	10C154	3004S1	下層	高杯				"5.1
1369	10C164	3028S1	前方	小型壺	5.6		"1.7		1444	10C154	3004S1	下層	梶形高杯A	13.6	10.2	11.5	
1370	10C174	3002S1	下層	胎合			"3.0		1445	10C154	3004S1	下層	溝	8.3			"5.1
1371	10C174	3002S1	下層	高杯			"6.6		1446	10C154	3004S1	下層	溝	7.2			"5.9
1372	10C174	3002S1	下層	高杯			"3.0		1447	10C154	3004S1	下層	小型鉢	4.1	4.5	6.8	
1373	10C174	3002S1	上層	高杯			"3.7		1448	10C154	3004S1	下層	小型鉢(溝)	4.2	3.4	4.3	
1374	10C174	3002S1	下層	溝		5.7	"3.9		1449	10C154	3004S1	下層	小型鉢(溝)	2.6			"2.4
1375	10C174	3002S1	下層	溝			"3.9		1450	10C154	3004S1	下層	広口壺	6.4			"2.0
1376	10C174	3002S1		トレンチ	8.6		"5.4		1451	10C154	3004S1	上層	広口壺	5.8			"3.2
1377	10C174	3002S1	上層	溝	15.6		"3.3		1452	10C154	3029S1	床直	縁部口縁部	22.0			"9.7
1378	10C174	3002S1	下層	広口壺	19.4		"1.2		1453	10C144	3029S1	下層	小型壺	4.0			"1.1
1379	10C174	3002S1	下層	内筒口縁部A	15.0		"4.6		1454	10C154	3029S1	下層	小型鉢(溝)	3.2			"2.4
1380	10C174	3002S1	上層	中型壺		5.6	"1.9		1455	10C144	3029S1	上層	加飾広口壺	19.6			"1.8
1381	10C174	3002S1	上層	小型壺		5.2	"5.5		1456	10C144	3029S1	上層	加飾広口壺	18.0			"5.2
1382	10C174	3002S1	床直	不明土製品	1.4		"1.8	重5.0g	1457	10C144	3029S1	上層	有段口縁部A	18.0			"2.9
1383	10C174	3002S1	床直	埴状土塊	102.9	10.0	21.8	重23.4g	1458	10C154	3029S1	上層	溝	7.3			"3.9
1384	10C174	5100SB	3003SK	広口壺	6.6		"7.2		1459	10C154	3029S1	上層	溝	7.7			"5.8
1385	10C154	4999SK	D6部	広口壺	6.2		"3.1		1460	10C144	3029S1	上層	高杯	7.3			"6.3
1386	10C164	検出	D6部	高杯	23.8		"2.8		1461	10C154	3029S1	3458SK	溝	10.0			"8.9
1387	10C164	検出	D6部	リュウアブ			"3.0		1462	10C141	3029S1	下層	溝	27.2			"5.5
1388	10C114	1863S1	上層	広口壺			"7.3		1463	10C154	3029S1	下層	内筒口縁部	17.2			"2.5
1389	10C114	1863S1	上層	小型鉢(溝)	3.7		"1.9	底部縁部	1464	10C154	3029S1	下層	高杯				"12.0
1390	10C114	1863S1	上層	溝	9.8		"6.3		1465	10C141	3029S1	下層	加飾広口壺				"4.3
1391	10C114	1863S1	上層	溝	4.8		"2.7		1466	10C154	3029S1	下層	中型壺	6.0			"1.5
1392	10C104	4414S1	下層	壺			"3.0		1467	10C154	3029S1	上層	広口壺	8.5			"2.4
1393	10C104	4460S1	床直	高杯			"5.9		1468	10C154	3029S1	トレンチ	加飾広口壺				"5.4
1394	10C104	4460S1	床直	高杯	6.8	4.5	5.5		1469	10C144	3029S1	トレンチ	加飾広口壺				"2.5
1395	10C104	4460S1	床直	小型鉢		3.8	"2.1		1470	10C144	4975SK	D6部	内筒口縁部A	7.6			"5.5
1396	10C114	4502S1		溝	20.0		"3.1		1471	10C144	4975SK	D6部	梶形高杯A	15.0			"5.7
1397	10C104	4502S1	下層	加飾広口壺	21.7		"6.1		1472	10C144	検出	D6部	加飾広口壺	18.0			"4.4
1398	10C104	4459S1	下層	高杯	22.5	10.6	18.4		1473	10C114	検出	D6部	弁形返し口縁部	15.8			"1.4
1399	10C104	4459S1	下層	瓣付内筒口縁部	21.9		"12.0		1474	10C124	検出	D6部	小型鉢(溝)	7.0	3.7	3.2	水銀朱付者
1400	10C104	4459S1	下層	広口壺	11.1	6.2	11.6		1475	10C177	3056S1	床直	広口壺	6.3			"5.9
1401	10C114	4459S1	下層	内筒口縁部	4.4		"7.2		1476	10C177	3056S1	下層	広口壺	5.9			"2.4
1402	10C104	4459S1	下層	有孔鉢	22.5	5.0	16.0		1477	10C167	3056S1	上層	広口壺	8.6			"3.0
1403	10C104	4459S1	下層	溝		10.0	"22.2		1478	10C167	3056S1	上層	広口壺	20.0			"4.4
1404	10C114	4790S1	床直	溝	6.3		"9.0		1479	10C167	3056S1	上層	高杯				"7.2
1405	10C114	4790S1	下層	広口壺	7.1		"2.7		1480	10C167	3037S1	下層	溝	19.6			"4.0
1406	10C114	4790S1	上層	溝	22.0		"10.0		1481	10C167	3037S1	上層	縁部口縁部	17.6			"4.1
1407	10C124	4357S1	上層	弁形返し口縁部	19.6		"2.1	縁江系	1482	10C176	3037S1	上層	溝	23.8			"1.7
1408	10C124	4360S1	床直	溝		9.2	"7.3		1483	10C176	3037S1	上層	加飾広口壺				"3.0
1409	10C124	4360S1	下層	加飾広口壺	14.8		"3.0		1484	10C167	3037S1	上層	中型壺	4.2			"3.9
1410	10C124	4413S1	下層	広口壺	20.2		"3.4		1485	10C176	3037S1	上層	高杯				"4.7
1411	10C124	4413S1	上層	溝	18.0		"19.0	4359S1と同合	1486	10C176	3035S1	下層	広口壺	17.0			"4.6
1412	10C124	4413S1	上層	高杯			"4.7		1487	10C176	3035S1	下層	広口壺		10.6		"4.5
1413	10C124	4413S1	上層	小型鉢(溝)	3.8		"2.1		1488	10C167	3036S1	下層	溝	19.6			"5.6
1414	10C124	4413S1	上層	加飾広口壺			"7.9		1489	10C167	3036S1	下層	広口壺				"4.6
1415	10C124	4413S1	上層	広口壺	8.9		"3.8		1490	10C167	3036S1	下層	広口壺	6.8			"2.4
1416	10C134	3055S1	下層	内筒口縁部	18.8		"3.5	4362S1と同合	1491	10C167	3036S1	前方	中型壺	12.0			"3.8
1417	10C141	3055S1	溝	16.6			"3.5		1492	10C177	3055S1	下層	広口壺	14.5	6.0	23.4	
1418	10C144	3055S1	溝	21.6			"6.6		1493	10C176	3055S1	下層	広口壺	11.3			"18.5
1419	10C141	3055S1	高杯				"5.8		1494	10C177	3055S1	トレンチ	広口壺	13.1			"5.3
1420	10C144	3055S1	溝				"2.8		1495	10C177	3055S1	上層	広口壺	18.0			"5.6
1421	10C134	3055S1	下層	小型壺	5.0		"1.8		1496	10C177	3055S1	トレンチ	加飾広口壺	12.2			"1.9
1422	10C177	3055S1	上層	中型壺		6.8	"4.2		1497	10C177	3055S1	上層	加飾広口壺				"6.5
1423	10C141	3055S1	加飾広口壺		17.8		"4.5		1498	10C177	3055S1	上層	加飾広口壺	23.0			"3.3
1424	10C144	3055S1	袋状口縁部		16.0		"2.1		1499	10C177	3055S1	上層	広口壺	6.2			"7.0
1425	10C177	3055S1	上層	中型壺	9.0		"8.5		1500	10C177	3055S1	上層	広口壺	4.8			"3.9

登録番号	グランド	選考	順位等	部種	日程	経路	届高	備考	登録番号	グランド	選考	順位等	部種	日程	経路	届高	備考
1501	10C177	3005SS	上級	広口壘		10.7	*17.6		1576	10C177	桃山	Dx-部	広口壘		6.5	*3.5	
1502	10C177	3005SS	上級	広口壘		8.2	*6.8		1577	10C16f	桃山	Dx-部	小型鉢		4.3	*2.9	
1503	10C177	3005SS	上級	広口壘		7.2	*3.8		1578	10C18g	桃山	Dx-部	小型鉢(胸)		4.5	*2.3	
1504	10C177	3005SS	上級	広口壘		8.4	*2.7		1579	10C16f	桃山	Dx-部	壘		7.5	*5.8	
1505	10C177	3005SS	上級	広口壘		8.4	*3.0		1580	10C9e	4340SI	下級	広口壘		7.8	*2.2	
1506	10C177	3005SS	上級	広口壘		5.0	*2.0		1581	10C10e	4340SI	上級	加藤広口壘				*5.1
1507	10C177	3005SS	上級	広口壘		9.0	*3.5		1582	10C10A	4341SI	下級	小型鉢		9.0	*4.2	
1508	10C177	3005SS	上級	広口壘		6.8	*3.0		1583	10C10A	4341SI	下級	小型壘		4.4	*2.3	
1509	10C18f	3005SS	上級	広口壘		6.9	*2.4		1584	10C10A	4341SI	下級	内野口録兼D		5.4	*4.4	
1510	10C177	3005SS	上級	小型壘		4.6	*1.6		1585	10C10A	4341SI	上級	折り返し口録兼		17.8		*1.0 遠江系
1511	10C177	3005SS	上級	小型壘		5.2	*2.7		1586	10C11e	4337SI	下級	壘		20.0		*3.5
1512	10C177	3005SS	床底	鞍形高杯A	16.0		*13.1		1587	10C11e	4337SI	下級	広口壘		13.8		*5.4 4338SIと接合
1513	10C177	3005SS	下級	鞍形高杯A			*7.2		1588	10C11e	4337SI	下級	小型高杯		12.4	9.8	9.7 4338SIと接合
1514	10C177	3005SS	上級	鞍形高杯A	15.6		*7.1		1589	10C11c	4337SI	4822SK	小型鉢(胸)		7.8	3.4	4.5
1515	10C177	3005SS	上級	鞍形高杯A			*4.2		1590	10C11d	4338SI	8'	壘		9.0		*5.7
1516	10C177	3005SS	上級	鞍形高杯A	10.9		*7.6		1591	10C11d	4338SI	下級	壘		10.6		*6.5
1517	10C177	3005SS	上級	高杯	22.4		*10.4		1592	10C10A	4338SI	下級	壘		9.2		*5.7
1518	10C177	3005SS	上級	有段口録兼	21.2		*6.2		1593	10C10A	4338SI	上級	壘		22.0		*8.5
1519	10C177e	3005SS	下級	壘	18.4		*22.6		1594	10C10A	4338SI	床底	内野口録兼A		5.0		*3.5
1520	10C177	3005SS	下級	壘	19.0		*14.5		1595	10C11d	4338SI	下級	小型壘		6.4		*3.6
1521	10C177e	3005SS	下級	壘	10.2		*7.5 1522と同一?		1596	10C10A	4338SI	上級	小型壘		3.8		*2.3
1522	10C177	3005SS	下級	壘	19.0		*11.0 1521と同一?		1597	10C10A	4338SI	上級	小型壘		5.6		*1.6
1523	10C177	3005SS	上級	壘	18.2		*15.7		1598	10C10A	4338SI	上級	小型壘		4.0		*1.6
1524	10C177	3005SS	上級	壘	16.6		*3.3		1599	10C10A	4338SI	上級	加藤広口壘		16.3		*1.5
1525	10C177	3005SS	上級	壘	17.6		*10.6		1600	10C10A	4338SI	上級	内野口録兼A		11.0		*4.1
1526	10C177	3005SS	上級	壘	14.2		*6.8		1601	10C12f	4336SI	腕方	高杯		20.6		*9.7
1527	10C177	3005SS	上級	壘	10.0		*4.6		1602	10C12f	4336SI	下級	高杯				*4.2
1528	10C177	3005SS	上級	壘	8.6		*5.8		1603	10C12f	4336SI	下級	高杯				*6.2
1529	10C177e	3005SS	下級	大型壘兼高杯	15.4	5.3	*4.5		1604	10C12f	4336SI	上級	鞍形高杯B	12.0			*3.5
1530	10C177	3005SS	上級	有孔鉢	3.0		*3.1		1605	10C12f	4336SI	下級	広口壘		7.4		*2.1
1531	10C177	3005SS	上級	小型壘	12.8	5.6	7.5		1606	10C12e	4336SI	上級	加藤広口壘				*3.3
1532	10C177	3005SS	上級	小型壘兼高杯	3.4		*4.4		1607	10C12f	4336SI	下級	内野口録兼		19.0		*2.5
1533	10C177	3005SS	トレンチ	小型鉢(胸)	9.2	5.6	*4.0		1608	10C12f	4336SI	上級	有段口録兼		16.0		*6.2
1534	10C177	3005SS	2410SK	広口壘	7.0		*2.5		1609	10C12f	4342SI	下級	壘		12.6		*6.7
1535	10C18f	3079SI	床底	壘	26.2		*9.3		1610	10C12f	4342SI	腕方	壘				*9.1
1536	10C17g	3079SI	床底	壘	21.8		*8.4		1611	10C12f	4342SI	腕方	広口壘		18.0		*2.4
1537	10C18f	3079SI	床底	壘	16.0		*10.0		1612	10C10g	3797SI	床底	録兼口録兼		22.0		*4.3
1538	10C18g	3079SI	床底	壘	7.2		*5.0		1613	10C10g	3797SI	床底	壘		17.2	8.2	*11.1
1539	10C18f	3079SI	床底	壘	7.6		*5.3		1614	10C10g	3797SI	床底	小型丸口壘		8.0		*9.6
1540	10C17g	3079SI	下級	内野口録兼	22.2		*8.3		1615	10C10g	3797SI	床底	加藤広口壘		24.0		*7.1
1541	10C18f	3079SI	上級	壘	17.8		*5.8		1616	10C10g	3797SI	下級	有段口録兼A		22.0		*5.4
1542	10C18g	3079SI	上級	有孔鉢	5.0		*6.3		1617	10C9g	3797SI	上級	壘		17.0		*6.2
1543	10C18f	3079SI	床底	広口壘	14.5	7.0	28.0 木葉根		1618	10C9g	3797SI	上級	加藤広口壘				*4.9
1544	10C18f	3079SI	床底	広口壘	6.1		*3.0		1619	10C9g	3797SI	上級	広口壘		7.1		*3.5
1545	10C18f	3079SI	下級	有段口録兼口録兼	23.0		*6.0 西遠江口伊藤系		1620	10C9g	3797SI	上級	高杯				*3.3
1546	10C17g	3079SI	下級	加藤広口壘			*13.0		1621	10C10g	3797SI	腕方	壘		11.2		*6.7
1547	10C18f	3079SI	下級	広口壘	5.8		*4.0		1622	10C11f	3832SI	床底	高杯		30.8		*9.7
1548	10C18g	3079SI	下級	小型壘	15.2		*3.5		1623	10C11f	3832SI	床底	高杯		16.2		*16.2
1549	10C18f	3079SI	下級	小型鉢	4.0		*4.5		1624	10C11g	3832SI	下級	高杯		21.6		*9.4 3830SIに属属
1550	10C18f	3079SI	上級	広口壘	8.2		*3.4		1625	10C11g	3832SI	下級	加藤広口壘		17.8		*17.5 3830SIに属属
1551	10C18g	3079SI	上級	加藤広口壘			*4.8		1626	10C11g	3832SI	下級	内野口録兼A		10.4		*3.8 3830SIに属属
1552	10C18f	3079SI	床底	高杯	10.2		*8.1		1627	10C11f	3832SI	下級	加藤広口壘		14.0		*3.6
1553	10C18f	3079SI	床底	高杯			*7.4		1628	10C11f	3832SI	下級	加藤広口壘		17.0		*6.7 3830SIに属属
1554	10C18f	3079SI	床底	高杯			*8.3		1629	10C11f	3832SI	下級	広口壘		7.4		*3.6
1555	10C17g	3079SI	下級	高杯			*4.8		1630	10C11f	3832SI	下級	広口壘		6.4		*2.8
1556	10C18g	3079SI	下級	高杯	10.0		*7.2		1631	10C11f	3832SI	上級	加藤広口壘				*4.5
1557	10C17g	3079SI	上級	鞍形高杯A	10.6		*8.2		1632	10C11f	3832SI	下級	壘		16.0		*3.3 3830SIに属属
1558	10C17g	3079SI	上級	高杯	11.0		*10.6		1633	10C11f	3832SI	下級	壘		10.0		*6.2
1559	10C17b	3079SI	床底	内野口録兼A	8.5	4.4	16.5		1634	10C11g	3832SI	上級	壘		19.8	8.6	*10.8
1560	10C17g	3079SI	下級	広口壘	5.4		*2.7		1635	10C10g	4770SI	上級	壘		18.0		*4.5
1561	10C17g	3079SI	トレンチ	広口壘	7.0		*3.7		1636	10C10g	4770SI	上級	壘		19.6		*3.6
1562	10C17g	3079SI	上級	広口壘	5.2		*3.6		1637	10C10g	4770SI	上級	壘		8.4		*5.8
1563	10C17g	3079SI	トレンチ	小型鉢	4.6		*3.9		1638	10C10g	4770SI	上級	壘				*6.0
1564	10C17b	3079SI	上級	内野口録兼A	11.4		*3.3		1639	10C10g	4770SI	上級	内野口録兼C		5.2	*4.2	*三浦と同一?
1565	10C18b	3079SI	床底	有段口録兼A	18.6		*2.2		1640	10C11f	3830SI	上級	広口壘		6.0		*2.3
1566	10C17g	3079SI	下級	壘			*7.3		1641	10C11f	3830SI	上級	小型鉢		4.0		*2.9
1567	10C17g	3079SI	下級	壘	9.3		*5.3		1642	10C12g	3831SI	腕方	加藤広口壘				*4.0
1568	10C17g	3079SI	トレンチ	壘	9.1		*6.9		1643	10C13g	3032SI	下級	内野口録兼A	12.2			*4.7
1569	10C17b	3079SI	上級	壘	8.2		*5.0		1644	10C13g	3032SI	下級	小型壘		4.4		*2.7
1570	10C17g	3079SI	下級	鞍形高杯A	19.4		*5.3		1645	10C13g	3032SI	下級	高杯				*5.2
1571	10C17g	3079SI	トレンチ	鞍形高杯A			*7.3		1646	10C13g	3032SI	床底	壘		6.5		*12.0
1572	10C18f	3079SI	床底	壘	8.4		*5.9		1647	10C13b	3031SI	下級	内野口録兼		11.8		*13.2
1573	10C18f	3079SI	床底	有段口録兼	17.6		*6.5		1648	10C12g	3031SI	下級	壘		13.2		*4.4
1574	10C18b	3079SI	上級	広口壘	9.3		*3.7		1649	10C12g	3031SI	下級	小型鉢(胸)		8.5	4.2	5.4
1575	10C18g	桃山	Dx-部	広口壘	17.4		*3.3		1650	10C12g	3031SI	上級	内野口録兼				*2.2

登録番号	グランド	造構	階位等	部種	日積	縦積	高積	備考	登録番号	グランド	造構	階位等	部種	日積	縦積	高積	備考	
1651	10C12g	3915S1	上層	巻		6.8	"4.3		1726	10C18	3099S1	下層	高杯	13.4		"7.6	1726と同一?	
1652	10C13g	3915S1	上層	高杯	20.8		"7.5		1727	10C18	3099S1	下層	高杯				"12.0	
1653	10C13g	3915S1	上層	小型鉢巻	11.4	4.4	5.3	水廻り/ス/付着	1728	10C18	3099S1	トレンチ	高杯				"8.4	1726と同一?
1654	10C13g	3915S1	上層	小型鉢巻		3.6	"2.7	水廻り/ス/付着	1729	10C18	3099S1	下層	内側口縁高杯		9.6		"9.6	東道山(朝川)系
1655	10C13g	3915S1	上層	加飾広口葺			"2.8		1730	10C18	3099S1	下層	小型鉢	11.2	4.5	9.1	東道山(朝川)系	
1656	10C13h	4021S1		48ZNSK 有段口縁巻A	14.3	7.5	19.5		1731	10C18	3099S1	下層	広口葺		7.8	"3.3		
1657	10C12f	焼出	D4層	平底巻		4.9	"8.5		1732	10C18	3099S1	下層	広口葺			6.4	"1.9	
1658	10C13f	焼出	D4層	ハリス系巻	12.8		"4.0		1733	10C18	3121S1	床底	巻		15.5	"14.6		
1659	10C10d	焼出	D4層	加飾広口葺			"6.1		1734	10C17f	3121S1	下層	布留式(赤)巻	18.0			"6.0	近畿系
1660	10C11e	焼出	D4層	広口葺	13.8		"2.7		1735	10C17f	3121S1	下層	巻		15.6	"4.7		
1661	10C11e	焼出	D4層	袋状口縁巻	15.0		"4.5		1736	10C17f	3121S1	下層	有段口縁巻B	17.6		"2.8		
1662	10C11e	焼出	D4層	広口葺		7.7	"2.1		1737	10C18f	3121S1	床底	高杯		20.6	"4.5		
1663	10C9e	焼出	D4層	巻		6.4	"4.8		1738	10C17f	3121S1	下層	高杯			10.2	"8.6	
1664	10C9e	焼出	D4層	写き巻		4.2	"2.3		1739	10C17f	3121S1	下層	高杯		22.9	10.5	14.8	
1665	10C11e	4651SK	D4層	巻		10.1	"6.0		1740	10C18f	3121S1	下層	高杯				"5.2	
1666	10C12g	4190SK	D4層	巻		6.5	"3.3		1741	10C17f	3121S1	下層	ハリス系巻		14.6	"1.8		
1667	10C15g	3291S1	床底	広口葺		6.2	"2.8		1742	10C18f	3121S1	トレンチ	広口葺		16.3	"6.6		
1668	10C14f	3291S1	床底	高杯	19.6	"7.1			1743	10C18f	3121S1	上層	広口葺			16.0	"2.7	
1669	10C13g	3291S1	上層	小型鉢		55.8	"1.9		1744	10C17f	3121S1	上層	広口葺		6.0	"1.8		
1670	10C15g	3291S1	上層	小型鉢巻	4.8	3.0	5.2		1745	10C18f	3098S1	下層	中型巻		10.6	"6.3		
1671	10C13g	3291S1	上層	巻		25.2	"12.7		1746	10C18f	3098S1	上層	巻			8.0	"4.7	
1672	10C14g	3057S1	床底	高杯			"7.0		1747	10C18f	3098S1	上層	高杯			23.6	"9.0	
1673	10C14f	3057S1	下層	中型巻		6.8	"2.5		1748	10C17f	3136SK	Dg層	袋状口縁巻		19.4	"4.2		
1674	10C15g	3057S1	下層	巻	24.0		"6.8		1749	10C18f	3263SK	Dg層	高杯				"5.9	
1675	10C14g	3057S1	下層	巻	25.2		"4.8		1750	10C18f	3263SK	Dg層	広口葺			6.2	"3.1	
1676	10C14h	3216S1	床底	巻	20.8		"23.2		1751	10C18h	焼出	Dg層	惣成粘土塊	165.9	162.5	161.9	重27.0g	
1677	10C13g	3216S1	床底	高杯		9.7	"8.0		1752	10C14f	焼出	Dg層	内側口縁巻B			3.8	"3.7	
1678	10C13g	3216S1	下層	有段口縁巻B	19.6		"2.3		1753	10C14g	焼出	Dg層	ハリス系巻			19.0	"2.6	
1679	10C13h	3216S1	下層	高杯		9.2	"8.8		1754	10C17h	焼出	Dg層	新り直し口縁巻	18.0			"1.1	東道系
1680	10C13g	3216S1	下層	高杯		10.0	"7.3		1755	10C17f	焼出	Dg層	広口葺			8.4	"4.3	
1681	10C13h	3216S1	下層	広口葺		6.9	"2.5		1756	10C17h	焼出	Dg層	広口葺			6.1	"2.7	
1682	10C14g	3216S1	上層	巻		9.0	"6.2		1757	10C2b	3811S1	下層	高杯				"6.3	
1683	10C13h	3216S1	上層	高杯	18.4		"10.8		1758	10C2b	3811S1	上層	高杯			12.0	"9.2	
1684	10C13h	3216S1	上層	加飾広口葺	16.2		"4.1		1759	10C2b	3811S1	下層	小型鉢巻		8.0	3.9	"4.6	
1685	10C14g	3217S1	下層	広口葺		5.4	"1.8		1760	10C2b	3811S1	上層	小型巻			2.8	"1.7	
1686	10C14g	3217S1	上層	新り直し口縁巻	16.0		"2.2	東道系	1761	10C2b	3811S1	床底	広口葺		5.0	"2.9		
1687	10C15g	3282S1	床底	中型巻		6.5	"9.0		1762	10C2b	3811S1	上層	広口葺			6.0	"2.4	
1688	10C15h	3185S1	床底	広口葺	12.8		"2.8		1763	10C2b	3811S1	上層	加飾広口葺				"8.3	
1689	10C15h	3185S1	床底	巻		8.5	"5.8		1764	10C2b	3811S1	上層	広口葺		18.0		"4.1	
1690	10C15h	3185S1	床底	不明土製品		11.9	"3.3	重²321.3g	1765	10C2b	3811S1	上層	袋状口縁巻		12.0	"2.9		
1691	10C15g	3215S1	床底	巻	12.0		"16.5		1766	10C2b	3811S1	上層	巻			17.4	"3.8	
1692	10C15g	3215S1	床底	巻		6.0	"8.0		1767	10C2b	3814S1	下層	内側口縁巻A	12.0			"2.6	
1693	10C15h	3215S1	床底	梶形高杯A	11.8		"6.8		1768	10C2b	3897S1	下層	巻				"4.8	
1694	10C15g	3215S1	床底	高杯	10.2		"9.0		1769	10C2b	3897S1	下層	広口葺		11.0		"6.4	
1695	10C15h	3215S1	下層	高杯	19.8		"3.6		1770	10C2b	3306S1	床底	高杯			12.9	"11.1	
1696	10C15h	3215S1	床底	内側口縁巻A	4.4		"12.9		1771	10C2b	3306S1	上層	梶形高杯A			11.9	"5.0	
1697	10C15h	3215S1	床底	広口葺		6.4	"2.4		1772	10C2b	3306S1	上層	高杯				"5.5	
1698	10C15g	3215S1	下層	広口葺		9.0	"4.2		1773	10C2b	3306S1	上層	高杯				"4.8	
1699	10C15h	3215S1	下層	中型巻		4.4	"1.9		1774	10C2b	3306S1	上層	梶形高杯A		11.2	"3.2		
1700	10C15g	3215S1	下層	広口葺		7.4	"2.3		1775	10C2b	3306S1	上層	梶形高杯				"3.2	
1701	10C15h	3215S1	下層	加飾広口葺	12.8		"2.3		1776	10C2b	3306S1	下層	広口葺			16.8	"2.7	
1702	10C14h	3215S1	下層	加飾広口葺			"2.8		1777	10C2b	3306S1	上層	ハリス系巻			24.0	"5.1	
1703	10C16h	3295S1	床底	中型巻	7.2		"14.6	東道山(朝川)系	1778	10C2b	3306S1	上層	加飾広口葺			20.3	"7.0	
1704	10C17h	3295S1	床底	内側口縁巻D	9.1	5.2	12.9		1779	10C2b	3306S1	上層	広口葺			7.4	"3.3	
1705	10C17h	3295S1	床底	広口葺		7.0	"3.1		1780	10C2b	3306S1	上層	広口葺			7.2	"3.4	
1706	10C16h	3295S1	下層	巻	21.6		"5.8		1781	10C2b	3306S1	上層	広口葺			6.2	"1.9	
1707	10C16h	3295S1	3310SK 中型巻		4.7	"4.8			1782	10C2b	3306S1	上層	広口葺			4.2	"1.3	
1708	10C16h	3295S1	3310SK 巻		9.4	"6.5			1783	10C2b	3306S1	上層	大型巻赤糸鉢	18.6	7.4	15.2		
1709	10C16h	3295S1	3309SK 中型巻		6.4	"2.9			1784	10C2b	3306S1	上層	内側口縁巻			17.0	"18.4	
1710	10C16i	3296S1	床底	中型鉢	12.4	6.4	12.9		1785	10C2b	3306S1	上層	縁帯口縁巻			16.0	"7.3	
1711	10C18h	3296S1	床底	高杯	20.0		"10.2		1786	10C2b	3306S1	上層	巻		18.4		"4.7	
1712	10C18h	3296S1	床底	髷+髯型巻	17.4		"4.6		1787	10C2b	3306S1	上層	巻			9.0	"5.9	
1713	10C17h	3296S1	床底	巻		8.8	"5.4		1788	10C10f	3404S1	床底	内側口縁巻D	15.0	5.0	13.6		
1714	10C16h	3296S1	上層	巻		8.3	"5.3		1789	10C10f	3404S1	下層	加飾広口葺			16.4	"11.3	
1715	10C17h	3296S1	床底	巻		6.8	"4.6		1790	10C10h	3404S1	下層	広口葺			8.6	"2.6	
1716	10C15g	3300SB 3040SD 広口葺			6.8	"2.2			1791	10C9e	3404S1	下層	広口葺			5.6	"1.7	
1717	10C15g	3300SB 3040SD 巻			9.0	"7.0			1792	10C10f	3404S1	上層	ハリス系巻		20.0		"3.8	
1718	10C15g	3300SB 3040SD 高杯			20.0	"2.4			1793	10C10f	3404S1	上層	加飾広口葺			17.0	"4.5	
1719	10C15g	3300SB 3040SD 高杯			23.8	"7.4			1794	10C10h	3404S1	上層	袋状口縁巻			18.6	"8.7	
1720	10C15h	3300SB 5135SK 巻			6.0	"4.2			1795	10C10f	3404S1	トレンチ	有段口縁巻			16.6	"5.2	
1721	10C15g	3300SB 5134SK 中型巻			6.0	"4.6			1796	10C10h	3404S1	上層	広口葺			6.8	"2.4	
1722	10C14f	3468SK	D4層	内側口縁巻A	8.4		"3.7		1797	10C10h	3404S1	上層	広口葺			5.3	"2.6	
1723	10C16g	焼出	D4層	巻	15.6		"6.8		1798	10C2b	3404S1	上層	広口葺			6.7	"2.1	本業前
1724	10C17f	3117S1	床底	広口葺	16.6		"8.3		1799	10C10h	3404S1	上層	広口葺			6.0	"4.5	
1725	10C16i	3117S1	上層	巻	17.6		"11.4		1800	10C10h	3404S1	トレンチ	広口葺			6.9	"2.7	

登録番号	グッド	遺構	階位等	部種	日付	経緯	掘高	備考	登録番号	グッド	遺構	階位等	部種	日付	経緯	掘高	備考
1801	10C10h	3404S	上層	広口壺		5.8	*1.2		1876	10C13h	3947S	床直	壺			8.8	*6.6
1802	10C10h	3404S	上層	広口壺		6.4	*2.8		1877	10C13h	3947S	トレンテ	椀形高杯A				*7.2
1803	10C0h	3404S	上層	中型壺		8.9	6.4	13.1	1878	10C12h	3947S	443SSK	加飾広口壺	19.0			*5.6
1804	10C0h	3404S	上層	中型壺		10.2	*7.1		1879	10C12h	3947S	443SSK	椀形高杯			9.6	*2.2
1805	10C0h	3404S	上層	S字壺		19.0		*1.9 B型新	1880	10C11h	3909S	床直	壺			7.2	*5.1
1806	10C10h	3404S	上層	壺			7.3	*7.2	1881	10C12j	3909S	下層	高杯			9.4	*7.3
1807	10C10h	3404S	上層	壺				*12.6	1882	10C12h	3909S	下層	高杯			22.0	*3.3
1808	10C10h	3404S	上層	高杯				*4.8	1883	10C11h	3909S	下層	高杯			16.2	*6.0
1809	10C10h	3404S	上層	高杯				*8.0	1884	10C12j	3909S	上層	有段鉢台口縁壺	17.8			*3.2 西瀬江(伊場系)
1810	10C10h	3404S	上層	高杯				*7.1	1885	10C11j	3909S	下層	中型鉢			7.1	*7.5
1811	10C10h	3404S	上層	椀形高杯				*5.6	1886	10C11j	3909S	上層	バレス系壺			7.0	*1.1
1812	10C10h	3404S	上層	小型鉢(内)		7.4	3.8	4.5	1887	10C10h	3743S	下層	壺			21.0	10.2 24.7
1813	10C0h	3669S	下層	加飾広口壺		21.8		*6.9	1888	10C10h	3743S	下層	壺			23.2	*5.8
1814	10C0h	3669S	下層	加飾広口壺				*5.1	1889	10C11h	3743S	下層	壺			15.2	*3.8
1815	10C0h	3669S	下層	椀形高杯A				*5.4	1890	10C11h	3743S	下層	有段口縁壺A	15.4			*2.1
1816	10C0h	3669S	トレンテ	高杯				*5.3	1891	10C11h	3743S	下層	有段口縁壺A	14.4			*1.6
1817	10C0h	3669S	瓶方	高杯				*5.5	1892	10C10h	3743S	上層	緑帯口縁壺	13.0			*7.2
1818	10C0h	検出	瓶方	壺	18.8			*5.8	1893	10C11h	3743S	下層	広口壺			7.2	*4.4
1819	10C0h	検出	瓶方	壺		7.2	*4.9		1894	10C10h	3743S	下層	広口壺			6.6	*5.2
1820	10C0h	検出	瓶方	広口壺		6.6	*2.3 木屐痕		1895	10C10h	3743S	下層	広口壺			7.4	*2.2
1821	10C11h	3376S	床直	壺		19.6		*9.8	1896	10C10h	3743S	下層	広口壺			6.9	*3.4
1822	10C12	3376S	床直	広口壺		14.0		*5.5	1897	10C11h	3743S	下層	広口壺			5.2	*2.0
1823	10C12	3376S	下層	有段口縁壺B		18.0		*2.1	1898	10C11h	3743S	下層	中型壺			4.8	*2.2
1824	10C11	3375S	床直	高杯		22.0	11.6	16.1	1899	10C11h	3743S	下層	中型壺			4.9	*2.8
1825	10C11	3375S	床直	壺		7.6		*4.5	1900	10C11h	3743S	下層	中型壺			5.4	*10.4
1826	10C11	3375S	上層	緑帯口縁壺		18.8		*5.3	1901	10C10h	3743S	上層	中型壺			5.0	*3.7
1827	10C11	3375S	上層	壺		7.9		*4.9	1902	10C11h	3766S	4399SK	有段口縁壺A	18.0			*6.1
1828	10C11	3375S	上層	高杯				*5.1	1903	10C11h	3766S	4399SK	中型壺	10.3	4.9		13.5
1829	10C11	3375S	上層	高杯				*6.4	1904	10C10h	3742S	上層	内式内貫式?	31.0			*5.2 道義系?
1830	10C11	3375S	上層	広口壺		6.6		*5.3	1905	10C10h	3742S	下層	壺			21.0	*2.9
1831	10C11	3375S	トレンテ	広口壺		7.2		*2.3	1906	10C10h	3742S	下層	有段口縁壺A	19.0			*12.4
1832	10C10h	検出	瓶方	広口壺				*5.0 体部線刻	1907	10C10h	3742S	上層	有段口縁壺A	19.4			*10.1
1833	10C11	3375S	トレンテ	広口壺				*5.2 体部線刻	1908	10C10h	3742S	上層	有段口縁壺B	21.2			*5.3
1834	10C10h	3710S	瓶方	壺				*4.9	1909	10C9m	3742S	上層	内貫口縁壺	20.4			*13.2
1835	10C10h	3710S	上層	加飾広口壺				*3.8	1910	10C10h	3742S	下層	壺			16.6	*8.3
1836	10C10h	3711S	上層	中型鉢		4.8		*3.6	1911	10C10h	3742S	下層	壺			22.8	*13.7
1837	10C10h	3711S	上層	広口壺		7.0		*2.1	1912	10C0h	3742S	下層	壺			20.8	*23.9
1838	10C10h	3711S	上層	加飾広口壺				*4.7	1913	10C10h	3742S	下層	壺			22.2	*3.2
1839	10C12h	4307SK	瓶方	中型鉢		5.2		*2.6	1914	10C0h	3742S	上層	内貫口縁壺	20.0			*8.2
1840	10C10h	検出	瓶方	広口壺		7.4		*2.6	1915	10C10h	3742S	上層	壺			25.0	*3.5
1841	10C0h	検出	瓶方	手箱形土器				*3.9	1916	10C0h	3742S	上層	壺			22.4	*4.1
1842	10C13h	3907S	下層	加飾広口壺		15.8		*1.3	1917	10C0h	3742S	上層	壺			18.4	*7.0
1843	10C13h	3907S	下層	広口壺		6.4		*4.0	1918	10C10h	3742S	下層	壺			10.4	*12.7
1844	10C12	3907S	下層	加飾広口壺				*4.6	1919	10C10h	3742S	下層	有段口縁壺A	16.2			*13.6
1845	10C13	3903S	床直	広口壺		8.1		*14.9	1920	10C10h	3742S	上層	有段口縁壺A	17.4			*2.0
1846	10C12	3903S	床直	高杯		12.2		*10.7	1921	10C10h	3742S	上層	有段口縁壺A	16.6			*2.1
1847	10C12	3903S	床直	高杯		11.3		*11.1	1922	10C0h	3742S	上層	有段口縁壺A	17.0			*3.1
1848	10C12	3903S	下層	広口壺		13.2		*7.4 3949Sと結合	1923	10C10h	3742S	下層	内貫口縁壺	19.0			*3.5
1849	10C13	3903S	下層	内貫口縁壺A		12.8		*9.0	1924	10C10h	3742S	上層	内貫口縁壺	17.4			*19.4
1850	10C12	3903S	下層	高杯		12.7		*7.5	1925	10C10h	3742S	上層	壺			16.4	*3.5
1851	10C12	3903S	下層	小型鉢(内)		3.2		*1.9	1926	10C10h	3742S	上層	壺			13.6	*18.1
1852	10C12	3903S	下層	小型鉢(内)		3.2		*2.4	1927	10C10h	3742S	床直	壺			10.4	*6.2
1853	10C11	3948S	瓶方	折り返し口縁壺		20.0		*1.9 瀬江系	1928	10C10h	3742S	床直	壺			10.2	*6.5
1854	10C11	3948S	瓶方	椀形高杯A		18.4		*3.9	1929	10C10h	3742S	下層	壺			9.5	*5.8
1855	10C12	3906S	床直	壺		16.0		*5.9	1930	10C10h	3742S	下層	壺			8.7	*6.8
1856	10C12	3906S	床直	袋状口縁壺		16.6		*8.3 3909Sと同一	1931	10C10h	3742S	下層	壺			8.6	*6.1
1857	10C13	3906S	下層	壺		17.0		*4.3	1932	10C10h	3742S	下層	壺			8.6	*7.6
1858	10C13	3906S	上層	有孔鉢		4.4		*3.2	1933	10C10h	3742S	上層	壺			7.9	*8.0
1859	10C12	3906S	瓶方	高杯				*6.7	1934	10C0h	3742S	上層	壺			8.1	*8.3
1860	10C13h	3908S	床直	加飾広口壺		17.0		*11.5	1935	10C10m	3742S	上層	壺			9.8	*6.1
1861	10C13h	3908S	床直	広口壺		8.5		*7.2	1936	10C10h	3742S	上層	壺			9.6	*5.3
1862	10C13h	3908S	床直	壺		9.6		*6.4	1937	10C0h	3742S	上層	壺			8.4	*5.4
1863	10C13h	3908S	床直	壺		8.4		*5.5	1938	10C10h	3742S	上層	壺			9.2	*5.8
1864	10C13h	3908S	床直	壺				*5.5	1939	10C10h	3742S	上層	壺			9.2	*6.7
1865	10C13h	3908S	床直	壺				*3.7	1940	10C10h	3742S	上層	壺			9.8	*6.6
1866	10C13h	3908S	床直	高杯				*5.0	1941	10C10h	3742S	上層	壺			8.9	*6.2
1867	10C14h	3908S	下層	椀形高杯				*4.3	1942	10C0h	3742S	上層	壺			7.8	*6.0
1868	10C12h	3949S	上層	加飾広口壺		12.0		*3.1	1943	10C0h	3742S	上層	壺			8.2	*6.7
1869	10C12h	3949S	下層	壺		6.3		*4.2	1944	10C9m	3742S	トレンテ	壺			8.1	*6.1
1870	10C12h	3949S	4426SK	壺				*5.8	1945	10C0h	3742S	トレンテ	壺			8.1	*5.5
1871	10C11h	4174S	瓶方	小型鉢(内)		8.5	4.0	3.9	1946	10C10h	3742S	トレンテ	壺			8.4	*5.7
1872	10C12h	4174S	瓶方	壺		9.8		*6.2	1947	10C0h	3742S	上層	壺			7.0	*7.3
1873	10C11h	4173S	下層	壺		18.0		*5.0 1874と同一?	1948	10C10h	3742S	上層	壺			7.8	*5.3
1874	10C11h	4173S	上層	壺		10.3		*11.3 1873と同一?	1949	10C0h	3742S	上層	壺			7.5	*5.2
1875	10C11h	4173S	上層	高杯				*6.0	1950	10C10h	3742S	下層	壺			7.2	*4.9

登録番号	グッド	遺構	階位等	部種	日積	縦積	高さ	備考	登録番号	グッド	遺構	階位等	部種	日積	縦積	高さ	備考
1951	10C10m	3742S1	上層	礎	7.2		4.9		2026	10C9	3742S1	上層	礎				8.8
1952	10C10	3742S1	下層	礎	7.5		4.8		2027	10C9m	3742S1	トレンチ	広口礎			7.2	8.0
1953	10C8	3742S1	上層	礎	7.2		5.2		2028	10C10	3742S1	上層	広口礎			9.2	7.8 木葉痕
1954	10C8	3742S1	上層	礎	6.4		3.9		2029	10C10	3742S1	下層	広口礎			8.9	8.9
1955	10C10	3742S1	下層	礎	5.5		3.4		2030	10C10	3742S1	上層	広口礎			7.8	4.2
1956	10C10	3742S1	下層	中型鉢	10.9		7.5		2031	10C10	3742S1	上層	広口礎	18.6		9.0	34.4
1957	10C10	3742S1	下層	中型鉢	12.8		7.3		2032	10C10	3742S1	下層	広口礎			8.8	7.5
1958	10C8	3742S1	上層	中型鉢	16.4		5.7		2033	10C10	3742S1	上層	ハレス系礎			13.8	7.6
1959	10C10	3742S1	上層	大型(雲母)鉢	16.1	5.6	18.6		2034	10C9	3742S1	上層	ハレス系礎			16.6	4.9
1960	10C10	3742S1	下層	中型鉢	4.8		3.4		2035	10C10	3742S1	上層	加納広口礎			21.9	5.6
1961	10C10	3742S1	下層	中型鉢	4.0		2.4		2036	10C9m	3742S1	トレンチ	加納広口礎			17.6	3.0
1962	10C10	3742S1	上層	中型鉢	6.2		3.7 底部粘土付着		2037	10C10	3742S1	上層	加納広口礎			18.0	5.5
1963	10C10	3742S1	上層	中型鉢	5.0		3.9		2038	10C10	3742S1	下層	加納広口礎			20.0	5.5
1964	10C10	3742S1	上層	中型鉢	4.7		2.9		2039	10C10	3742S1	下層	加納広口礎			18.2	3.9
1965	10C8	3742S1	上層	中型鉢	4.2		2.4		2040	10C10	3742S1	下層	加納広口礎			18.8	5.9
1966	10C10	3742S1	上層	小型鉢(陶)	4.3		4.5 底部緑泥		2041	10C10	3742S1	下層	加納広口礎			17.8	6.8
1967	10C8	3742S1	上層	小型鉢(陶)	7.0	4.7	4.5		2042	10C10	3742S1	下層	加納広口礎			14.2	2.4
1968	10C10	3742S1	上層	小型鉢(陶)	10.4	5.1	4.3 水銀朱付着		2043	10C9	3742S1	上層	加納広口礎			17.4	5.2
1969	10C8	3742S1	下層	髷形高杯A	19.0		4.5		2044	10C9	3742S1	上層	加納広口礎			15.4	4.3
1970	10C8	3742S1	上層	髷形高杯A	20.2		10.6		2045	10C10	3742S1	上層	加納広口礎			17.6	6.0
1971	10C10	3742S1	下層	小型高杯	13.1		9.4		2046	10C9	3742S1	上層	新り返し口縁礎			11.2	1.5 遠江系
1972	10C8	3742S1	上層	小型高杯			6.1		2047	10C10	3742S1	床底	加納広口礎			18.5	18.7 木葉痕
1973	10C10	3742S1	下層	髷形高杯A	13.8		6.9		2048	10C10	3742S1	下層	加納広口礎				6.8
1974	10C10	3742S1	下層	髷形高杯A			6.1		2049	10C9	3742S1	上層	加納広口礎				5.9
1975	10C8	3742S1	上層	髷形高杯A			6.4		2050	10C10	3742S1	上層	加納広口礎				10.2
1976	10C10	3742S1	上層	髷形高杯A			4.6		2051	10C10	3742S1	上層	加納広口礎				4.6
1977	10C10	3742S1	上層	髷形高杯A	14.0		7.4		2052	10C10	3742S1	上層	加納広口礎				8.6
1978	10C10	3742S1	上層	髷形高杯A	13.0		7.4		2053	10C10	3742S1	上層	加納広口礎				8.8
1979	10C10	3742S1	上層	髷形高杯A			7.9		2054	10C10	3742S1	4300SK	礎			18.0	4.7
1980	10C10	3742S1	上層	髷形高杯A	11.2		6.5		2055	10C10	3741S1	床底	有段口縁礎A			12.0	7.1
1981	10C10	3742S1	下層	高杯	23.6		8.6		2056	10C10	3741S1	床底	内側口縁礎			19.2	11.1
1982	10C10	3742S1	下層	高杯			6.9		2057	10C9m	3741S1	床底	高杯			19.8	12.8
1983	10C10	3742S1	上層	高杯	21.2		6.8		2058	10C9m	3741S1	上層	広口礎			14.2	6.6
1984	10C10	3742S1	上層	高杯			10.3		2059	10C9	3741S1	5197SK	高杯			8.7	9.5
1985	10C8	3742S1	上層	高杯	22.2		8.7		2060	10C9	3741S1	5197SK	礎				11.4
1986	10C8	3742S1	上層	高杯		12.0	12.8		2061	10C11m	3651S1	下層	高杯			24.6	2.4
1987	10C10	3742S1	下層	高杯			7.1		2062	10C11m	3651S1	下層	高杯			10.7	8.5
1988	10C9m	3742S1	上層	高杯	11.7		11.8		2063	10C11m	3651S1	下層	高杯				8.2
1989	10C10	3742S1	上層	高杯			5.0		2064	10C11m	3651S1	下層	礎	18.6			6.8
1990	10C10	3742S1	上層	高杯	11.6		9.9		2065	10C11m	3651S1	下層	髷形高杯				3.6
1991	10C10	3742S1	上層	高杯	10.6		11.8		2066	10C11m	3651S1	下層	髷形高杯				5.8
1992	10C10	3742S1	トレンチ	高杯	12.0		11.1		2067	10C11m	3651S1	下層	広口礎			11.0	7.5
1993	10C9m	3742S1	上層	高杯	13.0		11.2		2068	10C11m	3651S1	下層	中型礎			5.0	2.2 木葉痕
1994	10C10	3742S1	上層	高杯	12.5		9.7		2069	10C11m	3651S1	下層	小型礎				2.2
1995	10C10	3742S1	上層	高杯	10.8		7.5		2070	10C11m	3651S1	上層	有段口縁礎B			18.4	2.4
1996	10C8	3742S1	上層	高杯	11.7		8.3		2071	10C11m	3651S1	上層	礎			14.0	4.2
1997	10C10	3742S1	上層	高杯	12.2		10.2		2072	10C11m	3651S1	上層	内側口縁礎A			12.8	8.6
1998	10C8	3742S1	上層	高杯	9.8		8.0		2073	10C11m	3651S1	上層	内側口縁礎A			3.2	3.1
1999	10C8	3742S1	上層	高杯			4.2		2074	10C11m	3651S1	上層	加納広口礎			13.6	3.6
2000	10C8	3742S1	上層	礎台					2075	10C11m	3651S1	上層	広口礎			18.0	3.1
2001	10C10	3742S1	上層	髷形内側口縁礎			5.8		2076	10C11m	検出	Ec部	有段口縁礎A			21.0	3.5
2002	10C8	3742S1	上層	有段口縁礎	28.6		6.9		2077	10C13	検出	Ec部	ハレス系礎			18.0	3.8
2003	10C10	3742S1	下層	有段口縁礎	18.2		5.2		2078	10C13	3211S1	床底	高杯			13.1	21.3 西遠江系
2004	10C10	3742S1	上層	有段口縁礎	20.2		6.2		2079	10C13	3211S1	床底	高杯			23.0	10.2 18.4
2005	10C10	3742S1	上層	直口礎	12.4		23.5		2080	10C13	3211S1	床底	高杯			23.5	11.2 17.9
2006	10C10	3742S1	下層	内側口縁礎B	4.0		2.2		2081	10C13	3211S1	床底	髷形高杯A			12.0	9.6 10.1
2007	10C8	3742S1	上層	内側口縁礎B	2.0		7.1		2082	10C13	3211S1	床底	礎			16.4	8.5 20.4
2008	10C10	3742S1	上層	内側口縁礎D	11.6		6.1		2083	10C13	3211S1	床底	広口礎			6.9	4.7
2009	10C8	3742S1	上層	広口礎	12.0		2.9		2084	10C13	3211S1	床底	広口礎			6.0	23.7
2010	10C8	3742S1	上層	広口礎	9.9		12.1		2085	10C13	3211S1	床底	大型(雲母)鉢			21.7	8.7 19.5
2011	10C8	3742S1	下層	広口礎	14.6		4.3		2086	10C13	3211S1	床底	大型(雲母)鉢			13.6	5.5 15.3
2012	10C10	3742S1	下層	広口礎	7.8		5.0		2087	10C14	3211S1	下層	筒状口縁礎			15.2	5.5
2013	10C10	3742S1	下層	広口礎	16.2		6.5		2088	10C14	3211S1	上層	広口礎			16.8	4.0
2014	10C10	3742S1	上層	広口礎	18.2		7.3		2089	10C13	3211S1	上層	広口礎			18.0	1.8
2015	10C8	3742S1	上層	広口礎	18.0		4.7		2090	10C13	3211S1	ベムト	加納広口礎				3.3
2016	10C10m	3742S1	上層	広口礎	17.8		2.5		2091	10C14	3211S1	上層	広口礎			8.9	5.8
2017	10C10	3742S1	上層	広口礎	14.4		10.0		2092	10C14	3211S1	上層	広口礎			5.8	2.5
2018	10C10	3742S1	下層	広口礎	8.2		2.9 木葉痕		2093	10C13	3211S1	ベムト	広口礎			5.6	2.9
2019	10C10	3742S1	下層	広口礎	9.0		3.7 木葉痕		2094	10C14	3211S1	上層	広口礎			4.4	7.3
2020	10C8	3742S1	上層	広口礎	7.8		3.1		2095	10C13	3211S1	上層	中型鉢			9.6	5.3 7.3
2021	10C10	3742S1	上層	広口礎	5.8		3.8		2096	10C14k	3211S1	上層	高杯				4.8
2022	10C10	3742S1	上層	広口礎	7.5		4.7		2097	10C14	3211S1	上層	髷形高杯A				4.4
2023	10C10	3742S1	上層	広口礎	6.6		4.2 木葉痕		2098	10C14	3211S1	上層	礎			9.2	6.2
2024	10C10	3742S1	上層	広口礎	16.1	7.4	21.8		2099	10C14k	3211S1	上層	礎			8.2	5.8
2025	10C10	3742S1	上層	広口礎	14.9		14.2		2100	10C13	3211S1	上層	礎			18.0	11.8

登録番号	グッド	遺構	層位等	部種	日付	経径	高さ	備考	登録番号	グッド	遺構	層位等	部種	日付	経径	高さ	備考
2101	10C13	3211S	上層	巻	16.0	"8.1			2176	10C17	検出	Fa群	広口壺		7.4	"2.8	
2102	10C14	3211S	上層	巻	19.8	"4.7			2177	10C17	検出	Fa群	小型鉢		4.0	"3.2	
2103	10C13	3211S	上層	巻	13.4	"3.2			2178	10C17	検出	Fa群	巻		9.1	"5.9	
2104	10C14	3211S	上層	縁部口縁巻	11.7	"2.2			2179	10C17	3149S	床底	高杯				"5.7
2105	10C15	4309S	床底	小型壺	4.6	"4.6			2180	10C17	3149S	下層	高杯		13.0	"3.5	
2106	10C14	4309S	下層	小型壺	4.4	"1.2			2181	10C16	3149S	上層	高杯				"4.4
2107	10C14	4311S	床底	高杯	11.8	"10.4			2182	10C16	3149S	上層	巻				"3.1
2108	10C14	4311S	床底	椀形高杯A	10.0	"6.5			2183	10C16	3149S	上層	有孔鉢		5.4	"4.5	
2109	10C14	4311S	トレンチ	S字巻	21.8	"1.5 A類			2184	10C17	3149S	上層	巻		4.0	"2.6	
2110	10C14	4311S	上層	巻	12.8	"2.5			2185	10C16m	3149S	下層	加飾広口壺		17.0	"4.1	
2111	10C14	4311S	上層	巻	6.4	"3.9			2186	10C17m	3149S	トレンチ	加飾広口壺		22.0	"2.5	
2112	10C14	4193S	床底	中型壺	8.9	5.0 11.5			2187	10C17m	3149S	上層	加飾広口壺		19.2	"4.2	
2113	10C14	4193S	床底	巻	9.3	"5.8			2188	10C17	3149S	下層	広口壺		5.8	"2.3	
2114	10C14	4193S	床底	巻	7.8	"4.9			2189	10C16	3149S	上層	広口壺		5.6	"1.6	
2115	10C14	4193S	上層	巻	8.4	"5.8			2190	10C17m	3149S	上層	広口壺		7.6	"2.6	
2116	10C14	4193S	上層	巻	8.5	"5.6			2191	10C16m	3149S	下層	内甕口縁巻		22.0	"4.8	
2117	10C14	4193S	上層	巻	38.0	"5.9			2192	10C17m	3149S	上層	縁部口縁巻		17.8	"3.2	
2118	10C14	4193S	上層	小型鉢	5.0	"2.6			2193	10C17m	3149S	上層	有段口縁巻B		20.6	"7.9	
2119	10C14	4193S	上層	小型鉢	4.0	"3.0			2194	10C16m	3149S	削方	縁部口縁巻		18.0	"4.3	
2120	10C14	4193S	上層	加飾広口壺	22.0	"2.7			2195	10C17m	3149S	上層	縁部口縁巻		8.7	"6.3	
2121	10C14	4193S	上層	高杯	10.6	"6.2			2196	10C17	3149S	下層	大型管状土罐	長"5.7 幅"4.7 高"2.0 重52.2g			
2122	10C14	4310S	床底	広口壺	7.0	"2.7			2197	10C17m	3149S	上層	大型管状土罐	長9.8 幅5.1 高4.5 重294.3g			
2123	10C14	4310S	下層	広口壺	5.6	"5.0			2198	10C16m	3148S	床底	内甕口縁巻A		5.3	"8.8	
2124	10C13	4310S	上層	内甕口縁巻A	4.3	"1.3			2199	10C16m	3148S	床底	内甕口縁巻C		3.6	"6.5	西渡江系小型鉢
2125	10C13	4310S	上層	中型壺	7.2	"7.8			2200	10C16m	3148S	下層	中型鉢		11.6	"8.4	
2126	10C13	4310S	上層	中型壺	5.0	"4.0			2201	10C16m	3148S	下層	巻		7.0	"4.6	
2127	10C14	4310S	下層	高杯	10.9	"8.4			2202	10C17m	3148S	トレンチ	巻		17.8	"4.2	
2128	10C13	4310S	上層	高杯	10.5	"7.9			2203	10C16m	3148S	上層	巻		7.8	"6.3	
2129	10C14	4310S	上層	小型高杯	6.1	"4.2			2204	10C16m	3148S	上層	加飾広口壺		18.4	"4.5	
2130	10C15	3190S	床底	巻	12.2	7.1 18.4			2205	10C16m	3148S	上層	加飾広口壺				"4.0
2131	10C15	3190S	床底	巻	13.4	"12.0			2206	10C16m	3149S	上層	広口壺		6.6	"4.2	
2132	10C15	3190S	トレンチ	巻	7.6	"6.0			2207	10C17m	3149S	上層	広口壺		6.6	"4.3	
2133	10C15	3190S	トレンチ	巻	8.0	"5.0			2208	10C17m	3149S	トレンチ	広口壺		7.0	"2.0	
2134	10C15	3190S	下層	巻	9.8	"5.0			2209	10C16m	3148S	上層	小型鉢(陶)		7.8	7.8	4.4
2135	10C14	3190S	上層	巻	6.6	"5.4			2210	10C17m	3148S	上層	高杯				"8.9
2136	10C15	3190S	上層	巻	19.0	"4.0			2211	10C16m	3148S	上層	高杯		21.2	"8.2	
2137	10C15	3190S	上層	巻	21.6	"6.1			2212	10C15m	3003S	床底	高杯		21.4	"11.8	
2138	10C15	3190S	床底	高杯	13.1	"13.1			2213	10C13	3003S	床底	巻		9.7	"5.8	
2139	10C15	3190S	床底	高杯	10.5	"8.6			2214	10C15m	3003S	3043SK	巻		4.4	"5.1	
2140	10C15	3190S	トレンチ	高杯	10.6	"7.9			2215	10C17	3097S	床底	高杯		30.0	"4.8	
2141	10C15	3190S	下層	高杯		"4.1			2216	10C17	3097S	下層	高杯				"4.5
2142	10C14	3190S	上層	高杯		"4.0			2217	10C17	3097S	床底	広口壺		7.1	"2.4	
2143	10C15	3190S	床底	片内系高杯		"4.7 近畿系			2218	10C18	3097S	トレンチ	加飾広口壺		20.0	"3.1	
2144	10C15	3190S	床底	加飾広口壺	16.6	"4.5			2219	10C18	3097S	トレンチ	巻		20.8	"6.2	
2145	10C15	3190S	上層	新り直し口縁巻	16.0	"2.0 遠江系			2220	10C17	検出	Fb群	厚口巻?		9.6	"5.0	
2146	10C15	3190S	トレンチ	袋状口縁巻	18.8	"4.7			2221	10C15	検出	Fb群	小型鉢(陶)		3.0	"2.1	水取朱付者
2147	10C14	3190S	上層	広口壺		"8.0			2222	10C16	検出	Fb群	小型壺		5.6	"2.3	
2148	10C15	3190S	下層	広口壺	9.6	"4.0			2223	10C17	検出	Fb群	有孔鉢		5.0	"3.3	
2149	10C15	3190S	上層	広口壺	6.6	"10.9			2224	10C16	検出	Fb群	巻		6.7	"4.8	
2150	10C14	3190S	上層	ハルス系壺	7.4	"3.4 木取煎			2225	10C12	3223S	床底	高杯		12.8	"14.9	
2151	10C15	3190S	上層	広口壺	7.2	"2.6			2226	10C12	3223S	床底	広口壺		8.8	"4.5	
2152	10C14	3190S	上層	広口壺	5.2	"2.2			2227	10C12	3223S	下層	加飾広口壺				"5.5
2153	10C15	3190S	上層	広口壺	5.0	"2.6			2228	10C12	3223S	4398SK	椀形高杯A		10.3	"6.3	
2154	10C15	3190S	下層	球状土罐	長2.8 幅3.0 高"1.6 重11.1g				2229	10C14	3305S	床底	加飾不明		18.2	"4.5	
2155	10C15	3190S	4609SK	巻	19.0	"3.8			2230	10C14	3305S	下層	巻		22.0	"5.5	
2156	10C15	3186S	床底	巻	18.0	"14.9			2231	10C14	3305S	トレンチ	高杯				"4.1
2157	10C15	3186S	床底	巻	18.0	"14.9			2232	10C13	3305S	上層	有段口縁巻A		24.2	"5.9	
2158	10C15	3186S	下層	巻	14.0	"7.7			2233	10C14m	3824S	削方	巻		14.0	"4.1	
2159	10C15	3186S	下層	巻	24.0	"6.7			2234	10C13	3304S	床底	高杯				"7.2
2160	10C15	3186S	上層	巻	17.8	"17.5			2235	10C13	3304S	下層	小型鉢		4.6	"6.4	
2161	10C15	3186S	上層	加飾広口壺	24.0	"2.2			2236	10C13	3304S	上層	高杯				"6.4
2162	10C15	3188S	下層	巻		"11.5			2237	10C13	3304S	上層	加飾広口壺		19.0	"2.0	
2163	10C15	3188S	上層	巻	23.8	"10.9			2238	10C13	3304S	上層	加飾広口壺		18.4	"1.8	
2164	10C15	3188S	上層	巻		"5.9			2239	10C13	3304S	上層	巻		24.0	"4.5	
2165	10C15	3188S	下層	加飾広口壺	18.4	"5.9			2240	10C13	3304S	4372SK	巻		8.0	"8.0	
2166	10C15	3188S	上層	加飾広口壺	12.4	"2.4			2241	10C13	3304S	4372SK	巻				"5.1
2167	10C15	3188S	上層	内甕口縁巻D	4.4	"5.1			2242	10C13	3304S	4372SK	巻		5.1	"5.1	
2168	10C16	3150S	下層	有段口縁巻A	19.0	"2.6			2243	10C13	3304S	4372SK	巻		6.8	"4.1	
2169	10C15	3150S	上層	有段口縁巻B	17.8	"2.9			2244	10C13	3304S	4372SK	巻		3.5	"2.3	
2170	10C16	3150S	下層	巻		7.4	"4.7		2245	10C14	3283S	上層	巻		25.6	"5.6	
2171	10C15	3150S	上層	巻	23.6	"2.7			2246	10C14	3283S	上層	巻		15.8	"6.5	
2172	10C15	3150S	上層	広口壺	18.4	"2.6			2247	10C14	3283S	上層	巻		19.4	"14.8	
2173	10C15	3150S	上層	広口壺		7.2	"2.5		2248	10C14	3283S	上層	伊鉢巻		15.6	"17.3	
2174	10C15	3150S	3237SK	広口壺		10.6	"4.4		2249	10C14	3283S	上層	巻		19.0	"5.7	
2175	10C16	検出	Fa群	加飾広口壺	16.0	"3.6			2250	10C14	3283S	上層	巻		20.8	"4.5	

石室神社遺跡（本文編）

登録番号	グラッド	遺構	階位等	部種	口徑	縦径	高	備考	登録番号	グラッド	遺構	階位等	部種	口徑	縦径	高	備考
2251	10C14	3283S	上層	溝	9.2	"9.4			2326	10C14m	3147S	上層	溝(持)	17.6		"9.9	片口付
2252	10C14	3283S	上層	溝	8.0	"6.1			2327	10C14m	3147S	上層	溝(持)	4.4	"5.3		近畿系
2253	10C14	3283S	上層	溝	8.6	"6.5			2328	10C13m	3388S		4015SK	溝		7.8	"5.8
2254	10C14	3283S	上層	溝	7.6	"6.6			2329	10C13m	3388S		4015SK	溝		4.6	"5.5
2255	10C14	3283S	上層	溝		7.0	"4.2		2330	10C13m	5000SB		4354SK	溝			"5.4
2256	10C14	3283S	上層	ハリス系遺	16.6	"6.0			2331	10C14m	4427SK		Fe部	高杯		12.4	"8.8
2257	10C14	3283S	上層	広口甕	17.6	"4.5			2332	10C14	表上		Fe部	広口甕		6.6	"3.2
2258	10C14	3283S	上層	加飾広口甕		"8.5			2333	10C15m	3145S		瓦葺	ハリス系遺	22.0		"5.5
2259	10C14	3283S	上層	加飾広口甕		"3.9			2334	10C15m	3145S		瓦葺	広口甕	8.6	"2.0	
2260	10C14	3283S	上層	有段(筒白)口縁甕	20.4		"4.3	西道江(伊福)系	2335	10C15m	3145S		下層	広口甕	5.6	"1.8	
2261	10C14	3283S	上層	中型甕	6.8	6.4	"12.2		2336	10C15p	3145S		下層	広口甕		6.3	"1.8
2262	10C14	3283S	上層	中型甕		"6.9			2337	10C15m	3145S		瓦葺	溝	16.2	"8.7	
2263	10C14	3283S	上層	広口甕	9.3	"4.0			2338	10C15m	3145S		下層	有段口縁甕B	22.4	"1.6	
2264	10C14	3283S	上層	広口甕	5.3	"3.2			2339	10C15m	3145S		下層	5字溝			"2.1
2265	10C14	3283S	上層	広口甕	6.2	"3.1			2340	10C15p	3274S		下層	高杯	22.0	"5.3	
2266	10C14	3283S	上層	広口甕	6.9	"1.9			2341	10C17p	3747S		下層	有段口縁甕A	18.2	"5.8	
2267	10C14	3283S	上層	広口甕	6.0	"1.9			2342	10C16p	3273S		瓦葺	溝	20.1	"23.2	
2268	10C14	3283S	上層	中型甕	5.4	"2.4			2343	10C16p	3273S		上層	溝	7.7	"5.4	
2269	10C14	3283S	上層	小型甕	2.6	"1.8			2344	10C17p	3273S		瓦葺	広口甕	7.8	"11.6	
2270	10C14	3283S	上層	小型鉢(陶)	2.8	"1.4			2345	10C17p	3273S		下層	広口甕	4.4	"2.6	
2271	10C14	3283S	上層	内筒口縁甕B		2.0	"2.4		2346	10C16p	3273S		上層	広口甕	5.4	"1.8	
2272	10C14	3283S	上層	高杯	28.0		"5.2		2347	10C16p	3273S		上層	広口甕	6.2	"3.9	
2273	10C14	3283S	上層	高杯	27.4		"4.5		2348	10C17p	3273S		下層	高杯	21.0	"5.3	
2274	10C14	3283S	上層	高杯	22.6		"9.3		2349	10C16p	3273S		下層	高杯		"3.9	
2275	10C14	3283S	上層	高杯		"7.8			2350	10C16p	3273S		瓦葺	高杯	24.0	"9.4	
2276	10C14	3283S	上層	高杯		"6.6			2351	10C16p	3273S		上層	小型高杯	14.6	"5.9	
2277	10C14	3283S	上層	高杯		"7.9			2352	10C16p	3146S		瓦葺	高杯		12.8	"7.1
2278	10C13p	3481S	下層	加飾広口甕		"5.8			2353	10C16p	3146S		瓦葺	高杯		"5.4	
2279	10C13m	3623S	観方	高杯		"7.2			2354	10C16p	3146S		下層	高杯		"4.0	
2280	10C12m	3388S	瓦葺	椀形高杯A		"6.1			2355	10C16p	3146S		上層	溝	6.0	"4.4	
2281	10C12m	3388S	下層	高杯		"7.8			2356	10C16p	3146S		上層	高杯		"6.1	
2282	10C13m	3388S	瓦葺	溝	8.2	"5.8			2357	10C16p	3146S		下層	中型甕	11.0	5.0	"13.1
2283	10C12m	3388S	下層	溝	9.7	"6.5			2358	10C15p	3231S		瓦葺	有段口縁甕A	22.4	"10.7	
2284	10C12m	3388S	上層	溝	11.2	"6.2			2359	10C17p	3217SK		Fe部	平底甕	9.6	3.6	"9.7
2285	10C13m	3388S	下層	中型甕	10.8		"1.7	継孔	2360	10C16p	椀山		Fe部	小型鉢(陶)	3.5	"2.5	
2286	10C13m	3388S	下層	小型甕	4.2	"1.8			2361	10C10m	3605S		瓦葺	加飾広口甕	18.8	"6.6	
2287	10C13m	3388S	下層	内筒口縁甕B	8.8	3.6	0.1		2362	10C10m	3605S		瓦葺	広口甕		6.9	"3.9
2288	10C12m	3388S	下層	小型甕		"5.3	北隣系？		2363	10C9p	3605S		下層	加飾広口甕	19.4	"2.7	
2289	10C13m	3388S	下層	小型甕	4.0	"1.7			2364	10C10m	3605S		下層	有段口縁甕	17.4	"4.1	
2290	10C13m	3388S	下層	椀形容器		"4.5			2365	10C9p	3605S		下層	椀形高杯A	19.6	"4.7	
2291	10C13m	3388S	下層	加飾広口甕	16.0		"2.0		2366	10C10m	3605S		下層	広口甕	19.7	"2.8	
2292	10C12m	3388S	上層	広口甕	7.6	"5.1			2367	10C10m	3605S		下層	広口甕	15.0	"4.5	
2293	10C13m	3388S	上層	加飾広口甕		"2.3			2368	10C10m	3605S		上層	広口甕	16.4	"4.8	
2294	10C12m	3388S	3801SK	溝	8.2	"6.2	36SSIS		2369	10C10m	3605S		上層	加飾広口甕	20.4	"5.5	
2295	10C13m	3388S	4022SK	大型(平筋)鉢	14.9	8.5	"12.5	4104SKと統合	2370	10C10m	3605S		上層	加飾広口甕	12.4	"4.2	
2296	10C13m	3388S	4022SK	溝	9.2	"5.7	36SSIS		2371	10C10m	3605S		下層	広口甕	8.1	"4.0	木製版
2297	10C13m	3388S	4022SK	溝	8.4	"6.6	36SSIS		2372	10C10m	3605S		下層	内筒口縁甕A	11.8	"7.0	
2298	10C13m	3388S	4022SK	溝	7.9	"5.8	36SSIS		2373	10C10m	3605S		下層	内筒口縁甕		"8.7	
2299	10C13m	3388S	4022SK	溝		"5.3	36SSIS		2374	10C10m	3605S		下層	内筒口縁甕B	8.8	"5.4	
2300	10C13m	3389S	トレンド	溝	19.8		"10.0		2375	10C10m	3605S		下層	溝	25.6	"2.9	
2301	10C12m	3389S	上層	広口甕	16.4	"2.8			2376	10C10m	3605S		下層	内筒口縁甕	17.0	"2.6	
2302	10C12m	3389S	上層	広口甕		8.6	"2.5		2377	10C9p	3605S		下層	高杯		"4.4	
2303	10C12m	3389S	上層	広口甕	10.4		"4.3	3388Sと統合	2378	10C10m	3605S		上層	高杯		"5.5	
2304	10C12m	3389S	上層	加飾広口甕		"6.3			2379	10C10m	3605S		上層	高杯		"4.6	
2305	10C12m	3389S	上層	高杯		"5.3			2380	10C10m	3605S		上層	高杯		"6.6	
2306	10C12m	3389S	上層	部種不明		"7.8			2381	10C10m	3605S		上層	広口甕		"6.4	部種不明
2307	10C14m	3147S	瓦葺	高杯	26.4		"1.3		2382	10C10m	3605S		上層	小型鉢(陶)	4.8	3.4	"4.9
2308	10C14m	3147S	下層	高杯		"8.8			2383	10C8p	3606S		瓦葺	溝	16.8	"8.1	3609Sと統合
2309	10C14m	3147S	下層	高杯		"8.0			2384	10C8m	3606S		瓦葺	加飾広口甕	17.2	"1.8	
2310	10C14m	3147S	下層	高杯(器白)	16.4		"5.3	北隣系？	2385	10C8p	3620S		瓦葺	内筒口縁甕	21.2	"12.1	
2311	10C14m	3147S	上層	高杯	25.0		"2.4		2386	10C8p	3620S		下層	溝		"4.5	
2312	10C14m	3147S	上層	高杯		"4.7			2387	10C9p	3728S		3912SK	大型(平筋)鉢	18.2	8.4	"11.0
2313	10C14m	3147S	上層	高杯		"5.4			2388	10C9p	3728S		3912SK	袋状口縁甕	17.6	"5.2	
2314	10C15p	3147S	上層	高杯		"4.1			2389	10C10m	3607S		下層	加飾広口甕	21.4	"3.6	
2315	10C14m	3147S	瓦葺	広口甕	8.4	"3.3			2390	10C10m	3607S		下層	小型鉢(陶)	3.4	"2.2	
2316	10C14m	3147S	下層	小型鉢	3.4	"2.6			2391	10C9p	3608S		下層	小型高杯		"3.5	
2317	10C14m	3147S	観方	広口甕	4.6	"1.9			2392	10C10p	3608S		下層	高杯		"2.4	
2318	10C14m	3147S	上層	小型鉢	5.6	"3.3			2393	10C9p	3609S		瓦葺	高杯	24.3	"11.0	
2319	10C16p	3147S	上層	小型鉢(陶)	2.6	"1.3			2394	10C9p	3609S		下層	高杯		"5.6	
2320	10C14m	3147S	下層	大型鉢	23.4	"2.9			2395	10C9p	3609S		上層	高杯	25.2	"11.0	
2321	10C14m	3147S	上層	部種不明	20.6	"3.9			2396	10C9p	3609S		上層	高杯		"5.6	
2322	10C14m	3147S	上層	溝	19.6	"8.7			2397	10C9p	3609S		上層	高杯		"4.3	
2323	10C14m	3147S	上層	溝	22.6	"7.0			2398	10C9p	3609S		上層	椀形高杯A	12.8	"6.2	
2324	10C16p	3147S	上層	内筒口縁甕	21.0	"4.0			2399	10C9p	3609S		上層	溝	13.4	"9.0	
2325	10C16p	3147S	上層	有段口縁甕A	20.8	"1.9			2400	10C9p	3609S		上層	溝	7.8	"5.8	

登録番号	グッド	造構	解位等	部様	日経	経経	節高	備考	登録番号	グッド	造構	解位等	部様	日経	経経	節高	備考
2401 10C0p	3609SI		上層	広口傘	14.4		*14.3		2476 10C11a	3407SI		上層	葉	20.8			*7.2
2402 10C0p	3609SI		上層	加飾広口傘	18.4		*4.1		2477 10C12a	3407SI		上層	葉	11.2			*2.0
2403 10C0p	3609SI		上層	加飾広口傘			*4.1		2478 10C11a	3407SI		上層	縁帯口縁葉	18.0			*6.3
2404 10C0p	3609SI		下層	ミニチュア?			*2.7		2479 10C12a	3407SI		上層	葉	15.0			*4.0
2405 10C7q	3668SI		上層	葉			*4.1		2480 10C12a	3407SI		上層	有段口縁葉B	24.0			*3.4
2406 10C10a	3887SK		Go群	広口傘	7.2		*3.3		2481 10C12a	3407SI		上層	内臂口縁葉	17.6			*2.9
2407 10C0a	4227SK		Go群	高杯	9.0		*6.1		2482 10C12a	3407SI		上層	5字葉	18.0			*5.0 人前
2408 10C8r	桃出		Go群	小型鉢(柄)	3.4		*2.2		2483 10C11a	3407SI		上層	葉				*5.1
2409 10C12p	3406SI		既成	広口傘	6.4		*18.8		2484 10C11a	3407SI		上層	葉	9.0			*5.4
2410 10C11p	3406SI		トレンテ	広口傘	5.0		*2.6		2485 10C11a	3407SI		上層	葉	9.0			*5.6
2411 10C12p	3406SI		上層	広口傘	6.8		*2.5		2486 10C11a	3407SI		上層	葉	9.8			*6.7
2412 10C12p	3406SI		上層	加飾広口傘			*4.2		2487 10C11a	3407SI		上層	縁帯不明	5.5			*3.3
2413 10C12p	3406SI		上層	内臂口縁葉C	9.0	4.5	*7.8		2488 10C11p	3407SI		上層	桜形高杯A	16.4			*4.2
2414 10C11q	3406SI		上層	内臂口縁葉B	4.0		*4.5		2489 10C12a	3407SI		上層	高杯	26.2			*3.3 365SIと同一
2415 10C12p	3406SI		上層	葉	22.0		*3.5		2490 10C11a	3407SI		上層	桜形高杯A	7.8			*5.2
2416 10C11p	3406SI		トレンテ	葉	16.8		*6.8		2491 10C12a	3407SI		上層	高杯				*4.0
2417 10C12p	3406SI		上層	有段口縁葉A	18.0		*1.8		2492 10C11a	3407SI		上層	桜形高杯A				*4.6
2418 10C12p	3406SI		上層	葉	4.6		*3.8		2493 10C11a	3407SI		上層	桜形高杯A				*4.8
2419 10C12p	3406SI		上層	高杯			*4.1		2494 10C9r	5770SI		下層	有段口縁葉A	25.0			*4.2
2420 10C12p	3406SI		上層	高杯			*4.5		2495 10C9r	5770SI		下層	葉	19.2			*3.8
2421 10C11p	3406SI		既成	小型高杯	16.0		*10.4		2496 10C9r	5770SI		下層	葉	18.2			*7.7
2422 10C11p	3406SI		既成	桜形高杯A	14.0		*5.8		2497 10C9r	5770SI		下層	葉				*8.8
2423 10C11p	3406SI		既成	高杯			*4.0		2498 10C9r	5770SI		上層	内臂口縁葉	19.2			*2.9
2424 10C11a	3406SI		下層	高杯			*3.8		2499 10C9r	5770SI		上層	縁帯口縁葉	19.6			*3.8
2425 10C11p	3406SI		下層	内臂口縁葉C	10.6		*7.0		2500 10C9r	5770SI		上層	葉	21.0	9.4		*3.0
2426 10C11p	3406SI		下層	小型傘	6.9	4.4	*8.5		2501 10C9r	5770SI		上層	葉	24.2			*5.6
2427 10C11p	3406SI		上層	中型傘	4.4		*2.7		2502 10C9r	5770SI		上層	葉	17.8			*6.0
2428 10C11a	3406SI		上層	中型傘	5.1		*2.0		2503 10C9r	5770SI		上層	葉	19.2			*4.4
2429 10C11p	3406SI		上層	広口傘	8.0		*2.9		2504 10C9r	5770SI		上層	葉	23.9			*13.9
2430 10C11p	3406SI		上層	中型鉢	5.8		*4.6		2505 10C9r	5770SI		上層	葉	19.0			*7.0
2431 10C11a	3406SI		上層	新り返し口縁傘	17.8		*1.5 遠江系		2506 10C9r	5770SI		上層	葉				*22.3
2432 10C11p	3406SI		下層	葉	7.7		*5.4		2507 10C9r	5770SI		下層	葉		10.0		*8.8
2433 10C11p	3406SI		上層	有段口縁葉A	24.0		*2.1		2508 10C9r	5770SI		上層	葉	14.3			*9.4
2434 10C11a	3406SI		上層	葉	14.4		*5.0		2509 10C9r	5770SI		上層	葉	14.4			*8.4
2435 10C12p	3406SI		4038SK	小型鉢(柄)	9.4	3.8	*7.7		2510 10C9r	5770SI		上層	葉	13.7	7.0		*20.9
2436 10C12p	3406SI		4038SK	葉	9.2		*5.3		2511 10C9r	5770SI		上層	葉	16.8	9.0		*25.0
2437 10C12p	3406SI		4038SK	内臂口縁葉	22.0		*5.7		2512 10C9r	5770SI		上層	内臂口縁葉	14.6			*8.7
2438 10C12a	3406SI		既成	葉	7.9		*6.4		2513 10C9r	5770SI		下層	葉	8.2			*5.3
2439 10C11a	3406SI		下層	葉	9.0		*5.8		2514 10C9r	5770SI		下層	葉	8.6			*8.3
2440 10C11a	3406SI		下層	広口傘	21.0		*3.2		2515 10C9r	5770SI		上層	葉	8.4			*8.8
2441 10C11a	3406SI		下層	広口傘			*8.5	*2.3	2516 10C9r	5770SI		上層	葉	8.4			*5.0
2442 10C11a	3406SI		上層	内臂口縁葉	19.2		*5.2		2517 10C9r	5770SI		上層	葉	11.4			*6.6
2443 10C11a	3704SI		下層	葉			*2.6		2518 10C9r	5770SI		上層	葉	7.4			*5.7
2444 10C10p	3408SI		上層	葉	6.6		*3.6		2519 10C9r	5770SI		上層	葉	8.0			*5.2
2445 10C12a	3407SI		既成	広口傘	8.0		*8.7		2520 10C9r	5770SI		上層	葉	10.0			*5.4
2446 10C11a	3407SI		下層	広口傘	12.0		*4.6		2521 10C9r	5770SI		上層	葉	5.6			*4.8
2447 10C11a	3407SI		下層	餅ッ呼吸傘			*5.3		2522 10C9r	5770SI		上層	葉	6.0			*3.0
2448 10C11a	3407SI		既成	葉	12.0		*7.4		2523 10C9r	5770SI		上層	縁帯口縁(平頂)葉	15.8	5.2		*16.0
2449 10C11a	3407SI		下層	葉	9.1		*6.9		2524 10C9r	5770SI		上層	平頂葉	13.8	5.9		*14.1
2450 10C11a	3407SI		下層	葉	10.0		*7.1		2525 10C9r	5770SI		下層	有段口縁葉	14.4			*5.3
2451 10C11a	3407SI		下層	葉	8.4		*6.9		2526 10C9r	5770SI		下層	広口傘	6.2			*3.1
2452 10C11a	3407SI		下層	内臂口縁葉	16.6		*2.7		2527 10C9r	5770SI		下層	内臂口縁葉A	9.6	5.4		*16.2
2453 10C11a	3407SI		下層	葉	7.4		*6.8		2528 10C9r	5770SI		上層	小型傘	7.2			*7.4
2454 10C12a	3407SI		4097SK	加飾広口傘	21.6		*1.8		2529 10C9r	5770SI		上層	小型傘	5.3			*9.1
2455 10C12a	3407SI		4097SK	葉	8.0		*5.1		2530 10C9r	5770SI		下層	小型鉢	4.0			*4.7 既部縁柄
2456 10C11a	3562SK		Go群	広口傘	19.0		*3.8		2531 10C9r	5770SI		下層	小型傘	4.3			*7.2
2457 10C11p	4274SK		Go群	葉	10.6		*6.9		2532 10C9r	5770SI		上層	内臂口縁葉C	10.4	8.6		4.9
2458 10C12a	3407SI		上層	加飾広口傘	19.2		*2.2		2533 10C9r	5770SI		上層	内臂口縁葉B	7.2	4.0		*8.0
2459 10C12a	3407SI		上層	有段口縁葉	20.8		*4.2		2534 10C9r	5770SI		上層	広口傘	10.7			*5.0 本葉柄
2460 10C12a	3407SI		上層	袋状口縁葉	19.6		*4.2		2535 10C9r	5770SI		上層	加飾広口傘				*6.5
2461 10C11a	3407SI		上層	袋状口縁葉	15.2		*4.0 殿孔		2536 10C9r	5770SI		下層	内臂口縁葉	23.4			*5.0
2462 10C11a	3407SI		上層	有段口縁葉	16.6		*3.6		2537 10C9r	5770SI		上層	加飾広口傘	23.0			*7.5
2463 10C11a	3407SI		上層	加飾広口傘			*12.3		2538 10C9r	5770SI		上層	広口傘	15.0			*4.8
2464 10C11a	3407SI		上層	加飾広口傘			*17.2		2539 10C9r	5770SI		上層	縁帯不明				*2.5
2465 10C12a	3407SI		上層	バレス系傘			*6.4 3609SIと同一		2540 10C9r	5770SI		下層	高杯	20.6			*10.4
2466 10C12a	3407SI		上層	バレス系傘			*3.5		2541 10C9r	5770SI		下層	高杯	21.0			*7.7
2467 10C12a	3407SI		上層	広口傘			*3.0 東遠江(菊川)系		2542 10C9r	5770SI		下層	高杯	18.4			*6.8
2468 10C11a	3407SI		上層	広口傘	9.0		*5.2		2543 10C9r	5770SI		下層	高杯				*10.6
2469 10C11a	3407SI		上層	広口傘	7.0		*1.8		2544 10C9r	5770SI		下層	高杯				*13.3
2470 10C12a	3407SI		上層	加飾広口傘			*11.4 3409SIと同一		2545 10C9r	5770SI		下層	高杯				*10.6
2471 10C11a	3407SI		上層	中型傘	6.4		*8.3		2546 10C9r	5770SI		下層	高杯				*5.7
2472 10C11a	3407SI		上層	内臂口縁葉A	5.0		*8.8 遠風文		2547 10C9r	5770SI		上層	高杯				*8.8
2473 10C11a	3407SI		上層	小型鉢	5.0		*5.2		2548 10C9r	5770SI		上層	高杯				*4.2
2474 10C11a	3407SI		上層	小型鉢	4.2		*3.6		2549 10C9r	5770SI		上層	高杯				*13.7
2475 10C11a	3407SI		上層	中型鉢	11.6		*5.2		2550 10C9r	5770SI		上層	高杯				*11.0

石室神社遺跡（本文編）

登録番号	グッド	遺構	階位等	部種	日辰	経緯	高さ	備考	登録番号	グッド	遺構	階位等	部種	日辰	経緯	高さ	備考	
2551 10C1c	5770S	土層	高杯				"6.0		2626 10C13p	3380S	土層	小型鉢				5.2	"2.2	
2552 10C1c	5770S	土層	高杯				"4.9		2627 10C13q	3380S	土層	小型鉢				4.9	"2.7	
2553 10C1c	5770S	土層	高杯				"7.3		2628 10C13q	3380S	土層	小型鉢				3.6	"2.0	
2554 10C1c	5770S	土層	高杯			10.0	"9.4		2629 10C14q	3379S	トレンチ	溝			19.6		"5.7 4991S1と同一	
2555 10C1c	5770S	土層	高杯			11.0	"7.1		2630 10C14q	3379S	土層	溝				16.0	"3.8	
2556 10C1c	5770S	土層	高杯				"5.3		2631 10C14q	3379S	土層	溝状口縁壘				15.6	"5.6	
2557 10C1c	5770S	土層	高杯				11.8	"2.1	2632 10C14q	3379S	土層	高杯					"7.8	
2558 10C10q	3621S	床直	溝		20.6	9.0	"28.0		2633 10C14r	4991S	土層	ハレス系壘					"3.8	
2559 10C10q	3621S	床直	溝		22.0		"3.8		2634 10C15r	5653S	下層	広口壘					6.6	"3.9
2560 10C10r	5784S	床直	溝		19.2		"8.4		2635 10C16r	5653S	土層	広口壘					7.2	"3.2
2561 10C10r	5784S	下層	溝		18.4		"3.3		2636 10C16r	5653S	土層	溝			21.0		"9.6	
2562 10C10r	5784S	下層	内側口縁壘		17.6		"2.7		2637 10C14r	3378S	床直	溝				7.4	"4.5	
2563 10C10r	5784S	下層	有段口縁壘		16.8		"2.0		2638 10C14r	3378S	下層	溝				11.2	"2.5	
2564 10C10r	5784S	下層	内側口縁壘		10.0		"4.6		2639 10C14r	3378S	下層	溝				14.2	"8.7	
2565 10C10r	5784S	下層	内側口縁壘		4.8		"3.5		2640 10C14r	3378S	下層	高杯				17.6	"8.1	
2566 10C10r	5784S	土層	加飾広口壘				"2.5		2641 10C14r	3378S	下層	小型壘				5.4	"2.3	
2567 10C10q	3622S	床直	高杯		20.6	11.2	17.1		2642 10C15r	5637S	下層	高杯				10.4	"8.9	
2568 10C10q	3622S	床直	高杯			11.0	"10.3		2643 10C15r	5637S	下層	広口壘				5.7	"1.7	
2569 10C10q	3622S	床直	高杯			12.0	"7.9		2644 10C15r	5637S	下層	溝				6.4	"4.3	
2570 10C10q	3622S	床直	高杯		18.0	15.0	"15.0		2645 10C15r	5637S	下層	廻り手付容器		長"18.4 幅"8.5	高1.5		本製容器の転写	
2571 10C10q	3622S	土層	高杯		23.4		"7.2		2646 10C15r	5637S	5852SK	中型鉢				5.3	"4.9 底部線刷	
2572 10C10q	3622S	土層	輻形高杯				"5.1		2647 10C14r	5637S	5974SK	溝			12.0		"10.8	
2573 10C10r	3622S	土層	輻形高杯				"4.8		2648 10C13q	5634S	下層	S字溝					"3.3 非照占	
2574 10C10r	3622S	土層	広口壘		19.0		"1.6		2649 10C14r	5634S	下層	溝				19.6	"4.9	
2575 10C10q	3622S	下層	広口壘			7.2	"2.6		2650 10C14r	5634S	下層	輻形高杯	A			6.6	"2.9	
2576 10C10q	3622S	土層	内側口縁壘		10.0	4.4	"8.7		2651 10C14r	5634S	下層	広口壘				6.2	"3.2	
2577 10C10r	3622S	土層	小型鉢(輪)			3.2	"1.3		2652 10C14r	5634S	土層	溝					7.1	"3.9
2578 10C10r	3622S	土層	内側口縁壘		17.6		"3.6		2653 10C14r	5634S	土層	溝					5.6	"2.9
2579 10C10q	3622S	土層	S字溝		19.4		"1.5 非照占		2654 10C14r	5634S	下層	広口壘					6.1	"3.2
2580 10C10q	3622S	土層	溝			9.0	"5.6		2655 10C14r	5635S	下層	小型鉢(溝)				9.6	"4.0	
2581 10C10h	5785S	床直	有段口縁壘	A	20.2		"16.7		2656 10C14r	5635S	土層	溝				17.2	"3.9	
2582 10C10h	5785S	床直	溝			8.7	"6.2		2657 10C14r	5635S	土層	溝				19.4	"2.8	
2583 10C10r	5785S	床直	輻形高杯	A	14.0		"11.5		2658 10C14r	5635S	下層	溝				16.4	"6.4	
2584 10C10h	5785S	床直	輻形高杯	A	12.5	10.7	9.0		2659 10C14r	5635S	下層	広口壘				12.0	"4.9	
2585 10C10h	5785S	床直	高杯				"6.4		2660 10C14r	5635S	下層	高杯				25.0	"4.4	
2586 10C10r	5785S	床直	広口壘		16.2		"8.4		2661 10C14r	5635S	下層	高杯					"5.4	
2587 10C10h	5785S	床直	広口壘			6.0	"6.0		2662 10C14r	5635S	土層	溝				20.8	"4.7	
2588 10C10h	5785S	床直	広口壘			7.2	"4.1		2663 10C14r	5635S	土層	溝				11.8	"4.7	
2589 10C10h	5785S	床直	短壘			7.8	" 8.8		2664 10C14r	5635S	土層	輻形高杯	A			19.8	"4.0	
2590 10C10r	5785S	下層	高杯		20.2		"2.1		2665 10C14r	5635S	土層	輻形高杯	A				"4.3	
2591 10C10r	5785S	下層	高杯				"5.7		2666 10C14r	5635S	土層	広口壘				16.0	"3.9	
2592 10C1c	5785S	下層	溝				"4.3		2667 10C14r	5635S	5954SK	溝				8.0	5.9	
2593 10C10h	5785S	土層	溝			10.2	"7.7		2668 10C16q	3320S	下層	広口壘			20.8		"2.9	
2594 10C10r	5785S	土層	高杯		25.2		"9.7		2669 10C16r	3320S	5859SK	溝			8.8	"7.2		
2595 10C10h	5785S	土層	高杯			13.5	"12.3		2670 10C17q	3328S	床直	溝				14.6	"12.3	
2596 10C10r	5785S	6018SK				17.4	"7.1		2671 10C16q	3328S	土層	庄内式壘				19.0	"1.9	
2597 10C10h	6023SK	Gr部	広口壘			6.9	"3.2		2672 10C16q	3328S	土層	手箱形土層				16.2	"2.5	
2598 10C1c	検出	Gr部	新り直し口縁壘		12.6		"1.7 廻江系		2673 10C16r	3329S	下層	溝				26.0	"4.0	
2599 10C1c	検出	Gr部	広口壘			7.6	"3.5		2674 10C16r	3329S	下層	溝				19.6	"3.7	
2600 10C1c	検出	Gr部	小型鉢(輪)			4.1	"4.3		2675 10C16q	3329S	下層	内側口縁壘	A			5.8	"1.9	
2601 10C1c	検出	Gr部	溝			7.0	"4.8		2676 10C16q	3329S	下層	内側口縁壘	A			12.2	"6.0	
2602 10C13q	3380S	床直	溝		18.2		"4.0		2677 10C16r	3329S	下層	広口壘				7.2	"3.8	
2603 10C13q	3380S	床直	溝			7.3	"6.0		2678 10C16r	3329S	5804SK	広口壘			16.8		"5.6	
2604 10C13q	3380S	床直	溝			7.0	"4.1		2679 10C17q	3330S	床直	溝				7.5	"5.2	
2605 10C13q	3380S	床直	溝				"4.2		2680 10C16r	3330S	下層	溝				6.4	"3.7	
2606 10C13p	3380S	床直	壘		10.0		"3.5		2681 10C16r	3330S	下層	溝				16.4	"3.0	
2607 10C13p	3380S	床直	広口壘			7.8	"3.8		2682 10C17q	3330S	土層	溝				14.8	"7.8	
2608 10C13p	3380S	床直	中型壘			5.0	"3.4		2683 10C17r	3330S	下層	小型鉢				9.4	"4.7	
2609 10C13p	3380S	床直	広口壘			6.4	"2.4		2684 10C17q	3330S	下層	有孔鉢				21.9	"11.5	
2610 10C13p	3380S	床直	広口壘			5.6	"2.3		2685 10C17r	3330S	下層	高杯					"4.4	
2611 10C13p	3380S	観方	内側口縁壘	A			"4.1		2686 10C17q	3330S	下層	高杯					"8.2	
2612 10C13q	3380S	観方	小型鉢(輪)		8.0	4.6	"6.4		2687 10C17q	3330S	下層	高杯				19.4	"5.0	
2613 10C13q	3380S	下層	溝			6.2	"3.7		2688 10C17q	3330S	下層	庄内系高杯					"11.2 近畿系	
2614 10C13q	3380S	下層	高杯			6.6	"7.0		2689 10C13q	3421SK	Ha部	小型鉢				4.2	"5.2	
2615 10C13p	3380S	下層	輻形高杯	A		11.0	"5.8		2690 10C15q	5075SK	Ha部	溝				9.6	"6.4	
2616 10C13q	3380S	下層	広口壘			7.0	"1.9		2691 10C13p	5082SK	Ha部	広口壘				5.6	"2.6	
2617 10C13q	3380S	下層	中型鉢			4.8	"2.1		2692 10C15r	5800SK	Ha部	広口壘				8.2	"2.9	
2618 10C14q	3380S	土層	溝			9.8	"6.0		2693 10C15r	5708SK	Ha部	高杯				20.5	11.4 18.6	
2619 10C13q	3380S	土層	結合部台				"1.8		2694 10C15q	検出	Ha部	小型鉢(溝)				11.4	4.4 4.5	
2620 10C13q	3380S	土層	ハレス系壘		16.4		"1.2		2695 10C16r	検出	Ha部	広口壘				7.3	"2.6	
2621 10C13p	3380S	土層	広口壘		20.2		"1.7		2696 10C15r	検出	Ha部	有段口縁壘	A			17.0	"2.9	
2622 10C12p	3380S	土層	小型鉢			3.4	"3.0		2697 10C17p	検出	Ha部	溝				9.8	"5.6	
2623 10C13p	3380S	土層	中型壘			6.0	"2.4		2698 10C16r	5651S	下層	溝				7.7	"5.5	
2624 10C14q	3380S	土層	中型壘			6.3	"4.0		2699 10C16r	5649S	土層	新り直し口縁壘				18.3	"1.8 廻江系	
2625 10C13p	3380S	土層	中型壘			5.8	"2.4		2700 10C16r	5649S	土層	加飾広口壘				26.0	"3.2	

登録番号	グラッド	道構	架設等	部種	日経	経経	部高	備考	登録番号	グラッド	道構	架設等	部種	日経	経経	部高	備考	
2701	10C17r	5652S	床直	費	8.6	'5.0			2776	10D16r	5807S	下階	高杯	23.8		'6.5		
2702	10C17r	5652S	床直	費	4.3	'4.2			2777	10D16r	5807S	下階	小型傘	12.0	'4.9	'4.9		
2703	10C17r	5652S	下階	費	11.6	'6.3			2778	10D17r	5911S	下階	小型傘	11.2	'4.5	2780と同じ?		
2704	10C17r	5652S	下階	費	21.4	'5.6			2779	10D17r	5911S	下階	内階口録兼A	10.4		'5.5		
2705	10C17r	5652S	下階	広口傘	5.8	'2.4			2780	10D17r	5911S	下階	小型傘	6.4	'3.0	2778と同じ?		
2706	10C17r	5652S	上層	広口傘	14.4	'4.4			2781	10D17r	5911S	下階	小型傘	14.0	'3.3	'5.3		
2707	10C17r	5652S	5844SK	費	17.0	'11.0			2782	10D16r	5935S	床直	高杯			'5.6		
2708	10C17r	5652S	5844SK	内階口録兼B	6.9	'4.7	8.1		2783	10D17r	5935S	下階	高杯			'5.3		
2709	10D15r	5704S	床直	費	23.4	'10.7			2784	10D17r	5935S	床直	費			11.0	'8.7	
2710	10D16r	5704S	費	8.0	'5.0				2785	10D17r	5935S	下階	費			10.2	'6.3	
2711	10C16r	5705S	下階	広口傘	7.2	'3.0			2786	10D17r	5935S	下階	折り返し録兼	26.0		'1.1	遠江系	
2712	10C16r	5705S	5830SK	広口傘		'10.5			2787	10D16r	5988SK	k群	高杯	18.6	'3.2			
2713	10D16r	5703S	床直	費	22.8	'10.5			2788	10D16r	6083SK	k群	費	13.6	'4.3			
2714	10C15r	5703S	床直	鞍形高杯A	19.2	'5.3			2789	10D16r	5909S	床直	高杯	21.7	10.7	16.5		
2715	10C15r	5703S	下階	費	17.8	'2.9			2790	10D16r	5909S	床直	費	8.6	'5.5			
2716	10C15r	5703S	上階	費	18.4	'3.6			2791	10D15r	5909S	下階	費	12.8	'5.0			
2717	10D15r	5703S	トレンチ	内階口録兼A	10.6	'6.4			2792	10D15r	5909S	下階	広口傘	6.2	'3.0			
2718	10C16r	5702S	床直	有孔鉢	16.2	4.7	'3.7		2793	10D16r	5909S	下階	広口傘	8.0	'2.3			
2719	10D16r	5702S	下階	費	17.8	'4.0			2794	10D15r	5909S	上階	S字溝	15.2	'2.1	B新築		
2720	10D16r	5702S	下階	小型鉢	4.7	'2.3			2795	10D16r	5909S	上階	下階	2.0	6.6	'3.1		
2721	10C16r	5702S	下階	高杯	10.6	'5.3			2796	10D16r	5909S	加幅広口傘	20.2		'3.7			
2722	10C17r	5700S	下階	小型鉢	4.4	'3.8			2797	10D17r	5910S	下階	内階口録兼			'5.9		
2723	10D15r	6100SB	6154SK	小型傘	6.4	4.0	8.1		2798	10D16r	5910S	下階	内階口録兼A	3.8	'1.4			
2724	10D15r	6100SB	6154SK	費	8.9	'4.7			2799	10D16r	5910S	下階	費	10.0	'3.0			
2725	10D15r	抽出	H群	小型筒形	3.0	'2.3			2800	10D16r	5910S	下階	費	9.0	'7.4			
2726	10C12r	5545S	床直	高杯	21.8	12.5	'19.4		2801	10D16r	6000SK	5938SK	内階口録兼B	9.2	4.2	6.7		
2727	10C12r	5545S	床直	高杯	20.4	'14.6			2802	10D17r	6000SD	6010SD	緑帯口録兼	13.6	'2.8			
2728	10C12r	5545S	床直	高杯	22.4	'6.5			2803	10D16r	抽出	加幅	ハレス系傘	19.6	'4.4			
2729	10C12r	5545S	床直	費	18.4	8.6	25.6		2804	10D17r	抽出	加幅	広口傘	6.9	'2.9			
2730	10C12r	5545S	下階	鞍形高杯A	14.4	'4.7			2805	10D16r	抽出	加幅	広口傘	7.0	'3.4			
2731	10C12r	5545S	下階	高杯		'4.0			2806	10D16r	5914S	下階	費	21.0	'5.2			
2732	10C12r	5545S	下階	費	21.8	'6.4			2807	10D16r	5914S	下階	費	8.2	'5.9			
2733	10C12r	5545S	上層	高杯		'8.5			2808	10D16r	5914S	下階	費	8.4	'6.0			
2734	10C12r	5545S	上層	高杯		'8.1			2809	10D16r	5914S	下階	広口傘	6.6	'2.9			
2735	10C12r	5545S	上層	費	24.4	'5.4			2810	10D16r	5914S	下階	高杯		'5.9			
2736	10C12r	5545S	上層	費	20.0	'5.5	5547Sと同じ		2811	10D16r	6007S	下階	高杯	7.6	'5.8			
2737	10C12r	5545S	上層	内階口録兼	17.6	'2.1			2812	10D16r	6040S	床直	費	15.8	'4.9			
2738	10C12r	5545S	上層	有段口録兼A	15.2	'2.2			2813	10D16r	6040S	床直	内階口録兼A	13.4	3.6	'8.9		
2739	10C12r	5545S	上層	費	8.4	'5.1			2814	10D17r	6040S	床直	広口傘	5.5	'3.0			
2740	10C12r	5545S	上層	小型筒形	8.2	4.3	'5.0		2815	10D17r	6040S	下階	費	7.7	'5.7			
2741	10C12r	5545S	上層	小型傘	9.4	'4.2			2816	10D17r	6040S	下階	加幅広口傘	21.0	'3.2			
2742	10C12r	5545S	上層	加幅広口傘		'4.1			2817	10D17r	6040S	下階	高杯		'6.0			
2743	10C12r	5545S	上層	加幅広口傘	17.0	'2.4			2818	10D17r	6040S	下階	高杯	19.8	'3.3			
2744	10C12r	5545S	上層	広口傘	8.9	'3.4			2819	10D17r	6040S	上層	広口傘	8.0	'3.9			
2745	10C12r	5545S	上層	広口傘	8.2	'2.4	木製版		2820	10D17r	6040S	上層	内階口録兼C	5.3	'6.9			
2746	10C12r	5545S	5876SK	費	9.8	'6.6			2821	10D17r	6040S	上層	内階口録兼C	5.0	'6.7			
2747	10C11r	5547S	下階	有段口録兼B	20.4	'8.4			2822	10D17r	6040S	下階	枠状上製品	長5.7 幅1.1 重7.7g	10.1	'8.1		
2748	10C11r	5547S	下階	費	8.0	'6.3			2823	10D16r	6076SK	k群	有段口録兼A	18.4	'19.8			
2749	10C11r	5547S	下階	費		'2.8			2824	10D16r	6076SK	k群	高杯	11.8	'6.4	緑帯録兼		
2750	10C11r	5547S	上層	費		'4.3			2825	10C6r	3515S	床直	広口傘		'10.2			
2751	10C11r	5547S	下階	高杯		'5.1			2826	10C6r	3515S	床直	広口傘		'5.3			
2752	10C12r	5547S	下階	小型傘	5.4	'2.7			2827	10C6r	3515S	床直	広口傘		'3.0			
2753	10C11r	5547S	下階	小型鉢	4.8	'2.0			2828	10C6r	3515S	床直	小型傘		'1.4			
2754	10C12r	5547S	下階	広口傘	5.4	'1.9			2829	10C6r	3515S	床直	広口傘	7.0	'7.6			
2755	10C11r	5547S	上層	折り返し録兼	18.0	'1.6	遠江系		2830	10C6r	3515S	下階	高杯		'5.0			
2756	10C12r	5667S	下階	内階口録兼A	8.4	'6.1			2831	10C6r	3515S	上層	広口傘	4.9	'2.3			
2757	10C12r	5667S	下階	小型鉢	4.4	'2.0			2832	10C6r	3515S	上層	小型傘	8.6	'6.0			
2758	10C12r	5556S	下階	ウィングラテ高杯	13.6	'5.0			2833	10C6r	3515S	上層	有段板台口録兼	16.0	'2.7	西遠江(伊橋)系		
2759	10C12r	5546S	トレンチ	高杯		'3.4			2834	10C6r	3515S	上層	広口傘		'3.7	東遠江(柳川)系		
2760	10D12r	5636S	床直	広口傘	14.2	6.8	26.9		2835	10C6r	3515S	上層	加幅広口傘		'5.6			
2761	10D12r	5636S	床直	内階口録兼	18.6	'8.5			2836	10C6r	3515S	上層	費	7.3	'5.1			
2762	10D12r	5636S	床直	費	15.0	'6.5			2837	10C6r	3515S	上層	鞍形高杯		'5.3			
2763	10C12r	5636S	下階	費	13.2	'5.1	2834Sと同じ		2838	10C6r	3535S	上層	広口傘	8.0	'3.2			
2764	10C12r	5636S	下階	費	9.8	'5.1	5548Sと接合		2839	10C7r	抽出	Ja群	有段口録兼B	16.6	'2.3			
2765	10C12r	5636S	下階	高杯		'3.0			2840	10C3r	3002S	床直	費	14.8	8.0	21.5		
2766	10C13r	5548S	下階	高杯	27.6	'5.1			2841	10C3r	3002S	下階	叩き替?	14.6	'6.7			
2767	10D13r	5659S	床直	高杯	24.8	'7.7			2842	10C3r	3002S	下階	費	12.8	'5.7			
2768	10D13r	5659S	下階	高杯		'5.4			2843	10C3r	3002S	下階	費	17.0	'3.5			
2769	10D13r	5659S	上層	小型傘	4.6	'2.2			2844	10C3r	3002S	下階	内階口録兼	17.0	'2.8			
2770	10D12r	5574SK	Hc群	費	8.5	'7.0			2845	10C3r	3002S	下階	費		'5.7			
2771	10D13r	5578SK	Hc群	折り返し録兼	22.0	'2.7	遠江系		2846	10C3r	3002S	下階	費	7.8	'4.7			
2772	10C12r	抽出	Hc群	加幅広口傘	19.2	'1.7			2847	10C3r	3002S	下階	鞍形高杯A	15.4	12.2	11.4		
2773	10D16r	5807S	床直	費	23.3	9.5	32.5		2848	10C3r	3002S	下階	鞍形高杯A	16.2	'5.7			
2774	10D16r	5807S	下階	費	24.6	'3.6			2849	10C4r	3002S	下階	高杯	21.8	'5.0			
2775	10D16r	5807S	下階	有段口録兼A	22.2	'6.8			2850	10C3r	3002S	下階	高杯		'5.2			

登録 番号	整理 番号	品名	分類	グッド	遺構	層位 等	石材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	備考
3001	1337	割片		10E14h	0124SX		惣結黒灰岩	4.80	2.09	1.18	7.2	
3002	1409	割片		10E11e	0124SX		惣結黒灰岩	4.41	2.44	0.94	6.2	
3003	1343	割片		10E11f	0124SX		惣結黒灰岩	2.82	1.46	0.54	1.6	
3004	1349	割片		10E11f	0124SX		惣結黒灰岩	3.09	2.98	1.10	8.4	
3005	1336	割片		10E14h	0124SX		惣結黒灰岩	5.85	4.17	1.92	34.3	
3006	1352	石核		10E11f	0124SX		惣結黒灰岩	3.27	3.11	1.57	16.1	
3007	1422	割片		10E13g	0124SX		凝灰岩	5.14	4.29	1.58	25.1	
3008	1351	片断		10E11f	0124SX		凝灰岩	5.77	3.61	1.55	21.4	
3009	1348	割片		10E11f	0124SX		チャート	2.01	1.46	0.22	0.7	
3010	1400	ナイフ形石器		10D16a	0136SX		惣結黒灰岩	4.06	1.61	0.77	3.2	
3011	1445	割片		10D15a	0136SX		凝灰岩	1.73	1.44	0.29	0.5	
3012	1382	割片		10D15a	0136SX		惣結黒灰岩	2.62	1.45	0.41	1.1	
3013	1367	割片		10D15a	0136SX		惣結黒灰岩	5.17	3.36	0.95	12.2	
3014	1359	割片		10D14a	0136SX		惣結黒灰岩	4.54	3.09	0.98	16.3	
3015	1374	石核		10D15a	0136SX		惣結黒灰岩	2.94	2.55	1.04	5.8	
3016	1368	割片		10D15a	0136SX		凝灰岩	3.88	4.99	1.53	16.2	
3017	1392	割片		10D15a	0136SX		凝灰岩	2.37	4.75	0.84	9.8	
3018	1396	割片		10D16a	0136SX		凝灰岩	4.46	2.65	0.94	4.6	
3019	1397	割片		10D16a	0136SX		凝灰岩	4.56	3.63	1.33	15.6	
3020	1365	割片		10D15a	0136SX		凝灰岩	3.90	2.81	1.29	8.5	
3021	1360	石核		10D14a	0136SX		惣結黒灰岩	3.91	3.60	2.58	25.2	
3022	1371	石核		10D15a	0136SX		惣結黒灰岩	4.02	2.81	2.28	10.8	
3023	1407	石核		10D14	0136SX		凝灰岩	3.49	3.05	2.86	30.9	
3024	1433	石核		10D14a	0136SX		凝灰岩	6.14	6.70	4.20	160.3	
3025	1456	片断		10E10f	抽出		惣結黒灰岩	8.47	3.16	1.10	14.3	
3026	1294	割片		10E16a	0069SX		凝灰岩	3.80	1.83	0.95	3.4	
3027	1411	割片		10E12b	抽出		惣結黒灰岩	3.78	2.13	0.32	1.8	
3028	1470	割片		10E15a	抽出		惣結黒灰岩	3.61	4.26	1.11	10.6	
3029	1429	割片		10E14b	抽出		惣結黒灰岩	3.83	5.11	1.37	18.0	
3030	1431	割片		10E14c	抽出		惣結黒灰岩	3.11	2.56	0.81	6.1	
3031	1303	割片		10E16a	0010SI		惣結黒灰岩	3.98	3.10	1.24	15.6	
3032	1321	割片		10E16f	0121SI		惣結黒灰岩	3.54	3.50	0.99	6.3	
3033	1317	割片		10E16a	0021SD		惣結黒灰岩	3.89	2.99	0.56	3.8	
3034	1299	割片		10E16a	0012SK		凝灰岩	2.24	1.88	0.61	1.7	
3035	1460	割片		10E10r	抽出		安山岩	3.86	3.08	0.98	14.4	
3036	1476	割片		10E17b	抽出		下呂石	2.03	3.48	0.82	5.2	
3037	1448	石核		10E16a	抽出		惣結黒灰岩	4.18	4.72	2.79	36.3	
3038	1449	石核		10E16f	抽出		惣結黒灰岩	5.77	5.28	2.46	44.3	
3039	1469	石核		10E15f	抽出		惣結黒灰岩	5.48	2.88	2.57	25.5	
3040	1453	石核		10E17a	抽出		惣結黒灰岩	7.16	3.78	2.28	38.2	
3041	1413	石核		10E12b	抽出		惣結黒灰岩	5.53	2.95	2.41	28.1	
3042	1424	石核		10E14a	抽出		凝灰岩	6.86	4.74	2.64	46.6	
3043	1405	石核		-	片断		凝灰岩	4.43	4.57	2.01	40.1	
3044	1408	丸ノミ形石斧	局部磨製石斧?	10D17m	抽出		安山岩	13.63	4.81	3.31	225.2	草履期以前?
3045	1491	矢矧研磨器		10E16f	0121SI		砂質凝灰岩	9.01	*3.19	*1.34	53.2	
3046	1	有古尖頭器	榊文形	10E17p	1464SI		惣結黒灰岩	3.47	2.86	0.69	4.2	
3047	3164	有古尖頭器		10C16a	3156SI	下層	凝灰岩	3.51	2.70	0.71	5.3	
3048	1533	有古尖頭器		10C13a	3261SI	上層	凝灰岩	4.11	2.36	0.78	3.7	
3049	2	木茎形尖頭器		10E16a	抽出		惣結黒灰岩	*4.83	3.55	1.18	16.0	
3050	1532	木茎形尖頭器		10C14	3211SI	上層	凝灰岩	3.94	2.51	0.73	3.8	
3051	3	使用痕のある割片	縦長割片	10E18a	抽出		惣結黒灰岩	*3.61	2.70	1.13	10.5	草履期以前?
3052	7	石鏢	円基 無茎	10E17q	1329SI		惣結黒灰岩	1.62	1.06	0.28	0.3	
3053	8	石鏢	円基 無茎	10E18q	1330SI		惣結黒灰岩	2.07	*1.54	0.37	0.5	
3054	3034	石鏢	円基 無茎	10C12a	4752SK		惣結黒灰岩	1.92	1.28	0.36	0.4	
3055	6	石鏢	円基 無茎	10E19r	1272SK		惣結黒灰岩	2.37	1.28	0.35	0.6	
3056	1536	石鏢	円基 無茎	10C15a	3025SI	上層	惣結黒灰岩	2.24	1.55	0.46	0.6	
3057	1542	石鏢	円基 無茎	10C15g	抽出		惣結黒灰岩	1.90	1.67	0.52	0.7	
3058	1541	石鏢	円基 無茎	10C15a	抽出		惣結黒灰岩	1.68	1.53	0.38	0.4	
3059	1032	石鏢	円基 無茎	10C18a	1176SI	側方	惣結黒灰岩	2.54	2.09	0.56	3.4	
3060	3079	石鏢	円基 無茎	10E17c	5912SK		凝灰岩	*1.73	1.45	0.39	0.6	
3061	609	石鏢	円基 無茎	10E19r	抽出		凝灰岩	1.47	1.75	0.41	0.6	
3062	3075	石鏢	円基 無茎	10E10m	2905SI	上層	凝灰岩	*2.38	1.73	0.34	0.9	
3063	10	石鏢	円基 無茎	10E15m	1454SI	下層	安山岩	1.70	1.28	0.27	0.4	
3064	3078	石鏢	円基 無茎	10C7b	5631SK		安山岩	1.78	1.39	0.33	0.6	
3065	844	石鏢	円基 無茎	10E18p	1410SI		安山岩	1.60	2.10	0.31	1.1	
3066	14	石鏢	円基 無茎	10E15p	抽出		安山岩	2.70	1.35	0.35	1.0	
3067	15	石鏢	円基 無茎	-	表採		安山岩	*2.19	1.22	0.36	1.1	
3068	1543	石鏢	円基 無茎	10C15a	抽出		下呂石	1.67	1.34	0.39	0.6	
3069	1540	石鏢	円基 無茎	10C8q	抽出		下呂石	2.12	1.22	0.30	0.5	
3070	1539	石鏢	円基 無茎	10C16a	3320SI	上層	下呂石	2.43	1.87	0.46	1.6	
3071	3059	石鏢	円基 無茎	10C10r	5785SI	下層	チャート	1.62	1.37	0.30	0.6	
3072	63	石鏢	円基 無茎	10C7b	1861SI	床直	チャート	1.82	1.98	0.49	1.8	
3073	1537	石鏢	円基 無茎	10C14i	3283SI	床直	黒曜石	2.21	1.49	0.29	0.6	
3074	12	石鏢	円基 無茎	1E1p	1256SI		黒曜石	*1.21	1.68	0.30	0.5	
3075	1248	石鏢	円基 無茎	10E18a	抽出		黒曜石	1.05	1.14	0.28	0.2	

登録 番号	整理 番号	図種	分類	タリッド	遺構	層位 等	石材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	備考
3076	1535	石蔵	円基 無基	10C15d	3003S	床直	黒曜石	2.09	1.51	0.29	0.7	
3077	837	石蔵	凸基 有基	10C15a	1157S		焼結凝灰岩	2.55	1.58	0.33	1.2	
3078	1538	石蔵	平基 有基	10C15g	3215S	床直	焼結凝灰岩	1.90	1.24	0.49	0.9	
3079	9	石蔵	凸基 有基	10B10p	1464S	縦方	焼結凝灰岩	3.24	1.17	0.44	0.9	
3080	11	石蔵	凸基 有基	10C13a	1894S	下層	安山岩	2.87	1.30	0.42	1.1	五角形遺
3081	13	石蔵	凸基 有基	10C14a	1266SK		安山岩	*2.32	1.68	0.40	1.3	五角形遺
3082	3031	石蔵	凸基 有基	10C11d	4337S	縦方	安山岩	2.69	1.37	0.57	1.5	
3083	3181	石蔵	凸基 有基	10C11m	3651S	上層	安山岩	2.53	1.41	0.63	1.5	
3084	1926	石蔵	凸基 有基	10C1d	3283S	下層	安山岩	1.64	1.57	0.67	1.9	
3085	5	石蔵		10C7c	1861S		焼結凝灰岩	2.95	1.24	0.59	2.3	
3086	1545	石蔵		10C14q	トレンチ		焼結凝灰岩	2.35	1.98	0.80	2.3	積みあり
3087	1544	石蔵		10C13g	3386S	床直	安山岩	4.14	1.02	0.76	3.1	樺状
3088	3042	石蔵		10C12k	横出		黒曜石	1.58	1.59	0.77	2.0	
3089	3076	石蔵		10C13b	1873S		黒曜石	1.94	1.55	0.58	1.6	
3090	385	灰皿蓋		10B16q	1329S		凝灰岩	6.00	3.71	0.35	35.2	蓋縁あり
3091	81	灰皿蓋		10B13q	1937S	下層	焼結凝灰岩	3.48	2.36	0.70	5.8	
3092	1211	灰皿蓋		10B11m	2077S	縦方	安山岩	2.09	2.15	0.73	3.6	
3093	3093	灰皿蓋		10B16l	1253S	上層	安山岩	3.43	1.72	0.67	3.6	
3094	22	石蔵	縦形	10C18b	横出		安山岩	5.82	2.09	1.44	14.7	石蔵種の積み方
3095	2247	石蔵	縦形	10C14c	4362S	下層	安山岩	8.23	2.59	0.79	13.6	
3096	321	石蔵	横形	10B14a	1444S	下層	凝灰岩	3.58	4.78	1.12	15.2	
3097	1580	石蔵	横形	10C11c	1863S	上層	焼結凝灰岩	1.94	4.14	0.55	4.0	
3098	23	石蔵	横形	10B14q	横出		焼結凝灰岩	3.54	4.67	0.86	10.6	
3099	25	石蔵	横形	10B17n	横出		焼結凝灰岩	3.69	4.01	1.19	7.6	製作達上?
3100	29	石蔵	横形	10B17p	1410S	上層	焼結凝灰岩	*2.27	*4.16	*0.52	3.5	
3101	28	石蔵	横形	10B17q	1330S	縦方	焼結凝灰岩	5.32	2.77	0.60	8.8	
3102	92	石蔵	横形	10B12m	1967S	下層	焼結凝灰岩	2.76	3.38	0.57	5.0	
3103	26	石蔵	横形	10B18p	横出		焼結凝灰岩	2.74	*2.73	0.55	4.2	
3104	1546	石蔵	横形	10C15a	3145S	下層	焼結凝灰岩	2.55	5.64	0.93	9.8	
3105	30	石蔵	横形	10C17b	1861S		チャート	3.34	4.88	0.64	9.8	
3106	1723	石蔵	横形	10C18f	3079S	上層	チャート	2.39	2.85	0.76	4.4	
3107	2060	スクレイパー		10C13a	3481S	下層	焼結凝灰岩	2.50	3.80	0.76	5.9	
3108	3069	スクレイパー		10B17l	1329S	上層	焼結凝灰岩	3.10	5.17	1.36	18.4	
3109	1047	スクレイパー		10C13a	1218S	上層	焼結凝灰岩	3.51	2.66	1.03	7.8	
3110	1724	スクレイパー		10C18f	3079S	上層	焼結凝灰岩	5.05	4.78	0.92	20.1	
3111	1994	スクレイパー		10C13g	3286S	上層	焼結凝灰岩	4.03	4.43	1.01	20.8	
3112	377	スクレイパー		10B14l	1197S	縦方	焼結凝灰岩	3.23	4.41	1.13	16.8	
3113	1964	スクレイパー		10C11i	3373S	上層	焼結凝灰岩	5.27	3.03	1.04	15.2	
3114	1790	スクレイパー		10C17l	3149S	上層	焼結凝灰岩	3.53	4.44	1.40	16.6	
3115	2258	スクレイパー		10C11d	4796S	下層	焼結凝灰岩	2.02	3.66	1.11	8.8	
3116	3144	スクレイパー		10C15d	3003S	上層	焼結凝灰岩	5.10	3.15	1.01	8.6	
3117	422	使用痕のある銅片		10B1q	1224S	上層	焼結凝灰岩	2.96	1.97	0.69	2.8	
3118	760	使用痕のある銅片		10B18q	横出		焼結凝灰岩	3.47	2.71	0.72	6.2	
3119	1067	使用痕のある銅片		10B18r	1272SK		焼結凝灰岩	2.39	1.55	0.82	2.4	
3120	1763	使用痕のある銅片		10C14a	3147S	上層	焼結凝灰岩	4.46	2.40	0.78	7.3	
3121	1783	使用痕のある銅片		10C17m	3149S	上層	焼結凝灰岩	3.54	2.97	1.00	9.4	
3122	1925	使用痕のある銅片		10C1d	3283S	下層	焼結凝灰岩	2.55	1.61	0.50	2.0	
3123	1848	使用痕のある銅片		10C15b	3186S	下層	焼結凝灰岩	4.21	2.17	0.87	5.6	
3124	1246	使用痕のある銅片		10B17r	横出		焼結凝灰岩	2.43	3.45	1.09	4.6	
3125	1837	使用痕のある銅片		10C15a	3156S	上層	焼結凝灰岩	6.26	4.22	1.25	35.0	
3126	1547	スクレイパー		10C11d	4341S	上層	焼結凝灰岩	3.08	4.35	1.08	11.2	
3127	1662	スクレイパー		10C19a	3006S	上層	焼結凝灰岩	3.34	2.11	0.83	7.8	
3128	1718	スクレイパー		10C18g	3079S	上層	凝灰岩	3.61	5.25	1.24	20.8	
3129	3096	スクレイパー		10B13r	1276S	下層	凝灰岩	3.90	2.18	0.68	6.6	
3130	229	スクレイパー		10C19a	1138S	下層	凝灰岩	2.89	2.99	0.76	7.2	
3131	176	スクレイパー		10C16a	1679SK		凝灰岩	3.99	3.23	1.19	10.4	
3132	1958	スクレイパー		10C13l	3304S	下層	凝灰岩	5.31	2.96	0.96	12.5	
3133	2227	スクレイパー		10C12f	4342S	縦方	凝灰岩	4.94	5.27	5.27	22.9	
3134	336	スクレイパー		10B14q	1456S	下層	凝灰岩	3.31	3.59	1.07	12.4	
3135	2740	スクレイパー		10D17b	5935S	上層	凝灰岩	4.44	2.76	0.69	8.1	
3136	503	スクレイパー		10B14a	1455S	上層	凝灰岩	5.47	3.55	1.10	20.2	
3137	404	スクレイパー		10B15a	1338S	上層	凝灰岩	4.95	3.41	0.63	10.4	
3138	1011	使用痕のある銅片		10C17b	1002SD	上層	凝灰岩	9.09	5.03	1.29	64.4	
3139	1329	スクレイパー		10E16l	0026SD		凝灰岩	2.74	2.39	0.94	5.0	
3140	1070	スクレイパー		10B18r	1272SK		凝灰岩	5.31	3.55	0.93	18.2	
3141	447	スクレイパー		10B14a	1276S		凝灰岩	2.94	3.42	1.12	7.4	
3142	724	スクレイパー		10B17p	横出		凝灰岩	3.59	4.25	1.13	16.9	
3143	634	スクレイパー		10B14q	横出		凝灰岩	2.27	2.22	0.68	2.6	
3144	3150	使用痕のある銅片		10C14c	3055S	上層	安山岩	2.37	1.88	0.59	2.1	
3145	100	スクレイパー		10B18r	1272SK		安山岩	3.37	5.07	1.81	26.6	
3146	1148	使用痕のある銅片		10B10m	2021S	下層	凝灰岩	3.17	2.95	0.92	6.4	
3147	1548	スクレイパー		10C17f	3005S	上層	黒曜石	1.56	1.66	0.51	1.3	
3148	2238	スクレイパー		10C13d	4362S	下層	黒曜石	3.19	2.62	0.77	5.7	
3149	2302	使用痕のある銅片		10C19j	4309S		黒曜石	2.58	2.02	0.77	3.3	
3150	150	楔形石蔵		10B10q	1376SK		安山岩	1.16	1.91	0.74	1.8	

登録 番号	整理 番号	品名	分類	グリッド	造像	層位 等	石材	長さ (cm)	幅 (cm)	高さ (cm)	重さ (g)	備考
3151	488	彫形石部		10B14q	1444SI	下層	安山岩	4.30	2.04	1.12	7.7	
3152	1220	彫形石部		10B13p	横出		チャート	2.71	2.52	1.46	10.1	
3153	633	刀部		10B14q	横出		紅崖石片岩	9.99	3.57	0.50	25.1	
3154	1301	刀部		10E16m	0016SI		虎背凝灰岩	3.99	8.65	0.96	36.4	
3155	32	刀部		10B16o	横出		凝結凝灰岩	9.15	10.49	2.27	129.3	
3156	1946	刀部		10C16q	3330SI	下層	凝結凝灰岩	7.54	6.69	1.60	73.2	
3157	1659	刀部		10C19d	3006SI	下層	凝結凝灰岩	5.91	8.02	1.16	47.4	
3158	118	刀部		10E20m	1005SD	上層	安山岩	7.47	3.59	0.95	26.2	
3159	177	刀部		10B18p	1696SK		安山岩	7.93	5.93	1.66	47.2	
3160	819	刀部		-	表土		安山岩	6.59	4.95	1.40	49.3	
3161	1534	二次加工のある銅片		10C12f	4342SI	観方	凝結凝灰岩	3.49	1.93	0.77	3.8	
3162	513	二次加工のある銅片		10B15p	1455SI	下層	凝結凝灰岩	4.49	3.27	1.35	16.1	
3163	1876	二次加工のある銅片		10C14j	3211SI	上層	凝結凝灰岩	3.64	2.33	0.76	5.9	
3164	4	二次加工のある銅片		10B14s	1001SY		溶結凝灰岩	*2.09	1.40	0.64	1.5	
3165	772	二次加工のある銅片		10B18r	横出		凝結凝灰岩	2.75	2.26	0.94	5.2	
3166	1582	二次加工のある銅片		10C13c	1872SI	上層	凝結凝灰岩	2.79	2.67	1.11	7.0	
3167	1361	二次加工のある銅片		10D14m	0130SX		凝結凝灰岩	2.35	3.02	1.30	5.7	
3168	332	二次加工のある銅片		10B14p	1455SI		凝結凝灰岩	3.42	2.48	1.07	7.7	
3169	832	二次加工のある銅片		10B18p	1404SX		凝灰岩	3.94	2.68	0.76	6.7	
3170	1276	二次加工のある銅片		10E20q	横出		凝灰岩	2.25	1.97	0.53	1.6	
3171	622	二次加工のある銅片		10B14m	横出		凝灰岩	2.17	1.81	0.56	1.9	
3172	1012	二次加工のある銅片		10C13b	1002SD	上層	安山岩	2.97	1.87	0.74	4.2	
3173	291	二次加工のある銅片		10B18p	1410SI		安山岩	3.08	2.48	1.21	6.8	石彫製作途上。船状残存部
3174	3074	二次加工のある銅片		10B14c	1197SI	上層	安山岩	3.30	1.96	0.63	3.7	石彫製作途上?
3175	765	二次加工のある銅片		10B18q	横出		安山岩	3.07	2.39	1.05	5.9	石彫製作途上
3176	1175	二次加工のある銅片		10B11m	2077SI	観方	安山岩	3.02	2.93	1.03	8.1	
3177	577	二次加工のある銅片		10B12b	横出		チャート	4.30	2.71	1.14	12.3	
3178	3037	二次加工のある銅片		10C9d	横出		チャート	1.94	1.47	0.55	1.7	
3179	19	二次加工のある銅片		10C17a	1207SI	上層	黒曜石	*0.79	*1.70	*0.65	1.2	
3180	2297	彫形石部		10C9c	横出		安山岩	3.86	1.58	0.70	5.6	
3181	27	銅片	縦長	10B18p	横出		凝結凝灰岩	6.60	3.32	1.21	21.8	
3182	2266	銅片		10C5j	横出		凝結凝灰岩	5.34	2.53	1.69	13.6	
3183	2513	銅片		10C16p	横出		凝結凝灰岩	5.56	2.39	1.59	21.6	
3184	571	銅片		10B11	横出		凝結凝灰岩	2.58	2.34	0.77	3.8	
3185	82	銅片		10B11o	1952SI	下層	凝結凝灰岩	4.43	2.88	1.43	15.4	
3186	94	銅片		10B11m	1967SI	下層	凝結凝灰岩	3.61	1.99	0.93	6.2	
3187	2345	銅片		10C11d	横出		凝結凝灰岩	4.23	3.58	1.17	9.5	
3188	2017	銅片		10C13o	3388SI	下層	凝結凝灰岩	4.78	2.24	1.82	12.8	
3189	2445	銅片		10C14f	横出		凝結凝灰岩	3.03	2.41	1.46	7.6	
3190	2221	銅片		10C11e	4373SI	上層	凝結凝灰岩	3.18	4.03	4.03	25.6	
3191	1577	銅片		10C14c	1140SI	上層	凝結凝灰岩	3.35	4.54	1.25	16.1	
3192	1733	銅片		10C17k	3097SI	下層	凝結凝灰岩	4.61	4.26	0.96	19.5	
3193	3085	銅片		10C16a	1157SI	下層	凝結凝灰岩	3.41	3.48	1.26	13.5	
3194	1976	銅片		10C12s	3376SI	上層	凝結凝灰岩	2.22	1.78	0.52	1.7	
3195	1037	銅片		1B1s	1178SI	床直	凝結凝灰岩	2.85	2.99	0.67	3.5	
3196	1667	銅片		10C19e	3007SI	上層	凝結凝灰岩	2.30	2.42	0.58	3.3	
3197	1253	銅片		10B18o	横出		凝結凝灰岩	2.06	2.44	0.55	2.0	
3198	592	銅片		10B15p	横出		凝結凝灰岩	2.97	2.14	0.93	8.0	
3199	123	銅片		10B15q	横出		凝結凝灰岩	1.96	2.01	0.47	1.7	
3200	324	銅片		10B14r	1276SI	上層	凝結凝灰岩	2.60	3.36	0.84	8.4	
3201	268	石核		10B18q	1330SI		凝結凝灰岩	5.33	2.28	1.81	12.9	
3202	2312	石核		10C9o	横出		凝結凝灰岩	6.66	4.61	2.49	58.7	
3203	730	石核		10B17q	横出		凝結凝灰岩	3.24	2.62	1.33	6.8	
3204	1158	石核		10B12n	2077SI	観方	凝結凝灰岩	4.63	7.44	3.25	88.6	
3205	2298	石核		10C9f	横出		凝結凝灰岩	4.13	5.65	2.22	48.4	
3206	473	石核		10B17n	1295SI	下層	凝結凝灰岩	1.88	4.33	1.11	6.2	
3207	145	石核		10B19q	1355SK		凝結凝灰岩	5.90	4.25	2.90	70.3	
3208	702	石核		10B16r	横出		凝結凝灰岩	5.46	3.55	2.81	44.5	
3209	2381	石核		10C12d	横出		砂礫岩	4.26	5.63	3.78	85.3	
3210	1177	石核		10B11m	2077SI	観方	凝結凝灰岩	2.34	2.37	1.07	5.3	
3211	1172	石核		10B11m	2077SI	観方	凝結凝灰岩	3.16	3.82	1.87	15.9	
3212	2507	石核		10C16m	横出		凝結凝灰岩	5.86	6.26	1.40	41.6	
3213	419	石核		1B1r	1224SI		凝結凝灰岩	3.48	3.37	1.87	12.5	
3214	614	石核		10C10b	横出		凝結凝灰岩	3.91	2.47	2.37	24.0	彫石部
3215	2002	石核		10C12m	3388SI	下層	凝結凝灰岩	4.76	4.17	3.54	52.5	
3216	1782	石核		10C17n	3149SI	上層	凝結凝灰岩	3.70	2.51	1.74	16.4	
3217	1840	石核		10C15b	3215SI	下層	凝結凝灰岩	4.88	6.80	3.15	90.3	
3218	1747	石核		10C16n	3146SI	下層	凝結凝灰岩	4.95	4.52	2.08	37.9	
3219	1746	石核		10C16m	3146SI	上層	凝結凝灰岩	3.75	3.06	2.67	26.9	
3220	1743	石核		10C14c	3145SI	下層	凝結凝灰岩	4.15	5.39	2.35	50.5	
3221	1700	石核		10C16g	3040SD		凝結凝灰岩	2.75	2.64	1.63	8.2	
3222	2718	石核		10C19r	5784SI	上層	凝結凝灰岩	5.04	3.95	0.98	22.2	
3223	2604	石核		10C16r	3329SI	下層	凝結凝灰岩	4.95	4.23	2.26	26.9	
3224	2420	石核		10C13j	横出		凝結凝灰岩	3.16	4.94	2.00	25.2	
3225	2036	石核		10C11q	3408SI	上層	凝結凝灰岩	3.64	3.52	2.30	18.9	

登録 番号	整理 番号	品種	分類	タテド	造構	層位 等	石材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	備考
3226	1750	石積		10C16a	3146S	上層	惣結願灰岩	3.91	4.30	2.40	30.9	
3227	231	石積		10C15a	1157S		惣結願灰岩	3.18	3.53	1.71	17.4	
3228	695	石積		10B16a	焼出		惣結願灰岩	3.26	2.13	1.12	6.5	
3229	21	石積		10B18a	1330S	観方	惣結願灰岩	3.00	2.40	1.79	14.5	巻取期以前?
3230	394	石積		10B18a	1330S	上層	惣結願灰岩	3.52	2.77	1.18	11.3	
3231	1170	割片	観長様	10B11m	2077S	観方	凝灰岩	4.06	1.20	0.59	2.3	
3232	491	割片	観長様	10B14a	1444S	下層	凝灰岩	4.30	1.82	0.96	6.6	
3233	2545	割片		10C17	焼出		凝灰岩	3.42	1.80	0.68	2.4	
3234	570	割片		10B10	焼出		凝灰岩	3.29	2.43	0.73	5.5	
3235	1278	割片		10B20b	焼出		凝灰岩	2.89	3.04	0.98	5.6	
3236	337	割片		10B16a	1464S		凝灰岩	5.97	3.84	1.35	24.4	
3237	652	割片		10B15p	焼出		凝灰岩	3.63	4.16	0.85	13.9	
3238	485	割片		10B18r	1436SK		凝灰岩	3.52	4.19	1.06	20.2	
3239	841	割片		10C13a	1218S		凝灰岩	8.76	5.59	2.00	65.7	
3240	604	割片		10B17i	焼出		凝灰岩	3.19	4.83	1.21	15.0	
3241	363	割片		10B20b	1178S	床直	凝灰岩	3.36	4.08	1.43	16.8	
3242	546	割片		10B17a	1464S	床直	凝灰岩	5.00	3.36	1.22	12.7	
3243	656	割片		10B15p	焼出		凝灰岩	3.50	4.21	1.32	14.5	
3244	566	割片		10B12r	焼出		凝灰岩	4.23	7.39	1.77	49.7	
3245	718	割片		10B17p	焼出		凝灰岩	4.01	4.36	1.12	14.5	
3246	821	割片		-	表採		凝灰岩	4.02	3.26	1.30	13.9	
3247	545	石積		10B17a	1464S	下層	凝灰岩	4.88	2.68	2.22	24.2	
3248	2071	石積		10C11m	3651S	上層	凝灰岩	5.35	8.10	3.91	118.9	
3249	2511	石積		10C16a	焼出		凝灰岩	6.44	5.53	2.81	75.6	
3250	2668	石積		10C13a	5634S	下層	凝灰岩	4.84	2.85	2.93	44.4	
3251	1125	石積		10B16p	1464S	観方	凝灰岩	2.17	3.30	1.00	7.7	
3252	1165	石積		10B11m	2077S	観方	凝灰岩	3.22	2.63	1.67	14.0	
3253	2360	石積		10C11	焼出		凝灰岩	2.93	2.87	2.13	15.4	
3254	2701	石積		10C16r	5653S	下層	凝灰岩	4.64	6.26	3.64	95.9	
3255	587	石積		10B15p	焼出		凝灰岩	4.22	4.18	2.54	45.4	
3256	53	石積		10B15p	焼出		安山岩	4.00	9.50	1.72	53.8	
3257	522	割片		10B14a	1455S	観方	安山岩	5.35	3.53	1.07	19.5	
3258	2755	割片		10C11a	焼出		安山岩	3.69	3.74	0.63	8.3	
3259	471	割片		10B17r	焼出		安山岩	3.87	4.92	1.23	23.7	
3260	1059	割片		1B1p	1270S		安山岩	3.97	4.62	0.87	18.0	
3261	2259	割片		10C12a	4906SK		安山岩	4.41	2.49	0.65	6.3	
3262	1145	割片		10B10	2906S		安山岩	4.33	2.81	1.20	14.1	
3263	2556	割片		10C17a	焼出		安山岩	2.79	4.10	1.09	10.2	
3264	666	割片		10B15q	焼出		安山岩	3.26	1.89	0.98	6.4	
3265	352	石積		10B15r	1474S	下層	安山岩	3.60	3.68	1.68	20.1	
3266	267	石積		10B17q	1329S	下層	安山岩	4.71	7.94	2.87	87.4	
3267	820	石積		-	表上		安山岩	5.00	3.58	1.69	32.0	
3268	1030	石積		10B18a	11668D		安山岩	5.13	5.44	2.72	42.7	
3269	1290	石積		-	井上今		安山岩	4.31	4.39	2.13	44.4	
3270	868	大型割片石室石積		10B18r	1272SK		安山岩	11.40	12.71	6.18	103.0	
3271	1906	割片		10C13f	3261S	上層	チャート	2.70	1.60	0.41	2.4	
3272	2738	割片		10D17a	5911S	下層	チャート	2.24	2.02	0.51	2.3	
3273	1118	割片		10B18r	1436SK		チャート	3.81	2.25	1.34	11.2	
3274	1271	割片		10B19r	焼出		チャート	2.91	3.00	0.79	2.8	
3275	1052	割片		10C18a	1223S	下層	チャート	3.19	1.72	1.01	5.3	
3276	2737	割片		10D17a	5911S	下層	チャート	2.77	3.21	1.29	13.2	
3277	155	割片		10B19q	1384SK		チャート	2.97	3.61	1.02	9.2	
3278	584	石積		10B14a	焼出		チャート	5.34	2.83	1.16	22.7	
3279	3014	石積		10C8b	3306S	上層	チャート	3.50	4.15	1.48	14.4	
3280	2516	石積		10C16q	焼出		チャート	3.08	4.29	1.22	19.2	
3281	3237	割片	観長様	10C17k	焼出		煎礫石	2.37	1.15	0.63	1.5	
3282	712	割片		10B17a	焼出		煎礫石	3.68	3.28	1.18	9.1	
3283	2995	割片		10C10i	3001S	観方	煎礫石	2.93	1.78	0.58	3.4	
3284	179	割片		10C17b	1732S	下層	煎礫石	3.34	2.95	1.28	7.9	
3285	840	割片		10C14a	1197S		煎礫石	3.59	3.99	0.79	7.8	
3286	611	割片		10B20p	焼出		煎礫石	1.59	3.08	0.93	3.0	
3287	17	割片		10C18a	1207S	上層	煎礫石	1.59	2.07	0.89	2.1	
3288	290	割片		10B20p	1403S		煎礫石	1.90	1.94	0.95	2.4	
3289	771	石積		10B18r	焼出		煎礫石	2.30	2.10	1.42	5.6	
3290	845	石積		10B19a	1631SK		煎礫石	1.75	3.52	1.14	7.6	
3291	848	石積		10B12i	2057SK		煎礫石	2.24	3.25	1.53	9.1	
3292	783	割片		10B19q	焼出		下呂石	2.00	2.95	0.72	3.8	
3293	504	割片		10B15p	1455S	下層	下呂石	2.04	1.81	0.72	2.3	
3294	2502	割片		10C16i	焼出		瑪瑙	2.66	3.07	0.37	2.8	
3295	2605	割片		10C16r	3329S	下層	瑪瑙	1.65	3.28	0.69	4.6	
3296	465	割片		10B18q	1277S	観方	オパール	2.39	3.04	0.98	7.7	
3297	2309	割片		10C9i	焼出		オパール	1.92	1.88	0.34	1.3	
3298	3229	割片		10C14m	焼出		オパール	1.61	3.04	0.30	1.2	
3299	3077	割片		10C13q	5086SK		赤銅岩	4.37	4.51	0.99	11.2	
3300	776	両面打撃のある石室		10B18r	焼出		凝灰岩	6.69	6.95	1.69	91.3	

登録 番号	整理 番号	図種	分類	グッド	遺構	層位 等	石材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	備考
3301	816	両端打撃のある石部		10C20a	検出		凝灰岩	5.16	5.07	1.40	37.5	
3302	1277	両端打撃のある石部		10E20b	検出		凝灰岩	5.80	6.39	1.85	62.9	
3303	3052	打撃石片	體形	10C14r	5634S1	床直	緑色片岩	24.60	7.10	3.64	814.8	
3304	33	打撃石片	短筒形	-	表土		緑色片岩	14.28	5.08	2.02	166.7	
3305	36	打撃石片	短筒形	10B17p	検出		緑色片岩	*8.35	5.13	2.02	115.7	
3306	2332	打撃石片	短筒形	10C10	検出		緑色片岩	10.34	6.71	0.77	103.8	
3307	2000	打撃石片	短筒形	10C12m	3388S1	上層	緑色片岩	10.77	5.55	1.34	107.5	
3308	2712	打撃石片	短筒形	10C16	5702S1	下層	緑色片岩	8.88	4.74	0.60	41.7	
3309	3025	打撃石片	短筒形	10C17a	3273S1	床直	緑色片岩	6.38	11.10	2.07	184.1	
3310	2661	打撃石片	短筒形	10D7a	5600S1	下層	緑色片岩	11.21	4.12	1.59	134.2	
3311	2599	打撃石片	短筒形	-	跡土中		緑色片岩	12.99	5.11	2.09	191.4	
3312	3045	打撃石片	體形	10C15g	検出		緑色片岩	8.26	4.80	1.30	71.9	
3313	35	打撃石片	短筒形	10B17o	検出		緑色片岩	8.38	5.43	1.72	115.6	
3314	1551	打撃石片	短筒形	10C16f	3036S1	下層	緑色片岩	*8.72	4.21	0.76	56.9	
3315	1553	打撃石片	短筒形	10C9c	3307SX	上層	緑色片岩	*8.55	4.59	1.49	94.1	
3316	2566	打撃石片	短筒形	10C17p	検出		緑色片岩	6.64	3.73	0.71	23.7	
3317	2574	打撃石片	短筒形	10C18g	検出		緑色片岩	8.22	3.40	0.68	32.3	
3318	1801	打撃石片	短筒形	10C15i	3156S1	観方	緑色片岩	7.42	4.19	0.89	43.4	
3319	1555	打撃石片	短筒形	10C11a	5668S1	下層	緑色片岩	*6.49	4.70	0.81	37.6	
3320	42	打撃石片	短筒形	10C19a	1138S1	上層	緑色片岩	7.83	4.10	1.57	75.2	
3321	1335	打撃石片	短筒形	10E17f	0121S1	SP2	緑色片岩	*8.25	5.30	1.90	110.9	
3322	3011	打撃石片	短筒形	10C19c	3007S1	上層	片礫岩	12.86	6.38	2.53	252.4	
3323	3046	打撃石片	短筒形	10C15g	検出		片礫岩	9.91	5.16	1.05	87.8	
3324	220	打撃石片	體形	10B14m	1900SD		片礫岩	10.11	5.20	1.38	93.6	
3325	1557	打撃石片	體形	10C17f	検出		片礫岩	8.68	4.87	1.42	62.1	
3326	1550	打撃石片	體形	10C18f	3021SX		表質片岩	*7.58	5.64	2.61	141.1	
3327	838	打撃石片	短筒形	10C20b	1186S1		結晶片岩	8.53	3.46	1.41	53.9	
3328	847	打撃石片	短筒形	10C12a	1894S1	上層	結晶片岩	15.20	5.56	3.41	377.1	
3329	2584	打撃石片	短筒形	-	表層		黑色片岩	9.21	4.05	1.03	60.9	
3330	985	打撃石片	短筒形	10E20r	検出		表質凝灰岩	*5.81	6.78	1.77	112.7	
3331	2595	打撃石片	短筒形	-	表層		表質凝灰岩	5.94	3.42	1.17	25.3	
3332	1552	打撃石片	短筒形	10C14i	3283S1	上層	表質凝灰岩	*10.81	7.05	1.02	119.9	
3333	1313	打撃石片	短筒形	10E12b	0620SD		表質凝灰岩	*8.88	*5.13	2.09	101.6	
3334	2577	打撃石片	短筒形	10C19c	検出		表質凝灰岩	*5.96	6.50	2.39	123.4	
3335	1554	打撃石片	體形	10C10c	3404S1	下層	表質凝灰岩	7.25	5.42	1.57	58.7	
3336	44	打撃石片	短筒形	10B15o	1455S1		表質凝灰岩 (5割)	10.68	4.21	1.91	103.1	
3337	839	打撃石片	短筒形	10C20a	1186S1		凝灰岩	11.23	3.50	2.00	75.9	
3338	1980	打撃石片	短筒形	10C14q	3379S1	上層	凝灰岩	7.91	5.59	1.71	75.9	
3339	43	打撃石片	體形	10B17o	検出		凝灰岩	11.60	7.31	3.82	290.2	内厚
3340	3058	打撃石片	短筒形	10C12a	5791SK	上層	安山岩	12.70	4.14	1.41	83.6	
3341	1558	打撃石片	短筒形	10C17i	検出		安山岩	*14.48	8.65	3.85	565.2	厚手
3342	457	打撃石片	短筒形	10B18q	1277S1	床直	安山岩	5.29	3.25	6.97	11.6	
3343	2164	打撃石片	短筒形	10C10q	3832S1	上層	安山岩	7.33	5.85	1.23	56.5	
3344	3041	打撃石片	體形	10C10	検出		安山岩	8.61	5.44	2.89	134.6	
3345	3105	打撃石片	短筒形	10B15o	1444S1		安山岩	7.55	4.16	1.50	58.7	
3346	37	打撃石片	短筒形	10B17r	検出		変態基性岩	14.87	7.96	4.44	844.0	内厚
3347	813	打撃石片	短筒形	10C18a	検出		変態基性岩	8.17	5.41	1.03	64.7	
3348	41	打撃石片	體形	10B15m	1454S1	上層	変態基性岩	*7.44	5.67	1.85	92.0	
3349	3056	打撃石片	體形	10C10r	5785S1	上層	変態基性岩	6.59	4.98	1.28	58.4	
3350	216	體部		10B19m	1005SD		表質凝灰岩 (5割)	8.14	8.53	3.62	259.5	
3351	217	體部		10B18r	1272SK		表質凝灰岩 (5割)	6.79	9.80	2.71	217.8	
3352	31	體部		10B14q	検出		表質凝灰岩	9.44	13.36	3.66	602.0	
3353	1157	體部		10B12n	2077S1	観方	表質凝灰岩	6.55	8.18	4.29	242.3	
3354	2812	體部		10C18	3121S1	下層	表質凝灰岩	6.15	5.66	2.26	104.0	打撃石片種
3355	1751	體部		10C17n	3146S1	下層	凝灰岩	12.69	8.82	3.95	472.5	
3356	2090	大型割片石部		10C10c	3607S1	上層	凝灰岩	*5.35	5.71	1.79	54.8	
3357	208	大型割片石部		10C17b	1002SD	上層	凝灰岩	*6.82	5.94	2.15	77.0	
3358	3049	大型割片石部		10D16g	1900SD		凝灰岩	12.54	5.48	4.03	252.7	
3359	1908	大型割片石部		10C15g	3261S1	床直	凝灰岩	*5.64	5.73	1.84	88.8	
3360	2758	體部		10C12c	検出		凝灰岩	5.29	11.63	2.33	166.0	
3361	334	體部		10B15p	1455S1	下層	凝灰岩	8.40	10.63	4.32	414.2	
3362	2300	體部		10C9g	検出		凝灰岩	5.88	7.32	3.69	152.0	
3363	620	體部		-	表層		凝灰岩	7.59	11.28	3.77	342.2	
3364	282	體部		10B15a	1338S1	上層	凝灰岩	8.30	6.57	3.34	186.2	
3365	607	體部		10B19g	検出		凝灰岩	8.50	8.36	3.32	246.4	
3366	1784	體部		10C17m	3149S1	上層	凝灰岩	8.67	7.52	3.59		
3367	742	體部		10B17r	検出		凝灰岩	7.20	8.18	2.76	213.1	
3368	209	體部		10C13a	1002SD	上層	凝灰岩	8.12	7.43	2.33	157.8	
3369	2184	體部		10C13g	3931S1	上層	砂質凝灰岩	6.88	7.13	4.84	235.3	
3370	3054	體部		10D13a	5650S1	下層	凝灰質砂岩	11.15	8.16	3.65	397.1	
3371	234	體部		10C15b	1157S1	上層	安山岩	6.12	5.01	3.06	107.4	
3372	2501	體部		10C10	検出		安山岩	5.73	7.52	3.05	131.5	
3373	2237	大型割片		10C13d	4362S1	上層	安山岩	6.14	6.33	6.33	53.7	
3374	1421	大型割片		10E13f	検出		安山岩	8.08	9.52	3.72	228.6	古割?
3375	477	體部		10B19q	1403S1	観方	安山岩	5.19	8.69	2.87	128.5	

登録 番号	整理 番号	図様	分類	グッド	遺構	層位 等	石材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	備考
3376	1697	礎石		10C16g	3037S	上層	安山岩	5.25	6.38	4.33	161.1	
3377	278	大型割片石		10B15a	1338S		安山岩	6.59	8.37	2.91	172.3	
3378	3061	礎石		10D16c	5910S	下層	安山岩	7.23	5.13	3.68	114.7	
3379	945	大型割片		10B12r	横出		安山岩	19.00	11.33	6.00	1410.0	
3380	1727	大型割片		10C19f	3082S	上層	安山岩	5.70	6.67	1.80	72.7	
3381	367	大型割片		10B20h	1181S	床底	安山岩	7.53	4.49	1.15	37.5	
3382	2580	大型割片		10C20b	横出		安山岩	6.32	6.46	1.98	86.6	
3383	904	礎石		10B12m	1991S		変態基性岩	7.49	13.01	2.83	476.0	
3384	2789	大型割片石		10D14e	横出		変態基性岩	9.11	5.29	1.21	69.6	
3385	1920	礎石		10C14i	3283S	上層	変態基性岩	6.80	8.08	3.74	259.7	
3386	2153	礎石		10C10f	3798S	下層	珪質岩	6.92	6.73	3.03	136.7	
3387	133	大型割片		10B18r	1272S		塩基性岩	5.54	4.71	1.40	36.7	
3388	376	礎石		10C14a	1197S	床底	頁石	5.60	5.03	3.17	87.6	
3389	2994	磨製石斧	定角式	10C10h	3001S	斫方	塩基性岩	6.15	5.05	2.43	142.3	
3390	52	磨製石斧	定角式	10C14b	1199S		凝灰岩	6.01	4.57	1.90	78.3	
3391	3043	磨製石斧	非定角式	10C13i	横出		塩基性岩	11.01	4.11	2.12	179.2	
3392	48	磨製石斧	非定角式	10B17q	1329S		変態基性岩	19.29	5.94	3.96	648.0	
3393	1561	磨製石斧	非定角式	10C10i	3742S	下層	変態基性岩	*14.37	4.49	3.61	354.0	
3394	45	磨製石斧	非定角式	-	表採		変態基性岩	13.01	4.06	2.26	194.5	
3395	2795	磨製石斧	非定角式	10C12j	3933S	上層	変態基性岩	9.71	4.86	3.78	284.5	欠損機片に使用
3396	1560	磨製石斧	非定角式	10C10h	3404S		変態基性岩	11.74	4.64	3.09	277.6	
3397	3057	磨製石斧	非定角式	10C10r	5785S	下層	塩基性岩類	8.19	3.59	2.88	129.5	製作途上?
3398	3066	磨製石斧	非定角式	10D12a	横出		変態基性岩	8.19	5.13	2.84	176.0	
3399	1563	磨製石斧	非定角式	10C12b	3388S	床底	変態基性岩	*8.03	*2.95	2.01	75.3	
3400	47	磨製石斧	非定角式	10B20h	1181S	斫方	変態基性岩	10.55	4.19	2.74	203.8	
3401	1562	磨製石斧	非定角式	10C14r	横出		片麻岩	9.79	4.02	1.48	113.9	
3402	50	磨製石斧	非定角式	10B16p	1464S	下層	変態基性岩	10.48	2.26	1.50	46.5	小型
3403	2085	磨製石斧製作途上品	非定角式	10C9b	3905S	下層	変態基性岩	*7.38	5.61	2.17	138.8	
3404	2788	磨製石斧製作途上品	非定角式	10D14b	横出		変態基性岩	11.07	5.80	4.38	414.8	
3405	972	磨製石斧製作途上品	非定角式	10B17r	横出		変態基性岩	15.30	4.25	0.38	348.0	
3406	46	磨製石斧製作途上品	非定角式	10C12a	1002SD	下層	変態基性岩	*9.12	5.72	3.21	230.7	
3407	514	磨製石斧製作途上品		10B14p	1455S		変態基性岩	*7.04	4.85	4.03	164.5	
3408	829	磨製石斧製作途上品		10B10i	2923S		変態基性岩	*8.71	5.42	3.00	217.9	
3409	1287	磨製石斧製作途上品		-	表採		変態基性岩	4.36	9.96	2.67	129.9	
3410	2983	磨製石斧製作途上品		10C10h	横出		変態基性岩	13.22	2.67	1.74	115.8	
3411	61	磨石	磨石	-	表土		磨石	8.77	6.55	4.42	244.9	西み明瞭
3412	872	磨石	磨石	10C16b	1331S	下層	塩基性岩	8.86	6.68	4.11	390.0	
3413	2870	磨石	磨石	10C12h	横出		花こう岩	6.58	5.34	5.41	229.8	
3414	1150	磨石	磨石	10B11o	2033S	上層	片麻岩	13.20	7.13	3.77	460.7	西み明瞭
3415	2886	磨石	磨石	10C16i	横出		砂質凝灰岩	*6.93	4.53	2.55	97.0	西み明瞭
3416	934	磨石	磨石	10C17b	1331S		花こう岩	11.85	10.41	5.01	662.0	西み明瞭
3417	1488	磨石	磨石?	10E12o	0029SD		花こう岩	8.78	7.89	5.26	398.6	溝状に凹む
3418	928	磨石	磨石+磨石	10B11n	1967S	下層	安山岩	7.61	7.00	4.88	358.0	
3419	914	磨石	磨石	10B13h	1923S	上層	片麻岩	11.10	9.04	4.00	598.0	西み明瞭
3420	3053	磨石	磨石+磨石	10C14a	5634S	上層	変態基性岩	6.31	5.64	3.93	229.5	
3421	1139	磨石	磨石	10C8a	1875S	下層	片麻岩	8.50	7.77	5.22	463.7	西み明瞭
3422	2899	磨石	磨石	10C17h	横出		変態基性岩	11.33	3.19	2.73	161.1	溝状(パンチナ?)
3423	926	磨石	磨石	10B12h	1967S	下層	花こう岩	*6.84	4.81	3.02	145.1	
3424	1573	石押石刀	石刀	10C17g	横出		緑色片岩	13.51	3.94	1.88	151.5	
3425	3016	石押石刀	石刀	10C12p	3406S	上層	緑色片岩	15.80	3.24	2.47	208.0	
3426	1574	石押石刀	石刀?	10C15e	1139S		黒色片岩	5.95	2.45	1.49	29.2	
3427	3005	石押石刀	石刀?	10C17i	3149S	床底	変態基性岩	7.31	2.20	1.39	32.5	
3428	55	石押石刀	石刀	10B20h	横出		片麻岩	*6.01	2.64	1.43	35.1	
3429	3017	石製		10C11p	3406S	床底	塩基性岩	9.53	2.91	2.45	126.9	
3430	1570	袈裟耳飾り		10B17q	1404SX		磨石	3.81	1.17	0.70	6.5	
3431	1571	袈裟耳飾り		10B18r	横出		磨石	4.40	1.28	0.90	9.9	
3432	900	磨石	磨石+磨石	10B12m	1991S	床底	花こう岩	10.73	10.10	6.12	996.0	西み明瞭
3433	905	磨石	磨石+磨石	10B12h	1991S		変態基性岩	6.96	9.74	3.49	394.0	
3434	927	磨石	磨石	10B12h	1967S	下層	砂岩	*13.25	11.99	6.53	1500.0	
3435	899	磨石	磨石	10B13o	1973SK		砂質凝灰岩	*8.90	4.06	3.29	146.0	
3436	888	磨石	磨石	10B14q	1456S	床底	花こう岩	10.37	8.71	9.55	1110.0	
3437	889	磨石	磨石	10B14q	1456S		花こう岩	10.03	8.71	4.87	518.0	西み明瞭
3438	918	磨石	磨石	10B13p	1937S	下層	片麻岩	12.80	5.12	4.02	446.0	
3439	891	磨石	磨石	10B17p	1464S	床底	花こう岩	12.87	4.70	3.87	414.0	
3440	62	磨石	磨石+磨石	10B17q	1464S	下層	花こう岩	11.03	9.96	5.51	904.4	
3441	874	磨石	磨石	10B19r	1332S		凝灰岩	*13.40	6.45	3.86	312.0	西み明瞭
3442	954	磨石	磨石?	10B15p	横出		凝灰岩	11.14	9.05	2.18	264.0	
3443	961	磨石	磨石	10B16p	横出		凝灰岩	10.10	8.87	5.31	522.0	
3444	861	磨石	磨石+磨石	1B1n	1224S	床底	片麻岩	10.20	10.38	4.85	982.0	
3445	987	磨石	磨石	10B20h	横出		砂質凝灰岩	12.52	7.22	4.65	556.0	
3446	907	磨石	磨石+磨石	10B7q	1908S	上層	片麻岩	6.14	6.07	4.78	270.0	
3447	906	磨石	磨石+磨石	10B8q	1908S	上層	花こう岩	9.29	7.27	5.68	590.0	
3448	910	磨石	磨石?	10B10q	1917S	上層	安山岩	11.96	9.86	6.71	1115.0	
3449	2854	磨石	磨石	10C8b	横出		片麻岩	12.40	8.41	6.06	930.7	
3450	2852	磨石	磨石	10C7d	横出		花こう岩	12.35	10.30	6.90	1255.8	

登録番号	整理番号	産種	分類	アソッド	産調	層位	石材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	備考
3451	54	磨石(原石)	磨石	10814a	横出		内四石	*8.18	4.17	3.23	186.0	
3452	865	磨石(原石)	磨石	10816b	1253S		花こう岩	*10.32	8.51	5.37	628.0	
3453	965	磨石(原石)	磨石	10816b	横出		砂質凝灰岩	*7.75	*4.55	3.82	172.0	
3454	871	磨石(原石)	磨石	10C16b	1331S	床底	花こう岩	9.01	7.51	5.49	620.0	
3455	2996	磨石(原石)	磨石+原石	10C17f	3005S	下層	塩基性岩	17.30	5.90	4.25	663.1	
3456	2997	磨石(原石)	磨石+原石	10C17f	3005S	下層	塩基性岩	14.42	5.61	3.36	498.6	
3457	2847	磨石(原石)	磨石	10C10d	4338S	上層	砂岩	13.47	10.89	4.41	409.0	
3458	2848	磨石(原石)	磨石+原石	10C10e	4340S	下層	片麻岩	9.74	8.39	3.85	488.8	
3459	2850	磨石(原石)	磨石	10C11d	4341S	幅方	花こう岩	12.01	7.55	7.12	988.8	
3460	3032	磨石(原石)	磨石	10C14e	1140S	下層	片麻岩	10.22	5.39	2.38	242.2	
3461	2829	磨石(原石)	磨石	10C16b	3206S	上層	凝灰岩	*7.49	*4.74	3.01	110.8	
3462	1566	磨石(原石)	磨石	10C10j	3711S	下層	花こう岩	9.91	3.68	3.38	202.5	
3463	3027	磨石(原石)	磨石	10C13j	3933S	床底	凝灰質砂岩	15.36	6.29	4.97	725.7	
3464	3035	磨石(原石)	磨石	10C10i	5150SK		アフライト	14.78	10.70	9.25	2093.2	
3465	3007	磨石(原石)	磨石+原石	10C15j	3190S	床底	花こう岩	9.38	9.79	5.69	715.1	
3466	2826	磨石(原石)	磨石	10C16i	3117S	下層	変塩基性岩	15.09	6.22	2.23	391.8	
3467	2900	磨石(原石)	磨石	10C17j	横出		変塩基性岩	7.79	6.68	2.10	177.1	扁平
3468	2831	磨石(原石)	磨石	10C14i	3283S		アフライト	7.77	5.11	3.74	216.9	
3469	2813	磨石(原石)	磨石	10C15e	3145S	下層	砂質凝灰岩	*3.85	*4.06	3.15	62.0	
3470	3013	磨石(原石)	磨石	10C16e	3273S	床底	凝灰質砂岩	3.88	9.40	3.35	142.3	
3471	2840	磨石(原石)	磨石	10C11e	3405S	上層	変塩基性岩	9.95	4.52	2.59	188.8	
3472	2915	磨石(原石)	磨石	10C14e	5633S	上層	砂岩	13.59	*6.06	6.23	634.5	
3473	2942	磨石(原石)	磨石	10C16e	5653S	床底	花こう岩	11.23	10.48	8.10	1500.0	
3474	2925	磨石(原石)	磨石	10D17f	6040S	下層	片麻岩	7.10	5.88	4.84	284.8	
3475	3064	磨石(原石)	磨石	10D16f	6040S	床底	片麻岩	3.78	3.33	1.67	25.6	
3476	1511	磨石(原石)	磨石	10E11f	0124SX		花こう岩	12.93	8.98	9.16	1415.0	
3477	1493	磨石(原石)	磨石+原石	10E17f	0121S	SP2	変塩基性岩	13.43	5.99	2.76	432.0	
3478	1492	磨石(原石)	磨石	10E17f	0121S	床底	花こう岩	13.73	9.73	4.86	936.0	
3479	1570	磨石(原石)	磨石	-	表掘		花こう岩	11.69	*8.41	9.14	1070.0	
3480	2909	磨石(原石)	磨石	10D12b	1900SD	上層	安山岩	*11.38	*9.87	7.15	1335.6	
3481	895	磨石	手持磨石	10812q	1900SD		凝灰質凝灰岩	13.68	4.67	2.90	390.0	
3482	1531	磨石	-	横出			凝灰岩	*6.02	2.93	1.86	45.5	
3483	941	磨石	手持磨石	10815e	1444S	上層	安山岩	9.99	7.27	6.12	690.0	
3484	318	磨石	手持磨石	10814e	1444S	下層	凝灰岩	11.65	0.47	1.44	110.6	
3485	57	磨石	手持磨石	10815e	1445S		片麻岩	8.17	3.81	0.97	53.9	
3486	60	磨石	置石	10817p	1696SK		凝灰岩	21.50	9.26	8.07	1799.2	
3487	951	磨石	置石石?	10815e	横出		凝灰質凝灰岩	*6.42	9.17	5.75	456.0	
3488	980	磨石	手持磨石	10818e	横出		片麻岩	9.83	4.79	2.25	184.2	
3489	56	磨石	手持磨石	10819e	横出		凝灰岩	8.70	4.57	2.61	197.2	
3490	978	磨石	手持磨石	10818p	横出		凝灰岩	*3.8	3.62	1.06	14.7	
3491	859	磨石	置石	181r	12008S下面	床底	緑色片岩	16.90	9.82	2.54	698.0	
3492	919	磨石	置石	10812r	1938S	下層	凝灰岩	*9.56	7.49	6.78	630.0	
3493	1131	磨石	置石	10814e	1599SK		凝灰岩	*8.67	4.19	5.26	195.6	
3494	2998	磨石	置石	10C19d	3006S	床底	安山岩	23.10	13.22	8.83	2912.7	
3495	2907	磨石	手持磨石	10C19e	横出		変塩基性岩	9.51	3.28	1.56	81.4	
3496	2889	磨石	手持磨石	10C17e	横出		凝灰岩	13.47	8.27	4.91	585.4	
3497	3004	磨石	置石	10C18f	3079S	床底	片麻岩	18.70	15.06	5.27	2426.6	
3498	3026	磨石	手持磨石	10C13g	3932S	上層	凝灰質砂岩	13.54	2.03	1.04	20.0	
3499	1892	磨石(片)	定向式	10C13h	3216S	上層	塩基性岩	2.82	3.47	1.39	16.2	
3500	3008	磨石	置石	10C16h	3205S	床底	片麻岩	12.60	20.50	1.98	622.6	
3501	3010	磨石	手持磨石	10C16h	3205S	床底	凝灰質砂岩	3.00	2.18	8.26	5.3	
3502	3047	磨石	手持磨石	10C15h	横出		凝灰質砂岩	8.69	4.56	2.39	143.9	
3503	1569	磨石	置石	10C17h	横出		凝灰岩	20.30	9.03	4.89	1209.1	
3504	1568	磨石	置石	10C11i	3743S	床底	緑色片岩	12.70	8.31	2.62	557.8	
3505	2866	磨石	置石	10C11k	横出		砂質凝灰岩	*18.20	*16.50	3.39	1388.7	
3506	2250	磨石	置石	10C13j	4429SK		変塩基性岩	10.45	4.74	2.10	173.7	
3507	2933	磨石	置石	10C11i	3375S	床底	片麻岩	23.80	18.60	8.11	5000.0	
3508	1904	磨石	手持磨石	10C17i	3121S	下層	砂質凝灰岩	6.60	6.06	2.75	92.0	
3509	3021	磨石	置石	10C11j	3710S	床底	片麻岩	13.39	9.08	7.53	2334.5	
3510	1567	磨石	置石	10C15k	3150S	下層	凝灰岩	13.17	*8.34	4.65	543.2	
3511	1852	磨石	置石	10C15j	3188S	上層	緑色片岩	9.08	9.99	0.95	142.3	
3512	1855	磨石	手持磨石	10C14i	3190S	上層	凝灰岩	*7.91	4.64	2.65	75.1	
3513	2846	磨石	手持磨石	10C15j	4309S	上層	安山岩	6.40	5.75	5.83	338.5	
3514	3028	磨石	手持磨石	10C14j	4309S	床底	安山岩	15.36	4.95	3.96	354.7	
3515	3029	磨石	置石	10C14j	4309S	床底	片麻岩	16.70	9.73	1.73	412.9	
3516	2932	磨石	置石	10C16e	3273S	床底	凝灰岩	14.80	9.20	9.20	1000.0	
3517	3018	磨石	置石	10C16p	3483SK		片麻岩	23.70	12.29	1.85	1017.7	
3518	2945	磨石	置石	10C16e	5653S	床底	凝灰岩	16.50	19.00	5.68	2000.0	
3519	2914	磨石	手持磨石	10C12e	5667S	下層	凝灰岩	13.09	4.68	4.91	302.2	
3520	2648	磨石	手持磨石	10C12e	5545S	下層	凝灰岩	10.60	3.70	2.23	122.1	
3521	2923	磨石	手持磨石	10D16e	5909S	下層	凝灰岩	*8.94	4.59	5.26	268.8	
3522	1334	磨石	手持磨石	10E16f	0121S	下層	質凝灰岩	7.17	4.66	1.22	43.1	
3523	898	石皿(台石)	台石	1089e	1958S	床底	塩基性岩	22.90	13.10	4.15	2000.0	
3524	901	石皿(台石)	台石	10812m	1991S	床底	凝灰岩	25.30	16.50	5.97	4090.0	
3525	875	石皿(台石)	台石	10819r	1332S		ハンレイ岩	*16.90	9.94	5.14	1290.0	

登録番号	整理番号	器種	分類	グリップ	遺構	層位等	石材	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	備考
3526	857	石座台石類	台石	10C20b	1180S	床直	花こう岩	24.40	22.20	6.74	5500.0	
3527	1003	石座台石類	台石	10B7s	1900S	床直	凝灰岩	20.80	20.30	9.90	4500.0	
3528	1006	石座台石類	台石	10B15r	1338S	床直	砂質凝灰岩	28.50	23.50	9.50	8500.0	
3529	853	石座台石類	台石	10C16a	1157S	床直	砂質凝灰岩	*23.00	*11.69	6.49	3000.0	
3530	2948	石座台石類	台石	10C15c	1139S	下層	花こう岩	31.00	14.50	7.50	4500.0	
3531	2928	石座台石類	台石	10C14c	1872S	床直	砂質凝灰岩	26.00	22.40	6.71	4500.0	
3532	3003	石座台石類	台石	10C18f	3079S	床直	花こう岩	17.00	8.24	7.35	1635.8	
3533	2940	石座台石類	台石	10C11e	4337S	床直	砂質凝灰岩	333.30	24.90	7.17	10500.0	
3534	2931	石座台石類	台石	10C15g	3215S	床直	砂質凝灰岩	28.00	*19.60	13.88	12000.0	切断?
3535	2929	石座台石類	台石	10C18i	3121S	床直	片凝岩	*19.20	12.35	4.86	1500.0	
3536	2930	石座台石類	台石	10C17i	3121S	床直	花こう岩	30.90	24.90	8.56	10500.0	
3537	2939	石座台石類	台石	10C13j	3933S	床直	花こう岩	15.36	14.99	9.07	4500.0	
3538	2950	石座台石類	台石	10C10l	3742S	上層	安山岩	*12.51	*21.00	8.57	1500.0	
3539	2952	石座台石類	台石	10C11k	3743S	床直	花こう岩	37.80	25.60	12.50	21000.0	
3540	2943	石座台石類	台石	10C13n	3388S	床直	花こう岩	22.30	13.30	8.62	4000.0	
3541	2935	石座台石類	台石	10C12n	3389S	床直	花こう岩	32.50	31.60	7.50	7500.0	
3542	2938	石座台石類	台石	10C17o	3273S	床直	片凝岩	26.60	17.80	5.99	5000.0	
3543	2944	石座台石類	台石	10C14s	5634S	床直	凝灰岩	22.70	13.50	6.44	2500.0	
3544	2937	石座台石類	台石	10C9o	3605S	床直	花こう岩	25.90	22.20	6.92	7000.0	
3545	2991	石座台石類	台石?	10C14i	5635S	8*	花こう岩	22.80	7.90	9.31	1943.7	西みあり
3546	2943	石座台石類	台石	10C12r	5545S	床直	花こう岩	33.40	28.50	9.20	14500.0	
3547	2955	石座台石類	台石	10C12r	5545S	下層	花こう岩	28.20	28.20	12.00	17000.0	
3548	2947	石座台石類	台石	10C11h	5668S	床直	片凝岩	23.30	12.78	5.42	2500.0	
3549	1490	石座台石類	台石?	10E17f	0121S	下層	片凝岩	*12.60	*9.48	3.59	754.0	
3550	3067	石座台石類	台石	10E16m	0016S	上層	花こう岩	41.20	37.30	11.00	31000.0	
3551	2941	石座台石類	台石	10C18g	3079S	床直	花こう岩	31.00	25.50	6.90	10000.0	
3552		石製網線車		10C15d	3903S	上層	砂質凝灰岩	*4.15	*2.04	0.68	4.6	
3553	1564	石製網線車		10C15k	3156S	上層	凝灰岩	*3.46	*2.60	0.76	6.1	
3554		石製網線車		10D15e	5909S	下層	砂質凝灰岩	*3.32	*2.37	0.75	5.8	
3555	1565	石製品		10C16i	3205S	床直	凝灰岩	5.59	*4.90	0.95	31.0	

登録番号	器種	分類等	グリップ	遺構	層位等	材質	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	備考
3556	破鏡	方格規型円神鏡	10C17d	3002S		青銅製品	2.10	1.80	0.13	2.1	
3557	銅鏡		10C10e	5785S	下層	青銅製品	*3.20	*1.20	0.40	3.2	
3558	板状青銅製品		10C10e	4340S	上層	青銅製品	*6.50	*4.20	0.25	16.6	
3559	銅鏡または青銅片		10E20m	西銅面		青銅製品製作関連	1.90	1.80	0.75	3.6	
3560	銅鏡または青銅片		10E20m	西銅面		青銅製品製作関連	1.90	1.15	0.60	2.6	
3561	板状鉄片	川越A 2型	10E20n	1178S	床直	鉄製品	6.50	3.40	0.60	31.4	
3562	板状鉄片	川越A 1型	10C15r	3378S	上層	鉄製品	*10.1	4.30	0.70	109.1	
3563	ヤリガンナ	古瀬山A型	10C7c	1860S	床直	鉄製品	*8.50	1.20	0.90	12.0	
3564	鉄片		10B14s	1276S	床直	鉄製品	11.70	2.30	0.50	32.5	水質
3565	小鉄片		10B14s	1276S	床直	鉄製品	*3.90	0.60	0.60	2.1	
3566	小鉄片(ヤリガンナ)		10D15e	6145SK		鉄製品	*2.70	*1.00	0.20	1.5	
3567	不明鉄製品		10C17m	3149S	下層	鉄製品	*9.20	*2.60	0.40	21.1	掘入の可能性
3568	刀子		10C15e	横出		鉄製品・青銅製品	*8.90	1.40	0.70	17.8	
3569	銅製鉄砲玉	「石座08A玉」	10E17q	横出		銅製品	11.90			9.4	
3570	銅製鉄砲玉	「石座08B玉」	10D15p	横出		銅製品	12.00			9.1	
3571	銅製鉄砲玉	「石座09玉」	10B9i	横出		銅製品	11.90			8.0	
3572	銅製鉄砲玉	「石座10A玉」	10B7f	表探		銅製品	11.55			9.1	
3573	銅製鉄砲玉	「石座10B玉」	10C9s	1900SD	上層	銅製品	11.20			6.6	
3574	銭貨	淨化元貨(行書)	10D16p	0134SD		青銅製品	2.30			2.6	北本(初鋳990年)
3575	銭貨(読書)	惣徳元貨(百書)	10D4c	横出		青銅製品	2.40			16.4	北本(初鋳1004年)
3576	銭貨	天聖元貨(篆書)	10C9s	6150SK		青銅製品	2.40			2.2	北本(初鋳1023年)
3577	銭貨	永業通寶(百書)	10C9s	1900SD	上層	青銅製品	2.50			2.2	明(初鋳1408年)
3578	銭貨	永業通寶(百書)	10E20n	横出		青銅製品	2.40			2.2	明(初鋳1408年)
3579	銭貨	文久永宝(百書)	10E16m	横出		青銅製品	2.70			3.9	江戸(1863年)

ふりがな	いわくらじんじやいせき
書名	石座神社遺跡
副書名	
巻次	
シリーズ名	愛知県埋蔵文化財センター調査報告書
シリーズ番号	第189集
編著者名	早野浩二 川添和暁 中村賢太郎 山形秀樹 小林克也 西田京平 平尾良光 堀本真美子他
編集機関	公益財団法人 愛知県教育・スポーツ振興財団 愛知県埋蔵文化財センター
所在地	〒498-0017 愛知県弥富市前ヶ須町野方802-24 TEL 0567(67)4161
発行年月日	西暦2015年3月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
		市町村	遺跡番号					
いわくらじんじやいせき 石座神社遺跡	あいちけんしんじやうし 愛知県新城市 おひみやあびさつむつが 大宮字孤塚	23221	76045	34度	137度	2007.05.14 ～2007.06.13	400	第二東海
				55分	31分	2008.09.09 ～2009.03.24	5,200	自動車道
				38秒	10秒	2009.08.06 ～2010.03.31 2010.05.21 ～2011.03.14	4,720 10,330	横浜 名古屋線

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
石座神社 遺跡	集落	旧石器時代	小文谷	石器	ナイフ形石器を含む 旧石器の出土
		縄文時代	竈穴・竈穴建物・土坑	縄文土器・石器・石製品	有溝部石、块状耳飾り 2点、石刀の出土
		弥生時代	竈穴建物	弥生土器	弥生時代後期から古墳 時代前期の大規模集落
		古墳時代	竈穴建物・掘立柱建物	土師器・石製品・金属製品	大型竈穴・掘立柱建物
		古代	竈穴建物・掘立柱建物	土師器・須恵器	破綻・鉄製品の出土 斜面に立地する集落
		中世・戦国	大溝・土坑墓	土師器・山茶碗・金属製品	馬埋葬土坑 鉄砲玉5点の出土
近世・近代	炭焼窯	陶器			

文書番号	発掘届出(19埋せ第2号・2007.4.6/20埋せ第32号・2008.6.24/21埋せ第10号・2009.4.1/21埋せ第136号・2010.3.10) 通知(19教生第154号・2007.4.25/20教生第952号・2008.7.10/21教生第142号・2009.4.15/21教生第2581号・2010.3.23) 終了届・保管証・発見届(19埋せ第36号・2007.6.18/20埋せ第125号・2009.4.2/21埋せ第151号・2010.4.2/22埋せ第267号・2011.3.25) 審査結果通知(21教生第317号・2009.5.14/22教生第547号・2010.6.11/23教生第45号・2011.4.7)
------	---

要約	断上山丘陵上、東西約300m、南北約100mの範囲に弥生時代後期から古墳時代前期の集落が展開する。集落は竈穴建物334棟、掘立柱建物8棟から構成され、建物群には大型竈穴建物、布張り柱脚をもつ大型掘立柱建物も含まれる。検出された建物群は集落研究の基礎資料、良好に出土した土器群は土器編年の基準資料としての価値が高い。破綻と鉄剣、鉄斧、ヤリガンナ等の豊富な鉄製品、水銀朱付着土器5点の出土も注目される。集落の展開は同一丘陵上の前方後方墳の断上山10号墳の築造に帰結する。その他、縄文時代の块状耳飾り2点、設楽原の戦いに関連した可能性がある鉛製鉄砲玉5点が出土した。
----	--

愛知県埋蔵文化財センター調査報告書 第189集

石 座 神 社 遺 跡

(第1分冊 本文編)

2015年3月31日

発行 公益財団法人 愛知県教育・スポーツ振興財団
愛知県埋蔵文化財センター

印刷 西濃印刷株式会社